

令和8年度 仕様書

工事名称 川越市みよしの支援センター改築等工事

工事場所 川越市宮下町1丁目19番地13

【工事の概要】

川越市みよしの支援センター改築等工事である。

- ・新築
新館・倉庫・渡り廊下
構造規模：鉄骨造 平屋建て 延べ面積 計240.71㎡
- ・改修
本館 構造規模：鉄筋コンクリート造 平屋建て 延べ面積571.13㎡
別館 構造規模：鉄骨造 平屋建て 延べ面積222.49㎡
- ・外構
- ・建築工事 一式
- ・本工事は、「週休2日制適用工事（現場閉所型）」の対象工事である。

新館						
名	称	数	量	単位	金額	備考
直接仮設工事		1		式		
土工事		1		式		
地業工事		1		式		
コンクリート工事		1		式		
型枠工事		1		式		
鉄筋工事		1		式		
鉄骨工事		1		式		
防水工事		1		式		
石工事		1		式		
タイル工事		1		式		
木工事		1		式		
屋根工事		1		式		
金属工事		1		式		
左官工事		1		式		
木製建具工事		1		式		
金属製建具工事		1		式		
硝子工事		1		式		
塗装工事		1		式		
外装工事		1		式		
内装工事		1		式		

≪週休2日制適用工事(現場閉所型)に係る特記仕様書≫

本工事は「週休2日制適用工事(現場閉所型)」の対象工事である。

本工事は、完全週休2日を採用している。週休2日が守れなかった場合は減額変更となります。

実施は、川越市週休2日制適用工事要領(建築工事)(令和8年1月20日施行)によるものとする。

同要領は、川越市総務部技術管理課ホームページで確認のこと。

川越市総務部技術管理課ホームページ

<https://www.city.kawagoe.saitama.jp/sangyo/nyusatsu/1011724/1011747.html>

川越市

川越市みよしの支援センター改築等工事

意匠図【新館・新倉庫棟】		意匠図【本館・別館改修】		構造図【新館】		構造図【新倉庫棟】	
図番	図面名称	図番	図面名称	図番	図面名称	図番	図面名称
A1-01	特記仕様書（その1）	A2-01	特記仕様書（改修その1）	S1-01	〔新館〕 構造設計特記仕様書	S2-01	〔新倉庫棟〕 構造設計特記仕様書
A1-02	特記仕様書（その2）	A2-02	特記仕様書（改修その2）	S1-02	〔新館〕 柱状改良特記仕様書	S2-02	〔新倉庫棟〕 柱脚工法設計施工標準
A1-03	特記仕様書（その3）	A2-03	特記仕様書（改修その3）	S1-03	〔新館〕 柱状改良伏図	S2-03	〔新倉庫棟〕 柱脚工法各種寸法図
A1-04	特記仕様書（その4）	A2-04	特記仕様書（改修その4）	S1-04	〔新館〕 基礎伏図	S2-04	〔新倉庫棟〕 地盤改良特記仕様書
A1-05	特記仕様書（その5）	A2-05	特記仕様書（改修その5）	S1-05	〔新館〕 1階伏図	S2-05	〔新倉庫棟〕 伏図
A1-06	案内図・配置図	A2-06	〔本館〕 改修後・改修前 外部仕上表・内部仕上表 1	S1-06	〔新館〕 R階伏図	S2-06	〔新倉庫棟〕 軸組図
A1-07	敷地求積図・建物求積図	A2-07	〔本館〕 改修後・改修前 内部仕上表 2	S1-07	〔新館〕 小層伏図	S2-07	〔新倉庫棟〕 基礎リスト・基礎梁リスト・スラブリスト
A1-08	仕上表	A2-08	〔本館〕 改修後 平面図	S1-08	〔新館〕 軸組図（1）	S2-08	〔新倉庫棟〕 鉄骨柱・鉄骨大梁・鉄骨部材リスト
A1-09	平面図	A2-09	〔本館〕 改修前 平面図	S1-09	〔新館〕 軸組図（2）	S2-09	〔新倉庫棟〕 鉄骨詳細図
A1-10	屋根伏図・ビット平面図	A2-10	〔本館〕 改修後 立面図・断面図	S1-10	〔新館〕 軸組図（3）		
A1-11	立面図・断面図	A2-11	〔本館〕 改修前 立面図・断面図	S1-11	〔新館〕 軸組図（4）		
A1-12	矩計図	A2-12	〔本館〕 改修後 食堂・調理室・食品庫平面詳細図・展開図	S1-12	〔新館〕 軸組図（5）		
A1-13	トイレ（男・女）・多目的トイレ・脱衣室・シャワー室 平面詳細図・展開図	A2-13	〔本館〕 改修前 食堂・調理室平面詳細図・展開図	S1-13	〔新館〕 基礎リスト・スラブリスト	S3-01	配筋標準図（その1）
A1-14	玄関・廊下・相談室・作業室・倉庫 展開図	A2-14	〔本館〕 改修後 作業室平面詳細図・展開図	S1-14	〔新館〕 基礎梁リスト	S3-02	配筋標準図（その2）
A1-15	天井伏図・法チェック	A2-15	〔本館〕 改修前 作業室平面詳細図・展開図	S1-15	〔新館〕 土圧壁リスト	S3-03	配筋標準図（その3）
A1-16	建具キープラン図・建具表	A2-16	〔本館〕 改修後 男子更衣室・女子更衣室・職員更衣室（女）平面詳細図・展開図	S1-16	〔新館〕 鉄骨柱リスト	S3-04	配筋標準図（その4）
A1-17	家具詳細図1	A2-17	〔本館〕 改修前 男子更衣室・女子更衣室・職員更衣室平面詳細図・展開図	S1-17	〔新館〕 鉄骨大梁リスト・鉄骨部材リスト	S3-05	鉄骨標準図（その1）
A1-18	家具詳細図2	A2-18	〔本館〕 改修後 事務室・倉庫平面詳細図・展開図	S1-18	〔新館〕 鉄骨詳細図	S3-06	鉄骨標準図（その2）
A1-19	新倉庫棟 平面図・屋根伏図・断面図・建具表	A2-19	〔本館〕 改修前 事務室・倉庫平面詳細図・展開図			S3-07	柱状図（1）
A1-20	新倉庫棟 立面図・展開図	A2-20	〔本館〕 改修後 機械室・相談室平面詳細図・展開図			S3-08	柱状図（2）
A1-21	渡り廊下詳細図	A2-21	〔本館〕 改修前 機械室・相談室平面詳細図・展開図				
A1-22	既存スロープ詳細図【参考図】	A2-22	〔本館〕 改修後 静養室・職員更衣室（男）・雑品庫・湯沸室平面詳細図・展開図				
A1-23	雑詳細図1	A2-23	〔本館〕 改修前 静養室・雑品庫・湯沸室平面詳細図・展開図				
A1-24	雑詳細図2	A2-24	〔本館〕 改修後 玄関・廊下・トイレ（調理用）平面詳細図・展開図				
A1-25	雑詳細図3	A2-25	〔本館〕 改修前 玄関・廊下平面詳細図・展開図				
A1-26	雑詳細図4	A2-26	〔本館〕 改修後・改修前 天井伏図				
A1-27	移動間仕切詳細図（参考図）	A2-27	〔本館〕 建具表1（既設建具）				
A1-28	屋根各部詳細図1（参考図）	A2-28	〔本館〕 建具表2（既設建具）				
A1-29	屋根各部詳細図2（参考図）	A2-29	〔本館〕 建具表3（新設建具）				
A1-30	サッシ詳細図（参考図）	A2-30	〔本館〕 家具詳細図1				
A1-31	スチールドア詳細図1（参考図）	A2-31	〔本館〕 家具詳細図2				
A1-32	スチールドア詳細図2（参考図）	A2-32	〔本館〕 家具詳細図3				
A1-33	シャッター詳細図（参考図）	A2-33	〔本館〕 家具詳細図4				
		A2-34	〔本館〕 雑詳細図				
		A2-35	〔本館〕 サッシ詳細図（参考図）				
		A2-36	〔本館〕 スチールドア詳細図（参考図）				
		A2-37	〔別館〕 別館改修 平面図・天井伏図				
			意匠図【共通】				
		図番	図面名称				
		A3-01	仮設計画図（参考図）				
		A3-02	工事区分表				

2 改質アスファルトシート防水	絶縁断熱工法のルーフトレンドリ回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※図示 絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定 種類 () 設置数量 ()	4 塗膜防水	※特定化学物質障害予防規則の対象とならない材とする (9.5.3)(表9.5.1~2) 防水層の種類	5 外壁乾式工法	一般目地 ・目地モルタル (目地幅 ()) ・既調合の目地モルタル (目地幅 ()) ・シーリング材 (種類 ※標準仕様書表9.7.1による ()) (目地幅及び深さ ())	③ 造作集成材 ㊤	・JAS 1083-6 製材-第6部に基づく広葉樹製材 施工箇所 樹種名 寸法 (mm) 等級 含水率 保存処理
	屋内防水 防水層の種類 種別 施工箇所 種別 施工箇所	5 ケイ酸系系塗布防水	6 床及び階段の石張り	7 笠木、甲板等の石張り	④ 造作用集成材 ㊤		④ 「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 (12.2.1) ◎ 「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 施工箇所 品名 樹種名 見付け材面 寸法 (mm) 見付け材面の品質 間伐材等の適用
3 合成高分子系ルーフィングシート防水	高日射反射率防水の適用 ㊤ 適用する 適用しない 改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※R種 () mm以上 材料による区分 ※R種 () mm以上	⑥ シーリング	防水層の下地 (9.6.4)(表9.6.1) 壁 ※コンクリート打放し仕上げ (表6.2.4 B種) 天井部 ※コンクリート打放し仕上げ (表6.2.4 B種) 下地処理 コンクリートの打継ぎ箇所の処理 ※打継ぎ部分に対し、幅30mm及び深さ30mm程度の目地溝を用いる。目地溝の除去後、水洗い清掃し、ケイ酸系塗布防水材の製造所の仕様により、ポリマーコンクリートを充填し、目地を施す。 型枠締付け材にコーンが使用されている部位及びケイ酸系塗布防水材の塗布面以外の下地処理 図示	11 タイル工事	位置 ※標準仕様書表11.1.1による 図示 (11.1.3)(表11.1.1) 目地寸法 図示 見本焼 行う (施工箇所:) 行わない (11.1.4) 試験張り 行う (範囲、仕様等は図示による) 行わない ③ セメントモルタルによるタイル張り タイルの形状・寸法等 (11.2.2、3、6) 施工箇所 種類 (mm) 1種 2種 3種 4種 5種 6種 7種 8種 9種 10種 11種 12種 13種 14種 15種 16種 17種 18種 19種 20種 タイルの形状・寸法等 (11.3.2~5) 標準的な曲がりの役物は一体成形とする 下地モルタル塗りのコンクリート素地の処理 ※目荒し工法 (高圧水洗処理) ・MCR工法 壁タイル張りの工法 内外装タイル・密着張り・改良圧着張り 内装タイル以外のユニットタイル・マスク張り・モザイクタイル張り 既調合モルタル モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。	4 造作用単板積層材 ㊤	・JAS 0701に基づく造作用単板積層材 施工箇所 品名 寸法 (mm) 表面の品質 (化粧加工の有無) 含水率 防虫処理の適用
	立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法 ※アルミニウム製 L=30×15×2.0mm程度 防水層の下のモルタル塗り ・適用する (施工範囲 ※図示 ()) 適用しない 屋上排水溝 ※図示 ()	⑦ 防水工事施工票	5 外壁湿式工法	4 有根系接着剤によるタイル張り	⑤ 合板等	⑤ 「合板の日本農林規格」による普通用合板 ㊤ (12.2.1) ◎ 「合板の日本農林規格」による普通用合板 ㊤ 施工箇所 厚さ (mm) 接着の程度 板面の品質 単板の樹種名 強度等級 防虫処理の適用	

6 接合具等	・パーティクルボード G	施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分 ※13タイプ	耐水性による区分 ※P又はM	難燃性による区分	厚さ(mm) ※15	
	・JAS 0360に基づく構造用パネル	施工箇所	寸法(mm)					
	・MDF G	施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)	
	造作材の化粧面の釘打ち ※隠し釘打ち ・釘頭埋め木 ・つぶし釘打ち ・釘頭現し 諸金物の形状、寸法及び材質 ※かすがい、産金、箱金物及び短冊金物 (標準仕様書表12.2.2.3~5に示す程度の市販品 表14.2.2のF程度) (形状: 寸法: 材質:)	(12.2.2)						
	接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆	(12.2.2.3)						
	・薬剤の加圧注入による防蟻、防蟻処理	(12.3.1.2)						
	適用部材	保存処理性能区分						
	・薬剤の塗布等による防蟻、防蟻処理	(12.3.1.2)						
	適用部材	処理の方法						薬剤の種類
	・薬剤の接着剤への混入による防蟻、防蟻処理	(12.3.1.2)						
	適用部位()	合板等の加圧注入処理の適用						
	適用部位()	不燃材料 適用部位(部位) ・ 図示による 準不燃材料 適用部位(部位) ・ 図示による 難燃材料 適用部位(部位) ・ 図示による						

7 接着剤	8 防蟻・防蟻・防虫処理	9 不燃処理木材等	10 内部間仕切軸組及び床組み	⑪ 窓、出入口その他	12 床板張り	13 壁及び天井下地
	⑫ 屋根及びびと工事	2 折板葺	3 粘土瓦葺	⑬ 左官工事	⑭ 金属工事	⑮ 鉄鋼の亜鉛めっき
	⑯ 長尺金属板葺	⑰ 軽量鉄骨天井下地	⑱ 軽量鉄骨壁下地	⑲ 金属形成板張り	⑳ アルミニウム製並木	㉑ モルタル塗り
	⑳ アルミニウム製並木	㉒ セッコウボード	㉓ 仕上げ	㉔ 仕上げ	㉕ 仕上げ	㉖ 仕上げ
	㉗ 仕上げ	㉘ 仕上げ	㉙ 仕上げ	㉚ 仕上げ	㉛ 仕上げ	㉜ 仕上げ
	㉝ 仕上げ	㉞ 仕上げ	㉟ 仕上げ	㊱ 仕上げ	㊲ 仕上げ	㊳ 仕上げ
	㊴ 仕上げ	㊵ 仕上げ	㊶ 仕上げ	㊷ 仕上げ	㊸ 仕上げ	㊹ 仕上げ
	㊺ 仕上げ	㊻ 仕上げ	㊼ 仕上げ	㊽ 仕上げ	㊾ 仕上げ	㊿ 仕上げ
	㋀ 仕上げ	㋁ 仕上げ	㋂ 仕上げ	㋃ 仕上げ	㋄ 仕上げ	㋅ 仕上げ
	㋆ 仕上げ	㋇ 仕上げ	㋈ 仕上げ	㋉ 仕上げ	㋊ 仕上げ	㋋ 仕上げ
	㋌ 仕上げ	㋍ 仕上げ	㋎ 仕上げ	㋏ 仕上げ	㋐ 仕上げ	㋑ 仕上げ
	㋒ 仕上げ	㋓ 仕上げ	㋔ 仕上げ	㋕ 仕上げ	㋖ 仕上げ	㋗ 仕上げ

16 建具工事	1 防火戸	2 見本の製作等	3 防犯建物部品	④ アルミニウム製建具	⑤ 網戸等	6 樹脂製建具
	⑥ 網戸等	⑦ 網戸等	⑧ 網戸等	⑨ 網戸等	⑩ 網戸等	⑪ 網戸等
	⑫ 網戸等	⑬ 網戸等	⑭ 網戸等	⑮ 網戸等	⑯ 網戸等	⑰ 網戸等
	⑱ 網戸等	⑲ 網戸等	⑳ 網戸等	㉑ 網戸等	㉒ 網戸等	㉓ 網戸等
	㉔ 網戸等	㉕ 網戸等	㉖ 網戸等	㉗ 網戸等	㉘ 網戸等	㉙ 網戸等
	㉚ 網戸等	㉛ 網戸等	㉜ 網戸等	㉝ 網戸等	㉞ 網戸等	㉟ 網戸等
	㊱ 網戸等	㊲ 網戸等	㊳ 網戸等	㊴ 網戸等	㊵ 網戸等	㊶ 網戸等
	㊷ 網戸等	㊸ 網戸等	㊹ 網戸等	㊺ 網戸等	㊻ 網戸等	㊼ 網戸等
	㊽ 網戸等	㊾ 網戸等	㊿ 網戸等	㋀ 網戸等	㋁ 網戸等	㋂ 網戸等
	㋃ 網戸等	㋄ 網戸等	㋅ 網戸等	㋆ 網戸等	㋇ 網戸等	㋈ 網戸等
	㋉ 網戸等	㋊ 網戸等	㋋ 網戸等	㋌ 網戸等	㋍ 網戸等	㋎ 網戸等
	㋏ 網戸等	㋐ 網戸等	㋑ 網戸等	㋒ 網戸等	㋓ 網戸等	㋔ 網戸等
	㋕ 網戸等	㋖ 網戸等	㋗ 網戸等	㋘ 網戸等	㋙ 網戸等	㋚ 網戸等

17 鋼製建具	⑯ 鋼製建具	⑰ 鋼製建具	9 ステンレス製建具	10 木製建具	⑱ 建具用金物	⑳ 鍵	13 自動ドア開閉装置
	⑳ 鍵	㉑ 鍵	㉒ 鍵	㉓ 鍵	㉔ 鍵	㉕ 鍵	㉖ 鍵
	㉗ 鍵	㉘ 鍵	㉙ 鍵	㉚ 鍵	㉛ 鍵	㉜ 鍵	㉝ 鍵
	㉞ 鍵	㉟ 鍵	㊱ 鍵	㊲ 鍵	㊳ 鍵	㊴ 鍵	㊵ 鍵
	㊶ 鍵	㊷ 鍵	㊸ 鍵	㊹ 鍵	㊺ 鍵	㊻ 鍵	㊼ 鍵
	㊽ 鍵	㊾ 鍵	㊿ 鍵	㋀ 鍵	㋁ 鍵	㋂ 鍵	㋃ 鍵
	㋄ 鍵	㋅ 鍵	㋆ 鍵	㋇ 鍵	㋈ 鍵	㋉ 鍵	㋊ 鍵
	㋋ 鍵	㋌ 鍵	㋍ 鍵	㋎ 鍵	㋏ 鍵	㋐ 鍵	㋑ 鍵
	㋒ 鍵	㋓ 鍵	㋔ 鍵	㋕ 鍵	㋖ 鍵	㋗ 鍵	㋘ 鍵
	㋙ 鍵	㋚ 鍵	㋛ 鍵	㋜ 鍵	㋝ 鍵	㋞ 鍵	㋟ 鍵
	㋠ 鍵	㋡ 鍵	㋢ 鍵	㋣ 鍵	㋤ 鍵	㋥ 鍵	㋦ 鍵
	㋧ 鍵	㋨ 鍵	㋩ 鍵	㋪ 鍵	㋫ 鍵	㋬ 鍵	㋭ 鍵
	㋮ 鍵	㋯ 鍵	㋰ 鍵	㋱ 鍵	㋲ 鍵	㋳ 鍵	㋴ 鍵

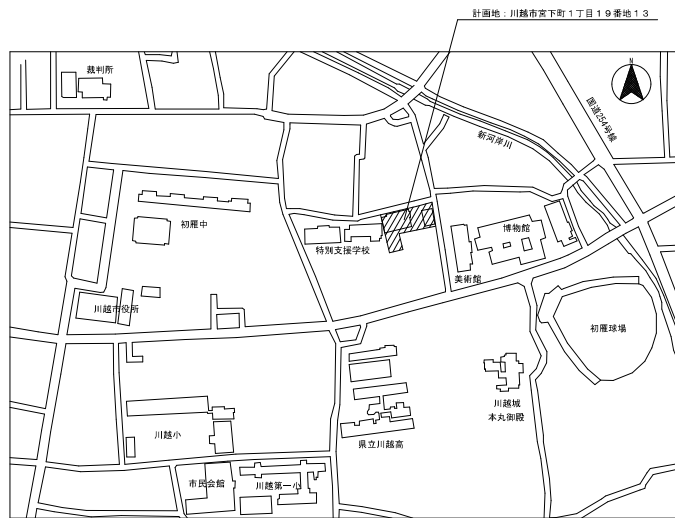
14 自閉式上吊り引戸装置
15 重量シャッター
16 軽量シャッター
17 オーバーヘッドドア
18 ガラス
19 ガラスブロック積み

17 カーテンウォール工事
1 取付方法、性能等
2 メタルカーテンウォール
3 PCカーテンウォール
18 塗装工事
① 材料
② 薬地ごしらえ

3 錆止め塗料塗り
4 塗装
① 接着剤
2 下地の工法
③ ビニル床シート
④ ビニル床タイル
5 特殊機能床材
⑥ ビニル幅木
7 ゴム床タイル
8 カーペット敷き

⑨ 合成樹脂塗床
10 フローリング張り
11 畳敷き
⑫ さつこボード、その他ボード及び合板張り

⑬ タイルカーペット
⑭ フローリングのホルムアルデヒド放散量等
単層フローリング
複合フローリング
畳敷き
⑮ さつこボード、その他ボード及び合板張り



案内図

北側道路斜線制限の検討 (本館北側を検討)
 道路斜線制限の係数=1.25
 北側境界から屋根軒先までの距離=0.80m
 東側道路幅員 5.0m
 $(5.0m + 0.8m) \times 1.25 = 7.25m$
 建物高さ4.45-道路高さ0.03=4.42m (道路面からの建物高さ)・・・OK

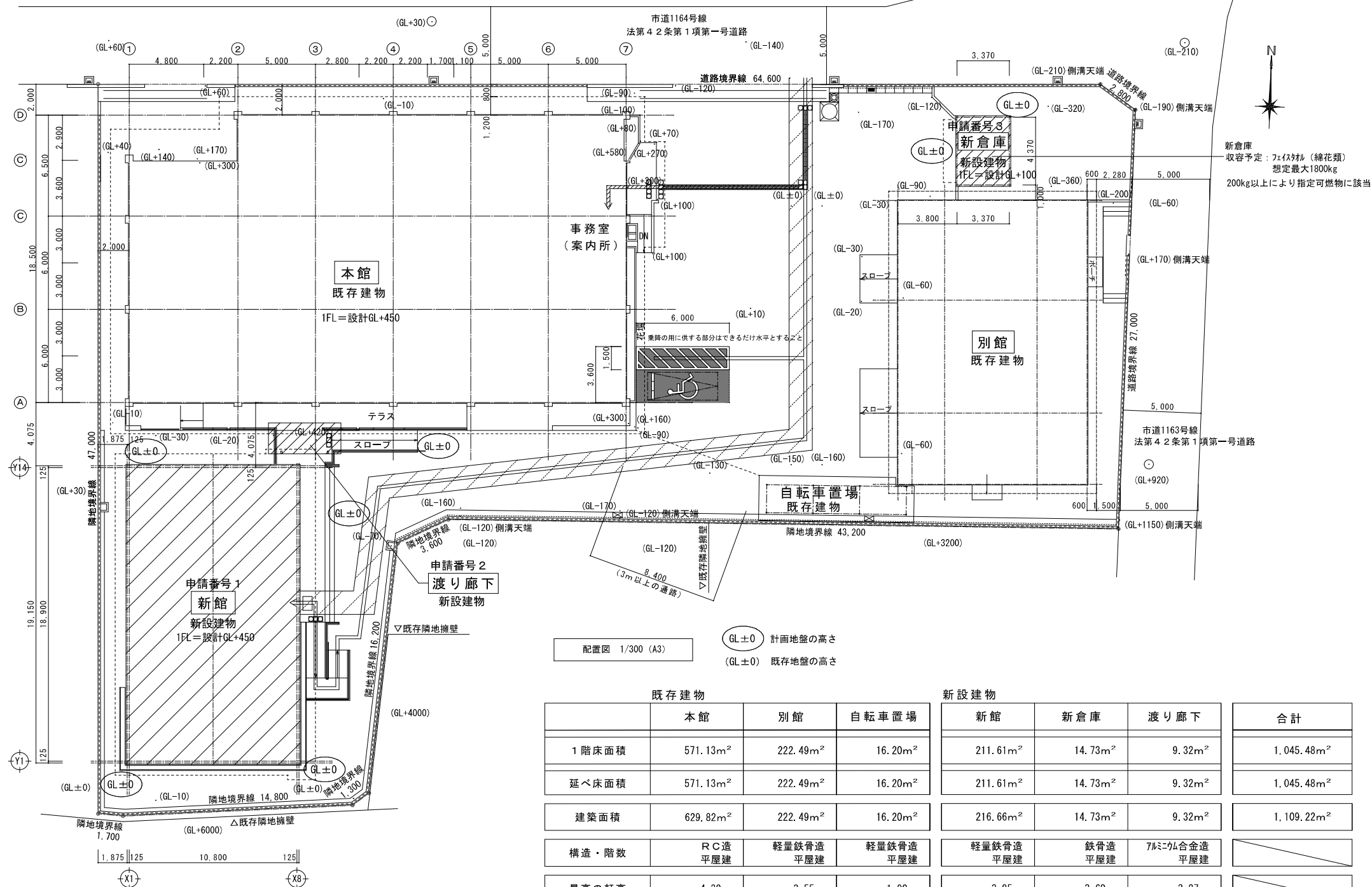
東側道路斜線制限の検討 (東側道路北側を検討)
 道路斜線制限の係数=1.25
 東側境界から屋根軒先までの距離=2.28m
 東側道路幅員 5.0m
 $(5.0m + 2.28m) \times 1.25 = 9.1m$
 建物高さ3.79-道路高さ0.06=3.85m (道路面からの建物高さ)・・・OK

東側道路斜線制限の検討 (東側道路南側を検討)
 道路斜線制限の係数=1.25
 東側境界から屋根軒先までの距離=2.28m
 東側道路幅員 5.0m
 $(5.0m + 1.5m) \times 1.25 = 8.125m$
 建物高さ3.79-道路高さ0.92=2.87m (道路面からの建物高さ)・・・OK

敷地内通路 幅1.5m以上確保
 突出物等通行の支障になるもの無し
 グレーン[®]の設置無し

利用円滑化経路
 段差なし
 (アスファルト舗装・床コンクリート仕上)

視覚障害者移動等円滑化経路



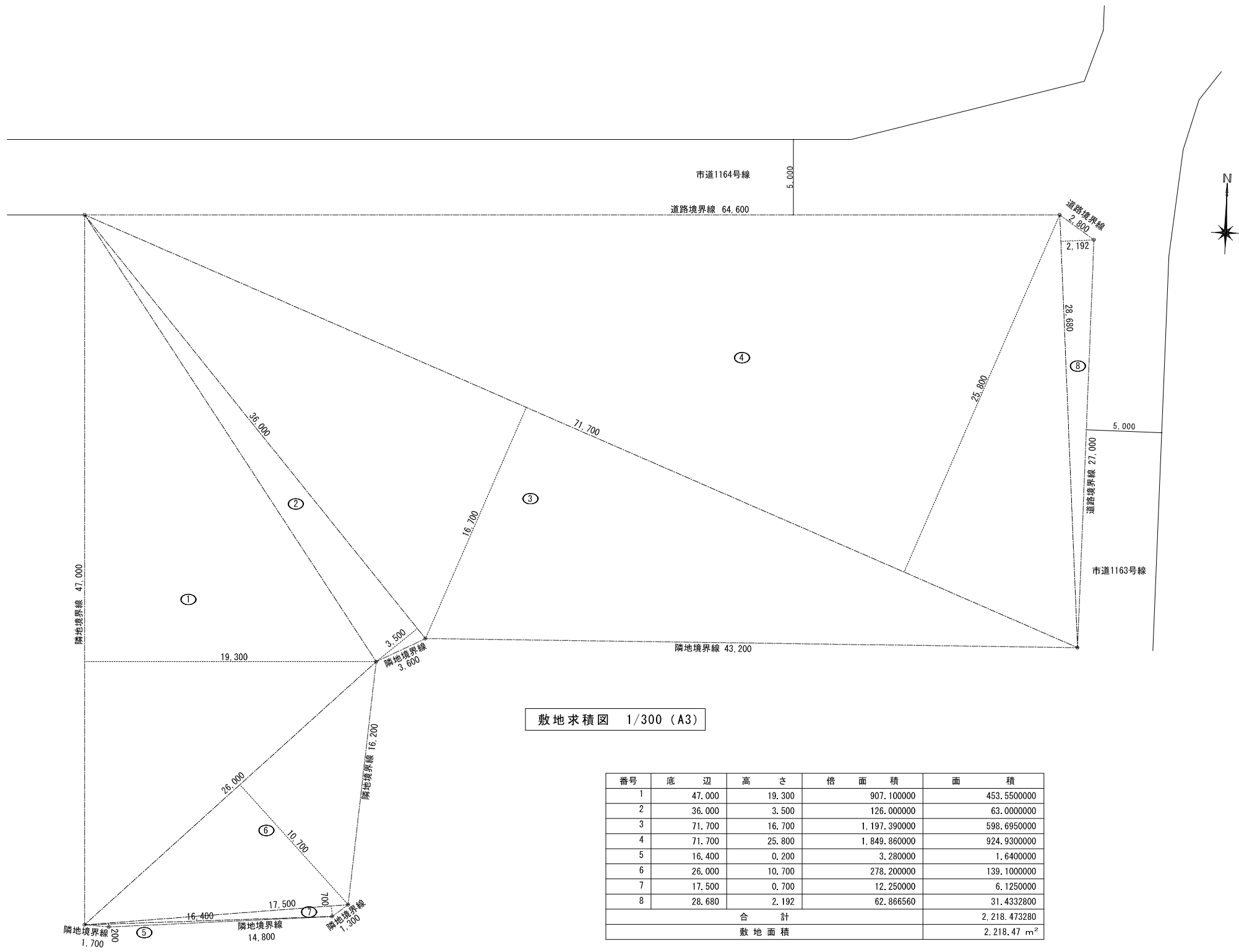
配置図 1/300 (A3)
 (GL±0) 計画地盤の高さ
 (GL±0) 既存地盤の高さ

	既存建物			新設建物			合計
	本館	別館	自転車置場	新館	新倉庫	渡り廊下	
1階床面積	571.13m ²	222.49m ²	16.20m ²	211.61m ²	14.73m ²	9.32m ²	1,045.48m ²
延べ床面積	571.13m ²	222.49m ²	16.20m ²	211.61m ²	14.73m ²	9.32m ²	1,045.48m ²
建築面積	629.82m ²	222.49m ²	16.20m ²	216.66m ²	14.73m ²	9.32m ²	1,109.22m ²
構造・階数	RC造 平屋建	軽量鉄骨造 平屋建	軽量鉄骨造 平屋建	軽量鉄骨造 平屋建	鉄骨造 平屋建	7&3コム合金造 平屋建	
最高の軒高	4.30m	3.55m	1.90m	3.95m	3.60m	3.27m	
最高の高さ	4.45m	3.79m	2.20m	6.11m	3.80m	3.38m	
耐火・準耐火建築物等	その他	その他	その他	その他	その他	その他	

※新設建物・既存建物共に原動機の使用なし

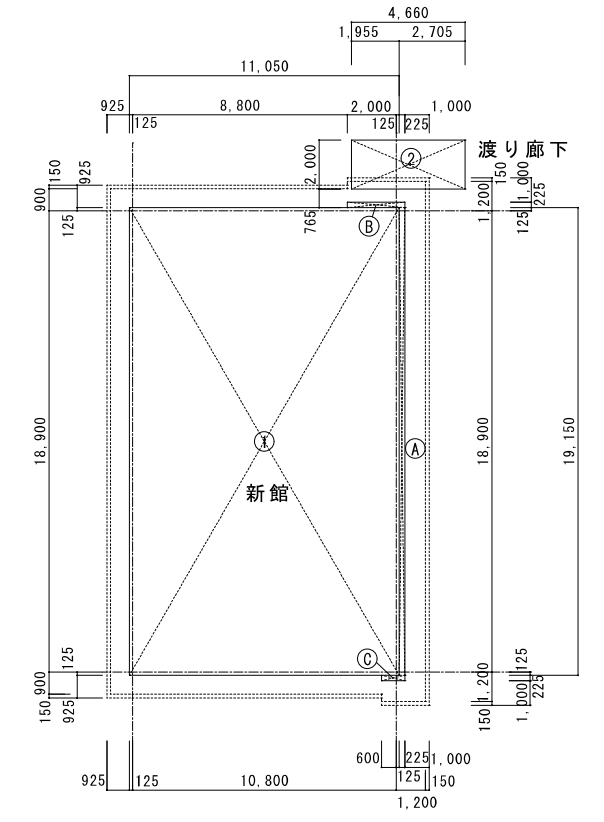
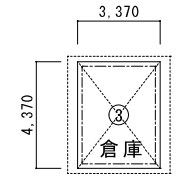
用途地域：第一種住居地域
 敷地面積 2,218.47m²
 建ぺい率 60% (角地緩和により70%)
 許容建築面積 (70%) 1,552.92m²
 容積率 200%
 許容延床面積 (200%) 4,436.94m²

新館用途：児童福祉施設等 (就労継続支援B型)
 就寝を伴わない用途
 障害程度区分4以上の利用者は8割未満



敷地求積図 1/300 (A3)

番号	底辺	高さ	倍面積	面積
1	47.000	19.300	907.100000	453.5500000
2	36.000	3.500	126.000000	63.0000000
3	71.700	16.700	1,197.390000	598.6950000
4	71.700	25.800	1,849.860000	924.9300000
5	16.400	0.200	3.280000	1.6400000
6	26.000	10.700	278.200000	139.1000000
7	17.500	0.700	12.250000	6.1250000
8	28.680	2.192	62.866560	31.4332800
合計				2,218.473280
敷地面積				2,218.47 m ²



建物求積図 1/300 (A3)

新館 床面積

番号	計算式	面積 (m ²)
①	11.050 × 19.150 =	211.6075
計		211.6075
床面積		211.61

渡り廊下 床面積・建築面積

番号	計算式	面積 (m ²)
②	4.660 × 2.000 =	9.32
計		9.32
床面積・建築面積		9.32

新館 建築面積

番号	計算式	面積 (m ²)
①	11.050 × 19.150 =	211.60750
Ⓐ	19.150 × 0.225 =	4.30875
Ⓑ	2.350 × 0.225 =	0.52875
Ⓒ	0.950 × 0.225 =	0.21375
計		216.65875
建築面積		216.66

倉庫 床面積・建築面積

番号	計算式	面積 (m ²)
③	3.370 × 4.370 =	14.7269
計		14.7269
床面積・建築面積		14.73

記
率

Architects Firm *Atelier YOU* 一級建築士事務所 埼玉県知事登録(1)第12121号
一級建築士 第342763号 藤山智昭

工事名称 川越市みよしの支援センター改築等工事
図面名称 敷地求積図・建物求積図
作成年月日 概 尺 1/150 (A1) 1/300 (A3)
図面番号 A1-07

【新館】外部仕上表							
屋根	カラーガルバリウム鋼板横葺き 厚0.4 (JIS G 3322) 雪止め金物φ450 片面粘着ゴムアスファルト樹脂フィング t=1.0 硬質木片セメント板 厚18 フェノールフォーム 厚25	軒裏	木目調高圧岩綿複層板 厚12	樋	軒樋：塩ビ既製品W100 (支持金物共) 縦樋：硬質塩ビ管カラーφ75 (支持金物共)	軒先	破風板：木目調窯業系既製品 厚16.0 幅180
外壁	窯業系サイディング 厚16.0 通気工法 透湿防水シート グラスウール断熱材 厚90 (24K) 室内側：PB厚12.5二重張	テラス スロープ	コンクリート刷毛引き仕上	外巾木	打放し補修の上、保護材塗布 (耐候・低汚染型シリコン系塗料) 誘発目地：@3.0m以内に設けること	防護壁	打放し補修の上、アクリル樹脂系耐候塗料 誘発目地：@3.0m以内に設けること

【新館】内部仕上表														
室名	床			巾木		壁			天井			天井高	備考 (t) 備品(別途)	
	下地				高さ	下地			下地		ホーン・キール ・廻縁			
玄関	C	ホモジニアスタイル (石目調) 厚3.0 床見切：御影石		ソフト巾木	60	LGS	PB 厚12.5二重張 ビニルクロス (不燃)		LGS	化粧石膏ボード 厚9.5	—	塩ビ	2.700	傘立て (ビ)
相談室	C	ホモジニアスタイル (木目調) 厚3.0		ソフト巾木	60	LGS	PB 厚12.5二重張 ビニルクロス (不燃)		LGS	化粧石膏ボード 厚9.5	カーテン(レース共) ・ダブル	塩ビ	2.700	ホワイトボード
作業室1・2・3	C	ホモジニアスタイル (木目調) 厚3.0		ソフト巾木	60	LGS	PB 厚12.5二重張 ビニルクロス (不燃)		LGS	ロックウール化粧吸音板 厚12 石膏ボード 厚9.5下地	カーテン(レース共) ・ダブル	塩ビ	2.700	ホワイトボード
トイレ(男・女)	M	300角磁器質タイル (防滑)		100角磁器質タイル	100	LGS	耐水PB 厚12.5二重張 メラミン化粧板 厚3		LGS	ケ酸加工板 t 6.0 目透し貼 EP-G塗装	—	塩ビ	2.500	手洗かみかみ手摺、 小便器手摺、手洗いかみかみ、鏡 (設備)
多目的トイレ	M	300角磁器質タイル (防滑)		100角磁器質タイル	100	LGS	耐水PB 厚12.5二重張 メラミン化粧板 厚3		LGS	ケ酸加工板 t 6.0 目透し貼 EP-G塗装	—	塩ビ	2.500	上下手摺、L型手摺、 肘パット (設備)、鏡 (設備)
脱衣室	C	ビニル床シート 厚2.0 溶接工法 (防汚性)		ソフト巾木	60	LGS	PB 厚12.5二重張 ビニルクロス (不燃)		LGS	化粧石膏ボード 厚9.5	—	塩ビ	2.700	洗濯パン
シャワー室	M	300角磁器質タイル (浴室用)		壁材と同じ	—	LGS	セメントボード t 12.5下地 200角磁器質タイル (浴室用)		LGS	アルミ断熱複合パネル (バスパネル同等品)	—	7M	2.300	手摺 (樹脂製浴室用)、シャワー水栓 (設備)
倉庫	C	エポキシ系塗床		ソフト巾木	300	LGS	PB 厚12.5二重張 ビニルクロス (不燃)		LGS	化粧石膏ボード 厚9.5	—	塩ビ	2.700	
廊下	C	ホモジニアスタイル (木目調) 厚3.0		ソフト巾木	60	LGS	PB 厚12.5二重張 ビニルクロス (不燃)		LGS	化粧石膏ボード 厚9.5	—	塩ビ	2.700	手摺 (木目調)、掲示板

【新倉庫】外部仕上表							
屋根	折板屋根 山高88 ガルバリウム鋼板 厚0.5 鼻隠しH300、タイトフレーム、軒先面戸、水上面戸	樋	塩ビ角型 前高120型 (支持金物共) 縦樋：硬質塩ビ管カラーφ75 (支持金物共)	外壁	窯業系サイディング 厚16.0 通気工法 透湿防水シート 室内側：PB厚12.5二重張	外巾木	打放し補修の上、保護材塗布 (耐候・低汚染型シリコン系塗料)

【新倉庫】内部仕上表														
室名	床			巾木		壁			天井			天井高	備考 (t) 備品(別途)	
	下地				高さ	下地			下地		ホーン・キール ・廻縁			
新倉庫	C	エポキシ系塗床		エポキシ系塗床	300	S	PB 厚12.5二重張 (素地仕上)		LGS	化粧石膏ボード 厚9.5	—	塩ビ	3.000	

□ 内部特記

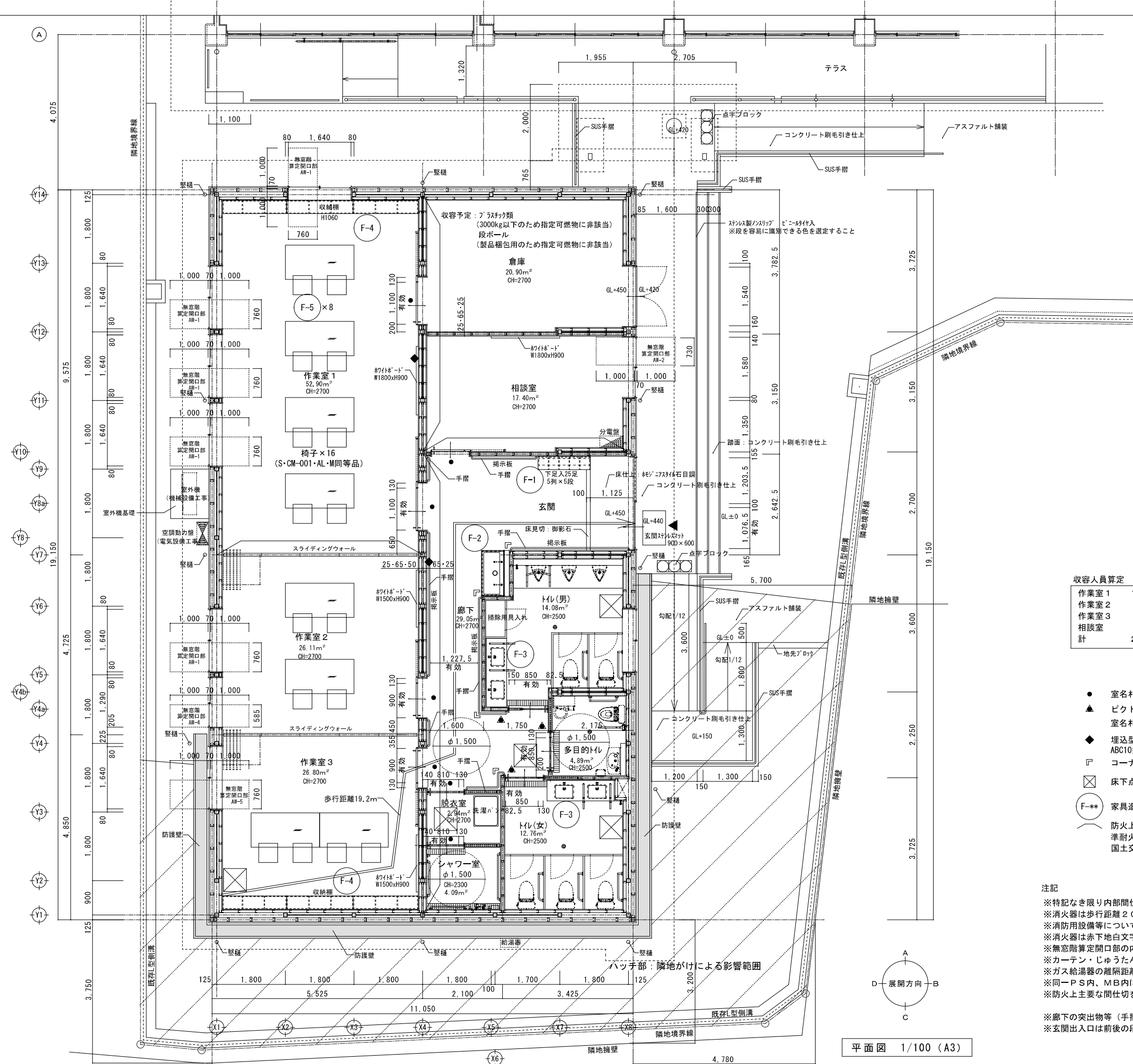
1. 木材の種類は、特記なき限り造作材については杉とする。
2. 玄関の甲板は、アスファルト厚20、玄関の壁仕上はメラミン化粧板とする。
3. 新館の天井裏に断熱材：グラスウール 厚100(24K)を敷設する。
4. ステンレスは、特記なき限り SUS304ヘアライン仕上とする。
5. 内装仕上材・木工家具類はすべてF☆☆☆☆以上を使用する。
6. 長尺塩ビシートは、目地部溶接工法とし、エポキシ系接着剤を使用すること。又表面仕上げは、防滑タイプ (凸凹なし) とする。
7. ガス給湯器を設置する場合は給湯器本体及び吹出口から可燃物と離隔距離を確保して設置する。
8. AN縁縁は集成材SOPとする。
9. メラミン化粧板の隅部・継目部はカラーアルミジョイナーとする。

仕上凡例	
C	コンクリート
W	木造軸組
LGS	軽量鉄骨下地
M	モルタルコテ
PB	石膏ボード
SL	セルフレベルングモルタル
S	鉄骨下地

不燃材・準不燃材認定番号

PB 厚9.5	準不燃QM-9828
PB 厚12.5	不燃NM-8619
化粧PB 厚9.5	準不燃QM-0524
ロックウール化粧吸音板 厚12	不燃NM-8599
化粧ケ酸加工板 厚3	不燃NM-2183
ビニルクロス	準不燃QM-0814

記 事		Architects Plus Atelier YOU 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (1) 第12121号 一級建築士 第342763号 藤山智昭	工事名称	川越市みよしの支援センター改築等工事	作成年月日	図面番号
			図面名称	仕上表	図 尺 縮 小	A1-08



収容人員算定

作業室 1	10人 (利用者8人・職員2人)
作業室 2	5人 (利用者4人・職員1人)
作業室 3	5人 (利用者4人・職員1人)
相談室	5人
計	25人

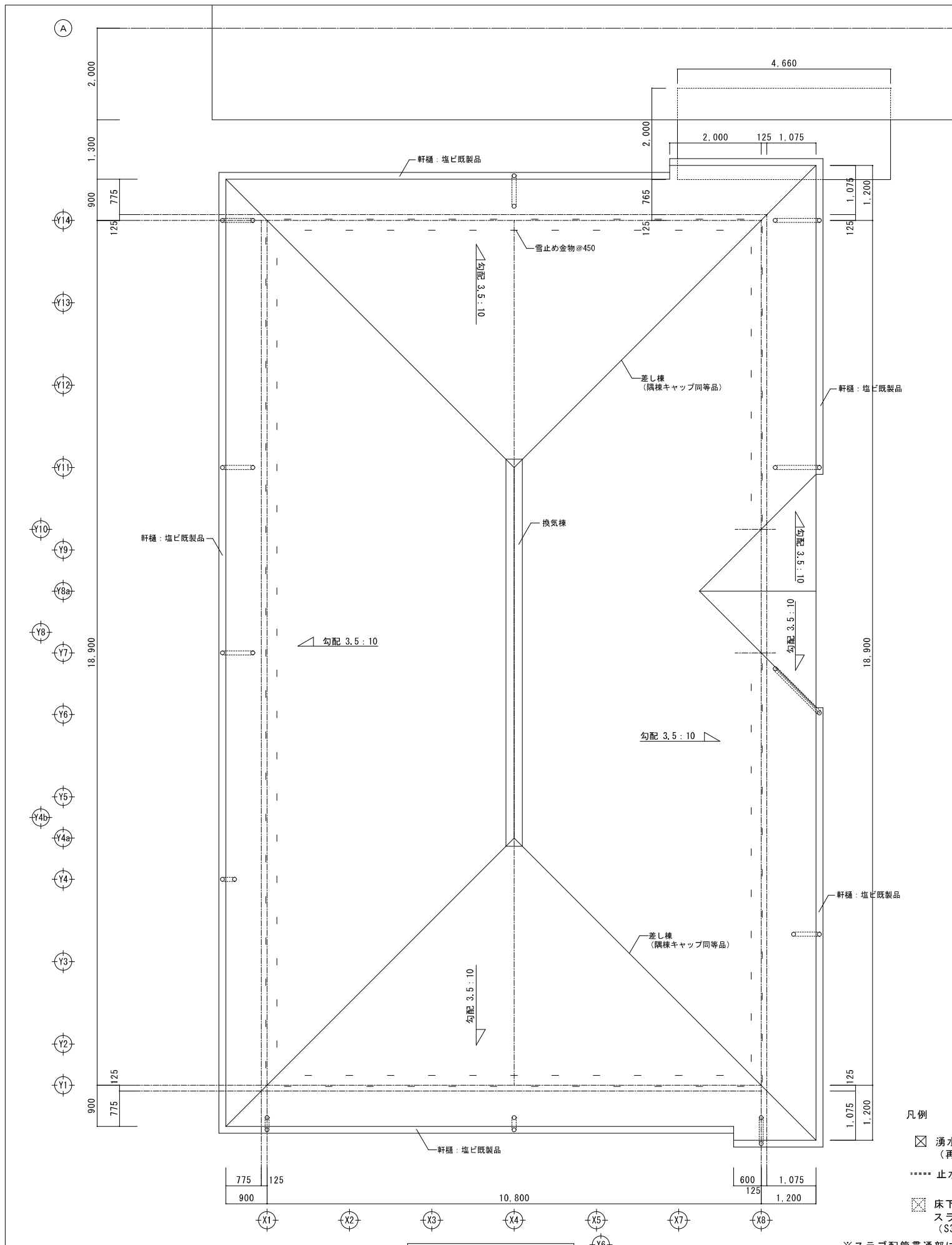
- 室名札正面付 253×81 (FK-81同等品)
- ▲ ピクトサイン正面付 200口 (7/8板取外タイプ) : FK-200 (正面型) 同等品
- 室名札・ピクトサイン設置高さは扉上部付近とし、見えやすい位置とする。
- ◆ 埋込型消火器BOXカバー付 (UFB-1F-2204-PWH同等品)
- ABC10型粉末消火器共
- ⌒ コーナーガード集材材SOP L=2.54m (FL+60~FL+2600まで)
- ⊠ 床下点検口600角
- F-** 家具造作番号
- 防火上主要な間仕切り (天井裏、小屋裏まで連せしめること。)
- 準耐火 : LGS65+石膏ボード厚12.5+12.5両面張り
- 国土交通省 告示1358号

注記

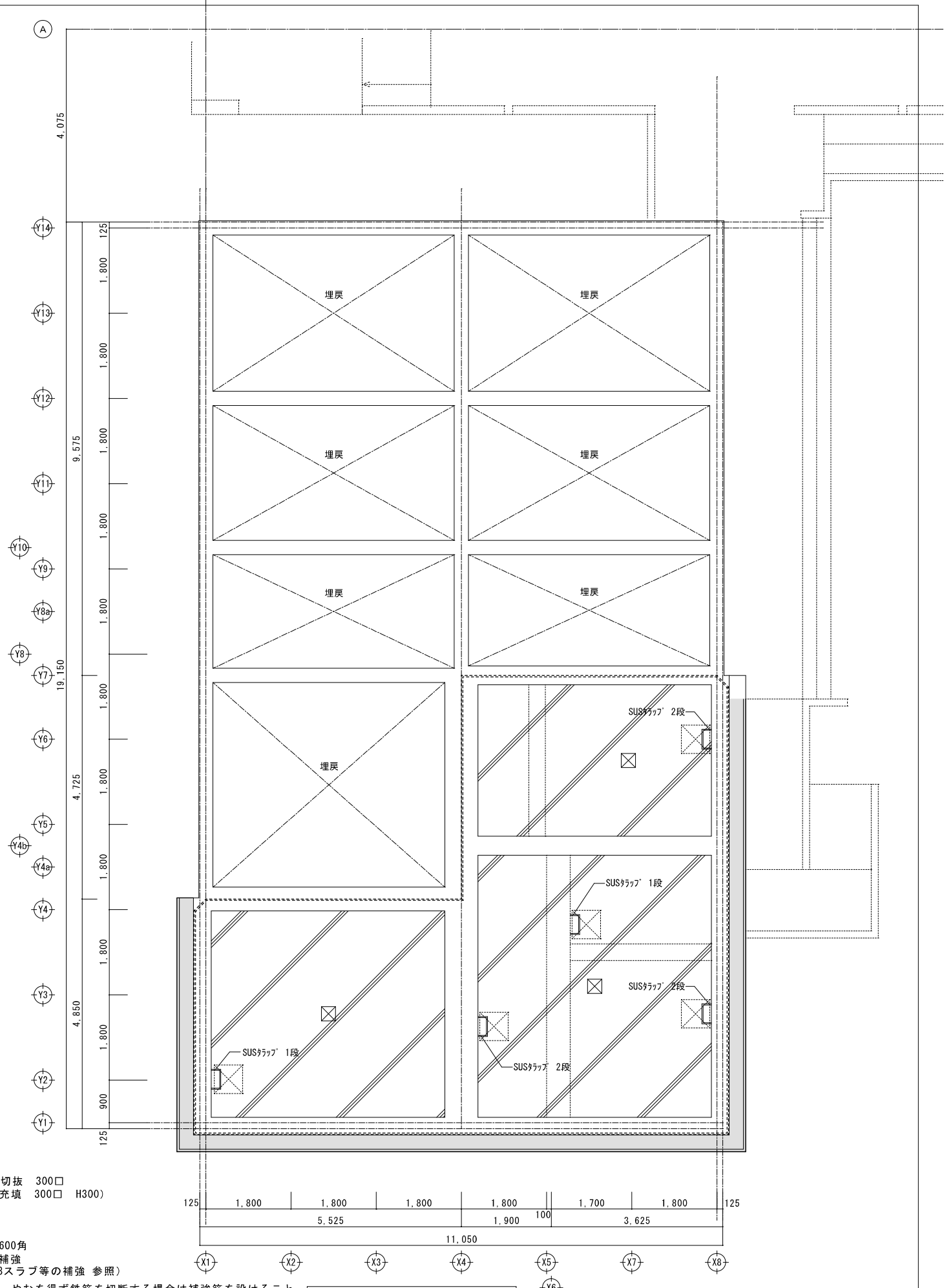
- ※特記なき限り内部間仕切り壁下地はLGS65形とする。
- ※消火器は歩行距離20m以内の設置とする。
- ※消防用設備等について着工前に消防と協議すること。
- ※消火器は赤下地白文字8cm×24cm「消火器」の標識を設置すること。
- ※無窓階算定開口部の内外1mには物を置かないこと。
- ※カーテン・じゅうたん等を使用する場合は防災物品を使用すること。
- ※ガス給湯器の離隔距離について、前方600mm、上方300mm、側方、150mm確保すること。
- ※同一P/S内、MB内にガスと電気を混在させないこと。
- ※防火上主要な間仕切りを貫通する場合は、認定工法による貫通処理を行うこと。

※廊下の突出物等 (手摺・掲示板) は出幅10cm未満とすること。
 ※玄関出入口は前後の段差を1cm以下とすること。

平面図 1/100 (A3)



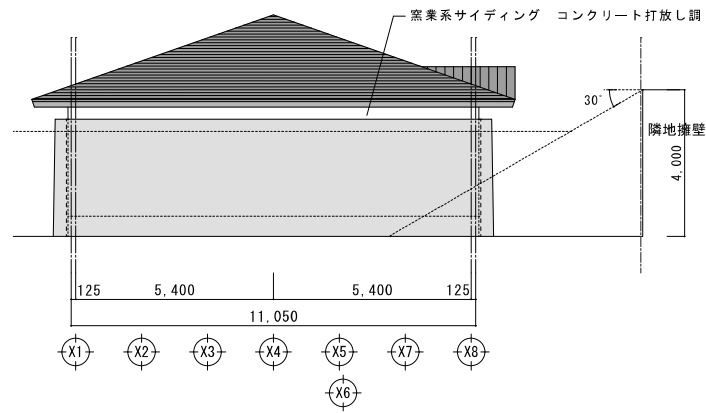
屋根伏図 1/100 (A3)



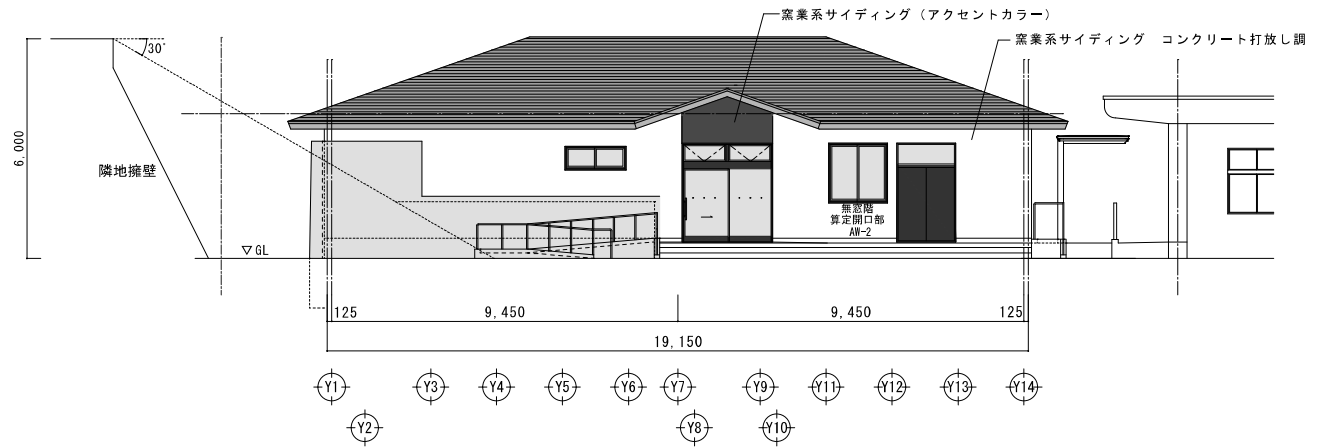
ピット平面図 1/100 (A3)

- 凡例
- ☒ 湧水浸透用切抜 300□
(再生砕石充填 300□ H300)
 - 止水板
 - ☒ 床下点検口600角
スラブ開口補強
(S3-04 9.3スラブ等の補強 参照)

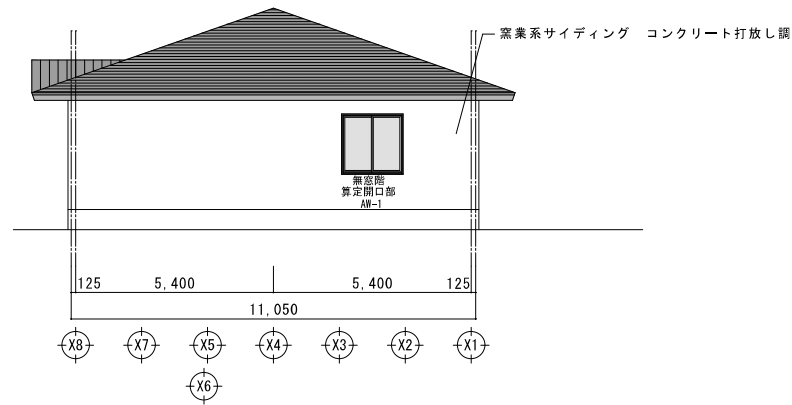
※スラブ配管貫通部について、やむを得ず鉄筋を切断する場合は補強筋を設けること。
(S3-04 9.3スラブ等の補強 参照)



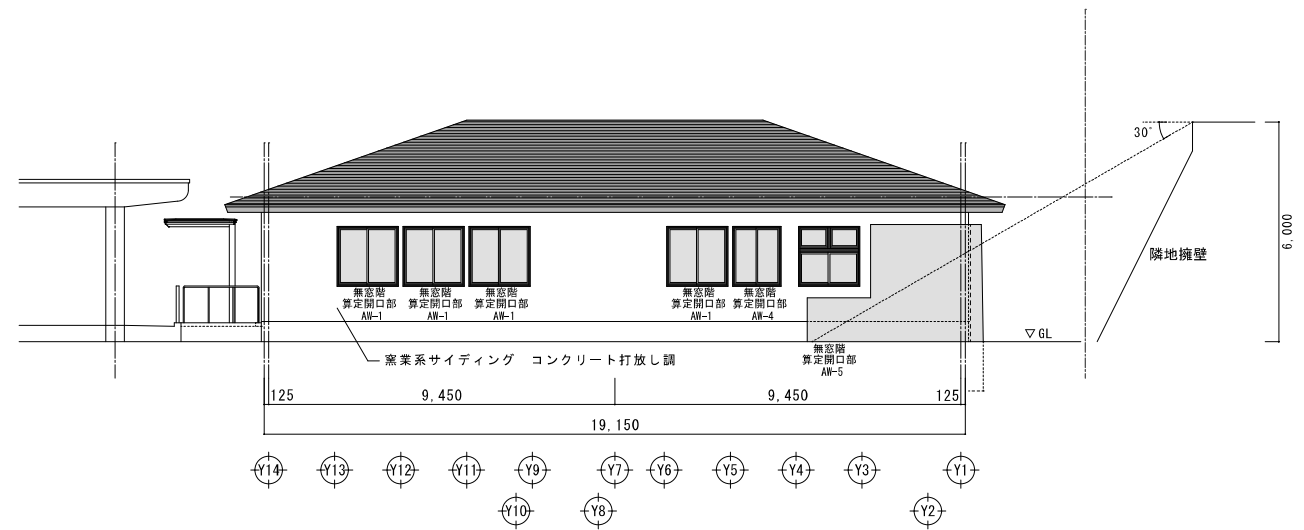
南側立面図 1/200 (A3)



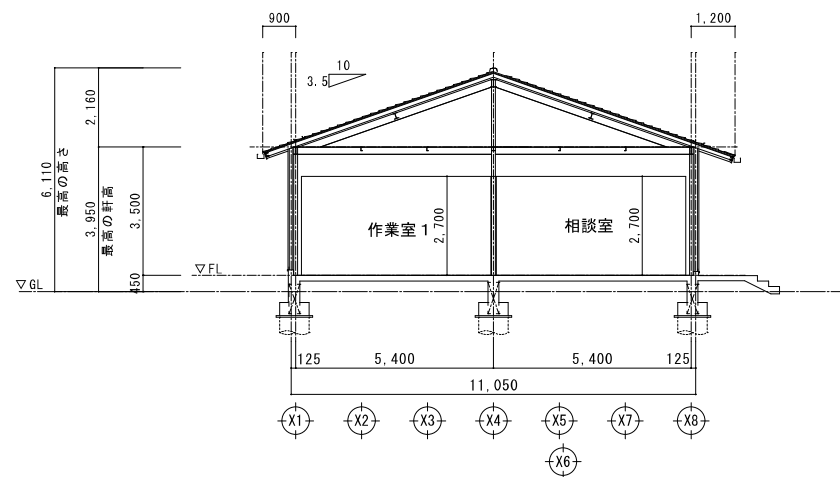
東側立面図 1/200 (A3)



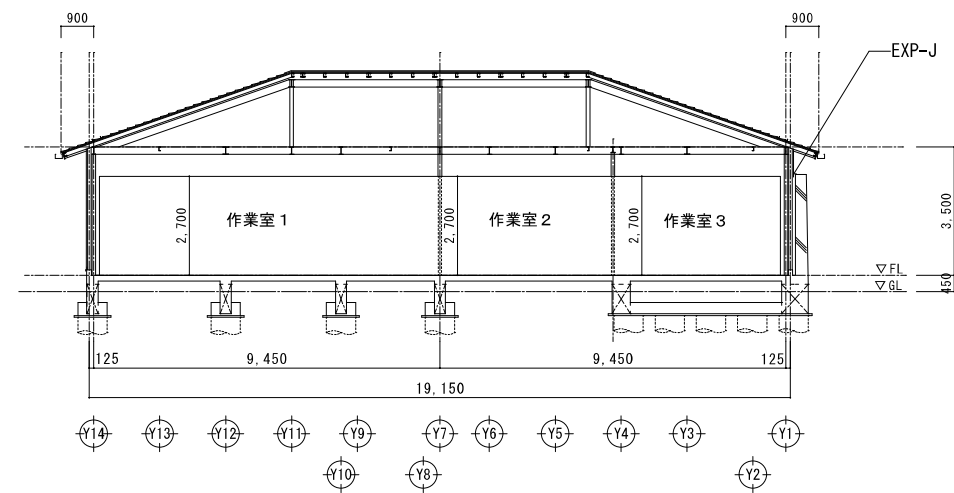
北側立面図 1/200 (A3)



西側立面図 1/200 (A3)

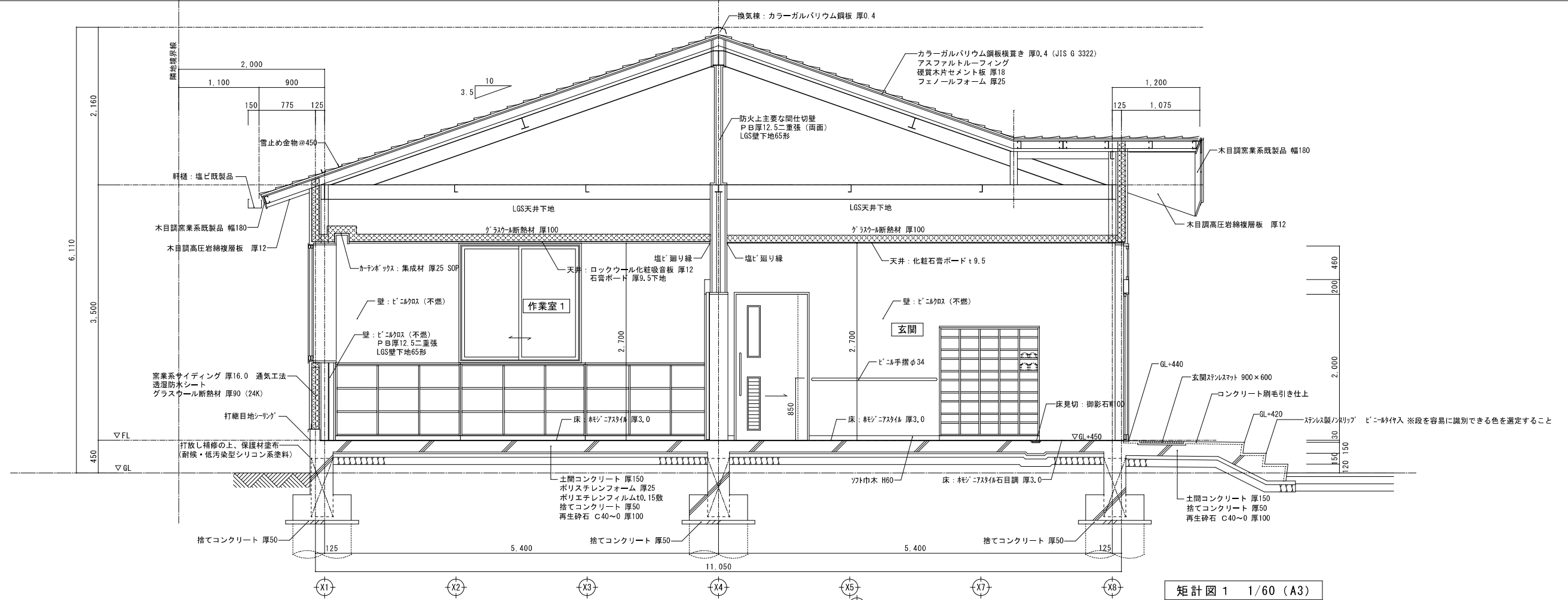


断面図 1 1/200 (A3)

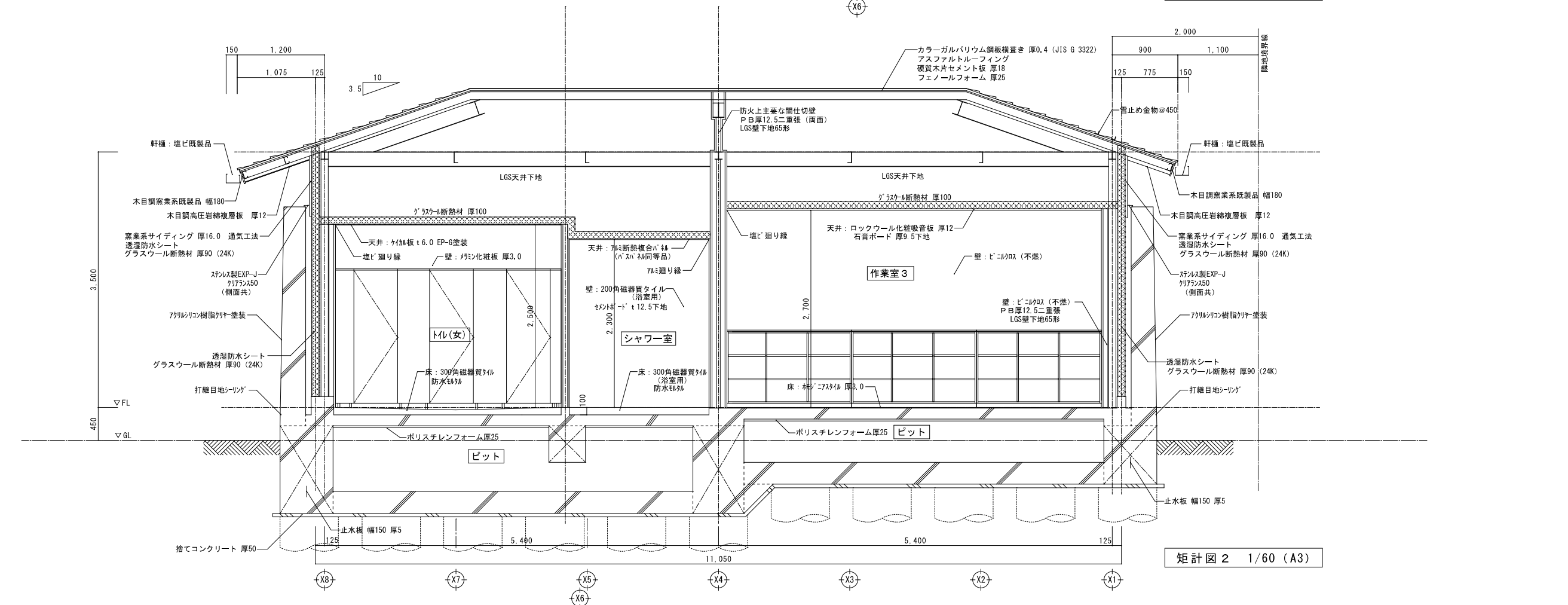


断面図 2 1/200 (A3)

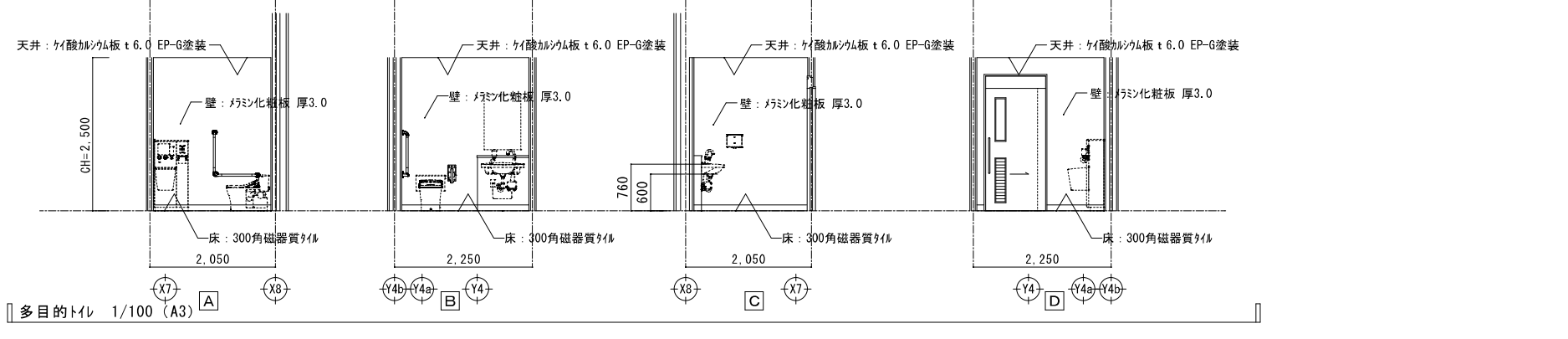
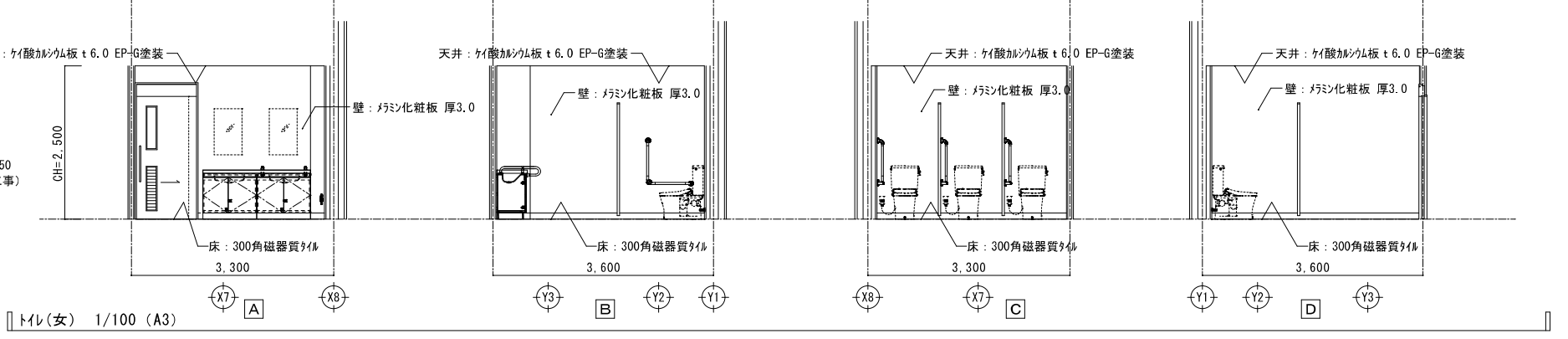
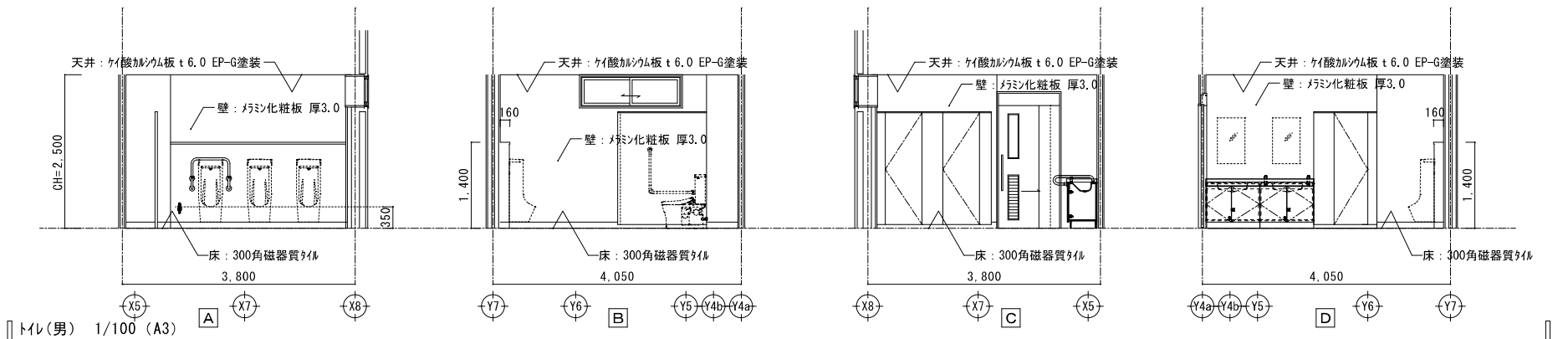
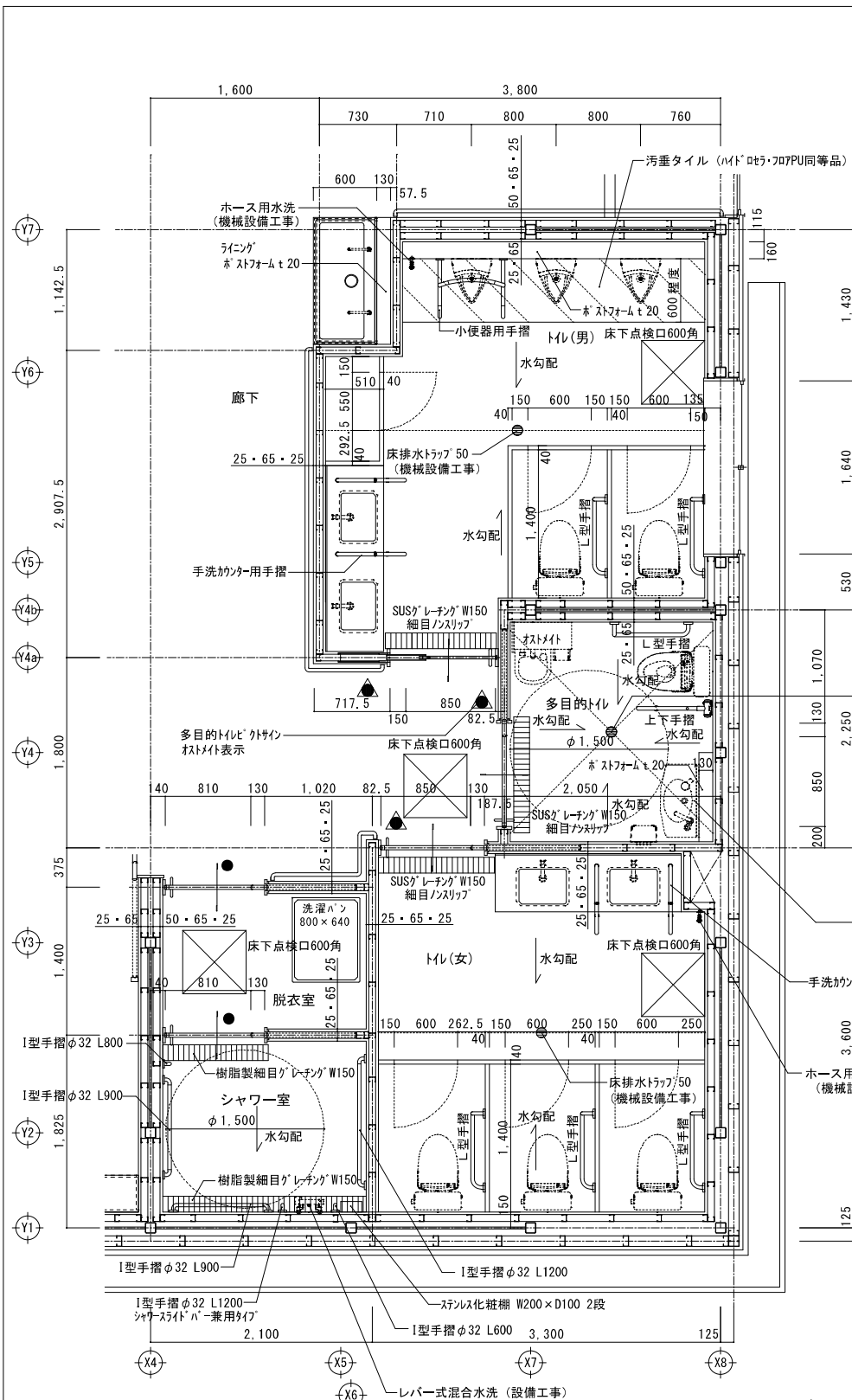
記 率		Architects Firm Atelier YOU 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (1) 第12121号 一級建築士 第342763号 藤山智昭	工事名称 川越市みよしの支援センター改築等工事 図面名称 立面図・断面図	作成年月日 概 尺 1/100 (A1) 1/200 (A3)	図面番号 A1-11



矩計図 1 1/60 (A3)

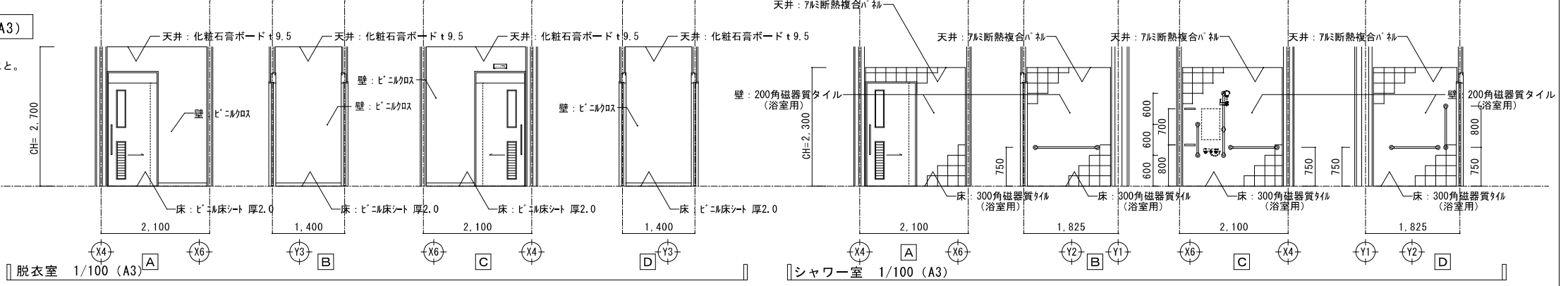
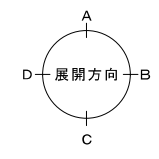


矩計図 2 1/60 (A3)

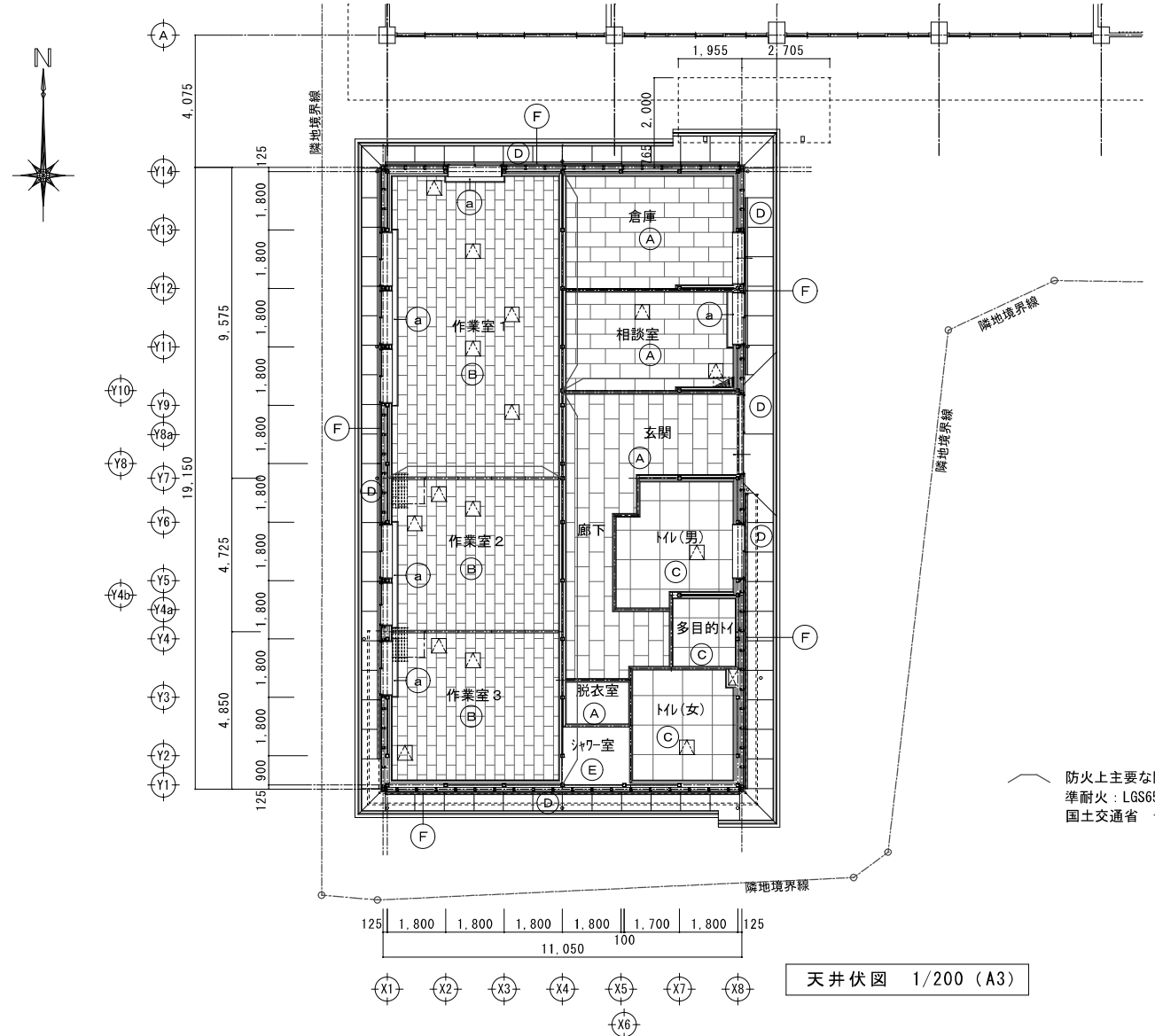


トイレ(男・女)・多目的トイレ・脱衣室・シャワー室 平面詳細図 1/60 (A3)

※シャワー室に設置する手摺は樹脂製浴室用とすること。
 ※多目的トイレ・シャワー室の出入口はその後高低差がないこと、通行の際に支障となる段を設けないこと。
 ※シャワー室手摺補強はC:60×30+10×2.3 H2300×プレートt.2.3 W200を設置すること。







防火上主要な間仕切り (天井裏、小屋裏まで達せしめること)
 準耐火: LGS65+石膏ボード厚12.5+12.5両面張り
 国土交通省 告示1358号

仕上表	
記号	天井仕上
(A)	化粧石膏ボード 厚9.5
(B)	ロックウール化粧吸音板 厚12 (石膏ボード 厚9.5下地)
(C)	ケイ酸カルシウム板 t6.0 目透し貼 EP-G塗装【新設】
(D)	木目調高圧岩綿複層板 厚12 (白木調)
(E)	アルミ断熱複合パネル (バスパネル同等品)
(F)	スリット型軒天換気材
(a)	カーテンBOX W150×H100【新設】
	天井点検口 アルミ製450角 (建築工事)
天井開口補強 (位置は電気図・機械図参照)	
W=1,000×D=1,000 5箇所	

相談室	
室面積	17.40 m ²
必要採光面積	17.40 × 1/7 = 2.49 m ²
有効採光面積	W × H × 個数 × 採光補正係数 有効開口
窓記号	AW2 1.58 × 1.56 × 1 × 3 = 7.39 m ²
合計	7.39 m ²
判定	OK
必要換気面積	17.40 × 1/20 = 0.87 m ²
有効換気面積	W × H × 個数 有効開口
窓記号	AW2 0.73 × 1.56 × 1 = 1.13 m ²
合計	1.13 m ²
判定	OK
必要排煙面積	17.40 × 1/50 = 0.35 m ²
有効排煙面積	W × H × 個数 有効開口
窓記号	AW2 0.73 × 0.66 × 1 = 0.48 m ²
合計	0.48 m ²
判定	OK

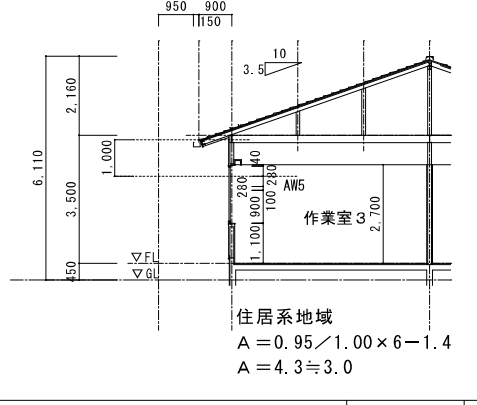
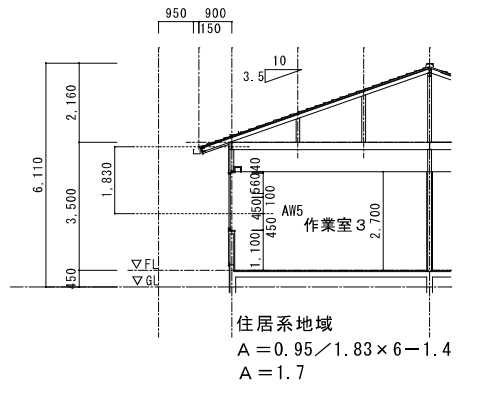
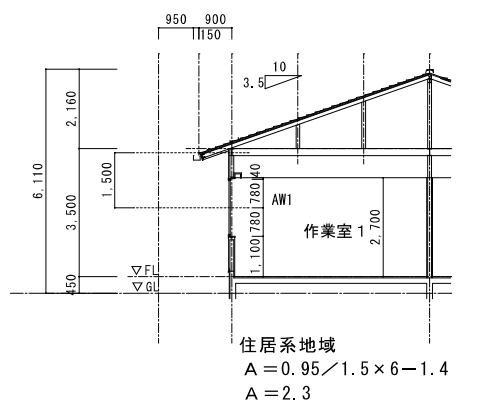
作業室1	
室面積	52.9 m ²
必要採光面積	52.9 × 1/7 = 7.56 m ²
有効採光面積	W × H × 個数 × 採光補正係数 有効開口
窓記号	AW1 1.64 × 1.56 × 3 × 2.3 = 17.65 m ²
合計	17.65 m ²
判定	OK
必要換気面積	52.9 × 1/20 = 2.65 m ²
有効換気面積	W × H × 個数 有効開口
窓記号	AW1 0.76 × 1.56 × 3 = 3.55 m ²
合計	3.55 m ²
判定	OK
必要排煙面積	52.9 × 1/50 = 1.06 m ²
有効排煙面積	W × H × 個数 有効開口
窓記号	AW1 0.76 × 0.66 × 3 = 1.50 m ²
合計	1.50 m ²
判定	OK

作業室2	
室面積	26.11 m ²
必要採光面積	26.11 × 1/7 = 3.73 m ²
有効採光面積	W × H × 個数 × 採光補正係数 有効開口
窓記号	AW1 1.64 × 1.56 × 1 × 2.3 = 5.88 m ²
合計	5.88 m ²
判定	OK
必要換気面積	26.11 × 1/20 = 1.31 m ²
有効換気面積	W × H × 個数 有効開口
窓記号	AW1 0.76 × 1.56 × 1 = 1.18 m ² AW4 0.58 × 1.56 × 1 = 0.90 m ²
合計	2.08 m ²
判定	OK
必要排煙面積	26.11 × 1/50 = 0.52 m ²
有効排煙面積	W × H × 個数 有効開口
窓記号	AW1 0.76 × 0.66 × 1 = 0.50 m ² AW4 0.58 × 0.66 × 1 = 0.38 m ²
合計	0.88 m ²
判定	OK

作業室3	
室面積	26.80 m ²
必要採光面積	26.80 × 1/7 = 3.83 m ²
有効採光面積	W × H × 個数 × 採光補正係数 有効開口
窓記号	AW5 1.64 × 0.90 × 1 × 1.7 = 2.50 m ² AW5 0.70 × 0.50 × 2 × 3.0 = 2.10 m ²
合計	4.60 m ²
判定	OK
必要換気面積	26.80 × 1/20 = 1.34 m ²
有効換気面積	W × H × 個数 有効開口
窓記号	AW5 0.76 × 0.90 × 1 = 0.68 m ² AW5 0.70 × 0.50 × 2 = 0.70 m ²
合計	1.38 m ²
判定	OK
必要排煙面積	26.80 × 1/50 = 0.54 m ²
有効排煙面積	W × H × 個数 有効開口
窓記号	AW5 0.70 × 0.50 × 2 = 0.70 m ²
合計	0.70 m ²
判定	OK

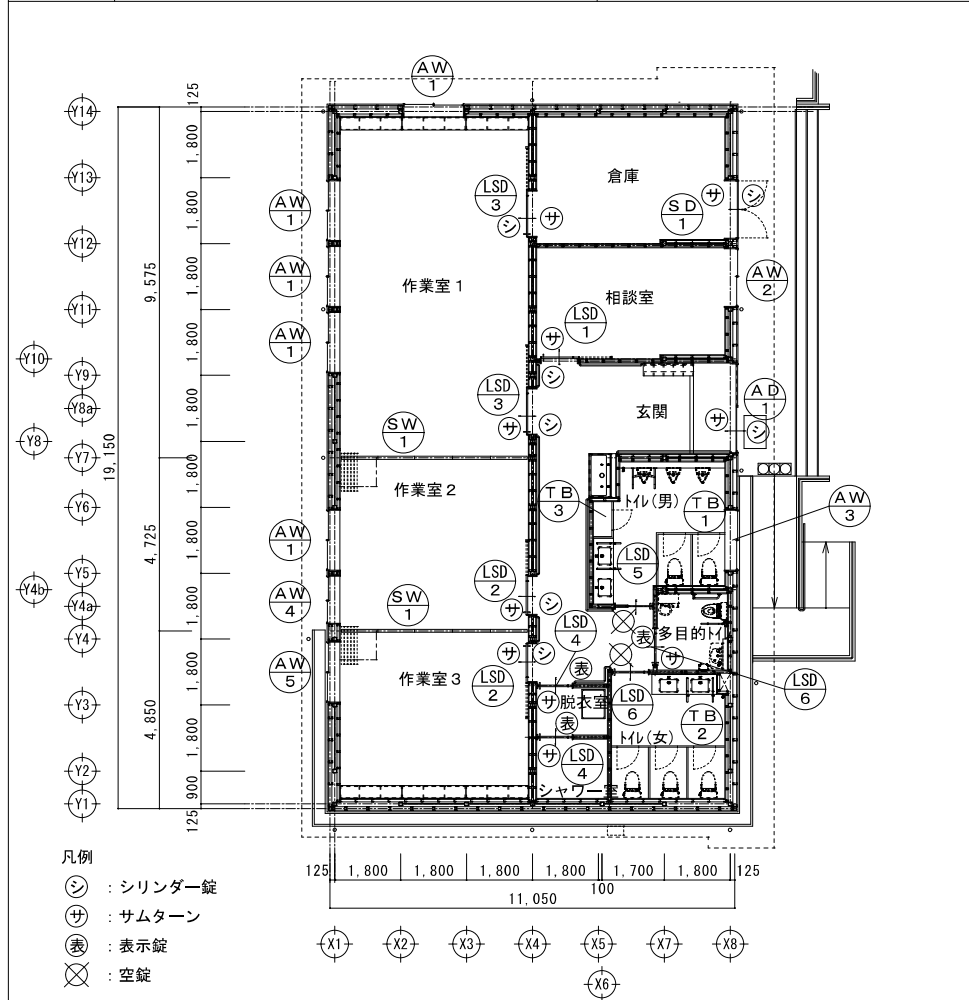
廊下	
室面積	29.05 m ²
必要採光面積	29.05 × 1/7 = 4.15 m ²
有効採光面積	W × H × 個数 × 採光補正係数 有効開口
窓記号	AD1 1.10 × 0.40 × 2 = 0.88 m ²
合計	0.88 m ²
判定	OK
必要換気面積	29.05 × 1/20 = 1.45 m ²
有効換気面積	W × H × 個数 有効開口
窓記号	AD1 1.10 × 0.40 × 2 = 0.88 m ²
合計	0.88 m ²
判定	OK
必要排煙面積	29.05 × 1/50 = 0.58 m ²
有効排煙面積	W × H × 個数 有効開口
窓記号	AD1 1.10 × 0.40 × 2 = 0.88 m ²
合計	0.88 m ²
判定	OK

※トイレ (男・女)、脱衣室は、排煙告示
 (告示第1436号・1項・4号・二・(2))
 室~100m²以下・防煙壁区画)



記号・数量	AD1 × 1	AW1 × 5	AW2 × 1	AW3 × 1	AW4 × 1	AW5 × 1	
形状							
場所	玄関	作業室1・作業室2	相談室	トイレ(男)	作業室2	作業室3	
形式	ハンガー引キ戸 欄間付(半外付・外倒シ)	引違イ窓(半外付)	引違イ窓(半外付)	引違イ窓(半外付)	引違イ窓(半外付)	引違イ窓 欄間付(半外付・外倒シ)	
見込	70	70	70	70	70	70	
材質・仕上	アルミアルマイト カラー	アルミアルマイト カラー	アルミアルマイト カラー	アルミアルマイト カラー	アルミアルマイト カラー	アルミアルマイト カラー	
硝子	透明強化ガラス(7)8、欄間部:透明強化ガラス(7)4	透明強化ガラス(7)5	透明強化ガラス(7)5	透明強化ガラス(7)4	透明強化ガラス(7)5	透明強化ガラス(7)4	
金物	引き棒、7x7x7x4、引戸錠(引戸錠)、内側錠(サッシ錠等)、ハンガー、ワタシキ、レール、網戸、付属金物一式 衝突防止鉄(SUS製、φ30、φ300、両面)、付属金物一式	アルミアングル、皿板、クレセント、網戸、付属金物一式 カーテン・レースカーテン(1.5倍位) W1800×H1850:5箇所	アルミアングル、皿板、クレセント、網戸、付属金物一式 カーテン・レースカーテン(1.5倍位) W1740×H1850:1箇所	アルミアングル、皿板、クレセント、網戸、付属金物一式	アルミアングル、皿板、クレセント、網戸、付属金物一式	アルミアングル、皿板、クレセント、網戸、付属金物一式 カーテン・レースカーテン(1.5倍位) W1450×H1850:1箇所	アルミアングル、皿板、クレセント、網戸、付属金物一式 カーテン・レースカーテン(1.5倍位) W1800×H1850:1箇所

記号・数量	SD1 × 1	SW1 × 2	LSD1 × 1	LSD2 × 2	LSD3 × 2	LSD4 × 2	
形状							
場所	倉庫	作業室1~3	相談室	作業室2・3	作業室1	脱衣室・シャワー室	
形式	両開キ戸 欄間付	スライディングウォール(遮音仕様)	軽量スチール引戸(面付)	軽量スチール引戸(面付)	軽量スチール引戸(面付)	軽量スチール引戸(壁内隠蔽式)	
見込	扉厚:40	81	枠:250、扉:40	枠:250、扉:40	枠:250、扉:40	枠:145、扉:40	
材質・仕上	スチールSOP	化粧鋼板(7)0.8 焼付塗装 下張り:石膏ボード(7)12.5 グラス充填	スチール焼付塗装(指定色)	スチール焼付塗装(指定色)	スチール焼付塗装(指定色)	スチール焼付塗装(指定色)	
硝子	型板強化ガラス(7)4	-	型板強化ガラス(7)4	型板強化ガラス(7)4	型板強化ガラス(7)4	型板強化ガラス(7)4	
金物	戸当り、レバーハンドル、ステンレス番指、丁番、D.C.、付属金物一式 シリンドー錠、フランス落シ、三方枠、無目	ハンガーレール、ランナー、上下・サイドシール、表面操作口(サイド圧着・上下圧着)、サイドフレーム、フラットレバーハンドル、戸当たりゴム、付属金物一式	引手、引戸錠(内部・サムターン付)、ドアハンガー(自閉装置) 三方枠、ガラリ(開口率:0.4)、ステンレス番指、指はさみ防止機能付、付属金物一式	引手、引戸錠(内部・サムターン付)、ドアハンガー(自閉装置) 三方枠、ガラリ(開口率:0.4)、ステンレス番指、指はさみ防止機能付、付属金物一式	引手、引戸錠(内部・サムターン付)、ドアハンガー(自閉装置) 三方枠、ガラリ(開口率:0.4)、ステンレス番指、指はさみ防止機能付、付属金物一式	引手、引戸錠(内部・サムターン付)、ドアハンガー(自閉装置) 三方枠、ガラリ(開口率:0.4)、ステンレス番指、指はさみ防止機能付、付属金物一式	引手、引戸錠(内部・サムターン付・外側表示錠)、ドアハンガー(自閉装置) 三方枠、ガラリ(開口率:0.4)、ステンレス番指、指はさみ防止機能付、付属金物一式



記号・数量	LSD5 × 1	LSD6 × 2	TB1 × 1
形状			
場所	トイレ(男)	トイレ(女)、多目的トイレ	トイレ(男)
形式	軽量スチール引戸(二重引き・壁内隠蔽式)	軽量スチール引戸(壁内隠蔽式)	トイレブース
見込	枠:145、扉1枚目:32、扉2枚目:62	枠:145、扉:40	40
材質・仕上	スチール焼付塗装(指定色)	スチール焼付塗装(指定色)	メラミン樹脂一体成型パーティクルボード
硝子	型板強化ガラス(7)4	型板強化ガラス(7)4	-
金物	引手、空錠、ドアハンガー(自閉装置) 三方枠、ガラリ(開口率:0.4)、ステンレス番指、指はさみ防止機能付、付属金物一式	引手、ドアハンガー(自閉装置)、引戸錠(多目的H/L:内部大型サムターン付・外側表示錠、H/L(女):空錠) 三方枠、ガラリ(開口率:0.4)、ステンレス番指、指はさみ防止機能付、付属金物一式	クラビティヒンジ、戸当り帽子掛け、表示錠、丁番、レール、SUS脚金物、非常時開放装置(外開き)付、ドアロックR417、手すり下地補強、付属金物一式

記号・数量	TB2 × 1	TB3 × 1
形状		
場所	トイレ(女)	トイレ(男)
形式	トイレブース	トイレブース
見込	40	40
材質・仕上	メラミン樹脂一体成型パーティクルボード	メラミン樹脂一体成型パーティクルボード
硝子	-	-
金物	クラビティヒンジ、戸当り帽子掛け、表示錠、丁番、レール、SUS脚金物、非常時開放装置(外開き)付、ドアロックR417、手すり下地補強、付属金物一式	クラビティヒンジ、空錠、丁番、レール、SUS脚金物、ドアロックR417、付属金物一式

木製家具標準仕様 『特記無き場合は下記の仕様とする』		可動棚板 詳細図	本体、棚板 木口仕上 詳細図
地球環境問題（リサイクル、温暖化等）に配慮し、かつ室内におけるホルムアルデヒドの空気濃度を下げる事に主眼を置き、各種有機溶剤や可塑剤等の有害物質についてもその残留、放散を極力抑制する為に以下の仕様とする。		<p>※W600以上の棚板は強度を考慮し、パーティクルボードの使用は不可とする。 また、フラッシュ芯材にもパーティクルボードの使用は不可とする。</p>	
樹脂コート化粧パーティクルボード	ホルムアルデヒド放散量「0.04mg/l」以下とする。 マテリアルリサイクル可能品（メラミン樹脂含浸の低圧メラミン等は使用不可） 「JIS A 5908」適合品の国内生産品とする。 表面材：単色は防汚機能を有するメラミンコート、木目柄は天然木の質感を持つ高意匠ウレタンコート		
樹脂コート化粧MDF	JIS-F☆☆☆☆適合品 「JIS A 5905」適合品の国内生産品とする。 表面材：単色は防汚機能を有するメラミンコート、木目柄は天然木の質感を持つ高意匠ウレタンコート		
ポリエステル化粧合板	JAS-F☆☆☆☆適合品		
各種合板	JAS-F☆☆☆☆適合品		
接着剤	厚生労働省のVOC指定13物質を含んでいないものを使用する。 F☆☆☆☆適合品		
本体	主材：樹脂コート化粧パーティクルボード t20 背板、地板取外し部：樹脂コート化粧MDF t4mm		
木口	本体見掛り：非塩ビ化粧樹脂シート t1.0貼 本体見隠れ：非塩ビ化粧樹脂シート t0.45貼		
天板	高圧メラミン化粧板貼 ポストフォーム加工 ※ポストフォーム天板に使用するメラミンの厚さはt0.8以上とする。		
開戸（板戸）	樹脂コート化粧パーティクルボード t20、木口：非塩ビ化粧樹脂シート t0.45貼 ワンタッチ脱着式スライド丁番（キャッチ機能付） 105° 開き		
木製引違戸（板戸）	樹脂コート化粧パーティクルボード t20、木口：非塩ビ化粧樹脂シート t0.45貼 樹脂製戸車（立付け調整可能）、PP樹脂製空気孔付舟底引手、硬質樹脂製敷居・鴨居		
可動式棚板	樹脂コート化粧MDFフラッシュ 棚板底面にずれ止めのダボジャクリを施すこと。 ※W600以上の棚板は強度を考慮し、パーティクルボードの使用は不可とする。 また、フラッシュ芯材にもパーティクルボードの使用は不可とする。 棚受けダボ：φ9mmネジ込式（W1/4） アルミ製ニッケルメッキ P=60mm 3段		
台輪	ポリエステル化粧合板貼 下地：ランバーコア合板 t15（四方組） ※家具側板を床に接地させる前巾木のみは不可とする。		
ステンレス天板	SUS304 t1.0 表面仕上：#400 低温アルゴン溶接加工品 下地：合板 t9mm		
ステンレスシンク	SUS304 t1.0 表面仕上：#400 低温アルゴン溶接加工品 ※板厚が薄くなるため、プレス加工品は使用不可とする。		
排水トラップ	M-14AP：樹脂製 トラップ接続径：40A ※給排水管やそれらの接続、及び接続に関わる穴あけ等の二次加工は設備工事とする。		
共通	※「日本家具保証協会」認定企業の生産製品、及び監理製品とする。 ※施工承認時に製作家具のカタログを提出し、監理者へ商品説明をおこなうこと。 ※製作家具本体は国内生産品とする。		

F-1	新館1階 玄関 下足入れ	1ヶ所																												
		<table border="1"> <tr> <td>品名</td> <td>下足入れ</td> <td>品番</td> <td>GSS-01.A.S.ZZ（参考）</td> </tr> <tr> <td colspan="4">仕 様</td> </tr> <tr> <td>天 板</td> <td>メラミン化粧板貼</td> <td>木口</td> <td>ABSエッジt2.0mm</td> </tr> <tr> <td>本体主材</td> <td>樹脂コート化粧パーティクルボード</td> <td>木口</td> <td>樹脂シート t1.0mm貼</td> </tr> <tr> <td>中 棚</td> <td>樹脂コート化粧パーティクルボード</td> <td>木口</td> <td>シート貼</td> </tr> <tr> <td>台 輪</td> <td>ポリ合板貼</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>ネームプレート（25人分）</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	品名	下足入れ	品番	GSS-01.A.S.ZZ（参考）	仕 様				天 板	メラミン化粧板貼	木口	ABSエッジt2.0mm	本体主材	樹脂コート化粧パーティクルボード	木口	樹脂シート t1.0mm貼	中 棚	樹脂コート化粧パーティクルボード	木口	シート貼	台 輪	ポリ合板貼			その他	ネームプレート（25人分）		
品名	下足入れ	品番	GSS-01.A.S.ZZ（参考）																											
仕 様																														
天 板	メラミン化粧板貼	木口	ABSエッジt2.0mm																											
本体主材	樹脂コート化粧パーティクルボード	木口	樹脂シート t1.0mm貼																											
中 棚	樹脂コート化粧パーティクルボード	木口	シート貼																											
台 輪	ポリ合板貼																													
その他	ネームプレート（25人分）																													

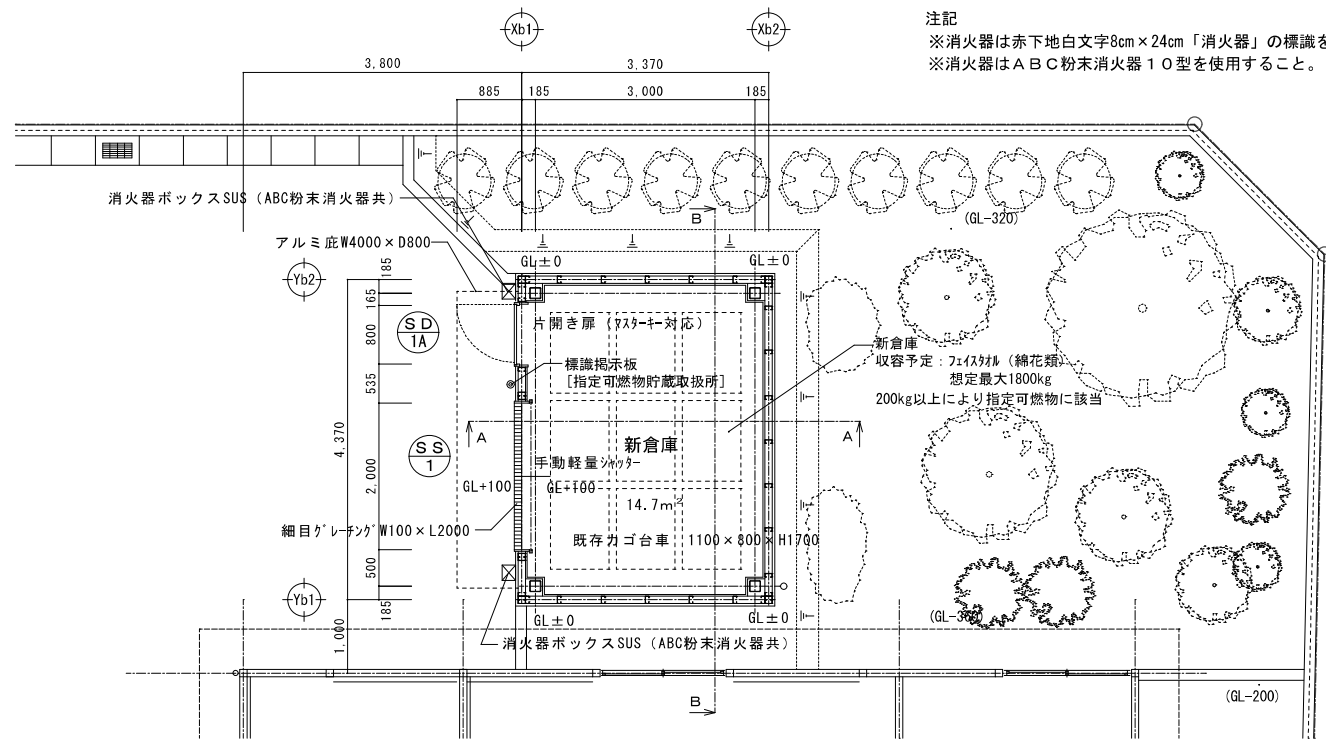
F-2	新館1階 廊下 流し台	1ヶ所																																				
		<table border="1"> <tr> <td>品名</td> <td>流し台</td> <td>品番</td> <td>CRN-R1.B.ZZ（参考）</td> </tr> <tr> <td colspan="4">仕 様</td> </tr> <tr> <td>天 板</td> <td>ステンレス SUS304 t1.0mm (R付)</td> <td>表面仕上</td> <td>#400</td> </tr> <tr> <td>シンク</td> <td>ステンレス SUS304 t1.0mm</td> <td>表面仕上</td> <td>#400</td> </tr> <tr> <td>本体主材</td> <td>樹脂コート化粧パーティクルボード</td> <td>木口</td> <td>樹脂シート t1.0mm貼</td> </tr> <tr> <td>引違戸</td> <td>樹脂コート化粧パーティクルボード</td> <td>木口</td> <td>シート貼</td> </tr> <tr> <td>エプロン</td> <td>メラミン化粧板貼 (フラッシュ)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>背 板</td> <td>樹脂コート化粧MDF貼</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>台 輪</td> <td>ポリ合板貼</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	品名	流し台	品番	CRN-R1.B.ZZ（参考）	仕 様				天 板	ステンレス SUS304 t1.0mm (R付)	表面仕上	#400	シンク	ステンレス SUS304 t1.0mm	表面仕上	#400	本体主材	樹脂コート化粧パーティクルボード	木口	樹脂シート t1.0mm貼	引違戸	樹脂コート化粧パーティクルボード	木口	シート貼	エプロン	メラミン化粧板貼 (フラッシュ)			背 板	樹脂コート化粧MDF貼			台 輪	ポリ合板貼		
品名	流し台	品番	CRN-R1.B.ZZ（参考）																																			
仕 様																																						
天 板	ステンレス SUS304 t1.0mm (R付)	表面仕上	#400																																			
シンク	ステンレス SUS304 t1.0mm	表面仕上	#400																																			
本体主材	樹脂コート化粧パーティクルボード	木口	樹脂シート t1.0mm貼																																			
引違戸	樹脂コート化粧パーティクルボード	木口	シート貼																																			
エプロン	メラミン化粧板貼 (フラッシュ)																																					
背 板	樹脂コート化粧MDF貼																																					
台 輪	ポリ合板貼																																					

F-3	新館1階 トイレ (男、女) 洗面カウンター	2ヶ所															
		<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>品名</th> <td>洗面カウンター</td> </tr> <tr> <th>仕様</th> <td></td> </tr> <tr> <th>天板</th> <td>シンク一体型人工大理石 t10mm(ホワイト)</td> </tr> <tr> <th>本体主材</th> <td>樹脂コート化粧パーティクルボード 木口:樹脂シートt1.0mm貼</td> </tr> <tr> <th>背板</th> <td>樹脂コート化粧MDF貼</td> </tr> <tr> <th>開戸</th> <td>メラミン化粧板貼 木口:シート貼 スライド丁番(キャッチ付)、シリンダー錠、丸落し</td> </tr> <tr> <th>台輪</th> <td>ケイ酸カルシウム板 t8.0下地 ステンレス板 t0.8貼 周囲シリコン系シーリング (建築工事)</td> </tr> </table>		品名	洗面カウンター	仕様		天板	シンク一体型人工大理石 t10mm(ホワイト)	本体主材	樹脂コート化粧パーティクルボード 木口:樹脂シートt1.0mm貼	背板	樹脂コート化粧MDF貼	開戸	メラミン化粧板貼 木口:シート貼 スライド丁番(キャッチ付)、シリンダー錠、丸落し	台輪	ケイ酸カルシウム板 t8.0下地 ステンレス板 t0.8貼 周囲シリコン系シーリング (建築工事)
品名	洗面カウンター																
仕様																	
天板	シンク一体型人工大理石 t10mm(ホワイト)																
本体主材	樹脂コート化粧パーティクルボード 木口:樹脂シートt1.0mm貼																
背板	樹脂コート化粧MDF貼																
開戸	メラミン化粧板貼 木口:シート貼 スライド丁番(キャッチ付)、シリンダー錠、丸落し																
台輪	ケイ酸カルシウム板 t8.0下地 ステンレス板 t0.8貼 周囲シリコン系シーリング (建築工事)																
		<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>階</th> <th>室名</th> <th>数</th> </tr> <tr> <td>1階</td> <td>トイレ (男)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>1階</td> <td>トイレ (女)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">合計</td> <td>2ヶ所</td> </tr> </table>		階	室名	数	1階	トイレ (男)	1	1階	トイレ (女)	1	合計		2ヶ所		
階	室名	数															
1階	トイレ (男)	1															
1階	トイレ (女)	1															
合計		2ヶ所															

F-4	新館1階 作業室1、3 収納棚	2ヶ所																	
		<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>品名</th> <td>収納棚</td> </tr> <tr> <th>仕様</th> <td></td> </tr> <tr> <th>天板</th> <td>メラミン化粧板貼 木口:ABSエッジt2.0mm</td> </tr> <tr> <th>本体主材</th> <td>樹脂コート化粧パーティクルボード 木口:樹脂シートt1.0mm貼</td> </tr> <tr> <th>背板</th> <td>樹脂コート化粧MDF貼</td> </tr> <tr> <th>棚板</th> <td>樹脂コート化粧MDFフラッシュ 木口:樹脂シートt1.0mm貼 棚ダボφ9 (3段)</td> </tr> <tr> <th>台輪</th> <td>ポリ合板貼</td> </tr> <tr> <th>その他</th> <td>ネームプレート (27人分) ×2ヶ所</td> </tr> </table>		品名	収納棚	仕様		天板	メラミン化粧板貼 木口:ABSエッジt2.0mm	本体主材	樹脂コート化粧パーティクルボード 木口:樹脂シートt1.0mm貼	背板	樹脂コート化粧MDF貼	棚板	樹脂コート化粧MDFフラッシュ 木口:樹脂シートt1.0mm貼 棚ダボφ9 (3段)	台輪	ポリ合板貼	その他	ネームプレート (27人分) ×2ヶ所
品名	収納棚																		
仕様																			
天板	メラミン化粧板貼 木口:ABSエッジt2.0mm																		
本体主材	樹脂コート化粧パーティクルボード 木口:樹脂シートt1.0mm貼																		
背板	樹脂コート化粧MDF貼																		
棚板	樹脂コート化粧MDFフラッシュ 木口:樹脂シートt1.0mm貼 棚ダボφ9 (3段)																		
台輪	ポリ合板貼																		
その他	ネームプレート (27人分) ×2ヶ所																		
		<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>階</th> <th>室名</th> <th>数</th> </tr> <tr> <td>1階</td> <td>作業室1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>1階</td> <td>作業室3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">合計</td> <td>2ヶ所</td> </tr> </table>		階	室名	数	1階	作業室1	1	1階	作業室3	1	合計		2ヶ所				
階	室名	数																	
1階	作業室1	1																	
1階	作業室3	1																	
合計		2ヶ所																	

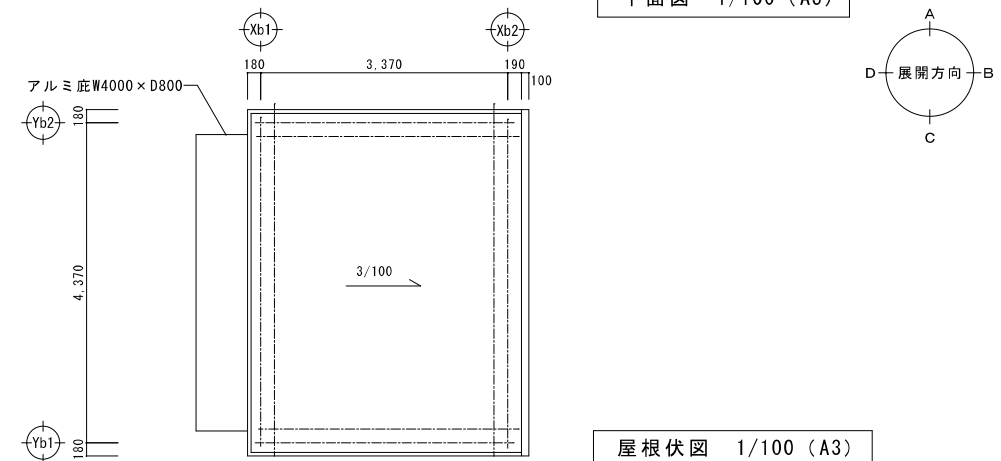
F-5	新館1階 作業室1、2、3 工作台	8台																
		<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>品名</th> <td>工作台</td> </tr> <tr> <th>仕様</th> <td></td> </tr> <tr> <th>天板</th> <td>検間伏台形集成材(国内産材) 硬質UV塗装</td> </tr> <tr> <th>本体主材</th> <td>検間伏台形集成材(国内産材) 自然系塗料仕上げ</td> </tr> <tr> <th>棚板</th> <td>検間伏台形集成材(国内産材) 自然系塗料仕上げ</td> </tr> <tr> <th>脚端</th> <td>アジャスター付 (MN型 φ50)</td> </tr> </table>		品名	工作台	仕様		天板	検間伏台形集成材(国内産材) 硬質UV塗装	本体主材	検間伏台形集成材(国内産材) 自然系塗料仕上げ	棚板	検間伏台形集成材(国内産材) 自然系塗料仕上げ	脚端	アジャスター付 (MN型 φ50)			
品名	工作台																	
仕様																		
天板	検間伏台形集成材(国内産材) 硬質UV塗装																	
本体主材	検間伏台形集成材(国内産材) 自然系塗料仕上げ																	
棚板	検間伏台形集成材(国内産材) 自然系塗料仕上げ																	
脚端	アジャスター付 (MN型 φ50)																	
		<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>階</th> <th>室名</th> <th>数</th> </tr> <tr> <td>1階</td> <td>作業室1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>1階</td> <td>作業室2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>1階</td> <td>作業室3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">合計</td> <td>8台</td> </tr> </table>		階	室名	数	1階	作業室1	4	1階	作業室2	2	1階	作業室3	2	合計		8台
階	室名	数																
1階	作業室1	4																
1階	作業室2	2																
1階	作業室3	2																
合計		8台																

			<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>品名</th> <td>WSM-2H1.A (参考)</td> </tr> <tr> <th>仕様</th> <td></td> </tr> </table>	品名	WSM-2H1.A (参考)	仕様												
品名	WSM-2H1.A (参考)																	
仕様																		
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>階</th> <th>室名</th> <th>数</th> </tr> <tr> <td>1階</td> <td>作業室1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>1階</td> <td>作業室2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>1階</td> <td>作業室3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">合計</td> <td>8台</td> </tr> </table>				階	室名	数	1階	作業室1	4	1階	作業室2	2	1階	作業室3	2	合計		8台
階	室名	数																
1階	作業室1	4																
1階	作業室2	2																
1階	作業室3	2																
合計		8台																



注記
 ※消火器は赤下地白文字8cm×24cm「消火器」の標識を設置すること。
 ※消火器はABC粉末消火器10型を使用すること。

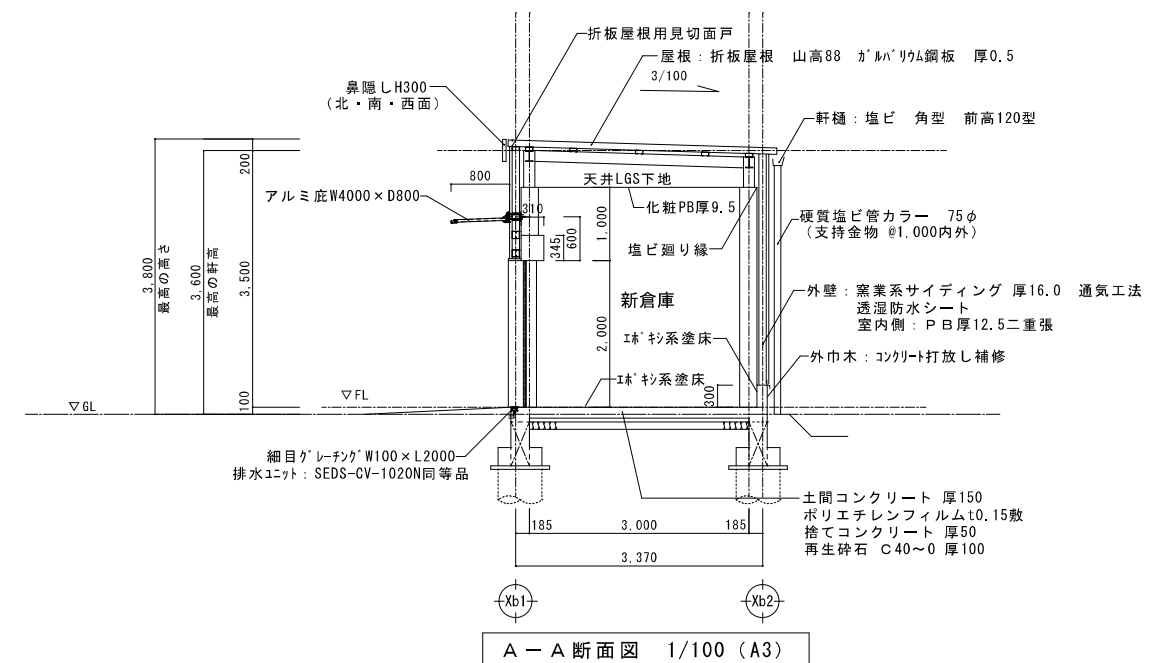
平面図 1/100 (A3)



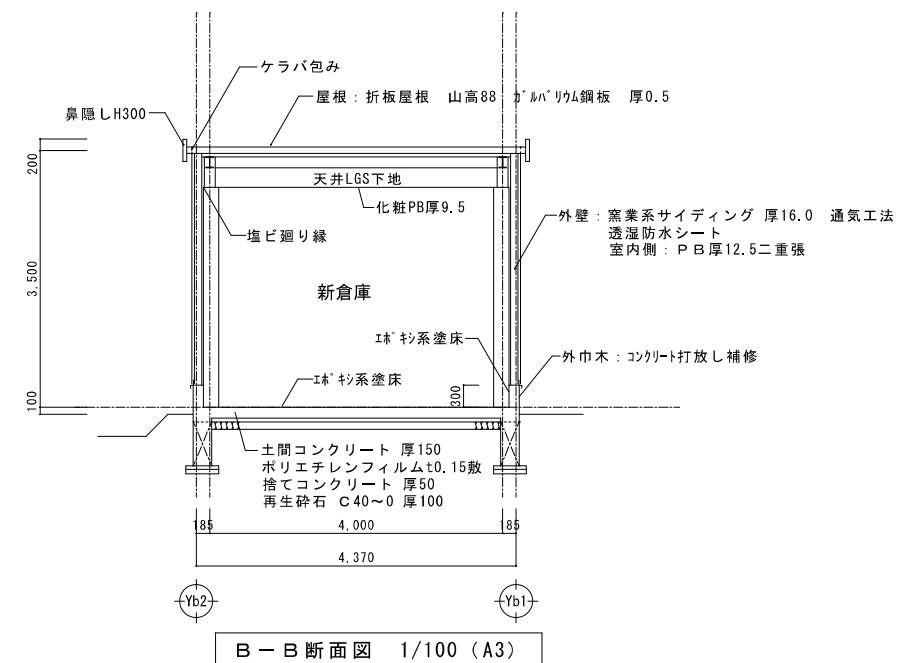
屋根伏図 1/100 (A3)

建具表

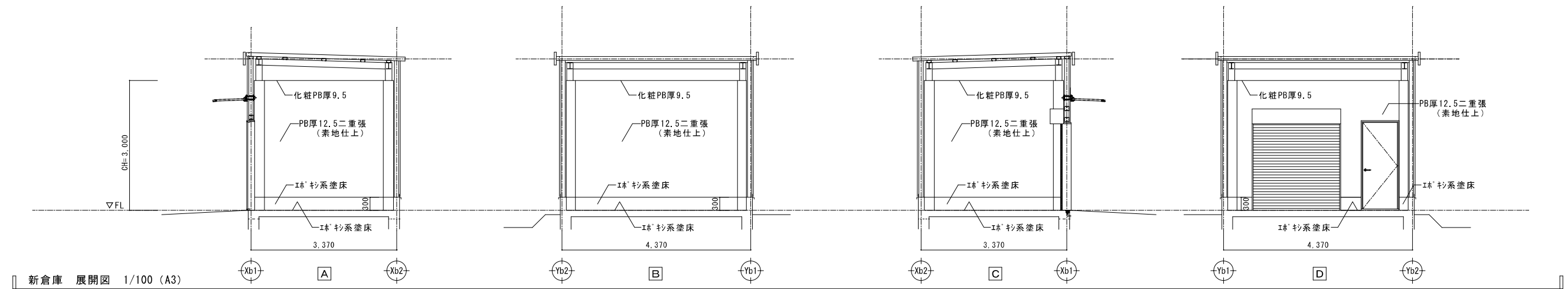
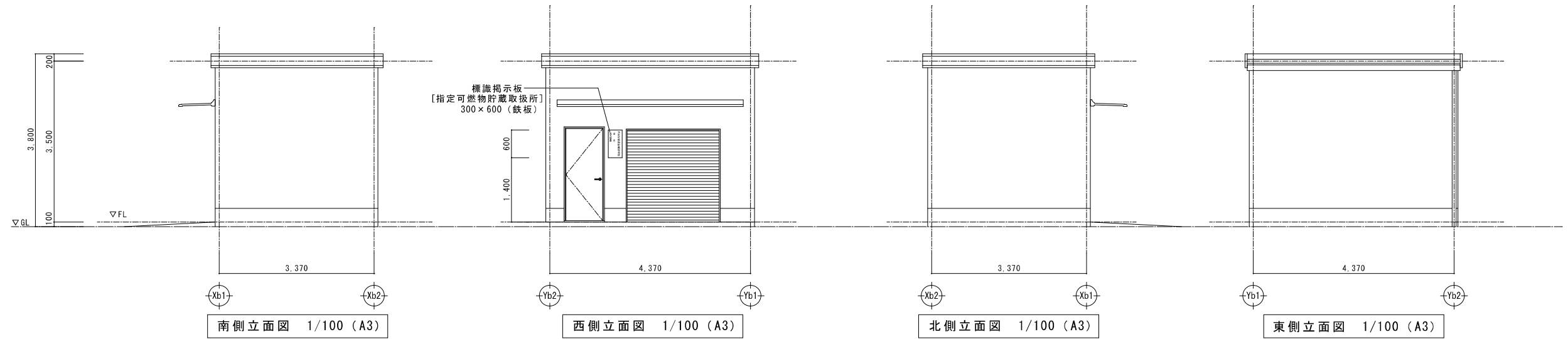
記号・数量	(SD 1A) × 1	(SS 1) × 1
形状		
場所	新倉庫	新倉庫
形式	片開き戸	軽量シャッター (手動)
見込	扉厚: 40	-
材質・仕上	スチールSOP	カラー鋼板
積子	-	-
金物	レバーハンドル、ステンレス番指、丁番、ドアロギ- (90°制限付)、シリンドラ錠、三方枠、附属金物一式	シャッターレール、シャッターボックス、三方枠、鍵付き、附属金物一式



A-A断面図 1/100 (A3)



B-B断面図 1/100 (A3)



記	
率	

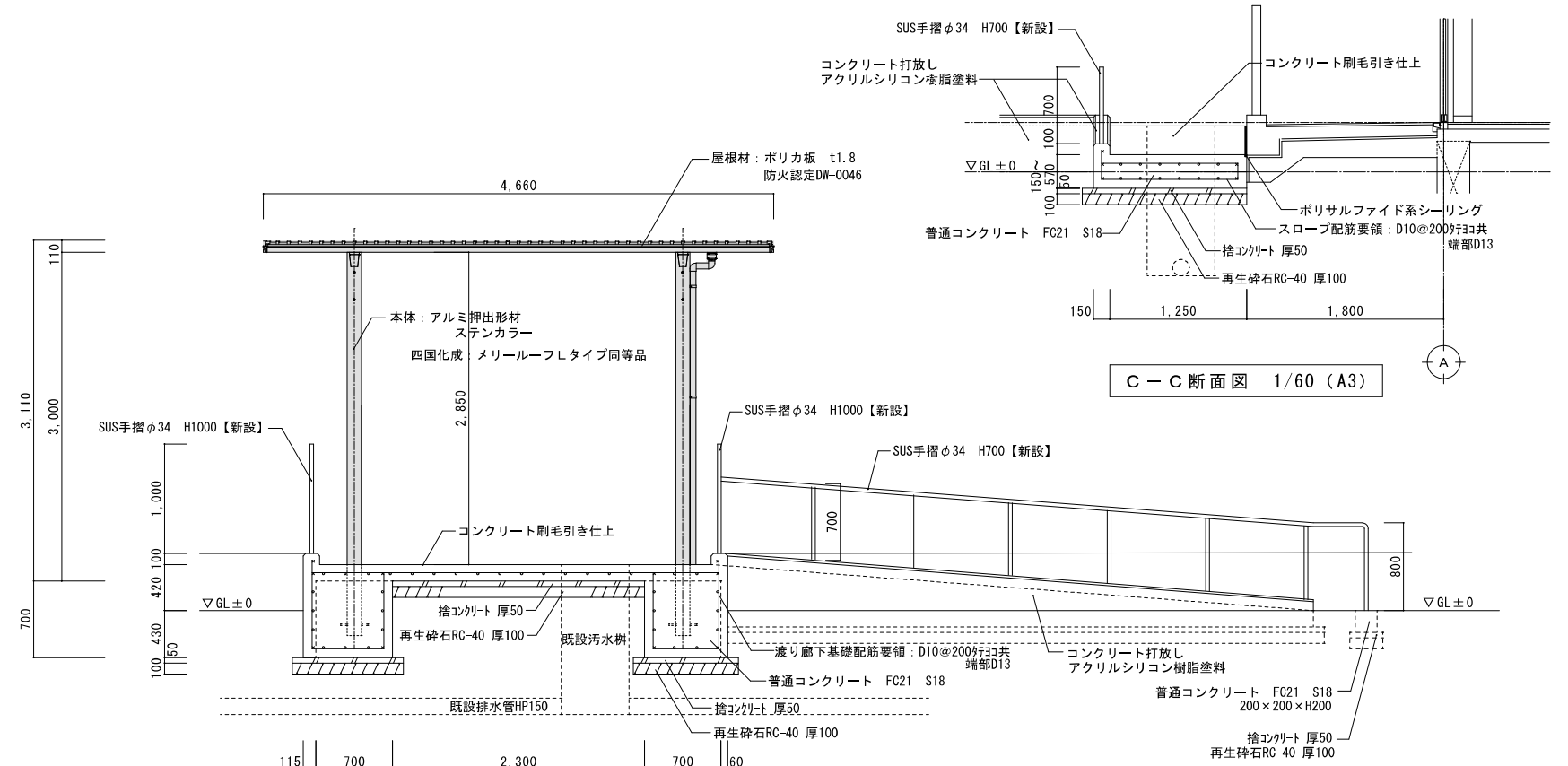
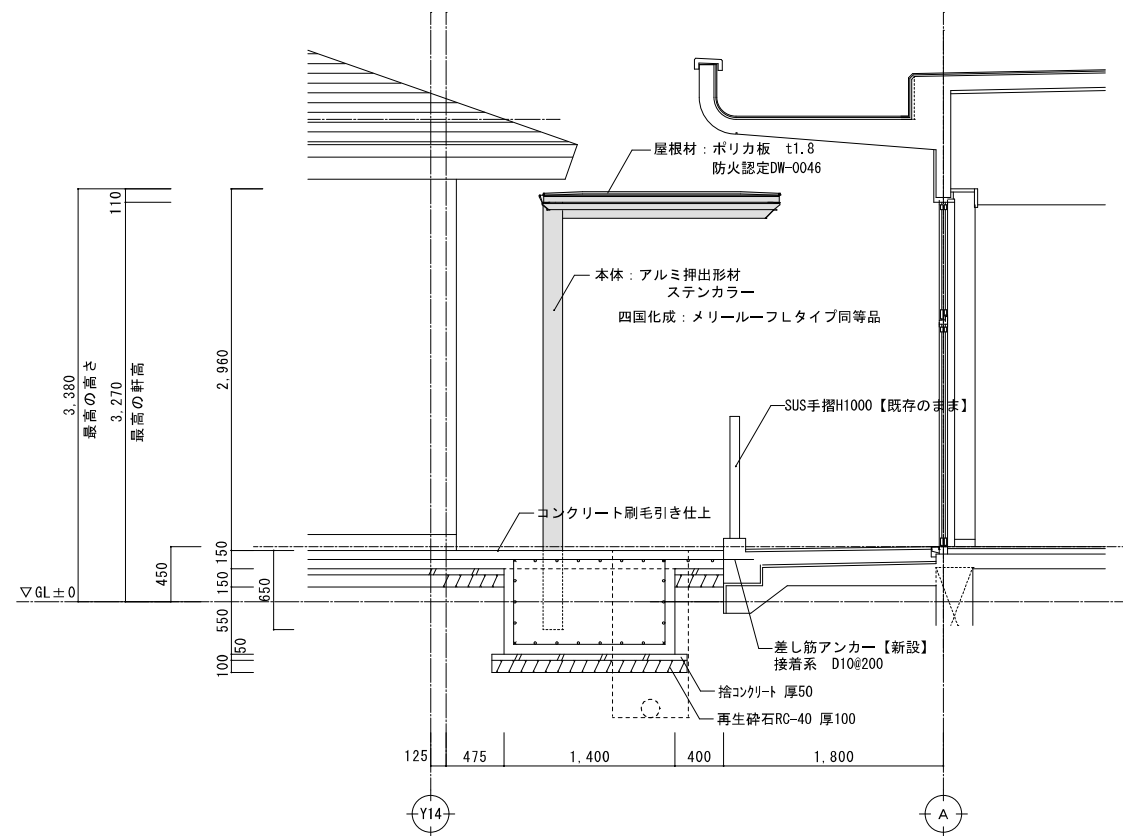
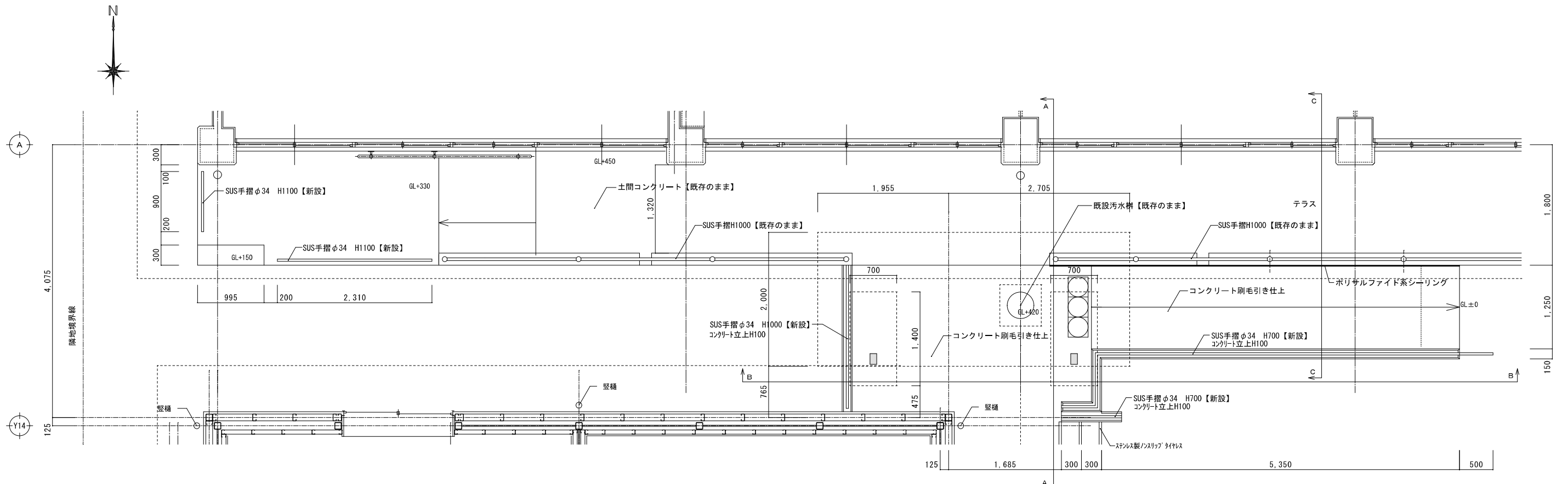
--	--

Architects P12	Atelier YOU	一級建築士事務所 埼玉県知事登録(1)第12121号
		一級建築士 第342763号 藤山智昭

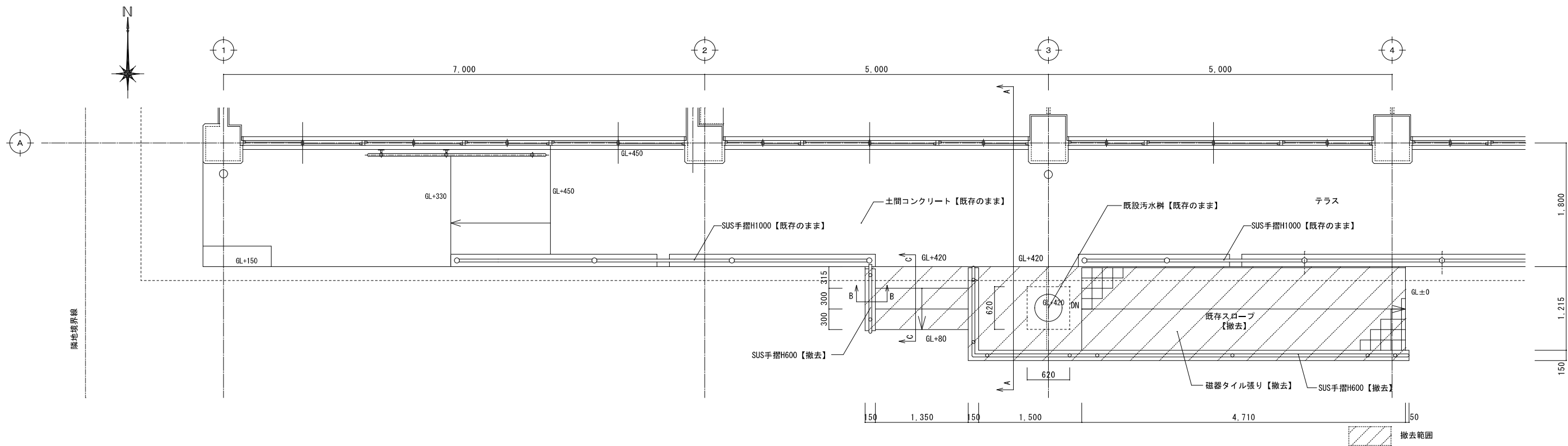
工事名称	川越市みよしの支援センター改築等工事
図面名称	新倉庫棟 立面図・展開図

作成年月日	
縮尺	縮尺 1/30(A1) 1/100(A3)

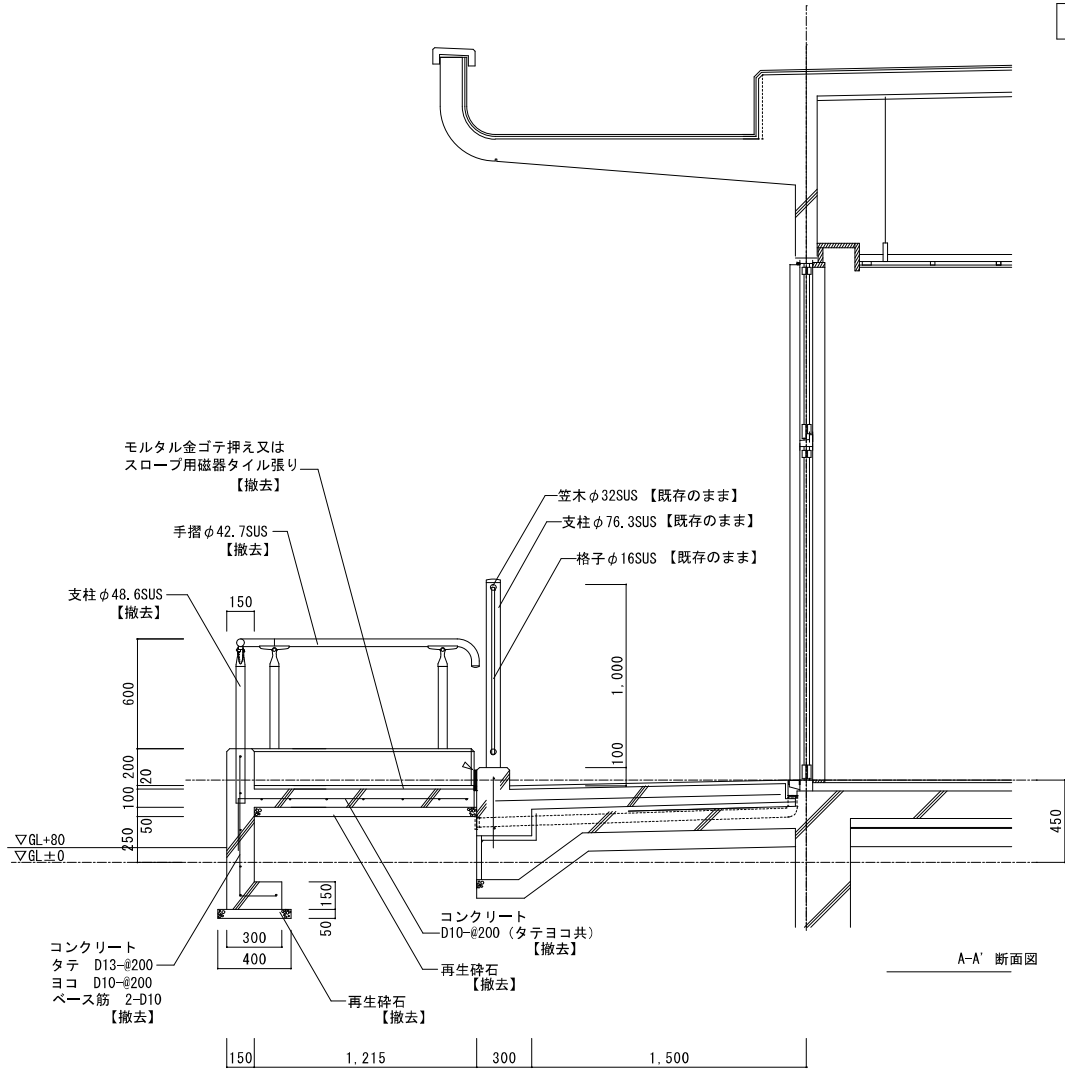
図面番号	A1-20
------	-------



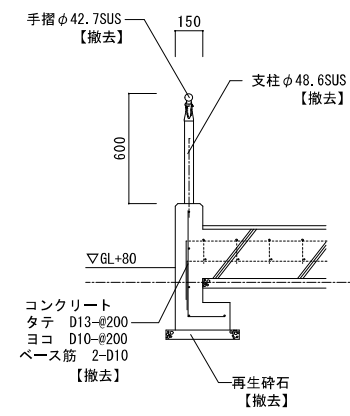
記 率	縮尺	1/20 (A1) 1/60 (A3)	Architects Firm Atelier YOU 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (1) 第12121号 一級建築士 第342763号 藤山智昭	工事名称 川越市みよしの支援センター改築等工事	図面名称 渡り廊下詳細図	作成年月日	図面番号 A1-21
	縮尺	1/20 (A1) 1/60 (A3)					



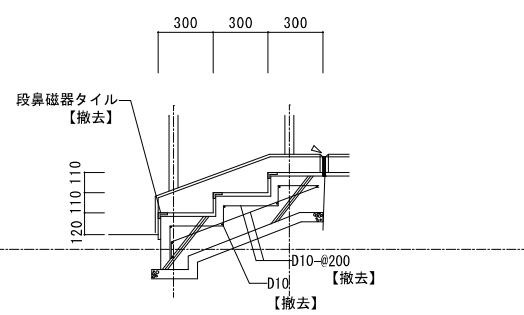
改修前 テラス平面図 1/60 (A3)



改修前 A-A 断面図 1/40 (A3)

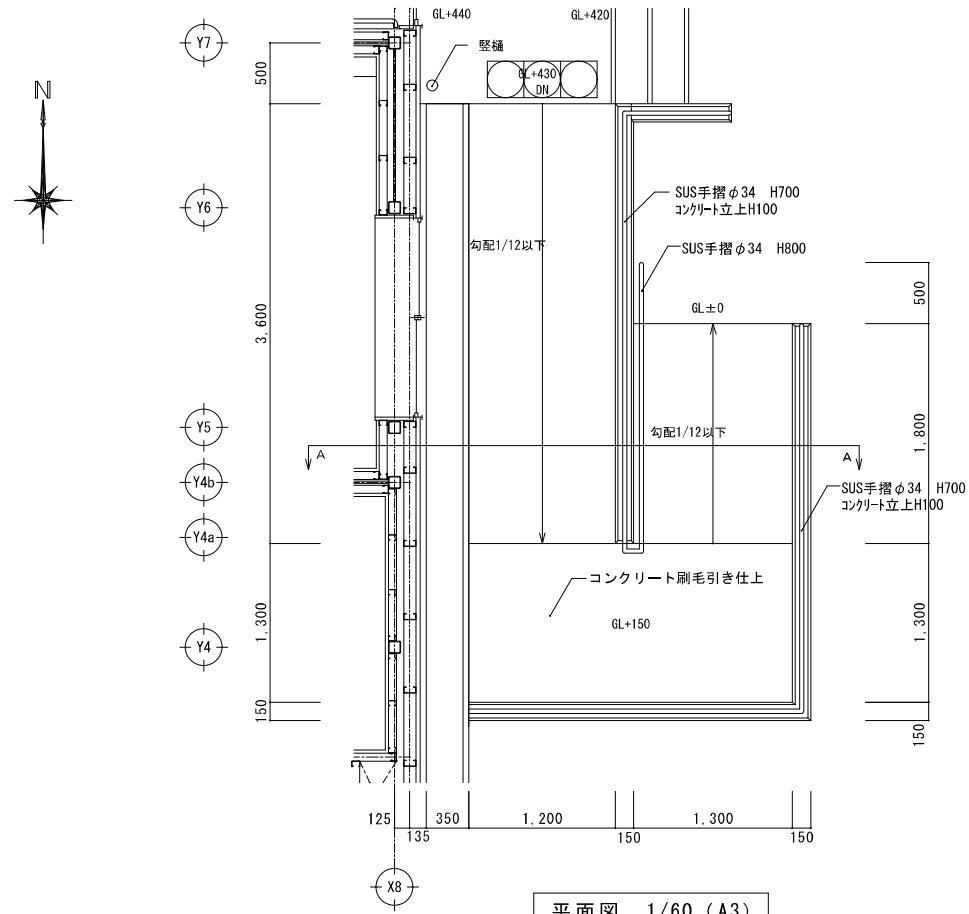


改修前 B-B 断面図 1/40 (A3)

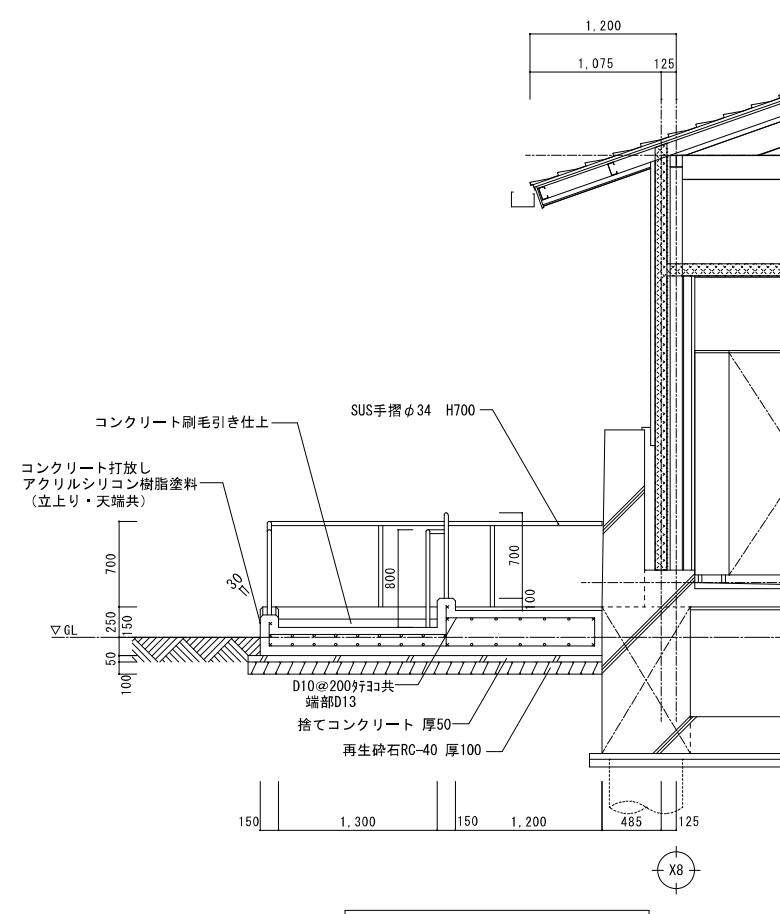


改修前 C-C 断面図 1/40 (A3)

スロープ詳細図 1/60 (A3)

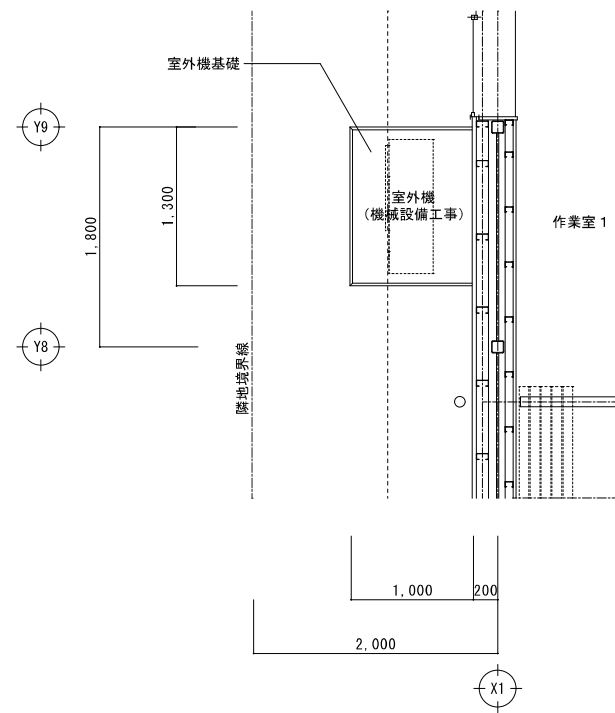


平面図 1/60 (A3)

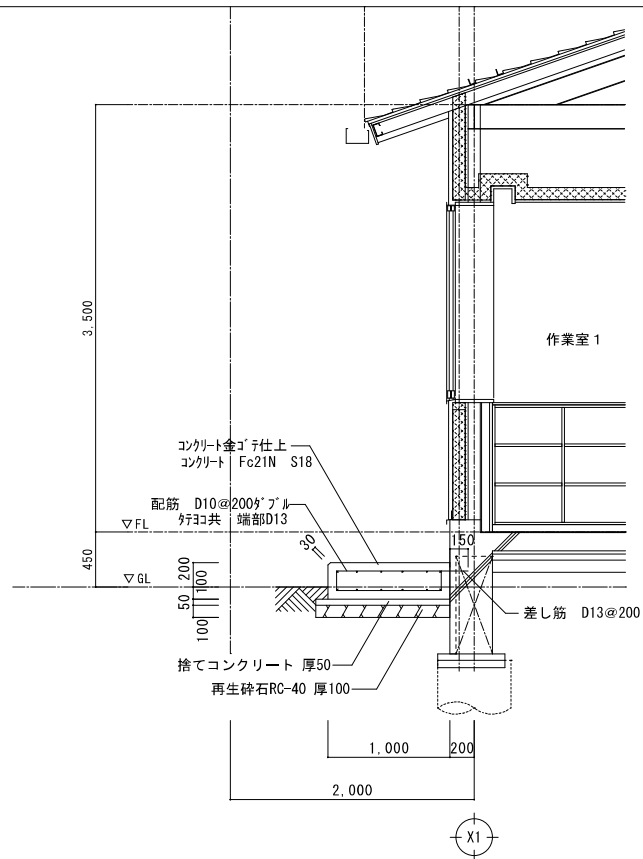


A-A断面図 1/60 (A3)

室外機基礎詳細図 1/60 (A3)

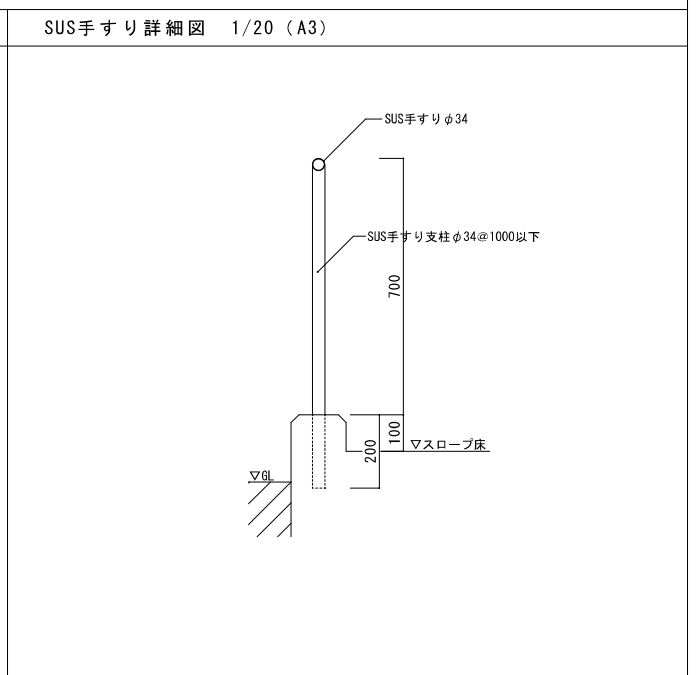
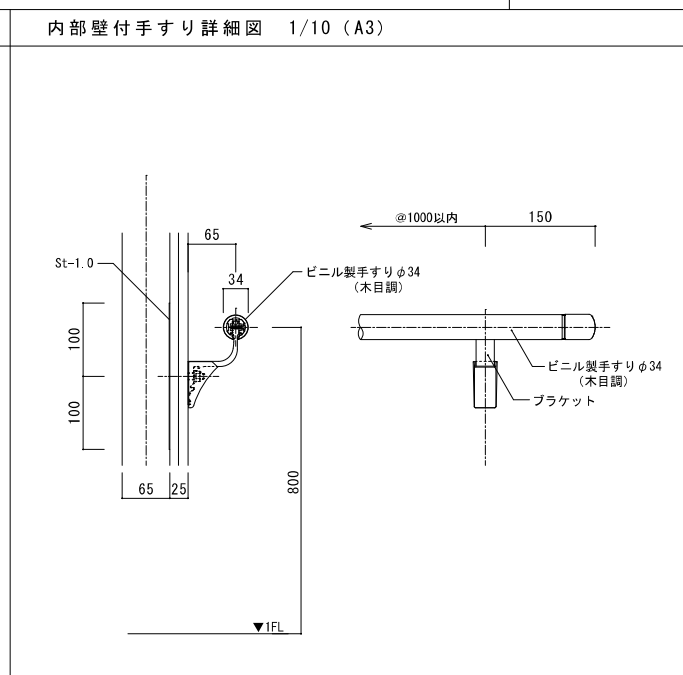
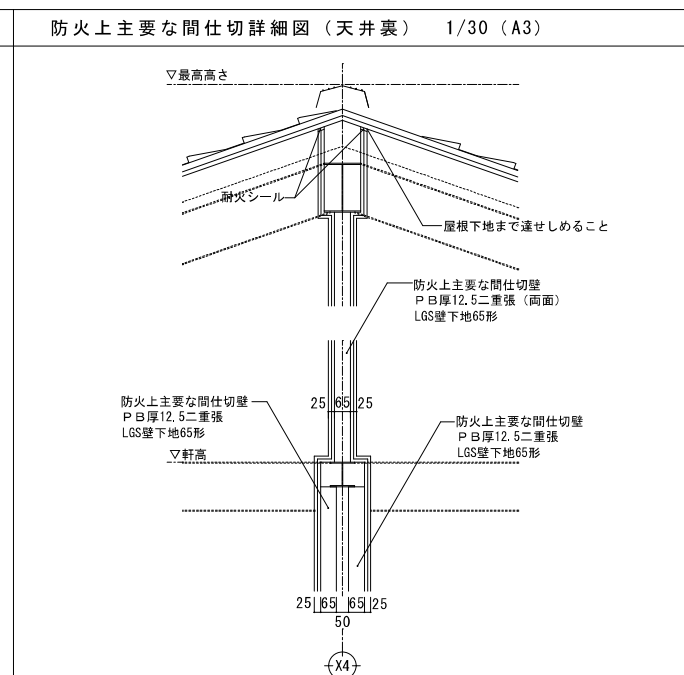
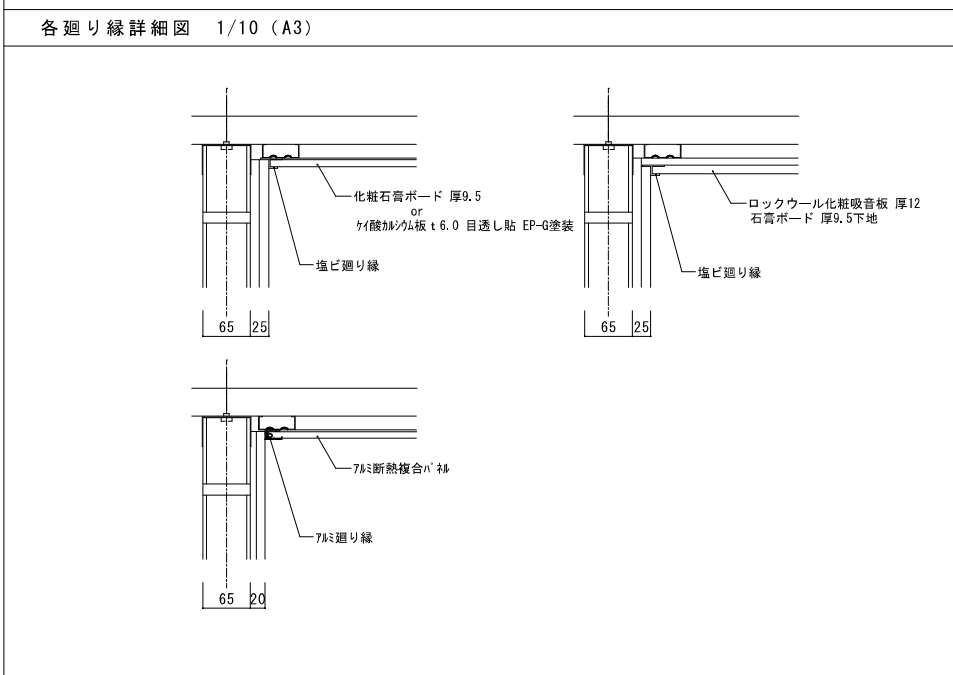
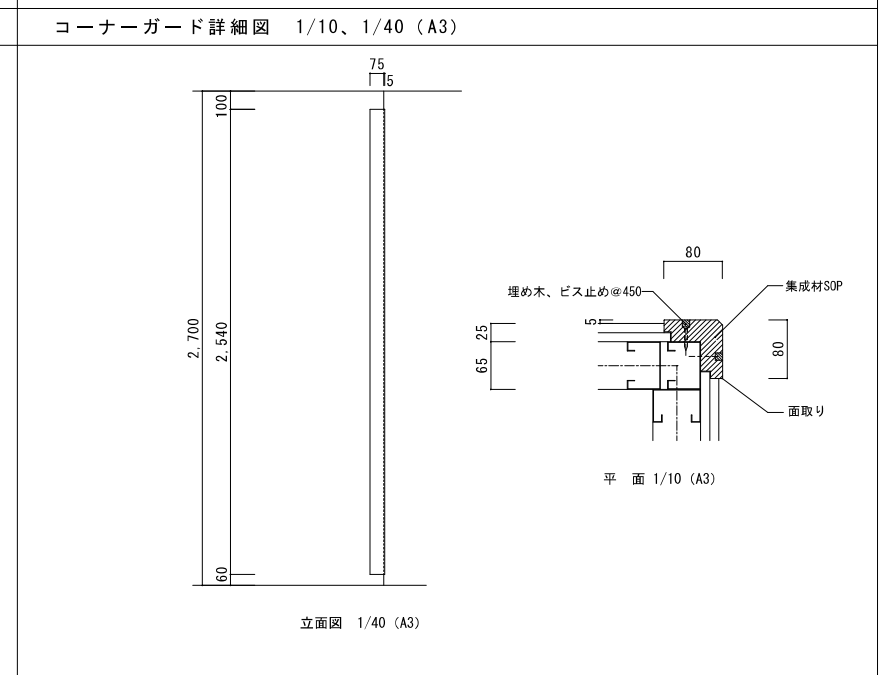
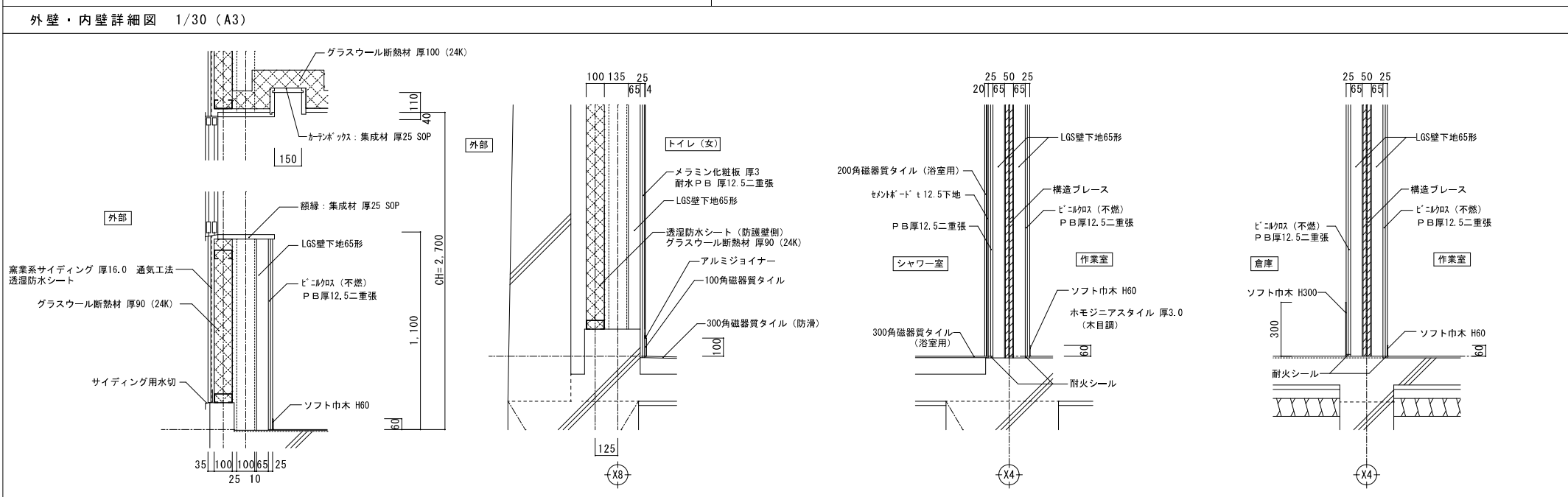
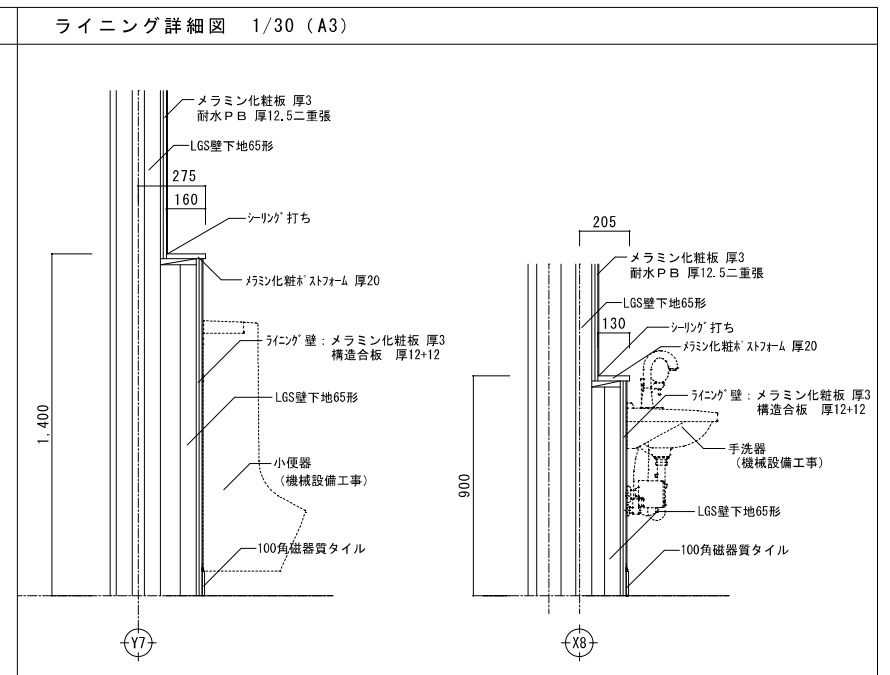
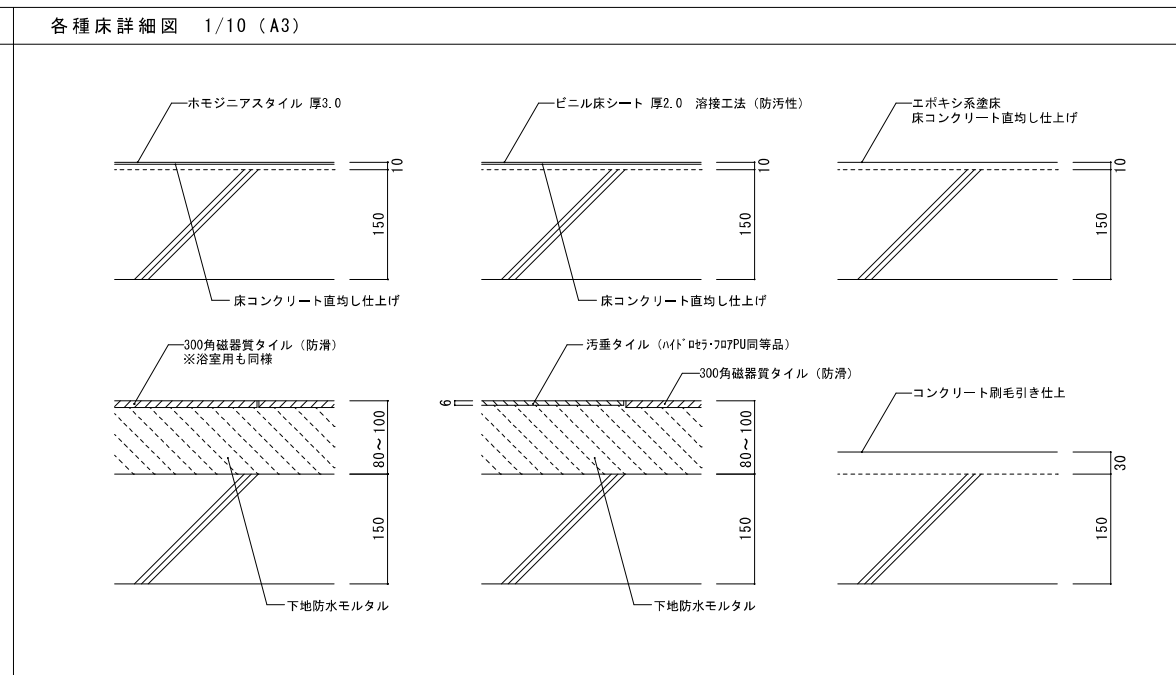
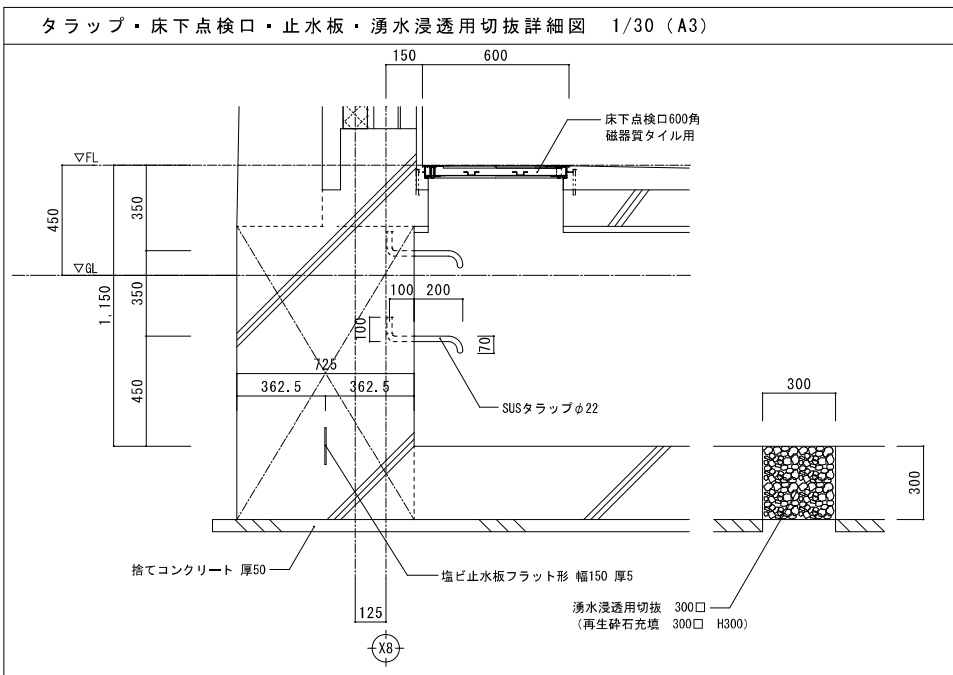


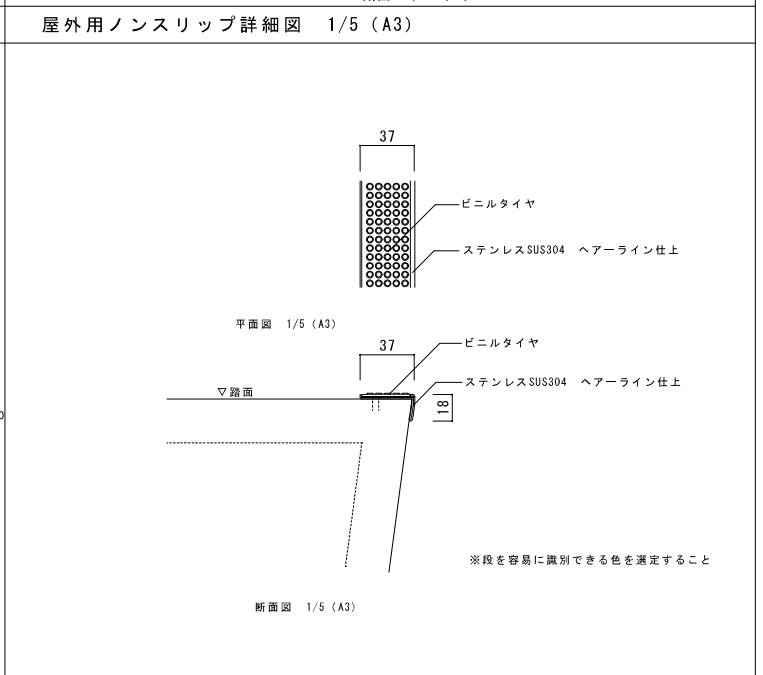
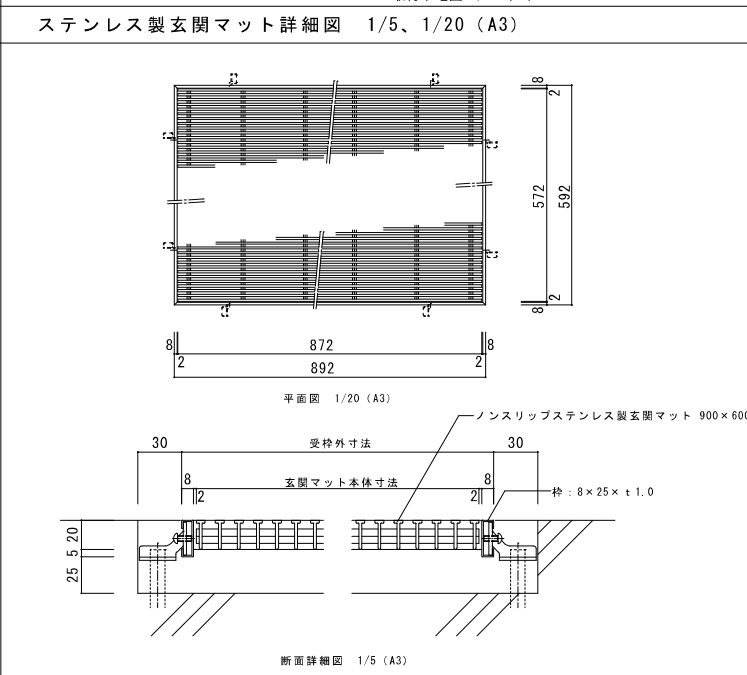
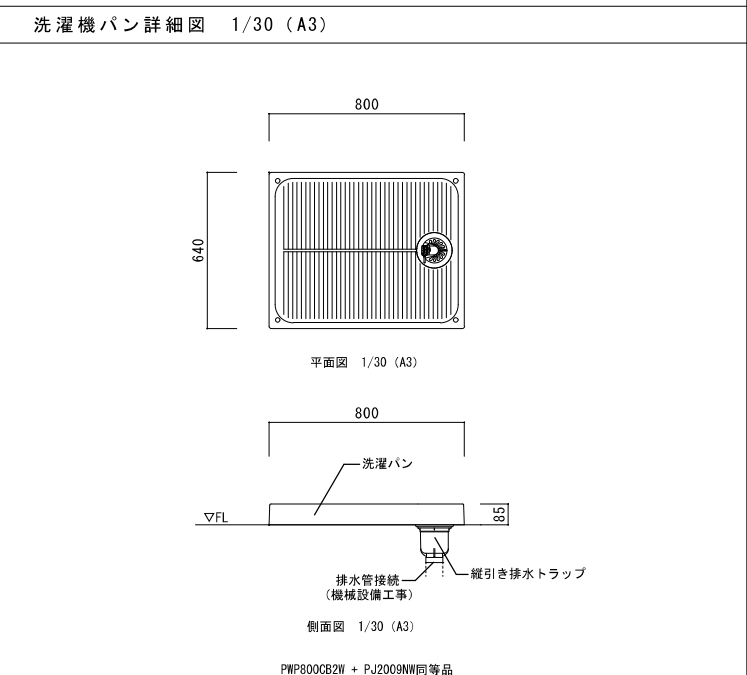
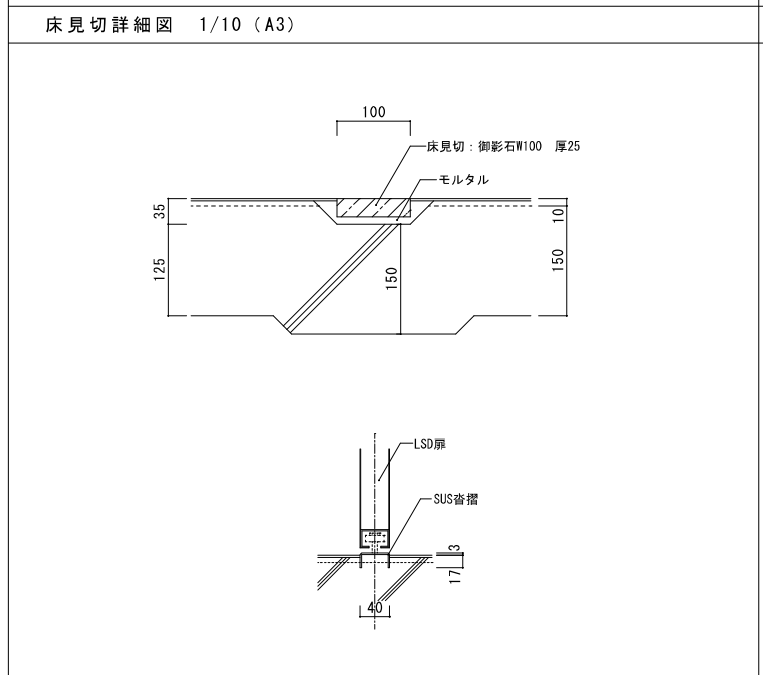
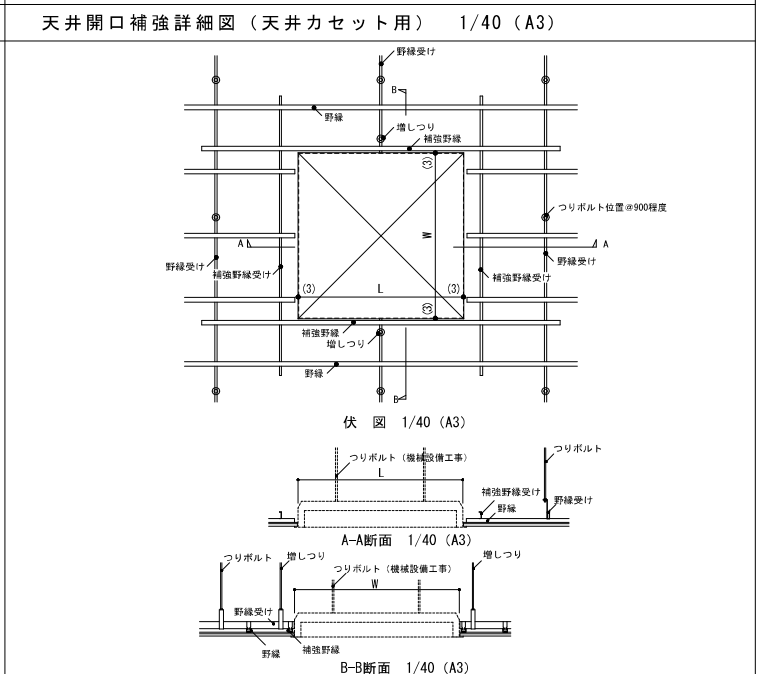
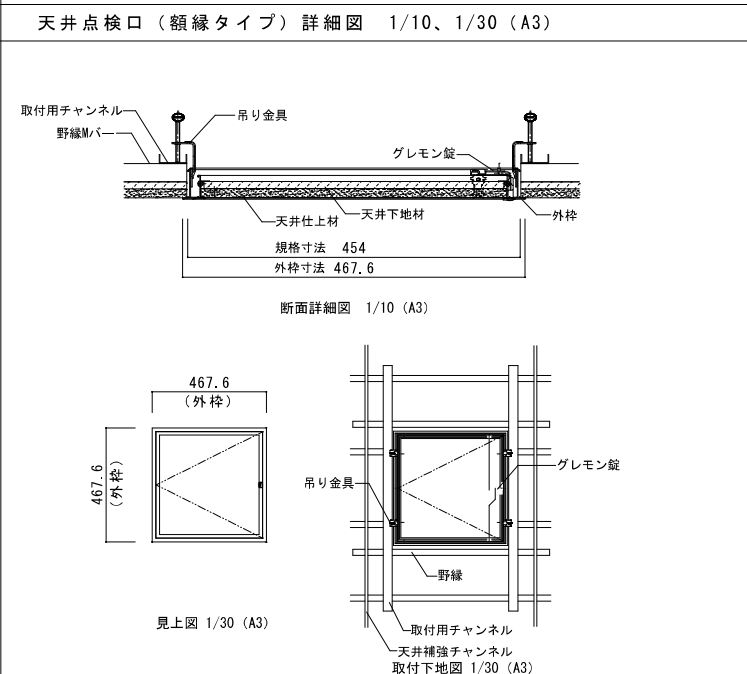
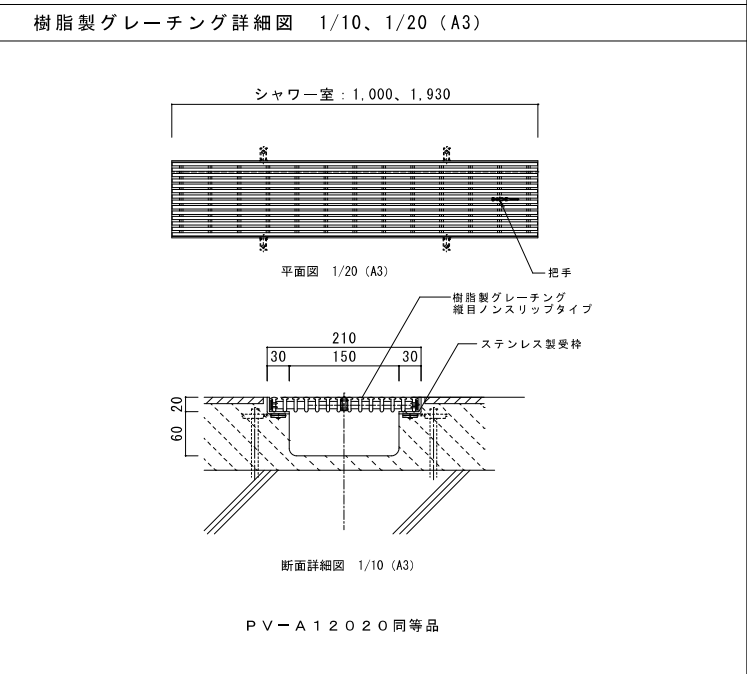
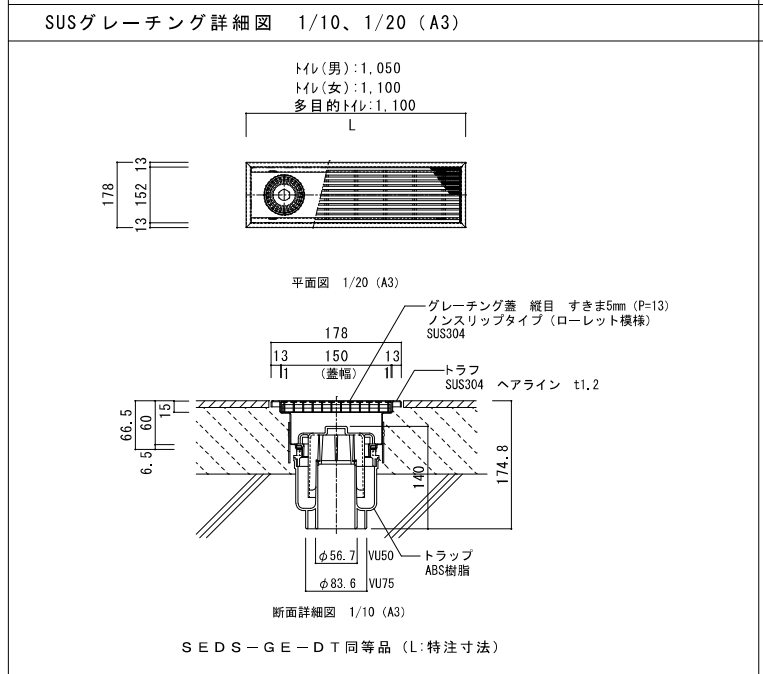
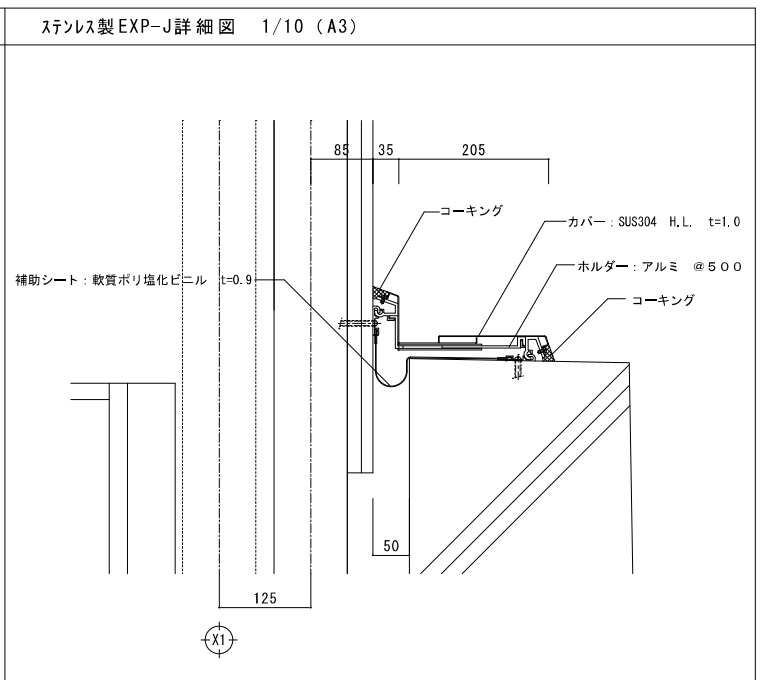
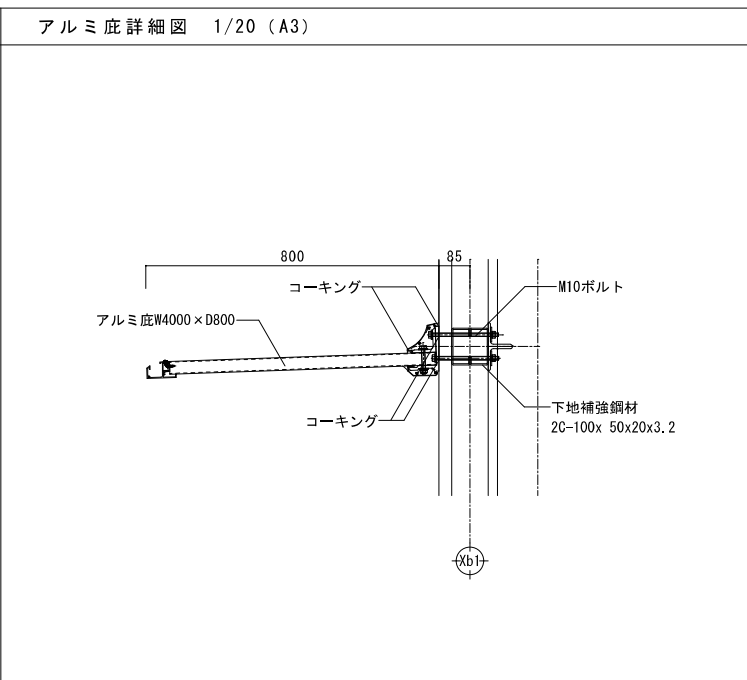
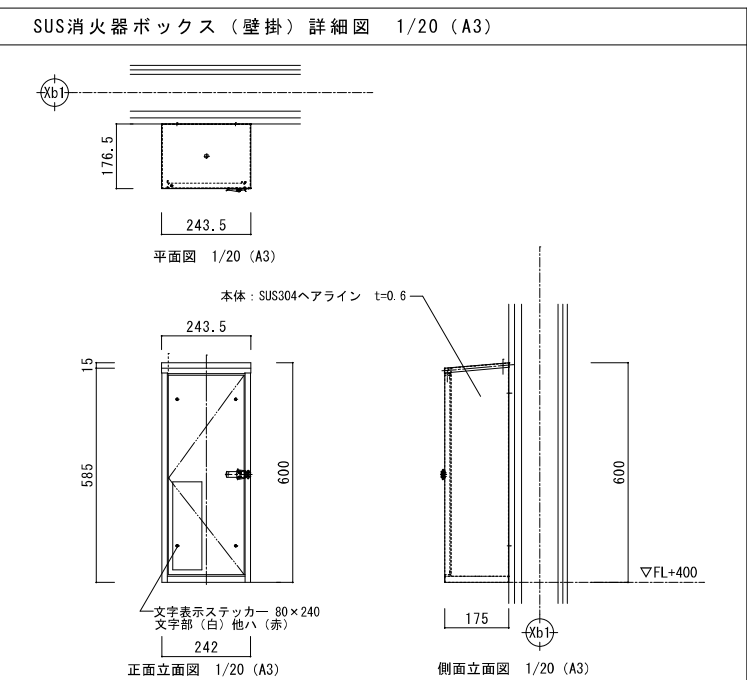
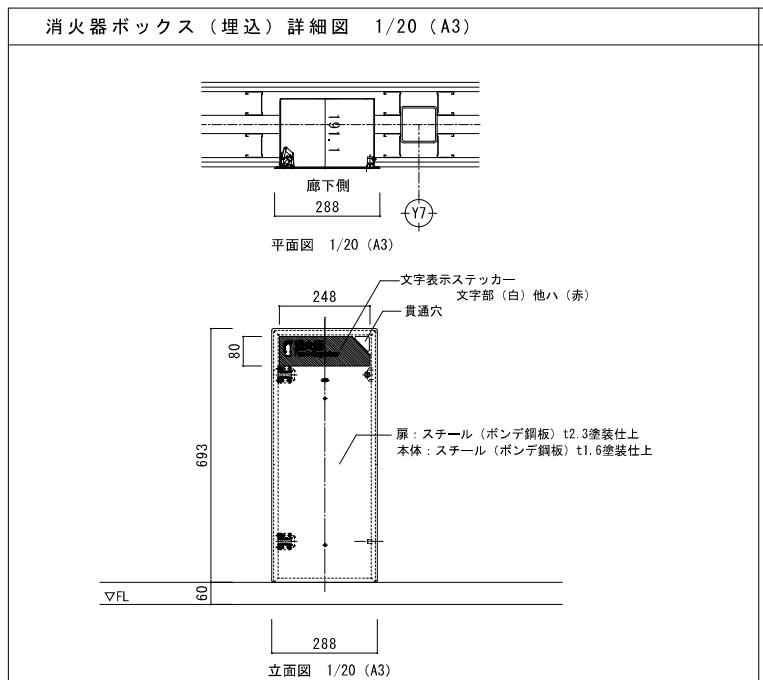
室外機基礎平面図 1/60 (A3)



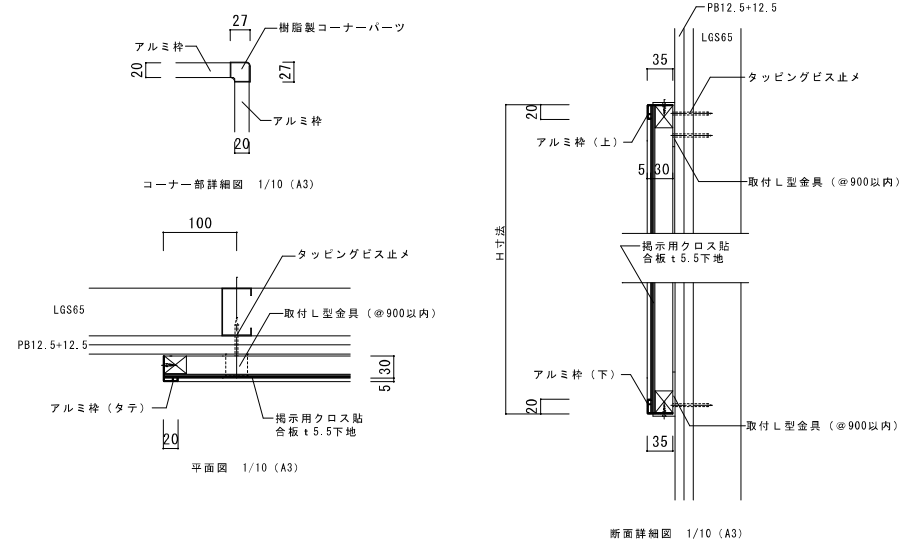
室外機基礎断面図 1/60 (A3)

記	
率	

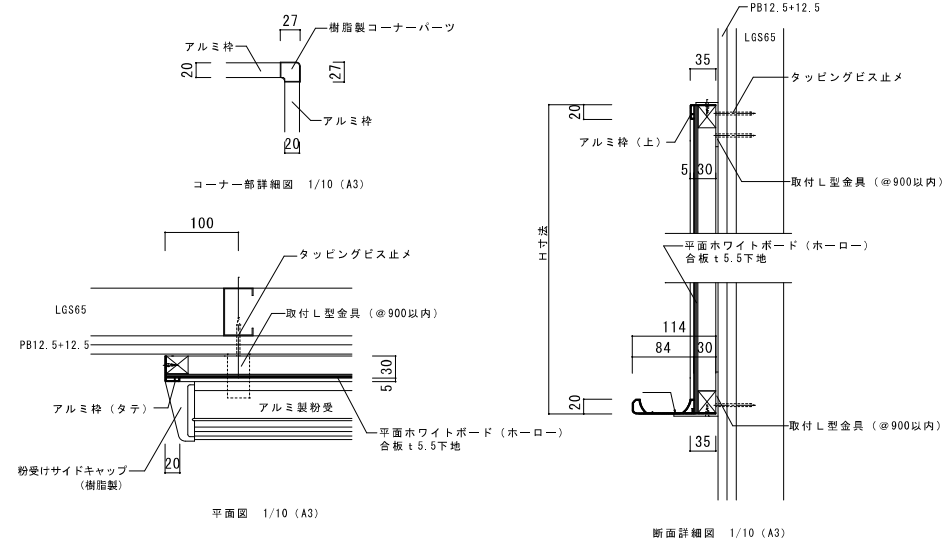




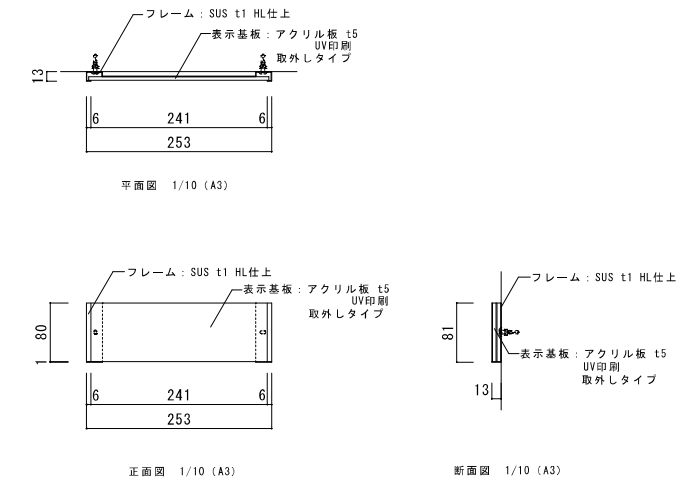
掲示板詳細図 1/10 (A3)



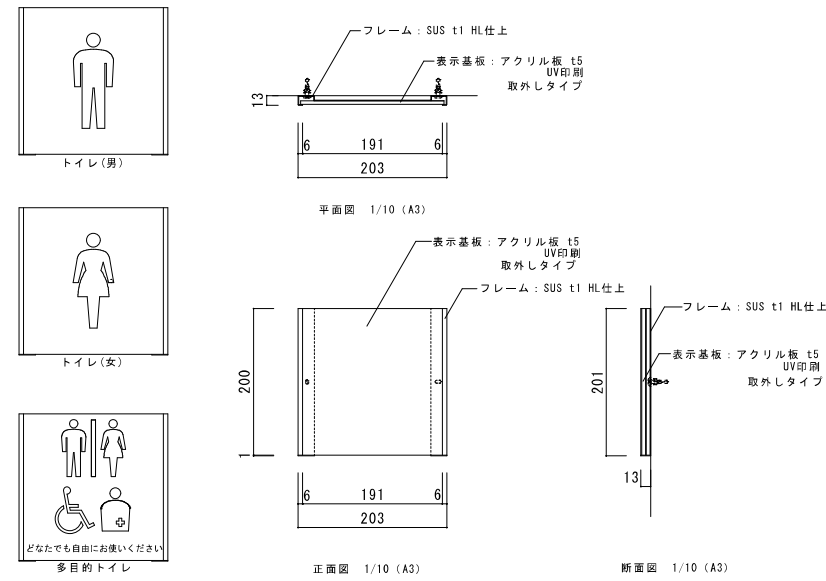
ホワイトボード詳細図 1/10 (A3)



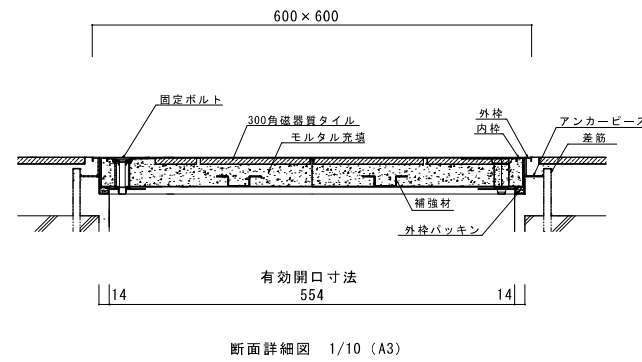
室名札詳細図 1/10 (A3)



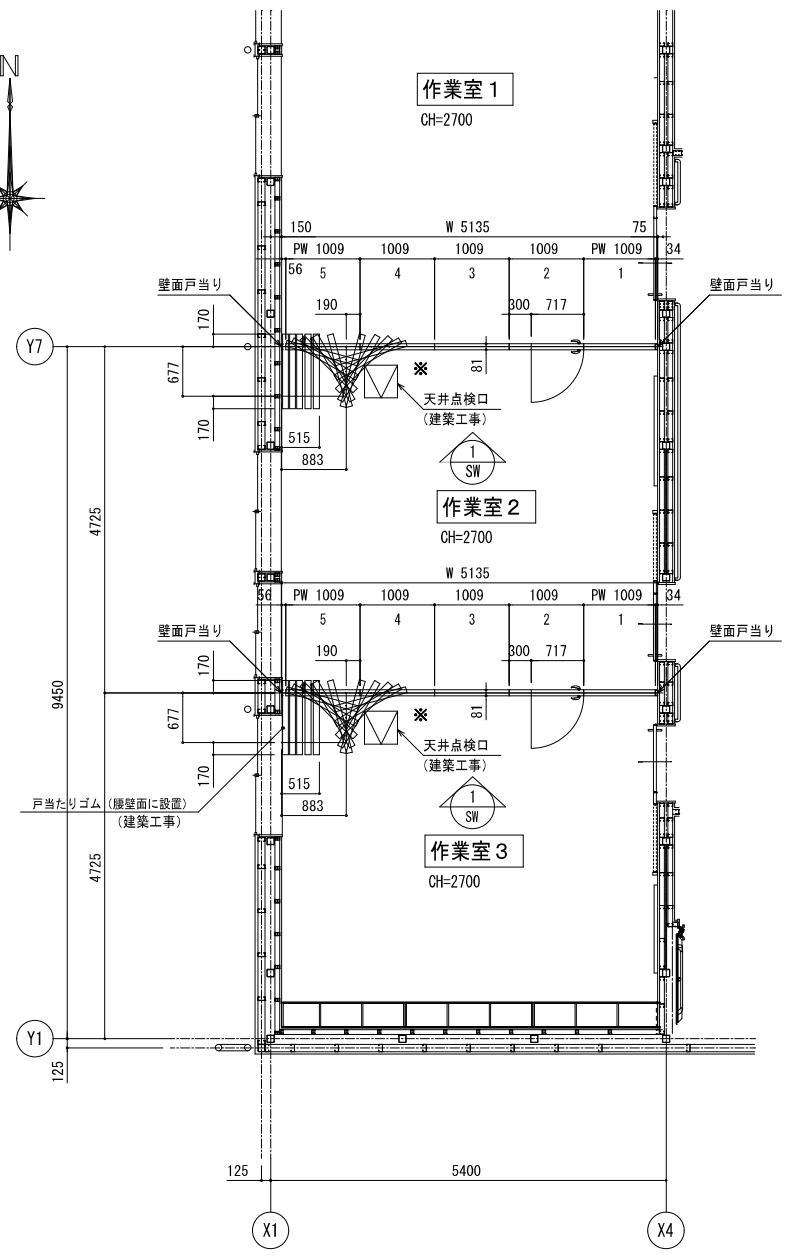
ピクトサイン詳細図 1/10 (A3)



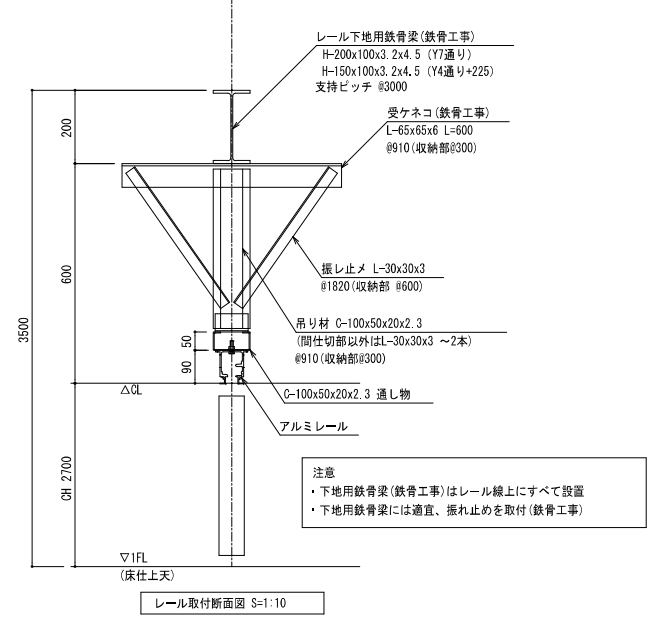
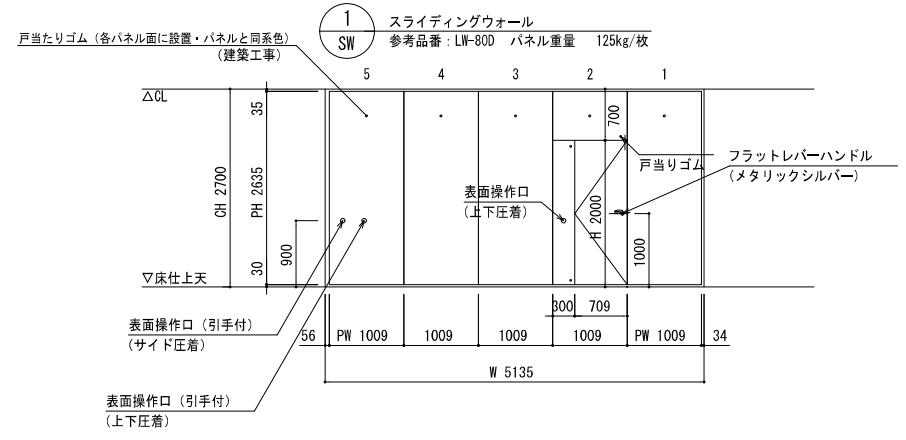
床下点検口詳細図 1/10 (A3)



記	
率	

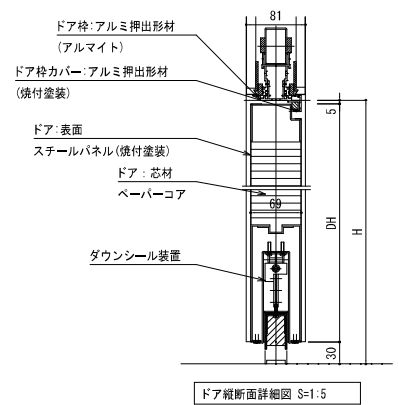


1階平面図 S=1:50
※操作口取付側

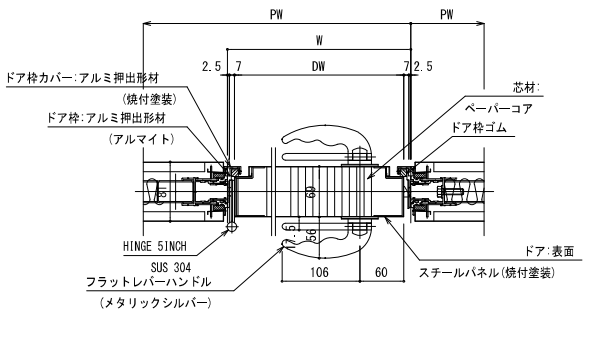


スライディングウォール 厚み81mm(参考品番: LW-800)

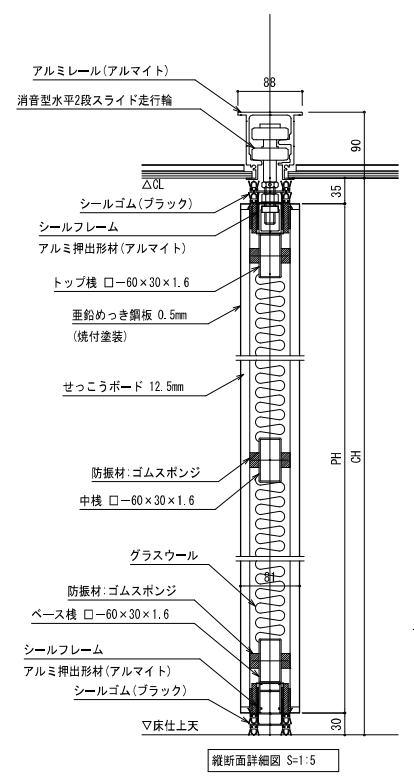
レール仕様	レール	アルミ押出型材ハンガーレール(アルマイト処理) コーナー部 直角レール
ランナー仕様	走行輪	水平2段スライド走行輪(ベアリング内蔵)
	吊ボルト	M 14
パネル仕様	表面仕上	
	表面材	亜鉛めっき鋼板 0.5mm (焼付塗装) 下張り: せっこうボード 12.5mm
	充填材	グラスウール
	骨組	アルミフレーム + 鉄骨造
	フレーム	アルミ押出型材 (アルマイト処理)
	召合せ	固定ゴム嵌合
	壁面シールド	機械駆動式
	上部シールド	機械駆動式
	下部シールド	機械駆動式
	パネル分離型構造 (廃棄時分別可能)・・・環境対応型	



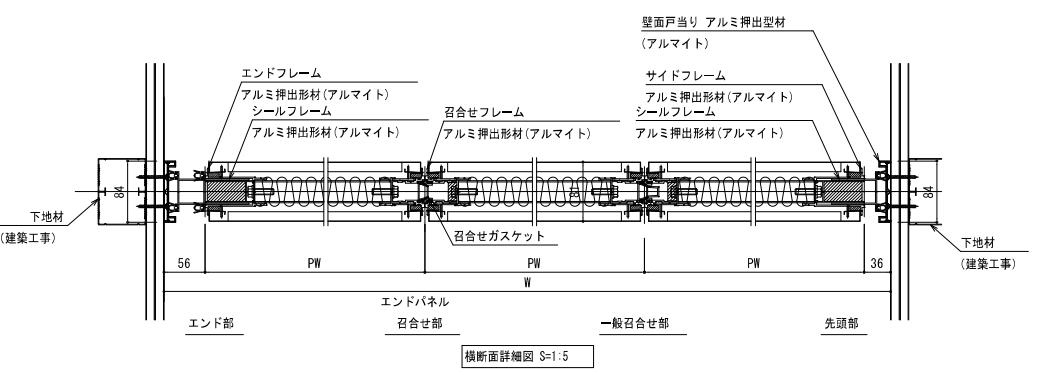
ドア縦断面詳細図 S=1:5



ドア横断面詳細図 S=1:5



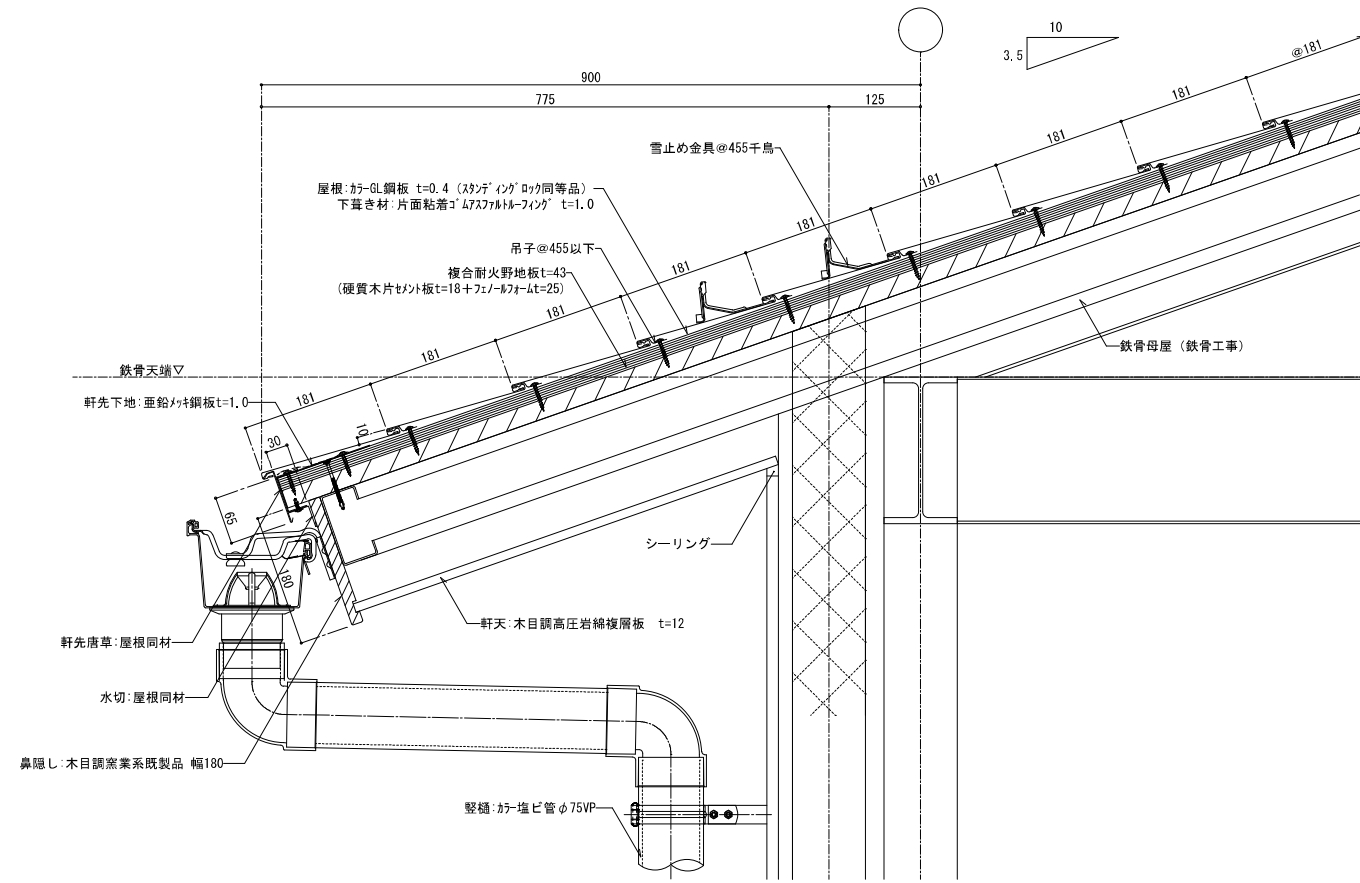
縦断面詳細図 S=1:5



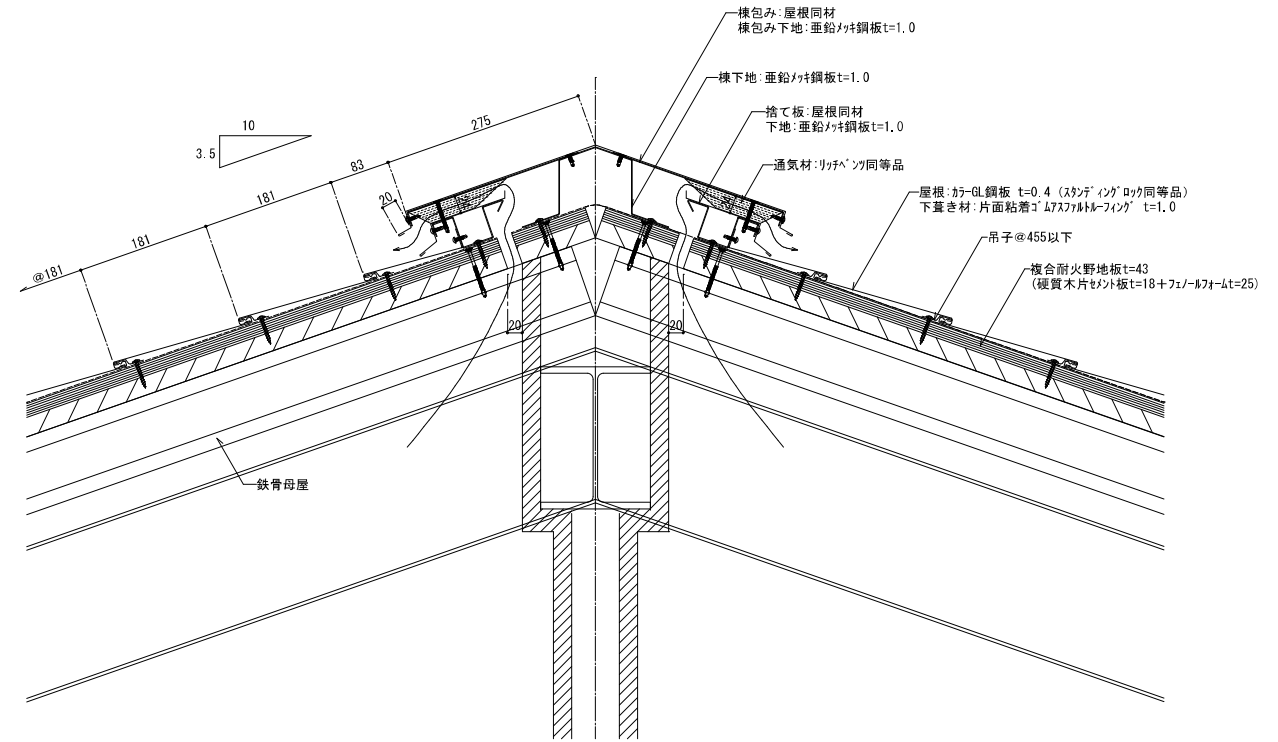
横断面詳細図 S=1:5

<スライディングウォール 厚み81mm> (参考品番: LW-800)

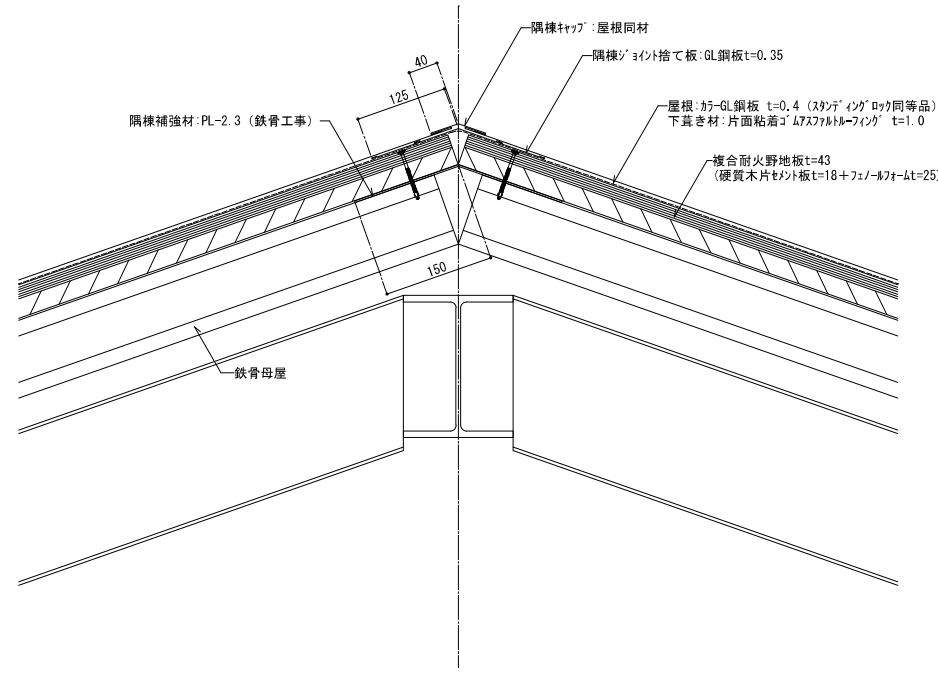
①軒先詳細図 S=1:5



②主棟詳細図 S=1:5

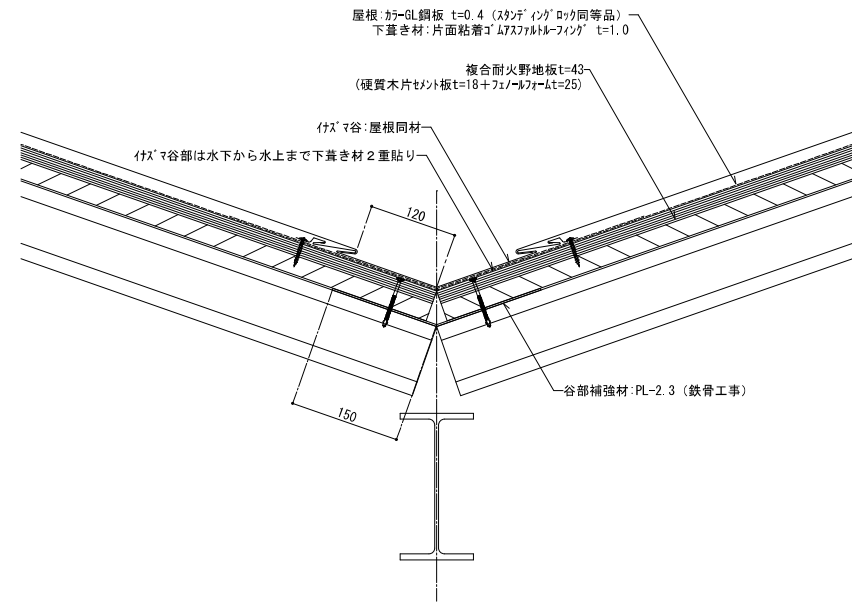


③隅棟詳細図 S=1:5

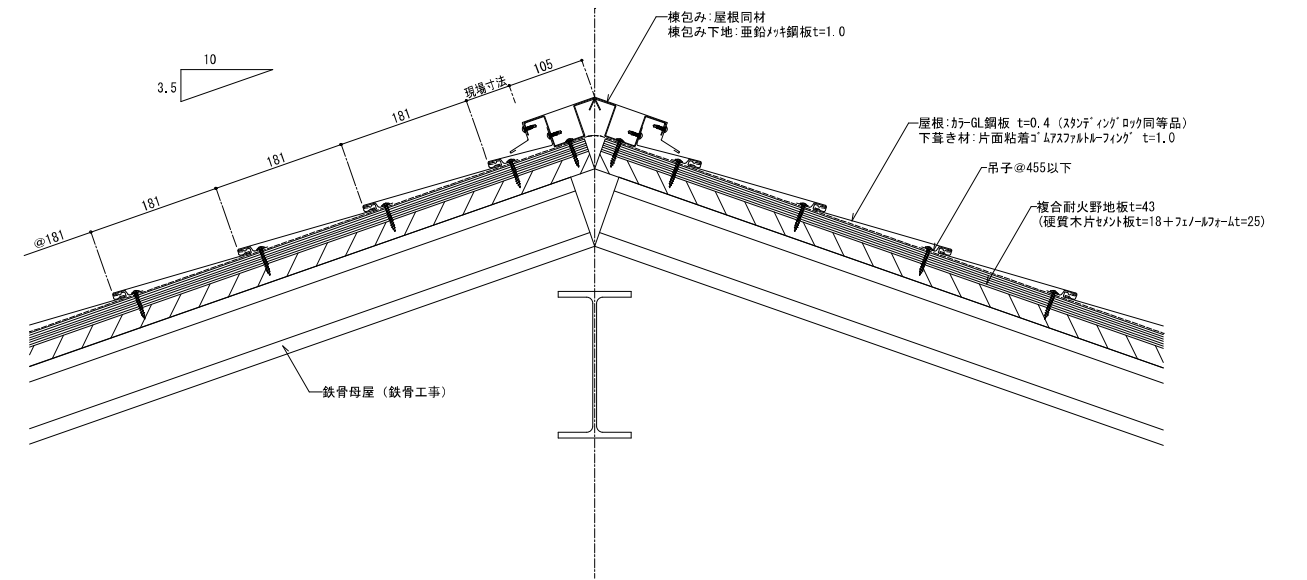


記	
率	

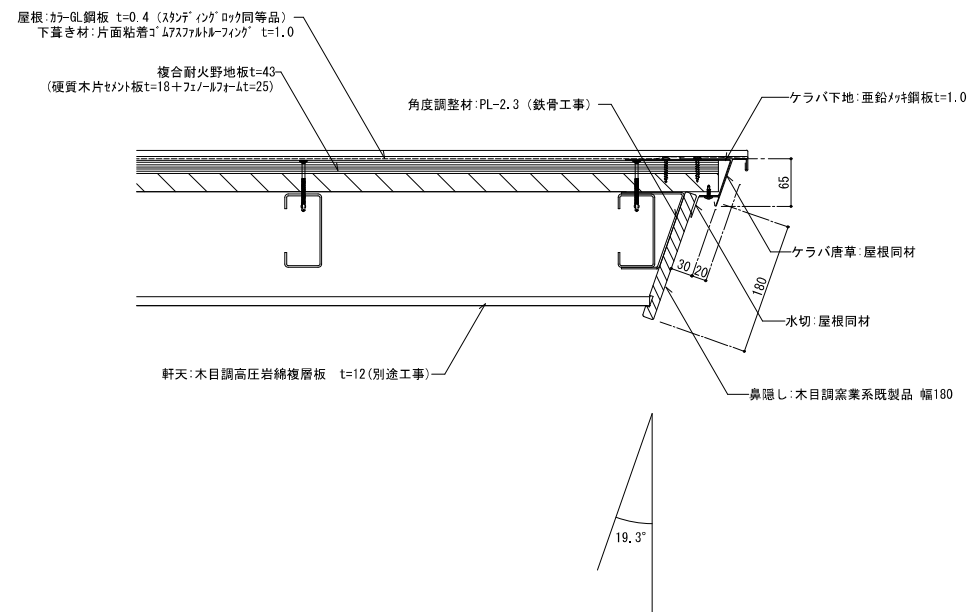
④谷部詳細図 S=1:5



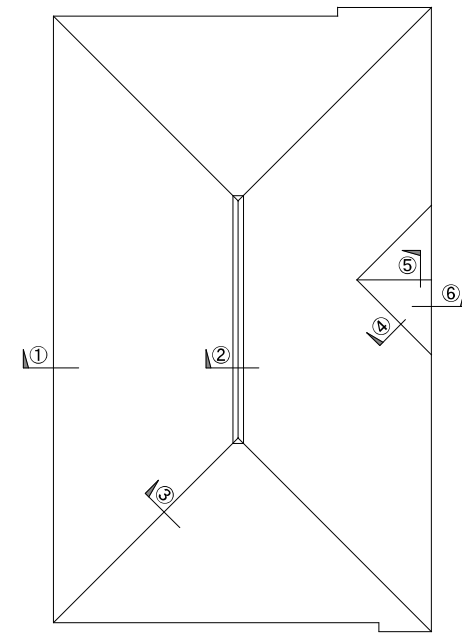
⑤飾り屋根棟詳細図 S=1:5



⑥飾り屋根ケラバ詳細図 S=1:5

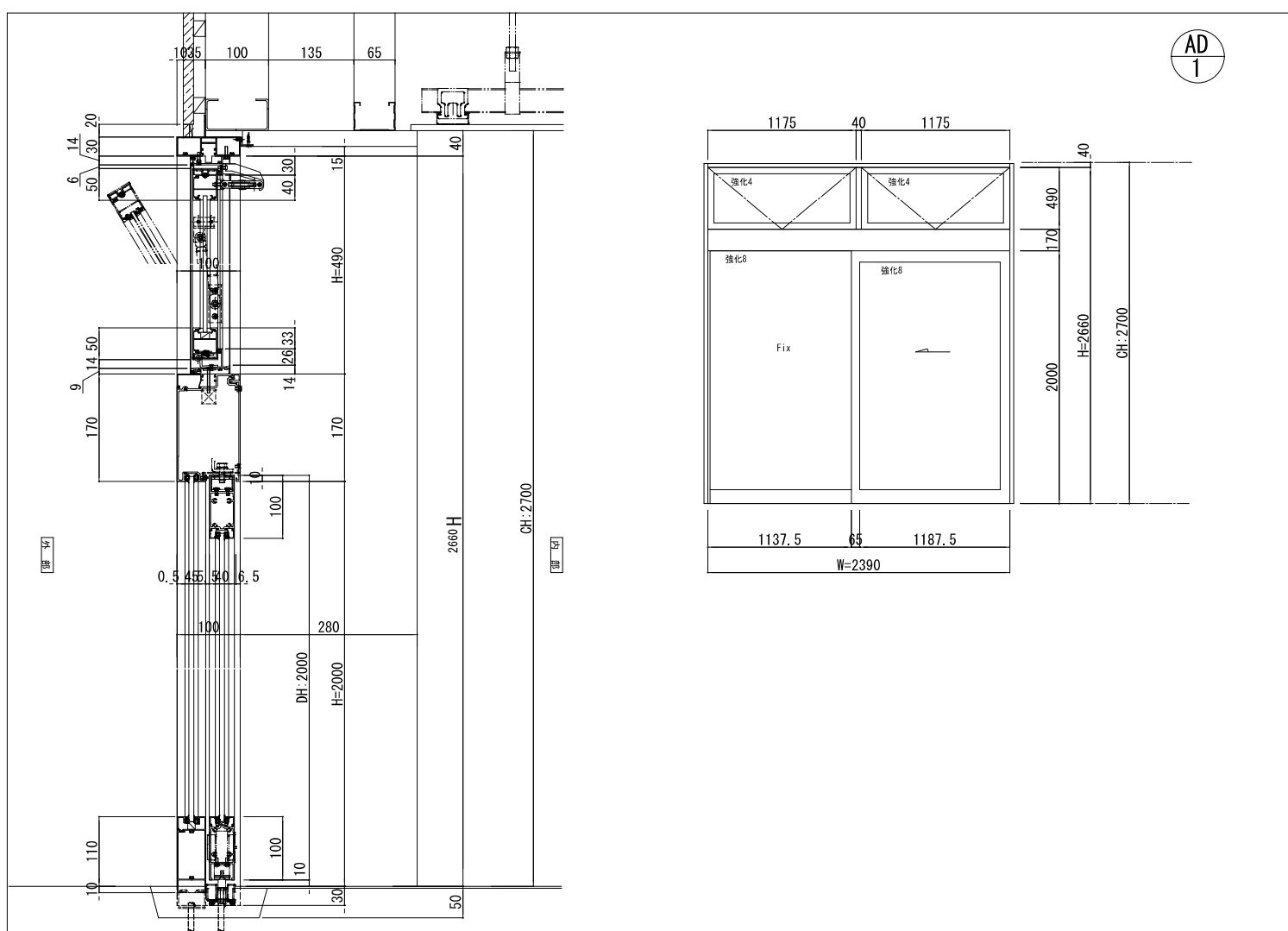


キープラン

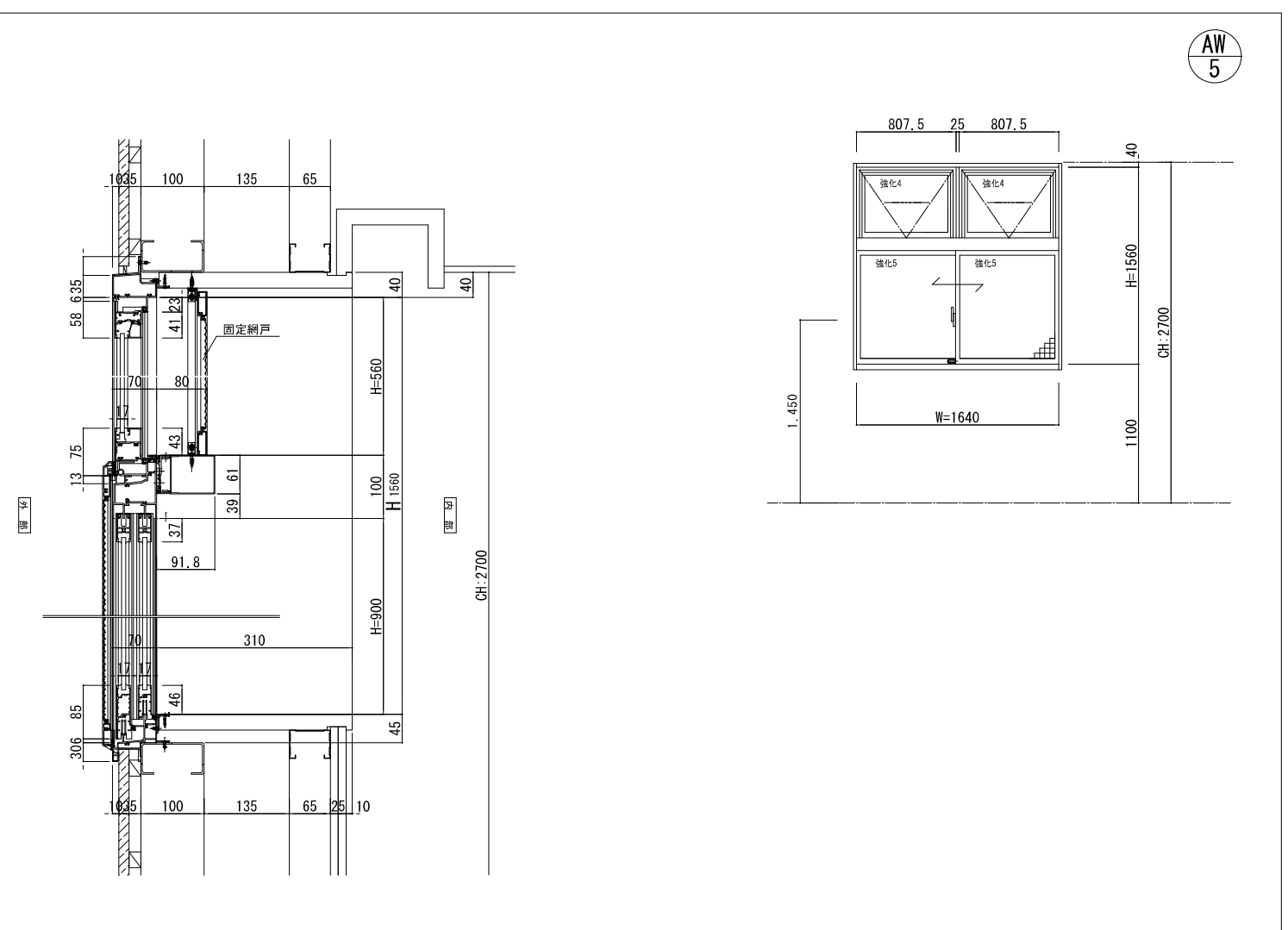


キープラン	
① 軒先詳細図	⑥ 飾り屋根ケラバ詳細図
② 換気棟詳細図	
③ 隅棟詳細図	
④ 谷部詳細図	
⑤ 飾り屋根棟詳細図	

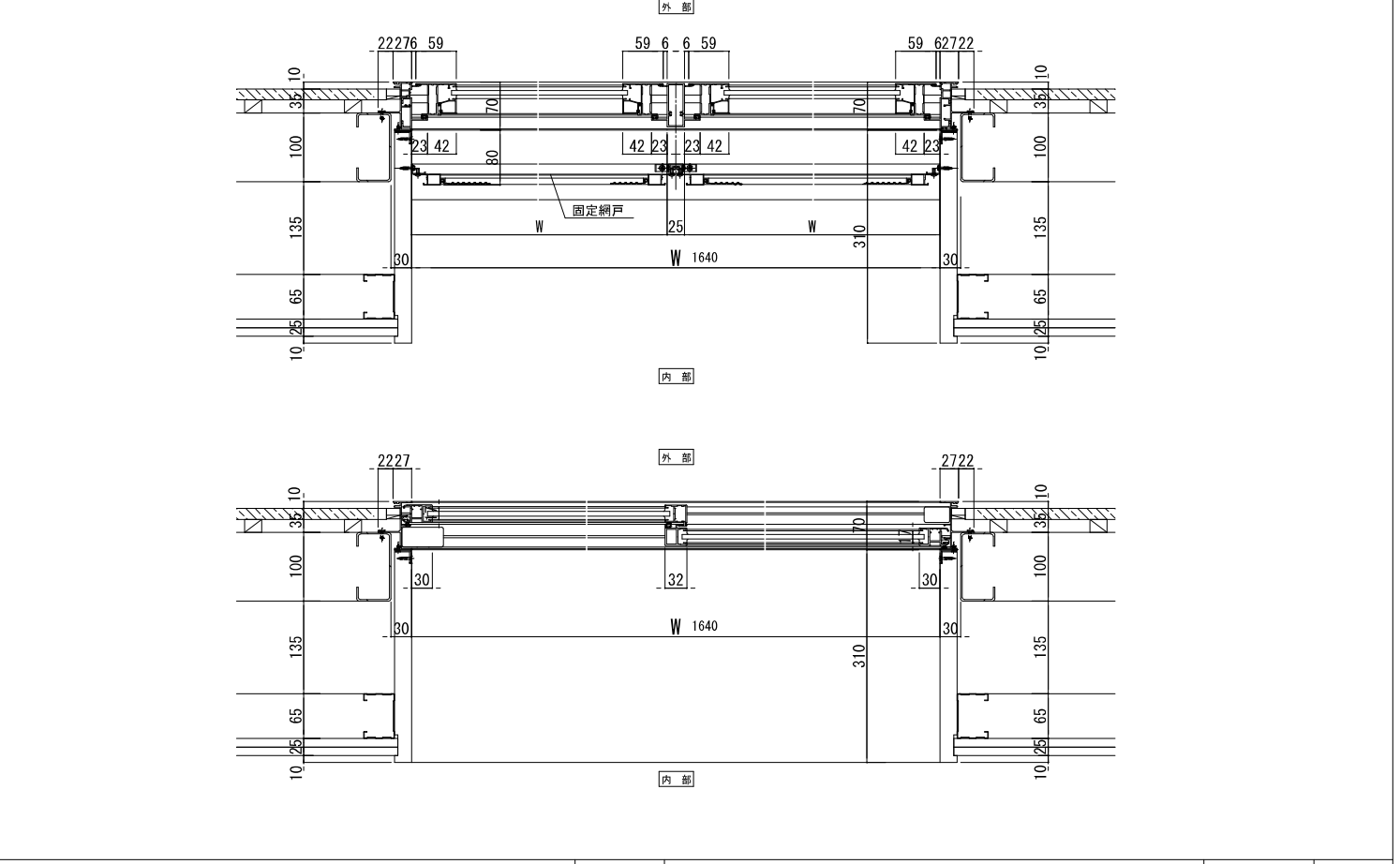
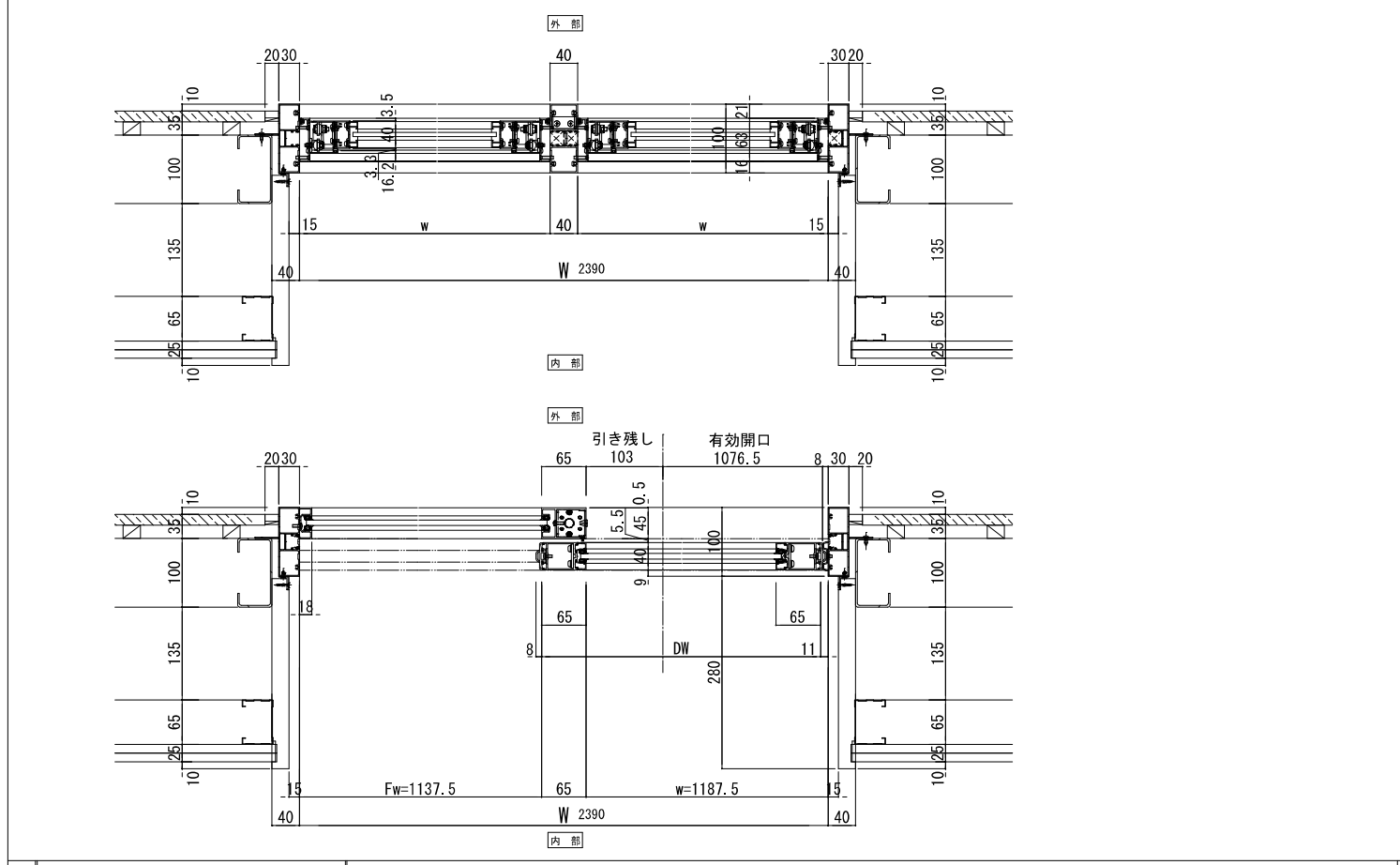
記	
率	



AD
1



AW
5



仕様	

Architects Firm	Atelier YOU	一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (1) 第12121号
		一級建築士 第342763号 藤山智昭

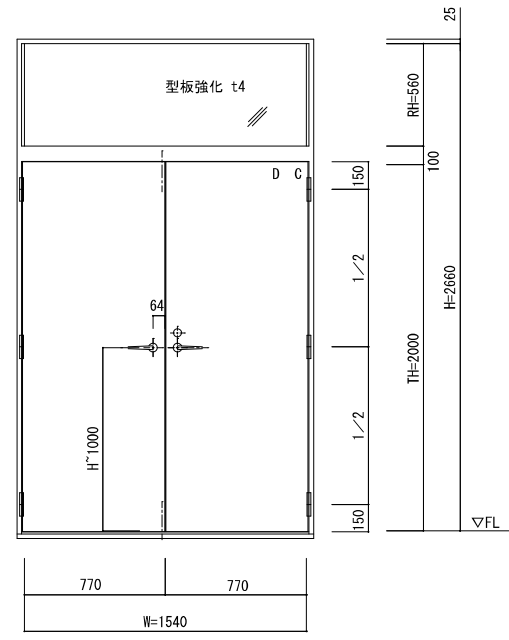
工事名称	川越市みよしの支援センター改築等工事
図面名称	サッシ詳細図 (参考図)

作成年月日	
縮尺	R 1/5 (A1) 1/10 (A3)

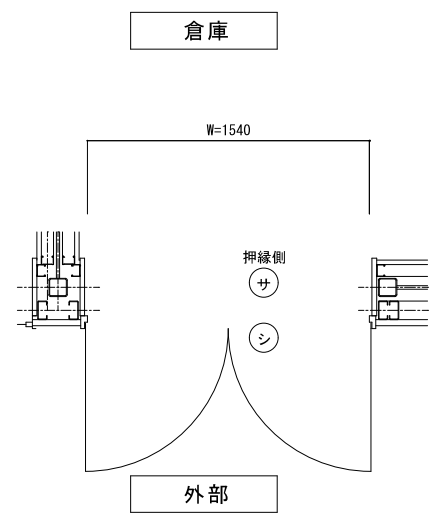
図面番号	A1-30
------	-------

SD-G (接着)
 枠: 2.3t 錆止め (SOP: 建築工事)
 扉: 1.6t 錆止め (SOP: 建築工事)

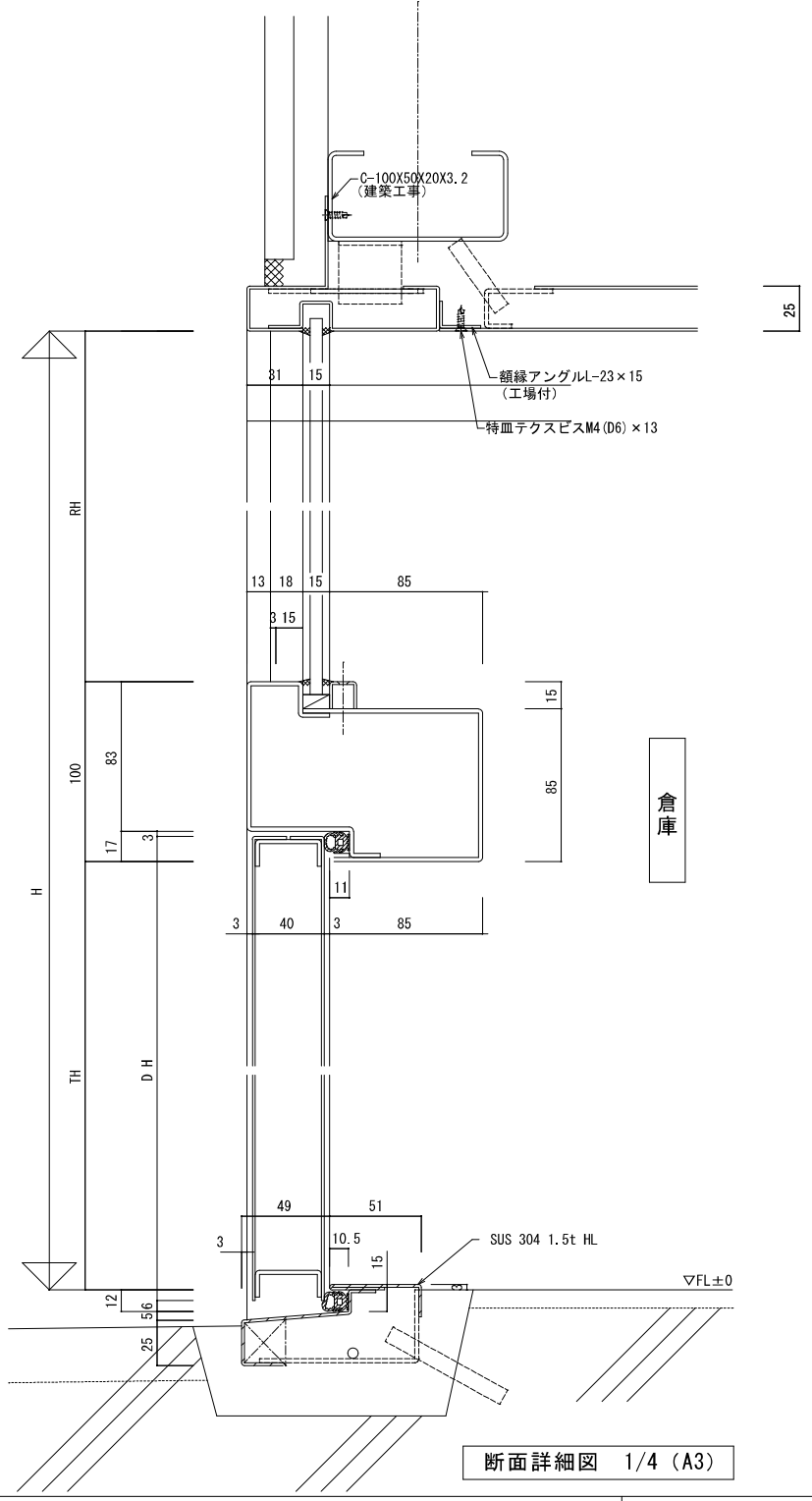
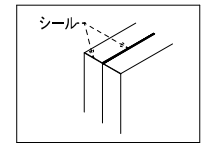
符号	勝手	数量	枠性能	充填材	防火区分
SD 1	R	1	SAT		指定なし
	L	0			
ガラリ	-		ガラリタイプ		
ガラス	-		窓タイプ		
金具品名	メーカー・品番	1ヶ所 数量	備考		
丁番	ｼﾌﾞﾀﾞｰ DH-508S (一式) 同等品	6			
ﾊﾞｰﾝﾄﾞﾙ ｶﾞﾗｽ	美和 LA -1 (64X40) 同等品	1			
固定ﾊﾝﾄﾞﾙ	美和 LOZ Dt40同等品	1			
ﾄﾞｱﾌﾞﾛｰｸﾞ	ﾘｻﾞｰﾞ BS1003P (90) 同等品	1	S、BC付ﾊﾞﾗﾙ	90°制限付	
ﾌﾗﾝｽ落し	ｼﾌﾞﾀﾞｰ DE-5VN 同等品	2			
ｼﾌﾞ	ｼﾌﾞﾀﾞｰ DB-67 同等品	1	圧入式		
下ｼﾌﾞ	ｼﾌﾞﾀﾞｰ DB-77 同等品	1	圧入式 (防水ﾀｲﾌﾟ)		



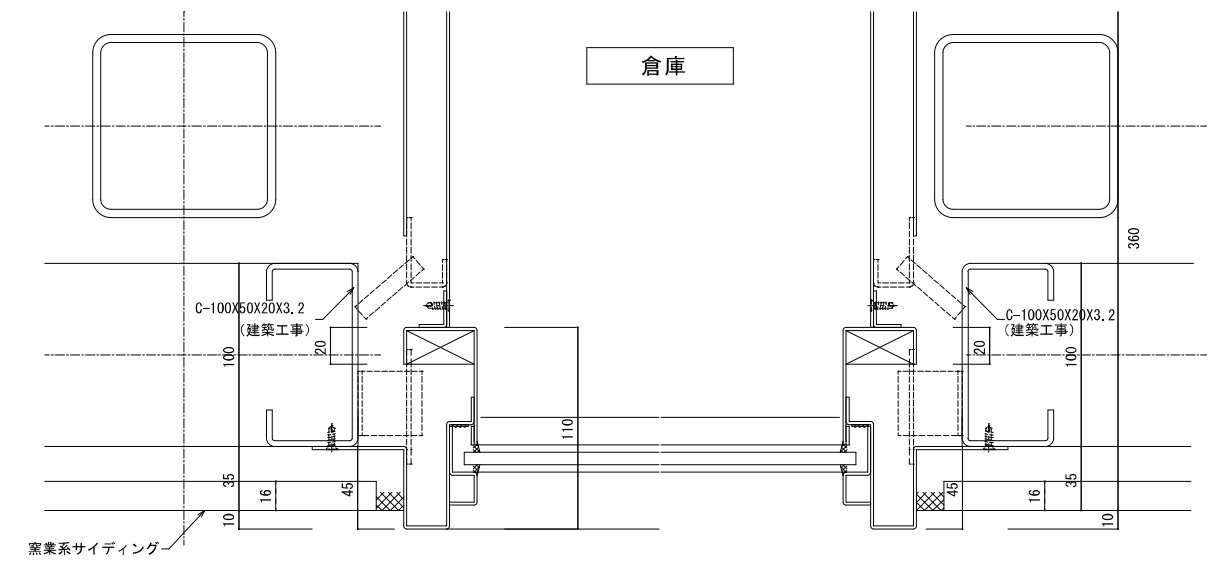
立面図 1/40 (A3)



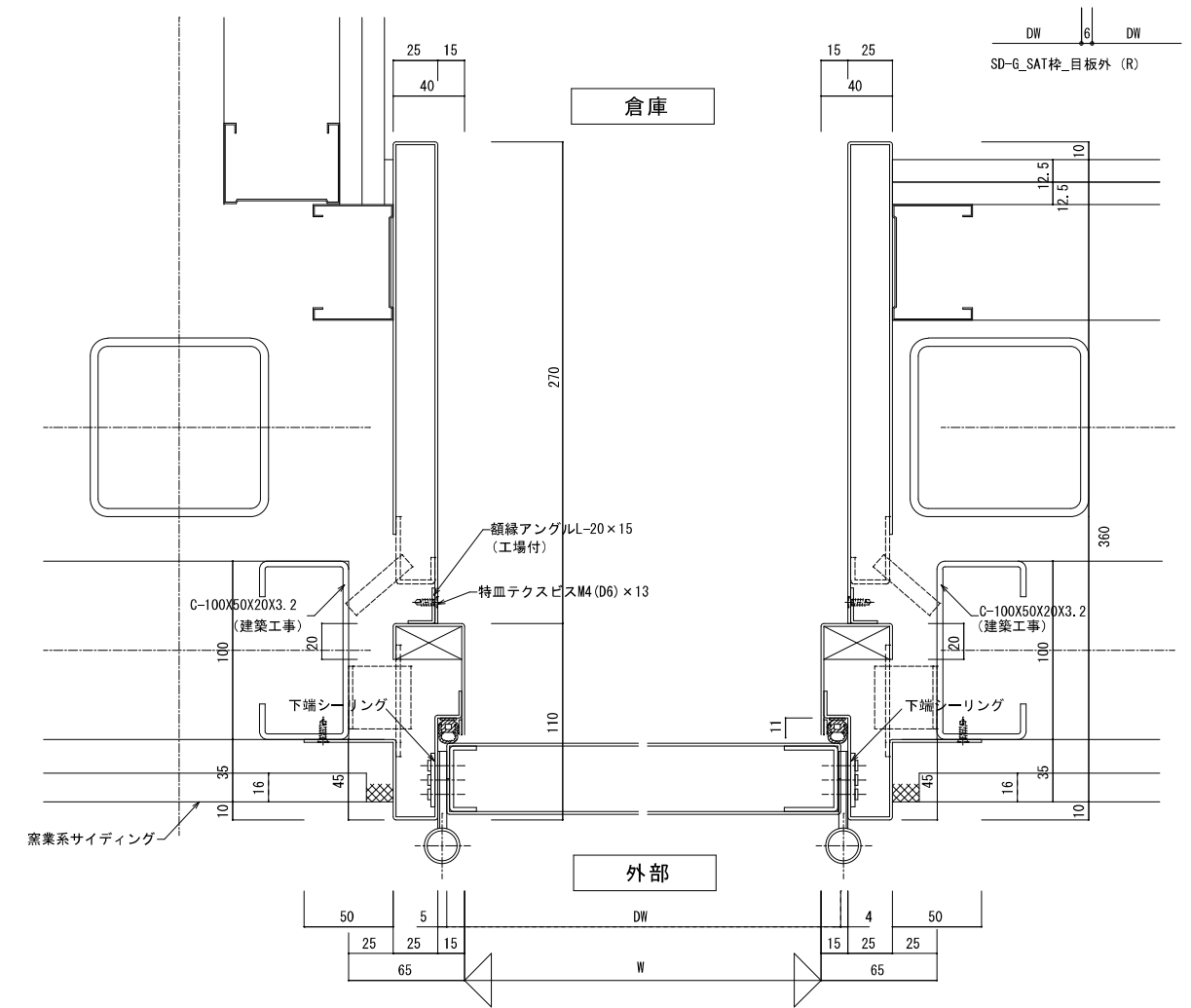
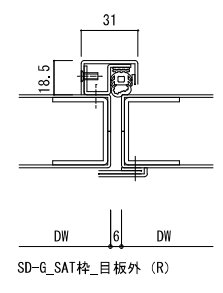
平面図 1/40 (A3)



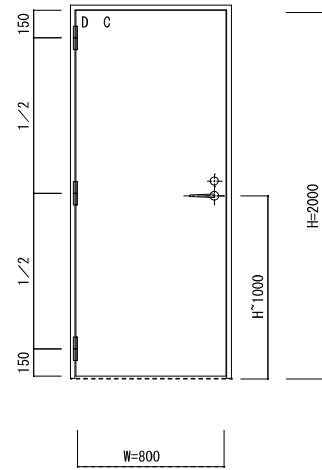
断面詳細図 1/4 (A3)



欄間部平面詳細図 1/4 (A3)



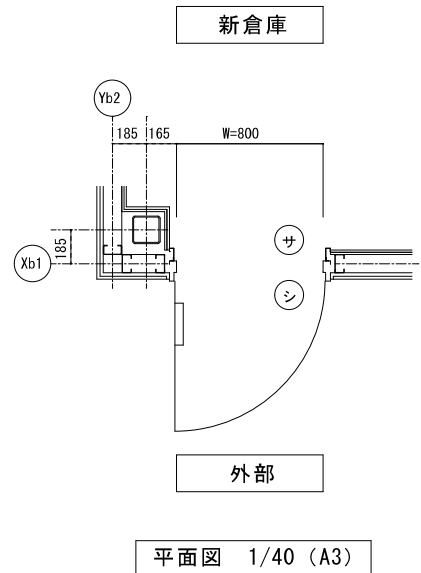
平面詳細図 1/4 (A3)



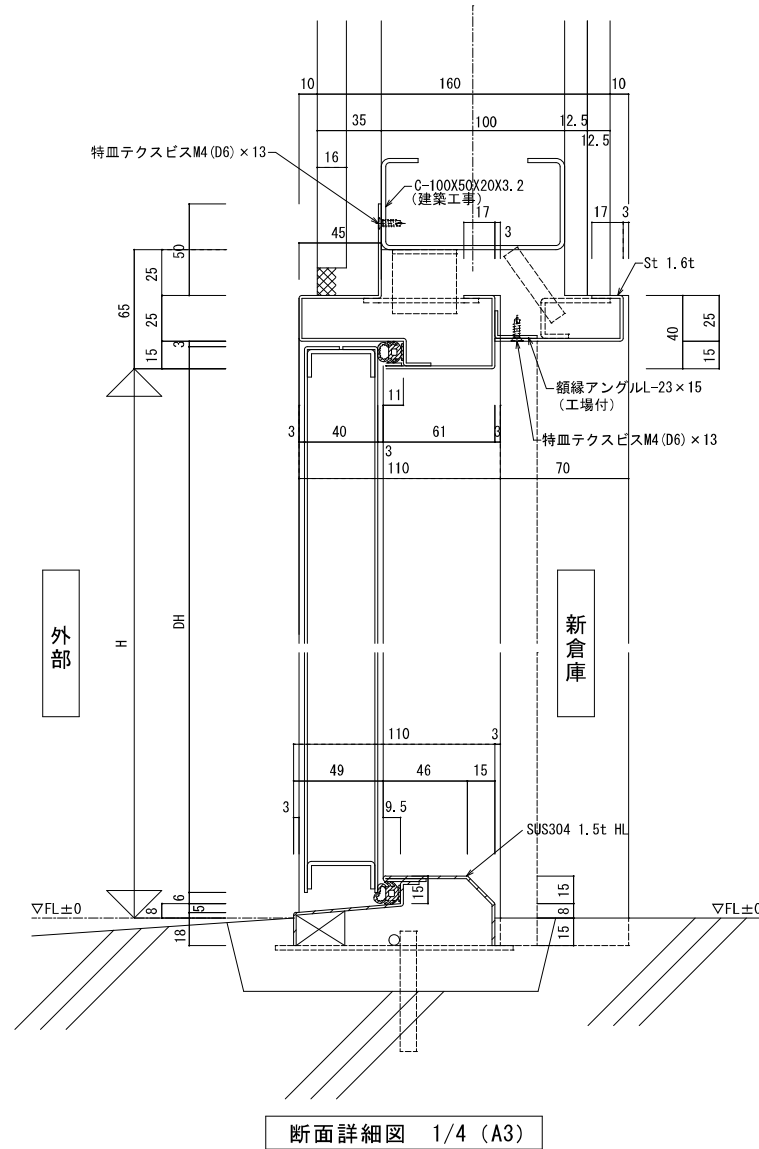
立図図 1/40 (A3)

SD-G (接着)
 枠: 1.6t 錆止め (SOP: 建築工事)
 扉: 1.6t 錆止め (SOP: 建築工事)

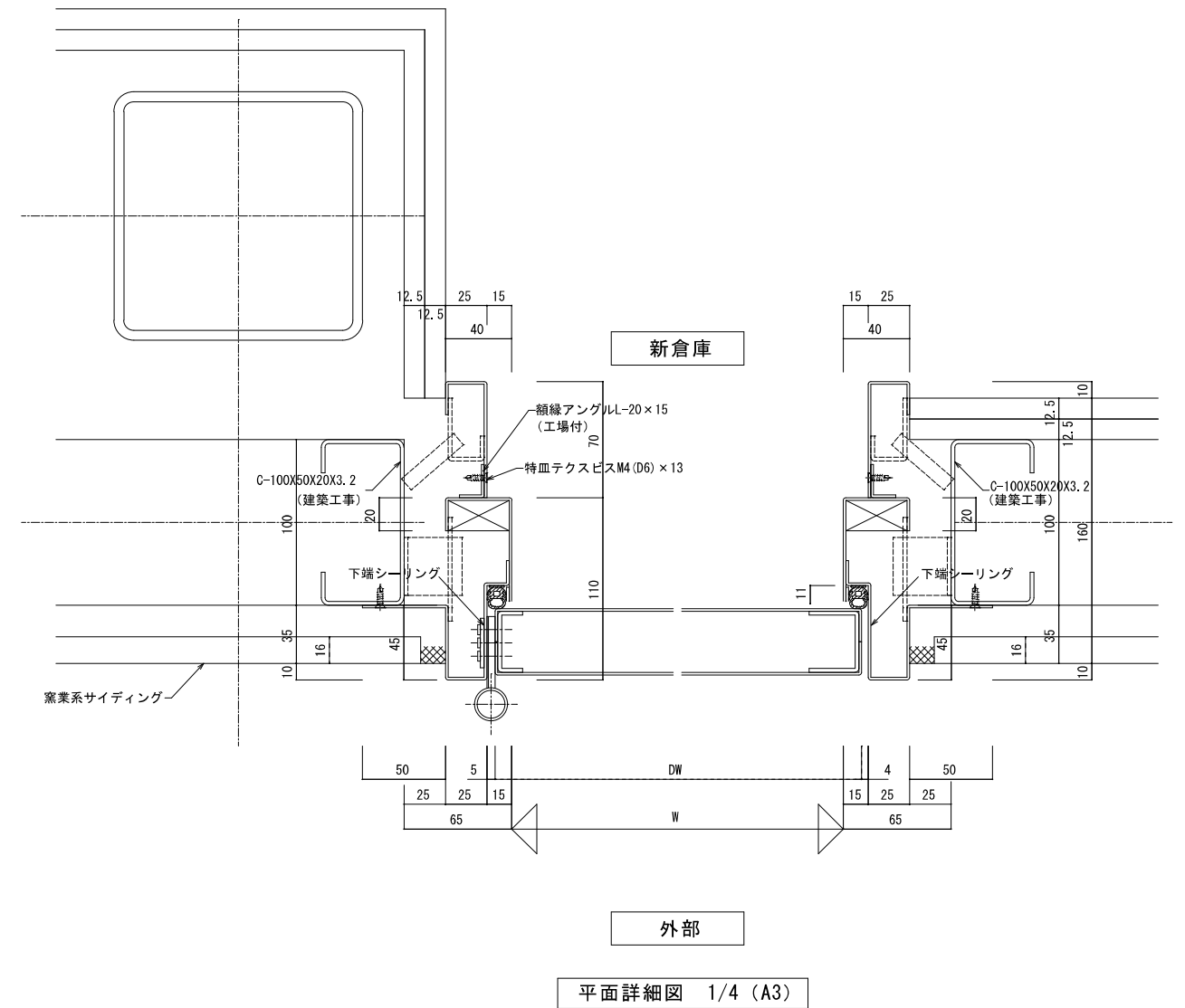
符号	勝手	数量	枠性能	充填材	防火区分
SD 1A	R	0	SAT		指定なし
	L	1			
ガラス	-		ガラリタイプ		
ガラス	-		窓タイプ		
金具品名	メーカー・品番	1ヶ所 数量	備考		
丁番	シブチ DH-508S(一式) 同等品	3			
レバーハンドル	美和 LA-1(64X40) 同等品	1			
ドアホース	リョーヒ BS1003P 90同等品	1	S、BC付 パラレル、90° 制限付		
アライコーム	三和型 ATG-205 L=m 同等品	1			



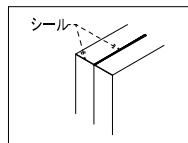
平面図 1/40 (A3)



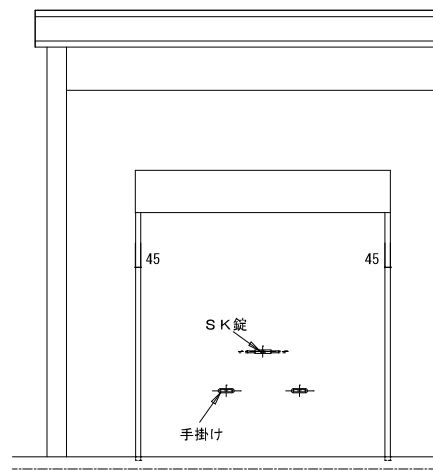
断面詳細図 1/4 (A3)



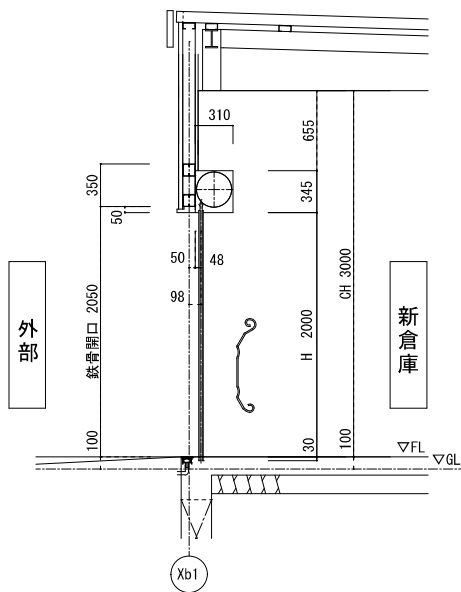
平面詳細図 1/4 (A3)



記	
事	

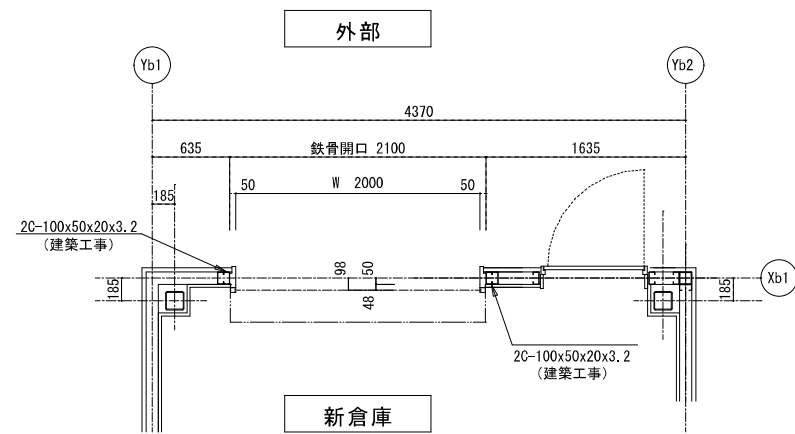


立面図 1/60 (A3)

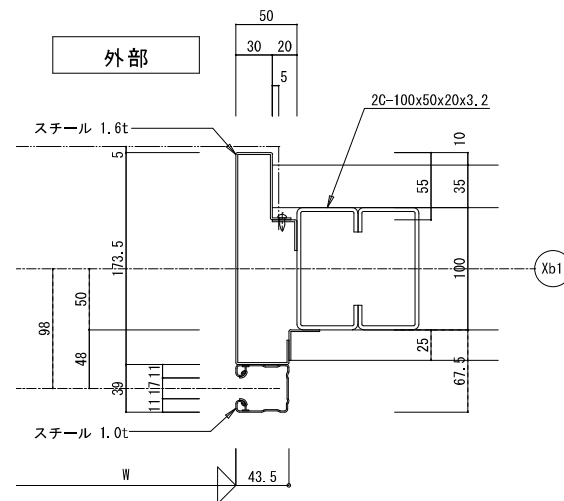


断面図 1/60 (A3)

スラット	ｽﾌﾟ-#0.8t
座板	スチール
ガイドレール	スチール
まぐさ	スチール
ケース	スチール

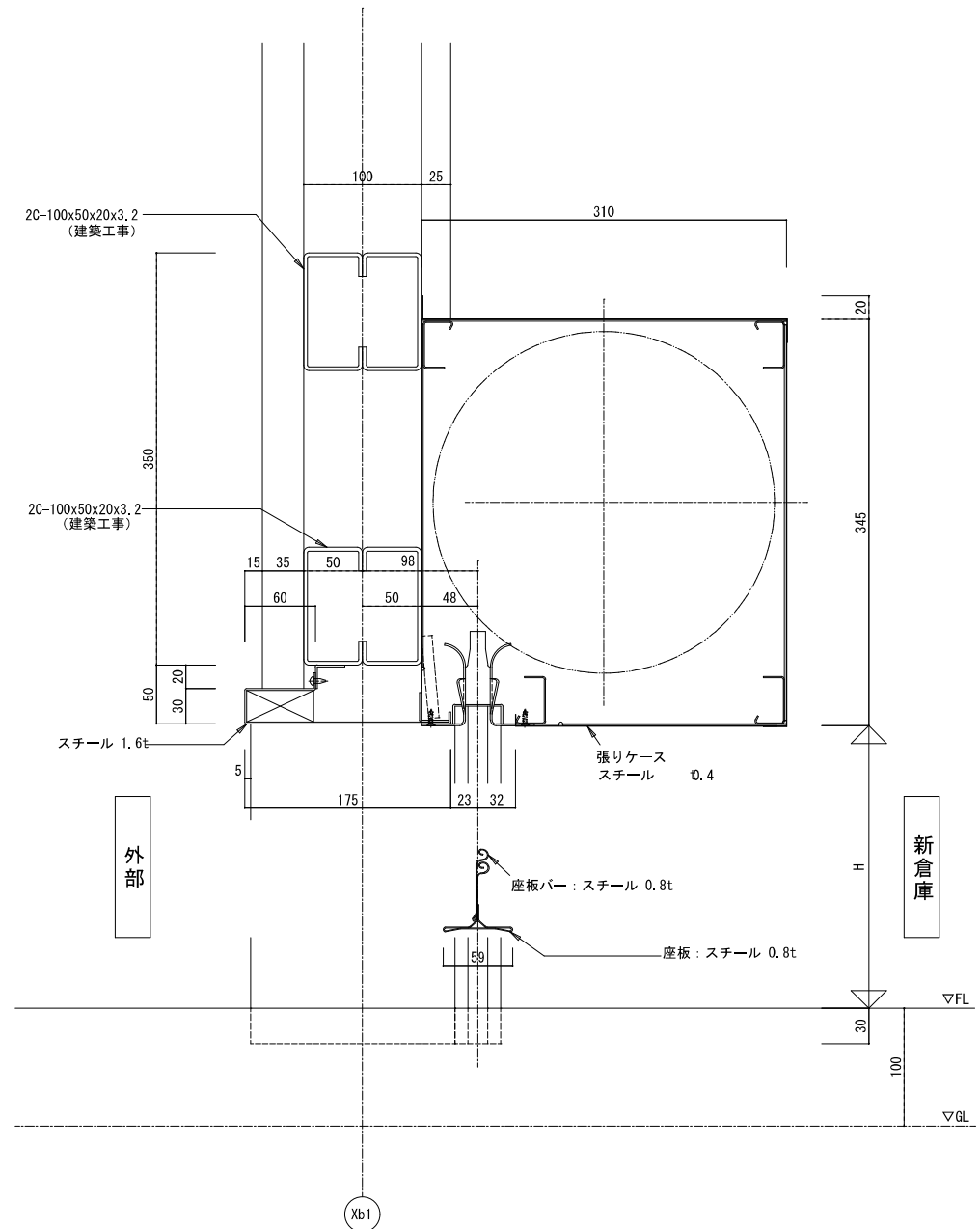


平面図 1/60 (A3)



新倉庫

平面詳細図 1/6 (A3)



断面詳細図 1/6 (A3)

記	
率	

工 事 名	川越市みよしの支援センター改築等工事（建築工事）
-------	--------------------------

I 工事概要	
1. 工事場所	川越市宮下町1丁目1番地13
2. 敷地面積	2,218.47m ²
3. 工事種目 (建物概要)	川越市みよしの支援センター 本館 鉄筋コンクリート造 平屋建て 延床面積 571.13m ² 川越市みよしの支援センター 別館 軽量鉄骨造 平屋建て 延床面積 222.49m ²
4. 工事内容	(1) 外部改修工事(本館) ・外壁改修(破損箇所改修) ・建具改修(自動ドア・網戸設置・ガラス設置) (2) 内部改修工事(本館) ・床、壁、天井改修 ・建具改修(出入口改修) ・家具、厨房器具改修 (3) 内部改修工事(別館) ・出入ログレーティング設置(機械設備工事) ・作業室床改修
5. 工 期	契約工期 契 約 日 日から令和9年8月31日まで
6. 工事範囲	*「3. 工事種目」すべてを工事範囲とする。 *「3. 工事種目」のうち各工事項目における工事範囲は下記のとおりとする。 ただし、他の工事種目は全て、今回工事範囲とする。

工事項目	工事種目	本館	別館
2	仮設工事	○	○
3	防水改修工事		
4	外壁改修工事	○	
-1	コンクリート打放し 仕上げ外壁	○	
-2	モルタル塗り仕上げ外壁		
-3	タイル張り仕上げ外壁		
-4	塗り仕上げ外壁	○	
-5	外壁用壁膜防水張り		
5	建具改修工事	○	○
6	内装改修工事		○
7	塗装改修工事	○	○
8	環境配慮改修工事	○	○

- ### II 建築改修工事仕様
- (1) 質問回答書、本特記仕様書(改修)及び図面に記載されていない事項は、すべて「埼玉県建築工事特別共通仕様書」、国土交通省大臣官房官庁設備部監修「公共建築改修工事標準仕様書(建築工編)(令和7年版)」(以下、「改修標準仕様書」という。)、及び国土交通省大臣官房官庁設備部監修「公共建築工事標準仕様書(建築工編)(令和7年版)」(以下、「標準仕様書」という。))による。
なお、新たな版が出版され、当該標準によりがたい場合は、監督員と協議し、適用する標準等を選定する。
(2) 改修標準仕様書及び標準仕様書で「特記がなければ、」以下に具体的な材料、工法、検査方法等を実施している場合において、それらが関係法令等(条例を含む)と異なる場合には、具体的な対応策について監督員と協議すること。
(3) 本特記仕様書の表記
1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。○印の付かない場合は、○印の付いたものを適用する。
3) 特記事項に「印」の付いた場合は、○印と※印の場合には、○のみを適用する。
(4) 特記事項に記載の「. . .」内の表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図表を示す。
(5) 特記事項に記載の「(. . .)」内の表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図表を示す。
(6) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また、()内は製品名を示す。
7) 本工事において、「環境物品等の調達に関する基本方針(最新版)」及び、「埼玉県グリーン調達・環境配慮契約推進方針(最新版)」による特定調達品目のうち、「判断の基準」を満たす環境物品等(以下「特定調達物品等」という)を選択するよう努めるとする。
なお、()印は設計図書で定めのある品目を示す。
8) 注は改修標準仕様書及び標準仕様書記載事項で、注意すべきものを示す。

章	項 目	特 記 事 項
① 一 般 共 通 事 項	① 適用基準等	・埼玉県建築工事実施要領に記載の要領等 ※建築工事監理指針(国土交通省監修)(参考図書) ※建築工事標準詳細図(国土交通省大臣官房官庁設備部監修 令和4年版) なお、新たな版が出版され、当該標準によりがたい場合は、監督員と協議し、適用する基準等を選定する。
	② 条件明示事項	保険の種類 [1.1.3] ※法定外の労災保険(工事に従事する者(全ての下請負人を含む)の業上の負傷等に対象とするもの) ※労働者賠償責任保険等(工事的物及び工事材料等を対象とするもの) ※請負業者賠償責任保険等 保険の期間 ※工事完成期日後14日を含む期間
	③ 工事実績情報の登録	※行う(積込金額500万円以上、10日以内に登録) ・行わない [1.1.4][1.1.8]
	④ 適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の指定には次の条件を用いる。 ○風圧力 風速(Ve=32m/s) 地表面粗度区分(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ) ・積雪荷重 H12.5.31告示第1455号における区域 別表() ・大地震時の非構造部材の変形追随性能を確認する場合の開口形状 ・1/200・1/150・1/120 ・ ・ 図示() 確認箇所()
	⑤ 別契約の関連工事	※監督員指定の別契約工事を今回工事全体としてとらえ、主導的に調整する。 [1.1.7] ※監督員指定の別契約工事が行う全体調整に全面的に協力する。 ※別契約関連工事 川越市みよしの支援センター改築等機械設備工事(工事時期:令和8年10月~令和9年7月) 川越市みよしの支援センター改築等電気設備工事(工事時期:令和8年10月~令和9年7月)
	⑥ 施工に注意を要する区域等	本工事場所は以下の区域等に指定されているため、施工計画の作成 [1.1.12,13]及び施工に当たっては関係法令等の遵守に十分注意する。 ・周知の埋蔵文化財所在地 ○埼玉県指定史跡川越城跡
	7 工事の記録	埼玉県建築工事写真作成要領に基づき作成し、監督員に提出する。 [1.2.4][1.6.6] 埼玉県電子納品運用ガイドライン ※適用する(CD-R又はDVD-Rで1部提出) ・適用しない
	⑧ 電気保安技術者	適用する [1.3.3][1.3.1]
	⑨ 施工条件	施工時間 (1.3.5)[1.3.5] ・行政機関の休日に関する法律(第93第91号)に定める行政機関の休日以外とする。 ただし、監督員等の承諾を受けた場合はこの限りでない。 ・公告に別添付する埼玉県建築工事における「週休2日制モラル工事」特記仕様書を参照のこと 施工時間以外の施工条件 ・図示による ○週休2日制適用工事 本工事は「週休2日制適用工事(現場閉鎖型)」の対象工事である。実施は、川越市週休2日制適用工事要領(建築工事)(令和8年1月20日施行)によるものとする。要領は、川越市総務部技術管理課ホームページで確認のこと。
	⑩ 施工中の安全確保	本工事の受注者を、作業が同一の場所において行われることによる労働災害を防止するために必要な措置を講ずべき者(統括安全衛生管理義務者)とする。 [1.3.7]
	⑪ 環境保全等	建設機械は、原則として排出ガス対策型、低騒音型、低振動型を使用する。 [1.3.11]
	⑫ 発生材の処理等	引渡しを要するもの [1.3.12][1.1.13] ※無し(全て構外搬出適正処理) ・有り(※図示) 注 a) 発生材のうち特記により、引き渡しを要するものは、指示された場所へ整理のうえ廃棄を添えて監督員に報告する。 b) 産業廃棄物処理許可書及び最終処理受入票の写しを提出する。 c) 発塵しないような処理方法を講ずる。 d) 「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(以下「建設リサイクル法」という。)「産業物の処理及び清掃に関する法律」その他関係法令等により適切に処理し監督員に報告する。
	⑬ 産品等の使用	受注者は、工事材料に係る納入契約を締結する場合には、当該契約の相手方は [1.4.2] 埼玉県内に本店を有する者の中から選定するように努めるとともに、調達する工事材料は、埼玉県産とするよう努める。
⑭ 現場への配慮	建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び [1.4.1][1.4.3]性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 ① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを含有しない難燃性の可塑性を除くが添加されていない材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は、可塑性(フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難燃性の可塑性を除く)が添加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発生が極めて少ない材料を使用したものとする。	
⑮ 材料の品質等	※本工事に使用する材料等は、設計図書に定める品質及び性能と同等以上 [1.4.2]のものを使用する。ただし製造業者等が指定されている場合に同等以上のものとする場合は、あらかじめ監督員の承諾を受けなければならない。 ※材料等の製造業者等は次の①から⑤までの事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督員の承諾を受ける。 ① 品質及び性能に関する試験データが整備されていること ② 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること ③ 安定的な供給が可能であること ④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること ⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること ⑥ 販売、保守等の営業体制が整えられていること ※材料等:フローリング又は再生木質ボードを使用する場合は、グリーン購入法の基本方針の判断の基準に従い、あらかじめ「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」(林野庁 H18.2.15)に準拠した証明書を監督員に提出する。 調査 [1.5.1] ※石綿含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。 貸与資料(報告書) ・分析による石綿含有建材の調査 分析対象 アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クワシタイト、クロシタイト、トレモライト	
⑯ 石綿含有建材の調査	調査 [1.5.1] ※石綿含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。 貸与資料(報告書) ・分析による石綿含有建材の調査 分析対象 アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クワシタイト、クロシタイト、トレモライト	
17 技能士	分析対象 アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クワシタイト、クロシタイト、トレモライト	

18 化学物質の濃度測定	内装改修工事 ・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ作業 ・木質系床仕上げ工事作業 ・鋼製地下工事作業 ・タイル張り作業 ・吹付珪藻土/珪藻土断熱工事作業 ・保温保冷工事作業 ・壁紙作業 塗装改修工事 ・木工塗装作業 ・建築塗装作業 耐震改修工事 ・鉄筋組立て作業 ・型枠工事作業 ・とび作業 その他 ・コンクリート工作業 [1.5.9][1.7.9]
19 中間検査	対象化学物質 判定基準 備考 ホルムアルデヒド 100µg/m ³ (0.08ppm) 以下 ※厚生労働省 トルエン 280µg/m ³ (0.07ppm) 以下 指針 キシレン 200µg/m ³ (0.05ppm) 以下 指針 エチルベンゼン 370µg/m ³ (0.08ppm) 以下 換算は25℃ スチレン 220µg/m ³ (0.05ppm) 以下 パラジクロロベンゼン 240µg/m ³ (0.04ppm) 以下 測定方法 採取及び分析は、法令に基づき空気中の物質の濃度に係る証明を行う者が行う。 ①検体の採取方法 ※吸引方式(アクティブ法)又は拡散方式(パッシブ法) ・吸引方式(アクティブ法) ・拡散方式(パッシブ法) ②アクティブ法 ホルムアルデヒドは、ジニトロフェニルヒドラン誘導体固相吸着/溶媒抽出法によって採取し、高濃度クロマトグラフ法(以下HPLC)により行う。 トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン及びパラジクロロベンゼンは、固相吸着/溶媒抽出法、固相吸着/加熱脱着法、容器採取法のいずれかを用いて採取し、ガスクロマトグラフ/質量分析法(以下GC/MS)により行う。 ③パッシブ法 ホルムアルデヒドは、パッシブ採取機器により採取し、HPLC又はガスクロマトグラフ法(以下GC)あるいはA HMT-1吸光光度法のうち採取機器に適応した分析法による。 トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン及びパラジクロロベンゼンは、パッシブ採取機器により採取しGCまたはGC/MSのうち採取機器に適応した分析法による。 測定対象室 ○監督員の指示する室(室) 図示 測定箇所数 ※(本館):2箇所・別館:1箇所) 図示 測定時期 ※工事完了後 報告書 ※2部 中間検査 ※行う(川越市工事検査規則第3条) ・行わない [1.7.2][1.5.1] 中間検査実施回数() 実施段階() 監督員の指示による 中間検査成績評定 ※対象外 ・対象(埼玉県建築工事成績評定要領第2) 監督員の指示により書類を原則電子データで提出する。 [1.8.1~3][1.6.1~3]
20 完成図等	完成図等の種類及び記入内容 完成(竣工)図 ※監督員が指定した設計図面に完成時の状態を表現したもの 図面情報電子化媒体 ※CD-R又はDVD-R、1部 CADデータの形式 ※SXF(sfc) ・DXF ・JWW 保全に関する資料 ※1部 ・部(通常取扱いに注意を要するもの使用方法を解説する)完成写真 川越市電子納品運用ガイドライン ※適用する(CD-R又はDVD-Rで1部提出) ・適用しない 撮影者 ※監督員の承諾する撮影者 撮影箇所 ※外部(5枚)内部(10枚) 着工時と完成時の状況を比較できるように撮影する ・埼玉県建築工事写真作成要領別表5 原本及びアルバムを各1部提出 原本(電子媒体・捺印のないPEFD)及びアルバム(紙媒体又は電子媒体)を各1部提出 パネル入り(外部全量) 完成写真 ・要 ○不要 施設CADデータ ○更新して提出 ・更新しない
21 保証書	防水工事 ※屋上防水 ・外壁防水 ・金属屋根 [1.6.4] 建物引渡し日から10年間、受注者、施工者、材料メーカーの3者連名とし2部提出する。 上記以外 1部提出 ・予備材料 ※監督員の指示による ・下請契約 ※全体及び県内に分け、契約数及び契約金額の総計を講ずること。 ※工事中は事故の無いように十分留意し、災害防止には万全の策を講ずること。また、工事車両は敷地内において徐行を行い交通事故防止に万全を期すること。 ※工事に使用する範囲は必要に応じて養生を行うこと。使用した範囲は清掃を行い現況復旧のこと。また、工事にによる汚損箇所については修復すること。 ※施工の着手前に、必要に応じて施工計画書、施工図及び承諾書等を提出の上、監督員の承諾を受けるとのこと。なお、施工計画書の作成は、監督員と協議すること。 ※関係官庁の届出は、すべて受注者にて対応すること。その際の実用はすべて受注者の負担とする。 ※下請け契約を締結した場合は、「施工体系図」及び「施工体制台帳」を作成し、写しを監督員に提出すること。 ※図面、仕様書の相違又は明記のないとき、もしくは施工上の疑義が生じた場合は、監督員と協議すること。 ※川越市ワンストップサービス対象工事とする。 ※着工に先立ち、工事打合せ用(A3二折折り製本)を8部提出すること。
22 保証書	防水工事 ※屋上防水 ・外壁防水 ・金属屋根 [1.6.4] 建物引渡し日から10年間、受注者、施工者、材料メーカーの3者連名とし2部提出する。 上記以外 1部提出 ・予備材料 ※監督員の指示による ・下請契約 ※全体及び県内に分け、契約数及び契約金額の総計を講ずること。 ※工事中は事故の無いように十分留意し、災害防止には万全の策を講ずること。また、工事車両は敷地内において徐行を行い交通事故防止に万全を期すること。 ※工事に使用する範囲は必要に応じて養生を行うこと。使用した範囲は清掃を行い現況復旧のこと。また、工事にによる汚損箇所については修復すること。 ※施工の着手前に、必要に応じて施工計画書、施工図及び承諾書等を提出の上、監督員の承諾を受けるとのこと。なお、施工計画書の作成は、監督員と協議すること。 ※関係官庁の届出は、すべて受注者にて対応すること。その際の実用はすべて受注者の負担とする。 ※下請け契約を締結した場合は、「施工体系図」及び「施工体制台帳」を作成し、写しを監督員に提出すること。 ※図面、仕様書の相違又は明記のないとき、もしくは施工上の疑義が生じた場合は、監督員と協議すること。 ※川越市ワンストップサービス対象工事とする。 ※着工に先立ち、工事打合せ用(A3二折折り製本)を8部提出すること。
23 その他	防水工事 ※屋上防水 ・外壁防水 ・金属屋根 [1.6.4] 建物引渡し日から10年間、受注者、施工者、材料メーカーの3者連名とし2部提出する。 上記以外 1部提出 ・予備材料 ※監督員の指示による ・下請契約 ※全体及び県内に分け、契約数及び契約金額の総計を講ずること。 ※工事中は事故の無いように十分留意し、災害防止には万全の策を講ずること。また、工事車両は敷地内において徐行を行い交通事故防止に万全を期すること。 ※工事に使用する範囲は必要に応じて養生を行うこと。使用した範囲は清掃を行い現況復旧のこと。また、工事にによる汚損箇所については修復すること。 ※施工の着手前に、必要に応じて施工計画書、施工図及び承諾書等を提出の上、監督員の承諾を受けるとのこと。なお、施工計画書の作成は、監督員と協議すること。 ※関係官庁の届出は、すべて受注者にて対応すること。その際の実用はすべて受注者の負担とする。 ※下請け契約を締結した場合は、「施工体系図」及び「施工体制台帳」を作成し、写しを監督員に提出すること。 ※図面、仕様書の相違又は明記のないとき、もしくは施工上の疑義が生じた場合は、監督員と協議すること。 ※川越市ワンストップサービス対象工事とする。 ※着工に先立ち、工事打合せ用(A3二折折り製本)を8部提出すること。
24 仮設工事	1 騒音・粉じん等の対策 ② 足場等 「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙「手すり先行工法による足場の組立て等作業に関する基準」における2)の手すり据置き方式又は2)手すり専用足場方式により行う。 外部足場 ○設置する(設置範囲・図示) ・ ○設置しない 防護シート ○設置する(設置範囲・図示) ・ ○設置しない 内部足場 ○設置する(※脚立・足場板等) ・ ○設置しない 材料、撤去材等の運搬方法 種別(・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ○E種) ○種:利用可能なエレベーター(図示) D種:利用可能な階段(図示) 建築物止用器具の使用は、「建築物止用器具の安全使用に関するガイドライン」(厚生労働省 H30.6.22)による。 ・フルハネ型壁落止用器具を用いる。 幅が1メートル以上の箇所において足場を使用するときは、原則として本足場を使用する(労働安全衛生規則第561条の2)
25 仮設部分の養生	既存部分 養生の方法(※ビニルシート、合板等) ・ 既存家具、既存設備等 養生の方法(※ビニルシート等) ・ 既存ブラインド、カーテン等 養生の方法(・ビニルシート等) ・ 固定された備品、机、ロッカー等の移動 ・図示 ・ 4 仮設間仕切り 仮設間仕切り及び仮設扉の設置箇所 図示 [2.3.2][表2.3.1] 仮設間仕切りの種別と材質等 種別 下地 仕上げ(厚さmm) 塗装 充填材 ・A種 ・木 ・せっこうボード(9.5mm) ・無し ※有り ・ B種 ・軽量鉄骨 種類() ・片面 ・ C種 ・合板(9.0mm) 材種() ※C種 単管 防災シート 充填材:グラスウール32k(厚:50mm以上)

5 監督員事務所	仮設間仕切りに設ける仮設扉の材質等 材質 仕上げ 塗装 設置箇所 充填材 ※木製 ※合板張り程度 ・無し ※図示 場所 ・有り ・ ・ ・片面 ・ ・ ・無し 充填材:グラスウール32k(厚:50mm以上) 規模 ・既存建物内の一部を使用 [2.4.1] 構内に新設 ※設置しない(下記備品のみに用いる) 備品(名分相当) ・机 ・椅子 ・書棚 ・黒板 ・掛時計 ・電燈計 ・長靴 ・雨合羽 ・保護帽 ・懐中電灯 ・落下制止用具 ・軍手 ・衣類ロッカー ・冷暖房機器 ・消火器 ・湯沸器 ・茶器 ・掃除用具 ・電話機 ・FAX ・電子メール通信機器 ・スキャナー ・プリンター ※設置する([1.1.12]による表示) ・要 ・不要) ・設置しない [2.4.1][1.1.12] 構内既存の施設 ・利用できない ○利用できる(※有償 ・無償) 構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる ※図示 ※設置位置等は監督員の指示による(既存ファンス利用) ・図示 必要に応じて搬入路付近に交通誘導員を配置する。 配置箇所 ※監督員の指示による ・図示 仕様 ※図示
6 現場表示板	調査範囲 ・図示の範囲 [1.6.2,3] 調査方法 ・図示 調査報告書 提出部数 ・2部 ※[3.1.3](5)(7)~(9)による [3.1.3]
7 工用水	既存保護層の撤去 ・行う(範囲・図示) ・行わない [3.2.3,4,6] 既存防水層の撤去 ・行う(範囲・図示) ・行わない 既存露出防水層表面の仕上塗装除去 ・行う(剥離) ・行わない 既存塗膜防水層表面の仕上塗装除去 ・行う(L4X) ・行わない 既存下地の修繕箇所の形状、長さ、數量等 ・図示 [3.2.6] POS工法及びPOSI工法(機械式固定方法)の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処理 ※[3.2.6](4)(9)(g)②~③による 設備機器架台、配管部、パラペット、貫通パイプ回り、手すり・丸線の取付部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理 ・図示 [3.3.2~5]
8 工用電力	屋根保護防水(屋根保護塗膜工法)の種別 工法 種別 施工箇所 断熱材 [G] [9.2.1~3] 絶縁用シート 立上り部の保護 ・P2A ・A-1 乾式 [R]フレキシブル 厚さ0.15mm ・A-2 コラー種 ・A-3 以上 又は7777-7777 70g/m ² 程度 ・P1B ・B-1 ※JIS R 1250 ・B-2 70g/m ² 程度 ・B-3 70g/m ² 程度 ・P2A I ・AI-1 (材質) ※7777-7777 70g/m ² 程度 ・AI-2 ※JIS A 9521に基づく押出法 Iフレキシブル断熱材3種A (※A)層付材 ・P1B I ・B-1 (厚さ) ・ mm ・T1B I ・B1-2 (厚さ) ・ mm 必要アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※[表3.3.3]から[表3.3.9]による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※R種 材料による区分 (厚さ)mm以上 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※[表3.3.3]から[表3.3.9]による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※R種 材料による区分 (厚さ)mm以上 平地の保護コンクリートの厚さ こて仕上げ ※水下 80mm以上 床タイル張り ※水下 60mm以上 ・乾式保護材 産業系パネル1種(厚さ mm, 幅 mm)
9 工用搬入路	層出露出防水 新設防水層(屋根露出工法)の種別 工法 種別 施工箇所 断熱材 [G] 仕上塗料 備考 ・M4C ・C-1 (種類・使用量) ・C-2 ※7777-7777 類 ・C-3 の製造所の仕様 ・C-4 ・M3D ・D-1 (種類・使用量) (脱気装置) ・POD ・D-2 ※7777-7777 類 (改修用Tレ)の製造所の仕様 ・設ける ・設けない ・設ける ・設けない ・P0D I ・D1-1 [3.3.2(9)] (種類・使用量) (脱気装置) ・M3D I ・D1-2 ※7777-7777 類 ・M4D I の製造所の仕様 ・設ける ・設けない ・設ける ・設けない
10 仮囲い	高日射反射率防水の適用 ☑ ※適用する ・適用しない 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※[表3.3.3]から[表3.3.9]による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※R種 材料による区分 (厚さ)mm以上 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※[表3.3.3]から[表3.3.9]による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※R種 材料による区分 (厚さ)mm以上 絶縁断熱工法のルーフトレイン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※図示 絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置數量 種類 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定 設置數量 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定 (組)
11 交通誘導員	
12 快適トイレ	
3 防水改修工事	調査範囲 ・図示の範囲 [1.6.2,3] 調査方法 ・図示 調査報告書 提出部数 ・2部 ※[3.1.3](5)(7)~(9)による [3.1.3] 既存保護層の撤去 ・行う(範囲・図示) ・行わない [3.2.3,4,6] 既存防水層の撤去 ・行う(範囲・図示) ・行わない 既存露出防水層表面の仕上塗装除去 ・行う(剥離) ・行わない 既存塗膜防水層表面の仕上塗装除去 ・行う(L4X) ・行わない 既存下地の修繕箇所の形状、長さ、數量等 ・図示 [3.2.6] POS工法及びPOSI工法(機械式固定方法)の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処理 ※[3.2.6](4)(9)(g)②~③による 設備機器架台、配管部、パラペット、貫通パイプ回り、手すり・丸線の取付部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理 ・図示 [3.3.2~5]
4 既存下地の処理	既存下地の修繕箇所の形状、長さ、數量等 ・図示 [3.2.6] POS工法及びPOSI工法(機械式固定方法)の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処理 ※[3.2.6](4)(9)(g)②~③による 設備機器架台、配管部、パラペット、貫通パイプ回り、手すり・丸線の取付部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理 ・図示 [3.3.2~5]
5 アスファルト防水	屋根保護防水(屋根保護塗膜工法)の種別 工法 種別 施工箇所 断熱材 [G] [9.2.1~3] 絶縁用シート 立上り部の保護 ・P2A ・A-1 乾式 [R]フレキシブル 厚さ0.15mm ・A-2 コラー種 ・A-3 以上 又は7777-7777 70g/m ² 程度 ・P1B ・B-1 ※JIS R 1250 ・B-2 70g/m ² 程度 ・B-3 70g/m ² 程度 ・P2A I ・AI-1 (材質) ※7777-7777 70g/m ² 程度 ・AI-2 ※JIS A 9521に基づく押出法 Iフレキシブル断熱材3種A (※A)層付材 ・P1B I ・B-1 (厚さ) ・ mm ・T1B I ・B1-2 (厚さ) ・ mm 必要アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※[表3.3.3]から[表3.3.9]による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※R種 材料による区分 (厚さ)mm以上 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※[表3.3.3]から[表3.3.9]による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※R種 材料による区分 (厚さ)mm以上 平地の保護コンクリートの厚さ こて仕上げ ※水下 80mm以上 床タイル張り ※水下 60mm以上 ・乾式保護材 産業系パネル1種(厚さ mm, 幅 mm)

Table with 4 columns: 工法, 種別, 施工箇所, 備考. Contains sections for 6 改質アスファルトシート防水, 7 合成高分子系ルーフィングシート防水, and 8 塗膜防水. Includes detailed specifications for waterproofing materials and methods.

Table with 4 columns: 工法, 種別, 施工箇所, 備考. Contains sections for 9 シーリング, 10 とい, 11 アルミニウム製塗工, and 12 防水工事施工. Includes specifications for sealing and waterproofing work.

Table with 4 columns: 工法, 種別, 施工箇所, 備考. Contains sections for 2 欠損部改修工法, 4-2 モルタル塗り仕上げ外壁, 3 欠損部改修工法, 4 浮き部改修工法, and 4-3 タイル張り仕上げ外壁. Includes specifications for repair and finishing work.

Table with 4 columns: 工法, 種別, 施工箇所, 備考. Contains sections for 5 浮き部改修工法, 6 目地改修工法, 4-4 塗り仕上げ外壁等, and 3 マスチック塗料塗り. Includes specifications for repair and coating work.

Table with 2 columns: Item No. and Description. Item 1: 改修工法 (Repair Method) with sub-sections for fire doors, furniture, and aluminum. Item 2: 防火戸 (Fire Door). Item 3: 見本の製作等 (Sample Making, etc.). Item 4: 防犯建物部品 (Security Building Parts). Item 5: アルミニウム製建具 (Aluminum Building Hardware). Item 6: 網戸等 (Screens, etc.). Item 7: 樹脂製建具 (Resin Building Hardware). Item 8: 鋼製建具 (Steel Building Hardware). Item 9: 鋼製軽量建具 (Steel Lightweight Building Hardware).

Table with 2 columns: Item No. and Description. Item 10: ステンレス製建具 (Stainless Steel Building Hardware). Item 11: 木製建具 (Wood Building Hardware). Item 12: 建具用金物 (Hardware for Building Hardware). Item 13: 鍵 (Keys). Item 14: 自動ドア開閉装置 (Automatic Door Opening/Closing Device). Item 15: 自閉式上吊り引戸装置 (Self-Closing Overhead Sliding Door Device). Item 16: 軽量シャッター (Lightweight Shutter).

Table with 2 columns: Item No. and Description. Item 17: 軽量シャッター (Lightweight Shutter). Item 18: オーバーヘッドドア (Overhead Door). Item 19: ガラス (Glass). Item 20: ガラスブロック (Glass Block). Item 21: ガラス用フィルム (Glass Film).

Table with 2 columns: Item No. and Description. Item 22: 改修範囲 (Repair Scope). Item 23: 既存壁の撤去及び下地補修 (Removal of Existing Walls and Underlayment Repair). Item 24: 施工一般 (General Construction). Item 25: 製材 (Material). Item 26: 造作用集材材 (Construction Material). Item 27: 造作用単板積層材 (Construction Single-layer Laminated Material).

Table with 16 rows and multiple columns detailing construction specifications for various materials like composite panels, adhesives, and wood treatments. Includes columns for material type, dimensions, and application methods.

Table with 16 rows detailing construction specifications for ceiling and floor systems. Includes items like ceiling grid, acoustic panels, floor tiles, and floor coverings with their respective standards and installation methods.

Table with 16 rows detailing construction specifications for wall and ceiling treatments. Includes items like plaster, paint, and wall coverings, with detailed instructions on application and material selection.

Table with 16 rows detailing construction specifications for acoustic and insulation treatments. Includes items like acoustic panels, insulation, and wall treatments, with specific performance requirements and installation details.

36	可動間仕切	フリーアクセスフロアの試験方法 ※標準仕様書20.2.2(2)(f)(a)~(d)による 寸法精度 ※標準仕様書20.2.2(2)(f)(a)~(c)による 以下による パネルの長さの寸法精度() パネルの平面形状(角度)の寸法精度() フリーアクセスフロアの高さの寸法精度()	(20.2.3)
		帯電防止性能 ・評価値(U) ≥0.6以上 ・評価値(V) ≥1.2以上 感電防止性能 漏えい抵抗(R) ≥1×10 ⁵ Ω	
37	移動間仕切	パネル材料のホルムアルデヒド放出量 ※F☆☆☆☆ (20.2.3)	
		パネル材料のホルムアルデヒド放射線量 ※F☆☆☆☆ (20.2.4)	
38	トイレブース	パネル材料のホルムアルデヒド放射線量 ※F☆☆☆☆ (20.2.5)	
		パネルの種類及び仕上げ ・ SUS304 表面処理 ※HL程度 ・ 鋼製 表面処理 ※溶融亜鉛めっき(※標準仕様書 表14.2.2による種別(種)) ・ アルミニウム 表面処理(※標準仕様書 表14.2.1による種別(種)) 色色等・標準色()・特注色()	
39	手すり	材料の種類及び仕上げ ・ SUS304 表面処理 ※HL程度 ・ 鋼製 表面処理 ※溶融亜鉛めっき(※標準仕様書 表14.2.2による種別(種)) ・ アルミニウム 表面処理(※標準仕様書 表14.2.1による種別(種)) 色色等・標準色()・特注色()	
40	階段滑り止め	材質 ○ステンレス製 ・黄銅製押出型材 ・ アルミニウム製押出型材 形状 ※タイヤ型(タイヤの材質:ゴム又は合成樹脂等) ○タイヤレス製 端部の形状 フラットエンド・あり ○なし 寸法(幅) ○35mm程度 ・40mm程度 取付け工法 ※接着工法 ・埋め込み工法	
41	黒板及びホワイトボード	黒板 区分 ※焼き付け 種類 ・ほうろう ・鋼製 色 ※緑 ○ホワイトボード(図示)	
42	表示	衝突防止表示 設置場所 ※図示による 形状・寸法(・30φ) 材質 (・ステンレス製 ・塩ビシート) 設置しない 誘導標識、非常用出入口等の表示 ※消防法に適合する市販品 室名札、ピクトグラム、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、 取付け形式等(案内用図記号はJIS Z 8210による) ※図示による	
43	タラップ	材質及び仕上げ ・ SUS304 (スリップ止め加工 ※あり ・なし) ・ 鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき (※標準仕様書表 14.2.2による種別(※C種 ・種))	
44	ブラインド	構造形式 ・ スプリング式 ・コード式 ・電動式 幅・高さ、取付箇所 材料 材質等 品質等 その他の材料 ※ロールスクリーンの製造所の仕様による スクリーンの仕様 消防法で定める防炎性能の表示があるもの ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は ○とする	
45	ロールスクリーン	構造形式 ・ スプリング式 ・コード式 ・電動式 幅・高さ、取付箇所 材料 材質等 品質等 その他の材料 ※ロールスクリーンの製造所の仕様による スクリーンの仕様 消防法で定める防炎性能の表示があるもの ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は ○とする	

46	カーテン	形式 ・ シングル・片引き ○手引き ○つまみひだ ○ダブル ○引分け ・ ひも引き ・ 箱ひだ、片ひだ ・ 電動 ・ プレヒだ	(20.2.16)
47	カーテンレール	生地仕様 ・ 消防法で定める防炎性能の表示があるもの ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した場合は、 <input type="checkbox"/> とする 暗幕カーテンの両端、上部及び合合せの重なり ※300mm以上	
48	ブラインドボックス及びカーテンボックス	材料による区分 ※アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材 ・ ステンレス製 強さによる区分 ※10-90 仕上げ ※アルマイト 形状 ※角形	(20.2.16)
49	天井点検口	寸法 ・ 90×150 ・ 120×80 ○120×150 ・ 150×80 ・ 図示 材質 ○集成材(仕上げ:SOP) ・ アルミニウム製 押出し型材(市販品) 種別(標準仕様書表14.2.1) ・ B0-1種 ・ B0-2種 色色い ・ 標準色() ・ 特注色() ・ 鋼製(仕上げ)	
50	床点検口	寸法 ・ 450×450 ・ 一般形 ・ 屋内外用 ○隠線タイプ ○隠線タイプ ・ 600×600 ・ 密閉形 ・ 屋内用 ・ 目地タイプ ・ 目地タイプ 材質 ・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製	
51	くつふきマット	材質 ・ 塩化ビニル又はゴム製 ・ 硬質アルミニウム合金製 ○ステンレス鋼(SUS304)製	
52	流し台ユニット	材質 ・ W ・ D ・ H 市販品 排水口 材質 ・ 樹脂製 ・ 鋼製	
53	鋼製書架及び物品棚	材質 ・ SUS304 ・ 鋼製 ・ アルミニウム製 ・ ステンレス鋼(SUS304)製	
54	屋内掲示板	枠の材質 ※アルミニウム製 ○集成材 SOP塗装 表面の材質 ※塩ビ発泡シート張り	
55	洗面カウンター	材質 ・ メラミン樹脂化粧板張り(芯材:集成材) ・ 人工大理石 奥行き(mm) ・ 約450 ・ 約600	
56	防煙垂れ壁	材質 ・ 鋼製 ・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 1段式	
57	収納家具	材質、形状、寸法 ※図示 材料のホルムアルデヒド放射線量 ※F☆☆☆☆	
7	塗装改修工事	① 材料 ② 下地調整	[7.1.3] [7.2.1~7]

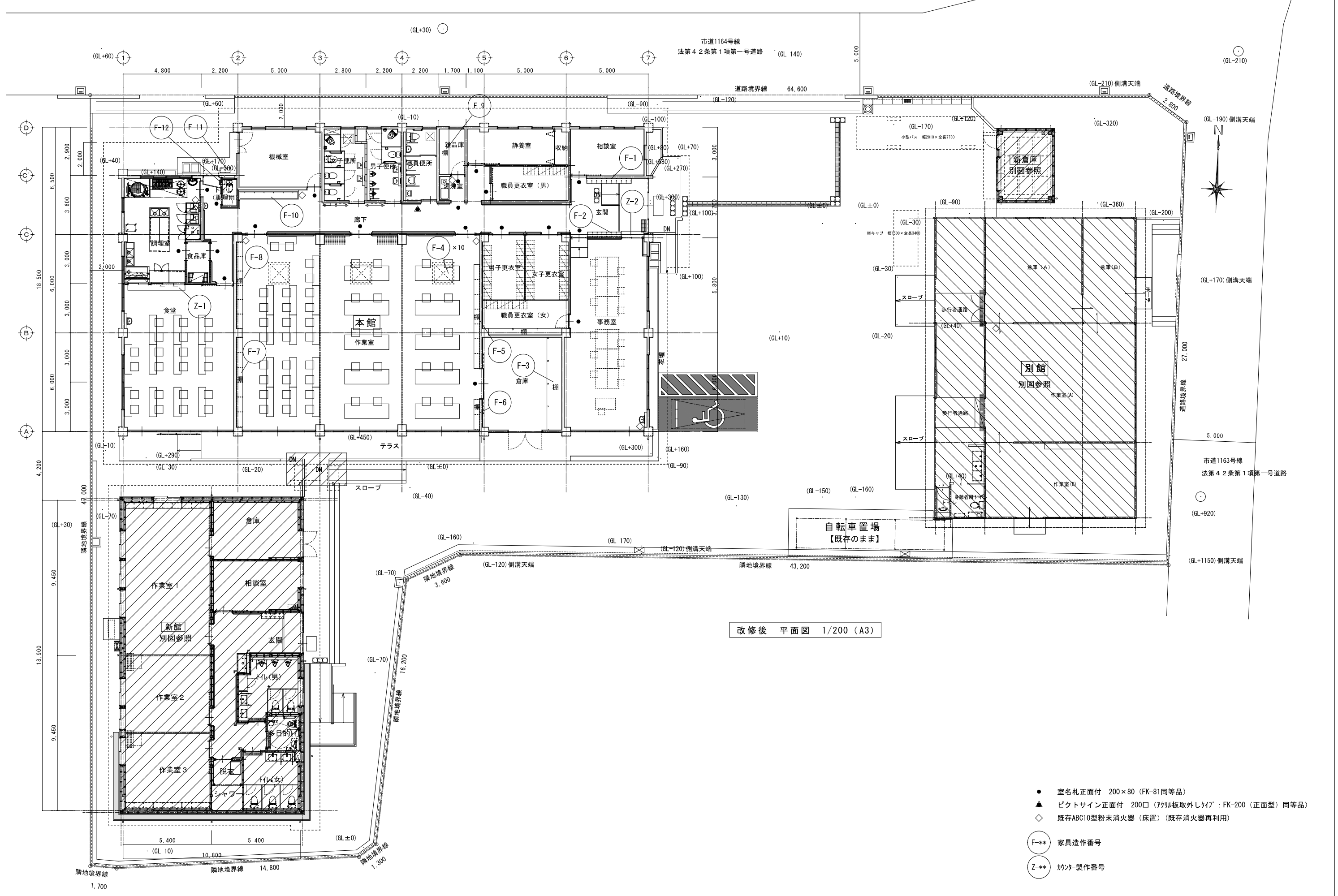
3	石綿含有吹付け材の除去(レベル1)	除去対象範囲 ・ 図示 除去工法 ※[9.1.3](2)(f)による 除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置 ※密封処理 ※溶融化 図形化 除去した石綿含有吹付け材等の処分 ・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融施設または無害化処理施設)	[9.1.3]
4	石綿含有保温材等の除去(レベル2)	除去工法 ※[9.1.4](2)による(原形のまま、手ばらしが可能な場合) 除去対象範囲 ・ 図示 ・ [9.1.3](2)による(損傷、劣化等で石綿粉塵を発生するおそれがある場合) 除去対象範囲 ・ 図示 除去した石綿含有保温材等の飛散防止措置 ※密封処理 ※溶融化 図形化 除去した石綿含有保温材等の処分 ・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融施設または無害化処理施設)	[9.1.4]
5	石綿含有成形板の除去(レベル3)	除去対象範囲 ○図示 石綿含有けい酸カルシウム板第一種の場合の隔離養生(負圧不要)方法 ・ ビニールシートによる養生を行う 除去した石綿含有成形板の処分 ・ 石綿含有せっこうボード ※埋立処分(管理型最終処分場) ・ 石綿含有せっこうボード ・ 石綿含有けい酸カルシウム板第一種の場合の隔離養生(負圧不要)方法 ・ 埋立処分(安定型最終処分場) ・ 中間処理(溶融施設または無害化処理施設)	[9.1.5]
6	石綿含有建築用仕上塗材等の除去(レベル3)	除去対象範囲 ・ 図示 ・ 行わない 除去工法 ・ 行わない 除去した石綿含有建築用仕上塗材等の飛散防止 ※密封処理 ※溶融化 図形化 除去した石綿含有建築用仕上塗材等の処分 ・ 埋立処分(安定型最終処分場) ・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融施設または無害化処理施設)	[9.1.6]
7	その他	・ 近隣説明及び諸官庁への届出は受注者が行い、事前に監督官と協議すること。 ※アベスト含有扱いは建材は、下記行政指導マニュアル等に従い適切に撤去処分すること。 ・ 環境省:建築物等の解体等に係る石綿くさび露出防止及び石綿飛散防止対策徹底 ・ 埼玉県環境部大気環境課:石綿飛散防止対策マニュアル	

③	養生ごしらえ	[7.3.2~7]
4	錆止め塗料塗り	[7.4.2, 3]
5	塗装	[7.5.2~7.13.2]
⑧	環境配慮改修工事	[9.1.1] [9.1.2] [9.1.3]

外部仕上表			
軒・軒裏	改修前	複層仕上塗材E【サンダー工法による撤去】	外壁
	改修後	下地調整材、可とう形外装薄塗材E【新設】 クラック：Uカットシーリング材充填方法	
	改修前	モルタル塗り仕上の上、複層塗材E（ゆず肌）ローラー仕上【既存のまま】	
	改修後	トップコート改修：外壁全面清掃（高圧水施工）の上、下塗材塗布、複層仕上塗材E用上塗材（2回）【新設】 （一部）ALC厚100 複層仕上塗材E【新設】	

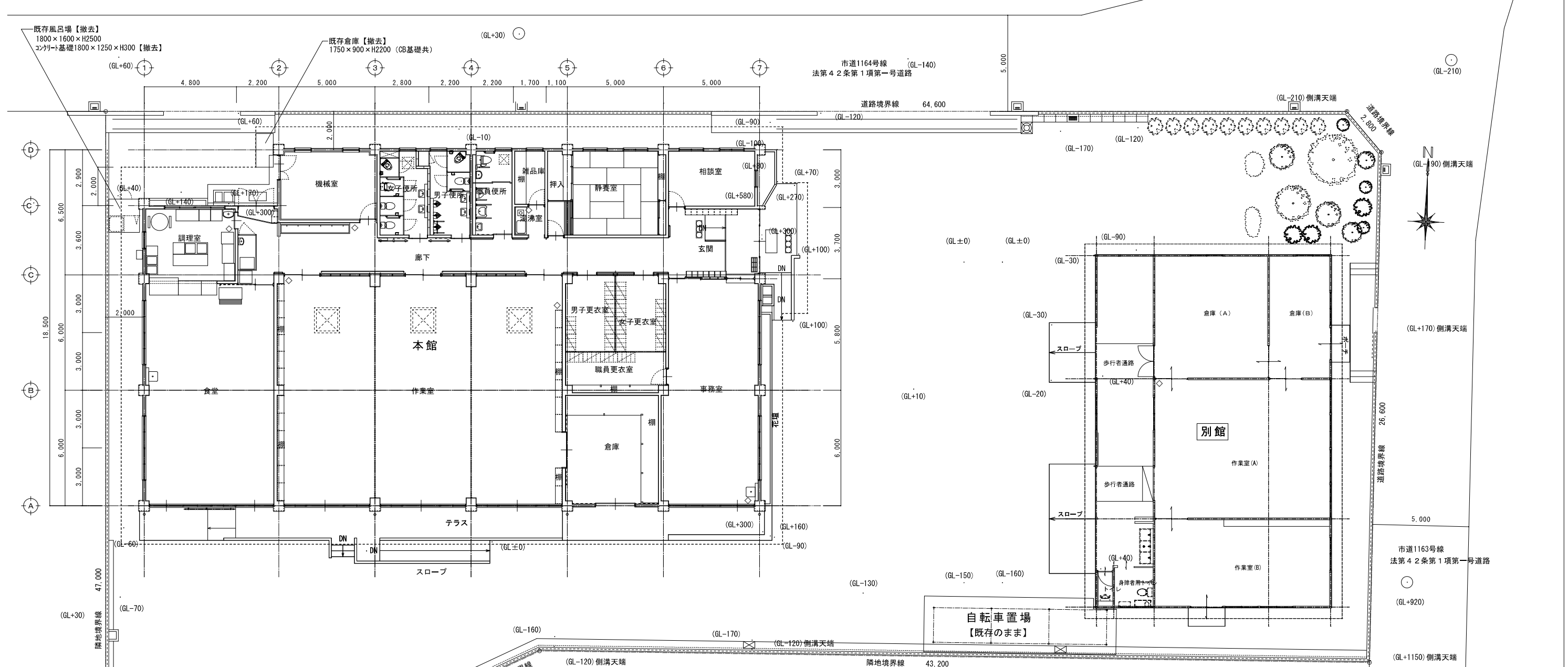
内部仕上表 1									
室名		床	巾木	壁	天井	天井高	廻り縁	備考	
玄関	改修前	150角タイル【既存のまま】 ビニールタイル t 2.0【撤去】 点字タイル【撤去】	モルタル金ゴテVP H150 【下地調整】 ラワンOP H60 【撤去】	モルタル金ゴテVP【下地調整】 木製パーティション：ラワンベニヤ t 5.5 OP【撤去】	石膏ボード t 9.0 EP【撤去】 (LGS天井下地共)	2,500 ~2,650	塩ビ製 【撤去】	木製下足入【撤去】、スチール製傘立て【撤去】	
	改修後	既存150角タイル【デッキブラシ洗い清掃】 下地調整の上、ビニール床シート t 2.0【新設】 点字タイル【新設】	既存モルタル金ゴテ EP-G塗装【新設】 ソフト巾木 H60 【新設】	既存モルタル金ゴテ EP-G塗装【新設】 LGS65形 強化石膏ボード t 12.5+12.5両面張り(継目処理工法) EP-G塗装【新設】	化粧石膏ボード t 9.5【新設】 (LGS天井下地19形@225共)	2,500 ~2,650	塩ビ製 【新設】	木製下足入【新設】、SUS製傘立て【新設】	
廊下	改修前	ビニールタイル t 2.0【撤去】	ラワンOP H60 【撤去】	モルタル金ゴテVP【下地調整】 木製パーティション：ラワンベニヤ t 5.5 OP【撤去】	石膏ボード t 9.0 EP【撤去】 (LGS天井下地共)	2,500	塩ビ製 【撤去】	手洗い【撤去】(機械設備工事)、掲示板【木製枠：下地調整】 木製額縁【下地調整】	
	改修後	下地調整の上、ビニール床シート t 2.0【新設】	ソフト巾木 H60 【新設】	既存モルタル金ゴテ EP-G塗装【新設】 LGS65形 強化石膏ボード t 12.5+12.5両面張り(継目処理工法) EP-G塗装【新設】	化粧石膏ボード t 9.5【新設】 (LGS天井下地19形@225共)	2,500	塩ビ製 【新設】	手洗い【新設】(機械設備工事)、既存掲示板【木製枠：SOP塗装】 既存木製額縁 SOP塗装【新設】、ビーム手摺φ34(木目調)【新設】	
作業室	改修前	フローリングブロック【撤去】	ラワンOP H60 【下地調整】	モルタル金ゴテVP【下地調整】	石膏ボード t 9.0 EP【撤去】 (LGS天井下地共)	2,800	塩ビ製 【撤去】	黒板【撤去】、木製棚【撤去】 トプライト【既存のまま】、スライディングウォール【既存のまま】 カーテンレール【撤去】、木製カーテンBOX【下地調整】、木製額縁【下地調整】	
	改修後	化粧複合フローリング t 15.0(塗装品)【新設】	既存ラワン SOP塗装 【新設】 木製巾木H60 SOP塗装 【新設】	既存モルタル金ゴテ EP-G塗装【新設】	ロックウール化粧吸音板 厚12【新設】 石膏ボード 厚9.5下地 (LGS天井下地19形@360共)	2,800	塩ビ製 【新設】	ホワイボード【新設】、木製棚【新設】 カーテンレール【新設】、既存木製カーテンBOX SOP塗装【新設】、既存木製額縁 SOP塗装【新設】	
湯沸室	改修前	人造石研出【既存のまま】	モルタル金ゴテVP H60 【下地調整】	モルタル金ゴテVP【下地調整】 100角タイル【撤去】	フレキシブルボード t 6.3(アスベスト含有建材)VP【撤去】 (LGS天井下地共)	2,500	塩ビ製 【撤去】	吊戸棚【撤去】、調理台【既存のまま】、湯沸器【既存のまま】 木製三方枠【下地調整】、木製片開扉【撤去】	
	改修後	人造石研出【デッキブラシ洗い清掃】	既存モルタル金ゴテ EP-G塗装【新設】	既存モルタル金ゴテ EP-G塗装【新設】 既存タイル撤去部：珪藻土化粧板 t 3.0直張り【新設】	化粧石膏ボード t 9.5【新設】 (LGS天井下地19形@225共)	2,500	塩ビ製 【新設】	木製吊戸棚(ホリ合板仕上)【新設】、既存木製三方枠 SOP塗装【新設】、LSD【新設】	
静養室	改修前	木床下地【撤去】 畳 t 55【撤去】一部板張り【撤去】 一部ビニールタイル t 2.0【撤去】	畳寄せ【撤去】 ラワンOP H60【撤去】	モルタル金ゴテ【撤去】の上、ジュラクサティン吹付【撤去】	木目調石膏ボード t 9.0【撤去】 (LGS天井下地共)	2,350~ 2,500	木製 【撤去】	押入【撤去】 カーテンレール【撤去】、木製カーテンBOX【撤去】、木製額縁【下地調整】	
	改修後	モルタル金ゴテ ビニール床シート t 2.0【新設】	ソフト巾木 H60【新設】	モルタル金ゴテ 不燃クロス貼【新設】 LGS65形 石膏ボード t 12.5+12.5両面張り(継目処理工法) 不燃クロス貼【新設】	化粧石膏ボード t 9.5【新設】 (LGS天井下地19形@225共)	2,500	塩ビ製 【新設】	カーテンレール【新設】、木製カーテンBOX SOP塗装【新設】、既存木製額縁 SOP塗装【新設】	
食堂	改修前	フローリングブロック【撤去】	ラワンOP H60 【下地調整一部撤去】	モルタル金ゴテVP【下地調整】	化粧石膏ボード t 9.0【撤去】 (LGS天井下地共)	2,800	塩ビ製 【撤去】	手洗・鏡【撤去】(機械設備工事)、掲示板【撤去】、黒板【撤去】、木製スクリーンBOX【下地調整】 カーテンレール【撤去】、木製カーテンBOX【下地調整】、木製額縁【下地調整】	
	改修後	化粧複合フローリング t 15.0(塗装品)【新設】	既存ラワン SOP塗装 【新設】 木製巾木H60 SOP塗装 【新設】	既存モルタル金ゴテ EP-G塗装【新設】 LGS65形 強化石膏ボード t 12.5+12.5両面張り(継目処理工法) EP-G塗装【新設】	化粧石膏ボード t 9.5【新設】 (LGS天井下地19形@225共)	2,800	塩ビ製 【新設】	手洗・鏡【新設】(機械設備工事)、ホワイボード【新設】、既存木製スクリーンBOX SOP塗装【新設】 カーテンレール【新設】、既存木製カーテンBOX SOP塗装【新設】、既存木製額縁 SOP塗装【新設】	
調理室 ・ 食品庫 (改修後のみ)	改修前	塩ビシート【撤去】	ソフト巾木 H60 【撤去】	モルタル金ゴテVP【既存のまま】 ステンレス板貼【撤去】	フレキシブルボード t 6.3(アスベスト含有建材)VP【撤去】 (LGS天井下地共)	2,500	塩ビ製 【撤去】	調理機器【撤去】(機械設備工事) 木製額縁【下地調整・一部撤去】	
	改修後	下地調整の上、防滑ビニール床シート t 2.5【新設】 食堂改修部：モルタル金ゴテの上、防滑ビニール床シート t 2.5【新設】 一部塗床【新設】	ビニール床シート巻上げ H100【新設】 一部塗床H100【新設】	既存モルタル金ゴテ 珪藻土化粧板 t 3.0貼【新設】(垂れ壁共) LGS65形 石膏ボード t 12.5+12.5両面張り(継目処理工法) 珪藻土化粧板 t 3.0貼【新設】	ケ酸カルシウム板 t 6.0 目透し貼 EP-G塗装【新設】 (LGS天井下地19形@225共)	2,500	塩ビ製 【新設】	調理機器【新設】(機械設備工事) 既存木製額縁 SOP塗装【新設】、7mm額縁【新設】	
事務室	改修前	フローリングブロック【撤去】	ラワンOP H60 【撤去】	モルタル金ゴテVP【下地調整】	化粧石膏ボード t 9.0【撤去】 (LGS天井下地共)	2,800	塩ビ製 【撤去】	木製カーテン【撤去】、手洗【撤去】(機械設備工事)、黒板【撤去】、掲示板【撤去】 木製カーテンBOX【下地調整】、木製額縁【下地調整】	
	改修後	ビニール床タイル 500x500xt5 鋼製OAフロアーH50 セメント系セルフレベリング 厚10	ソフト巾木 H60【新設】 一部SUS巾木 H60【新設】	既存モルタル金ゴテ EP-G塗装【新設】 LGS65形 強化石膏ボード t 12.5+12.5両面張り(継目処理工法) EP-G塗装【新設】	化粧石膏ボード t 9.5【新設】 (LGS天井下地19形@225共)	2,750	塩ビ製 【新設】	木製カーテン【新設】、手洗【新設】(機械設備工事)、ホワイボード【新設】、掲示板【新設】 カーテンレール【新設】、既存木製カーテンBOX SOP塗装【新設】、既存木製額縁 SOP塗装【新設】	

内部仕上表 2								
室名		床	巾木	壁	天井	天井高	廻り縁	備考
職員更衣室 ↓ 職員更衣室(女)	改修前	ビニールタイル t 2.0 【撤去】	ラワンOP H60 【下地調整】	モルタル金ゴテVP 【下地調整】	石膏ボード t 9.0 WP 【撤去】 (LGS天井下地共)	2.500	塩ビ製 【撤去】	木製棚 【下地調整】
	改修後	下地調整の上、ビニル床シート t 2.0 【新設】	既存ラワン SOP塗装 【新設】	既存モルタル金ゴテ EP-G塗装 【新設】	化粧石膏ボード t 9.5 【新設】 (LGS天井下地19形@225共)	2.500	塩ビ製 【新設】	既存木製棚 SOP塗装 【新設】、スチールロッカ 【備品】
静養室 ↓ 職員更衣室(男) 前室	改修前	木床下地 【撤去】 畳 t 55 【撤去】 一部板張り 【撤去】 一部ビニールタイル t 2.0 【撤去】	畳寄せ 【撤去】	モルタル金ゴテ 【撤去】 の上、ジュラクサティン吹付 【撤去】	木目調石膏ボード t 9.0 【撤去】 (LGS天井下地共)	2.350~ 2.500	木製 【撤去】	押入 【撤去】
	改修後	モルタル金ゴテ、ビニル床シート t 2.0 【新設】	ソフト巾木 H60 【新設】	モルタル金ゴテ EP-G塗装 【新設】 LGS65形 石膏ボード t 12.5+12.5両面張り (継目処理工法) EP-G塗装 【新設】	化粧石膏ボード t 9.5 【新設】 (LGS天井下地19形@225共)	2.500	塩ビ製 【新設】	スチールロッカ 【備品】
男子更衣室 女子更衣室	改修前	ビニールタイル t 2.0 【撤去】	ラワンOP H60 【下地調整】	モルタル金ゴテVP 【下地調整】	石膏ボード t 9.0 WP 【撤去】 (LGS天井下地共)	2.500	塩ビ製 【撤去】	可動間仕切壁 【既存のまま】
	改修後	下地調整の上、ビニル床シート t 2.0 【新設】	既存ラワン SOP塗装 【新設】	既存モルタル金ゴテ EP-G塗装 【新設】	化粧石膏ボード t 9.5 【新設】 (LGS天井下地19形@225共)	2.500	塩ビ製 【新設】	スチールロッカ 【備品】
相談室	改修前	ビニールタイル t 2.0 【撤去】	ラワンOP H60 【下地調整】	モルタル金ゴテVP 【下地調整】	化粧石膏ボード t 9.0 【撤去】 (LGS天井下地共)	2.500	塩ビ製 【撤去】	掲示板 【撤去】、黒板 【撤去】 カチンレール 【撤去】、木製カチンBOX 【下地調整】、木製額縁 【下地調整】
	改修後	下地調整の上、ビニル床シート t 2.0 【新設】	既存ラワン SOP塗装 【新設】	既存モルタル金ゴテ EP-G塗装 【新設】	化粧石膏ボード t 9.5 【新設】 (LGS天井下地19形@225共)	2.500	塩ビ製 【新設】	ホワイトボード 【新設】 カチンレール 【新設】、既存木製カチンBOX SOP塗装 【新設】、既存木製額縁 SOP塗装 【新設】
倉庫	改修前	モルタル金ゴテ 塗床 【既存のまま】	モルタル金ゴテVP 【下地調整】	モルタル金ゴテVP 【下地調整】	石膏ボード t 9.0 WP 【撤去】 (LGS天井下地共)	2.800	塩ビ製 【撤去】	木製棚 【撤去】 木製建具 (枠共) 【下地調整】
	改修後	下地調整の上、塗床 【新設】	既存モルタル金ゴテ EP-G塗装 【新設】	既存モルタル金ゴテ EP-G塗装 【新設】	化粧石膏ボード t 9.5 【新設】 (LGS天井下地19形@225共)	2.800	塩ビ製 【新設】	木製棚 【新設】 既存木製建具 (枠共) SOP塗装 【新設】
男子便所 女子便所	改修前	磁器質50角モザイクタイル 【既存のまま】	磁器質100角タイル 【既存のまま】	腰壁：磁器質100角タイル 【既存のまま】 上壁：襜層塗材 【既存のまま】	フレキシブルボード t 6.3 (アスベスト含有建材) VP 【撤去】 (LGS天井下地共)	2.500	塩ビ製 【撤去】	トイレブース 【既存のまま】、衛生器具 【既存のまま】
	改修後	既存磁器質50角モザイクタイル 【デッキ」 水洗い清掃】	既存磁器質100角タイル 【デッキ」 水洗い清掃】	腰壁：磁器質100角タイル 【デッキ」 水洗い清掃】	ケ酸カルシウム板 t 6.0 目透し貼 EP-G塗装 【新設】 (LGS天井下地19形@225共)	2.500	塩ビ製 【新設】	
職員便所	改修前	磁器質50角モザイクタイル 【既存のまま】	磁器質100角タイル 【既存のまま】	腰壁：磁器質100角タイル 【既存のまま】 上壁：トップコート2回塗 【既存のまま】	フレキシブルボード t 6.3 (アスベスト含有建材) VP 【撤去】 (LGS天井下地共)	2.500	塩ビ製 【撤去】	トイレブース 【既存のまま】、衛生器具 【既存のまま】
	改修後	既存磁器質50角モザイクタイル 【デッキ」 水洗い清掃】	既存磁器質100角タイル 【デッキ」 水洗い清掃】	腰壁：磁器質100角タイル 【デッキ」 水洗い清掃】	珪酸カルシウム板 目透かし張り t 6.0 EP-G塗装 (LGS天井下地19形@225共)	2.500	塩ビ製 【新設】	
機械室	改修前	モルタル金ゴテ 塗床 【既存のまま】	モルタル金ゴテVP 【既存のまま】	グラスウール断熱材亀甲金網張り t 50 【撤去】	グラスウール断熱材亀甲金網張り t 50 【撤去】	—	—	スチール製ゲ」レーン」 W300×L3000 【撤去】、木製額縁 【下地調整】
	改修後	下地調整の上、塗床 【新設】	既存モルタル金ゴテ EP-G塗装 【新設】	グラスウール断熱材ガラスクロス張り t 50 【新設】	グラスウール断熱材ガラスクロス張り t 50 【新設】	—	—	SUS製細目ゲ」レーン」 W300×L3000 【新設】、既存木製額縁 SOP塗装 【新設】
雑品庫	改修前	モルタル金ゴテ 塗床 【下地調整】	モルタル金ゴテVP 【下地調整】	モルタル金ゴテVP 【下地調整】	石膏ボード t 9.0 WP 【撤去】 (LGS天井下地共)	2.500	塩ビ製 【撤去】	木製棚 【撤去】
	改修後	既存モルタル金ゴテ 塗床 【新設】	既存モルタル金ゴテ EP-G塗装 【新設】	既存モルタル金ゴテ EP-G塗装 【新設】	化粧石膏ボード t 9.5 【新設】 (LGS天井下地19形@225共)	2.500	塩ビ製 【新設】	木製棚 【新設】
トイレ (調理用)	改修前	廊下と同じ	同左	同左	同左	同左	同左	
	改修後	下地調整の上、ビニル床シート t 2.0 【新設】 (一部)モルタル金ゴテ、ビニル床シート t 2.0 【新設】	ソフト巾木 H60 【新設】	LGS65形 石膏ボード t 12.5+12.5両面張り (継目処理工法) 不燃クロス貼 【新設】	化粧石膏ボード t 9.5 【新設】 (LGS天井下地19形@225共)	2.500	塩ビ製 【新設】	L字型手摺 【新設】 洋便器 【新設】 (機械設備工事)



改修後 平面図 1/200 (A3)

- 室名札正面付 200×80 (FK-81同等品)
- ▲ ピクトサイン正面付 200口 (7mm板取外しタイプ: FK-200 (正面型) 同等品)
- ◇ 既存ABC10型粉末消火器 (床置) (既存消火器再利用)
- F-** 家具造作番号
- Z-** カンパ-製作番号

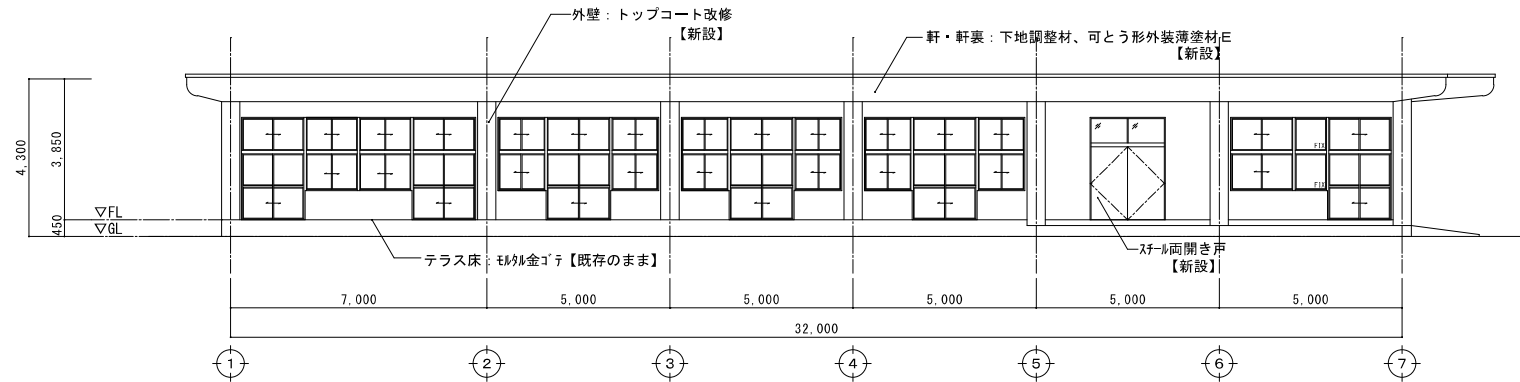


改修前 平面図 1/200 (A3)

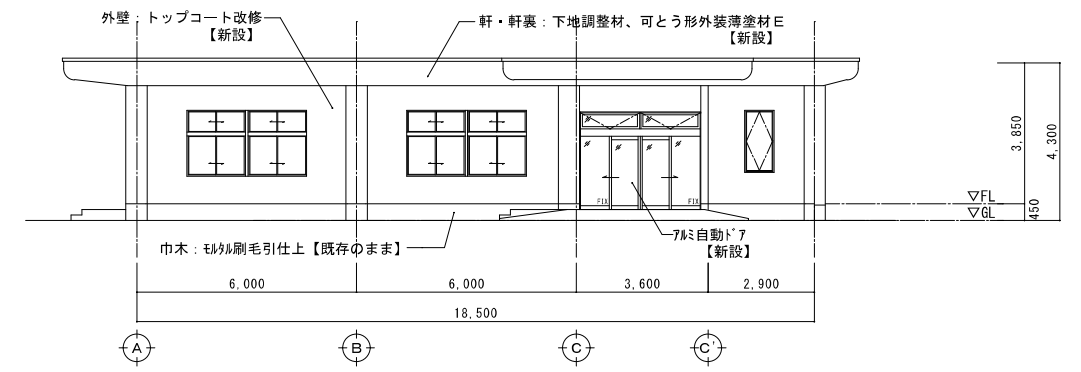
◇ 既存ABC10型粉末消火器 (床置)

本館 備品撤去・移設リスト (本工程を含む) ※撤去・移設前に施設管理者と調整を行うこと。また、移設先は工事の進捗により、敷地内の別棟等に移設とし、元の位置に再設置とする。

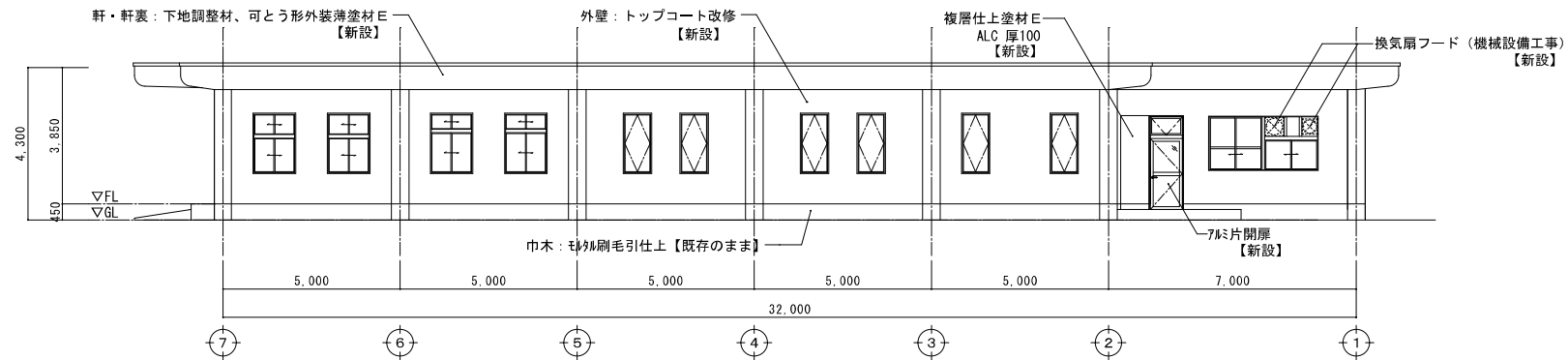
室名	名称	寸法	数量	数量	室名	名称	寸法	数量	数量	室名	名称	寸法	数量	数量		
作業室	スチール製テーブルA	1800x450xH700	2	撤去	食堂	スチール製テーブル (天板木製) A	1800x450xH730	2	撤去	相談室	スチール製テーブルA	1800x450xH700	2	移設		
	スチール製テーブルB	900x450xH770	1	撤去		スチール製テーブルC	1800x900xH710	5	撤去		事務用椅子B	530x500xH830	1	移設		
	木製作業机A	2700x900xH720	6	撤去		スチール製テーブルD	900x900xH710	1	撤去		折畳ハイ椅子	400x500xH700	5	移設		
	木製作業机B	1350x900xH720	4	撤去		スチール製椅子A	450x450xH750	1	撤去		木製保管庫	W950xD380xH1600	1	移設		
	木製作業机C	1650x760xH760	1	撤去		薄型テレビ	W650xH530	1	移設		体重計	W300xD600xH1250	1	移設		
	木製作業机D	1800x900xH760	1	撤去		テレビ台A	W600xD460xH420	1	移設		身長計	W300xD400xH2150	1	移設		
	スチール製事務机	1000x700xH730	1	移設		木製戸棚	W600xD400xH500	1	移設							
	学校生徒用机	600x400xH730	1	移設							事務室	スチール製テーブルC	1800x900xH710	2	移設	
	スチール製椅子A	450x450xH750	26	撤去		廊下	ホーロンカー	H1700	1			移設	スチール製テーブルF	1800x750xH680	2	移設
	事務用椅子A	450x450xH850	1	移設		スチール製テーブルE	700x700xH750	1	移設			学校生徒用机	600x400xH730	1	移設	
	一人用カー	550x600xH700	1	移設	機械室	スチールラック (棚板共)	W700xD550xH1160	1	移設	事務用椅子A		450x450xH850	1	移設		
	木製収納ボックスA	W450xD300xH600	1	移設	フレーム (扉のみ)	W860xH2000	3	移設	事務用椅子C	420x460xH740		4	移設			
	木製収納ボックスB	W450xD300xH900	2	移設	スチール製椅子A	450x450xH750	15	移設	木製テーブル	900x450xH450	1	移設				
	倉庫	スチールラックA (棚板共)	W900xD450xH1800	1	移設	雑品庫	スチール製テーブル (天板木製) B	600x400xH510	1	移設	折畳ハイ椅子	400x500xH700	7	移設		
		スチールラックB (フレームのみ)	W1900xD500xH2300	1	移設		丸椅子	φ300xH470	1	移設	ハイ椅子	400x500xH700	2	移設		
スチールラックC (フレームのみ)		W1900xD620xH2330	1	移設	静養室		丸シェルフ	W550xD350xH830	1	移設	スチール戸棚B	W600xD400xH880	1	移設		
スチールラックC棚板		1730x300xH35	10	移設		スチール製メッシュ棚	W500xD370xH1320	1	移設	スチール戸棚C	W400xD600xH570	1	移設			
スチール棚A		W900xD460xH2100	1	移設		スチール製椅子B	600x500xH750	1	移設	スチール戸棚D	W880xD380xH1340	1	移設			
スチール戸棚A		W400xD620xH660	1	移設	スチールロッカー (3人用)	W900xD515xH1800	1	撤去	スチール戸棚E	W880xD400xH880	1	移設				
台車A		W400xD700xH970	1	移設	スチール製テーブル (天板木製) B	600x400xH510	1	移設	スチール戸棚F	W880xD400xH940	1	移設				
						ブラケットテレビ	W860xD600xH600	1	撤去	スチール戸棚G	W880xD400xH890	1	移設			
					テレビ台B	W870xD650xH430	1	移設	スチールラックE (棚板共)	W500xD400xH660	1	移設				
					スチール製テーブル (天板木製) C	1800x450xH330	6	移設	スチールラックF (棚板共)	W400xD300xH970	1	移設				
									ブラケットコンテナ	W470xD700xH100	5	移設				
									台車B	W470xD700xH900	1	移設				



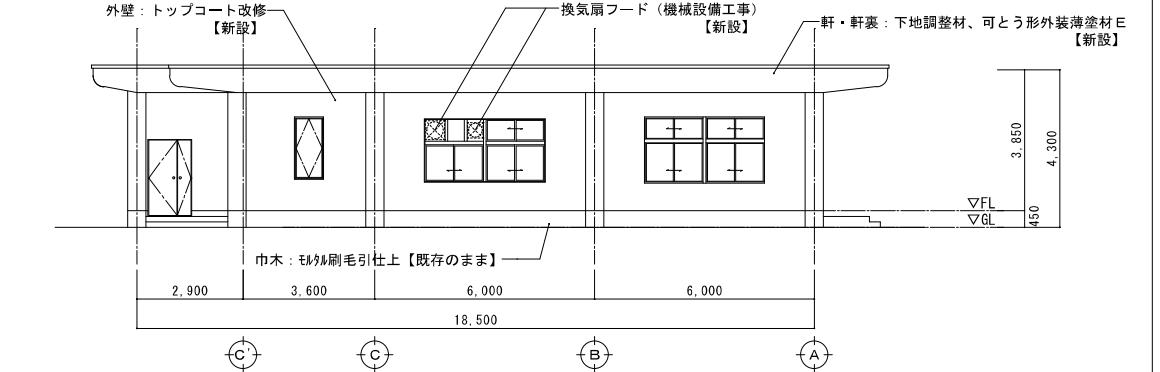
改修後 南側立面図 1/200 (A3)



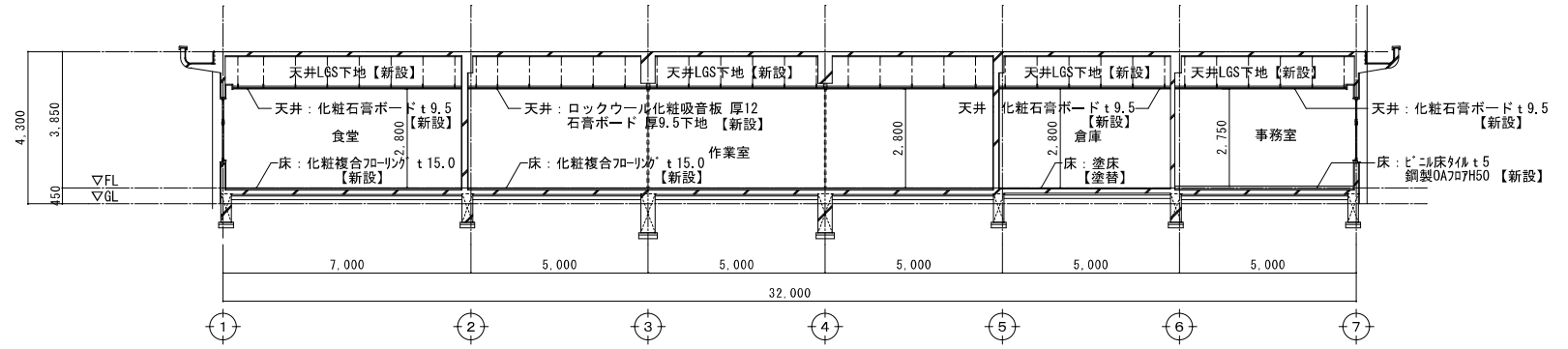
改修後 東側立面図 1/200 (A3)



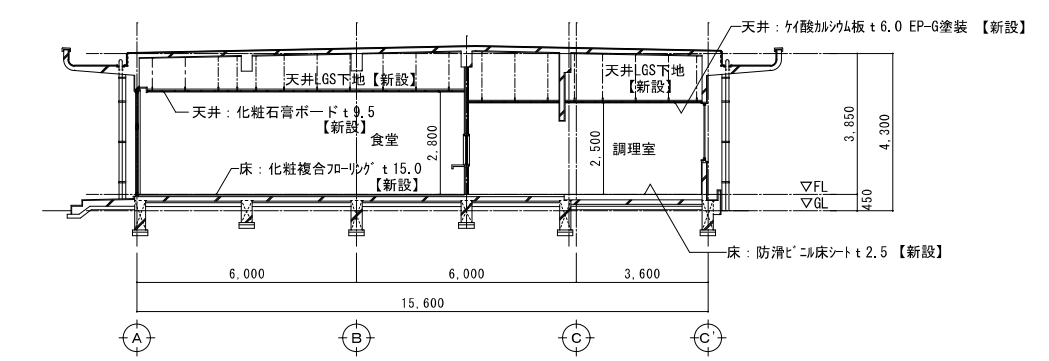
改修後 北側立面図 1/200 (A3)



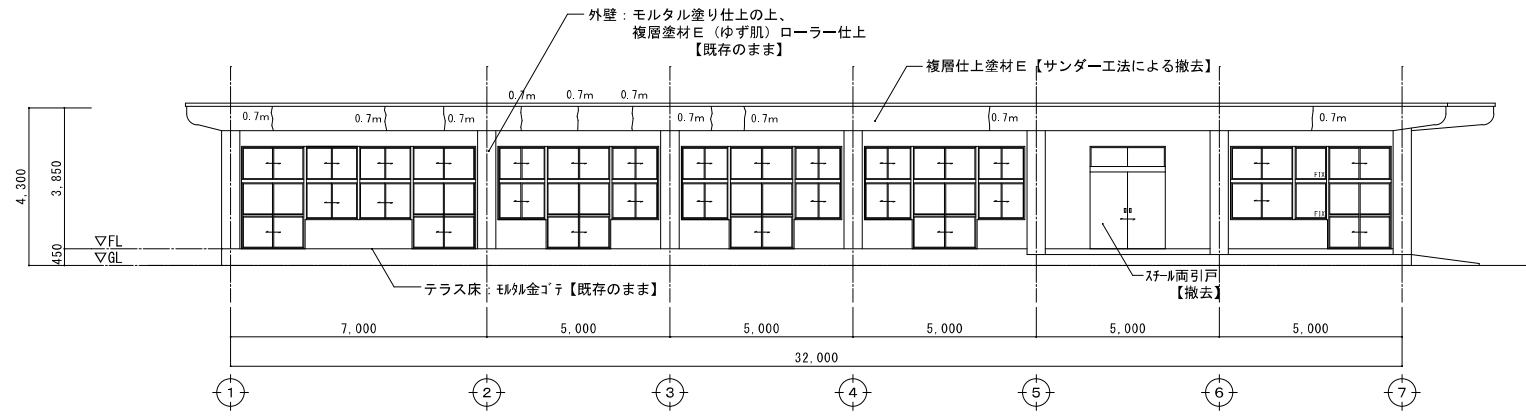
改修後 西側立面図 1/200 (A3)



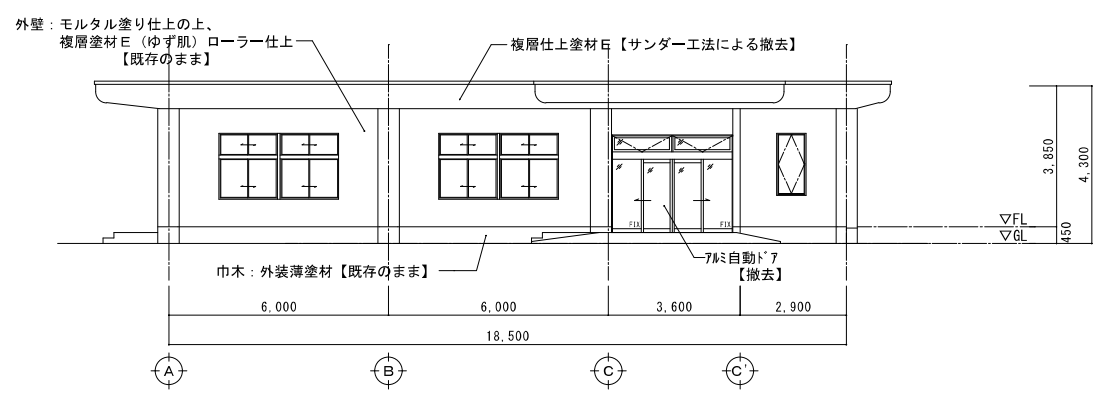
改修後 断面図1 1/200 (A3)



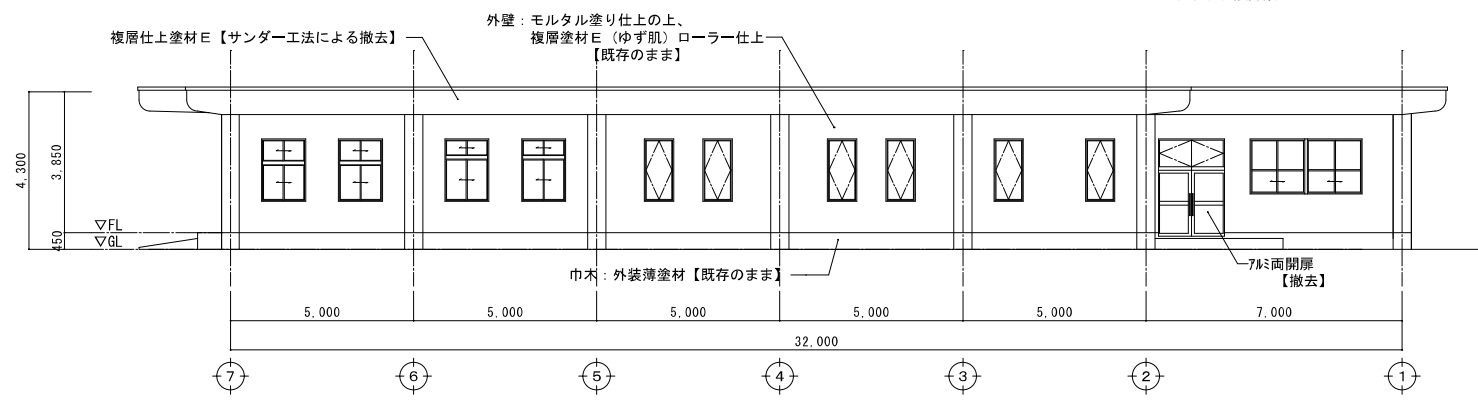
改修後 断面図2 1/200 (A3)



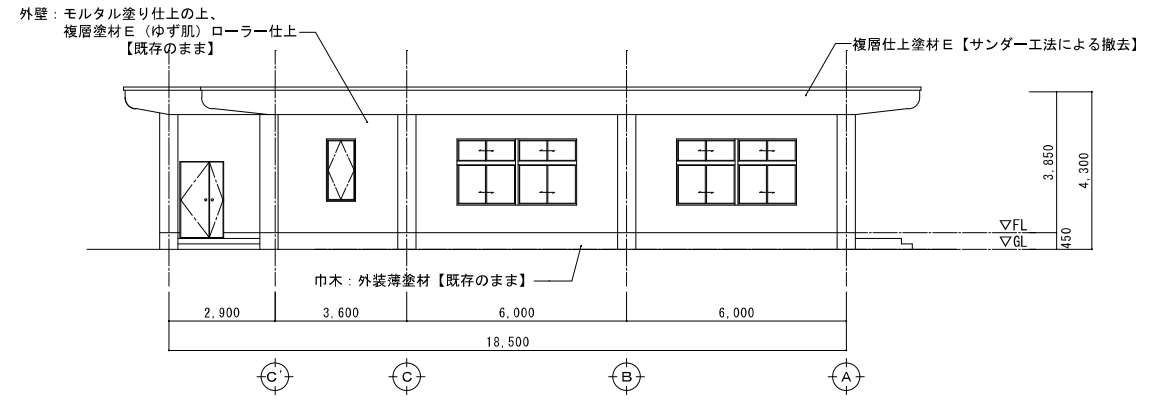
改修前 南側立面図 1/200 (A3) クラック: Uカットシール材充填工法
クラック設計数量 7.0m



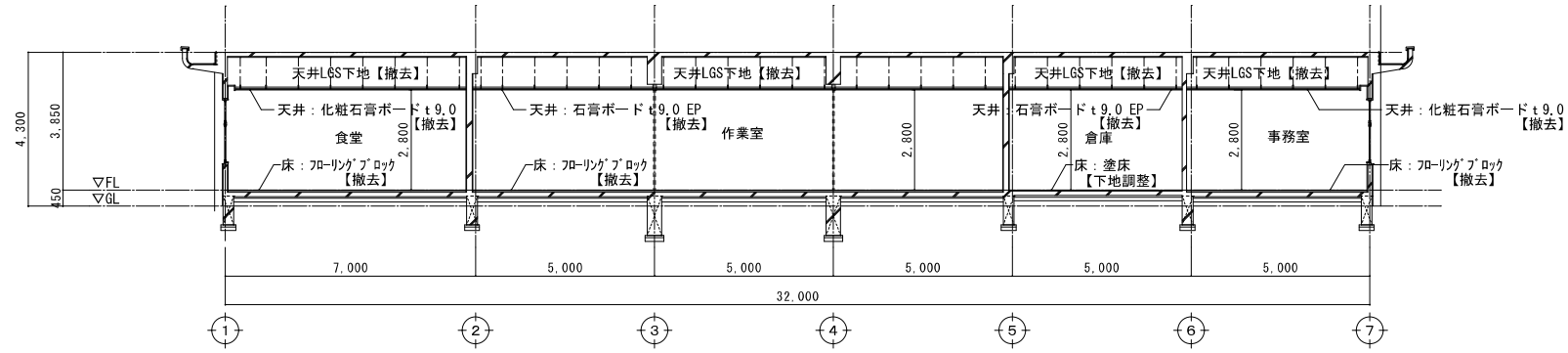
改修前 東側立面図 1/200 (A3)



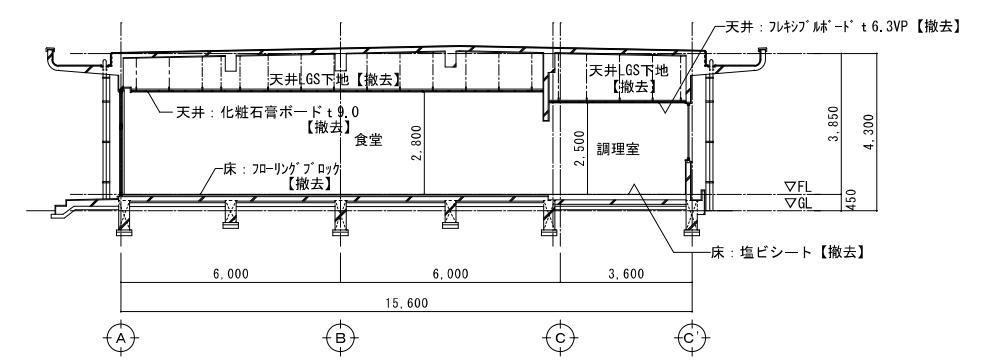
改修前 北側立面図 1/200 (A3)



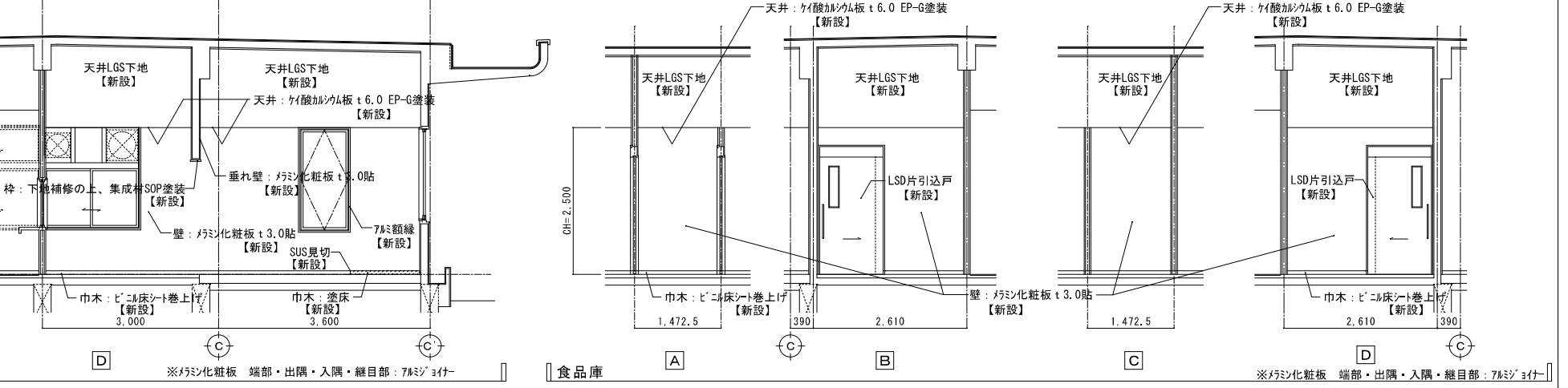
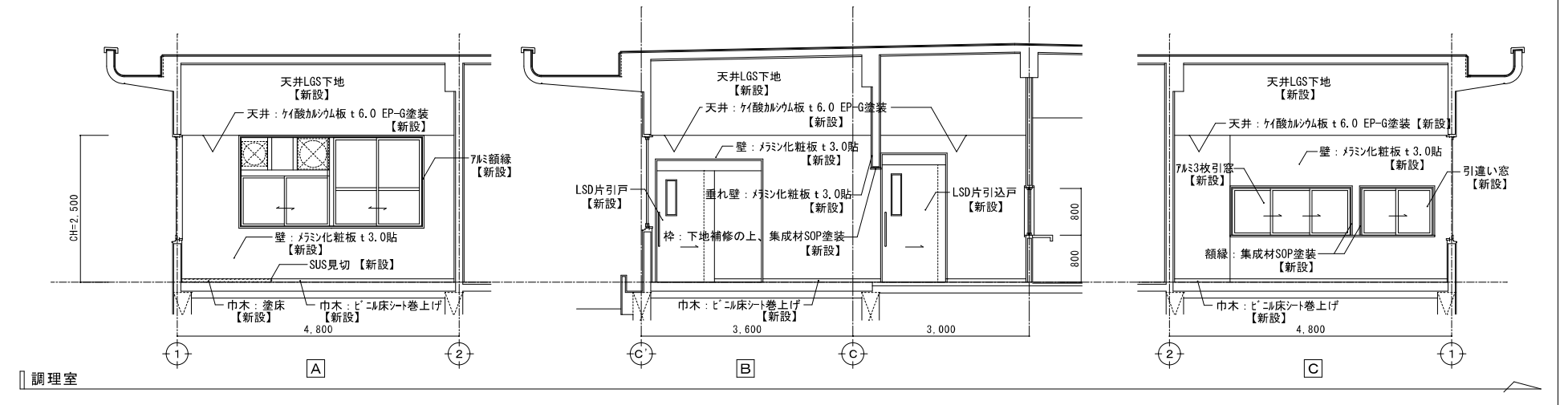
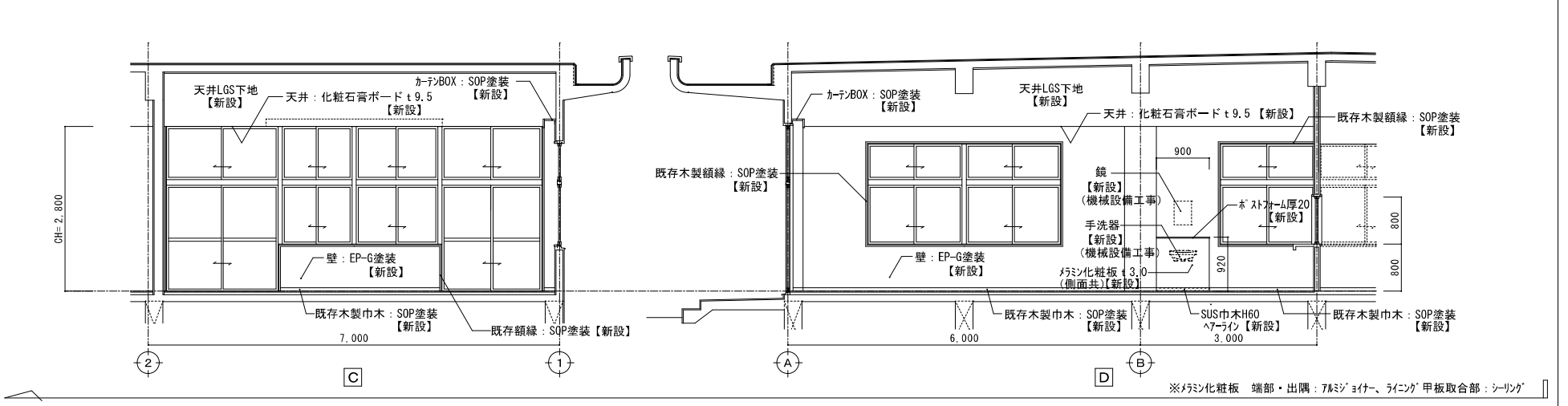
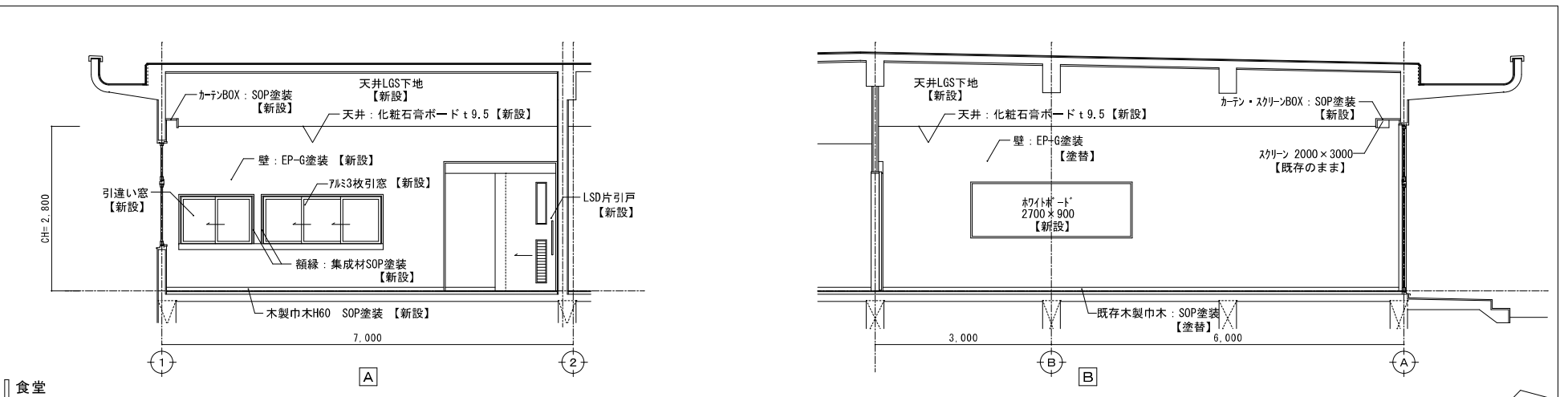
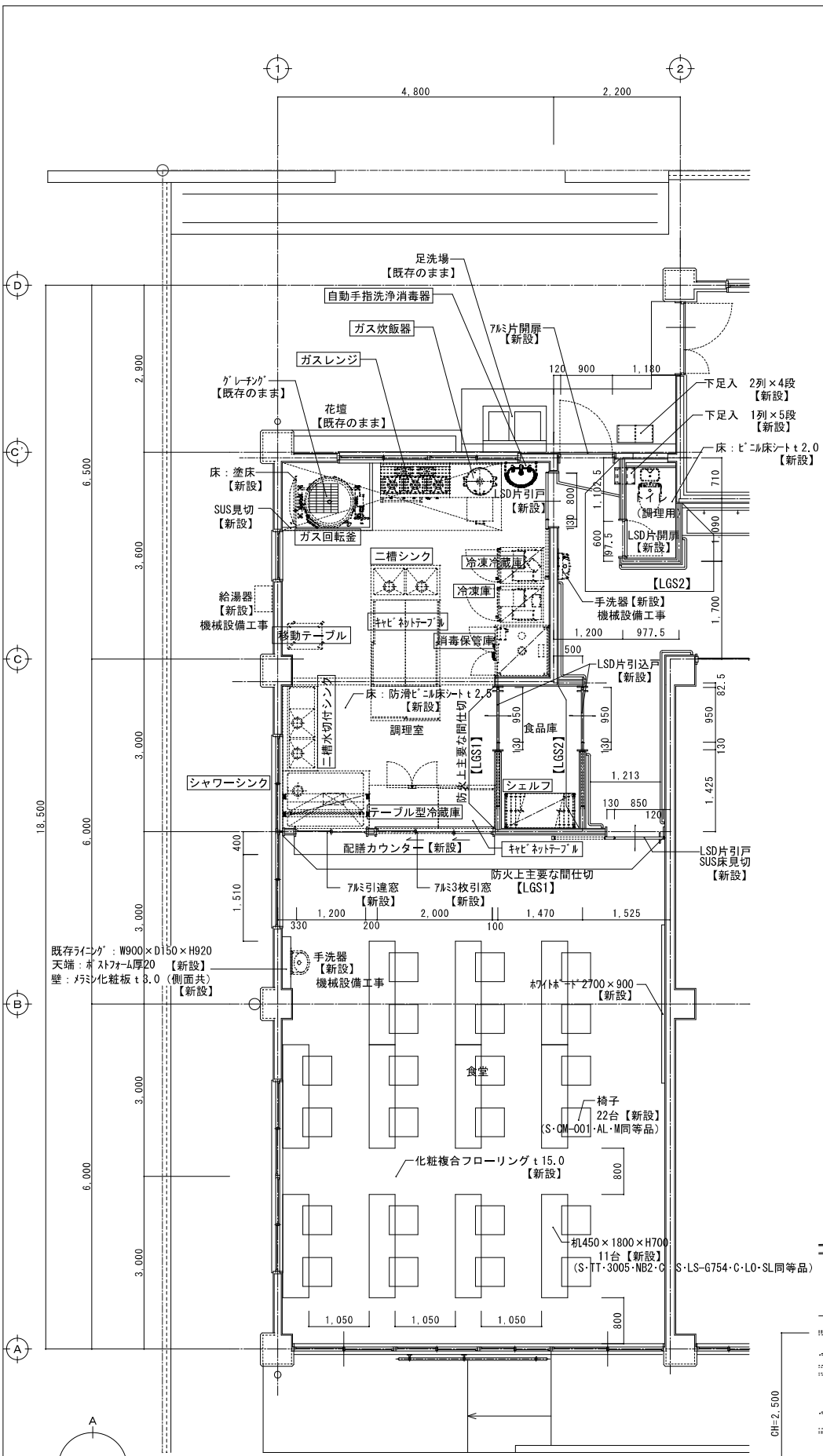
改修前 西側立面図 1/200 (A3)

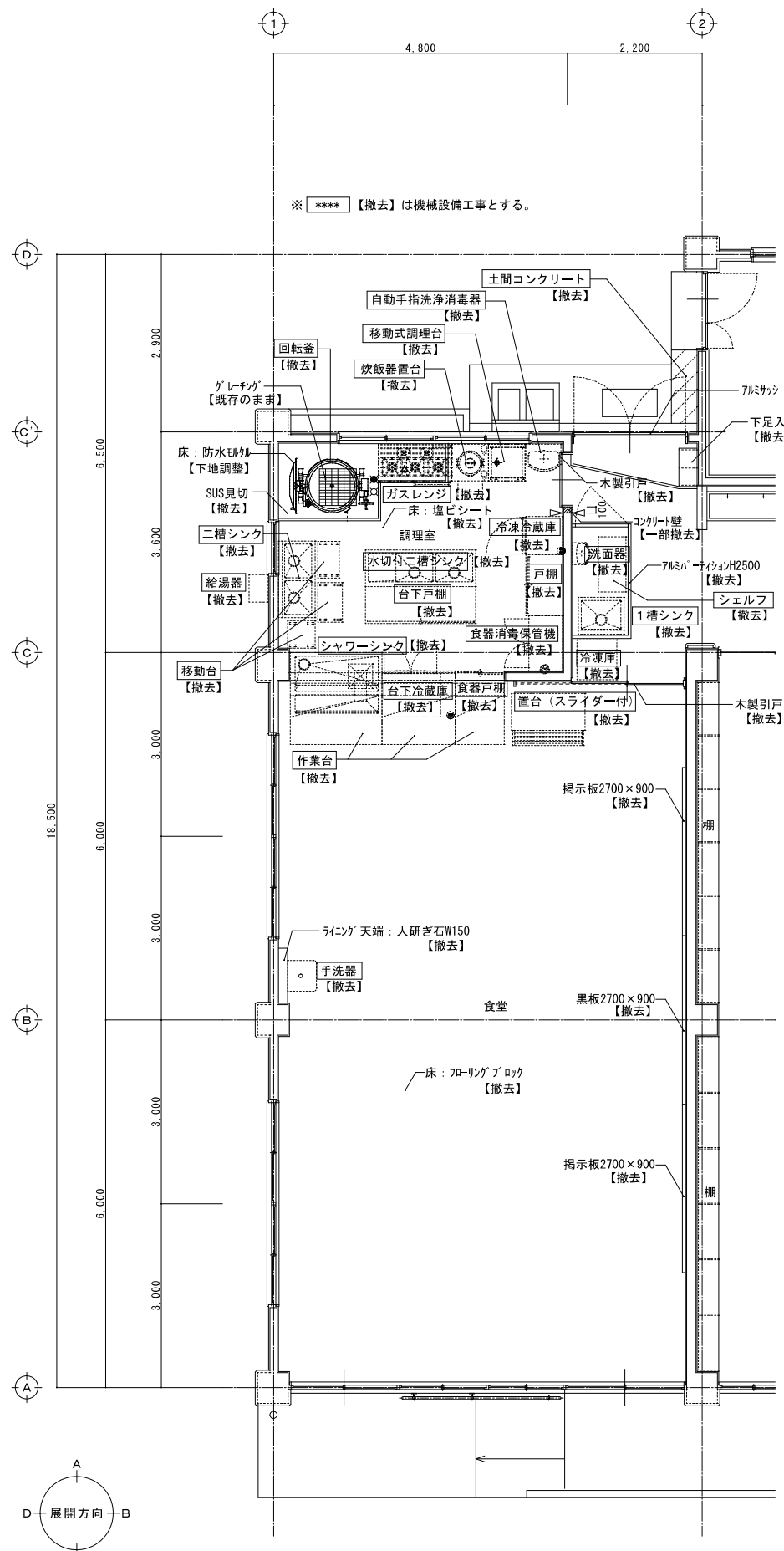


改修前 断面図1 1/200 (A3)

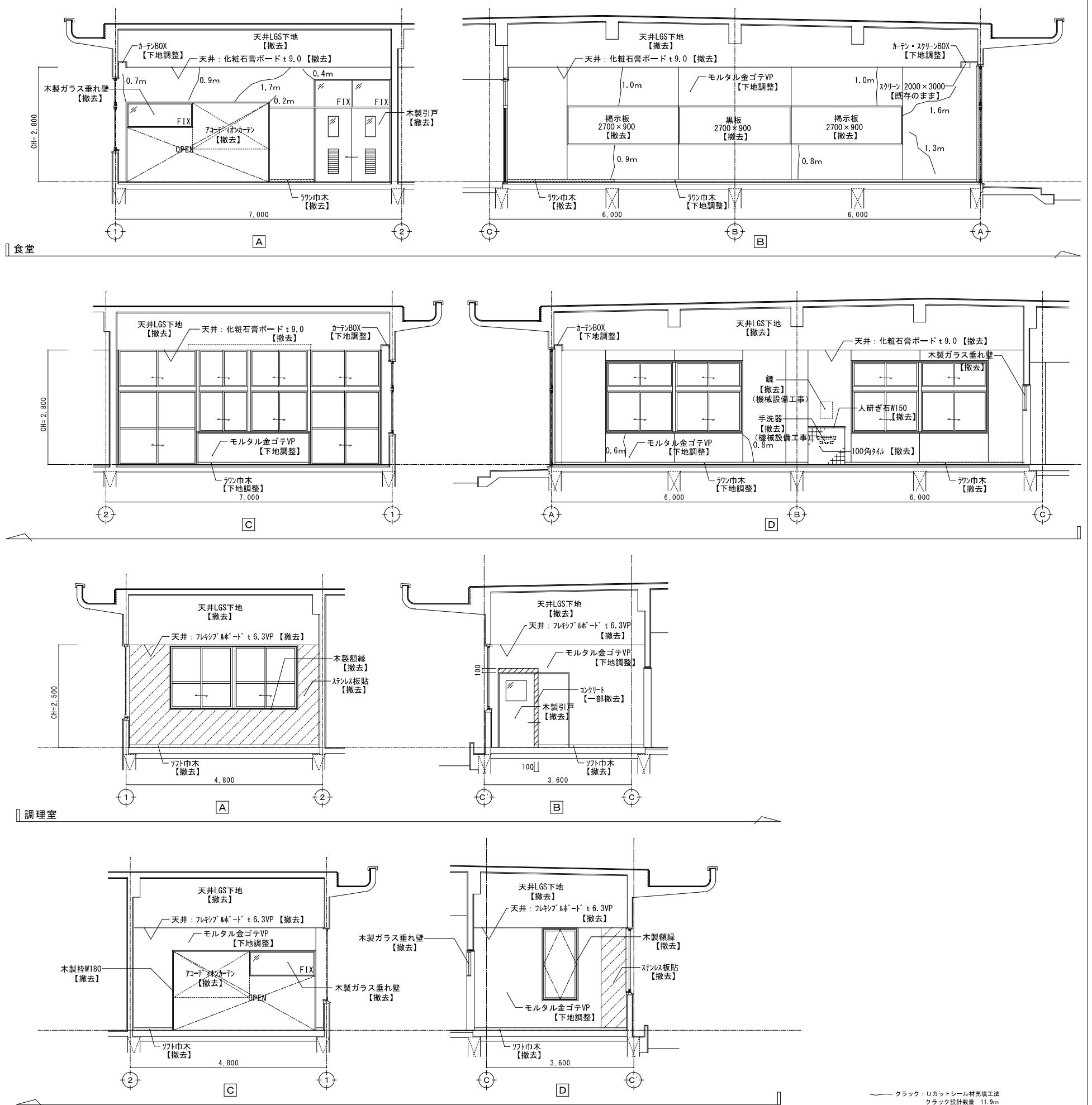


改修前 断面図2 1/200 (A3)

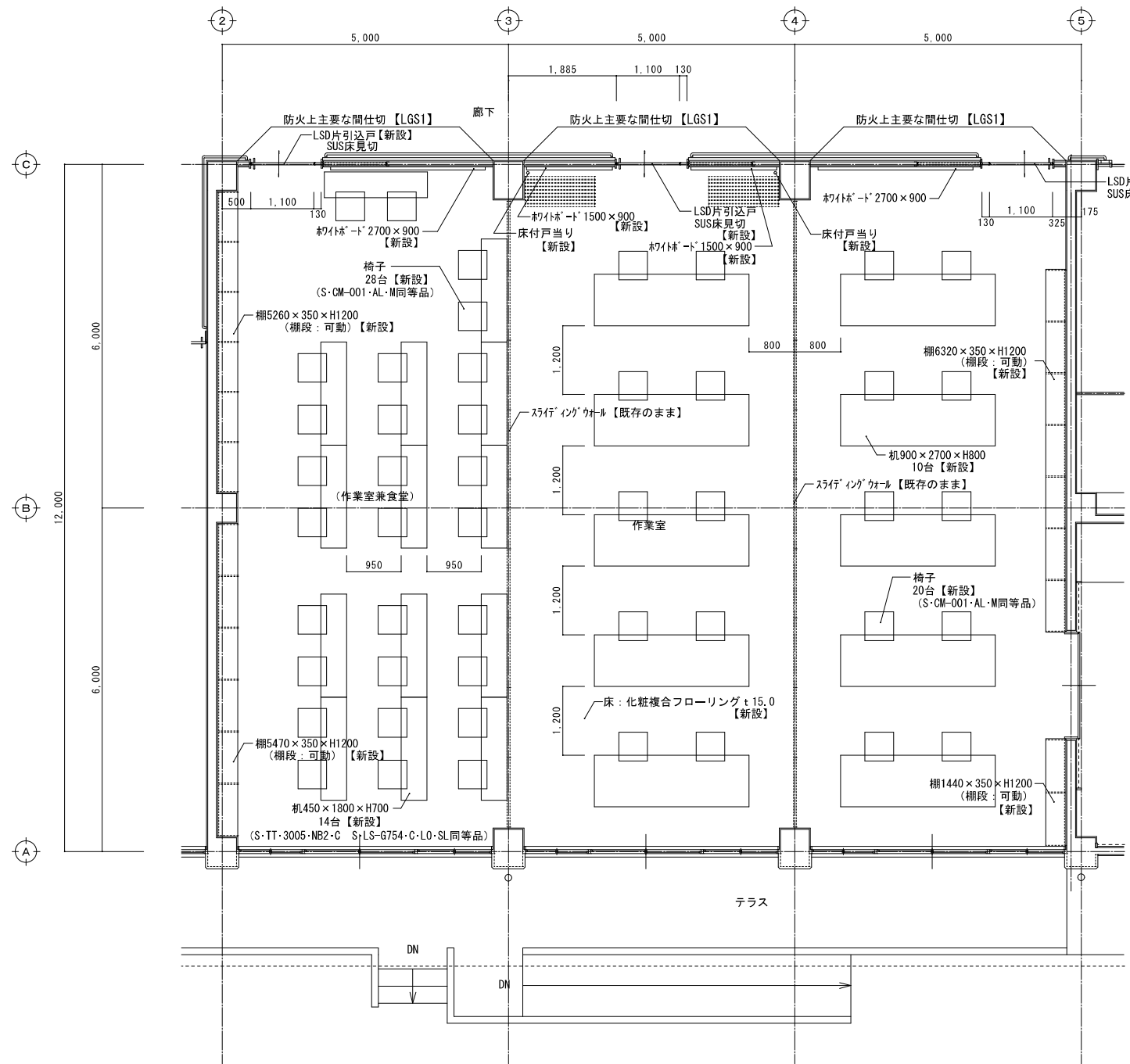




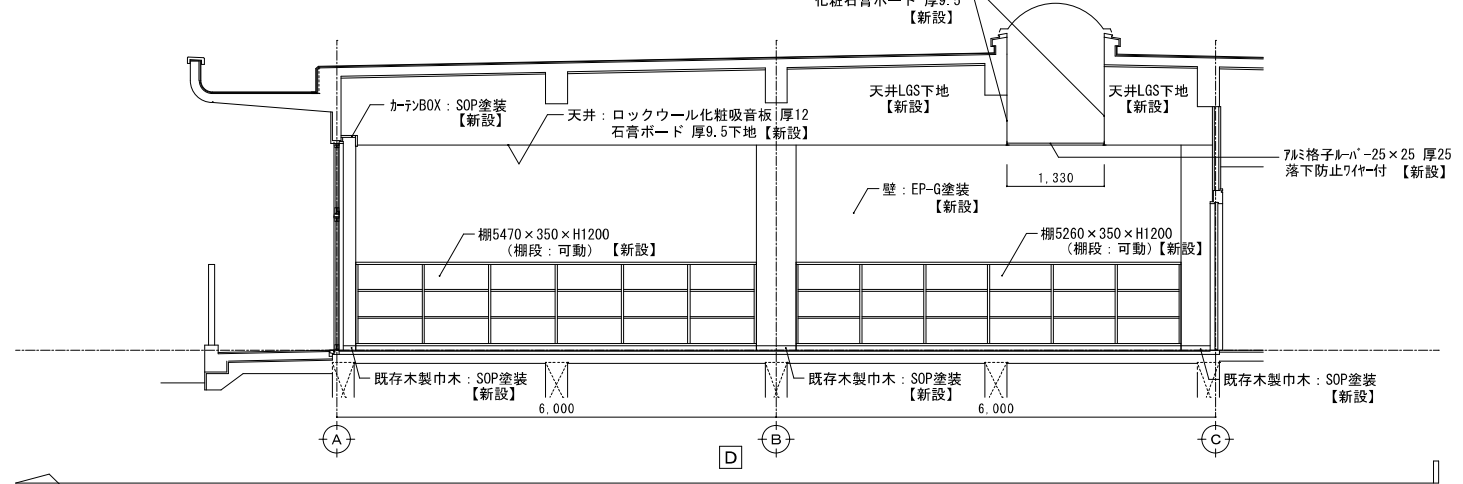
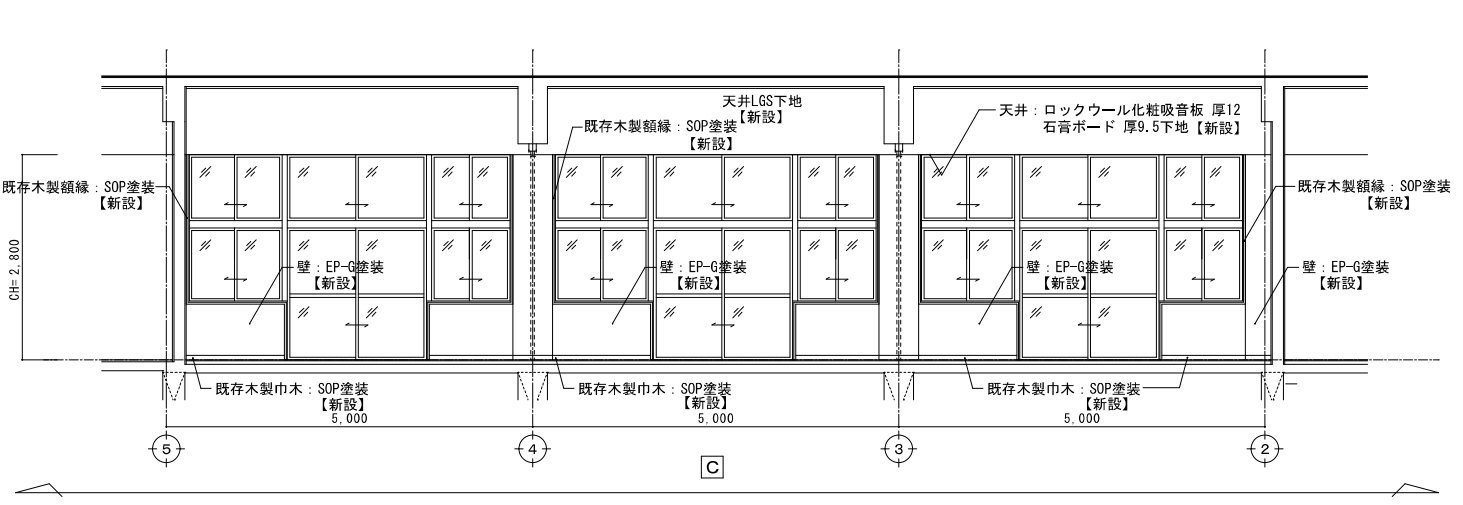
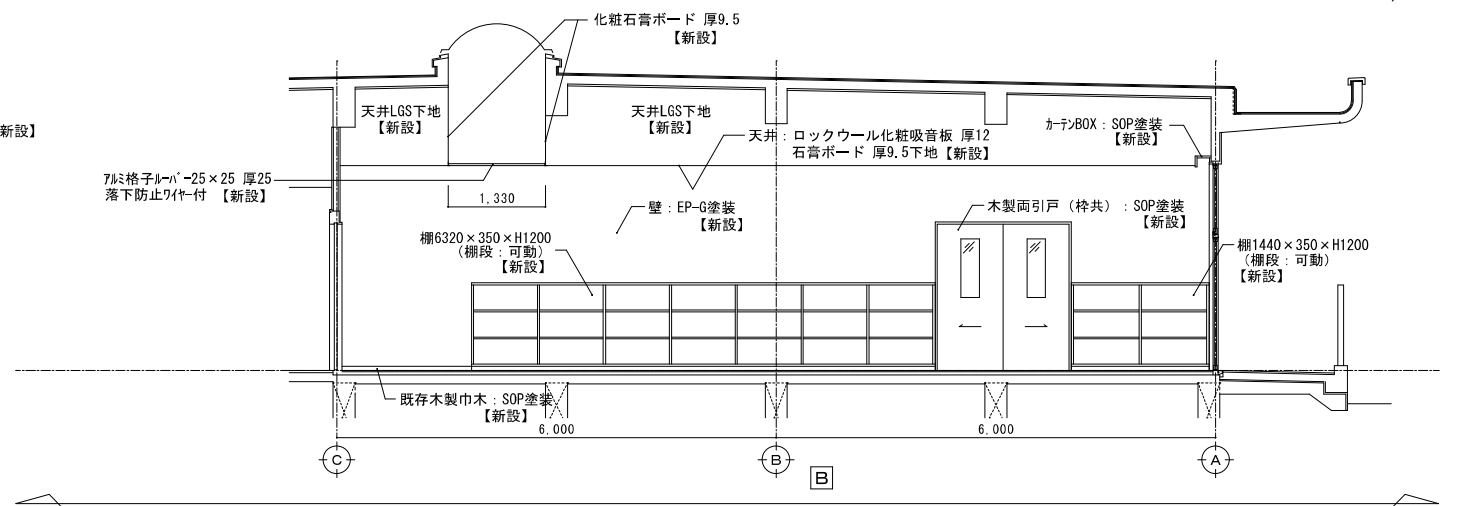
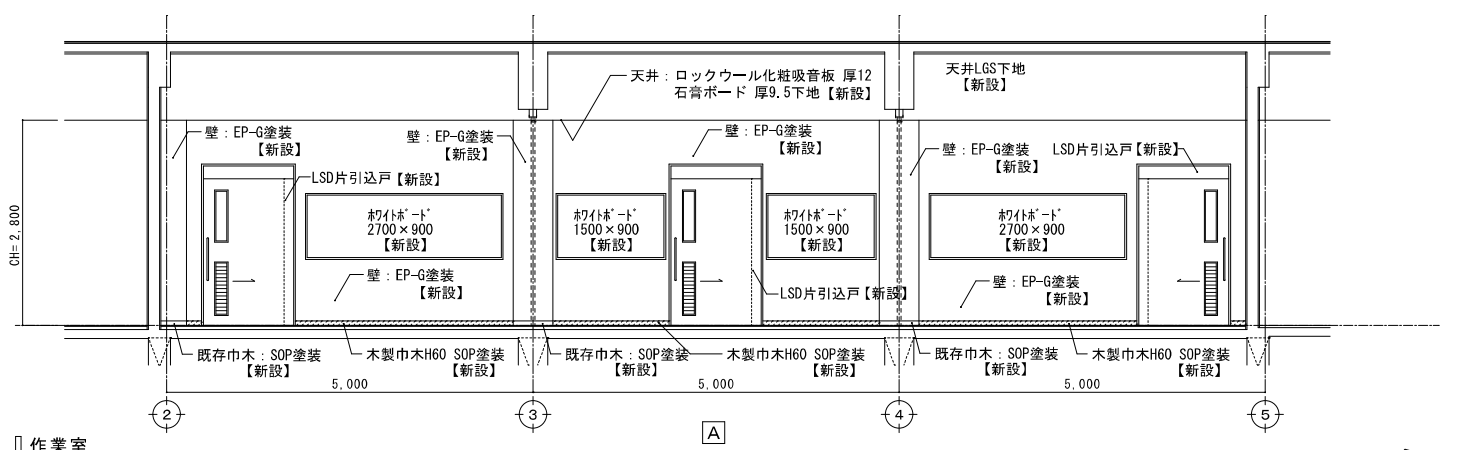
改修前 食堂・調理室 平面詳細図 1/100 (A3)



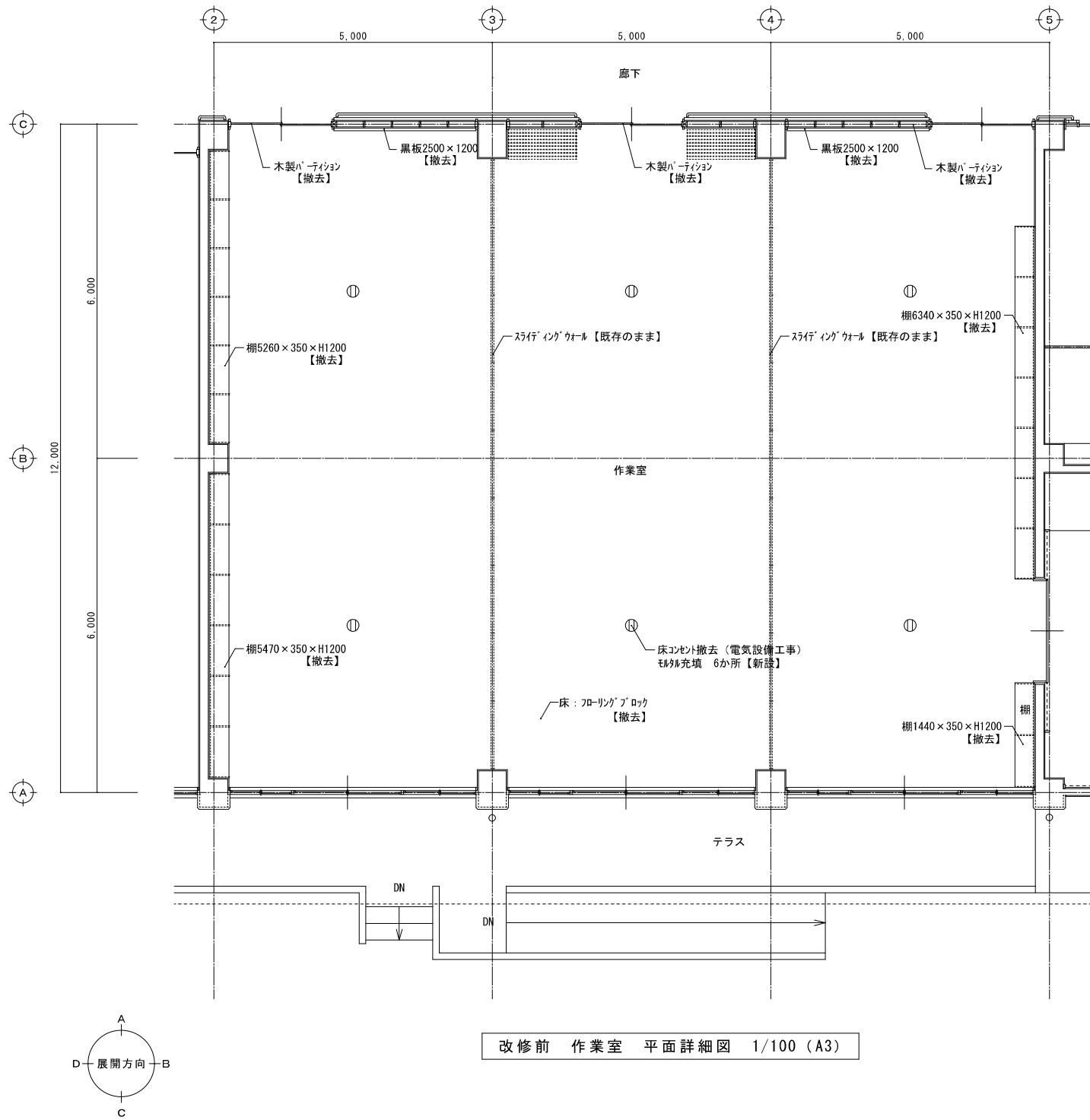
クラック：Uカットシール材充填工法
クラック設計数量 11.9m



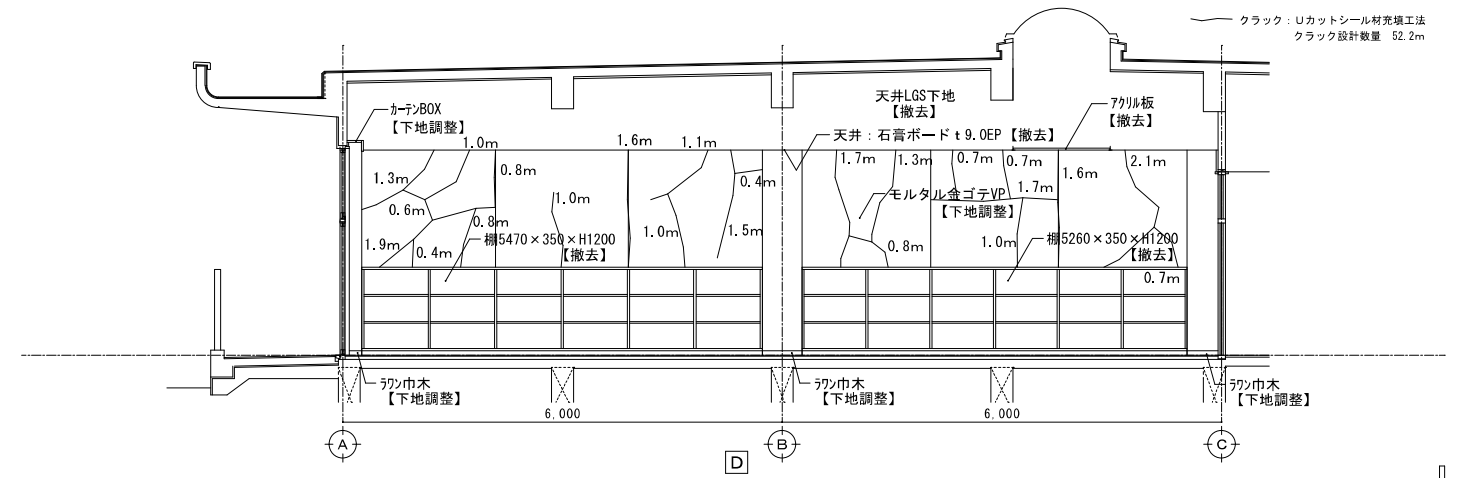
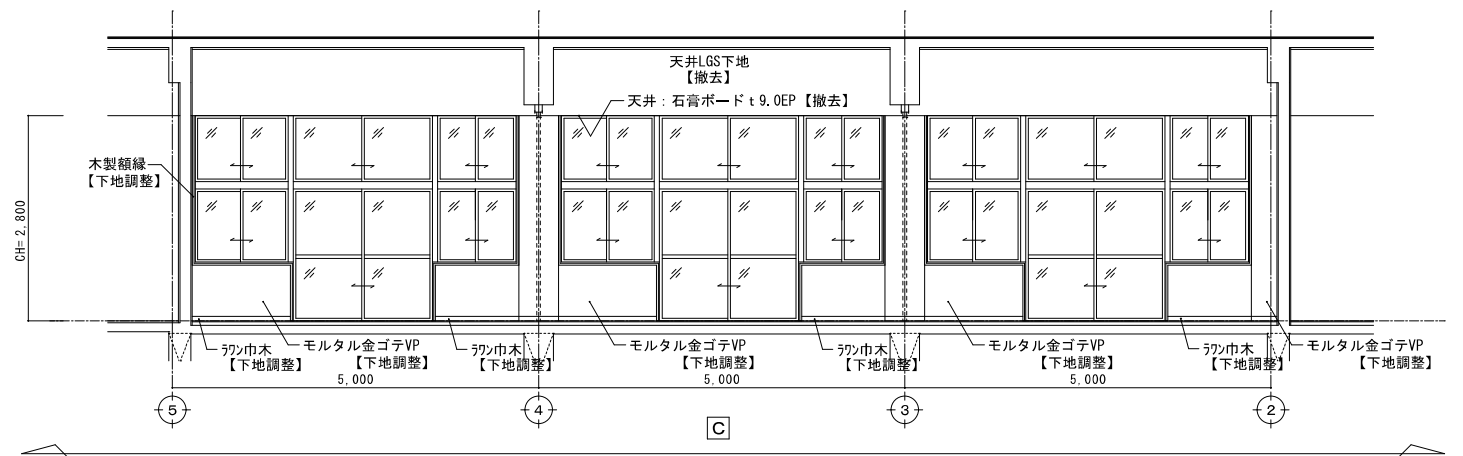
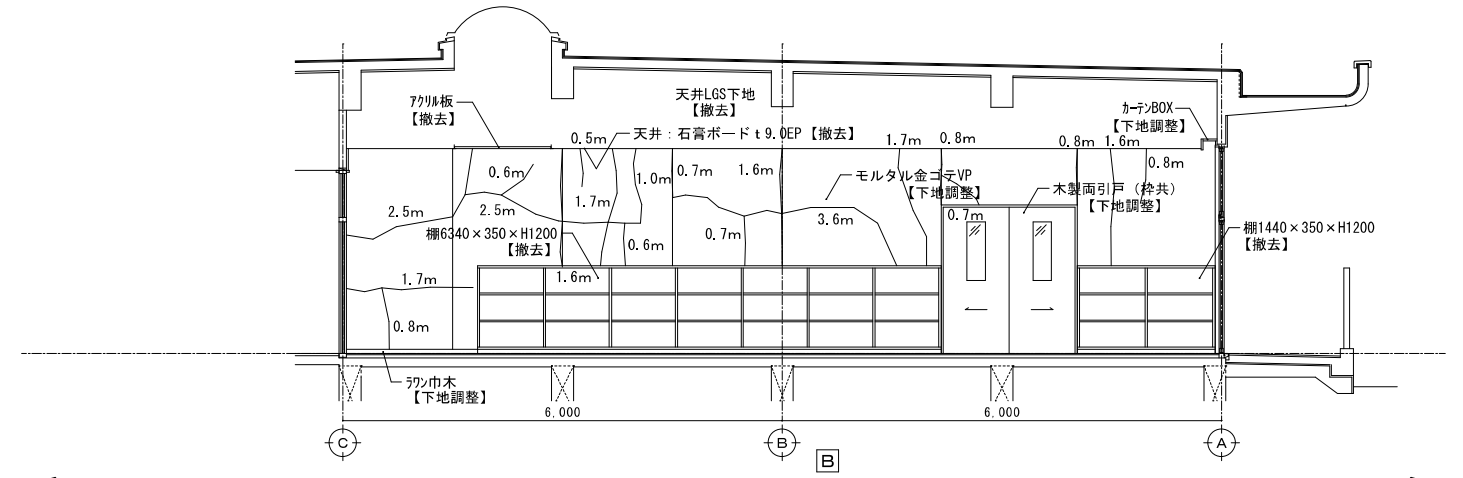
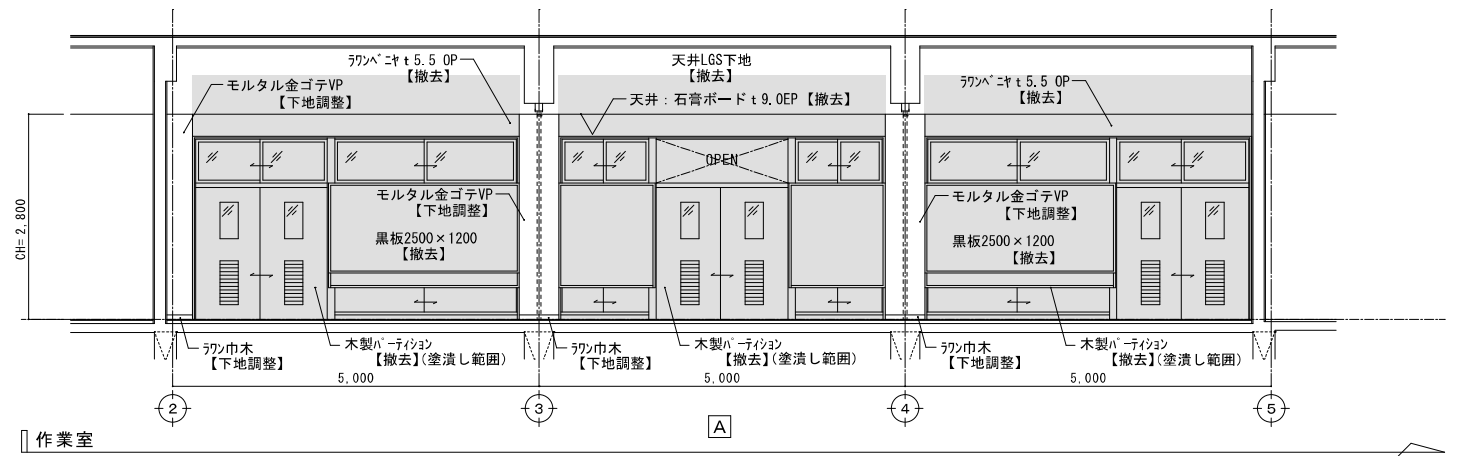
改修後 作業室 平面詳細図 1/100 (A3)
 【LGS1】: LGS壁下地65形 強化石膏ボード厚12.5+厚12.5 (両面) (スラブ・梁下まで) 1時間耐火壁 新設



記	
率	

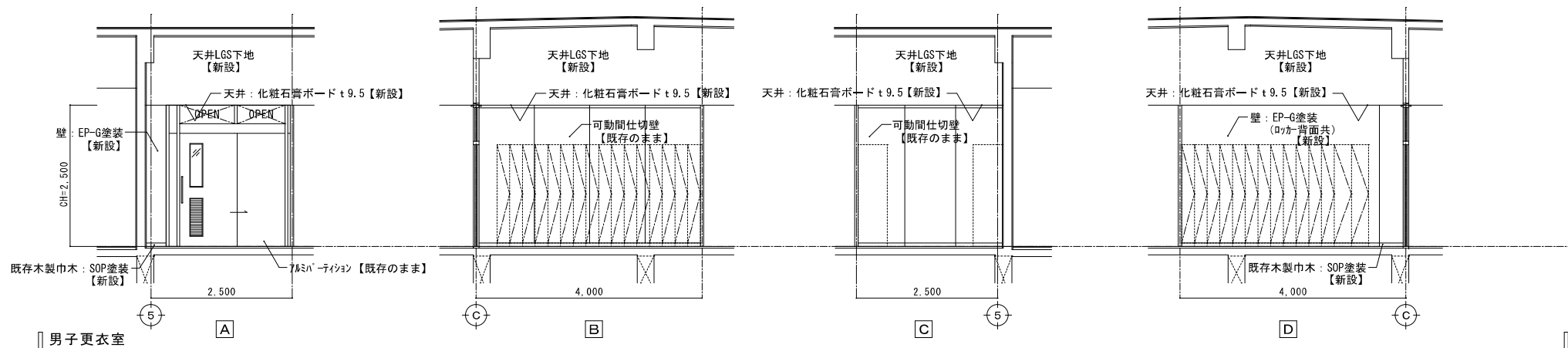


改修前 作業室 平面詳細図 1/100 (A3)

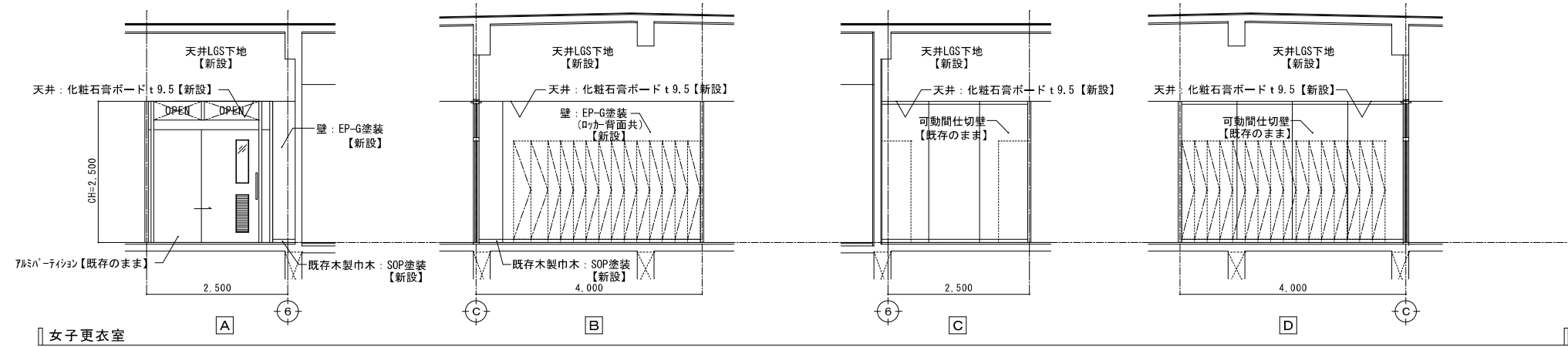


記	
率	

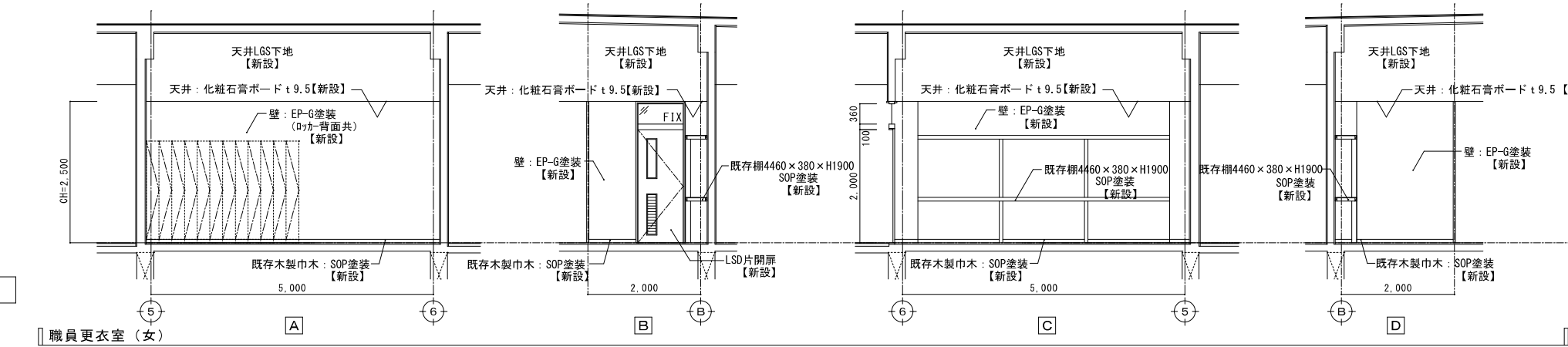
Architects Firm Atelier YOU 一級建築士事務所 埼玉県知事登録(1)第12121号 一級建築士 第342763号 藤山智昭	工事名称 川越市みよしの支援センター改築等工事 図面名称 [本館] 改修前 作業室平面詳細図・展開図	作成年月日 図面番号 A2-15
--------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------	------------------------



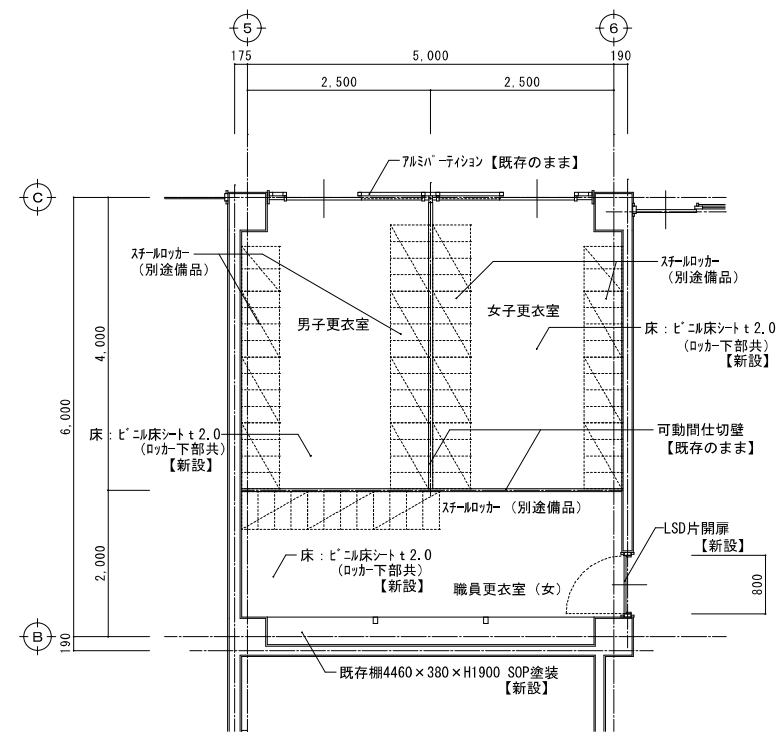
男子更衣室



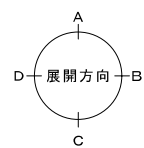
女子更衣室

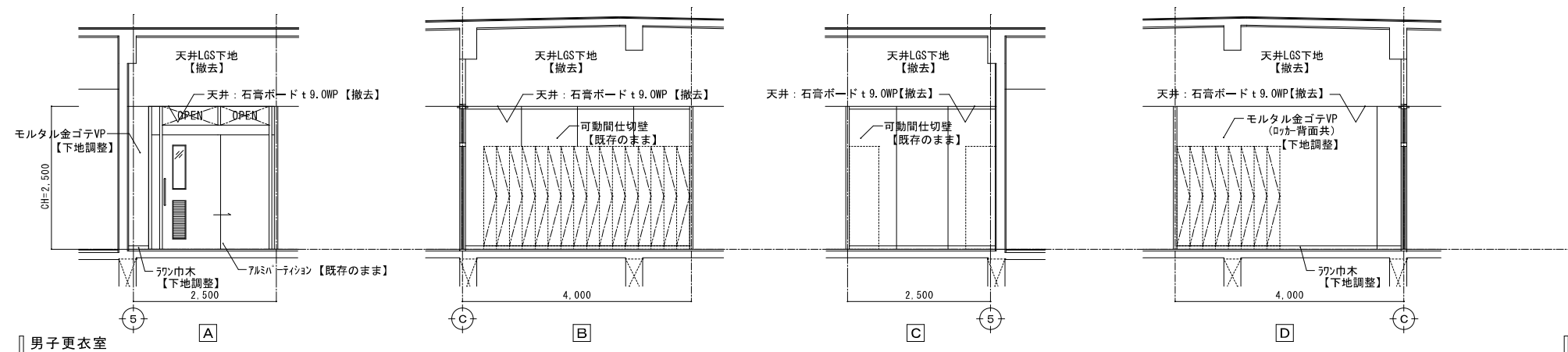


職員更衣室(女)

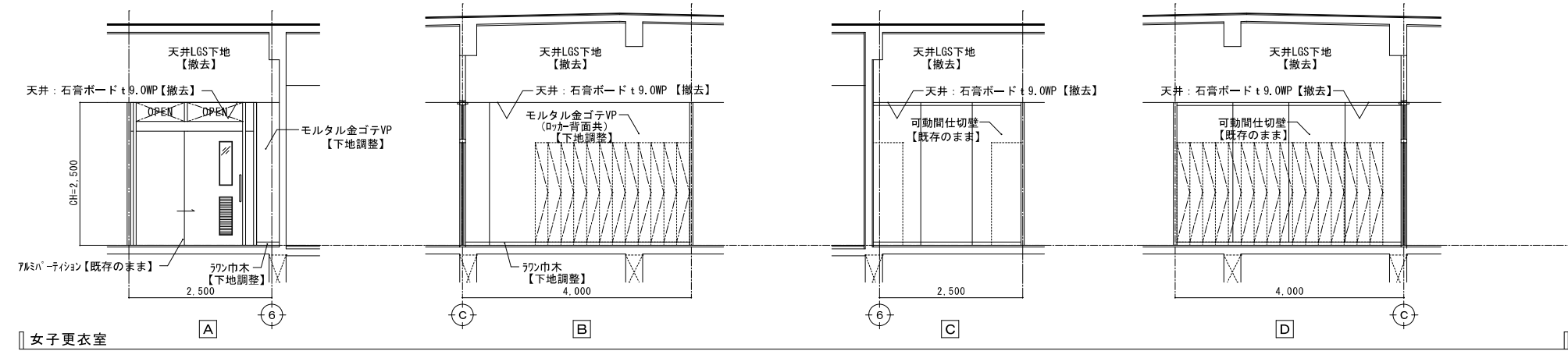


改修後 女子更衣室・男子更衣室・職員更衣室(女) 平面詳細図 1/100 (A3)

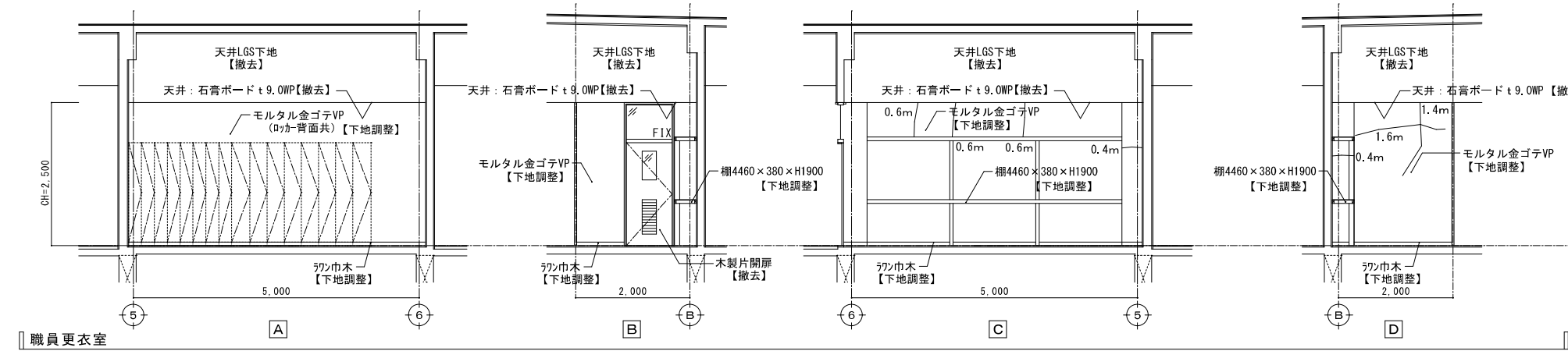




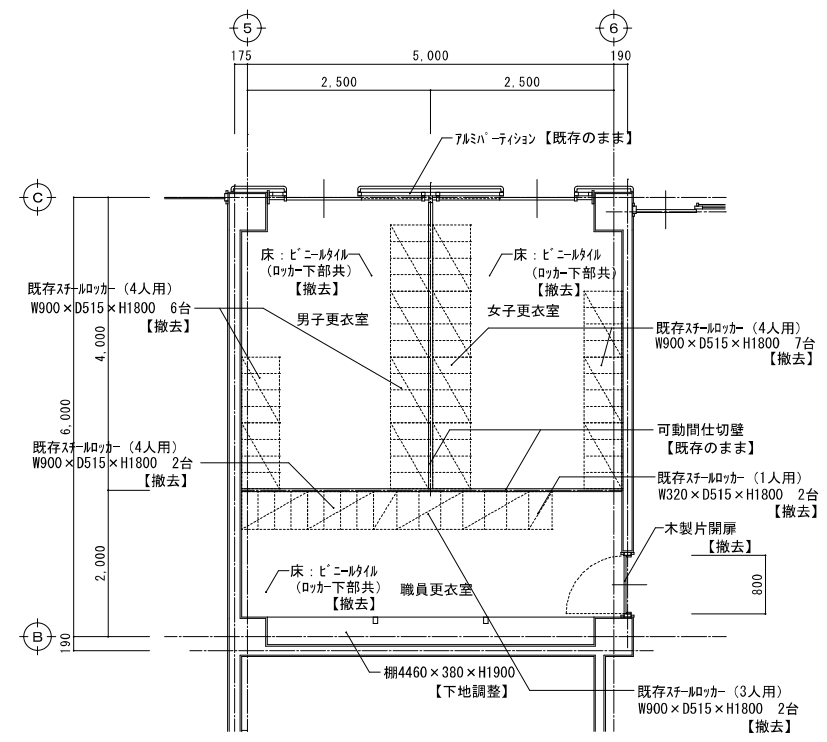
男子更衣室



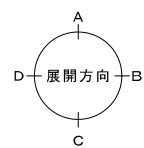
女子更衣室



職員更衣室

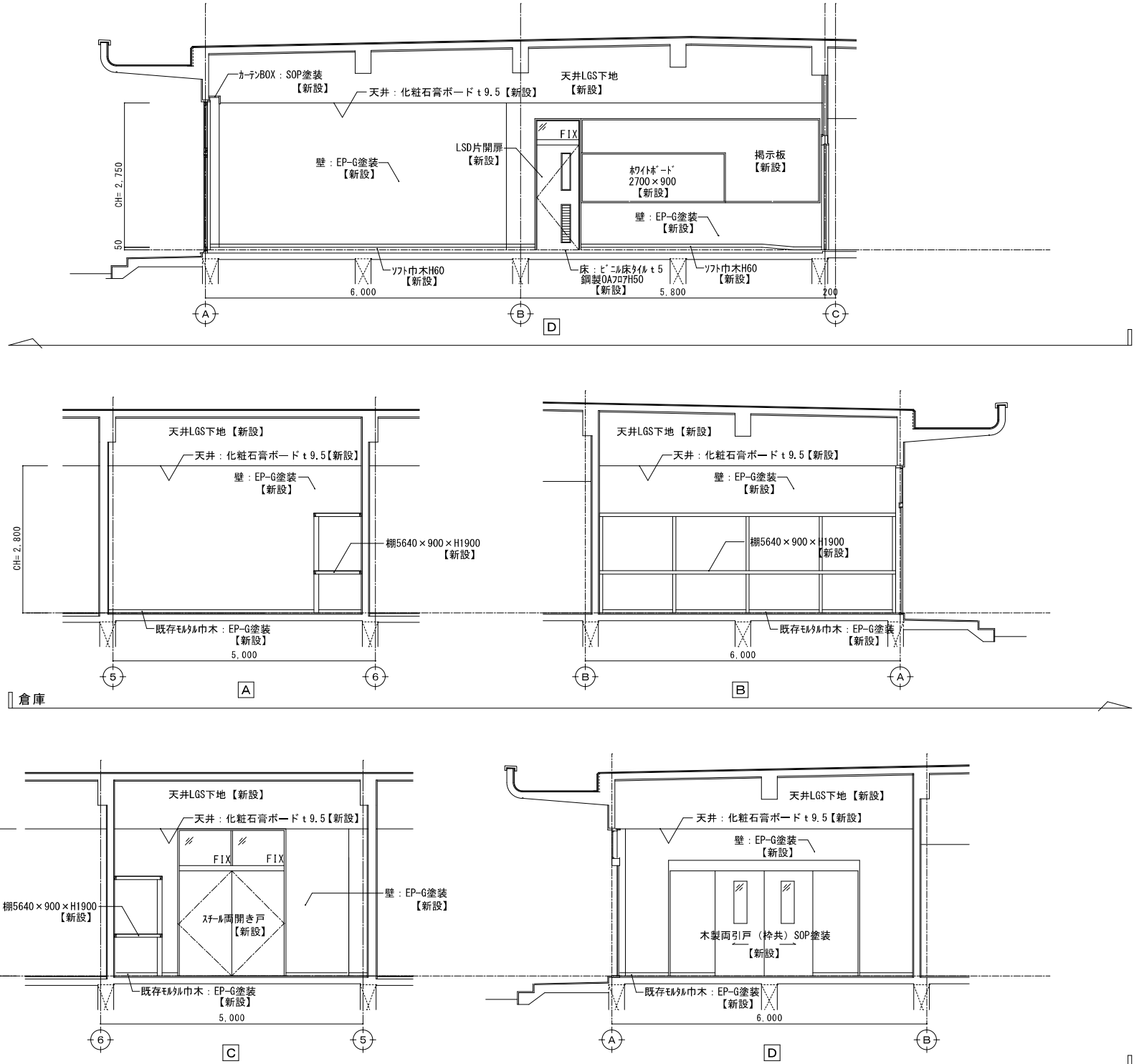
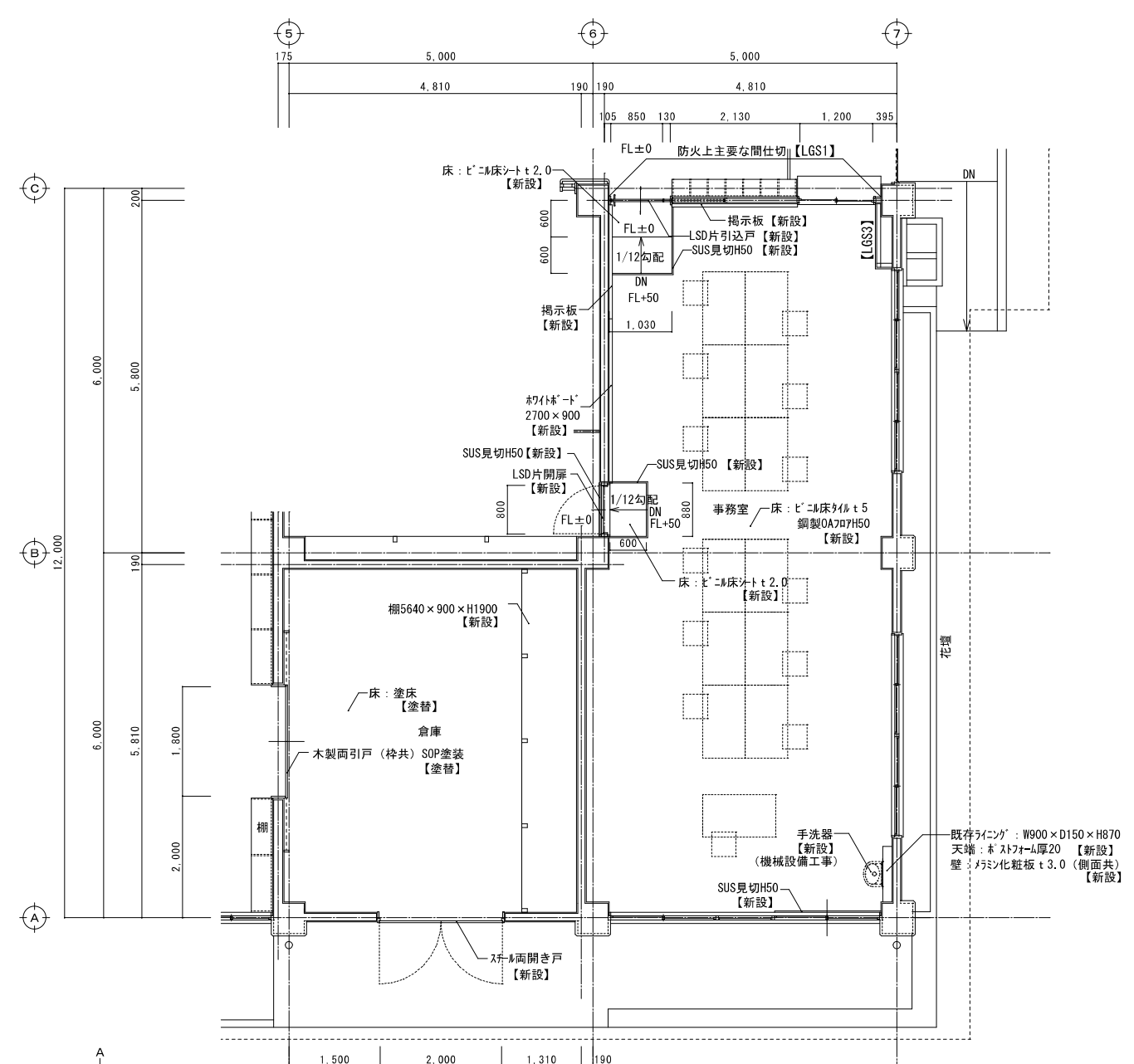
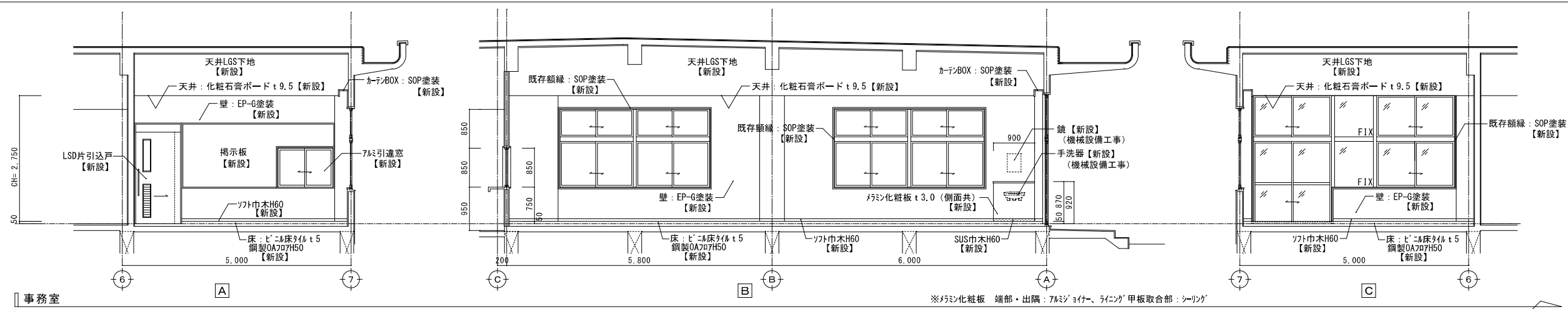


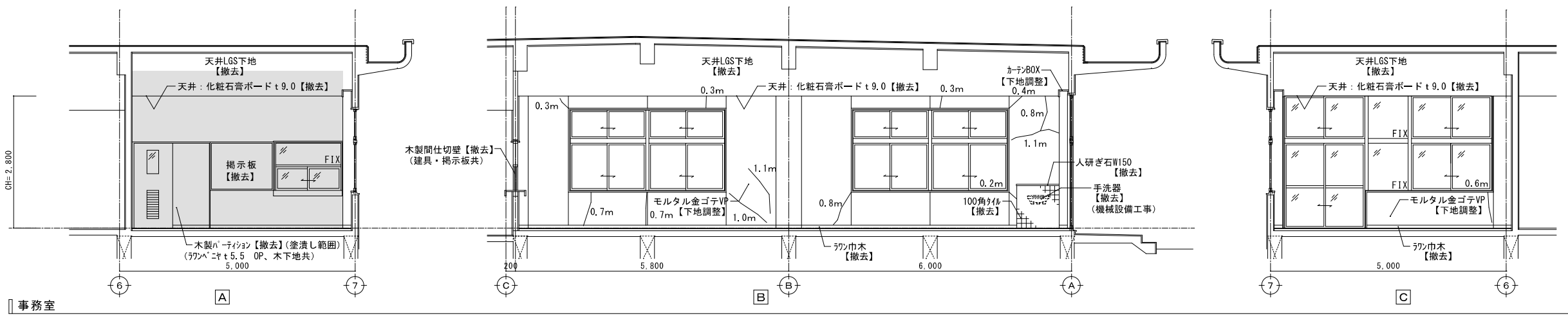
改修前 女子更衣室・男子更衣室・職員更衣室 平面詳細図 1/100 (A3)



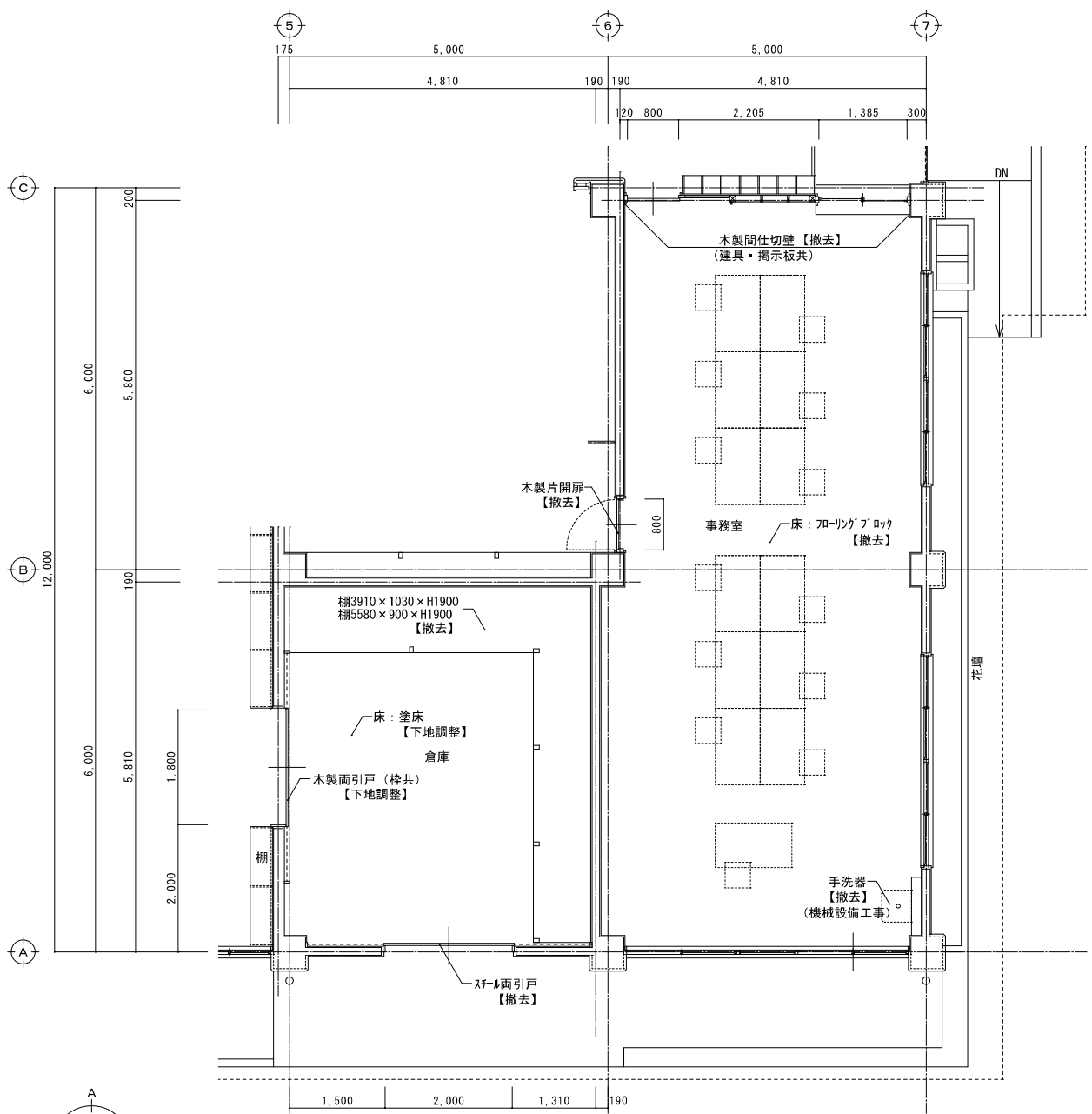
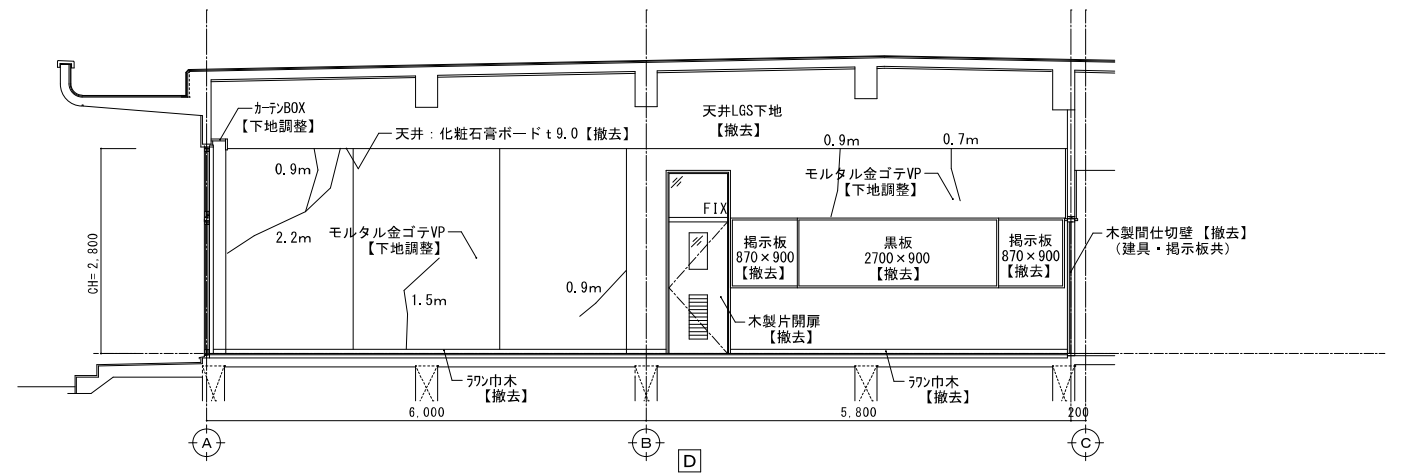
クラック：Uカットシール材充填工法
クラック設計数量 5.6m

記 率		Architects Firm <i>Atelier YOU</i> 一級建築士事務所 埼玉県知事登録(1)第12121号 一級建築士 第342763号 藤山智昭	工事名称 川越市みよしの支援センター改築等工事	図面名称 [本館] 改修前 男子更衣室・女子更衣室・職員更衣室平面詳細図・展開図	作成年月日	図面番号
						縮尺 R 1/30 (A1) 1/100 (A3)

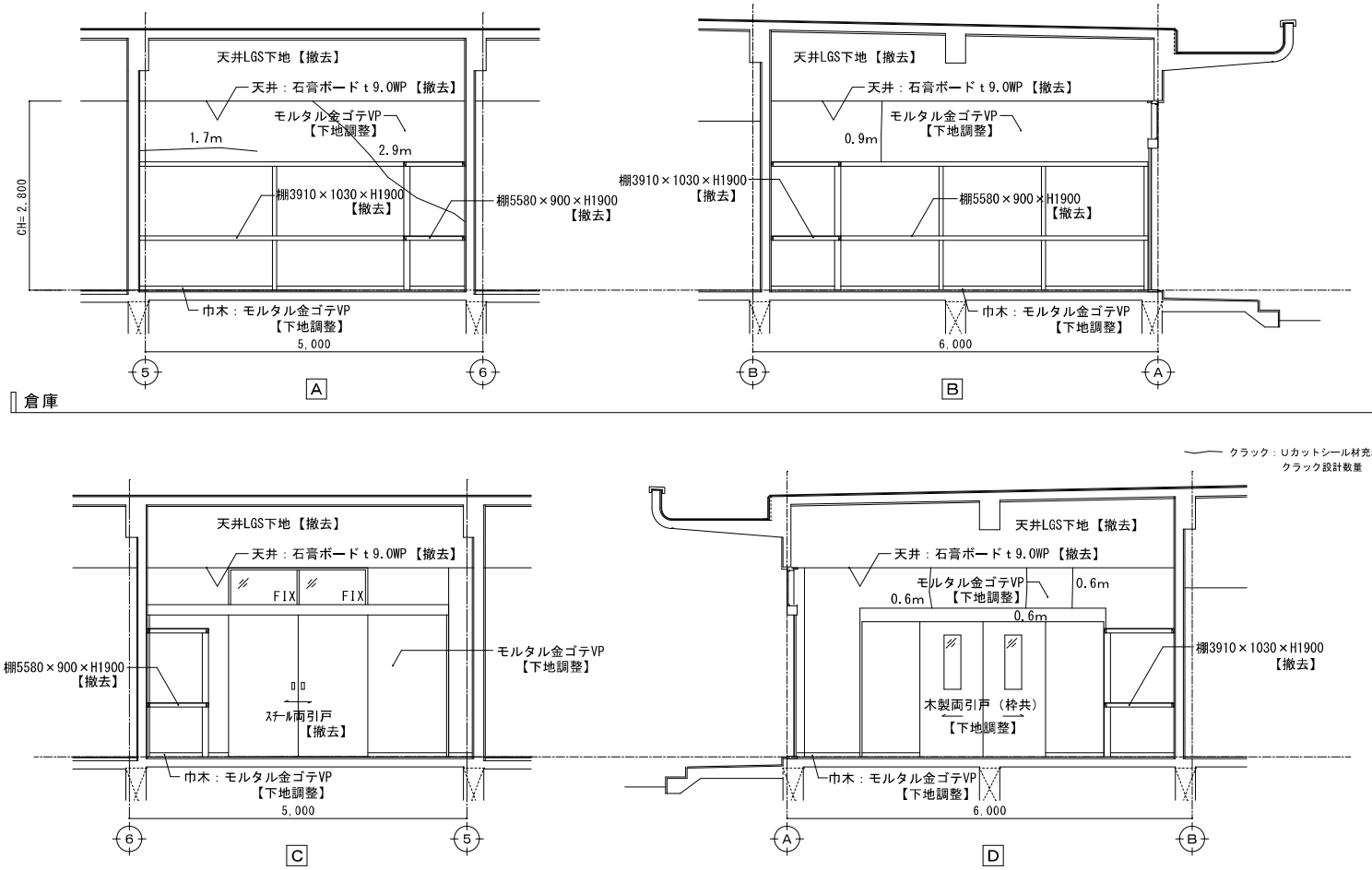




事務室



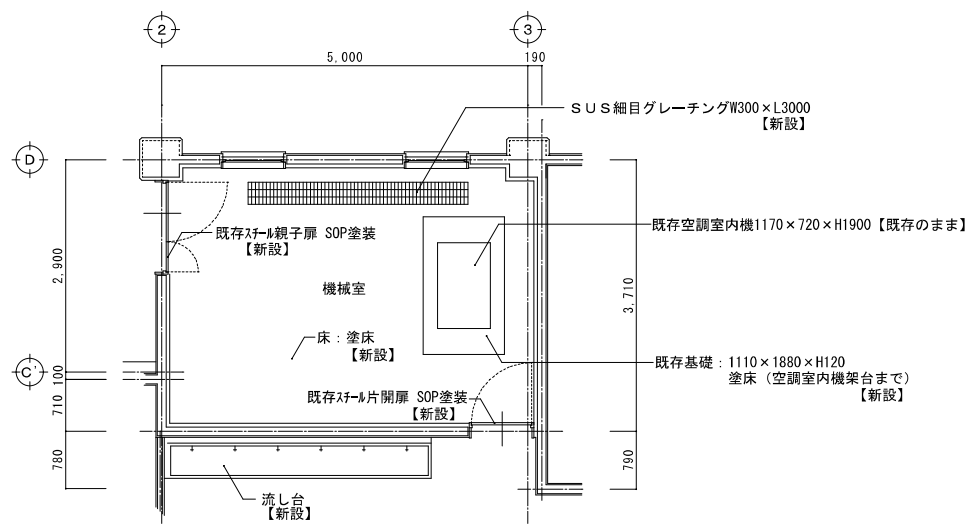
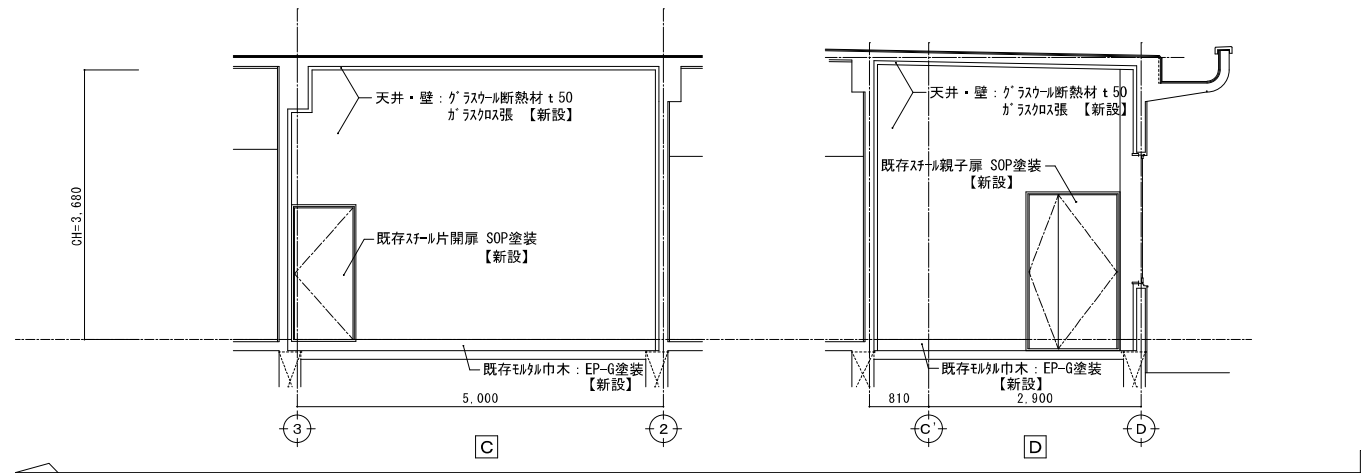
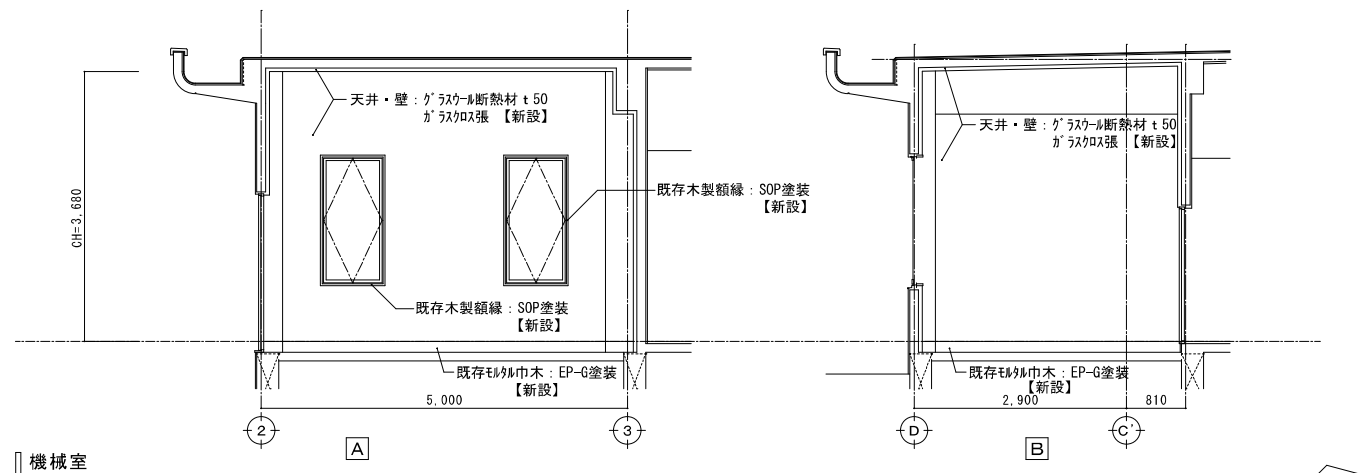
改修前 事務室・倉庫 平面詳細図 1/100 (A3)



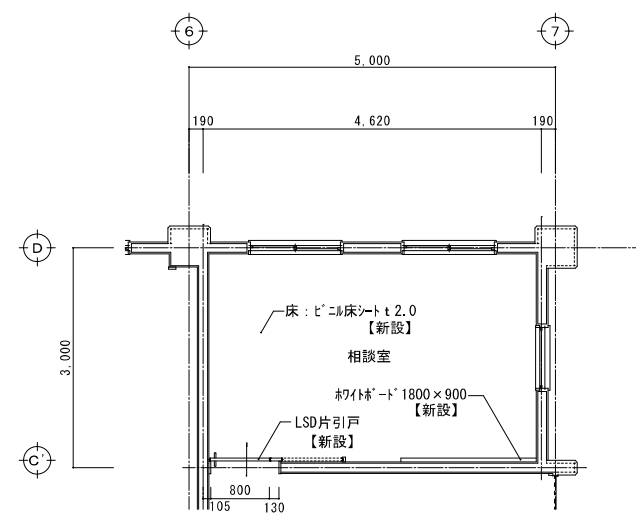
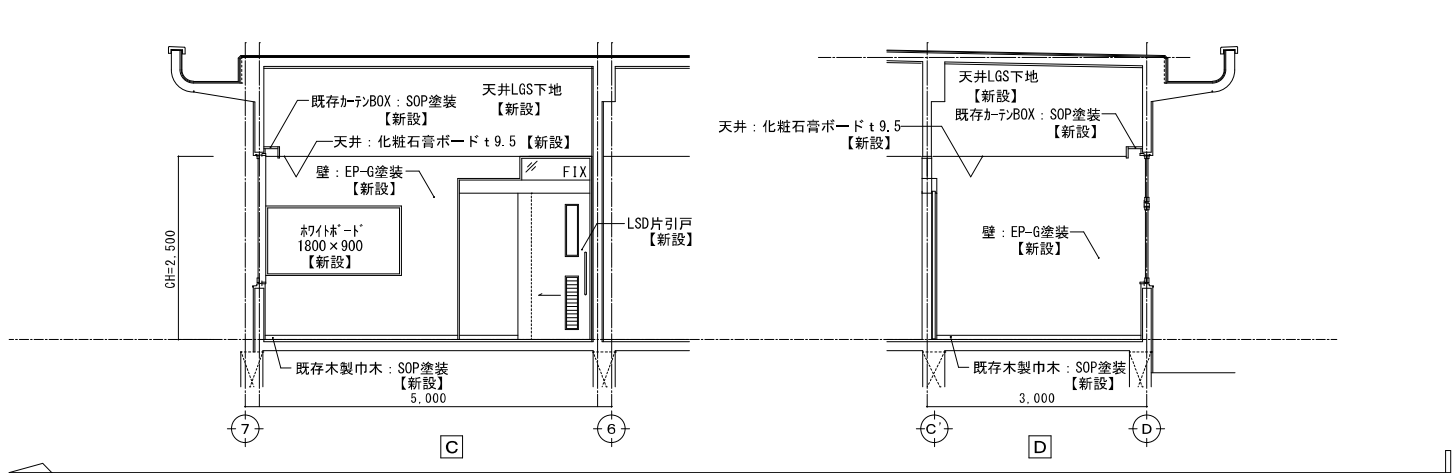
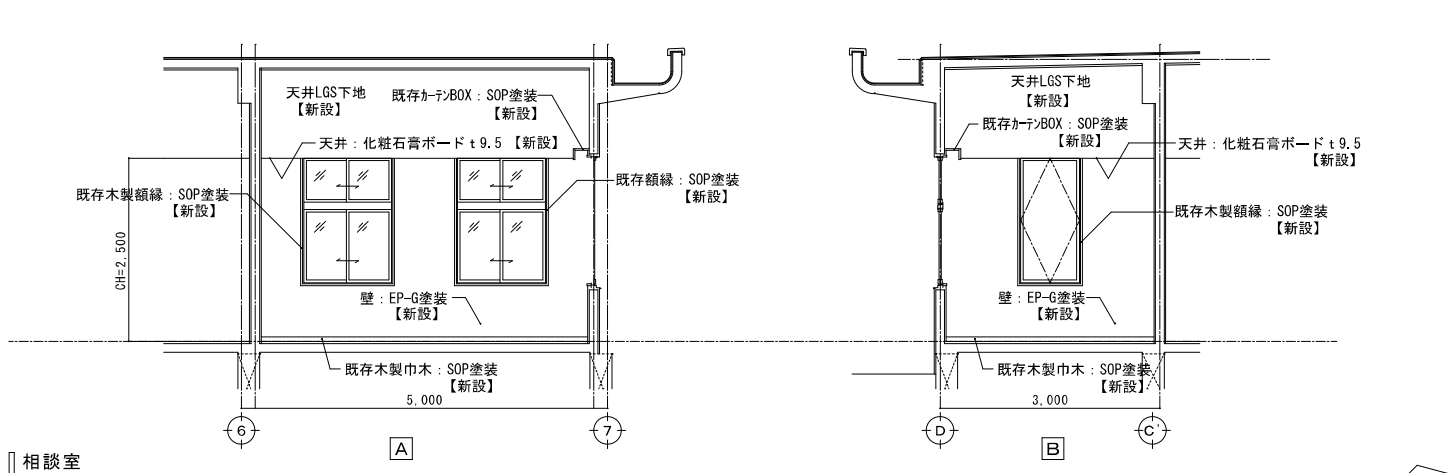
倉庫

クラック：Uカットシール材充填工法
クラック設計数量 22.7m

記 事	Architects Firm Atelier YOU 一級建築士事務所 埼玉県知事登録(1)第12121号 一級建築士 第342763号 藤山智昭	工事名称 川越市みよしの支援センター改修等工事 図面名称 [本館] 改修前 事務室・倉庫平面詳細図・展開図	作成年月日 概 尺 1/30(A1) 1/100(A3)	図面番号 A2-19
--------	-------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------	---------------------------------------	---------------

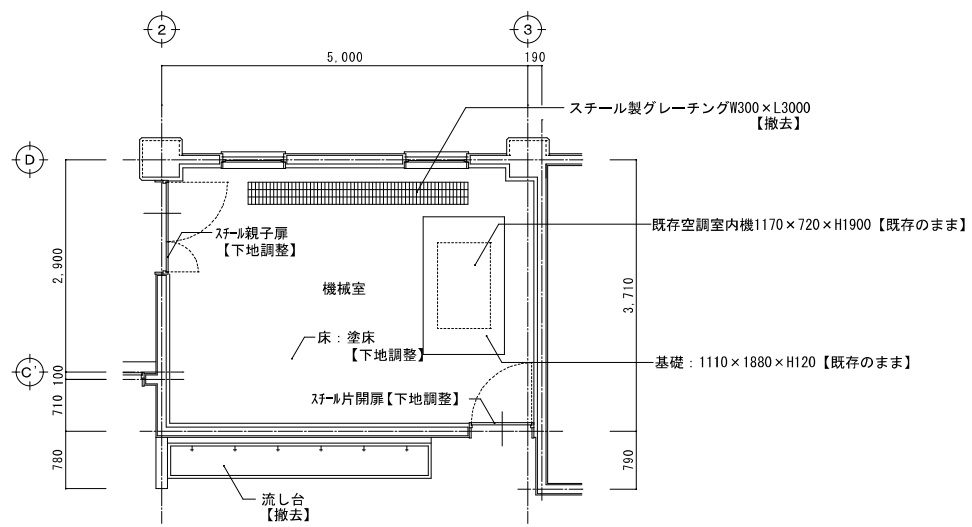
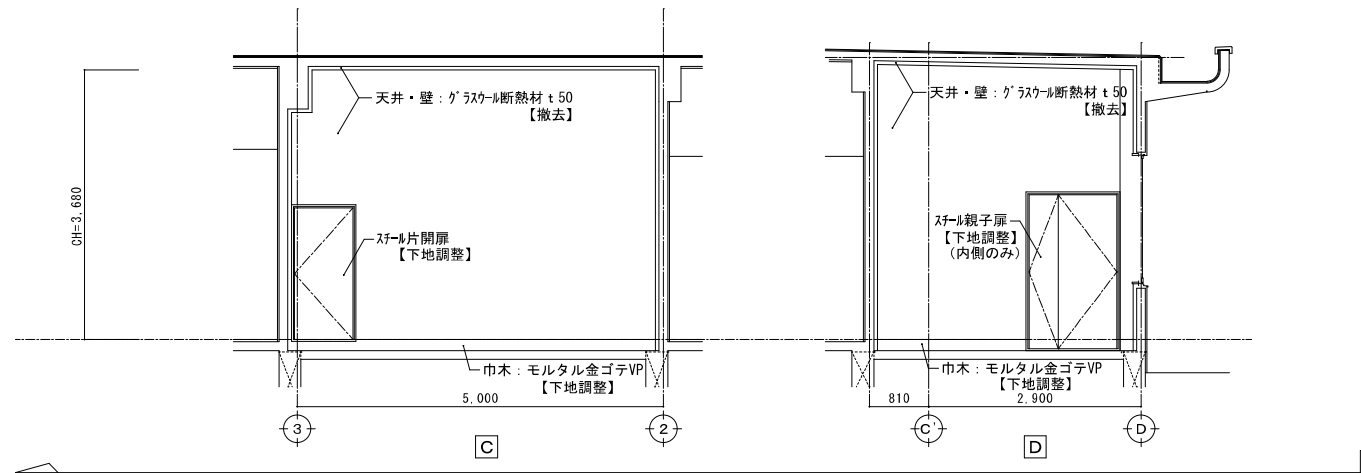
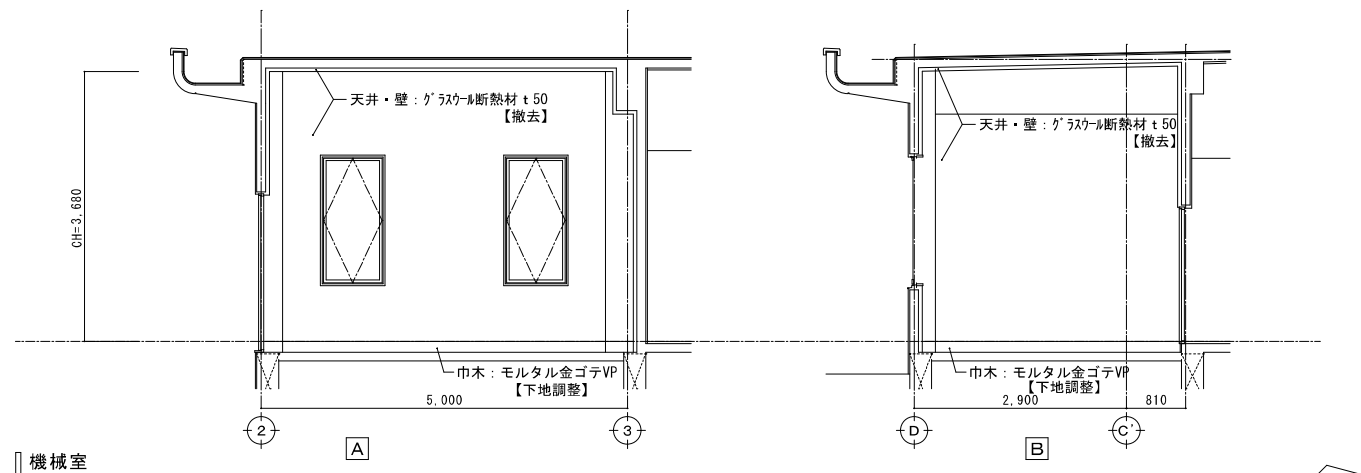


改修後 機械室 平面詳細図 1/100 (A3)

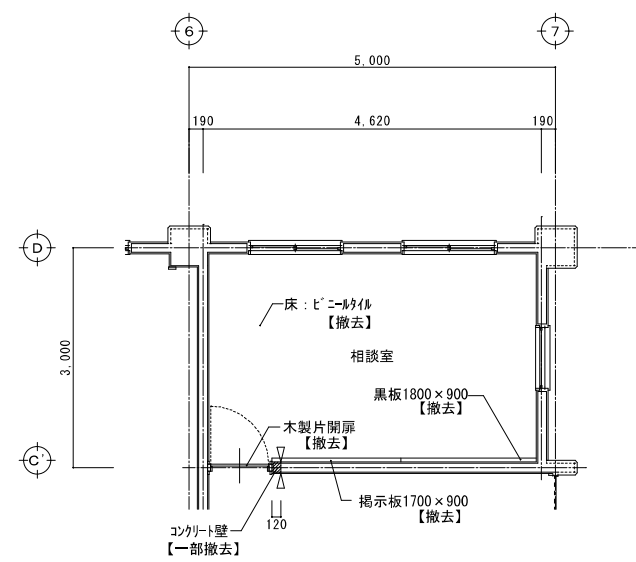
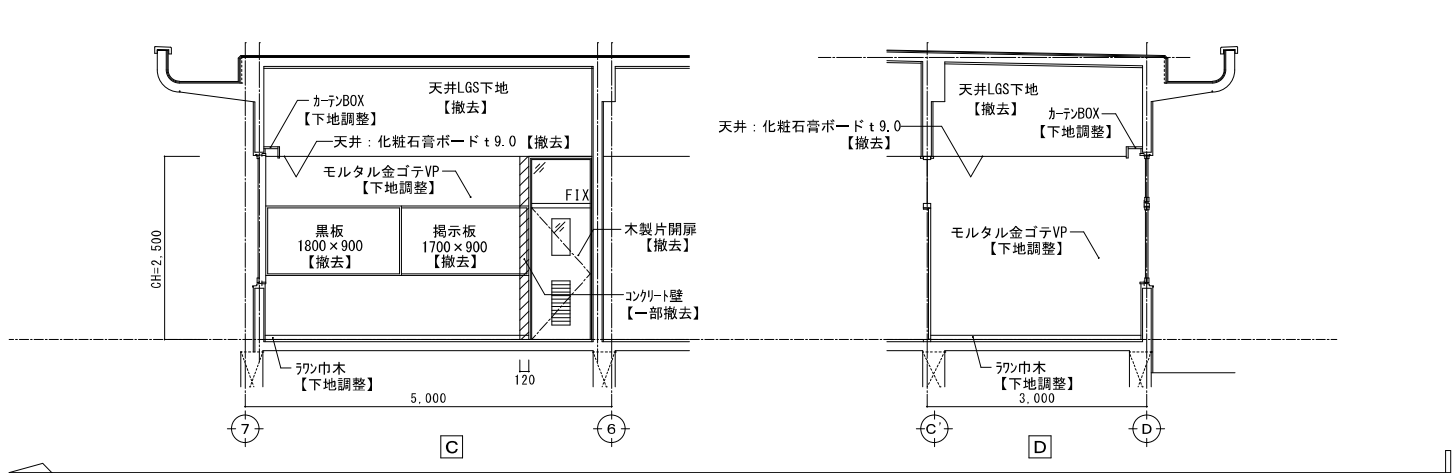
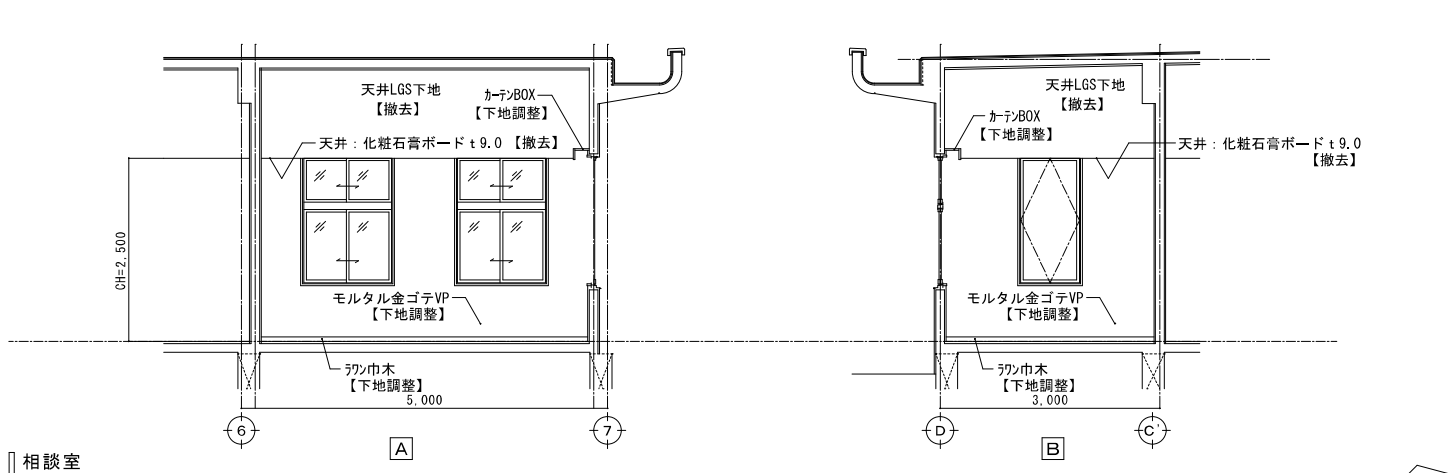


改修後 相談室 平面詳細図 1/100 (A3)

記	
率	



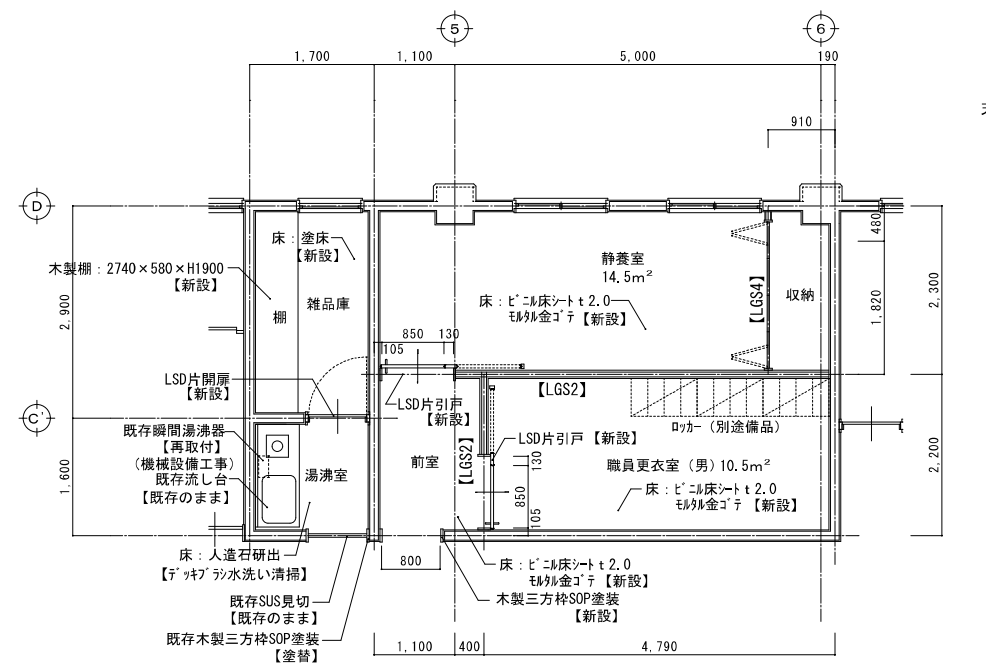
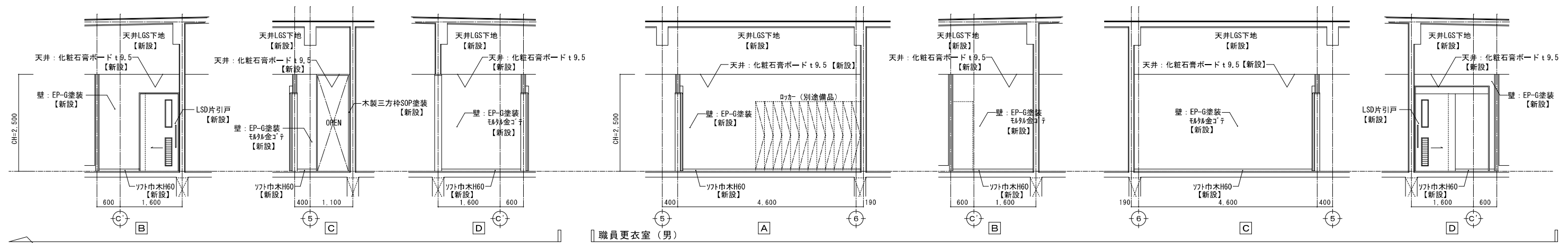
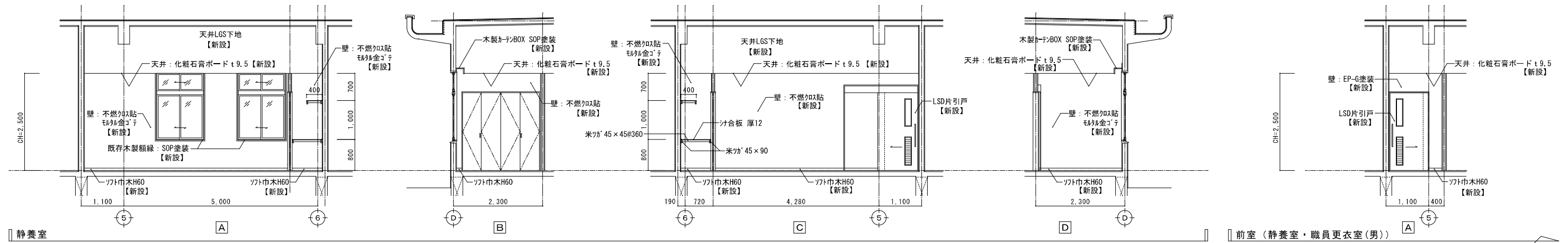
改修前 機械室 平面詳細図 1/100 (A3)



改修前 相談室 平面詳細図 1/100 (A3)

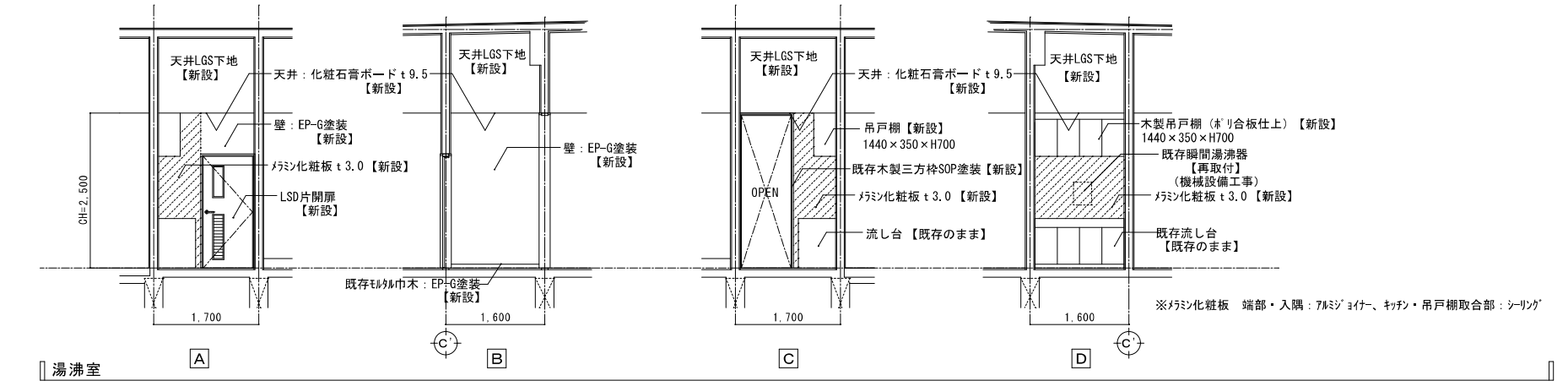
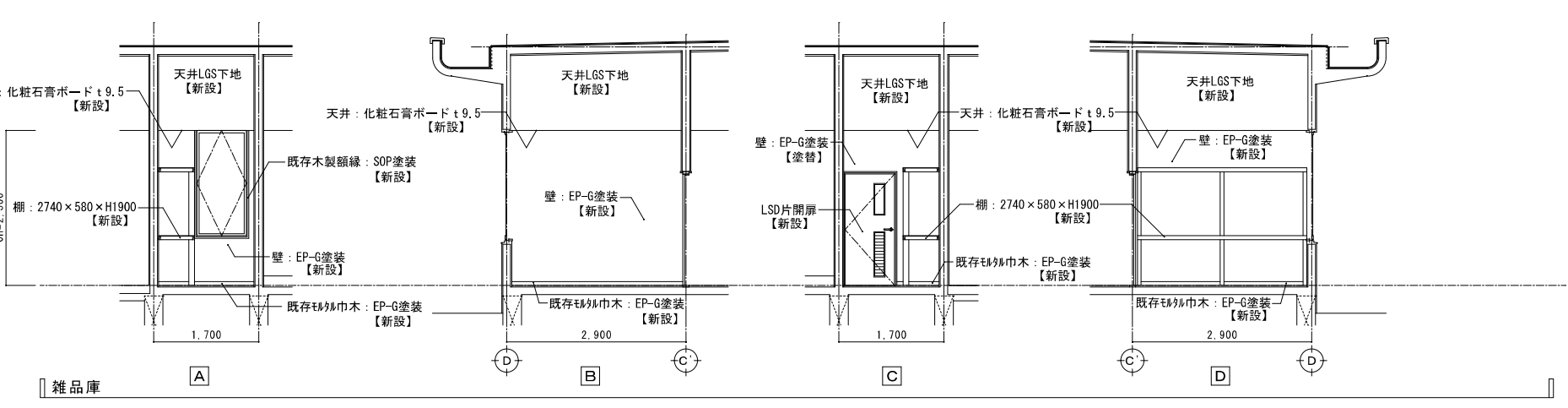
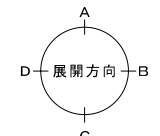
◁ : カッター入れを示す

記	
率	

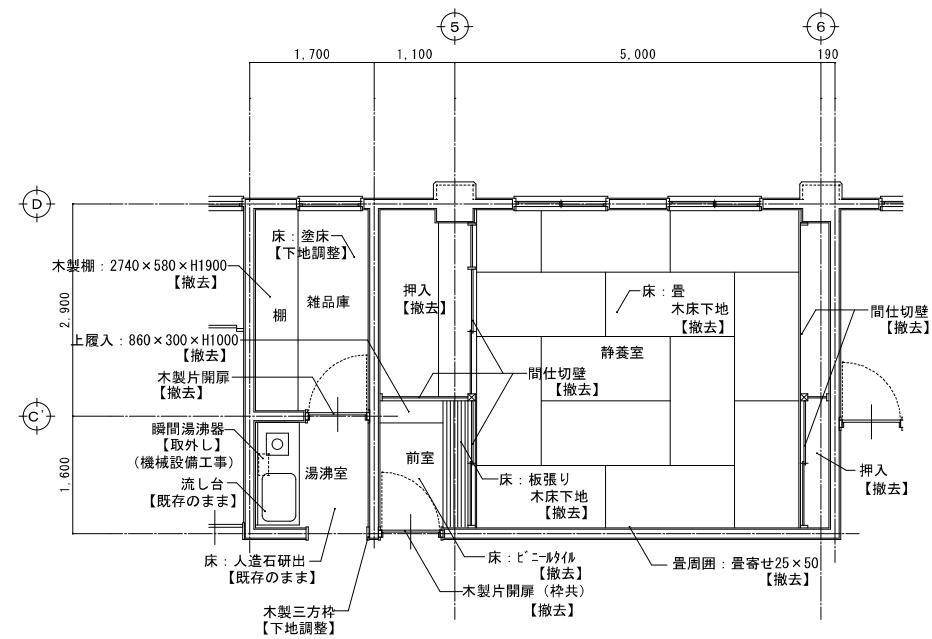
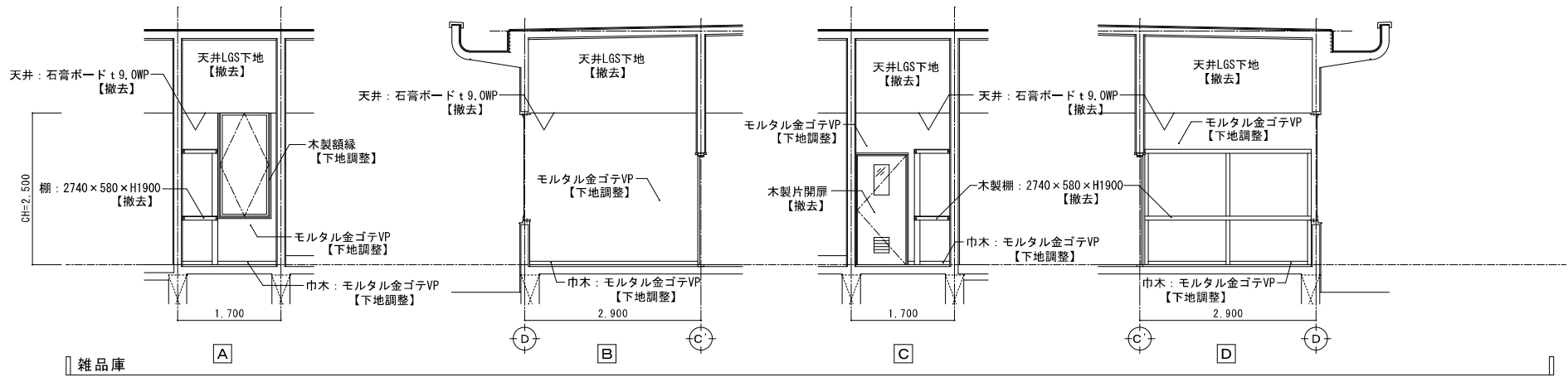
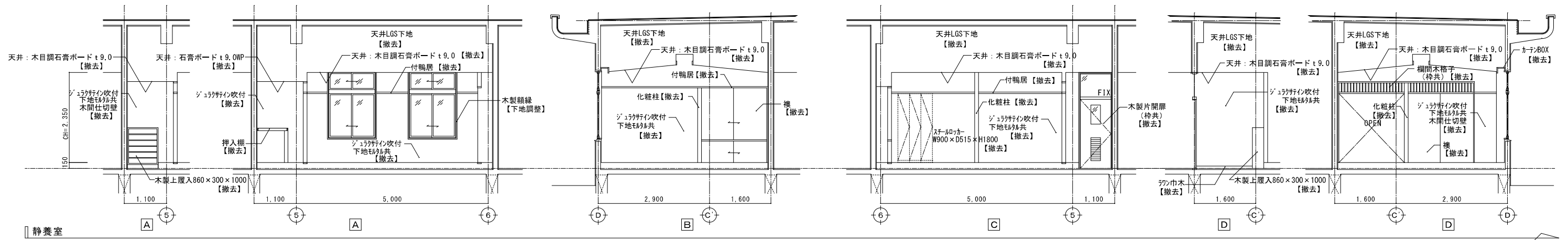


改修後 静養室・職員更衣室(男)・雑品庫・湯沸室 平面詳細図 1/100 (A3)

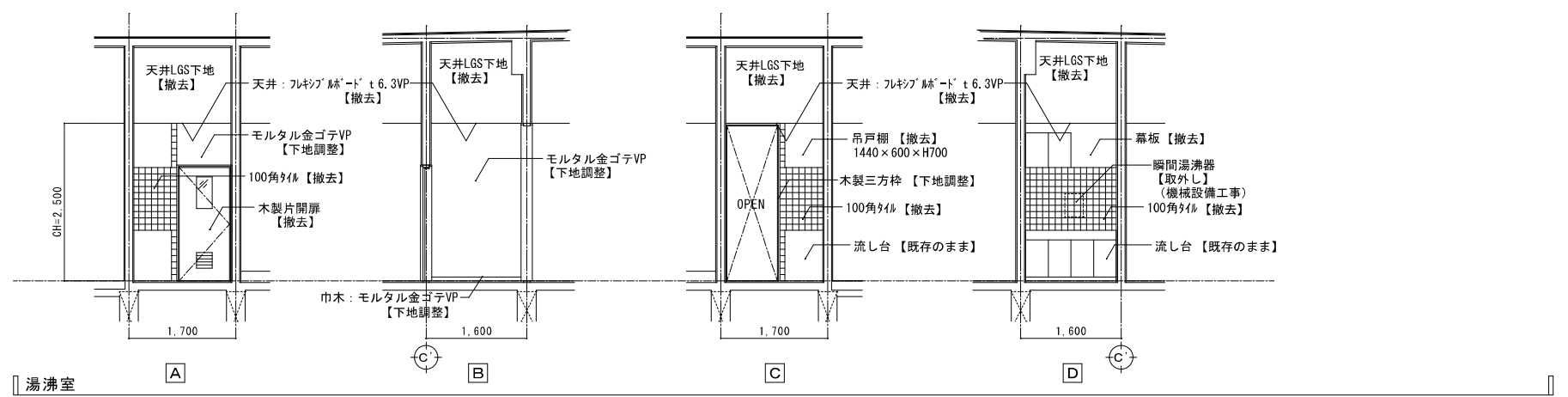
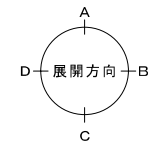
【LGS2】：LGS壁下地65形 石膏ボード厚12.5+厚12.5(両面)新設
【LGS4】：LGS壁下地65形 石膏ボード厚12.5(両面)新設

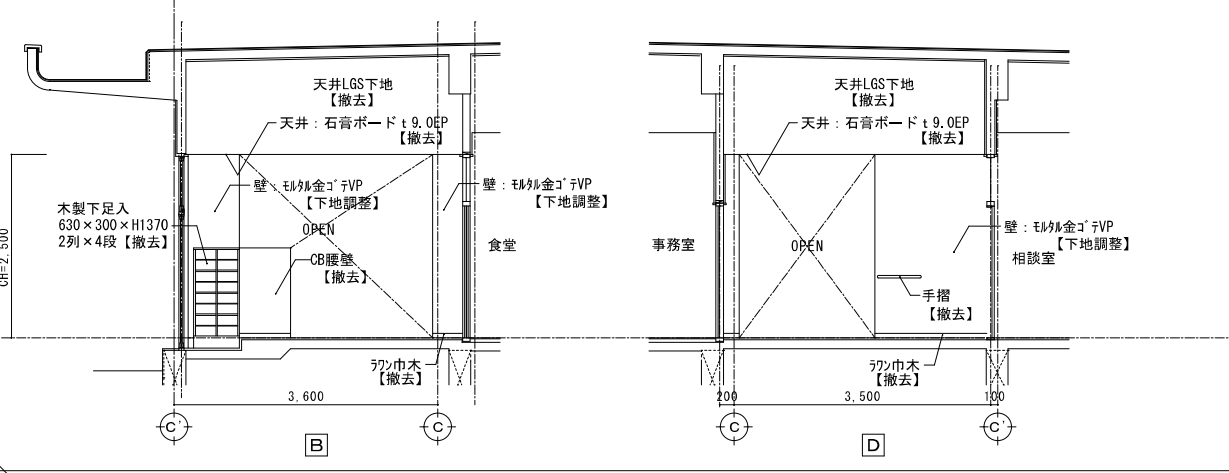
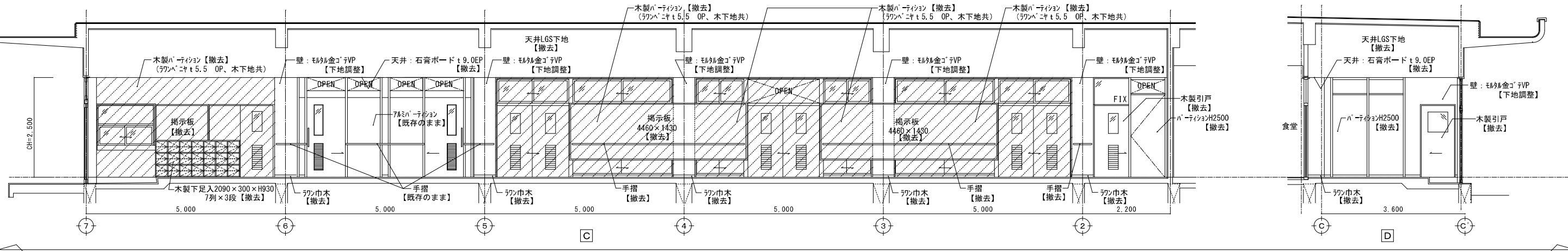
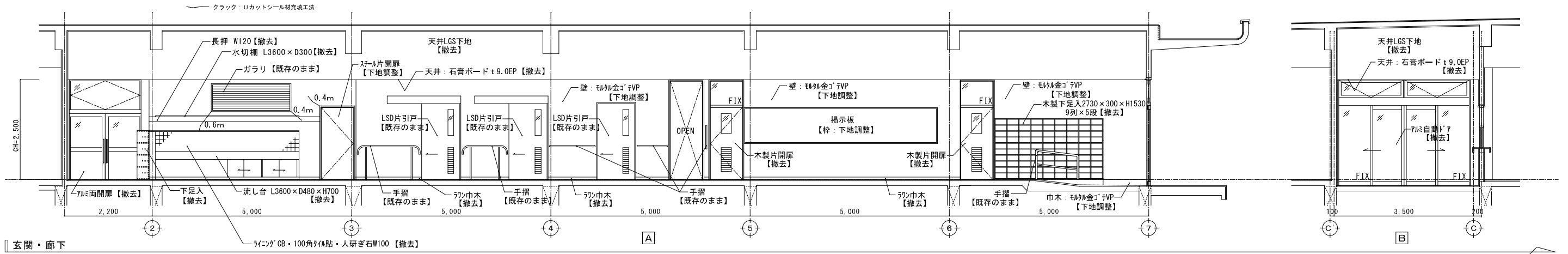


※珪藻土化粧板 端部・入隅：7Rシヨ付、ワッパ・吊戸棚取合部：シーリング

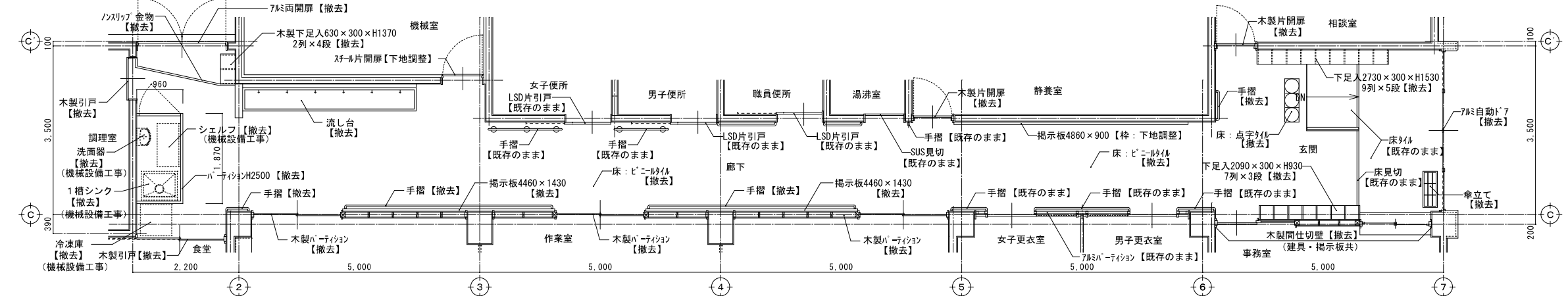


改修前 静養室・雑品庫・湯沸室 平面詳細図 1/100 (A3)



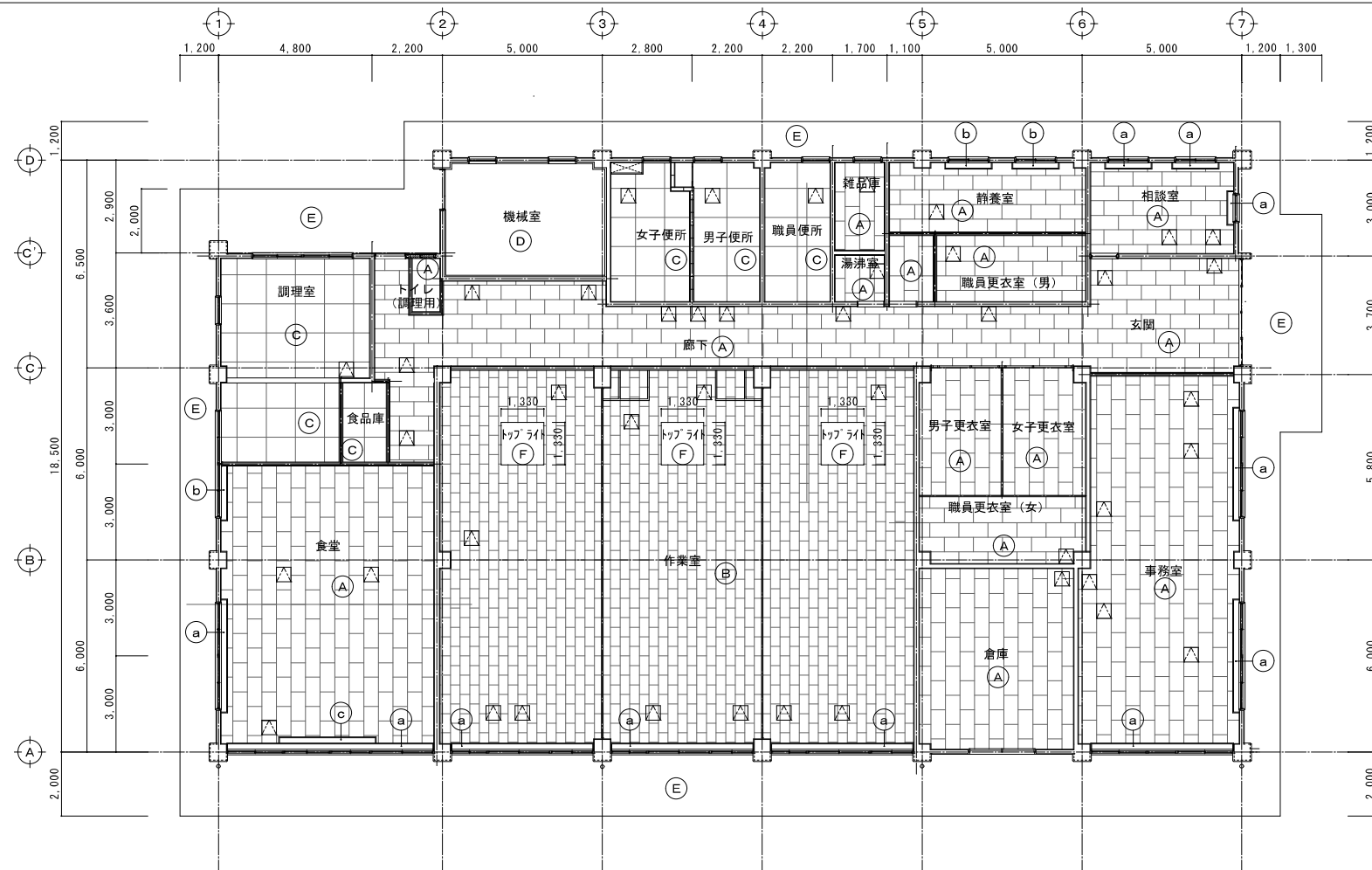


クラック：Uカットシーリング材充填工法
クラック設計数量 1.4m



改修前 玄関・廊下 平面詳細図 1/100 (A3)

記 事	Architects P24	Atelier YOU	一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (1) 第12121号	工事名称	川越市みよしの支援センター改築等工事	作成年月日	図面番号
			一級建築士 第342763号 藤山智昭	図面名称	[本館] 改修前 玄関・廊下平面詳細図・展開図	縮尺 R 1/30(A1) 1/100(A3)	A2-25



改修後 天井伏図 1/200 (A3)

仕上表	
記号	天井仕上
(A)	化粧石膏ボード 厚9.5
(B)	ロックウール化粧吸音板 厚12 (石膏ボード 厚9.5下地)
(C)	ケイ酸カルシウム板 t6.0 目透し貼 EP-G塗装【新設】
(D)	グラスウール断熱材ガラスクロス張り t50【新設】
(E)	下地調整材、可とう形外装薄塗材E【新設】
(F)	7&M格子ルーフ-25×25 厚25 落下防止ワイヤ付【新設】
(a)	既存カーテンBOX W200×H150 SOP塗装【新設】
(b)	カーテンBOX W200×H150 SOP塗装【新設】
(c)	既存スクリーンBOX W200×H150 SOP塗装【新設】
△	天井点検口 アルミ製450角
天井開口補強 (位置は電気図・機械図参照)	
W=1,000×D=1,000 2箇所 (事務室: 天井埋込射灯形室内機)	
W=600×D=600 9箇所 (食堂・作業室: 空調吹出口)	



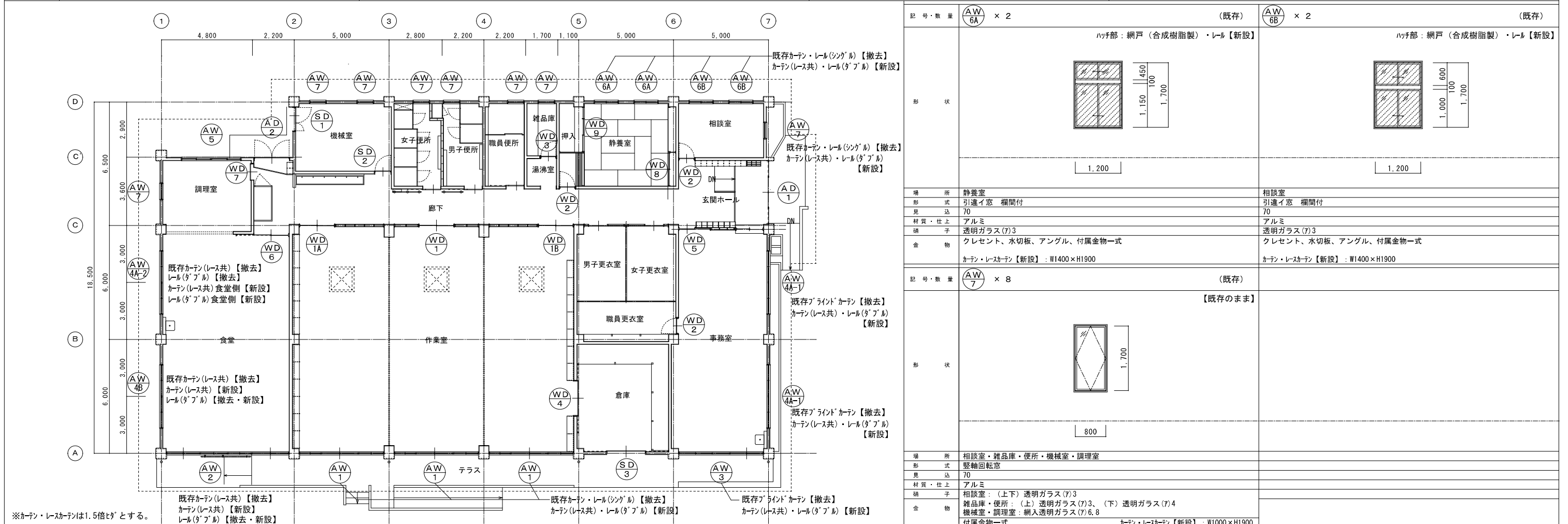
改修前 天井伏図 1/200 (A3)

仕上表	
記号	天井仕上
(A)	石膏ボード 厚9.0 EP【撤去】
(B)	化粧石膏ボード (木目調) 厚9.0【撤去】
(C)	化粧石膏ボード 厚9.0【撤去】
(D)	フレキシブルボード 厚6.3 VP (アスベスト含有)【撤去】
(E)	石膏ボード 厚9.0 WP【撤去】
(F)	グラスウール断熱材 厚50 亀甲金網張り【撤去】
(G)	コンクリート打放し補修の上 複層仕上塗材E【サンダー工法による撤去】
(H)	アクリル板【撤去】
(a)	カーテンBOX W200×H150【下地調整】
(b)	カーテンBOX W200×H150【撤去】
(c)	スクリーンBOX W200×H150【下地調整】
△	天井点検口 アルミ製450角【撤去】

クラック: Uカットシール材充填工法
クラック設計数量 15.4m

記号・数量	(AD1) × 1 (既存)	(AD2) × 1 (既存)	(AW1) × 3 (既存)	(AW2) × 1 (既存)	(AW3) × 1 (既存)
形状					
場所	玄関	調理室踏込	作業室	食堂	事務室
形式	欄間(外倒シ)+FIX+引キ分ケ戸(オートドア)	欄間(回転窓)+両開キ扉	引違い戸(連窓)欄間付+引違い窓(連窓)欄間付	引違い戸(連窓)欄間付+引違い窓(連窓)欄間付	引違い戸(連窓)欄間付+引違い窓(連窓)欄間付
見込	100	100	70	70	70
材質・仕上	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ
硝子	オートドア部+FIX部: 透明強化ガラス(7)8、欄間部: 透明ガラス(7)5	扉下部: 網入透明ガラス(7)6,8、その他: 透明ガラス(7)3	出入口扉下部: 透明強化ガラス(7)5、その他: 透明ガラス(7)5	出入口扉下部: 透明強化ガラス(7)5、その他: 透明ガラス(7)5	出入口扉下部: 網入透明ガラス(7)6,8、その他: 透明ガラス(7)3
金物	本締りシリンドラ錠、SUSレール、センサー式スイッチ、開閉オペレーター、付属金物一式	回転窓金物一式、開戸金物、707-ピン	クレセント、水切板、アングル、SUSグレーチング、網戸(下窓のみ)、付属金物一式 カーテン・レースカーテン【新設】: W1470×H2200、W1270×H2200、W2100×H2800	クレセント、水切板、アングル、SUSグレーチング、網戸(下窓のみ)、付属金物一式 カーテン・レースカーテン【新設】: W2850×H2200、W1900×H2800、W2100×H2800	クレセント、水切板、アングル、付属金物一式 カーテン・レースカーテン【新設】: W2820×H2200、W1900×H2800

記号・数量	(AW4A-1) × 2 (既存)	(AW4A-2) × 1 (既存)	(AW4B) × 1 (既存)	(AW5) × 1 (既存)	(AW5) × 1 (既存)
形状					
場所	事務室	食堂	食堂	調理室	調理室
形式	引違い窓(連窓)欄間付	引違い窓(連窓)欄間付	引違い窓(連窓)欄間付	引違い窓(連窓)	引違い窓(連窓)
見込	70	70	70	70	70
材質・仕上	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ
硝子	透明ガラス(7)3	透明ガラス(7)3	透明ガラス(7)3	透明ガラス(7)3	透明ガラス(7)3
金物	クレセント、水切板、アングル、網戸(下窓のみ) 付属金物一式 カーテン・レースカーテン【新設】: W3470×H1900	クレセント、水切板、アングル、網戸(下窓のみ) 付属金物一式 カーテン・レースカーテン【新設】: W1800×H1900	クレセント、水切板、アングル、付属金物一式 カーテン・レースカーテン【新設】: W3470×H1900	クレセント、水切板、アングル、網戸、付属金物一式	クレセント、水切板、アングル、網戸、付属金物一式

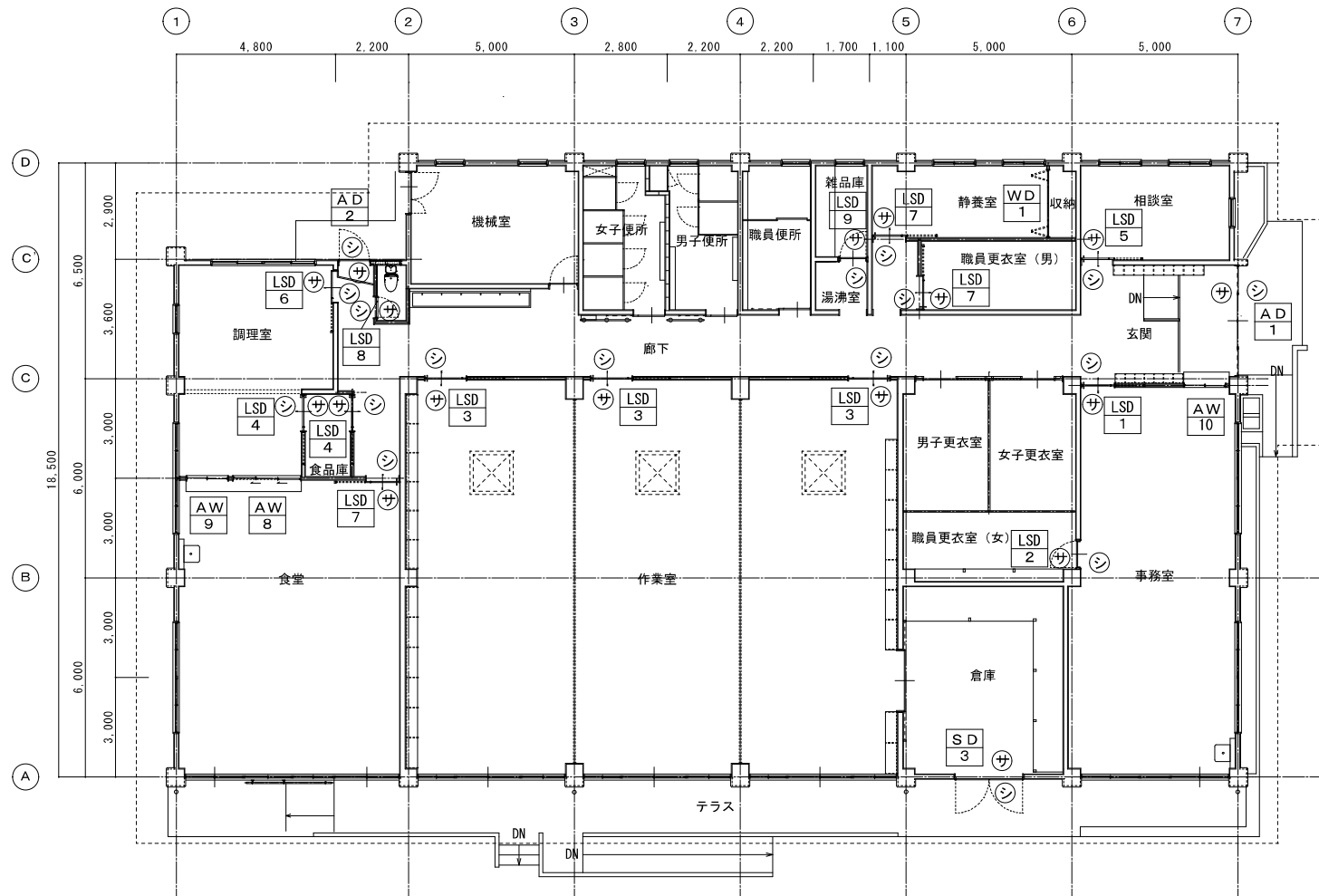


記号・数量	(SD1) × 1 (既存)	(SD2) × 1 (既存)	(SD3) × 1 (既存)		
形状	【下地調整の上、SOP塗装】 	【下地調整の上、SOP塗装】 	【撤去】 		
場所	機軸室	機軸室	倉庫		
形式	親子扉	片開き扉	欄間付両開き戸		
見込	86 扉厚40	86 扉厚40	枠60 扉厚40		
材質・仕上	スチールOP	スチールOP	スチールOP		
硝子	—	—	透明ガラス(7)3		
金物	ヒコッパヒンジ、モロツク錠、フラス落し、ドアフック	ヒコッパヒンジ、モロツク錠、ドアフック	ハカール、内掛錠、引手		
記号・数量	(WD1) × 1 (既存)	(WD1A) × 1 (既存)	(WD1B) × 1 (既存)	(WD2) × 3 (既存)	(WD3) × 1 (既存)
形状	【撤去】(枠共) 	【撤去】(枠共) 	【撤去】(枠共) 	【撤去】(枠共) 	【撤去】(枠共)
場所	作業室	作業室	作業室	相談室・静養室・職員更衣室	雑品庫
形式	引違い戸+引違い窓	引違い戸+引違い窓	引違い戸+引違い窓	欄間付片開き扉	欄間付片開き扉
見込	出入口36、地窓30	出入口36、地窓30	出入口36、地窓30	36	36
材質・仕上	木製OP	木製OP	木製OP	木製OP	木製OP
硝子	扉：型ガラス(7)2、欄間：透明ガラス(7)2	扉：型ガラス(7)2、欄間：透明ガラス(7)2	扉：型ガラス(7)2、欄間：透明ガラス(7)2	扉：型ガラス(7)2、欄間：透明ガラス(7)2	扉：型ガラス(7)2
金物	レール、引手、ｶﾞﾗﾝ250×600	レール、引手、ｶﾞﾗﾝ250×600	レール、引手、ｶﾞﾗﾝ250×600	丁番、モロツク錠、ドアフック、ｶﾞﾗﾝ250×600	丁番、モロツク錠、ドアフック、ｶﾞﾗﾝ250×250
記号・数量	(WD4) × 1 (既存)	(WD5) × 1 (既存)	(WD6) × 1 (既存)	(WD7) × 1 (既存)	(WD8) × 1 (既存)
形状	【下地調整の上、SOP塗装】 	【撤去】(枠共) 	【撤去】(枠共) 	【撤去】(枠共) 	【撤去】(枠共)
場所	倉庫	事務室	食堂	調理室	静養室
形式	両引き戸	片引き戸	2連片引き戸	片引き戸	戸襖
見込	36	36	36	36	30
材質・仕上	木製OP	木製OP	木製OP	木製OP	加貼、背面ベニヤ地仕上
硝子	透明ガラス(7)2	透明ガラス(7)2	透明ガラス(7)2	透明ガラス(7)2	—
金物	ハカール、内掛錠、引手、ｶﾞﾗﾝ250×250	引手、レール、ｶﾞﾗﾝ250×600	引手、レール、ｶﾞﾗﾝ250×600	引手、レール	引手
記号・数量	(WD9) × 1 (既存)				
形状	【撤去】(枠共) 				
場所	静養室				
形式	戸襖				
見込	30				
材質・仕上	新島の紙貼、背面ベニヤ地仕上				
硝子	—				
金物	引手				

※共通：塗装は枠共とし、建具の開閉に支障のなきよう、塗装を施すこと。

記号・数量	AD 1 × 1 (新設)	AD 2 × 1 (新設)	AW 8 × 1 (新設)	AW 9 × 1 (新設)	AW 10 × 1 (新設)	SD 3 × 1 (新設)
形状						
場所	玄関	調理室跡込	食堂	食堂	事務室	倉庫
形式	欄間(外倒シ)+FIX+引キ分ケ戸(オートドア)	欄間(外倒シ)+片開キ扉	引違イ窓(3枚建)	引違イ窓	引違イ窓	欄間付両開キ扉
見込	100	100	105	70	70	扉厚:40
材質・仕上	アルミアルマイト カラー	アルミアルマイト カラー	アルミアルマイト カラー	アルミアルマイト カラー	アルミアルマイト カラー	スチールSOP
硝子	オートドア部+FIX部:透明強化ガラス(7)8、欄間部:透明強化ガラス(7)4	扉部:透明強化ガラス(7)5、欄間部:透明強化ガラス(7)4	透明強化ガラス(7)5	透明強化ガラス(7)5	透明強化ガラス(7)5	型板強化ガラス(7)4
金物	本籍リシリンダー錠、SUSレール、センサ式スイッチ、開閉オペレーター、網戸、衝突防止錠(SUS製、φ30、φ300、両面)付属金物一式	丁番、戸当り、レバーハンドル、シリンダー錠、水切、開閉オペレーター、三方枠、網戸、付属金物一式	アルミアングル、クレセント、フラットレール、付属金物一式	アルミアングル、クレセント、フラットレール、付属金物一式	アルミアングル、クレセント、フラットレール、付属金物一式	戸当り、レバーハンドル、ステンレス番指、丁番、D.C.、付属金物一式、サムターン付シリンダー錠、フランソ落シ、三方枠

記号・数量	LSD 1 × 1 (新設)	LSD 2 × 1 (新設)	LSD 3 × 3 (新設)	LSD 4 × 2 (新設)	LSD 5 × 1 (新設)	LSD 6 × 1 (新設)
形状						
場所	事務室	職員更衣室(女)	作業室	食品庫	相談室	調理室
形式	軽量スチール引戸(壁内隠蔽式)	欄間付軽量スチール片開キ扉	軽量スチール引戸(壁内隠蔽式)	軽量スチール引戸(壁内隠蔽式)	欄間付軽量スチール引戸(面付)	軽量スチール引戸(面付)
見込	枠:135、扉:40	枠:180、扉:40	枠:135、扉:40	枠:135、扉:40	枠:180、扉:40	枠:180、扉:40
材質・仕上	スチール焼付塗装(指定色)	スチール焼付塗装(指定色)	スチール焼付塗装(指定色)	スチール焼付塗装(指定色)	スチール焼付塗装(指定色)	スチール焼付塗装(指定色)
硝子	型板強化ガラス(7)4	型板強化ガラス(7)4	型板強化ガラス(7)4	型板強化ガラス(7)4	型板強化ガラス(7)4	型板強化ガラス(7)4
金物	引手、引戸錠(内部:サムターン付)、ドアハンガー(自閉装置)三方枠、ガラリ(開口率:0.4)、ステンレス番指、指はさみ防止機能付、付属金物一式	P.H.戸当り、レバーハンドル、シリンダー錠、ステンレス番指三方枠、ガラリ(開口率:0.4)、付属金物一式	引手、引戸錠(内部:サムターン付)、ドアハンガー(自閉装置)三方枠、ガラリ(開口率:0.4)、ステンレス番指、指はさみ防止機能付、付属金物一式	引手、引戸錠(内部:サムターン付)、ドアハンガー(自閉装置)三方枠、ステンレス番指、指はさみ防止機能付、付属金物一式	引手、引戸錠(内部:サムターン付)、ドアハンガー(自閉装置)三方枠、ガラリ(開口率:0.4)、ステンレス番指、指はさみ防止機能付、付属金物一式	引手、引戸錠(内部:サムターン付)、ドアハンガー(自閉装置)三方枠、ステンレス番指、指はさみ防止機能付、付属金物一式



凡例
 ⊙ : シリンダー錠
 ⊕ : サムターン

記号・数量	LSD 7 × 3 (新設)	LSD 8 × 1 (新設)
形状		
場所	食堂・静養室・職員更衣室(男)	トイレ(調理用)
形式	軽量スチール引戸(面付)	軽量スチール片開キ扉
見込	枠:135、扉:40	枠:135、扉:40
材質・仕上	スチール焼付塗装(指定色)	スチール焼付塗装(指定色)
硝子	型板強化ガラス(7)4	型板強化ガラス(7)4
金物	引手、引戸錠(内部:サムターン付)、ドアハンガー(自閉装置)三方枠、ガラリ(開口率:0.4)、ステンレス番指、指はさみ防止機能付、付属金物一式	P.H.戸当り、レバーハンドル、シリンダー錠、ステンレス番指三方枠、非常時開放装置(外開き付)、付属金物一式
記号・数量	LSD 9 × 1 (新設)	WD 1 × 1 (新設)
形状		
場所	靴品庫	収納
形式	軽量スチール片開キ扉	折り戸(4枚建)
見込	枠:180、扉:40	30
材質・仕上	スチール焼付塗装(指定色)	ポリ合板フラッシュ
硝子	型板強化ガラス(7)4	
金物	P.H.戸当り、レバーハンドル、シリンダー錠、ステンレス番指三方枠、ガラリ(開口率:0.4)、付属金物一式	レール、戸車、引手、付属金物一式

F-2 本館1階 玄関 来客用下足入れ 1ヶ所

品名	来客用下足入れ	品番	GST-SD1. B. S. ZZ (参考)
仕 様			
天 板	メラミン化粧板貼 木口:ABSエッジt2.0mm		
本体主材	樹脂コート化粧パーティクルボード 木口:樹脂シート t1.0mm貼		
中 棚	樹脂コート化粧パーティクルボード 木口:シート貼		
開 戸 (アクリル戸)	枠組:樹脂コート化粧パーティクルボード 木口:シート貼 スライド丁番 (キャッチ付1/無し)		
台 輪	ポリ合板貼		
その他	ネームプレート (21人分)		

7列×3段=21人用

【ネームプレート】
樹脂製名札差 (61x33)

F-3 本館1階 倉庫 収納棚 1ヶ所

品名	収納棚	品番	CRR-W3. A. M. ZZ (参考)
仕 様			
柱	米桐60×60 (無塗装)		
横架材	米桐70×20 (無塗装)		
根 太	米桐45×40 (無塗装)		
棚 板	ラワン合板 t9mm 無塗装		

面取りC5
(3ヶ所共通)

F-4 本館1階 作業室 工作台 10台

品名	工作台	品番	WSWM-2H1. C. ZZ (参考)
仕 様			
天 板	桧間伐台形集成材(国内産材) 硬質UV塗装		
本体主材	桧間伐台形集成材(国内産材) 自然系塗料仕上げ		
棚 板	桧間伐台形集成材(国内産材) 自然系塗料仕上げ		
脚 端	アジャスター付 (MN型 φ50)		

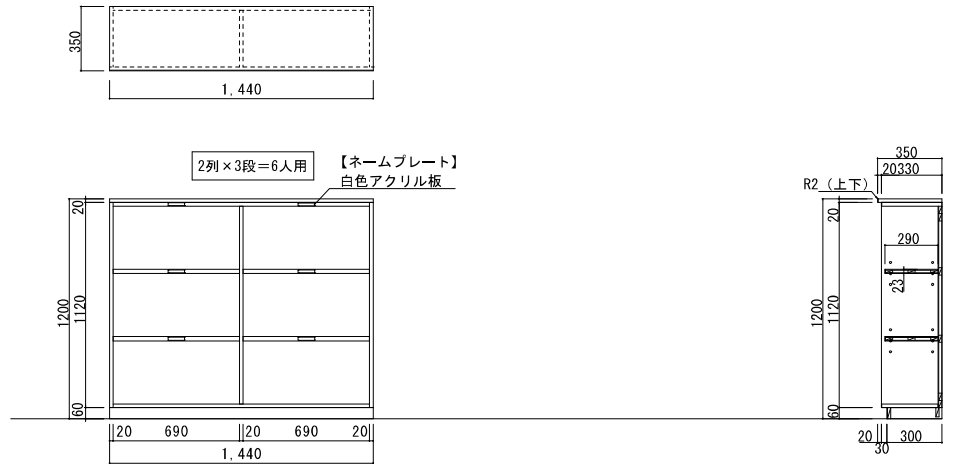
【ネームプレート】
白色アクリル板

12列×3段=36人用

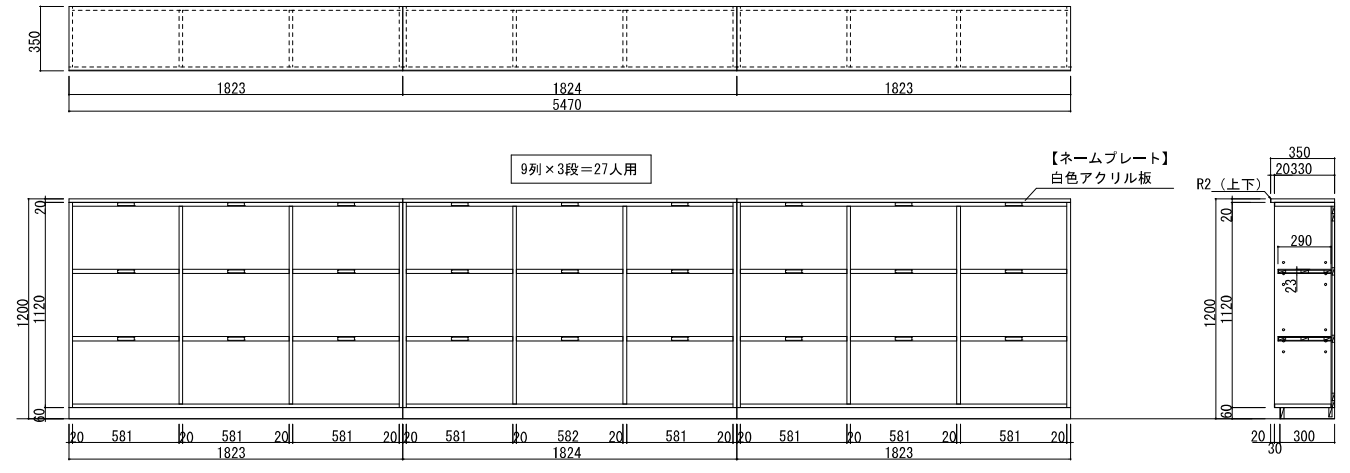
F-5 本館1階 作業室 収納棚 1ヶ所

品名	収納棚	品番	CRR-W3. A. M. ZZ (参考)
仕 様			
天 板	メラミン化粧板貼 木口:ABSエッジt2.0mm		
本体主材	樹脂コート化粧パーティクルボード 木口:樹脂シート t1.0mm貼		
背 板	樹脂コート化粧MDF貼		
棚 板	樹脂コート化粧MDFフラッシュ 木口:樹脂シート t1.0mm貼 棚ダボφ9 (3段)		
台 輪	ポリ合板貼		
その他	ネームプレート (36人分)		

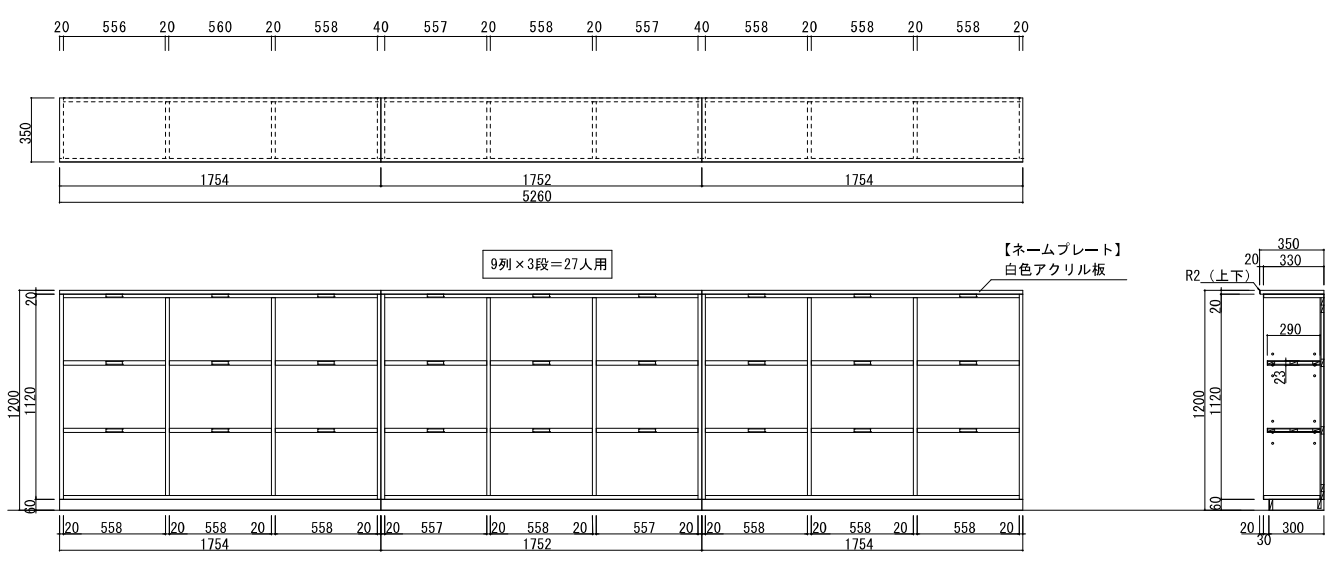
品名	収納棚	品番	CRR-W3.A.M.ZZ (参考)
仕様			
天板	メラミン化粧板貼 木口:ABSエッジt2.0mm		
本体主材	樹脂コート化粧パーティクルボード 木口:樹脂シートt1.0mm貼		
背板	樹脂コート化粧MDF貼		
棚板	樹脂コート化粧MDFフラッシュ 木口:樹脂シートt1.0mm貼 棚タポφ9 (3段)		
台輪	ポリ合板貼		
その他	ネームプレート (6人分)		



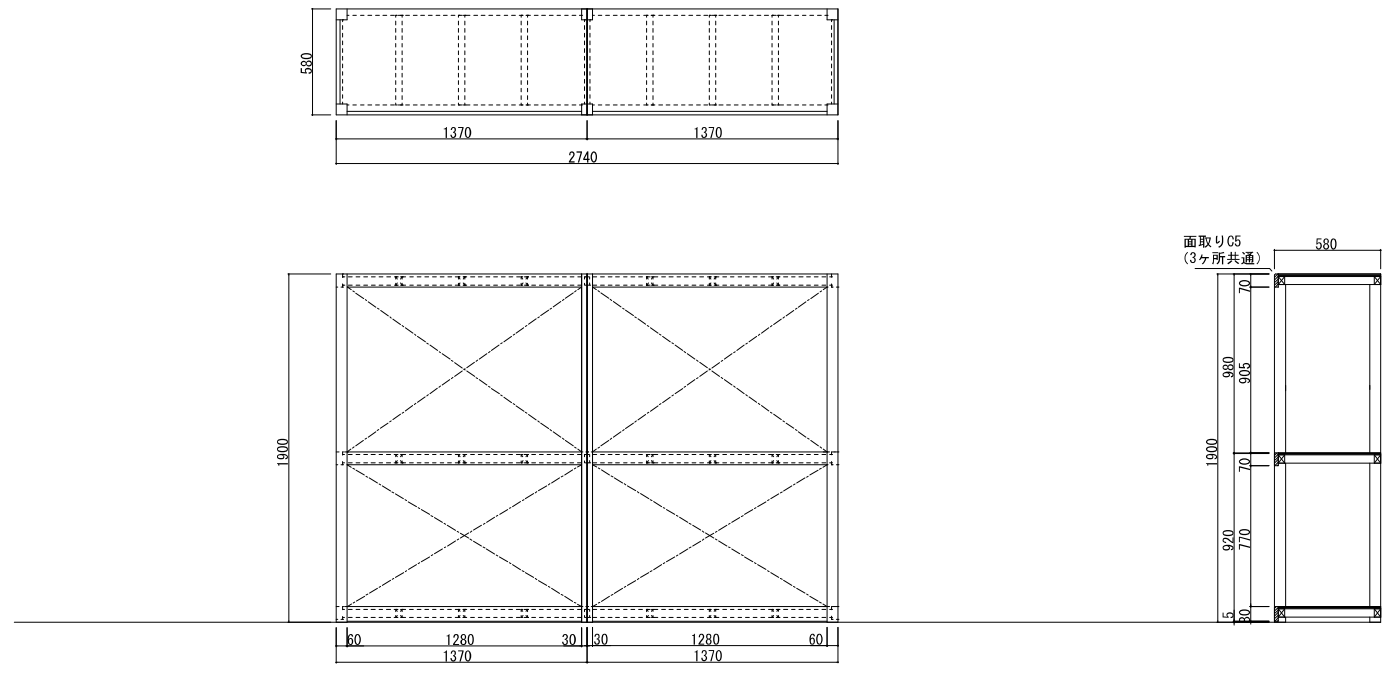
品名	収納棚	品番	CRR-W3.A.M.ZZ (参考)
仕様			
天板	メラミン化粧板貼 木口:ABSエッジt2.0mm		
本体主材	樹脂コート化粧パーティクルボード 木口:樹脂シートt1.0mm貼		
背板	樹脂コート化粧MDF貼		
棚板	樹脂コート化粧MDFフラッシュ 木口:樹脂シートt1.0mm貼 棚タポφ9 (3段)		
台輪	ポリ合板貼		
その他	ネームプレート (27人分)		



品名	収納棚	品番	CRR-W3.A.M.ZZ (参考)
仕様			
天板	メラミン化粧板貼 木口:ABSエッジt2.0mm		
本体主材	樹脂コート化粧パーティクルボード 木口:樹脂シートt1.0mm貼		
背板	樹脂コート化粧MDF貼		
棚板	樹脂コート化粧MDFフラッシュ 木口:樹脂シートt1.0mm貼 棚タポφ9 (3段)		
台輪	ポリ合板貼		
その他	ネームプレート (27人分)		



品名	棚
仕様	
柱	米柄60×60 (無塗装)
横架材	米柄70×20 (無塗装)
根太	米柄45×40 (無塗装)
棚板	ラワン合板 t9mm 無塗装



記	
率	

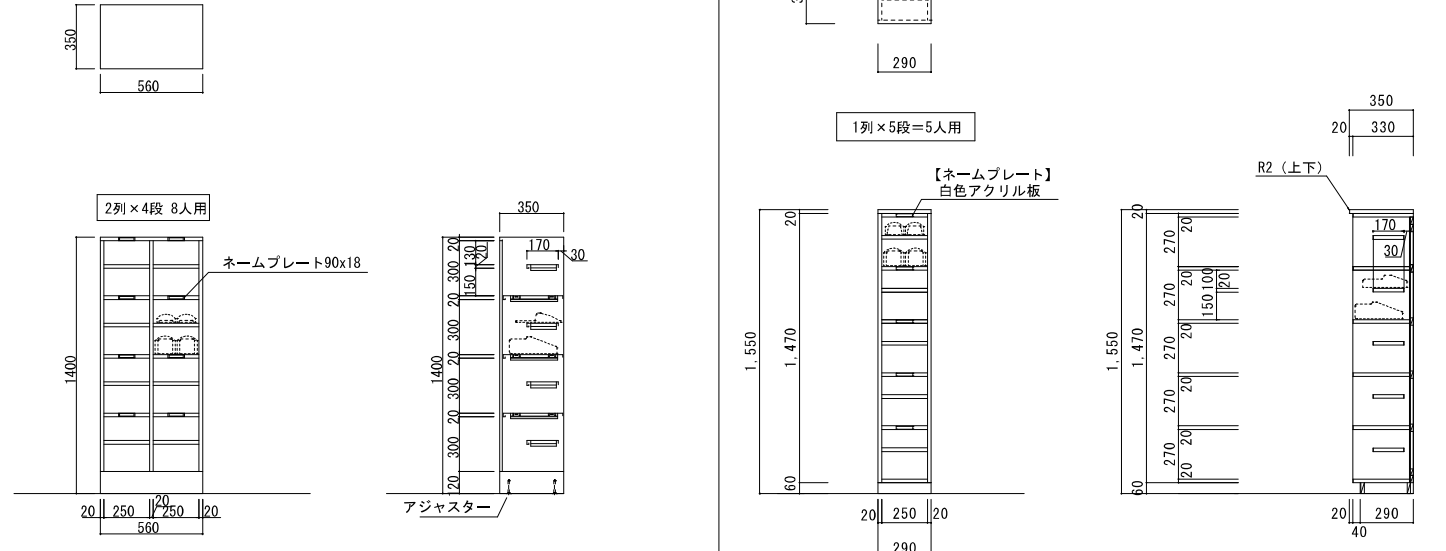
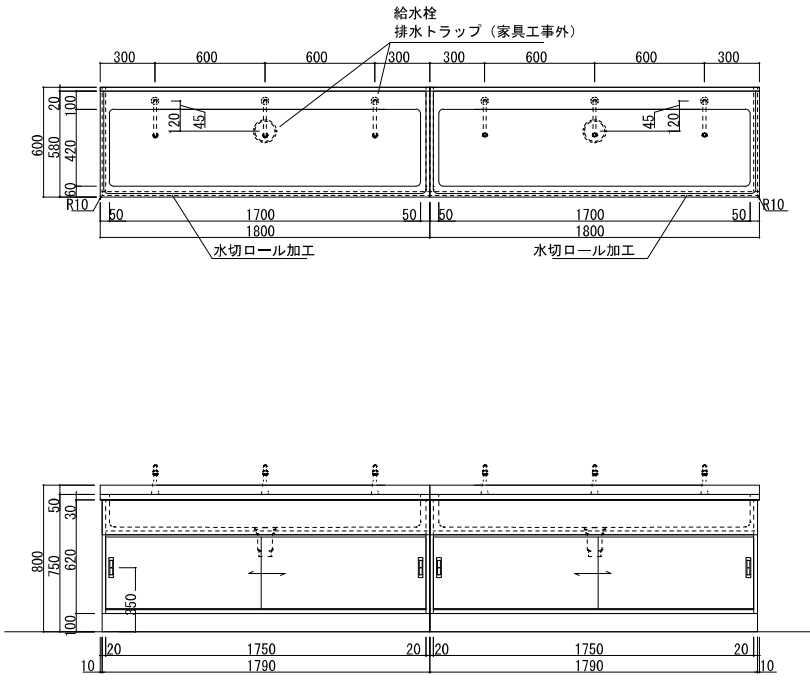
F-10	本館1階 廊下 流し台	1ヶ所	F-11	本館1階 下足入れ	1ヶ所	F-12	本館1階 廊下 下足入れ	1ヶ所
------	-------------	-----	------	-----------	-----	------	--------------	-----

品名	流し台	品番	CRN-R1.B.ZZ (参考)
仕様			
天板	ステンレス SUS304 t1.0mm (R付) 表面仕上:#400 水切りロール加工、下地合板 t9mm		
シンク	ステンレス SUS304 t1.0mm 表面仕上:#400		
本体主材	樹脂コート化粧パーティクルボード 木口:樹脂シート t1.0mm貼 *取外し式地板:樹脂コート化粧MDF t4mm (ビス止)		
引違戸	樹脂コート化粧パーティクルボード 木口:シート貼 樹脂成型レール、調整式戸車、樹脂製空気孔付舟底引手 引き残しストッパー		
エプロン	メラミン化粧板貼(フラッシュ)		
背板	樹脂コート化粧MDF貼		
台輪	ポリ合板貼		

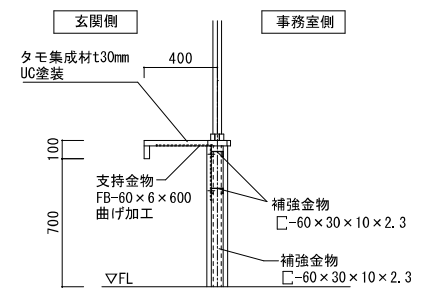
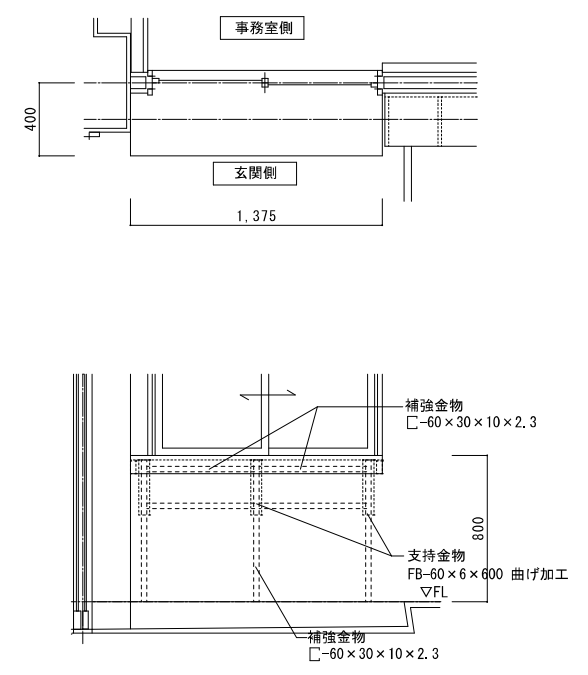
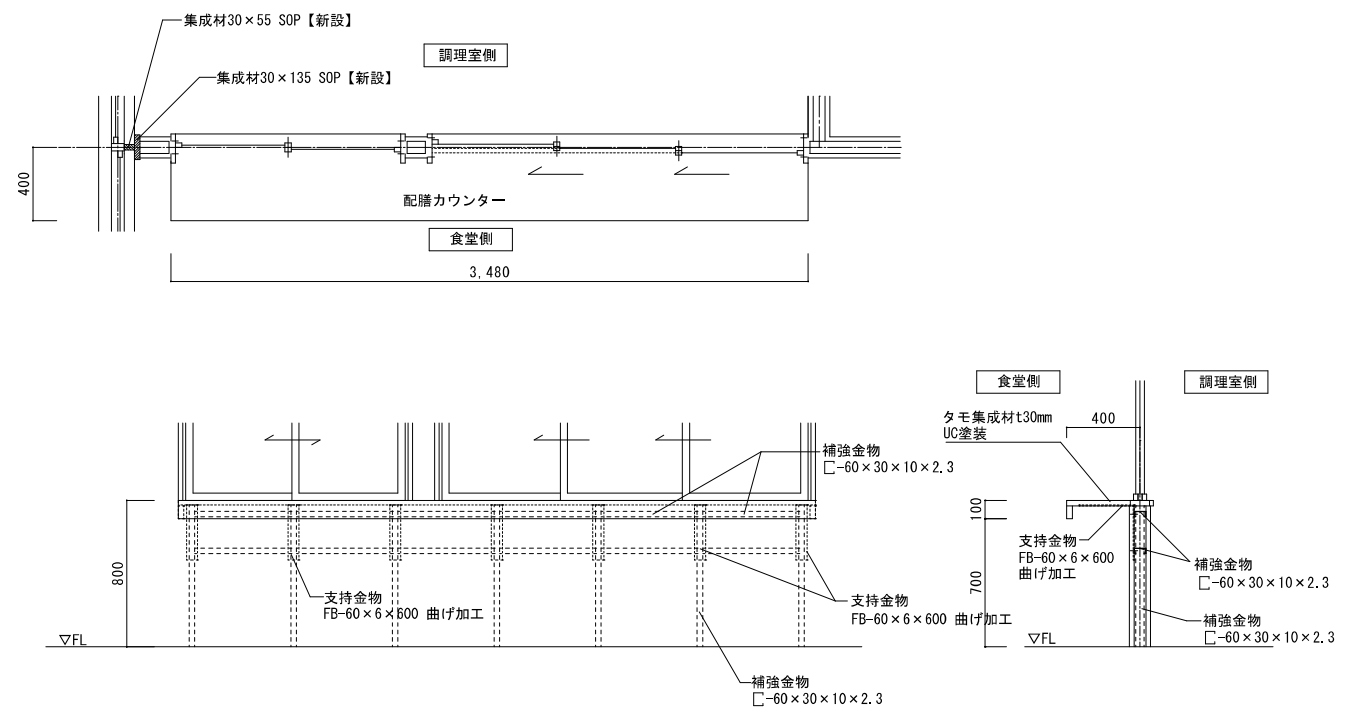
品名	下足入れ	品番	GSS-0S1.B.S.ZZ (参考)
仕様			
本体主材	スチール製 粉体塗装		
中棚	スチール製 粉体塗装		
台輪	スチール製 粉体塗装		
その他	ネームプレート (8人分)		

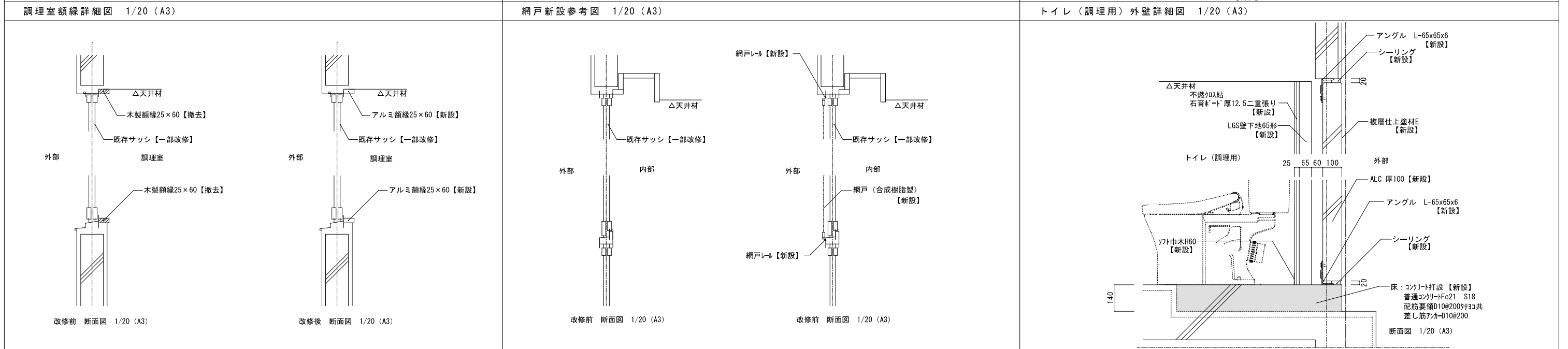
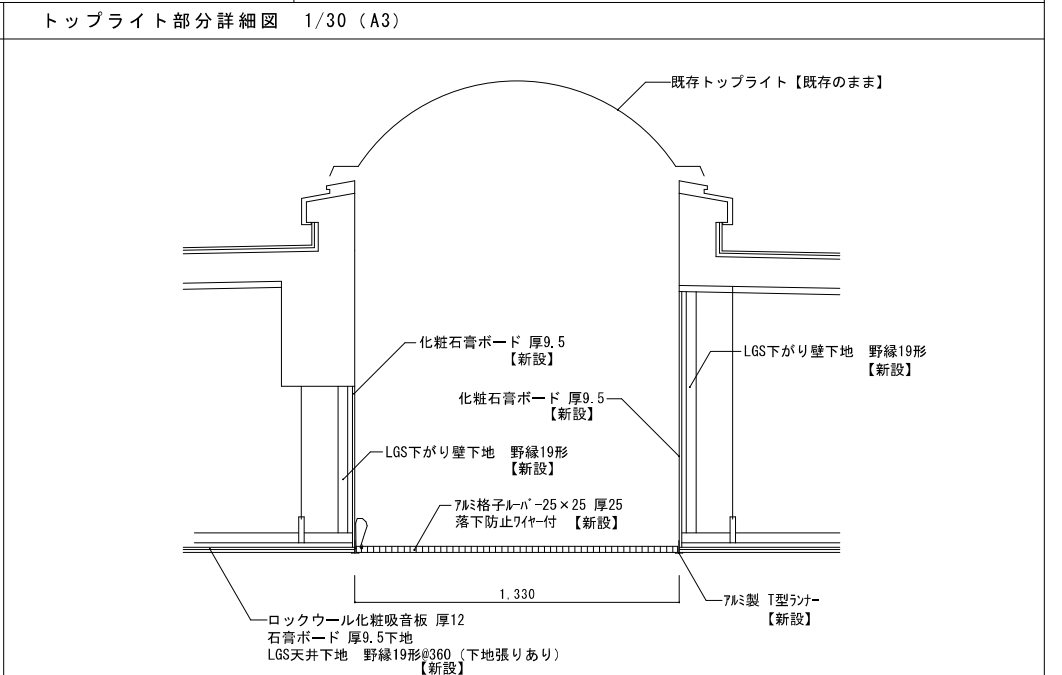
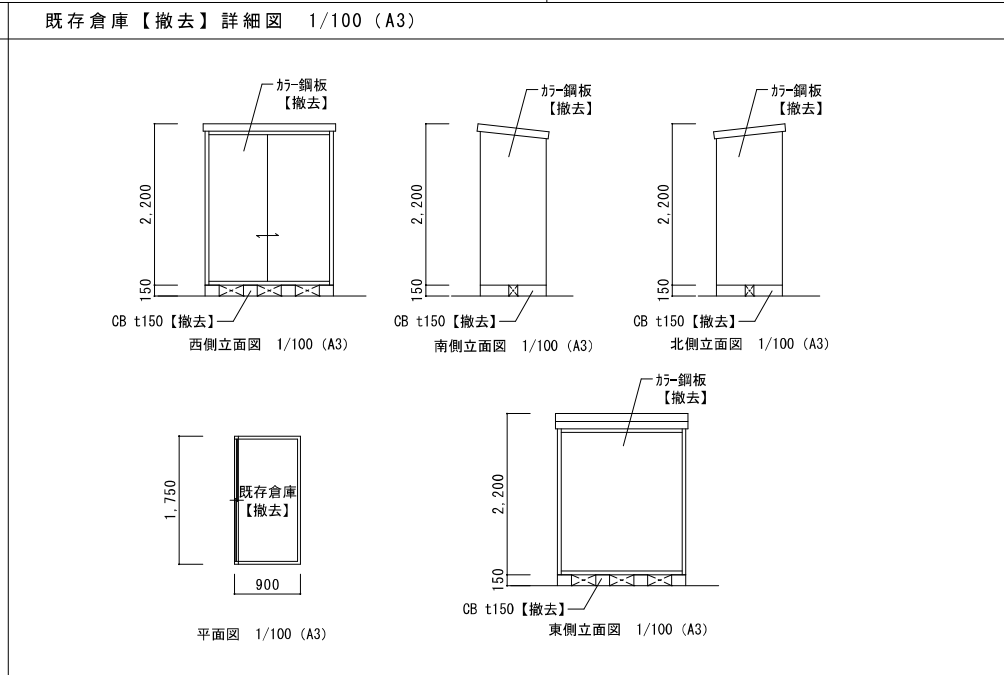
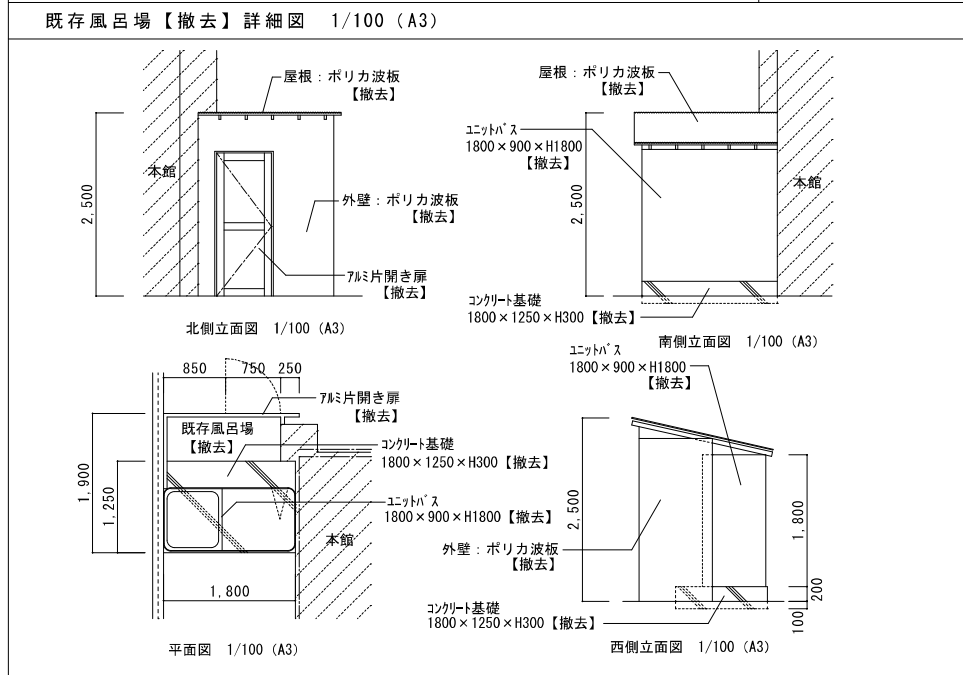
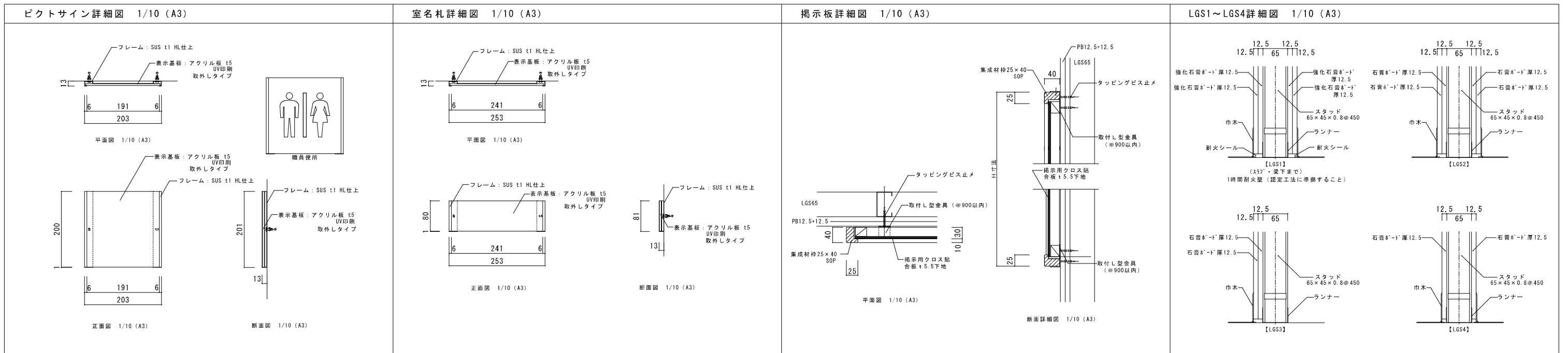
品名	下足入れ	品番	
仕様			
天板	メラミン化粧板貼 木口:ABSエッジ t2.0mm		
本体主材	樹脂コート化粧パーティクルボード 木口:樹脂シート t1.0mm貼		
中棚	樹脂コート化粧パーティクルボード 木口:シート貼		
台輪	ポリ合板貼		
その他	ネームプレート (5人分)		

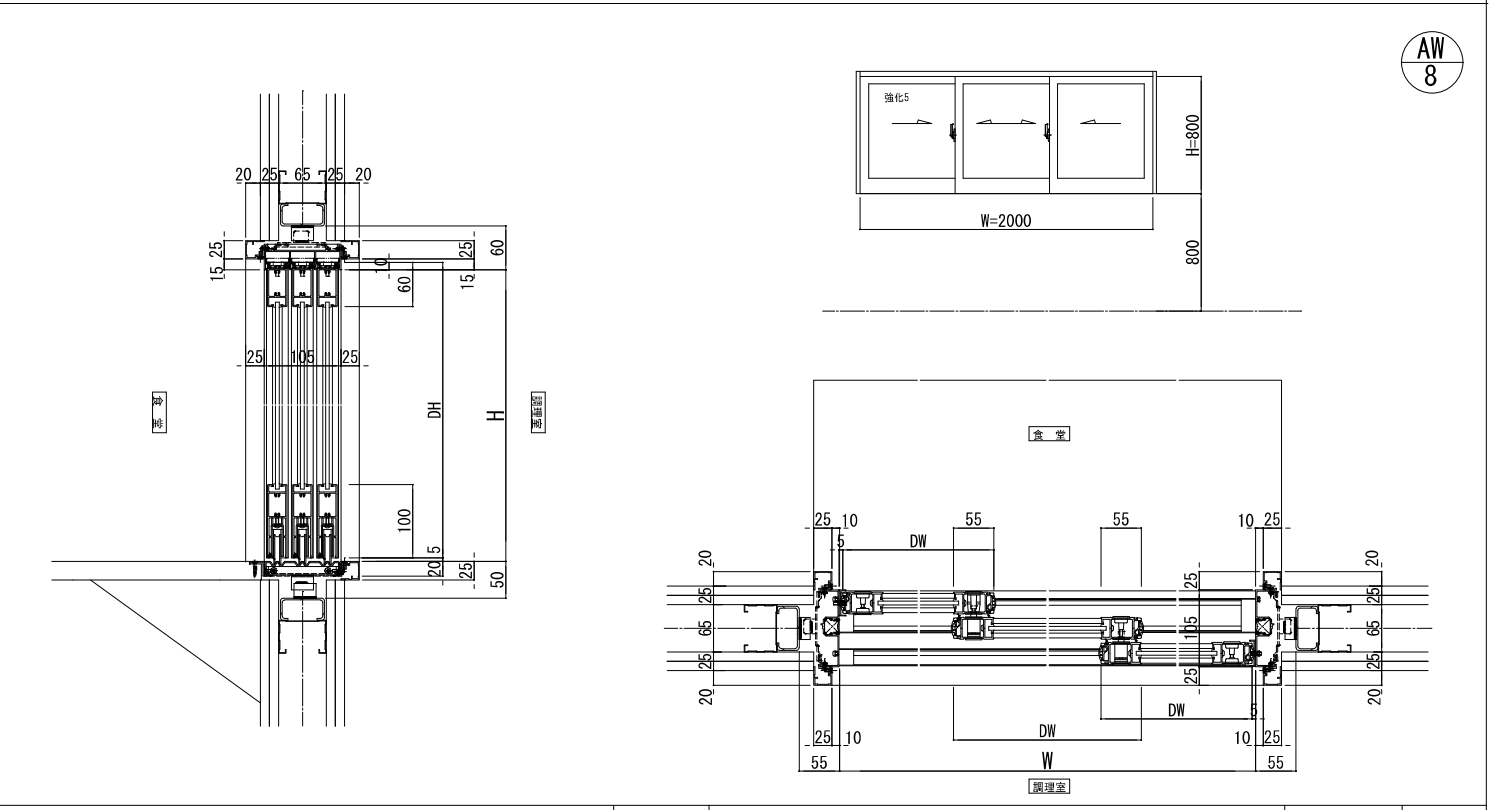
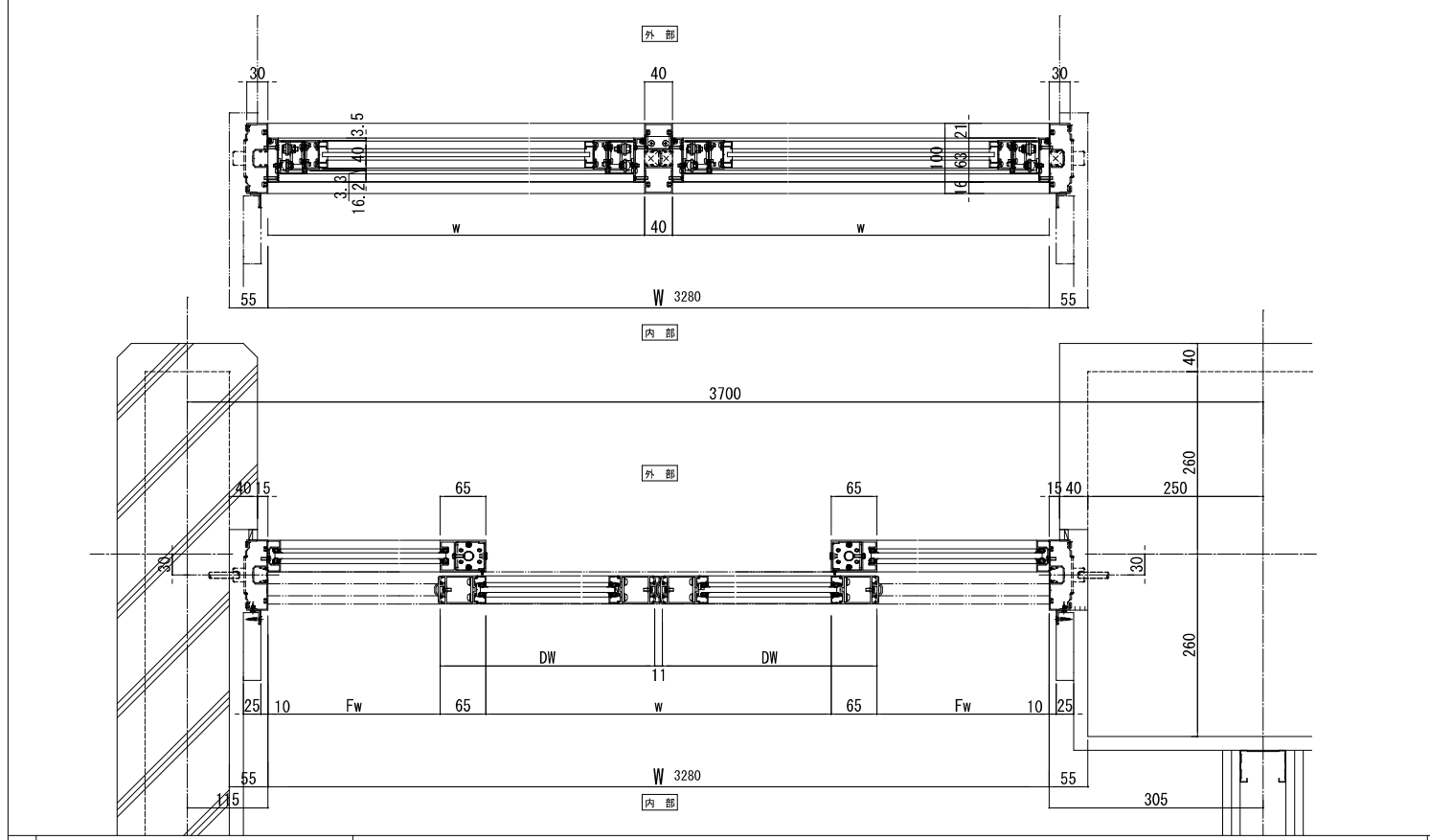
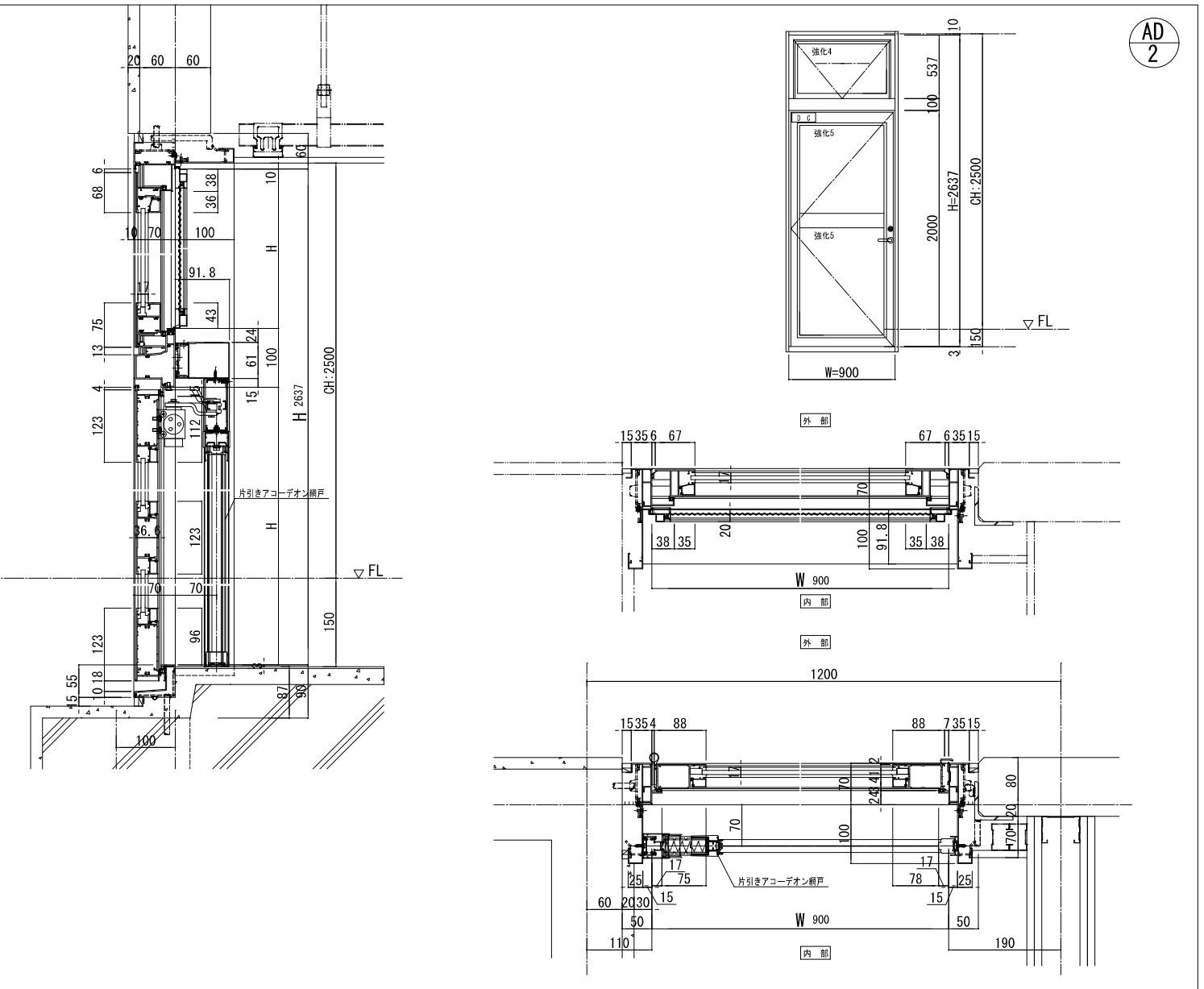
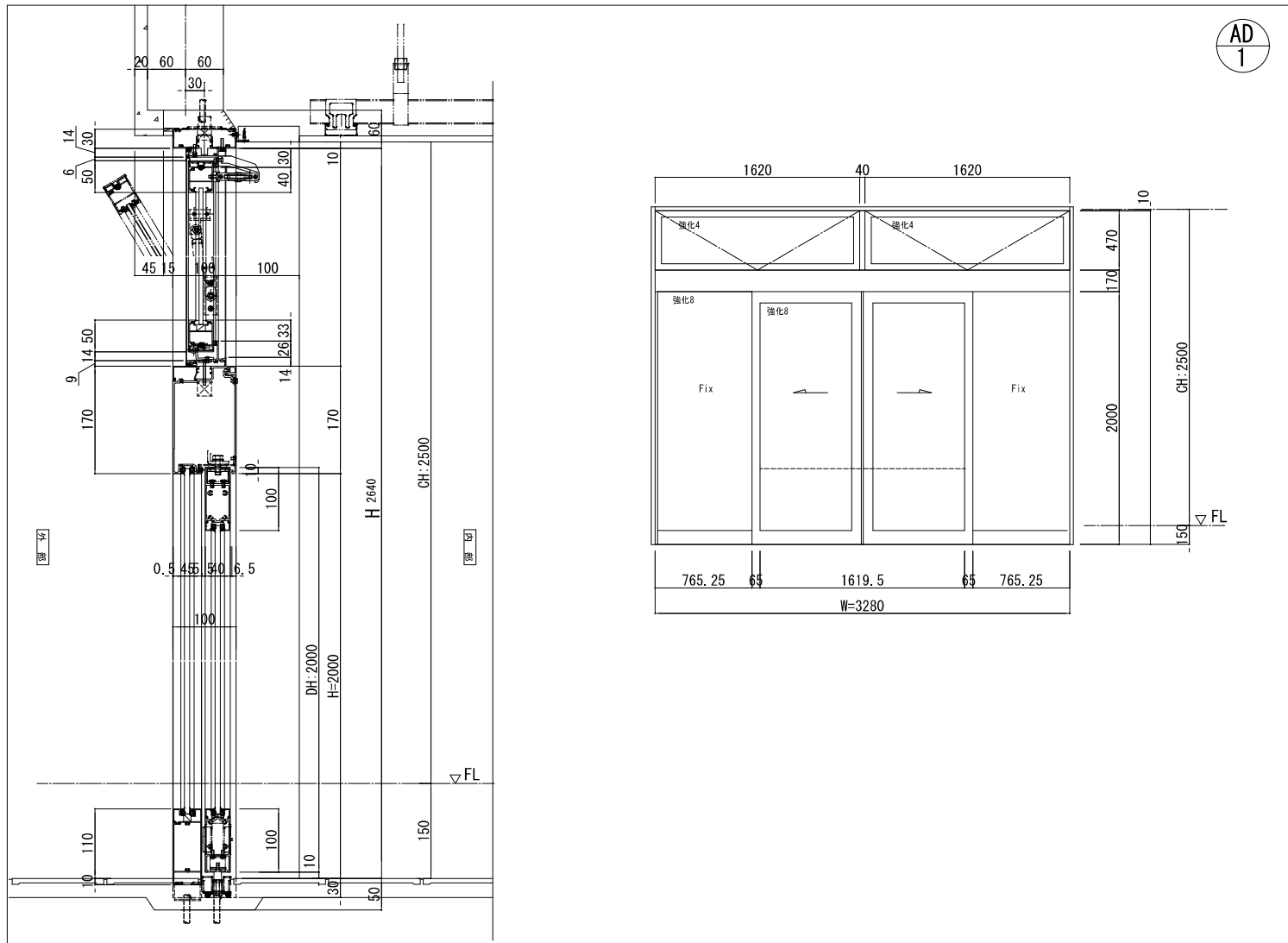
※トイレ内に埋込むこと。

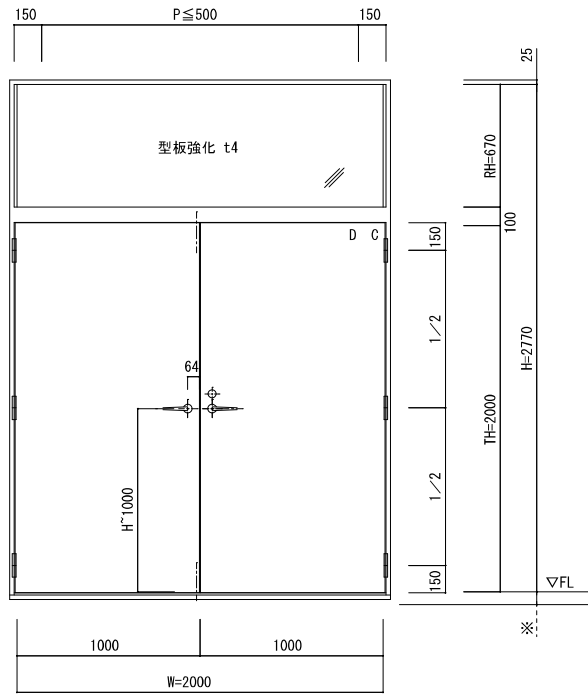


Z-1	食堂 配膳カウンター	1ヶ所	Z-2	事務室カウンター	1ヶ所
-----	------------	-----	-----	----------	-----

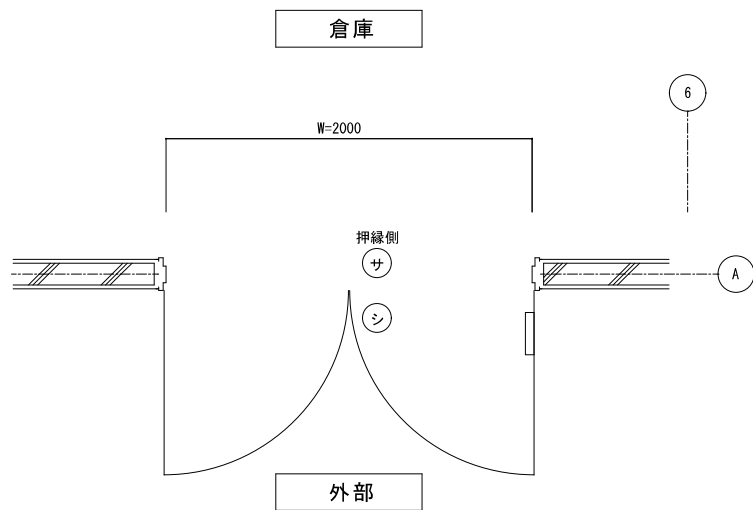




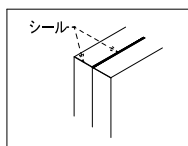




立面図 1/40 (A3)



平面図 1/40 (A3)

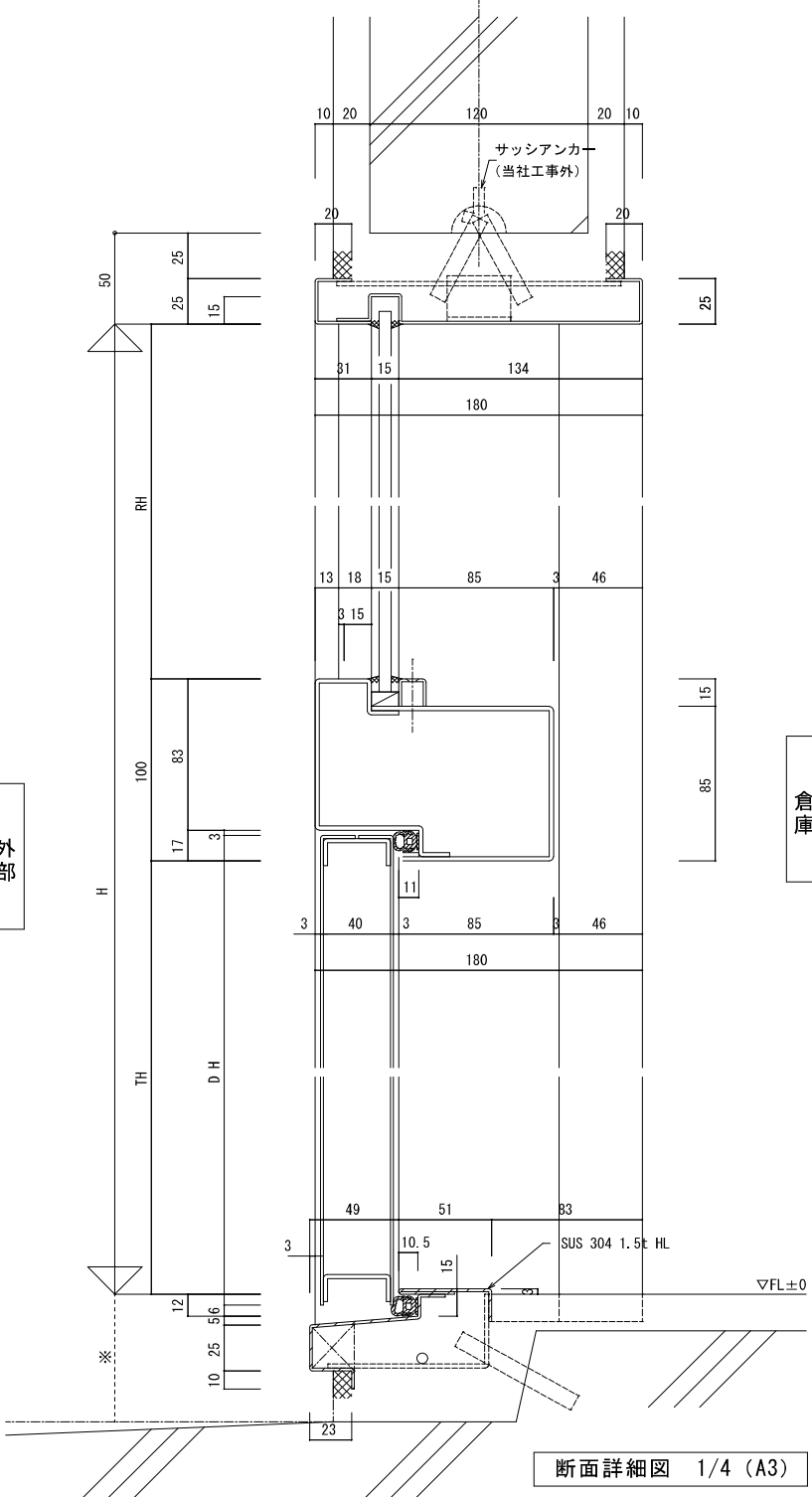


SD-G (接着)

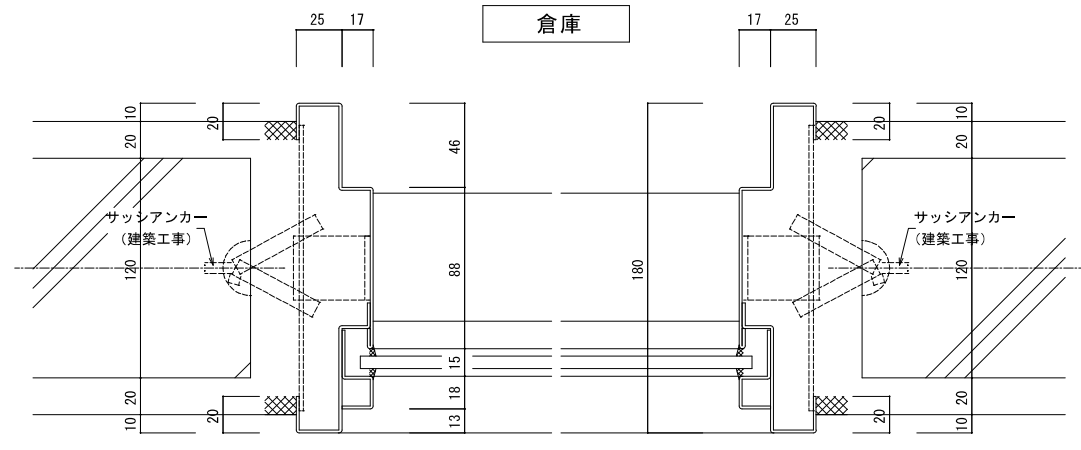
枠: 2.3t 鎖止め (SOP: 建築工事)

扉: 1.6t 鎖止め (SOP: 建築工事)

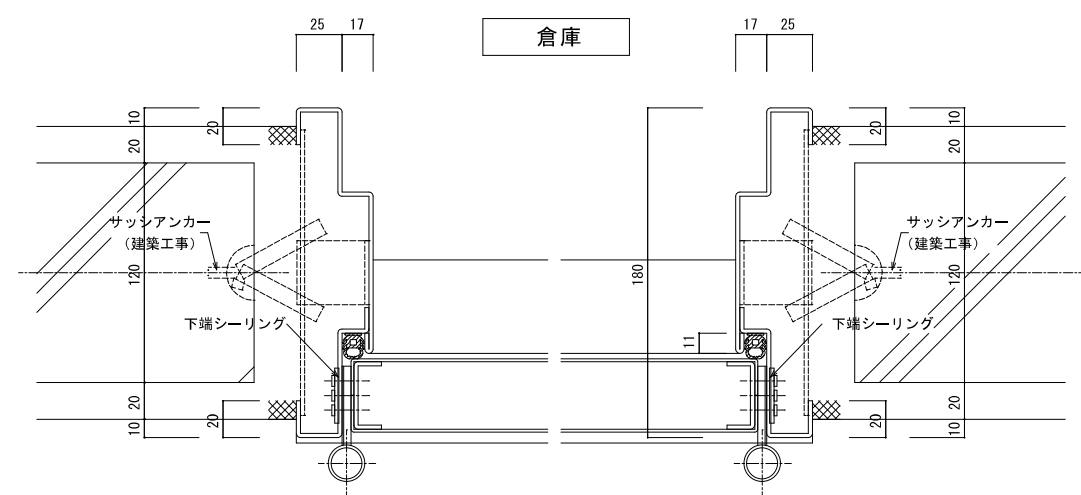
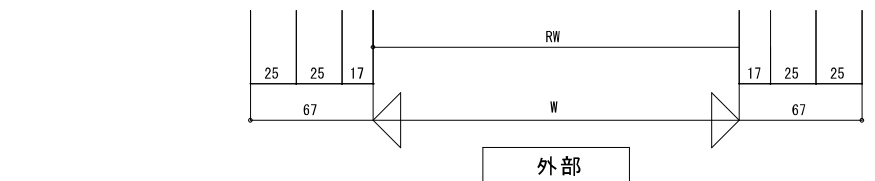
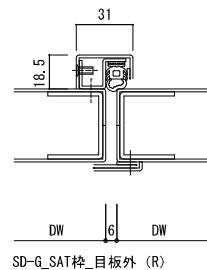
符号	勝手	数量	枠性能	充填材	防火区分
SD	R	1	SAT		指定なし
3	L	0			
ガラリ	-		ガラリタイプ		
ガラス	-		窓タイプ		
金具品名	メーカー・品番	1ヶ所 数量	備考		
丁番	ｼﾞｬﾝ ｼﾞｬﾝ DH-508S (一式) 同等品	6			
レバーハンドル錠	美和 LA-1 (64X40) 同等品	1			
固定ハンドル	美和 LOZ Dt40同等品	1			
ドアカゴ	リョービ BS1003P (90) 同等品	1	S、BC付 パラレル		90° 制限付
エアタイトゴム	三和型 ATG-205 L= m同等品	1			
アスシ落し	ｼﾞｬﾝ DE-5VN 同等品	2			
上枠	ｼﾞｬﾝ DB-67 同等品	1	圧入式		
下枠	ｼﾞｬﾝ DB-77 同等品	1	圧入式 (防水ﾀﾞｸﾞ)		



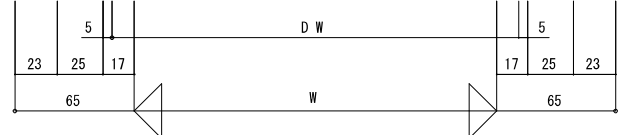
断面詳細図 1/4 (A3)

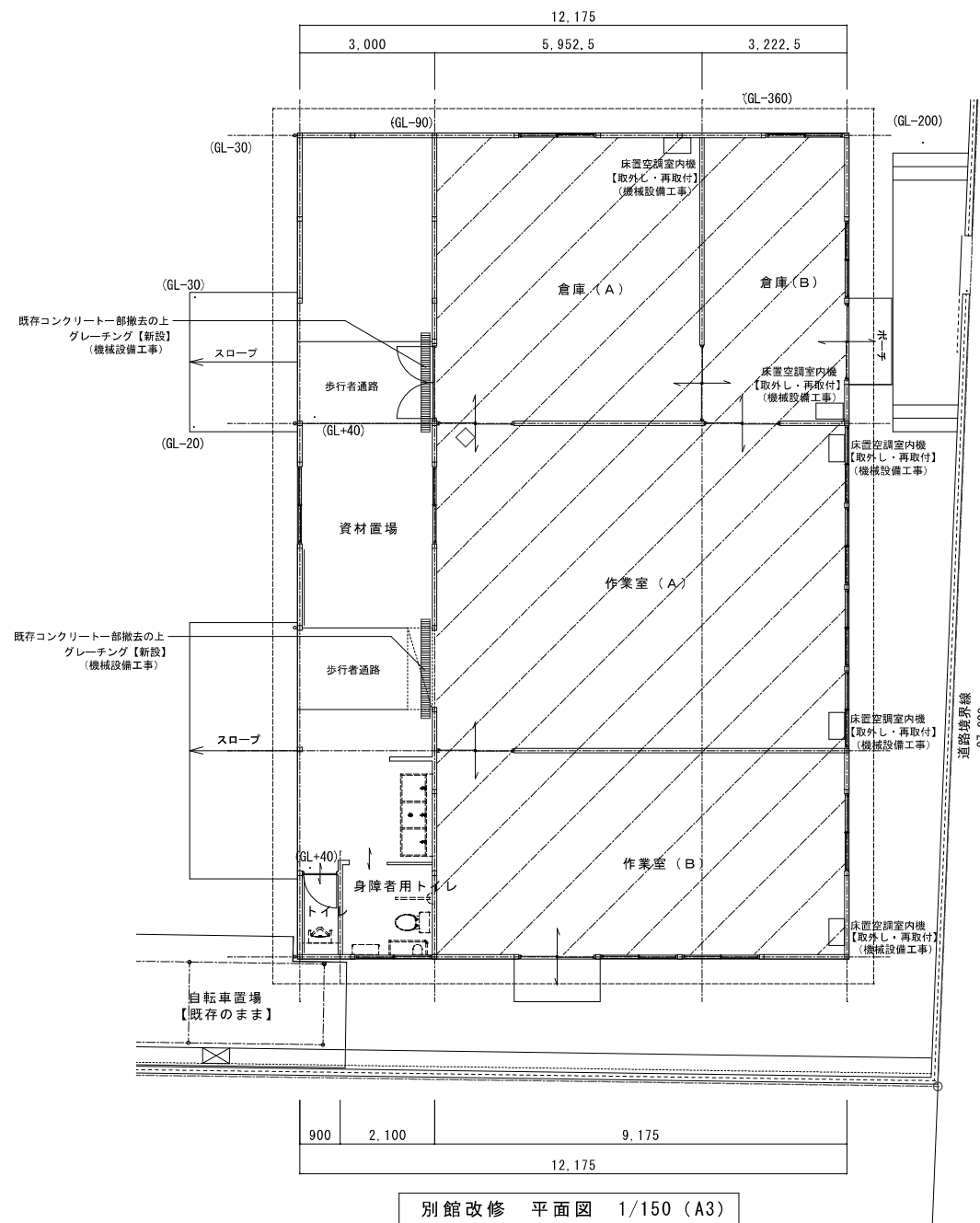


欄間部平面詳細図 1/4 (A3)



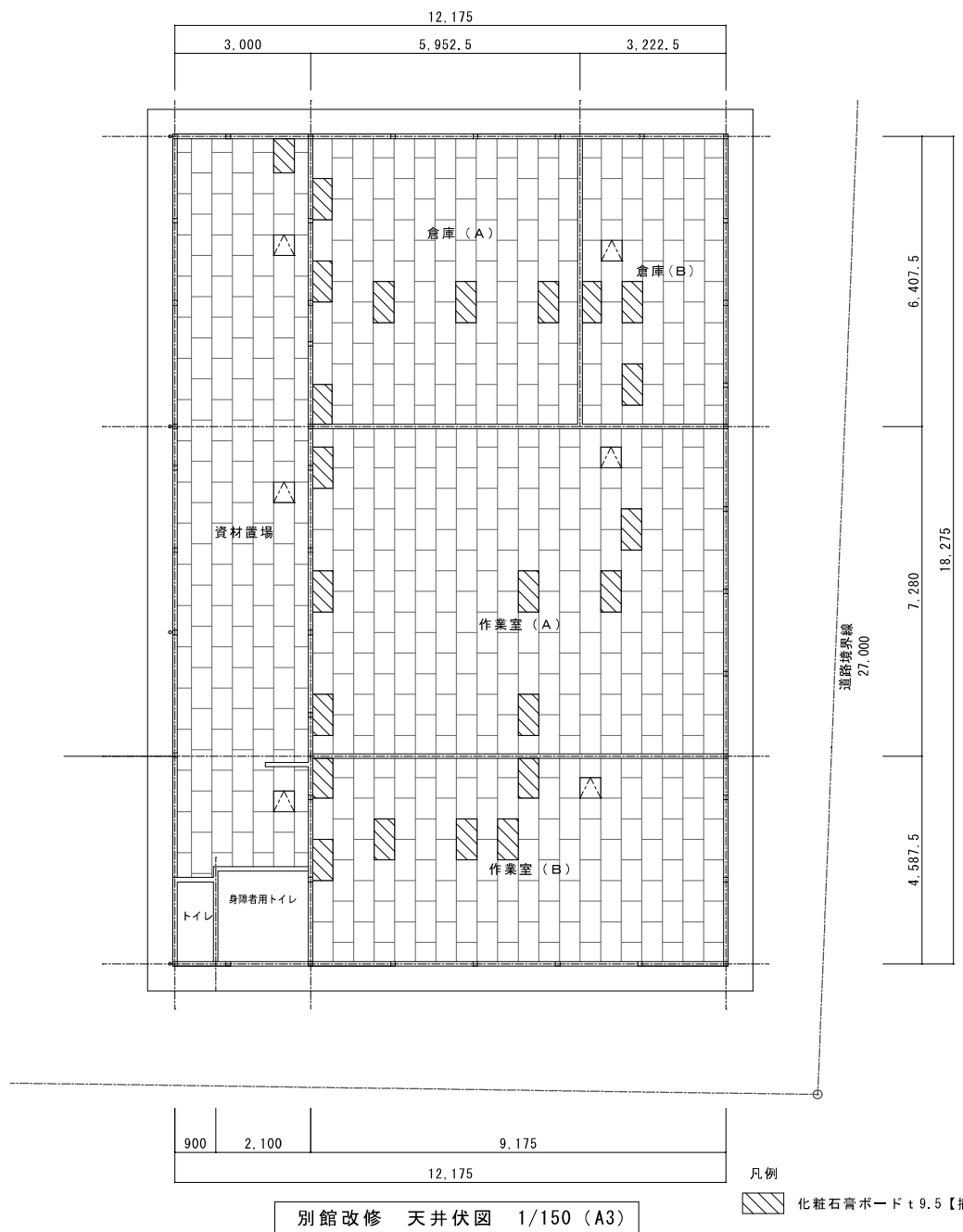
ドア部平面詳細図 1/4 (A3)





別館改修 平面図 1/150 (A3)

- 凡例
- 床：既存塩ビシート t2.0【撤去】
下地調整の上、塩ビシート t2.0【新設】
対象範囲：作業室(A)・作業室(B)・倉庫(A)・倉庫(B)
 - 既存ABC10型粉末消火器(床置)(既存消火器再利用)



別館改修 天井伏図 1/150 (A3)

- 凡例
- 化粧石膏ボード t9.5【撤去・新設】
 - 天井点検口 アルミ製450角【既存のまま】

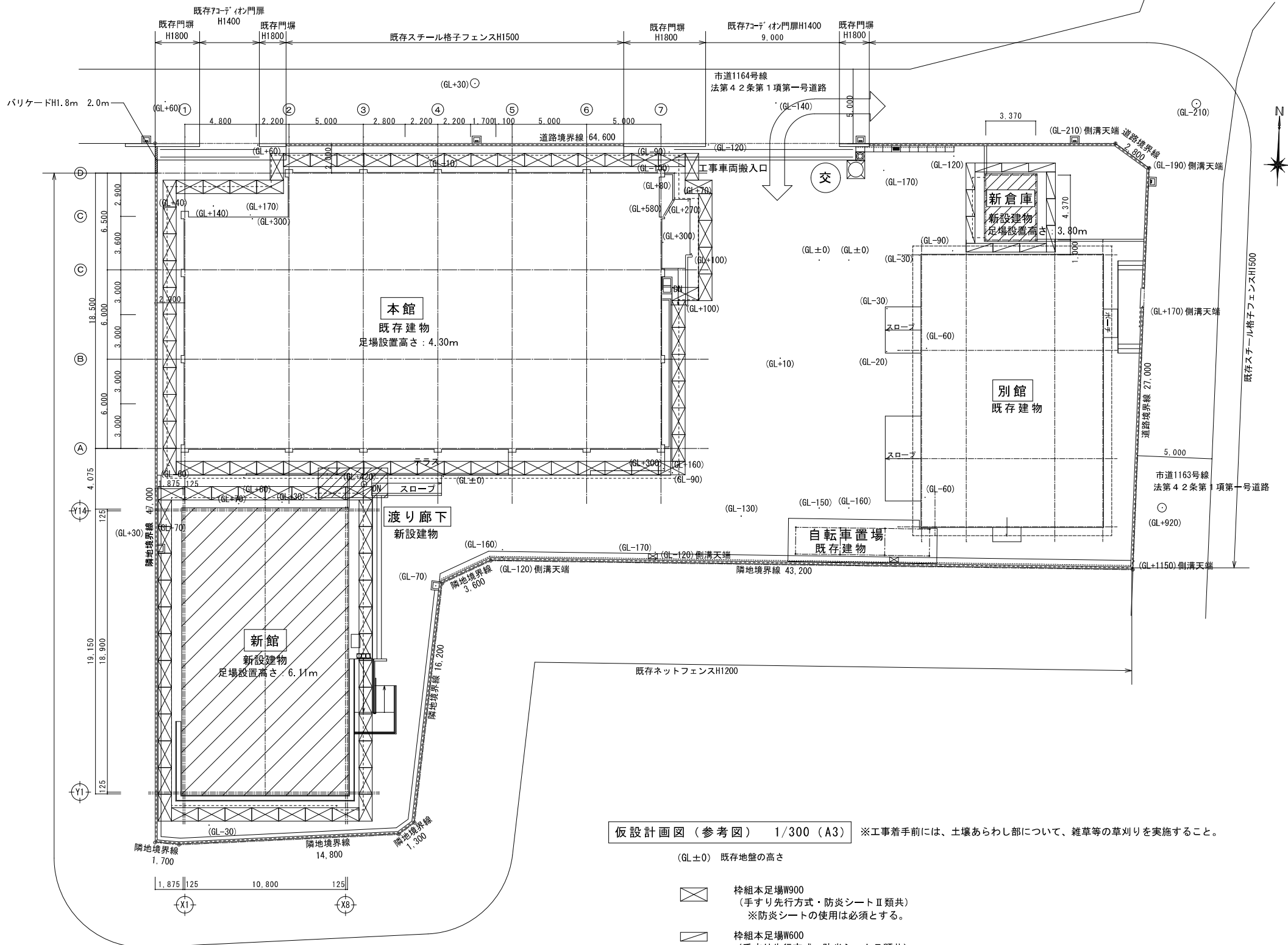
別館 備品撤去・移設リスト(本工事に含む) ※撤去・移設前に施設管理者と調整を行うこと。また、移設先は工事の進捗により、敷地内の別棟等に移設とし、元の位置に再設置とする。

室名	名称	寸法	数量	数量	数量
倉庫(A)	スチール製テーブル(天板木製) a	1800x450xH700	3	移設	
	スチール製テーブル(天板木製) b	1500x450xH700	1	移設	
	スチール製テーブル(天板木製) c	1800x600xH740	1	移設	
	スチール製テーブル a	1800x450xH700	5	移設	
	スチール製テーブル b	1800x750xH700	1	移設	
	スチール製テーブル c	1800x600xH700	1	移設	
	スチール製テーブル d	740x470xH680	2	移設	
	学校生徒用机 a	600x400xH730	12	移設	
	学校生徒用机 b	600x400xH580	1	移設	
	スチール製椅子 a	450x450xH750	10	移設	
スチール製椅子 b	400x450xH800	1	移設		
学校生徒用椅子 a	400x400xH700	1	移設		
スチールロッカー(3人用)	W900xD515xH1800	1	移設		
スチール棚 a	W900xD450xH700	1	移設		
スチールラック(棚板共) a	W900xD450xH1800	1	移設		
プラスチックコンテナ a	W460xD700xH110	15	移設		
プラスチックコンテナ b	W360xD610xH130	1	移設		
カー台車	1150x800xH1700	1	移設		
台車 a	W600xD900xH860	1	移設		

室名	名称	寸法	数量	数量	数量
倉庫(B)	木製作業机 a	1350x900xH700	4	移設	
	スチール製テーブル e	1350x750xH660	1	移設	
	スチールパイプ x4	L1900	6	移設	
	袋(塩化カルシウム)	400x700	3	移設	
	袋(培養土)	400x700 (25L)	6	移設	
	袋(軽石)	300x500	1	移設	
	プラスチックカーゴ a	400x600xH300	45	移設	




室名	名称	寸法	数量	数量	数量
作業室(A)	スチール製テーブル(天板木製) a	1800x450xH700	1	移設	
	スチール製テーブル(天板木製) b	1500x450xH700	3	移設	
	スチール製テーブル a	1800x450xH700	1	移設	
	木製作業机 a	1350x900xH700	3	移設	
	木製作業机 b	1800x900xH750	1	移設	
	木製作業机 c	2700x900xH700	2	移設	
	スチール製椅子 a	450x450xH750	6	移設	
	スチール下足入	W1060xD350xH1730	1	移設	
	スチールラック(棚板共) b	W1500xD450xH1800	1	移設	
	スチールラック(棚板共) c	W1850xD600xH2400	1	移設	
	スチールラック(棚板共) d	W1900xD450xH1800	1	移設	
	木製棚 a	W600xD300xH1800	1	移設	
	木製棚 b	W630xD450xH750	1	移設	
	プラスチックコンテナ a	W460xD700xH110	26	移設	
	プラスチックカーゴ b	370x520xH310	1	移設	
	空気清浄機	W260xD260xH700	1	移設	
	台車 b	W480xD740xH850	1	移設	

室名	名称	寸法	数量	数量	数量
作業室(B)	スチール製テーブル(天板木製) a	1800x450xH700	1	移設	
	スチール製テーブル(天板木製) b	1500x450xH700	2	移設	
	スチール製テーブル b	1800x750xH700	2	移設	
	スチール製テーブル f	1800x900xH700	2	移設	
	スチール製テーブル g	1200x750xH700	1	移設	
	木製作業机 a	1350x900xH700	1	移設	
	木製作業机 c	2700x900xH700	1	移設	
	スチール製事務机	1060x740xH740	1	移設	
	スチール製椅子 a	450x450xH750	6	移設	
	学校生徒用椅子 b	360x360xH600	1	移設	
	スチール棚 b	W700xD400xH890	1	移設	
	スチール棚 c	W880xD400xH890	1	移設	
台車 b	W480xD740xH850	2	移設		



仮設計画図 (参考図) 1/300 (A3) ※工事着手前には、土壌あらわし部について、雑草等の草刈りを実施すること。

(GL±0) 既存地盤の高さ

-  枠組本足場W900
(手すり先行方式・防災シートⅡ類共)
※防災シートの使用は必須とする。
-  枠組本足場W600
(手すり先行方式・防災シートⅡ類共)
※防災シートの使用は必須とする。
-  交通誘導員

記	
率	

構造設計標準仕様

1. 建築物の構造内容

- 工事名称 川越市みよしの支援センター改築等工事〔新館〕

建築場所 埼玉県川越市宮下町1丁目19番地13

工事種別 新築 増築 増改築 改築

構造設計一級建築士の関与 必要 必要としない

法第20条第一号（高さ60m超）

法第20条第二号（RC造高さ20m超、S造4階建以上、木造高さ13m超、その他）

注）構造設計一級建築士の関与が義務付けられる建築物については解説書等参照して確認する。
- 構造種別 木造W 補強コンクリートブロック造（CB） 鉄骨造（S）

鉄筋コンクリート造（RC） 壁式鉄筋コンクリート造（WRC）

鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC） 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）

プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）
- 階数 新館 棟 地下0階 地上1階 塔屋0階
- 主要用途 児童福祉施設等（就労継続支援B型）
- 屋上付属物

高架水槽 kN キュービクル kN 広告塔 太陽光パネル

室外機 kN 自家発電機 kN 補助水槽 kN
- 特別な荷重

エレベータ（人乗）x 台〔機械室レス〕

倉庫積載床用 N/m² リフト kN ホイスト kN 受水槽
- 付帯工事

門塙 擁壁 駐輪場 機械式駐車場
- 増築計画 有（ ） 無
- 構造計算ルート X方向ルート - 1-1 Y方向ルート - 1-1

2. 使用建築材料表・使用構造材料一覧表

コンクリート (デザインがコンクリート JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308)					
適用箇所	種類	設計基準強度 F _c =N/mm ²	品質基準強度 F _q =N/mm ²	スランプ cm	備考
捨てコンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18	18	18	
土間コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	24	24	15	
	<input type="checkbox"/> 普通				比重 2.3
基礎、基礎梁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	24	24	15	比重 2.3
1階床、土圧壁、腰壁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	24	24	18	比重 2.3
	<input type="checkbox"/> 普通				比重 2.3
	<input type="checkbox"/> 普通				比重 2.3
押エコンクリート	<input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量	18	18	18	比重 2.3
細骨材の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 砂	<input type="checkbox"/> 山砂	<input type="checkbox"/> 人工	<input type="checkbox"/>	
粗骨材の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 砂利	<input type="checkbox"/> 砕石	<input type="checkbox"/> 人工	<input type="checkbox"/>	
水の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 水道水	<input type="checkbox"/> 地下水	<input type="checkbox"/> 工業用水	<input type="checkbox"/>	
混和材料の種類 (JIS A 6204)	<input checked="" type="checkbox"/> AE減水剤	<input type="checkbox"/> 高性能AE減水剤	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
呼び強度を保証する材齢、養生	材材齢 () 28日 <input type="checkbox"/> 56日 <input type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 日	養生 () 現場封かん <input type="checkbox"/> 現場水中 <input type="checkbox"/> 標準			
細骨材の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 養生 () 現場封かん <input type="checkbox"/> 現場水中 <input type="checkbox"/> 標準				

単位量は 185k1/m³以下、単位セメント量は 270kg/m³以上とする。

- コンクリートブロック (B)

A種 B種 C種 厚 100 120 150 190 使用箇所 ()

種類	径	使用箇所	継手工法	
			重ね継手	ガス圧接継手
異形鉄筋 (JIS G 3112)	<input checked="" type="checkbox"/> SD295	D16以下	床 登梁筋基礎筋等	<input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手 D10~D16
	<input checked="" type="checkbox"/> SD345	D19	梁主筋	<input checked="" type="checkbox"/> ガス圧接継手 D19以上
	<input checked="" type="checkbox"/> SD390			<input type="checkbox"/> 機械式継手
高強度せん断補強筋	<input type="checkbox"/> 材種			()
	<input type="checkbox"/> 大臣認定番号 MSRB-			
丸鋼 (JIS G 3112)	<input type="checkbox"/> SR235			各継手の使用詳細については本仕様 5. (2) 鉄筋 の項の「鉄筋継手等」による。
溶接金網 (JIS G 3551)	<input type="checkbox"/> SR			

種類	※使用箇所の詳細については別途図示とする。			
	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等	
<input checked="" type="checkbox"/> S400 <input checked="" type="checkbox"/> SWH400 <input type="checkbox"/> SN400A、B、C	大梁・小梁	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	JIS G 3101 JIS G 3136	
<input checked="" type="checkbox"/> STKR400 <input type="checkbox"/> STKR490 <input type="checkbox"/>	柱	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	JIS G 3466	
<input checked="" type="checkbox"/> BCR295 <input type="checkbox"/> BCP235 <input type="checkbox"/> BCP325		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	大臣認定品 認定番号N61~N141等	
<input checked="" type="checkbox"/> SM490A <input type="checkbox"/> SN490B <input type="checkbox"/> SN490C		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	JIS G 3106 JIS G 3136	
<input checked="" type="checkbox"/> SSC400 <input type="checkbox"/> STK400	母屋・間縁・開口補強	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	JIS G 3350 JIS G 3444	
溶接材料	<input type="checkbox"/> JIS Z			

- ボルト

高力ボルト

F10T (JIS B1186) S10T 認定番号 (JSS II-09) M12 M16 M20 M22 M24

ボルト (JIS B1180) M12 M 4.8 (4T) ※ダブルナットとする

アンカーボルト

SS400 M12 L=240mm ナット (シングル ダブル)

SS400 M16 L=320mm ナット (シングル ダブル)

頭付スタッドボルト

φ = mm L = mm 使用箇所 (柱 大梁 小梁)

φ = mm L = mm 使用箇所 (柱 大梁 小梁)

材 種	型式、厚、その他	使用箇所	仕様・構法
ALC (JIS A 5416)		厚	<input type="checkbox"/> 壁 <input type="checkbox"/> 床 <input type="checkbox"/> スライド <input type="checkbox"/> ボルト止め
押出成形セメント板 (JIS A 5441)		厚	<input type="checkbox"/> 屋根 <input type="checkbox"/> 壁 <input type="checkbox"/> ロッキング <input type="checkbox"/> レールファスター
折板	H=	厚	<input type="checkbox"/> 屋根 <input type="checkbox"/>
特殊デッキプレート (JIS G 3352)	型式	厚	<input type="checkbox"/> 床板 <input type="checkbox"/> 屋根 <input type="checkbox"/>
デッキプレート (JIS G 3352)	型式	厚	<input type="checkbox"/> 床板 <input type="checkbox"/> 屋根 <input type="checkbox"/>
キーストンプレート (JIS G 3352)	型式	厚	<input type="checkbox"/> 床板 <input type="checkbox"/> 屋根 <input type="checkbox"/>

適用は 印を記入する。

3. 地盤

調査項目	資料あり	調査計画	調査項目	資料あり	調査計画	調査項目	資料あり	調査計画
ボーリング調査	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	静的貫入試験	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	標準貫入試験	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
水平地盤反力係数の測定	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	土質試験	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	物理探査	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
圧縮率 (支持層の確認)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	平板載荷試験	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	透状化判定	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
スクエーデンボサウンディング	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	現場透水試験	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PS検査	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

- 注) 上記表中の資料が有るものに○印を記入する。
- ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)

注) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭径、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

深度 土質	N 値	標準貫入試験						備考
		10	20	30	40	50	60	
1								○調査地番
2								○位置図
3								
4								
5								
6								
7								○支持地盤、地層及び深さについてのコメント
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								○孔内水位 GL - m
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								

4. 地業工事

- 直接基礎 ※深層混合処理工法による地盤改良工事

ベタ基礎 布基礎 独立基礎 試験掘 有 無 ※深層混合処理工法の試験掘施工有り

深さ GL-0.600~1.000m (地盤改良上捨てコン天端) 支持層 一粘土混じり砂礫層 ※深層混合処理工法先端

長期許容支持力 60kN/m² ※地盤改良後 載荷試験 有 無

地盤改良仕様 施工計画書承認 地盤改良施工結果報告書

注) 「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」日本建築センター2002」を参考とする
- 杭基礎 支持層:

杭 種	材 料	施 工 法	備 考
<input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PRC	PRC (<input type="checkbox"/> I種 <input type="checkbox"/> II種 <input type="checkbox"/> III種)	<input type="checkbox"/> 打ち込み (プレボーリング)	大臣認定第 号
<input type="checkbox"/> PHC <input type="checkbox"/> H鋼	PHC (<input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種)	<input type="checkbox"/> 埋込み (拡大根固め工法)	第 号
<input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 摩擦杭	鋼材 <input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SKK400	<input type="checkbox"/> 中掘工法	第 号
<input type="checkbox"/> SC杭 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> SKK490	<input type="checkbox"/>	R 年 月 日
<input type="checkbox"/> 場所打ちコンクリート杭	コンクリート F _c N/mm ² スランプ セメント量 kg/m ³ 鉄筋主筋 SD HOOP SD	<input type="checkbox"/> オールケーシング <input type="checkbox"/> 拡底杭 <input type="checkbox"/> リブササーキュレーション <input type="checkbox"/> アースドリル <input type="checkbox"/> ミニアース <input type="checkbox"/> BH <input type="checkbox"/> 深礎 <input type="checkbox"/> 手掘 <input type="checkbox"/> 機械掘	日本建築センター認定 第 号 年 月 日 認定杭による

杭仕様	施工計画書承認	杭施工結果報告書	
試験杭 (<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無) (<input type="checkbox"/> 打ち込み <input type="checkbox"/> 載荷 <input type="checkbox"/> 孔壁測定)			本
(試験杭位置は、監理者と協議し、決定すること)			

杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項

3) 砕石・その他

地業工事 (mm)	砕石	ポリステレンフォーム	捨てコン	ポリステレンフォーム	備考
土間コンクリート下	100	25	50	0.15	
スラブ下 (ピット上部)	-	25	-	-	
耐圧スラブ (ピット下部)	-	-	50	-	

5. 鉄筋コンクリート工事

- コンクリート

コンクリートは JIS A 5308 に適合する JIS 認証工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS 5 (2022) による。

耐久設計基準強度 F_d 短期 (18) 標準 (24) 長期 (30) 超長期 (36)

セメントは、JIS R 5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。

調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。

寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で (財) 国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真 (カラー) を保管し承認を得る。

測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。

構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験方法は JASS 5T-603 によることとし、供試体は現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。 また、打ち込み量が 150 m³ を超える場合は 150 m³ ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。

一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。 なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。

ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は、150分以内、25℃以上の場合は120分以内とする。

コンクリート打ち込み中及び打ち込み後5日間は、コンクリートの温度が2度を下らないようにする。

乾燥、振動等によってコンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生を行う。

- 鉄筋

鉄筋は JIS G 3112 の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、コンクリートと同様に、JASS 5 (2022) による。

高強度せん断補強筋は、JIS G 3137 に規定されるD種1号適合品とする。

鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは配筋標準図 (1) ~ (4) による。

鉄筋継手等

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級			鉄筋の径
	(1) 引張力最少部位			
	A級	B級	S A級	
重ね継手	<input checked="" type="checkbox"/> 40d <input type="checkbox"/> 35d <input type="checkbox"/> () d			<input checked="" type="checkbox"/> D (16) 以下
圧接継手	<input checked="" type="checkbox"/> 告示1463号第2項各号	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/> D (19) 以上
溶接継手	<input checked="" type="checkbox"/> 告示1463号第3項各号	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> D () 以上
機械式継手	<input checked="" type="checkbox"/> 告示1463号第4項各号	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> D () 以上

注) (1) 以外の部位にける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を受けた継手工法の等級で、構造計算にあたって「鉄筋継手使用基準 (建築物の構造関係技術基準解説書2015,200)」によって検討した部位の条件・仕様によること。

- A級継手を採用する場合は、監理者及び構造設計者と協議を行い決定すること。
- D19未満は、すべて重ね継手とする。
- 継手部分の施工要領は (社) 日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」(ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事) による。
- 継手部の検査方法:
- 外観検査 (全数) 有 無、引張試験 有 無、超音波探傷試験 有 無
- ※引張試験: 標準仕様書5.4.10 (イ) (b) 【令和4年版】の記載の方法による
- ガス圧接部分の検査を超音波探傷試験によって行う場合、最初の数ロットについては引張試験も併用し、1回の試験は 本以上とする。
- (1ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所を200箇所程度とする。)
- 柱の帯筋 (HOOP) の加工方法は、H型 (タガ型) W型 (溶接型) S型 (スパイラル型) とする。
- コンクリート及び鉄筋の試験は、「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
- 試験・検査機関名 現場監理者と協議の上決定し、すみやかに報告する。
- 代行業者名 (都知事登録 号)
- 代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行する者という。

- 型枠

材料 合板厚 12 mm を標準とする。 施工 JASS 5 による。

型枠存置期間

種類 部位 在 置 間 の 気 温	せき板		支柱					
	スラブ下、はり下	スラブ下	はり下		はり下			
コンクリート打設時	5℃以上	2	3	4	6	8	17	2.8
コンクリート硬化時	5℃~15℃	3	5	6	10	12	2.5	2.8
コンクリート硬化後	5℃未満	5	8	10	16	15	2.8	2.8
コンクリートの圧縮強度	5.0N/mm ²		設計基準強度の50%				設計基準強度の	
							85% 100%	

- 注) 1. 片持ち梁、庇、スパン9m以上の梁下は、工事監理者の指示による。
- 注) 2. 大梁の支柱の盛かえは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
- 注) 3. 支柱の盛かえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
- 注) 4. 盛かえ後の支柱頂部には、厚い受板・角材または、これに代わるものを置くこと。
- 注) 5. 支柱の盛かえは、小梁が終わってから、スラブを行う。同時に全部の支柱を取り払って、盛かえをしてはならない。
- 注) 6. 上表以外のセメントを使用する場合は、工事監理者の指示による。
- 注) 7. 直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱 (大梁の支柱を除く) の盛かえを行わないこと。
- 注) 8. 支柱の盛かえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらす恐れのある振動又は衝撃を与えないように行うこと。
- ※ 大版スラブ (35㎡程度以下) の型枠存置及び支柱盛かえは、工事監理者と協議の上、決定すること。

6. 鉄骨工事

- 鉄骨工事は指示のない限り下記による

日本建築学会「JASS6」鉄骨精度検査基準」鉄骨工事技術指針」

(社) 日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」

鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」
- 工事監理者の承認を必要とするもの

製作工場 製作要領書 工作図 施工計画書

認定または登録工場 (大臣認定 R グレード) 監督員の承諾する工場とする

材料規格証明書※、または試験成績書

鋼材 鋼材 高力ボルト 特殊ボルト 頭付スタッド

※社) 日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。

社内検査表
- 工事監理者が行う検査項目

(印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)

現況検査 組立・開先検査 製品質検査 建方検査
- 接合部の溶接は下記によること

平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ

鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱

日本建築学会「溶接作業標準、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」

日本建築学会「鉄骨工事技術指針 工事現場施工編」
- 接合部の検査

溶接部の検査 (検査結果は後日、工事監理者に報告すること)

検査箇所

深層混合処理工法 特記仕様書

1. 適用図書

本工事は、本特記仕様書によるほか、(一財)日本建築センター・(一財)ベターリビング、「2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針(以下、改良地盤指針)」による。

2. 改良仕様

- (1) 設計基準強度 : $F_c = 700 \text{ kN/m}^2$
- (2) 改良形式 : 地盤改良伏図にて表示
- (3) 改良体天端 : 地盤改良伏図にて表示
- (4) 改良体下端 : 地盤改良伏図にて表示
- (5) 改良体直径 : 800mm

改良仕様について、地盤状況、施工状況により変更した方が適切と判断される場合は、その根拠となる計算書等を提出し、設計監理者の承認を得ること。

3. 施工

- (1) 本工事は、「地盤改良工法」の施工手法に準拠すること。
- (2) 設計の要求を確保するため、攪拌装置には固化材スラリーを効率よく充填するための排土板と共回を防止する不動翼を装着した攪拌装置を用いること。
- (3) 施工品質の安全性が確保できる施工管理機器を備えた施工機械を用いる。

4. 施工計画

- (1) 施工業者
 - ・使用する工法の開発会社と施工会社は同一会社とし、協会員、仲介業者等による施工は認めない。
 - ・本工事は、(財)日本建築総合試験所「性能証明」等の公的機関の認証を得た工法とすること。

(2) 施工計画書

工事に先立ち、施工計画を提出すること。施工計画書には次の事項を明記すること。

- 1) 工法概要
- 2) 工事概要
- 3) 工程表
- 4) 現場組織表
- 5) 使用機械(施工機・使用機械構成等)
- 6) 施工方法(施工フロー・改良体造成・施工順序等)
- 7) 施工管理(工程管理・管理システムの概要等)
- 8) 品質出来形管理(品質管理・出来形管理等)
- 9) 環境保全対策
- 10) 安全対策
- 11) 性能証明書(施工会社の会社名が記載されていること)

5. 固化材

- (1) 使用する固化材は、セメントまたはセメント系固化材とし、建築工事において実績のあるもので、本工事は地盤条件に適合したものとすること。
- (2) 施工に先立ち、原料土の室内配合試験を行い、適切な配合条件(固化材種類、固化材添加料、水/固化材比、等)を設定すること。

6. 配合管理

事前に室内配合試験を行ない、現場目標強度・実績データに基づく(現場/室内)強度比・改良対象土の物理的特性・化学的特性等を考慮して固化材の種類・実施工での添加量を決定する。

(1) 事前調査

室内配合試験に用いる試料を設計対象層より採取し、土質試験により物理特性を把握した上で、その結果に応じて適切な固化材種類、水/固化材比を選定する。

(2) 室内配合強度

室内配合強度 X_I は、(現場/室内)強度比の関係 α_{fI} から次式により決定する。

$$X_I = \frac{X_f}{\alpha_{fI}}$$

ここに、 X_I : 室内配合強度
 X_f : 配合強度
 α_{fI} : (現場/室内)強度比・・・($\bar{q}_{uf}/\bar{q}_{uI}$)
 \bar{q}_{uf} : 現場平均強度
 \bar{q}_{uI} : 室内平均強度

また、室内配合試験時に六価クロム溶出試験を行い、環境庁告示第46号の基準値を満足するような固化材を選定すること。
試験方法、試験個数等に関しては、(平成12年3月24日付け建設省技調発第49号建設省営建発 第10号)の2に定める「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領(案)」による。

7. 品質検査

(1) 検査対象層: 埋土、粘土混じり砂礫

設計対象層: 埋土

設計対象層を基本として、全ての地層を検査対象層とする

- (2) 検査箇所数 ※改良体種別によらず、同一工法における合計コラム箇所数による
全長ボーリングコア試験: 100コラムに1箇所以上、かつ1検査対象群に1箇所以上
頭部コア試験: 100コラムに1箇所以上、かつ1検査対象群に1箇所以上

(3) コア採取率

コア採取率は、全長に対して砂質土95%、粘性土90%以上、1m毎のコア採取率は、砂質土90%、粘性土85%以上を目安とすること。

- (4) 画像処理AIアプリケーション「MARGRAY」を用いたボーリングコアの判定方法 (一財)ベターリビング建設技術審査証明 BL 審査証明-061 を用いて、採取したボーリングコアの連続性の確認を行うこと。

(5) 供試体材齢

原則として、材齢28日で一軸圧縮試験を行なうこと。

(6) 強度の算定

材齢28日における圧縮強度試験結果が下記の式を満足していることを確認する。合否の判定は、N箇所(抜取り箇所)の一軸圧縮強さの平均値 X_N と合格判定値 X_L の大小関係を比較することで行なうこと。

$$X_N \geq X_L = F_c + k_a \cdot \sigma_d$$

X_N : N箇所の一軸圧縮強さの平均値 (kN/m^2)

X_L : 合格判定値 (kN/m^2)

F_c : 設計基準強度 (kN/m^2)

k_a : 合格判定係数 (下表による)

N : 検査対象層の抜取り箇所数(抜取り箇所: 3個の供試体を採取した箇所)

σ_d : 設計で想定したコア強度の標準偏差 $\sigma = V_d \cdot q_{ud}$ (kN/m^2)

$q_{ud} = F_c / (1 - 1.7 \cdot V_d) = 700 / (1 - 1.7 \cdot 0.30) = 1429.0 \text{ kN/m}^2$

q_{ud} : 想定した平均一軸圧縮強さ (kN/m^2)

V_d : 想定した強度の変動係数 (0.3)

抜取り箇所数と合格判定係数 k_a

抜取り箇所数 N	1	2	3	4~6	7~8	9~
合格判定係数 k_a	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

- (7) コア抜き後の欠損部分には、本工事で要求されている強度以上のソイルセメント、あるいはモルタル等を充填すること。

8. 施工管理

- (1) 本工法の施工管理は、次表による。

管理項目	内容	管理手法
寸法・形状	掘削深度	ロッド長さ・施工管理装置(深度計)
	改良径	攪拌装置の形状測定
固化材	材料の計量	プラント(重量計)
	スラリー比重	マッドバランス
	スラリー吐出量	施工管理装置(流量計)
掘削攪拌混合	掘進・引上げ速度	施工管理装置(深度計・速度計)
	回転数	施工管理装置(回転計)
	改良体芯	コラム中心のズレを測定
支持地盤	掘進速度	施工管理装置(深度計・速度計)
	トルク値	施工管理装置(トルク計)

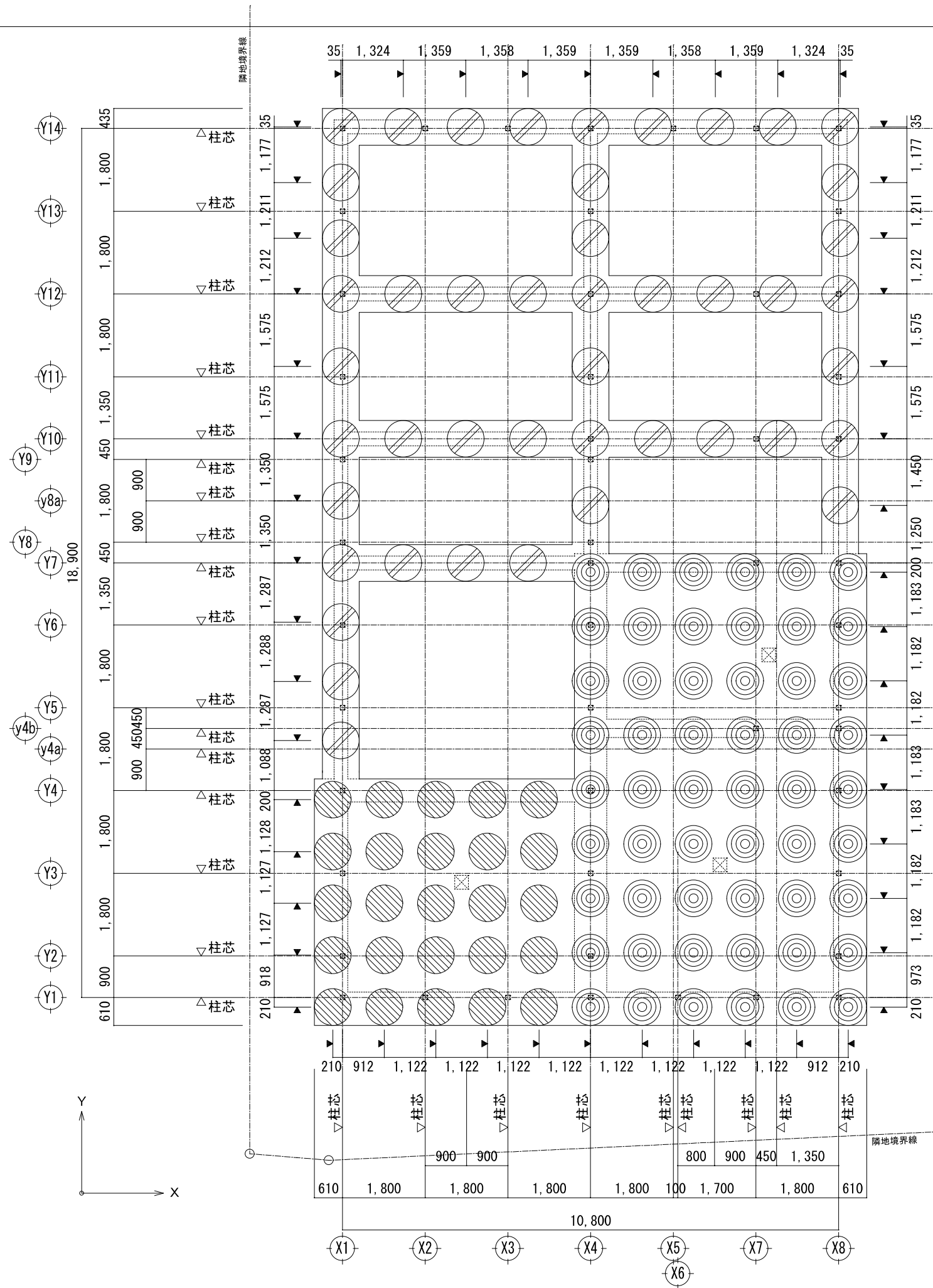
- (2) 改良天端に施す地業の方法については監理者の指示による。
(施工方法はバックホウ等により所定のレベルに合わせ掘削を行う。)
- (3) ボーリング調査箇所近傍で試験施工(本杭可)を行うこと。設計深度に到達したときのトルク値を確認して支持地盤到達の基準値を設定し、以降の改良体打設において、基準トルク値に基づき支持地盤到達を判定する。

9. 管理基準を超えた場合の措置等

- (1) 施工後は、改良体芯位置を計測し、監督員に報告するものとし、改良体の芯ずれが許容値を超えた場合、監督員と協議の上、設計検討を行い、安全であると判断される場合には、設計図書で示された仕様を満足しているものとする。
- (2) 改良下端深度が想定と異なる場合、設計検討を行い安全であると判断される場合には、設計図書で示された仕様を満足しているものとする。

Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9048号
一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
(構造設計一級建築士 第 815号)

記 事		Architects Firm Architect YOU 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (1) 第12121号 一級建築士 第342763号 藤山智昭	工事名称	川越市みよしの支援センター改築等工事	作成年月日 2026.02.09	図番番号 S1-02
			図面名称	[新館] 柱状改良特記仕様書	冊 頁 1 / - (A1) 1 / - (A3)	



柱状改良伏図 S=1/100

特記なき限り下記による

1. 1FL=設計GL(SGL)+450 [SGL H=+0.02m]
2. ▼印は柱状改良芯を示す。
3. 柱状改良天端；図示による。

※柱状改良上部に捨てコンt=50を設ける。

<柱状改良仕様>

改良径：φ800mm
 改良深度：設計GL-3.3m
 改良天端：設計GL-0.70m(布基礎部)、設計GL-0.65m・-1.05m(ベタ基礎部)
 改良長：L=2.60m(布基礎部)、L=2.65m・2.25m(ベタ基礎部)
 改良本数：46本(布基礎部)、25+54=79本(ベタ基礎部)
 総掘削長：412.50m
 総改良長：307.35m
 設計地耐力：60kN/m²(布基礎部)、60kN/m²(ベタ基礎部)
 設計基準強度：F_c=700kN/m²
 支持形式：先端支持

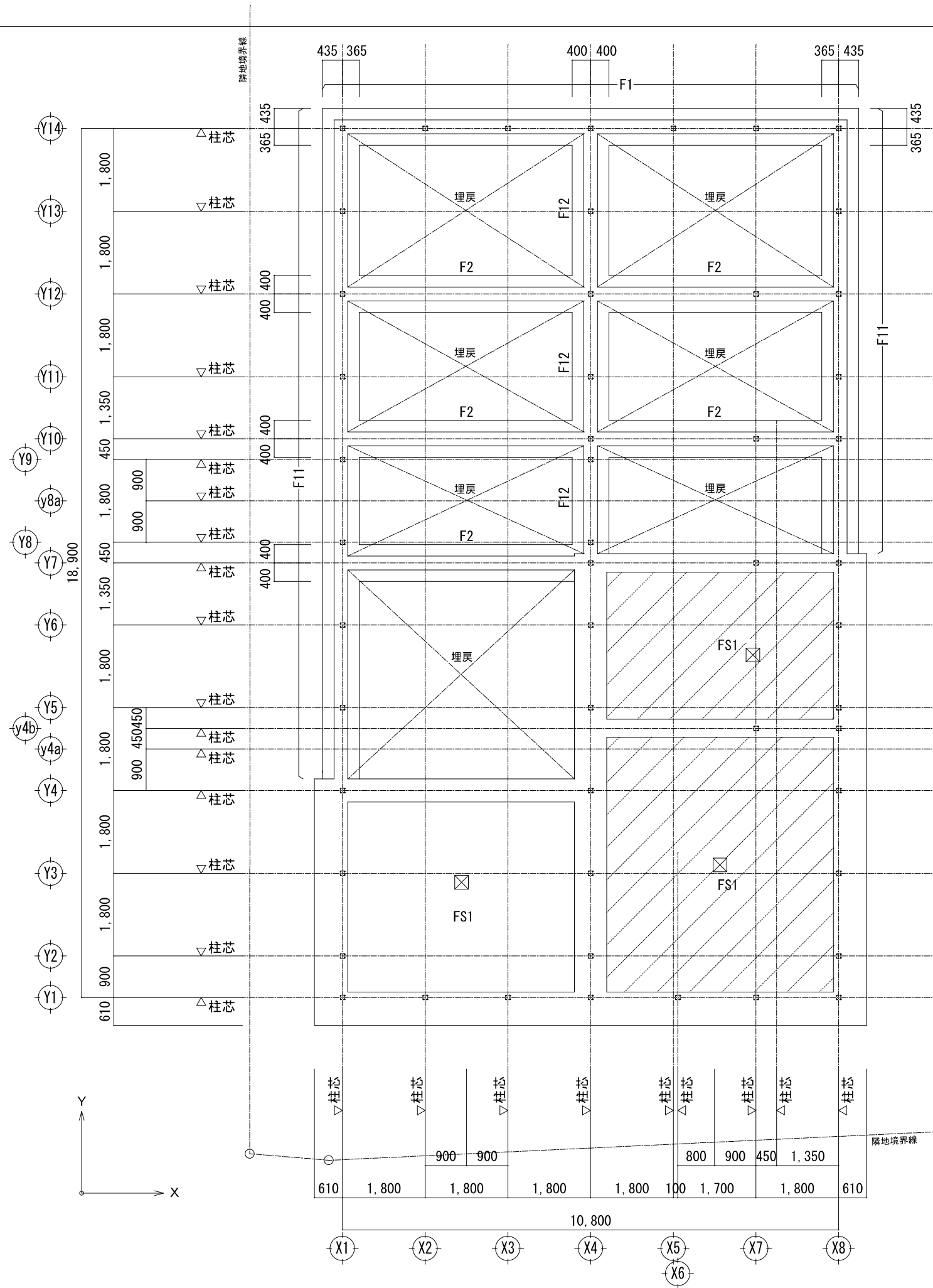
注記) ※規定深度で浅く高止まりする場合は、試験施工で得られた打ち止め管理値を参考に、打ち止めを判断する。

※固化材添加量は、事前室内配合試験結果にて決定する。

- 凡 例：
- ◌ 改良径 800φ、改良天端 SGL-0.70m
 - ◌ 改良径 800φ、改良天端 SGL-0.65m
 - ◌ 改良径 800φ、改良天端 SGL-1.05m

Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)

記 事		Architects P12 Atelier YOU 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (1) 第12121号 一級建築士 第342763号 藤山智昭	工事名称	川越市みよしの支援センター改築等工事	作成年月日	2026.02.09	図面番号	S1-03
			図面名称	[新館] 柱状改良伏図	縮尺	1/50(A3) 1/100(A3)		



基礎伏図 (見下図) S=1/100

特記なき限り下記による

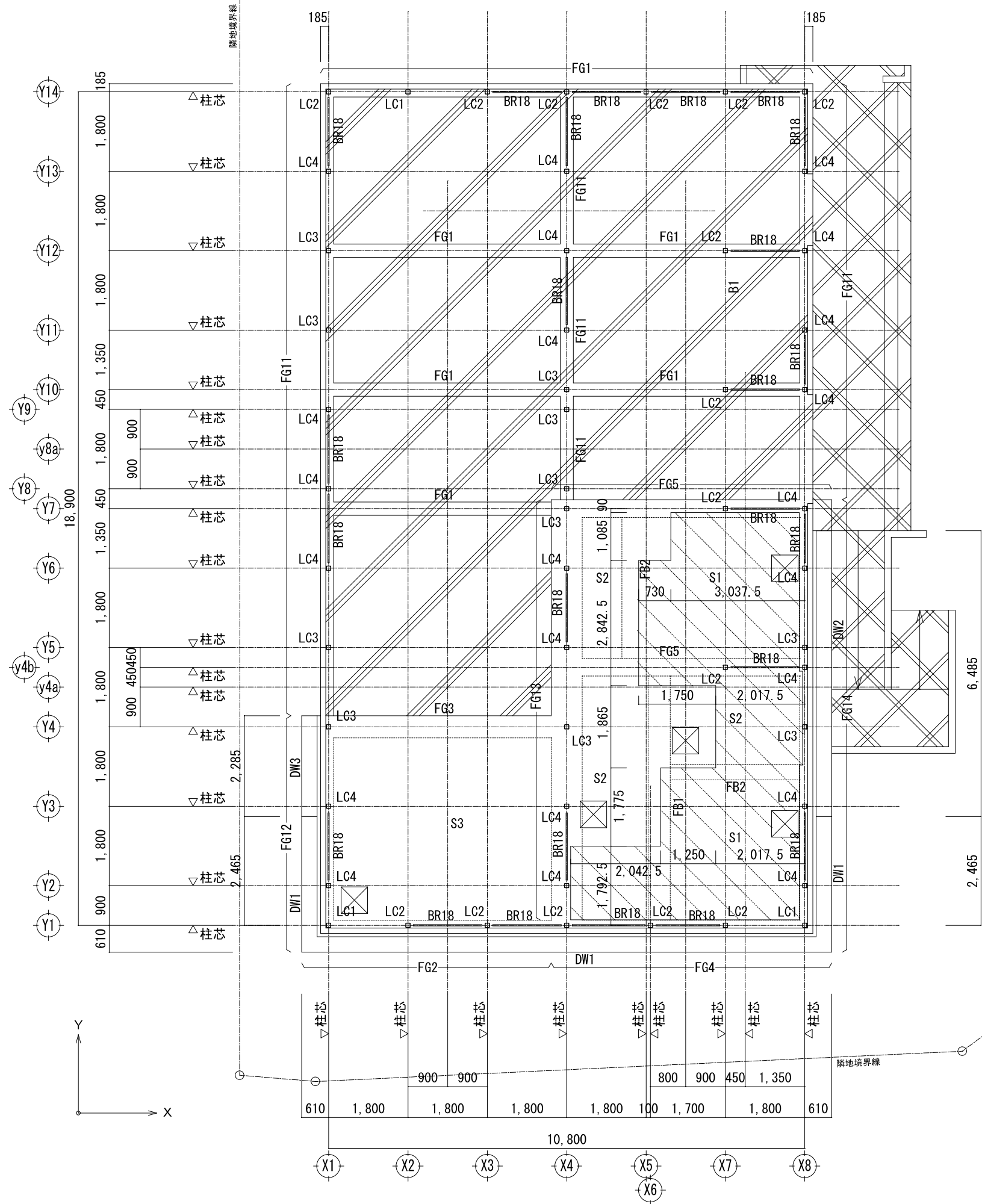
1. 1FL=設計GL (SGL)+450 [SGL H=+0.02m]
2. 布基礎 π - π 芯=基礎梁芯
3. 布基礎 π - π 下端; 1FL-1,100 [SGL-650]
4. 底盤 (FS) 天端; 1FL-750 [SGL-300]
 印 FS天端 1FL-1,150 [SGL-700]
5. \circ 印は鉄骨柱位置を示す。
6. \boxtimes 印は湧水浸透用貫通口 (300x300) を示す。

Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)

記	
事	

Architects P12 **Atelier YOU** 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (1) 第12121号
 一級建築士 第342763号 藤山智昭

工事名称	川越市みよしの支援センター改築等工事	作成年月日	2026.02.11	図面番号	S1-04
図面名称	[新館] 基礎伏図	縮尺	1/50(A3) 1/100(A3)		

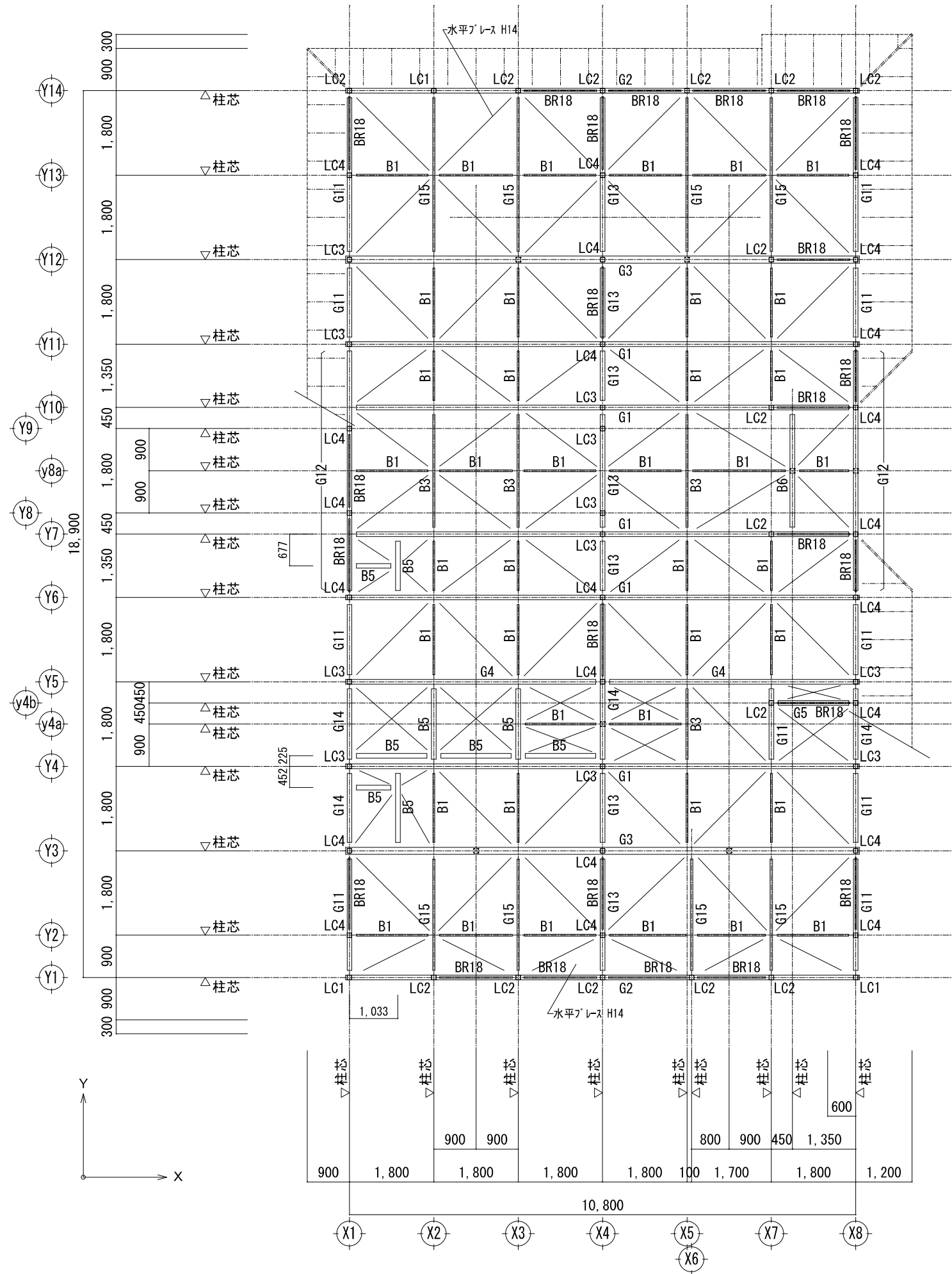


1階伏図 (見下図) S=1/100

特記なき限り下記による

1. 1FL=設計GL (SGL)+450 [SGL H=+0.02m]
2. 各柱芯=通芯
布基礎フーチング芯=基礎梁芯
3. 基礎梁 (FG・FB) 天端; 1FL-250 [SGL+200]
()内は、1FLからの基礎梁天端寸法を示す。
4. 柱脚B. PL 下端; 1FL-200 [SGL+250]
5. スラブ (S) 天端; 1FL- 5 [SGL+445]
 印 スラブ 天端 1FL-100 [SGL+350]
6. 印は土間コンクリート (厚150) を示す。
土間コンクリート天端 1FL-5 [SGL+445], 縦・横筋共 D10@200 (ダブル)
 印は土間コンクリート (厚150) (階段・スロープを含む) を示す。
縦・横筋共 D10@200 (ダブル) ※寸法は意匠図による。
※各土間コンクリート下は十分な転圧を行うよう注意する。
7. 印は増打ちを示す。
(基礎梁天端はスラブ・土間コンクリート天端までの増打ちを標準とする。)
8. 印は、点検口 (600x600) を示す。
9. RC腰壁; t=120, h=1FL+150 [縦D13@200 (シングル), 横D10@200 (シングル)]

Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)

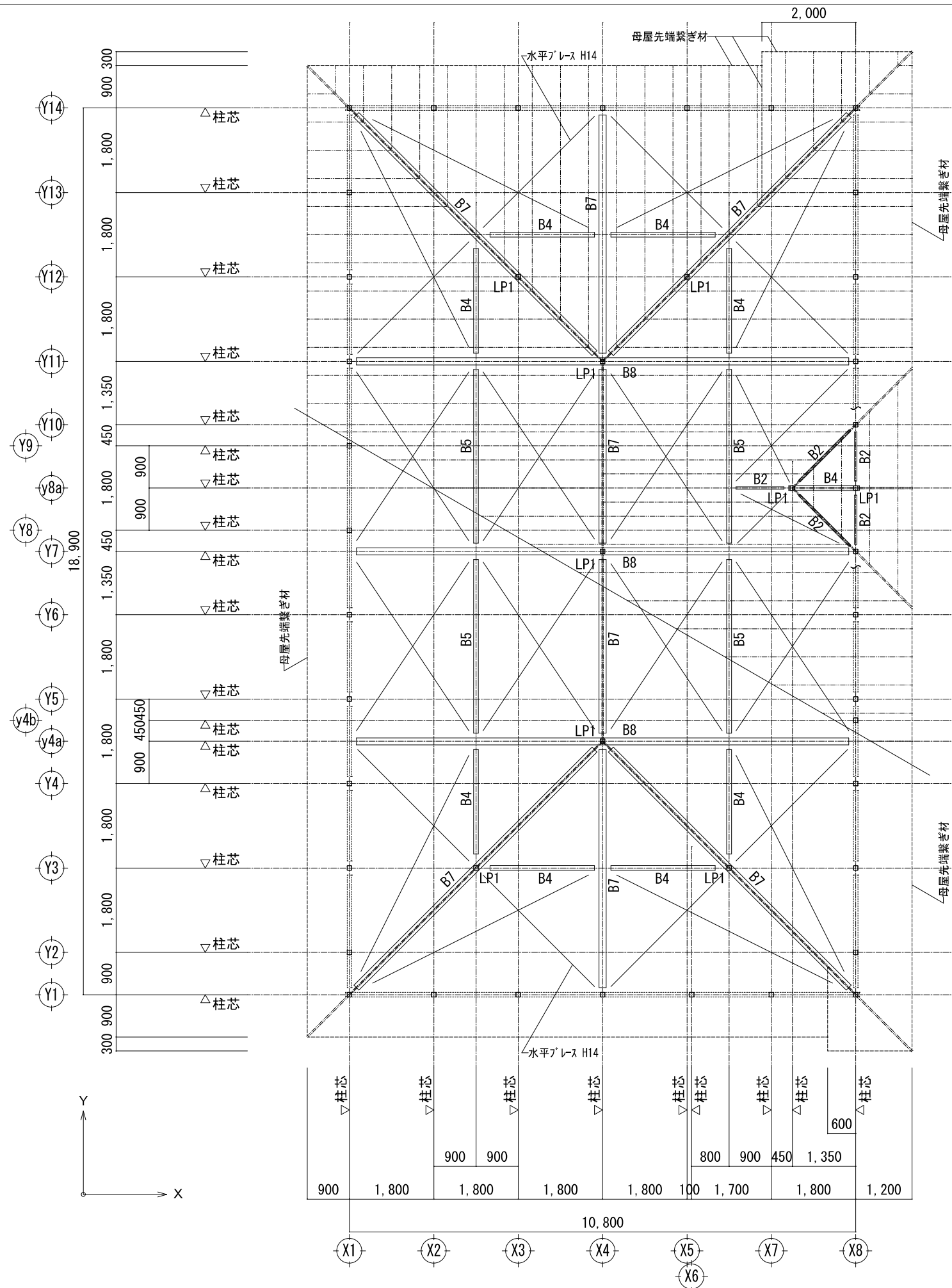


R階伏図 (見上図) S=1/100

- 特記なき限り下記による
1. 基準レベル; RSL[水下] = 1FL+3,500
 2. 梁天端; RSL±0
()内は、RSLからの梁天端寸法を示す。
 3. 水平ブレース; H14 (ZR面)
(各梁ウェブ芯を結び接合すること)
 4. 外壁; 縦胴縁 C-100x50x20x2.3 @600
縦胴縁 (JOINT部) 2C-100x50x20x2.3

Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)

記 事	Architects P12 <i>Architect YOU</i> 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (1) 第12121号 一級建築士 第342763号 藤山智昭		工事名称	川越市みよしの支援センター改築等工事	作成年月日	2026.02.11	図面番号	S1-06
			図面名称	[新館] R階伏図	縮尺	1/50(A3) 1/100(A3)		



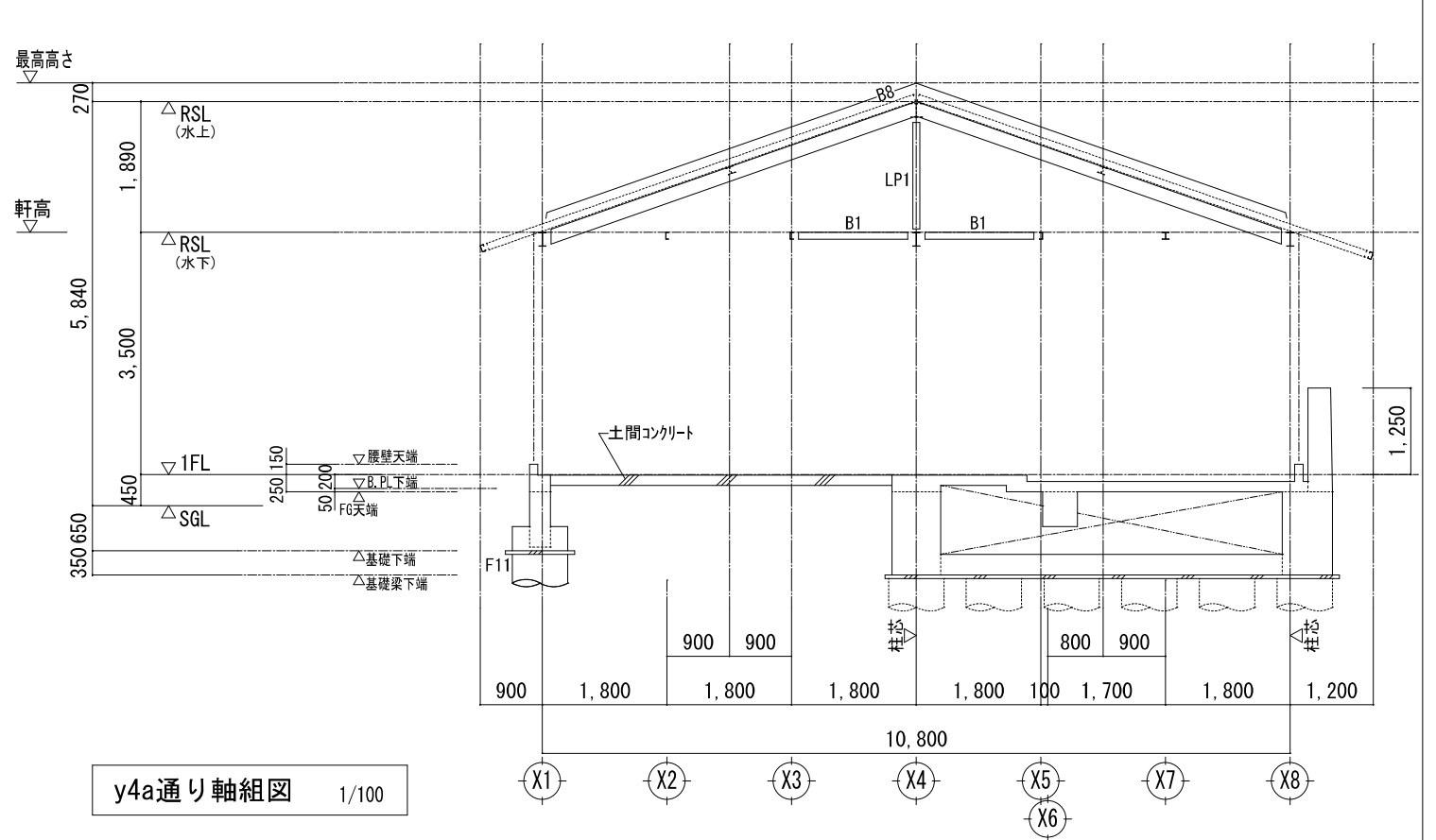
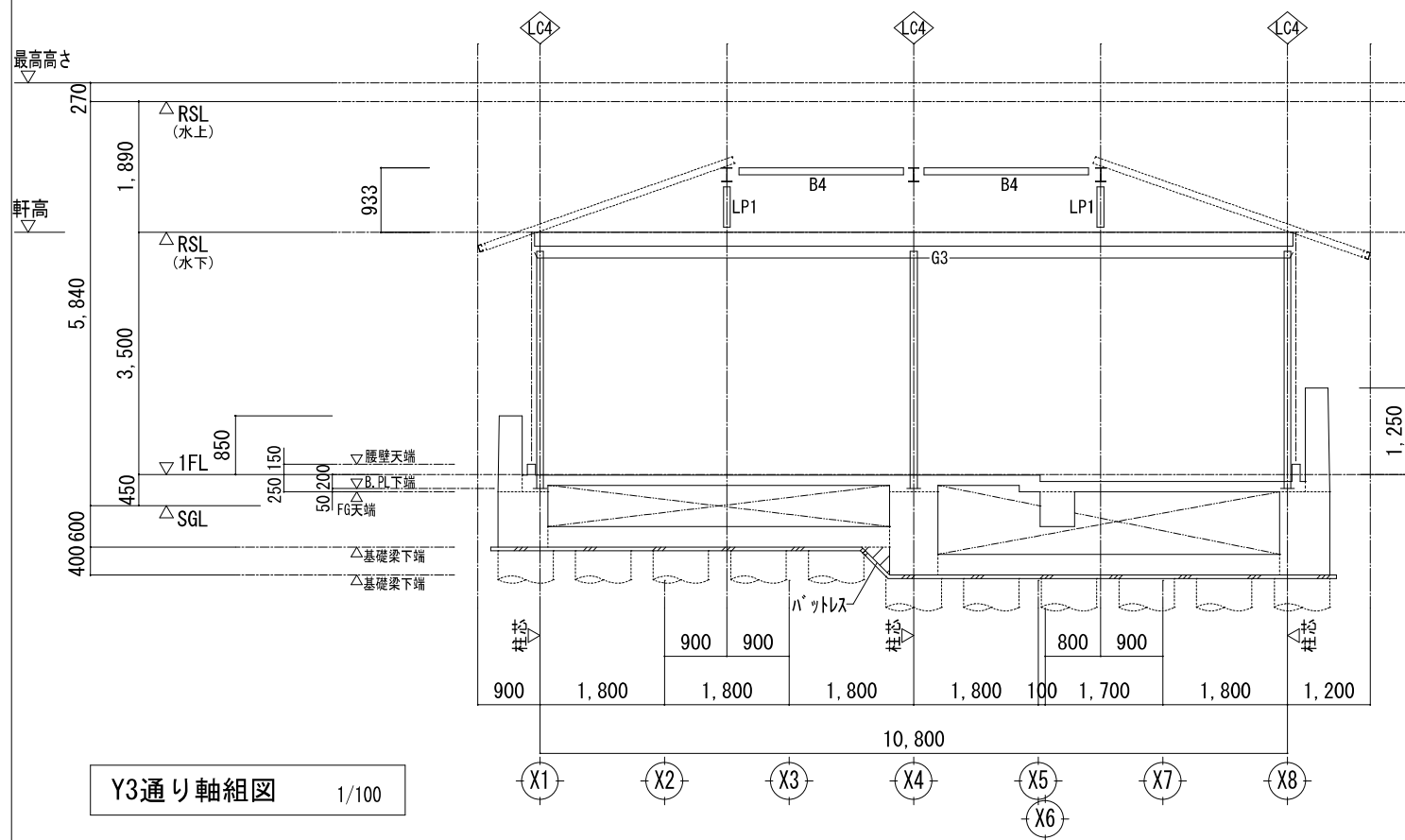
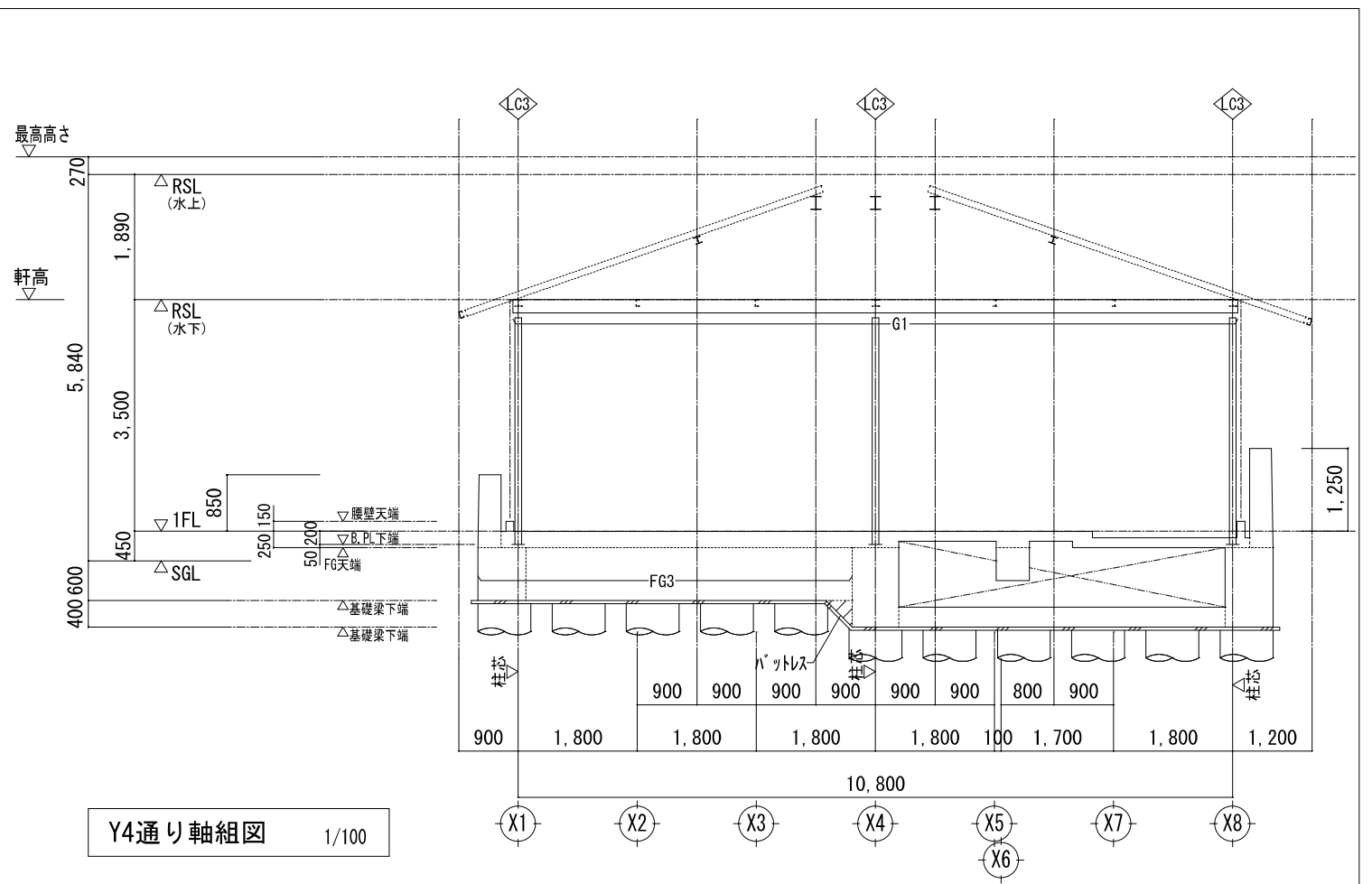
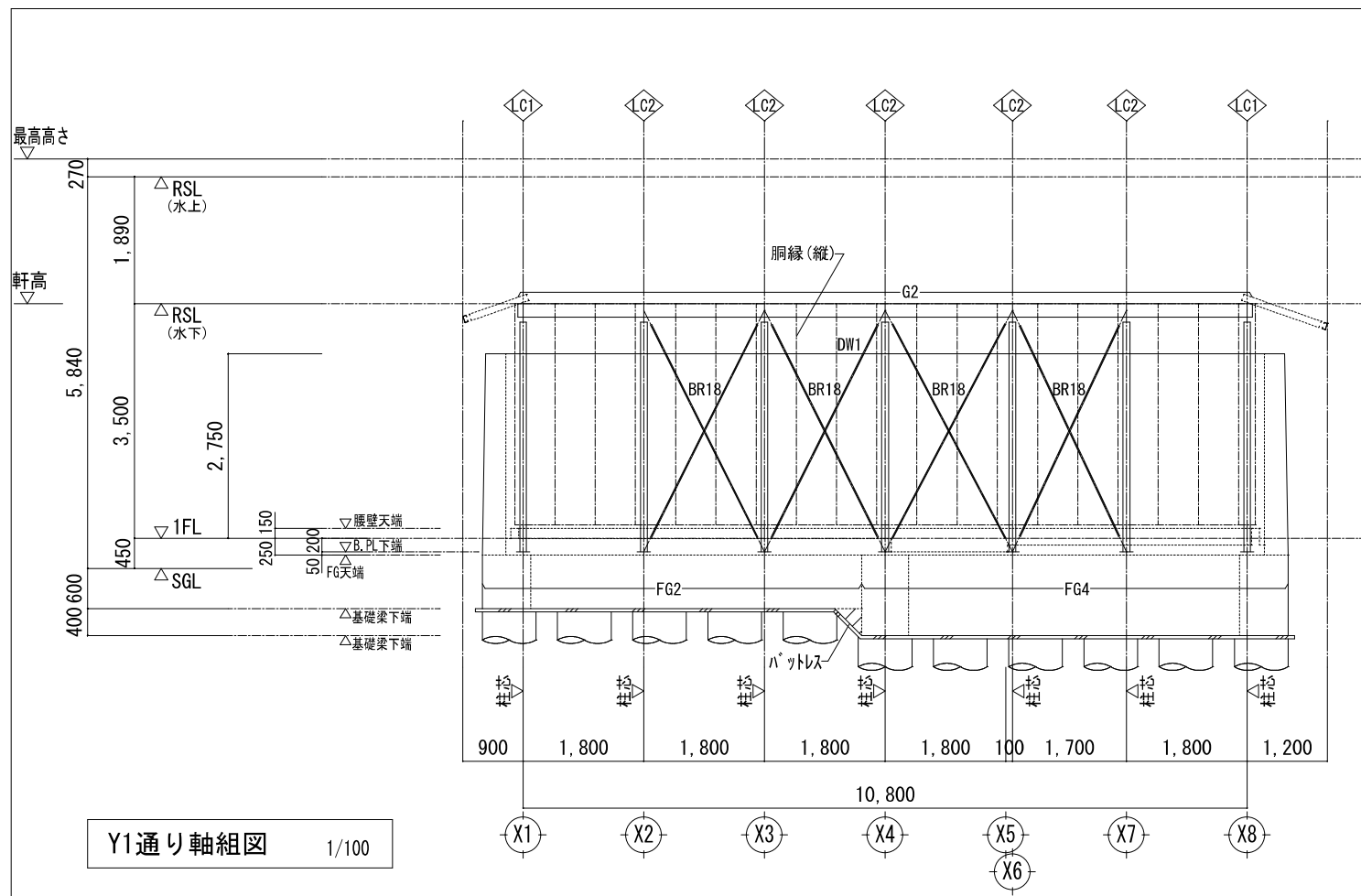
小屋伏図 (見上図) S=1/100

特記なき限り下記による

1. 基準レベル; RSL[水上] = RSL[水下]+1,890
2. 梁天端; 屋根勾配による。
3. 屋根受材;
 - 印 母屋 C-100x50x20x2.3 @600
 - 印 補強母屋 2C-100x50x20x3.2 (稜線部分)
 - 印 母屋先端繋ぎ材 C-100x50x20x3.2
4. 水平ブレース; H14 (小屋梁上面)
 (各梁ウェブ芯を結び接合すること)

Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)

記 事		Architects Firm Atelier YOU 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (1) 第12121号 一級建築士 第342763号 藤山智昭	工事名称	川越市みよしの支援センター改築等工事	作成年月日	2026.02.11	図面番号	S1-07
			図面名称	[新館] 小屋伏図	縮尺	1/50(A3) 1/100(A3)		

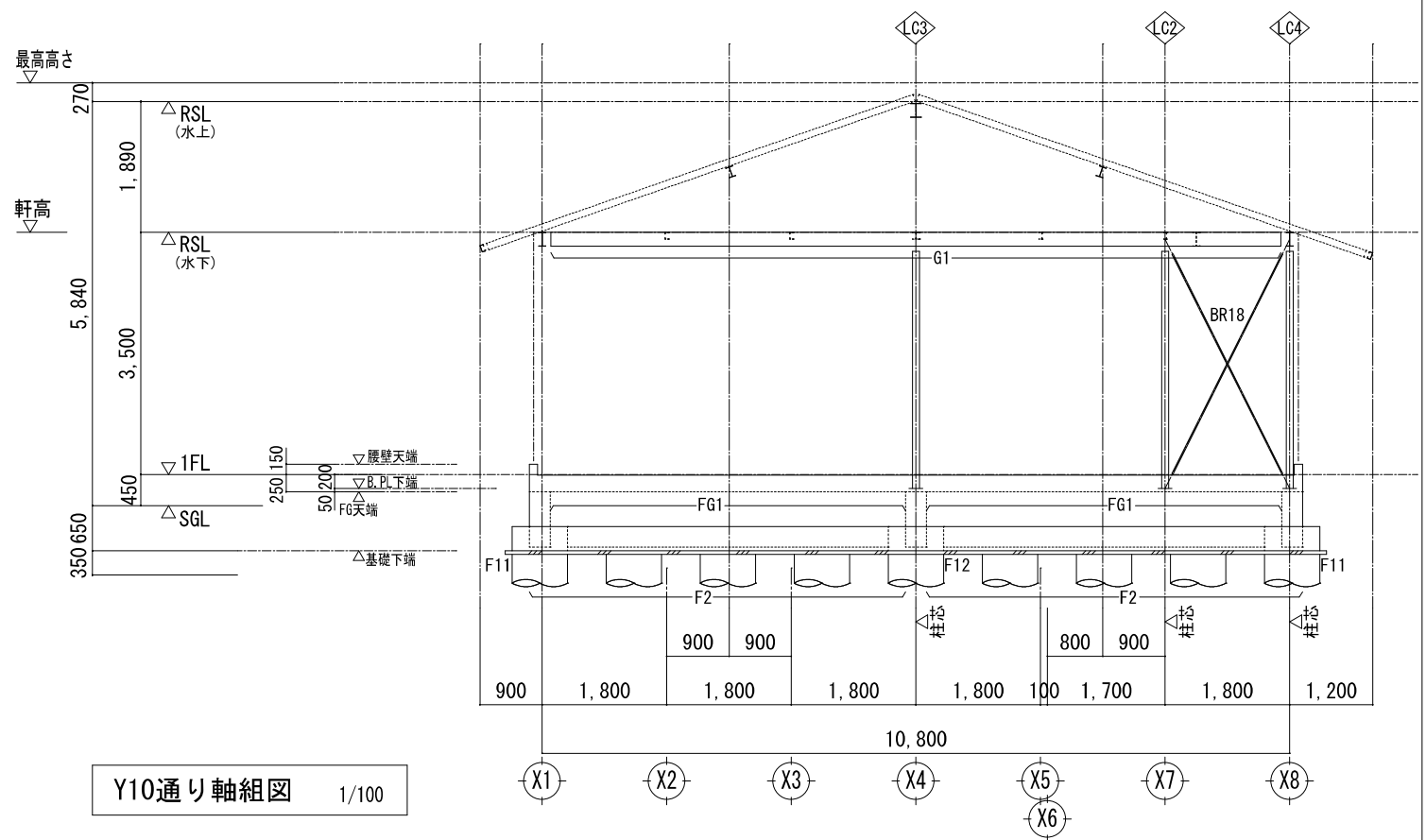
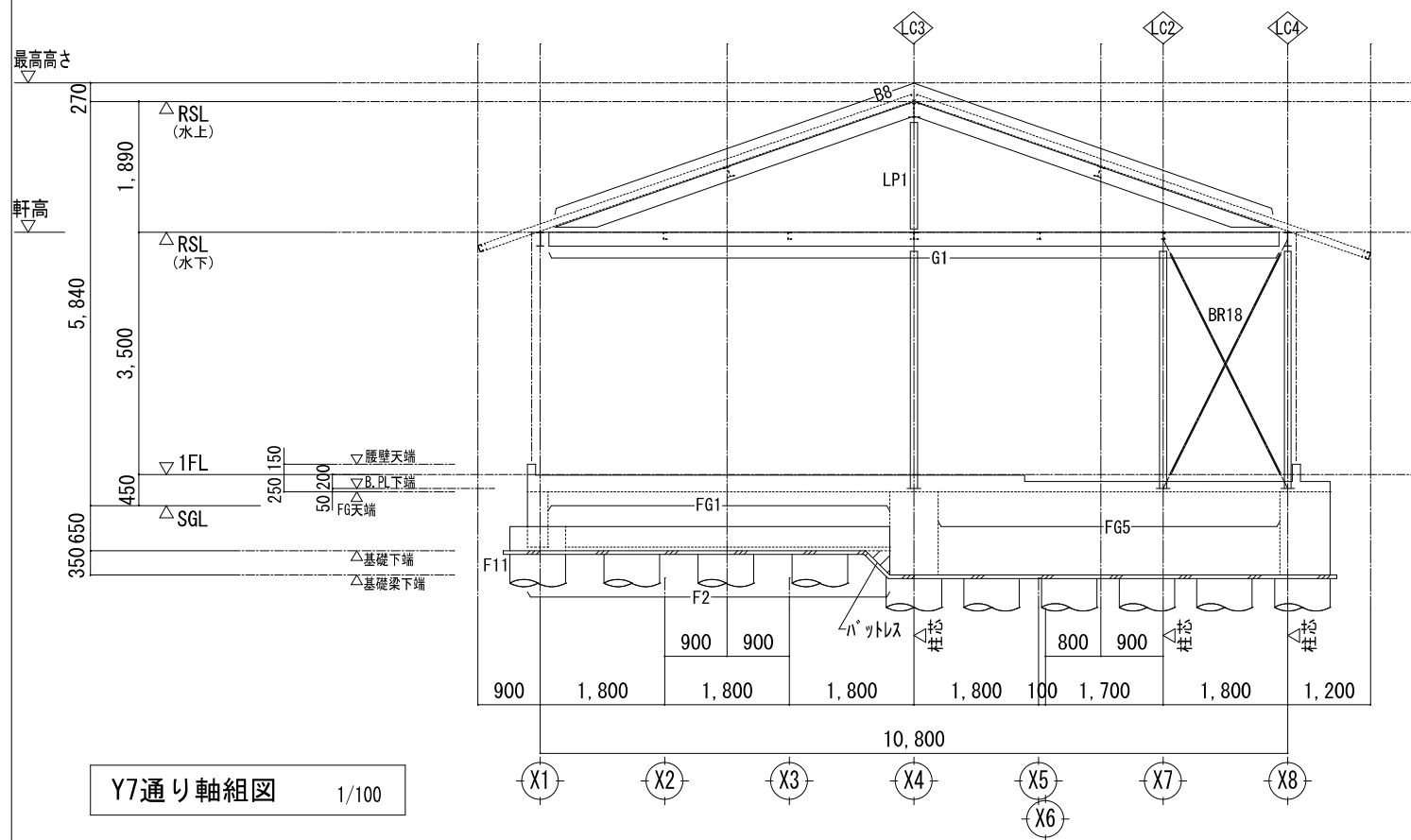
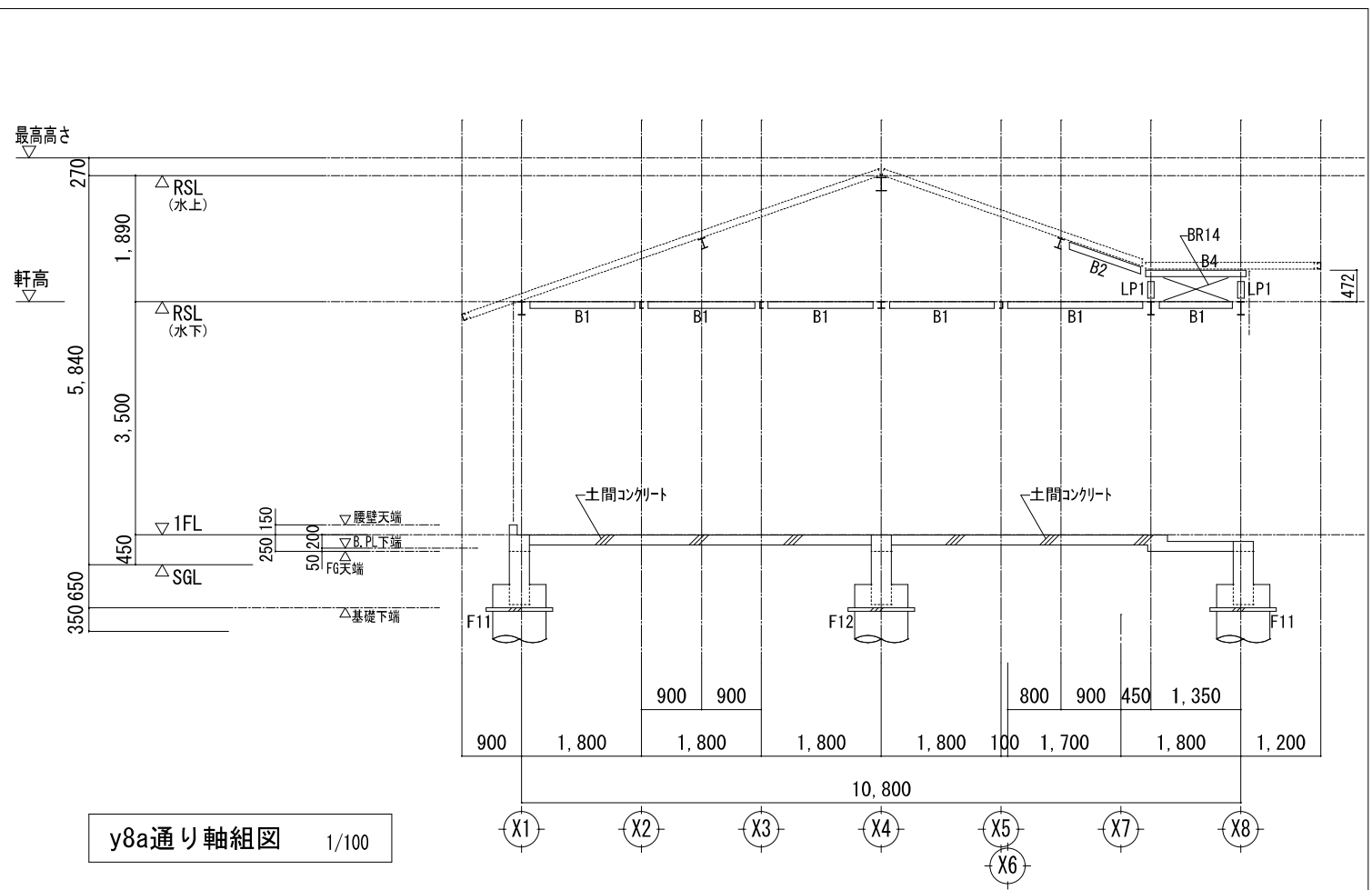
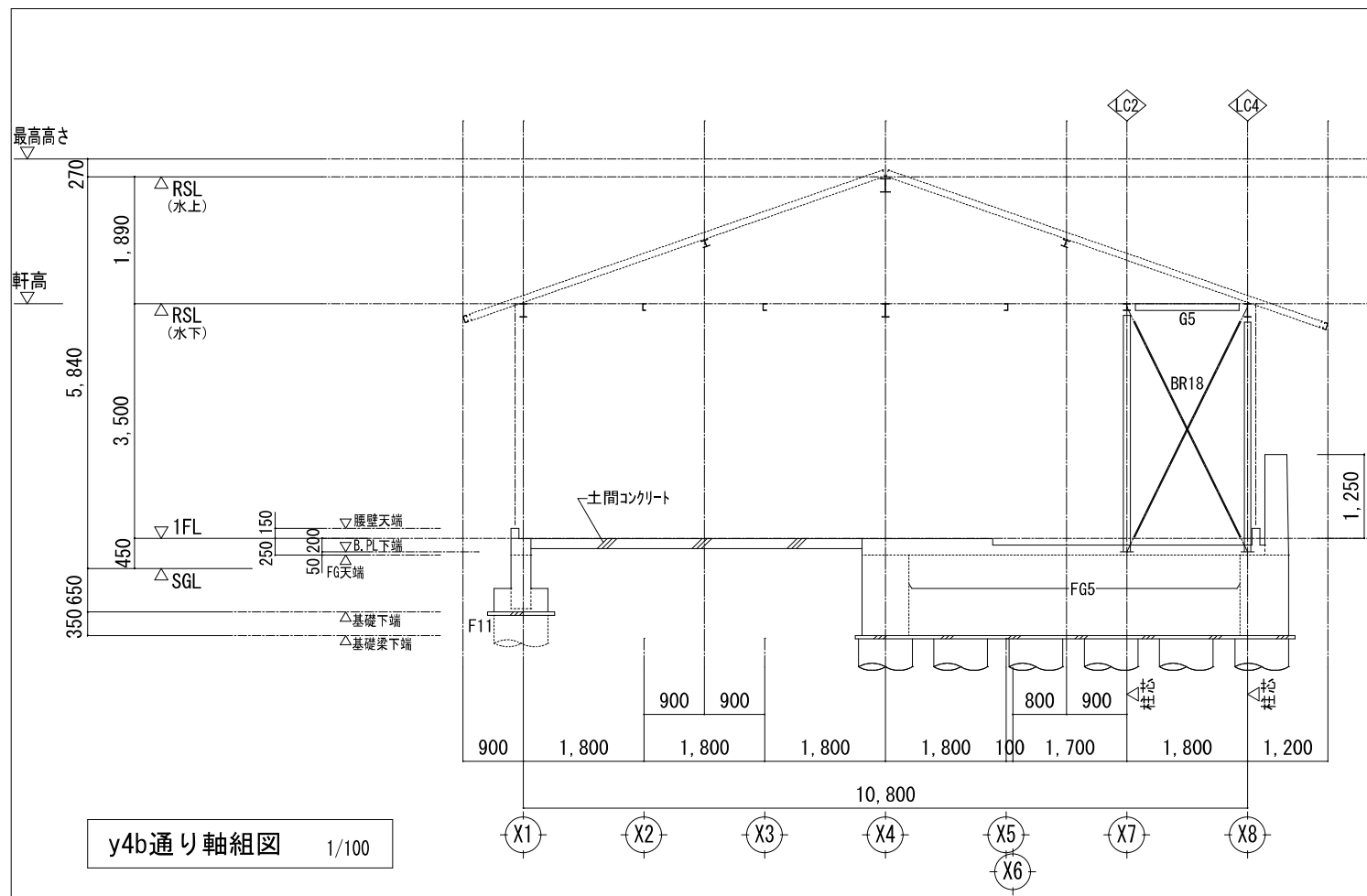


Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)

記	
事	

Architects P121 *Atelier YOU* 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (1) 第12121号
 一級建築士 第342763号 藤山智昭

工事名称	川越市みよしの支援センター改築等工事	作成年月日	2025.12.04	図番	S1-08
図面名称	[新館] 軸組図 (1)	縮尺	縦 1/50 (A3) 横 1/100 (A3)		

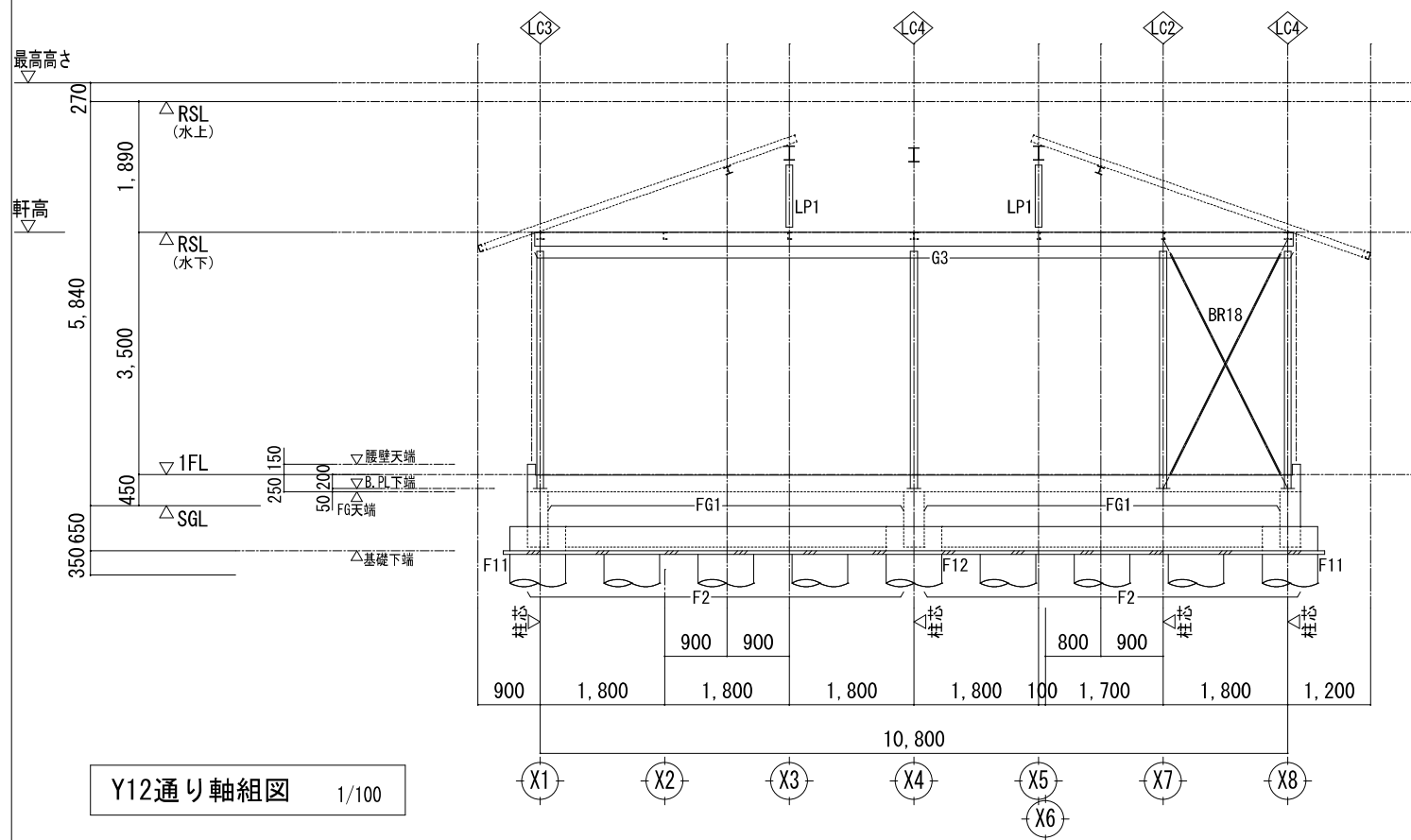
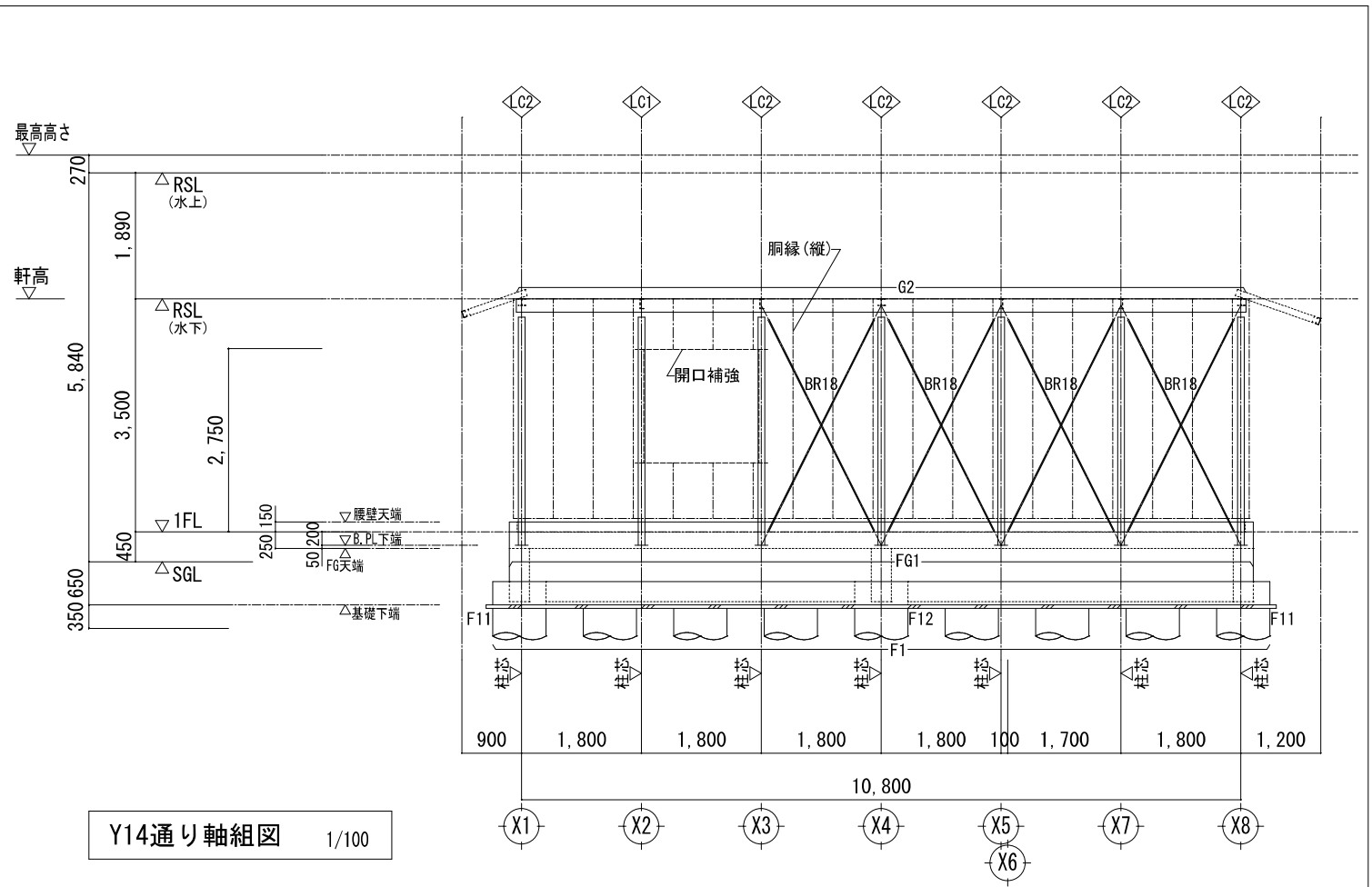
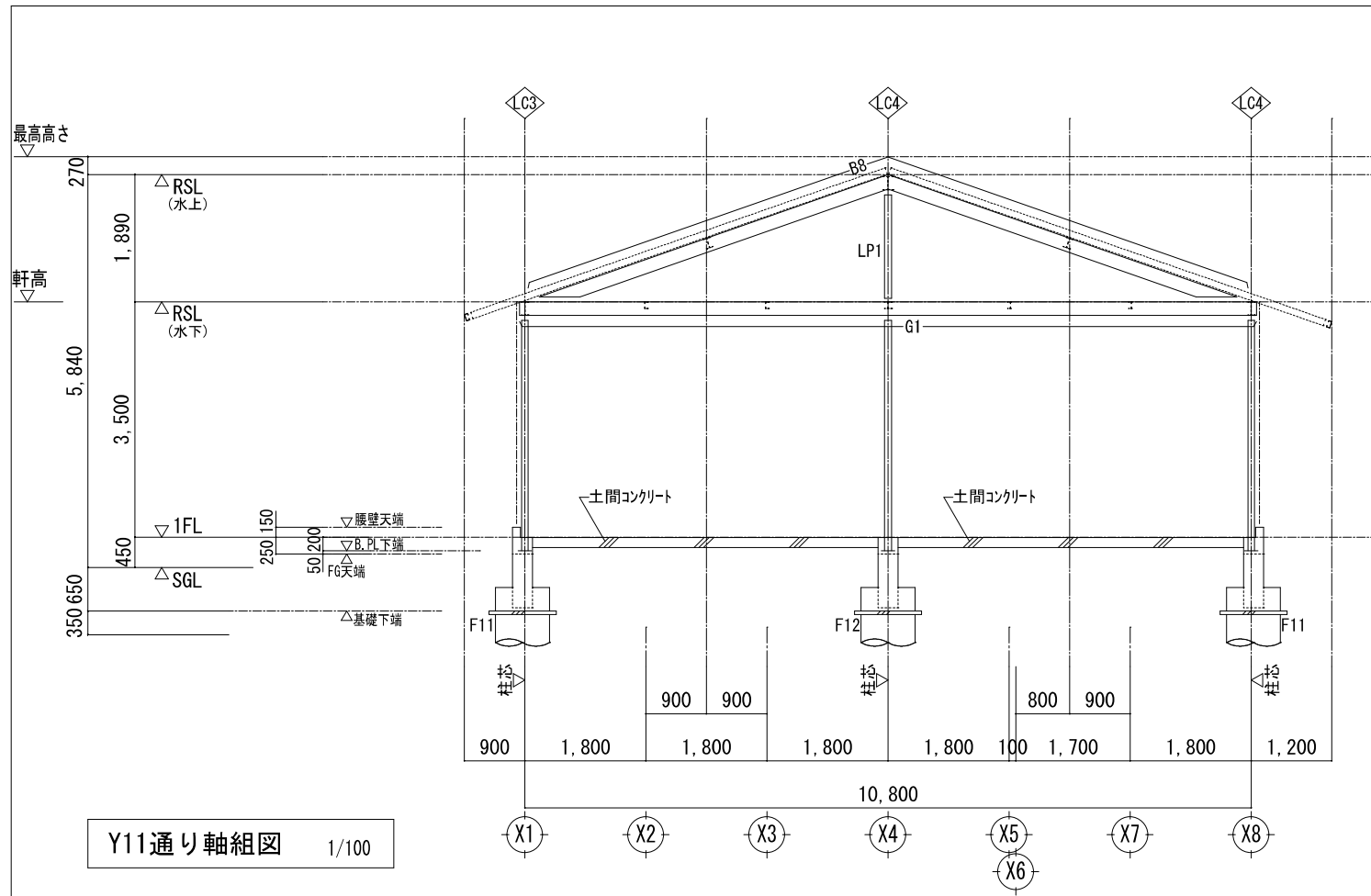


Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9046号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)

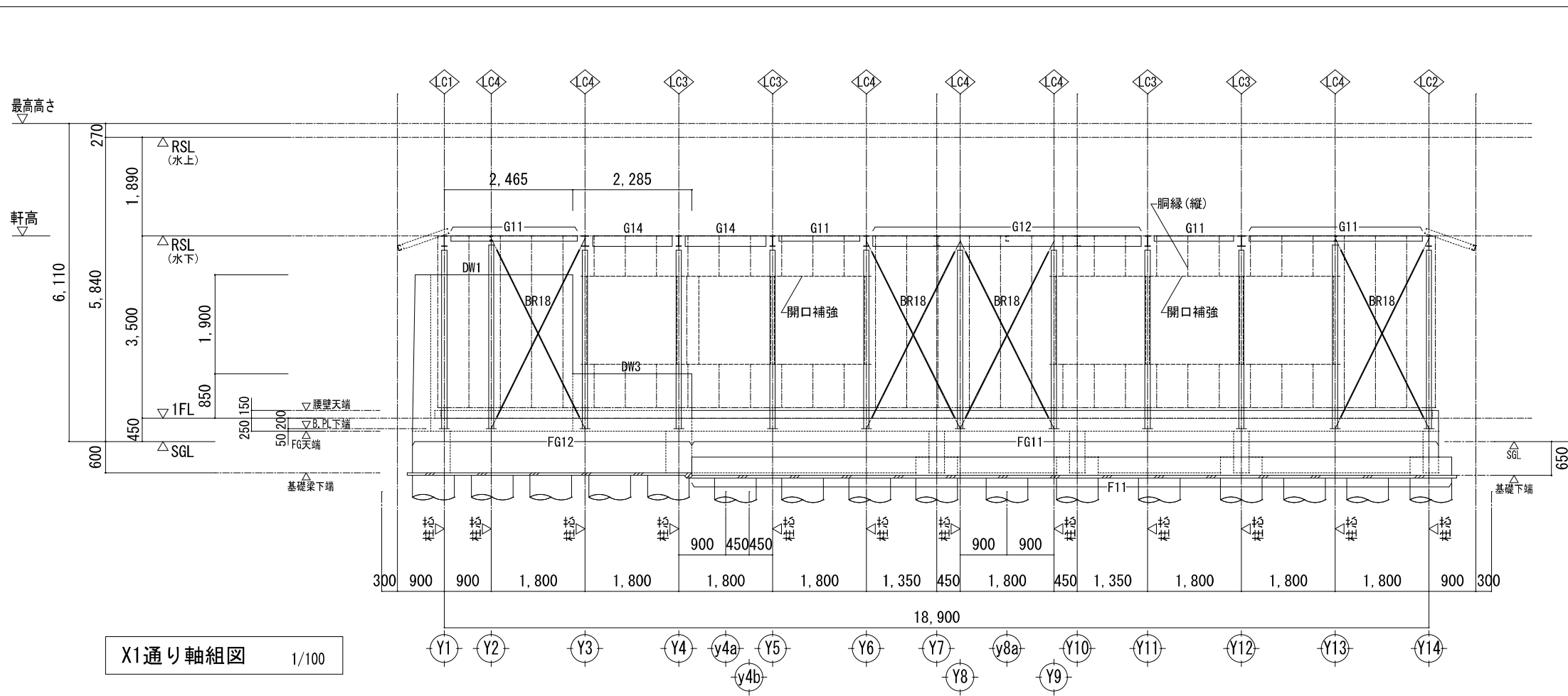
記	
事	

Architects P121 Atelier YOU 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (1) 第12121号
 一級建築士 第342763号 藤山智昭

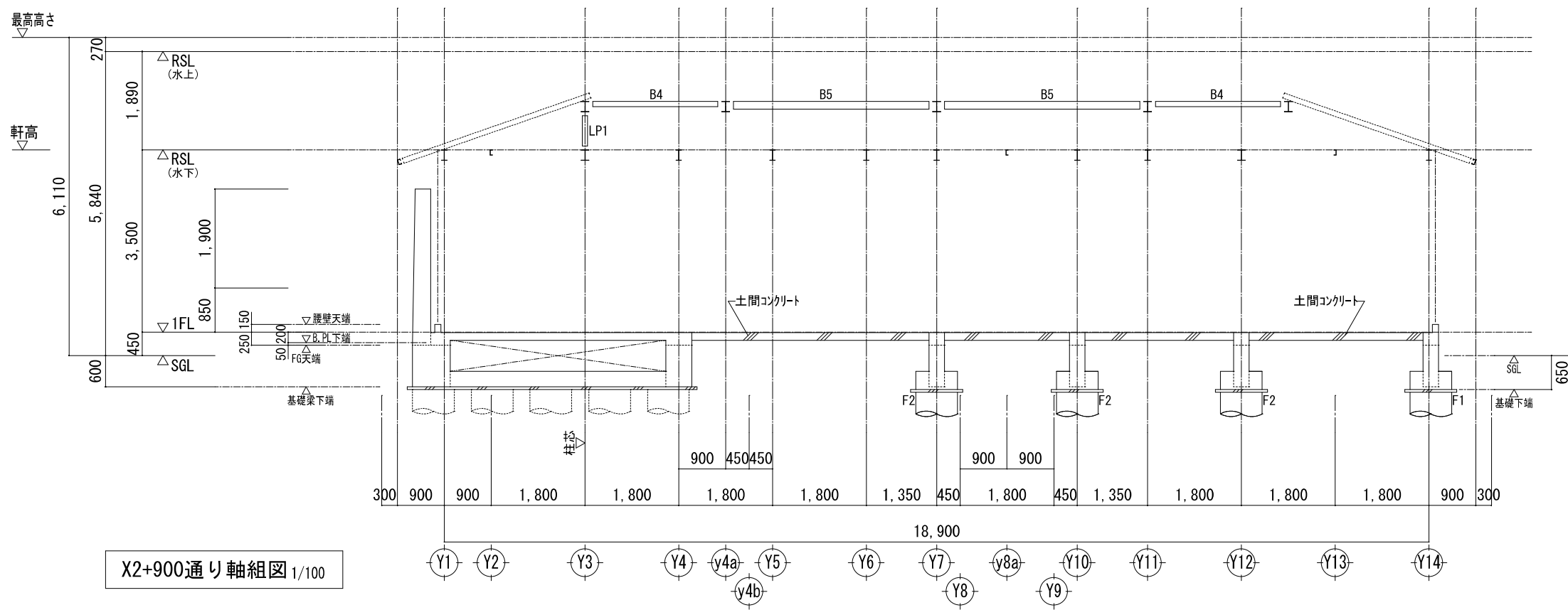
工事名称	川越市みよしの支援センター改築等工事	作成年月日	2026.01.17	図番	S1-09
図面名称	[新館] 軸組図 (2)	縮尺	1/50 (A3) 1/100 (A3)		



- 共通事項
- 特記なき限り下記による
- 1FL=設計GL (SGL)+450 [SGL H=+0.02m]
 - 基礎梁・礎柱天端; 1FL-250[SGL+200]
 - B. PL下端; 1FL-200[SGL+250]
 - 鉄骨梁天端 図示による
 - 外壁; 窯業系サイディング t=16(横貼)
 - 胴縁(縦); C-100x50x20x2.3@606
G. PL-4.5 4T(中ボルト) 1x2-M12
JOINT部; 2C-100x50x20x2.3
G. PL-4.5 4T(中ボルト) 1x2-M12
開口補強(k1); C-100x50x20x3.2
(-----印) G. PL-4.5 4T(中ボルト) 1x2-M12
開口補強(k2); 2C-100x50x20x3.2
(=====印) G. PL-6 4T(中ボルト) 1x2-M12
※特記なき開口補強は k1 とする。
 - 腰壁; t=120, h=1FL+150
(縦筋:D10@150シングル, 横筋:D10@150シングル)
 - 印は増打ちを示す。



X1通り軸組図 1/100



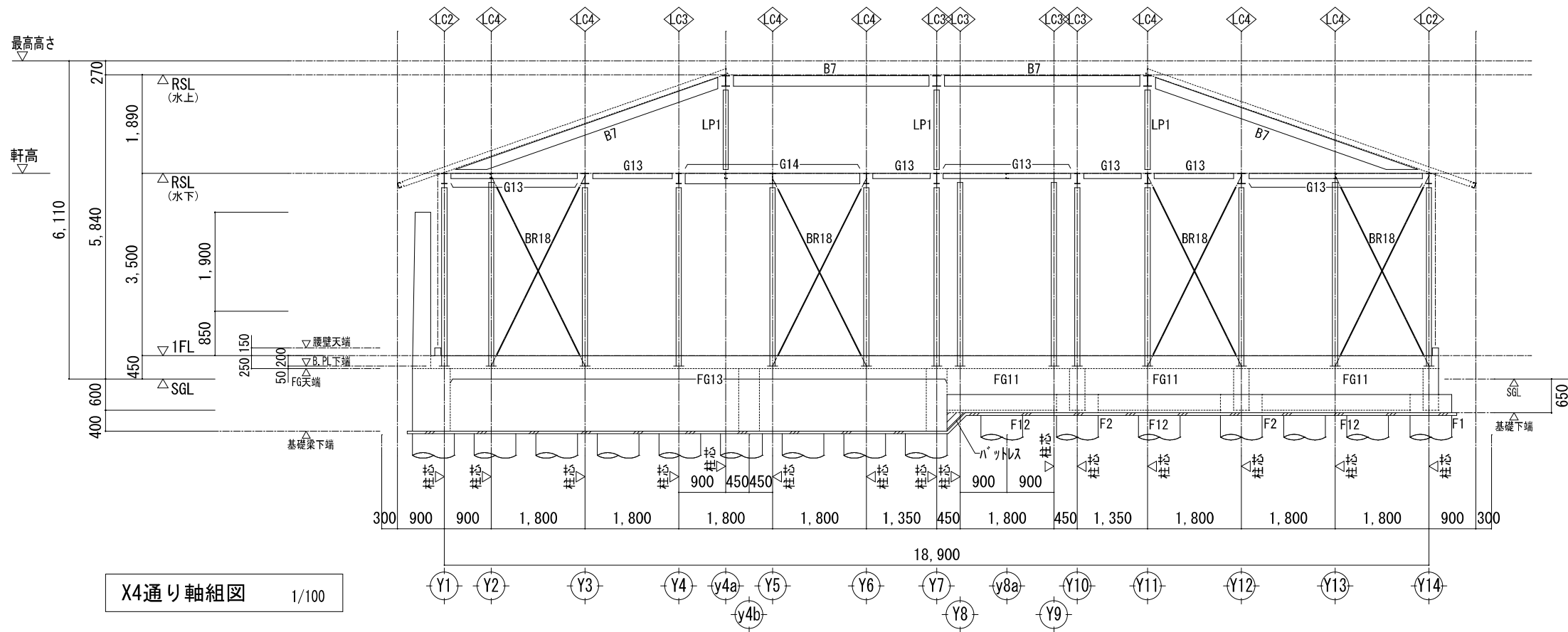
X2+900通り軸組図 1/100

共通事項

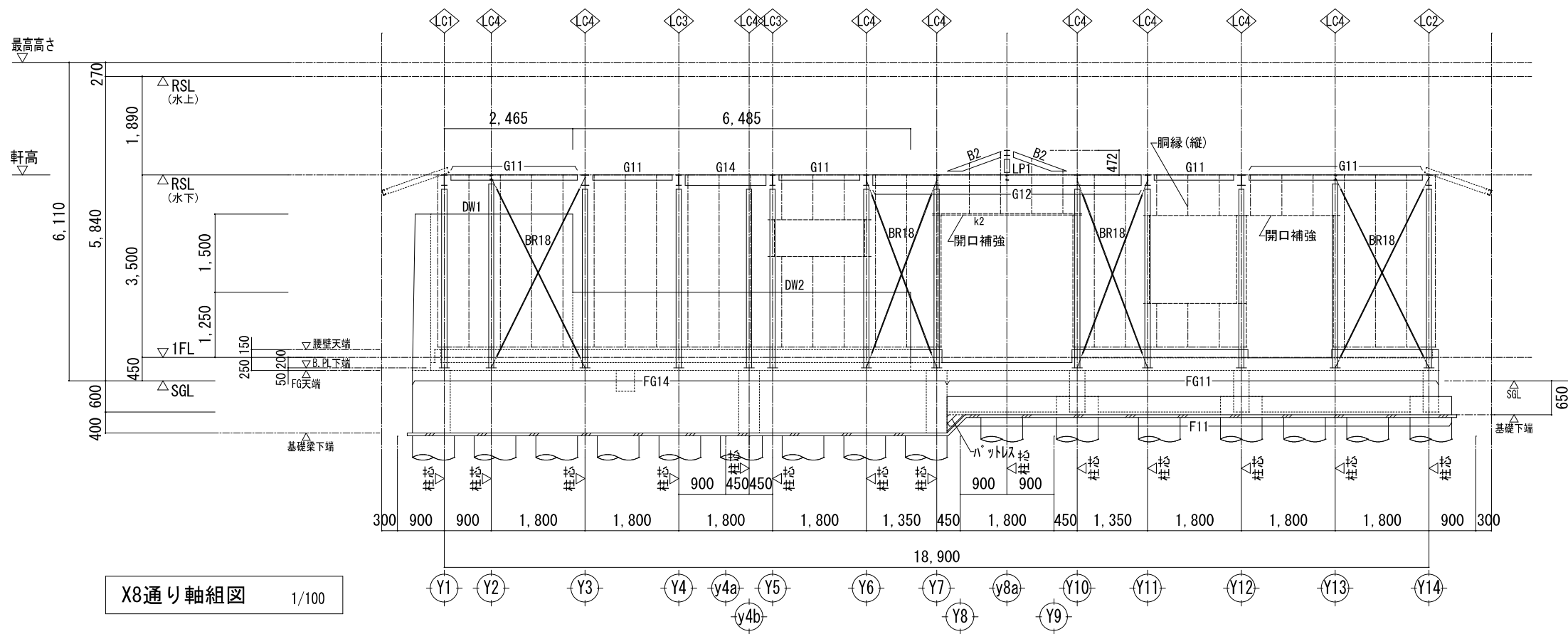
特記なき限り下記による

1. 1FL=設計GL (SGL)+450 [SGL H=+0.02m]
2. 基礎梁・礎柱天端; 1FL-250[SGL+200]
3. B. PL下端; 1FL-200[SGL+250]
4. 鉄骨梁天端 図示による
5. 外壁; 窯業系サイディング t=16(横貼)
6. 胴縁(縦); C-100x50x20x2.3@606
 G. PL-4.5 4T(中ボルト) 1x2-M12
 JOINT部; 2C-100x50x20x2.3
 G. PL-4.5 4T(中ボルト) 1x2-M12
 開口補強(k1); C-100x50x20x3.2
 (-----印) G. PL-4.5 4T(中ボルト) 1x2-M12
 開口補強(k2); 2C-100x50x20x3.2
 (=====印) G. PL-6 4T(中ボルト) 1x2-M12
 ※特記なき開口補強は k1 とする。
7. 腰壁; t=120, h=1FL+150
 (縦筋:D10@150シングル, 横筋:D10@150シングル)
8. 印は増打ちを示す。

Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)



X4通り軸組図 1/100



X8通り軸組図 1/100

共通事項

特記なき限り下記による

1. 1FL=設計GL (SGL)+450 [SGL H=+0.02m]
2. 基礎梁・礎柱天端; 1FL-250[SGL+200]
3. B. PL下端; 1FL-200[SGL+250]
4. 鉄骨梁天端 図示による
5. 外壁; 窯業系サイディング t=16(横貼)
6. 胴縁(縦); C-100x50x20x2.3@606
 G. PL-4.5 4T(中ボルト) 1x2-M12
 JOINT部 ; 2C-100x50x20x2.3
 G. PL-4.5 4T(中ボルト) 1x2-M12
 開口補強(k1); C-100x50x20x3.2
 (-----印) G. PL-4.5 4T(中ボルト) 1x2-M12
 開口補強(k2); 2C-100x50x20x3.2
 (=====印) G. PL-6 4T(中ボルト) 1x2-M12
 ※特記なき開口補強は k1 とする。
7. 腰壁; t=120, h=1FL+150
 (縦筋:D10@150シングル, 横筋:D10@150シングル)
8. 印は増打ちを示す。

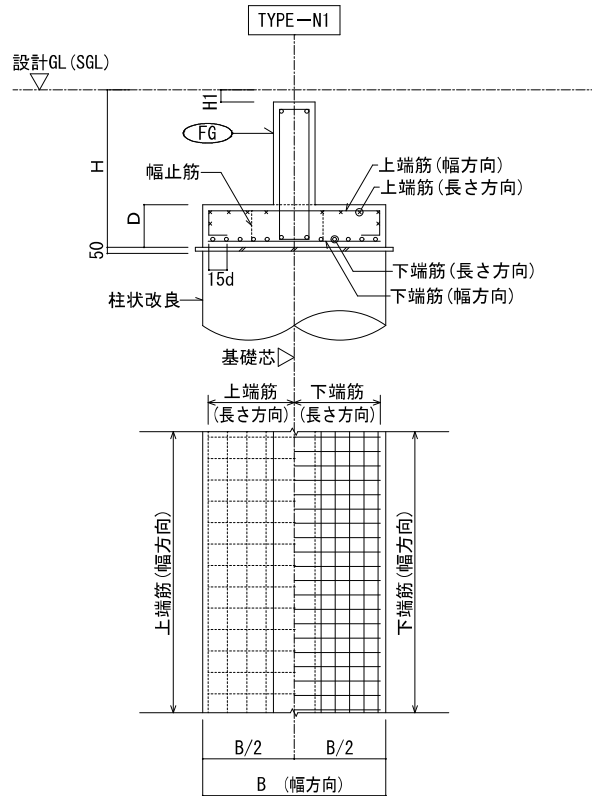
Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)

記 事		Architects Firm Atelier YOU 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (1) 第12121号 一級建築士 第342763号 藤山智昭	工事名称	川越市みよしの支援センター改築等工事	作成年月日	2026.02.11	図 番 号 S1-12
			図面名称	[新館] 軸組図 (5)	縮 尺 1/50(A3) 1/100(A3)		

基礎リスト

特記なき限り下記による。

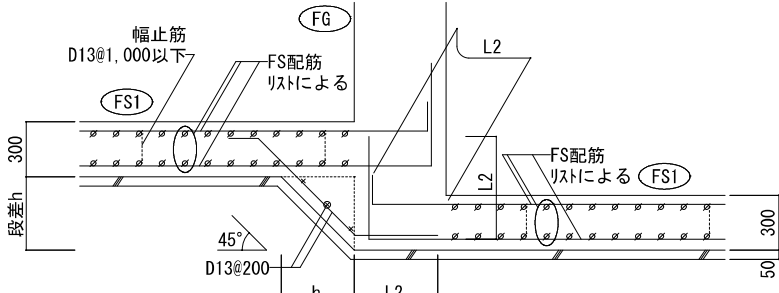
1. 幅止筋 : D16@1.000以下 (基礎 D≦350 の場合は D13@1.000以下) 2. 基礎芯=基礎梁芯とする。



符号	TYPE	Bx (B:幅方向)	By (長さ方向)	D	H	H 1	下端筋		上端筋		備 考
							X (幅方向)	Y (長さ方向)	X (幅方向)	Y (長さ方向)	
F1	N1	800	-	300	650	SGL+200	D13@200	D13@200	-	-	布基礎タイプ、上端筋・幅止筋無し
F2	N1	800	-	300	650	SGL+200	D13@200	D13@200	-	-	布基礎タイプ、上端筋・幅止筋無し
F11	N1	800	-	300	650	SGL+200	D13@200	D13@200	-	-	布基礎タイプ、上端筋・幅止筋無し
F12	N1	800	-	300	650	SGL+200	D13@200	D13@200	-	-	布基礎タイプ、上端筋・幅止筋無し

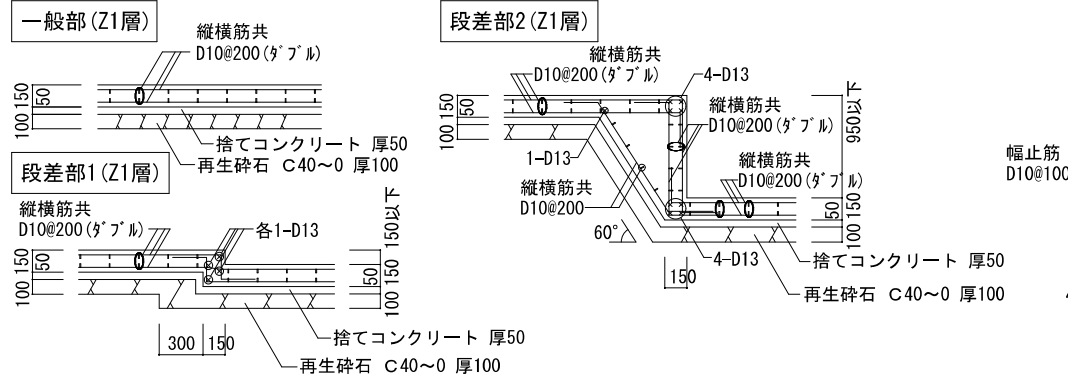
スラブリスト

符号	厚さ	位置	主筋方向 (短辺方向)	配筋筋方向 (長辺方向)	備 考
S 1	150	上端筋 下端筋	D10, D13@200 D10@200	D10, D13@200 D10@200	
S 2	150	上端筋 下端筋	D10, D13@200 D10@200	D10@200 D10@200	
S 3	150	上端筋 下端筋	D13@200 D10, D13@200	D13@200 D10, D13@200	
FS 1	300	上端筋 下端筋	D16@125 D16@125	D16@125 D16@125	・ベタ基礎底盤

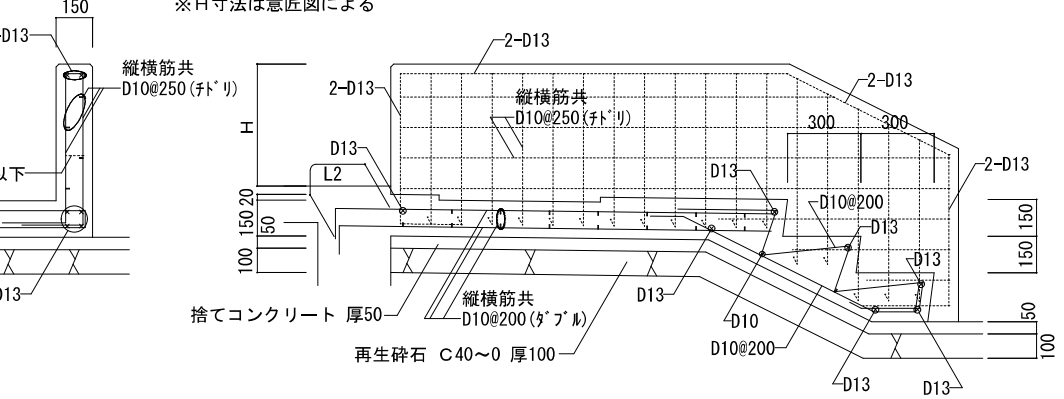


バットレス配筋要領
 ※上図は底盤～底盤段差部を示すが底盤～基礎段差部についても同様とする。
 ※柱状改良基礎のため、捨てコン下部砕石無とする。

土間コンクリート配筋要領



土間コンクリート階段配筋要領



Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)

基礎梁リスト

A1:S=1/25, A3:S=1/50

特記外は下記による

1. 腹筋: 2-D13

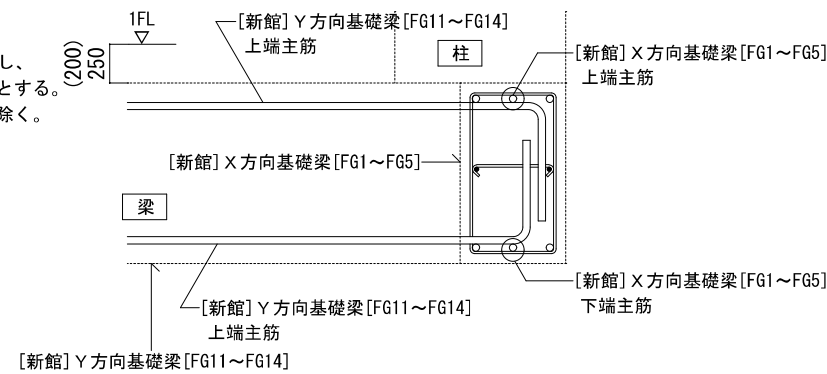
2. 幅止め筋: D10@1,000以下

符号	FG 1	FG 2	FG 3	FG 4	FG 5				FG 11	FG 12	FG 13	FG 14			
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面				全断面	全断面	全断面	全断面			
断面															
B x D	300 x 800	725 x 800	500 x 800	725 x 1,200	400 x 1,200				300 x 800	725 x 800	700 x 1,200	725 x 1,200			
上端筋	4-D16	6-D19	5-D19	9-D19	4-D19				4-D16	7-D19	8-D19	7-D19			
下端筋	4-D16	10-D19	5-D19	9-D19	5-D19				4-D16	12-D19	14-D19	10-D19			
スターラップ	□-D10@200	□-D13@150	□-D13@200	□-D13@150	□-D13@200				□-D10@200	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150			
腹筋		4-D13		6-D13	6-D13					4-D13	6-D13	6-D13			

符号	FB 1		FB 2												
位置	端部	中央	全断面												
断面															
B x D	500 x 500		350 x 400												
上端筋	3-D19	3-D19	4-D16												
下端筋	3-D19	6-D19	4-D16												
スターラップ	□-D13@200		□-D10@200												
腹筋	-		-												

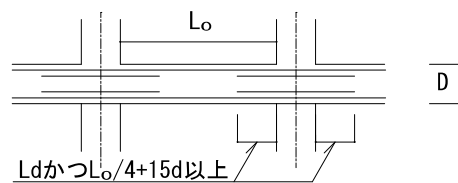
梁主筋配筋要領(基礎梁)

- ・ [新館] X方向基礎梁 (FG1~FG5) の上端主筋・下端主筋共に外側配置とし、[新館] Y方向基礎梁 (FG11~FG14) の上端主筋・下端主筋共に内側配置とする。但し、梁に段差がある場合、直交する基礎梁主筋と干渉しない場合等は除く。
- ・ スターラップ形状に注意すること。

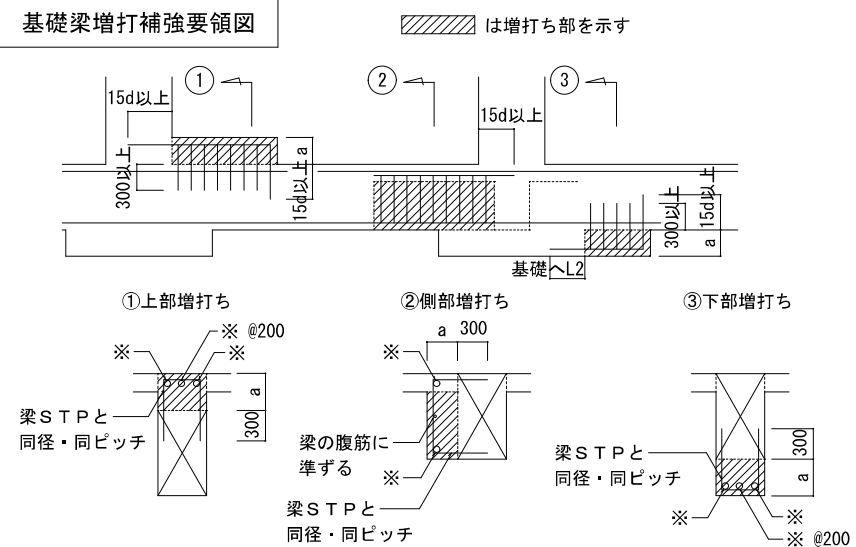


端部主筋定着長さ

端部主筋定着長さLdは、 $L_0/4+15d$ を越える場合のみ断面内に記載する。



基礎梁増打補強要領図



$a < 70$ の場合	補強筋不要
$70 \leq a \leq 200$ の場合	※印は D13 とする
$a > 200$ の場合	※印は D16 とする

注記) 1. 側部増打ちにおいて、a寸法が200mmを超える場合は、※印上端筋、下端筋とも2列以上配置する。(※200)
2. 増打ち部補強あばら筋は、梁STPの材質に係らず、SD295 とする。

土圧壁リスト

A1:S=1/25, A3:S=1/50

特記無き限り下記による

1. 幅止筋: D10@1,000以下

符号	DW1	DW2	DW3				
断面							
厚さ (t1~t2)	300 ~ 350		326 ~ 350		335 ~ 350		
位置	外側	内側	外側	内側	外側	内側	
縦筋 (上部)	D16 @200	D16 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	
縦筋 (下部)	D16 @100						
横筋 (端部)	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	
横筋 (中央)							
開口補強	縦筋	—	縦筋	—	縦筋	—	
	横筋	—	横筋	—	横筋	—	
	斜筋	—	斜筋	—	斜筋	—	
備考	<ul style="list-style-type: none"> 土圧壁縦筋は底盤 (FS) にL2定着とする。 土圧壁高さ (H) は軸組図による。 仮想土圧線は隣地擁壁の崩壊に伴い影響が見込まれるラインとし、30° 勾配を考慮する。 						

Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)

鉄骨柱リスト

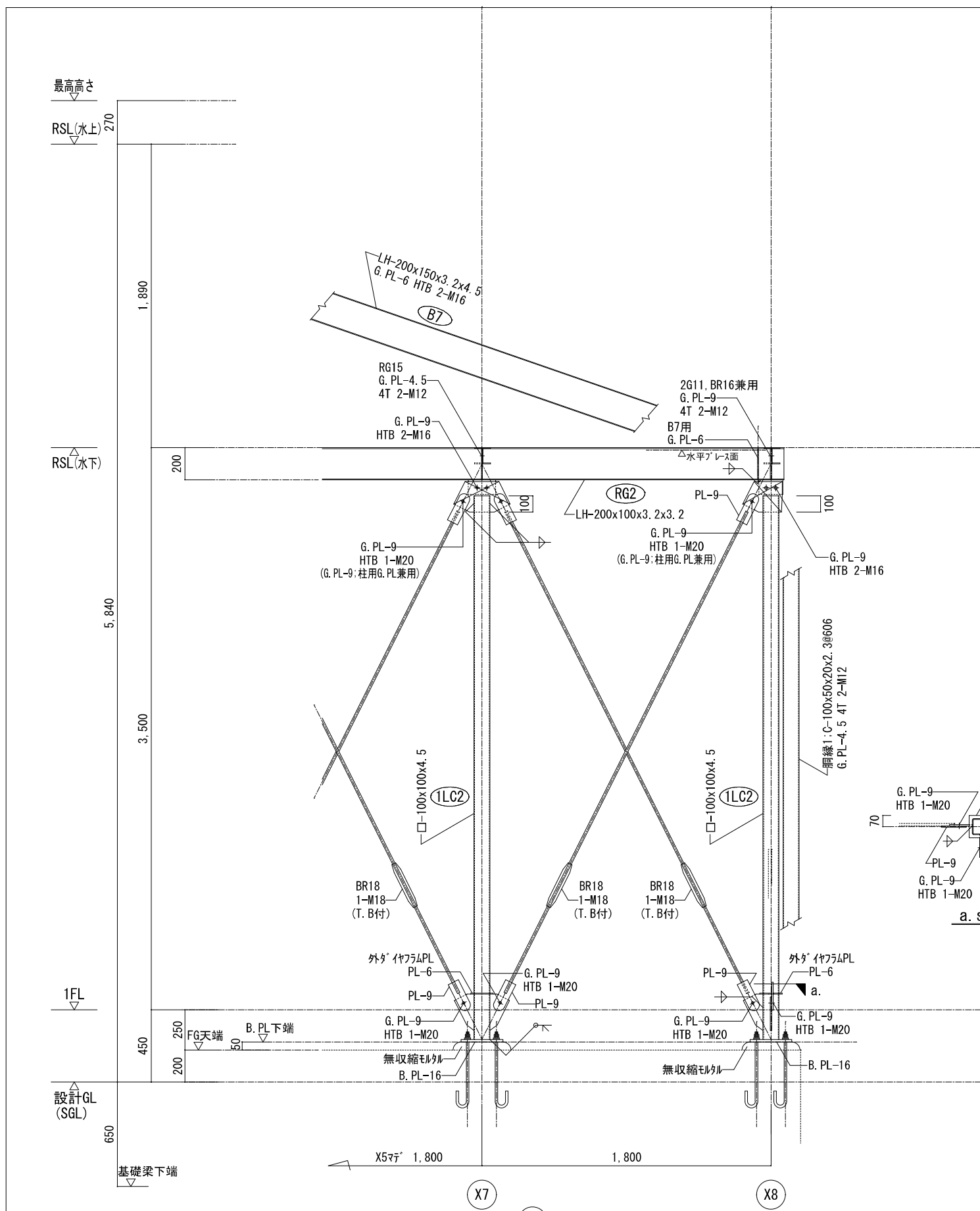
A1:S=1/15, A3:S=1/30

特記なき限り下記による

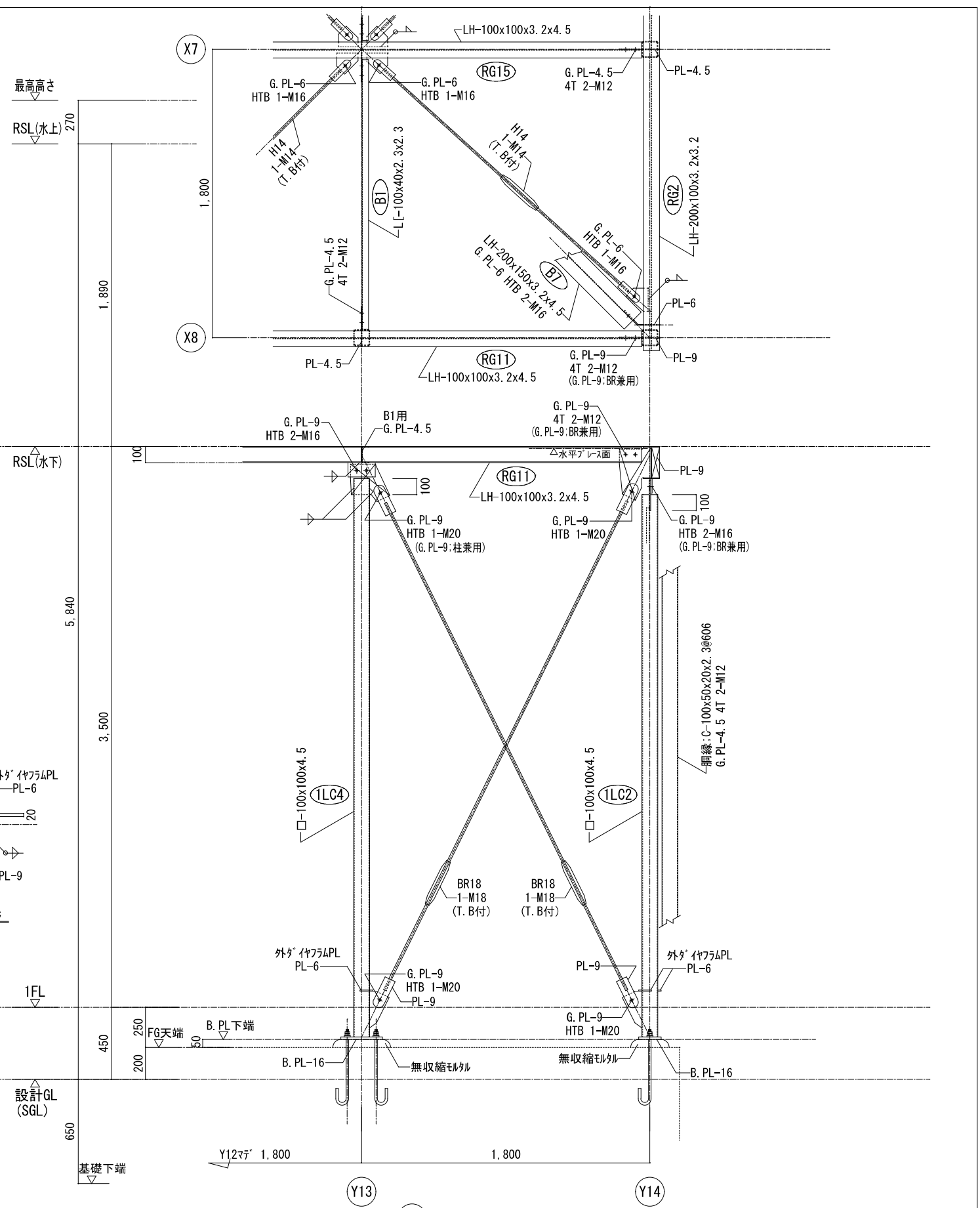
- 鉄骨材質：主材 STKR400、ボルト HTB F10T・中ボルト 4T
- <>内は各柱の有効細長比の最大値を示す。

符号	LC 1	LC 2	LC 3	LC 4			
1 階 G. PL, BOLT	□-100×100×3.2 <105.5> G. PL-6 (SS400), HTB 2-M16	□-100×100×4.5 <105.5> G. PL-9 (SS400), HTB 2-M16	□-100×100×3.2 <105.5> G. PL-6 (SS400), HTB 2-M16	□-100×100×4.5 <105.5> G. PL-9 (SS400), HTB 2-M16			
柱脚							
ベースプレート	PL-16×260×140 (SS400)	PL-16×260×140 (SS400)	PL-16×140×260 (SS400)	PL-16×140×260 (SS400)			
アンカーボルト	2-M16 (SS400) L=320	2-M16 (SS400) L=320	2-M16 (SS400) L=320	2-M16 (SS400) L=320			
柱型 (礎柱)	基礎梁定着	基礎梁定着	基礎梁定着	基礎梁定着			
立上り筋	/						
フープ筋	/						
備考	/						

Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)



Y14 通り鉄骨詳細図 縮尺=1/30



X8 通り鉄骨詳細図 縮尺=1/30

特記なき限り
 1. 鉄骨材質
 柱・間柱(角型鋼管) : STKR400、梁 : SNH400・SSC400
 各プレート等・プレース : SS400
 高力ボルト : F10T・S10T、中ボルト : 4T

Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)

構造設計標準仕様

1. 建築物の構造内容

- (1) 工事名称 川越市みよしの支援センター改築等工事〔新倉庫棟〕
建築場所 埼玉県川越市宮下町1丁目19番地13
- (2) 工事種別 新築 増築 増改築 改築
- (3) 構造設計一級建築士の関与 必要 必要としない
□法第20条第一号（高さ60m超）
□法第20条第二号（RC造高さ20m超、S造4階建以上、木造高さ13m超、その他）
注）構造設計一級建築士の関与が義務付けられる建築物については解説書等参照して確認する。
- (4) 構造種別 木造W 補強コンクリートブロック造（CB） 鉄骨造（S）
鉄筋コンクリート造（RC） 壁式鉄筋コンクリート造（WRC）
鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC） 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）
プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）
- (5) 階数 新倉庫棟 地下0階 地上1階 塔屋0階
- (6) 主要用途 児童福祉施設等（倉庫）
- (7) 屋上付属物 高架水槽 kN キュービクル kN 広告塔 太陽光パネル
室外機 kN 自家発電機 kN 補助水槽 kN
- (8) 特別な荷重 エレベータ（人乗）x 台〔機械室レス〕
倉庫積載床用 3900N/m² リフト kN ホイスト kN 受水槽
- (9) 付帯工事 門塙 擁壁 駐輪場 機械式駐車場
- (10) 増築計画 有（ ） 無
- (11) 構造計算ルート X方向ルート - 1-1 Y方向ルート - 1-1

2. 使用建築材料表・使用構造材料一覧表

(1) コンクリート (ディ・ミクストコンクリート JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308)					
適用箇所	種類	設計基準強度 F _c =N/mm ²	品質基準強度 F _g =N/mm ²	スランプ cm	備考
捨てコンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18	18	18	
土間コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 普通	24	24	15	比重 2.3
基礎・基礎梁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	24	24	15	比重 2.3
1階床・床壁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	24	24	18	比重 2.3
	<input type="checkbox"/> 普通				比重 2.3
	<input type="checkbox"/> 普通				比重 2.3
押えコンクリート	<input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 軽量	18	18	18	比重 2.3
細骨材の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 砂 <input type="checkbox"/> 山砂	<input type="checkbox"/> 人工	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
粗骨材の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 砂利 <input type="checkbox"/> 砕石	<input type="checkbox"/> 人工	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
水の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 水道水 <input type="checkbox"/> 地下水	<input type="checkbox"/> 工業用水	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
混和材料の種類 (JIS A 6204)	<input checked="" type="checkbox"/> AE減水剤 <input type="checkbox"/> 高性能AE減水剤	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
呼び強度を保証する材齢、養生	材材齢 (○28日 □56日	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
細骨材の種類	養生 (○現場封かん ○現場水中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

注）単位水量は 185kg/m³以下、単位セメント量は 270kg/m³以上とする。

(2) コンクリートブロック (00) (JIS A 5406)							
A種	B種	C種	厚さ (mm)	□120	□150	□190	使用箇所 (□)
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

(3) 鉄筋					
種類	径	使用箇所	継手工法		
異形鉄筋 (JIS G 3112)	<input checked="" type="checkbox"/> SD295	D16 以下	床 梁 架 設 基 礎 筋 等	<input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手 D10~D16 <input type="checkbox"/> ガス圧接継手 D19 以上 <input type="checkbox"/> 機械式継手	
	<input type="checkbox"/>				
	<input checked="" type="checkbox"/> SD345				
	<input checked="" type="checkbox"/> SD390				
高強度せん断補強筋	<input type="checkbox"/> 材種				
	<input type="checkbox"/> 大臣認定番号 MSRB-				
丸鋼 (JIS G 3112)	<input checked="" type="checkbox"/> R235			各継手の使用詳細については本仕様 5. (2) 鉄筋 の項の「鉄筋継手等」による。	
溶接金網 (JIS G 3551)	<input checked="" type="checkbox"/> SR				

(4) 鉄骨 ※使用箇所の詳細については別途図示とする。					
種類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等		
<input checked="" type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SM400 <input type="checkbox"/> SN400A, B, C	大梁・小梁他	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	JIS G 3101 JIS G 3136		
<input checked="" type="checkbox"/> STKR400 <input type="checkbox"/> STKR490	柱	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	JIS G 3466		
<input checked="" type="checkbox"/> BCR295 <input type="checkbox"/> BCP235 <input type="checkbox"/> BCP325		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	大臣認定品 認定番号R61~141号		
<input checked="" type="checkbox"/> SM490A <input type="checkbox"/> SN490B <input checked="" type="checkbox"/> SN490C	γ付ワム	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	JIS G 3106 JIS G 3136		
<input checked="" type="checkbox"/> SSC400 <input type="checkbox"/> STK400	胴縁・開口補強	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	JIS G 3350 JIS G 3444		
溶接材料	<input checked="" type="checkbox"/> JIS Z				

(5) ボルト					
種類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等		
<input checked="" type="checkbox"/> F10T (JIS B1186) <input checked="" type="checkbox"/> S10T 認定番号 (JSS II-09) <input type="checkbox"/> M12 <input checked="" type="checkbox"/> M16 <input type="checkbox"/> M20 <input type="checkbox"/> M22 <input type="checkbox"/> M24	大梁・小梁他	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	JIS G 3101 JIS G 3136		
<input checked="" type="checkbox"/> ボルト (JIS B1180) M12 M		<input checked="" type="checkbox"/> 4.8 (4T) ※ダブルナットとする			
<input checked="" type="checkbox"/> アンカーボルト ※新倉庫棟の露出型弾性固定工法部は当該仕様による					
<input checked="" type="checkbox"/> SS400 M12 L=240mm ナット (□シングル 〇ダブル)					
<input checked="" type="checkbox"/> SS400 M16 L=320mm ナット (□シングル 〇ダブル)					
□頭付スタッドボルト					
φ =	L =	mm	使用箇所 (□柱 □大梁 □小梁)		
φ =	L =	mm	使用箇所 (□柱 □大梁 □小梁)		

(6) 屋根、床、壁					
材種	型式、厚、その他	使用箇所	仕様・構法		
ALC (JIS A 5416)		厚	<input type="checkbox"/> 壁 <input type="checkbox"/> 床	<input type="checkbox"/> スライド	<input type="checkbox"/> ボルト止め
押出成形セメント板 (JIS A 5441)		厚	<input type="checkbox"/> 屋根 <input type="checkbox"/> 壁	<input type="checkbox"/> ロックン	<input type="checkbox"/> レールファスター
折板	H=88	厚 0.5	<input checked="" type="checkbox"/> 屋根 <input type="checkbox"/>		
特殊デッキプレート (JIS G 3352)	型式	厚	<input type="checkbox"/> 床板 <input type="checkbox"/> 屋根	<input type="checkbox"/>	
デッキプレート (JIS G 3352)	型式	厚	<input type="checkbox"/> 床板 <input type="checkbox"/> 屋根	<input type="checkbox"/>	
キーストンプレート (JIS G 3352)	型式	厚	<input type="checkbox"/> 床板 <input type="checkbox"/> 屋根	<input type="checkbox"/>	

適用は 印を記入する。

3. 地盤

(1) 地盤調査資料 有 (□敷地内 近隣) 無 (調査計画 有 無)

調査項目	資料あり	調査計画	調査項目	資料あり	調査計画	調査項目	資料あり	調査計画
ボーリング調査	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	静的貫入試験	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	標準貫入試験	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
水平地盤反力係数の測定	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	土質試験	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	物理探査	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
圧縮率 (支持層の確認)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	平板載荷試験	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	液状化判定	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
スクエーデンパサウンディング	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	現場透水試験	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	PS検査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

注) 上記表中の資料が有るものに○印を記入する。

(2) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)
注) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

○調査地番 川越市宮下1丁目19番地13

○位置図

○支持地盤、地層及び深さについてのコメント
-1.5m付近に層厚0.90mの腐植土あり

○孔内水位 GL - 1.20 m

○近隣データの調査地番と設計地番とは約16mの距離がある

○備考
現地ボーリング柱状図は構造図 (S3-07、S3-08) 参照

4. 地業工事

- (1) 直接基礎 ※深層混合処理工法による地盤改良工用
ベタ基礎 布基礎 独立基礎 試験掘 有 無 ※深層混合処理工法の試験掘工有り
深さ GL - 0.700 m (地盤改良上捨てコン天端) 支持層 一 砂 層 ※深層混合処理工法先端
長期許容支持力 60 kN/m² ※地盤改良部 載荷試験 有 無
地盤改良仕様 施工計画書承認 地盤改良施工結果報告書
注) 「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」; 日本建築センター2002」を参考とする
- (2) 杭基礎 支持層: 層
- | 杭種類 | 材料 | 施工法 | 備考 |
|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PRC | PRC (□I種 □II種 □III種) | <input type="checkbox"/> 打ち込み (プレボーリング) <input type="checkbox"/> 埋込み (拡大掘削工法) | 大臣認定第 号
第 号 |
| <input type="checkbox"/> PHC <input type="checkbox"/> H鋼 | PHC (□A種 □B種 □C種) | <input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 摩擦杭 | 第 号
第 号 |
| <input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 摩擦杭 | 鋼材 □SS400 □SKK400 | <input type="checkbox"/> 中掘工法 | 代行業者名 (都知事登録 号) |
| <input type="checkbox"/> SC杭 <input type="checkbox"/> | □SKK490 | <input type="checkbox"/> | R 年 月 日 |
| <input type="checkbox"/> 場所打ちコンクリート杭 | コンクリート F _c N/mm ²
スランプ cm 以下
セメント量 kg/m ³
鉄筋主筋 SD
HOOP SD | □オルケーシング □拡大杭
□リブ・サーキュレーション
□アースドリル □ミニアース
□BH □深礎 □手掘
□機械掘 | 大臣認定第 号
日本建築センター認定
第 年 月 日
認定杭による |

杭仕様 施工計画書承認 杭施工結果報告書
試験杭 (□有・□無) (□打ち込み □載荷 □孔壁測定) 本
(試験杭位置は、監理者と協議し、決定すること)

杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項

(3) 砕石・その他				
地業厚さ (mm)	施工箇所	砕石	ポリスチレンフォーム	捨てコン
	土間コンクリート下	100	-	50

(3) 砕石・その他				
地業厚さ (mm)	施工箇所	砕石	ポリスチレンフォーム	捨てコン
	土間コンクリート下	100	-	50

5. 鉄筋コンクリート工事

- (1) コンクリート
- コンクリートは JIS A 5308 に適合する JIS 認証工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS 5 (2022) による。
 - 耐久設計基準強度 F_d □短期 (18) ●標準 (24) □長期 (30) □超長期 (36)
 - セメントは、JIS R 5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。
 - 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
 - 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
 - フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で (財) 国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真 (カラー) を保管し承認を得る。
 - 測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
 - 構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験方法は JASS 5T - 603 によることとし、供試体は現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。また、打ち込み量が 150 m³ を超える場合は 150 m³ ごとまたは、その端ごと一回を標準とする。
 - 一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。
 - ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が 25℃未満の場合は、150 分以内、25℃以上の場合は 120 分以内とする。
 - コンクリート打ち込み中及び打ち込み後5日間は、コンクリートの温度が2度を下らないようにする。
 - 乾燥、振動等によってコンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生を行う。

- (2) 鉄筋
- 鉄筋は JIS G 3112 の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、コンクリートと同様に、JASS 5 (2022) による。
 - 高強度せん断補強筋は、JIS G 3137 に規定される D 種 1号適合品とする。
 - 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは配筋標準図 (1) ~ (4) による。
 - 鉄筋継手等
- | 鉄筋継手工法 | 継手の位置等の設計条件による仕様・等級 | | | 鉄筋の径 | |
|------------------------------------------|---------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------------|
| | (1)引張力最少部位 | (2) (1)以外の部位 (注) | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手 | ●40d □35d □()d | A級 | B級 | S A級 | ●D (16) 以下
□D () 以上 |
| <input type="checkbox"/> 圧接継手 | □告示1463号第2項各号 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | □D () 以上 |
| <input type="checkbox"/> 溶接継手 | □告示1463号第3項各号 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | □D () 以上 |
| <input type="checkbox"/> 機械式継手 | □告示1463号第4項各号 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | □D () 以上 |
- 注) (1) 以外の部位にける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取組した継手工法の等級で、構造計算にあたって「鉄筋継手使用基準 (建築物の構造関係技術基準解説書2015, 2007)」によって換計した部位の条件・仕様によること。
注) A級継手を採用する場合は、監理者及び構造設計者と協議を行い決定すること。
- D 19 未満は、すべて重ね継手とする。
- 継手部分の施工要領は (社) 日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」(ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事) による。
- 継手部の検査方法:
外観検査 (全数) 有 無、引張試験 有 無、超音波探傷試験 有 無
※引張試験: 標準仕様書 5.4.10 (イ) (b) 【令和4年版】の記載の方法による
ガス圧接部分の検査を超音波探傷試験によって行う場合、最初の数ロットについては引張試験も併用し、1回の試験は 本以上とする。
(1ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所を200箇所程度とする。)
- 柱の帯筋 (HOOP) の加工方法は、H型 (タガ型) W型 (溶接型) S型 (スパイラル型) とする。
- コンクリート及び鉄筋の試験は、「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験・検査機関名 現場監理者と協議の上決定し、すみやかに報告する。
代行業者名 (都知事登録 号)
代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行する者という。
- (3) 型枠
●材料 合板厚 12mm を標準とする。 ●施工 JASS 5 による。
●型枠存置期間

種類 部位 在 置 間 の 気 温	せき板		支柱				
	基礎、はり割、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下				
コンクリート打設時	早強ポルトランドセメント A種 シリカセメント A種	普通ポルトランドセメント A種 シリカセメント A種	早強ポルトランドセメント A種 シリカセメント A種	普通ポルトランドセメント A種 シリカセメント A種	早強ポルトランドセメント A種 シリカセメント A種		
15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
5℃~15℃	3	5	6	10	12	25	28
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	5.0N/mm ²		設計基準強度の50%		設計基準強度の		
					85%		
					100%		

- 注) 1. 片持ち梁、庇、スパン9m以上の梁下は、工事監理者の指示による。
注) 2. 大梁の支柱の盛かえは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注) 3. 支柱の盛かえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注) 4. 盛かえ後の支柱頂部には、厚い受板・角材または、これに代わるものを置くこと。
注) 5. 支柱の盛かえは、小梁が終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛かえをしてはならない。
注) 6. 上表以外のセメントを使用する場合は、工事監理者の指示による。
注) 7. 直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱 (大梁の支柱を除く) の盛かえを行わないこと。
注) 8. 支柱の盛かえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらす恐れのある振動又は衝撃を与えないように行うこと。
- ※ 大版スラブ (35m程度以下) の型枠存置及び支柱盛かえは、工事監理者と協議の上、決定すること。

6. 鉄骨工事

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
- 日本建築学会「JASS 6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
 - (社) 日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
 - 鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」
- (2) 工事監理者の承認を必要とするもの
- 製作工場 製作要領書 工作図 施工計画書
 - 認定または登録工場 (大臣認定 R グレード) ●監督員の承諾する工場とする
 - 材料規格証明書※、または試験成績書
 - 鋼材 ●高力ボルト ●特殊ボルト □頭付スタッド
- ※(社) 日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
- 社内検査表 □
- (3) 工事監理者が行う検査項目 (●印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
- 現寸検査 □組立・開先検査 ●製品検査 ●建方検査 □
- (4) 接合部の溶接は下記によること
- 平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ
 - 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱
 - 日本建築学会「溶接作業標準、同解説 I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」
 - 日本建築学会「鉄骨工事技術指針 工事現場施工編」
- (5) 接合部の検査
- 溶接部の検査 (検査結果は後日、工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	
●完全溶込み溶接部 (突合せ溶接)	外観検査 (※)	100 % ●	30 % ●	承認 ● ●	※平成12年建設省告示第1464号第二号による (目視及び計測)
	超音波探傷検査	100 % ●	30 % ●	承認 ● ●	(注) 東京都の要綱に基づき必要となる建築物の場合に実施する
	内質検査 (注)	□硬さ試験	% 個	% 個	% 個
		□示温塗料塗布	% 個	% 個	% 個
		マクロ試験・その他	個	個	個
●隅肉溶接部	外観検査 (※)	100 % ●	— % 個	— % 個	

第三者検査機関名 CIW認定業者 (決定次第報告) (都知事登録 号)

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

注1) 現場溶接部については、原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと。
注2) 知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること。
●高力ボルトの検査 (検査結果は後日、工事監理者に報告すること)
軸力導入試験 □要 ●否 高力ボルトすべり係数試験 □要 ●否
●一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共同り等の異常が無いことを確認する。
●トルシヤ形高力ボルトは二次締め後、ピンチールが破断していることを確認する。
●高力ボルトの磨損の処理は、黒皮などを産金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリッドブラストによる処理で表面粗さが50S以上である場合は、赤さびは発生しないまで良い。
●高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。
(6) 防錆塗装
●防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
錆止めペイントは、□JIS K 5621, □JIS K 5625, □JIS K 5674, □ を使用して、4つ星 (477h²/h² 放射線量性能区分) 2回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
●現場における高力ボルト接合部及び接合部の薬品調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、2回塗りとする。
(7) 耐火被覆の材料
□

7. 設備関係

- 特記以外の貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
 - 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
 - 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし、管の間隔を管径の3倍以上かつ50mm以上を原則とする。
- 《建築設備の構造安全性確認》 ※該当する項目抜粋 (令第29条の2の3の事項)
- 建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとて、以下の構造方法による。(H12建設省告示第1388号) (改正1447号)
 - 建築設備 (昇降機を除く) の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽の恐れがある場合、有効なさび止め又は防腐のための措置を講ずること。(H12建設省告示第138

柱脚工法設計施工標準

2025/3

大臣認定
BCJ評定
MSTL-0566, 0404, 0180 (Gタイプ用ベースプレート)
MBLT-0042~0044, 0046, 0231 (アンカー用ボルトセット)
BGJ評定-ST0058 (Gタイプ)
BCJ評定-ST0059 (エコタイプ、高強度柱適用タイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書 同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、および設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質

(1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板
エコタイプ (EB型式、EM型式、EH型式)、高強度柱適用タイプ (KB型式)

規格	ベースプレート	アンカーボルト	エコナット	ナット	座金	定着板
ねじの種類	JIS G3136 又は TMCP鋼	HAB (大臣認定取得材)	大臣認定取得材	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
備考	板厚40mm以下の場合 SN490B 板厚40mm超の場合 TMCP325B, C	TMCP385B, C	降伏比 7.0%以下	-	強度区分5	SM490A SS400

エコタイプ、高強度柱適用タイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

Gタイプ (GB型式、GM型式、GH型式)

規格	ベースプレート	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
ねじの種類	HCW490B, HCW490S (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
備考	SN490B同等	降伏比 7.0%以下	強度区分5 (二重ナット時) 強度区分6 (一重ナット時)	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定 (MSTL-0566, 0404, 0180) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042~0044, 0046, 0231)
※3 M72は細目ねじ ※4 建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

(2) ベースプレート下面のモルタル

後詰めモルタル 柱脚工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮モルタル ※メーカーが供給するものに限る

中心塗部分モルタル ○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX-2000及びクイック3は使用不可。) ○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

(3) 基礎・基礎ばり

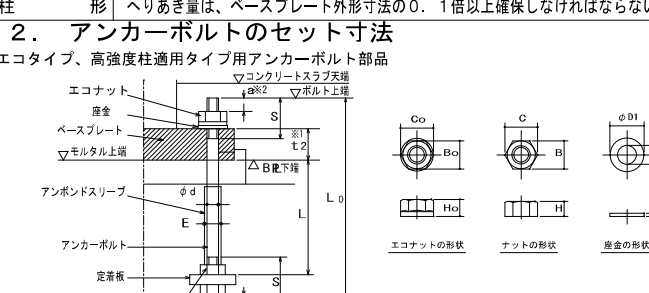
コンクリート ○日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート ○設計基準強度は、 $F_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$

鉄筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼

柱形 べりあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

2. アンカーボルトのセット寸法

エコタイプ、高強度柱適用タイプ用アンカーボルト部品



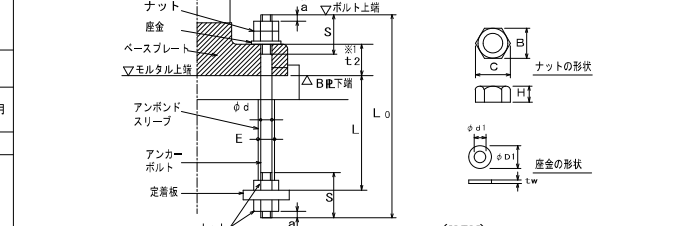
ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		エコナット		ナット		座金							
	軸径	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	高さ	高さ	厚さ	内径						
M24	24	3	95	10	400	550	29	22	46	53	19	36	42	6	25	56
M30	30	3.5	130	13	400	580	35	27	50	58	24	46	53	6	31	60
M36	36	4	130	16	400	600	41	33	55	64	29	55	64	6	37	66
M42	42	4.5	155	18	400	690	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78
M48	48	5	175	22	960	1270	54	38	75	87	9	50	92			
M56	56	5.5	185	24	1120	1470	62	45	85	98	9	58	105			
M64	64	6	200	28	1280	1680	70	51	95	110	12	66	115			
M72	72	6	250	30	1440	1850	79	58	105	121	12	74	125			

※1 t₂ はベースプレート台座厚さを示し、柱脚工法の型式によって変わります。
※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。
※3 表中のエコタイプ上段はEB、EM型式のアンカーボルト4本タイプ、エコタイプ下段はEB、EM型式のアンカーボルト8本、12本タイプ及びEHタイプの場合の寸法です。

注意

- エコタイプ、高強度柱適用タイプのアンカーボルトはシングルナットとしておりますので、ゆるみ止め措置としてコンクリートスラブで被覆してください。
- コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め措置が必要です。その場合、せん断耐力が変わる可能性がありますのでメーカーにご相談ください。
- アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

Gタイプ用アンカーボルト部品



ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		ナット		座金						
	軸径	長さ	長さ	長さ	長さ	高さ	高さ	厚さ					
M24	24	3	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44
M30	30	3.5	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56
M36	36	4	130	16	720	925	41	29	55	64	6	37	66
M42	42	4.5	155	18	840	1090	48	34	65	75	9	43	78
M48	48	5	175	22	960	1270	54	38	75	87	9	50	92
M56	56	5.5	185	24	1120	1470	62	45	85	98	9	58	105
M64	64	6	200	28	1280	1680	70	51	95	110	12	66	115
M72	72	6	250	30	1440	1850	79	58	105	121	12	74	125

※1 t₂ はベースプレート台座厚さを示し、柱脚工法の型式によって変わります。
※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。
※3 上段はGB型式及びGM型式の場合、下段はGH型式の場合の寸法です。

注意

- Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
- 一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め措置が必要です。(一重ナットとする場合は、メーカーにご相談ください。)

ベースプレートのアンカーボルト孔径 (mm)

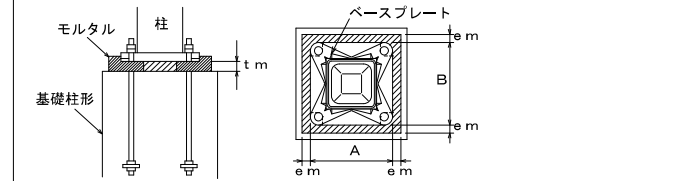
ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72
エコタイプ	38	44	50	57	-	-	-	-
高強度柱適用タイプ	-	-	-	-	-	-	-	-
Gタイプ孔径	-	38	45	53	61	70	79	87

定着板 (エコタイプ、高強度柱適用タイプ、Gタイプ共通)



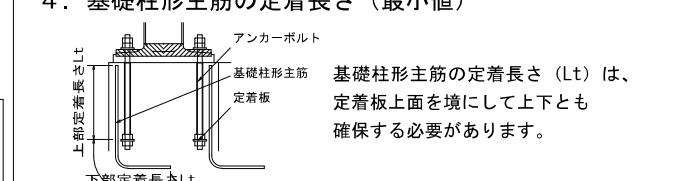
ベースプレートの形状・寸法は、柱脚工法設計ハンドブックを参照ください。

3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各部名称	寸法	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ (t)	標準寸法 t=50mm	許容範囲 30 ≤ t ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅 (e)	e ≥ 30mm	許容範囲 e ≥ 25mm

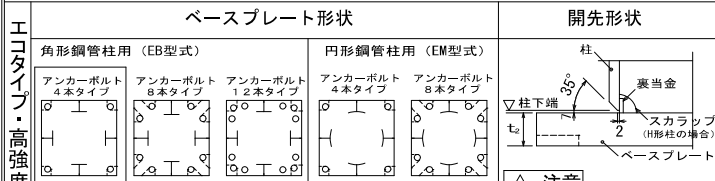
4. 基礎柱形主筋の定着長さ (最小値)



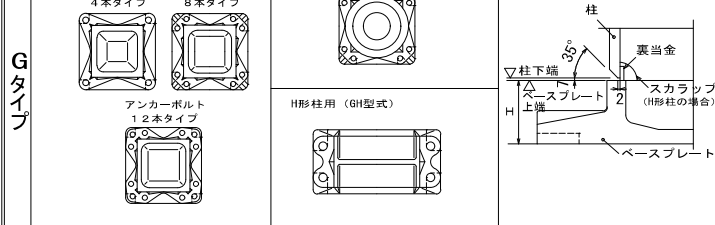
基礎柱形主筋の定着長さ (Lt) は、定着板上面を境にして上下とも確保する必要があります。

工場加工

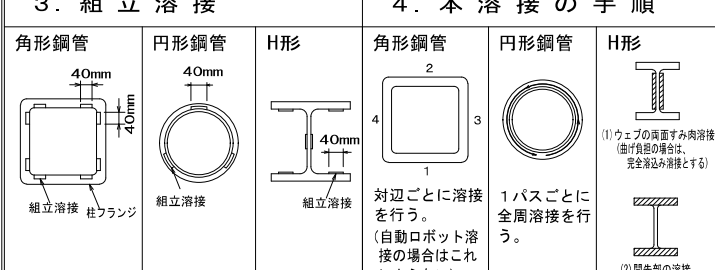
- 溶接材料
 - 被覆アーク溶接 JIS Z 3211 (旧JIS Z 3212) に従い選定する (低水素系)
 - ガスシールドアーク溶接 JIS Z 3312 又は JIS Z 3313 に従い選定する
 - ※ベースプレートと柱のF値が異なる場合は、JASS6や各材質毎に定められた指針に従い溶接材料を選定する。
- ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)
 - ※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
 - 開先はMC-T L-1 B、GC-T L-1 Bによる ※開先形状は参考



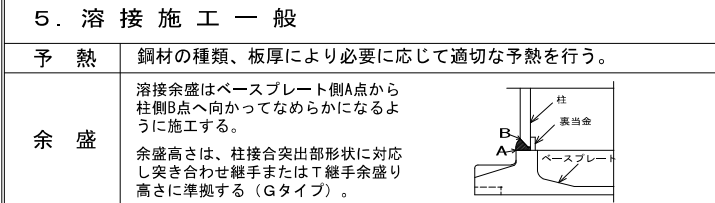
注意 柱はベースプレートのフラット面に取付けてください。アンカーボルト孔周辺に凹加工している面はベースプレート裏面であり、無収縮モルタルと接する面となります。



3. 組立溶接



4. 本溶接の手順

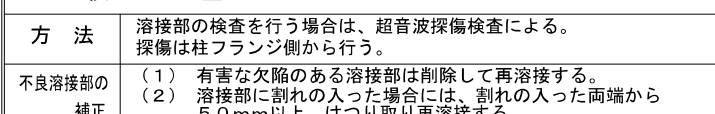


5. 溶接施工一般

予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。

余盛 溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかなように施工する。余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはT継手余盛り高さに準拠する (Gタイプ)。

H形柱の溶接



注意 柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱変形によって曲ることがあります。

6. 検査

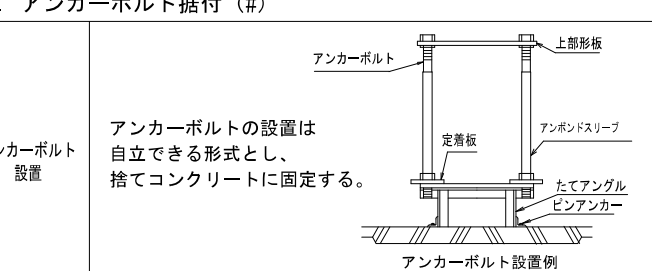
方法 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。探傷は柱フランジ側から行う。

不良溶接部の補正 (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。(2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

現場施工

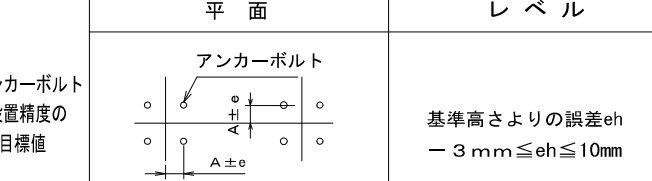
(#) : メーカーの担当範囲

- 捨てコンクリート打設
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
- 墨出し
- アンカーボルト搬入 (#)
- アンカーボルト据付 (#)



アンカーボルトの設置は自立できる形式とし、捨てコンクリートに固定する。

アンカーボルト設置精度の目標値



基準高さよりの誤差 eh - 3mm ≤ eh ≤ 10mm

5. 鉄筋筋・型枠の立込み

6. 基礎コンクリート打設

基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。

7. 中心塗り部分モルタル施工

ベースプレート 中心塗り部分モルタル NX-2000、クイック3は使用不可。

後詰めモルタル 柱脚工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3 およびこれと同等以上の無収縮モルタル ※メーカーが供給するものに限る

(イ) □ 250以下、φ 267.4以下、H 250以下の場合 100mm ≤ a ≤ 200mm かつ柱寸法 D以下

(ロ) □ 300以上□ 700以下、φ 300以上φ 711.2以下、および H 250以上の場合 150mm ≤ a ≤ 300mm かつ柱寸法 D以下

(ハ) □ 750~□ 1200、φ 750~φ 1016の場合 300mm ≤ a ≤ 500mm

中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生 基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

8. 鉄骨建方

アンカーボルト締付 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。

9. モルタル注入枠設置 (#)

後詰めモルタル充填 (#)

10. アンカーボルト締付 (#)

予備締め マーキング ナット回転法による本締め (30°回転、許容差: +10° -0)

11. モルタル注入枠取り外し

施工完了後、柱脚工法のチェックシートに工事記録を記載する。

注意

- アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、メーカーが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)
- アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
- 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちすぎやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。
- 建て入れ直しのワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
- 本資料以外の施工方法で行った場合、柱脚工法の性能が発揮できなくなります。

※ハイベースNEO工法同等とする。

地盤改良特記仕様書

1. 工事概要

本地業は、スラリー系機械攪拌式深層混合処理工法による地盤改良である。本工法は、スラリー状のセメント系固化材（以下、固化材スラリーと称す）を地盤に注入しながら、指定の掘削攪拌装置を用いて、固化材スラリーと原地盤土とを機械的に混合攪拌し、固化材の固化反応により所要の強度をもつ改良柱体（以下、コラムと称す）を築造するものである。

2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか「2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（日本建築センター）、「くし兵衛工法 技術指針」および準拠する指針類（日本建築総合試験所 GBRC 性能証明 第13-03号 改2）同等による。

3. 特記事項

- (1) コラム径、掘削深度（空堀長＋設計コラム長）、本数配置等は設計図書による。ただし、コラム径、長さ、本数、位置及び固化材スラリーの配合等について、土質や地盤状況により変更が適切と判断される場合は、監督員の承諾の下に変更することができる。
- (2) コラム設計基準強度は、 $F_c = \underline{\hspace{1cm}700\hspace{1cm}}$ kN/m² とする。
- (3) 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理および品質管理を実施する。

4. 施工計画

- (1) 本地盤改良工事施工業者は、本工法の施工技術に精通したもので、基礎地盤研究会に所属する会員とする。

(2) 施工計画書

工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

- | | |
|----------------------------------------------------------|----------------------|
| ① 工事件名及び工事場所 | ⑥ 施工機械 |
| ② コラム仕様及び数量
(コラム径、掘削深度、本数、設計基準強度) | ⑦ 固化材配合条件 |
| ③ 工事期間及び工程 | ⑧ 施工管理(立会、管理項目、施工記録) |
| ④ 工事の組織
(工事受注者の本工事責任者、地盤改良施工業者
名及び責任者、各種作業の主たる従事者) | ⑨ 品質検査 |
| ⑤ 施工手順 | ⑩ 安全衛生対策 |
| | ⑪ 地盤概要(土質柱状図) |
| | ⑫ コラム伏図 |
| | ⑬ 建築技術性能証明書(写) |

5. 施工

- (1) 作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないように必要に応じて養生する。
- (2) 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害となる事象が発生した場合は、別途協議する。
 - a. 掘削攪拌装置をコラム芯に合わせる。
 - b. 固化材スラリーを吐出せずに、空堀部を所定の深度まで掘削する。
 - c. 固化材スラリーを吐出しながら掘削・混合攪拌する。
 - d. 吐出・混合攪拌が終了したら、固化材スラリーの吐出を終了し、先端部の練り返しを行う。
 - e. 先端部の練り返しが終了したら、攪拌軸を逆回転しながら、引上・混合攪拌を行う。
- (3) 本工事により排出される発生残土は、監督員と協議の上、適切に処分する。

6. 施工機械

- (1) 共回り現象を防止する機構を有し、固化材スラリーと原地盤土を確実に混合攪拌できる指定の攪拌装置を用いる。
- (2) 所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いる。
- (3) 施工機械本体は、本地盤改良工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。
- (4) ミキシングプラントは、所定吐出量を十分に供給できるものとする。

7. 配合管理

- (1) 固化材スラリーに使用する材料は、セメント系固化材とする。
- (2) 配合計画
固化材配合量と固化材スラリーの水固材比(W/C)は、技術指針に則って室内配合試験結果により決定する。

8. 施工管理

- (1) 施工の安定性を確保するために、下記に示す項目について管理する。

- | | | |
|---------|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| ① 形状・寸法 | : 掘削攪拌翼径
コラム芯
鉛直性
掘削深度 | 掘削攪拌装置の形状・寸法を記録する。
事前にコラム芯にマークを設ける。
施工機械本体の傾斜計で管理する。
深度計で計測し、記録する。 |
| ② 固化材 | : 材料計量
固化材スラリーの密度
固化材の配合量 | 固化材、水の重量を計測する。
スラリー比重を比重計で計測し、記録する。
吐出量から実配合量を算定し、記録する。 |
| ③ 混合攪拌度 | : 羽根切り回数 | 深度計、速度計、回転計から指定回数(500回/m)以上を確保する。 |
| ④ 支持地盤 | : 深度、トルクまたは電流値 | 試験打設を行い、管理する。
(着底時の判断は、試験打設時の値を用いて、実施する。) |

- (2) コラムの芯ずれ

コラムの芯ずれが許容値を超えた場合には、監督員と協議して適切に対応する。

- (3) 施工の立会

建築工事の受注者は、本工事責任者及び施工責任者を定め、両者は本地盤改良工事の施工中は立ち会うものとする。

9. 品質検査

- (1) 検査対象群、検査対象層及び調査箇所数

- ① 検査対象群はコラム50本を1単位とし、土層毎に検査対象層を定める。
- ② 品質検査は、7日材齢によるモールドコア法によることを原則とする。
- ③ 1箇所あたりは3個の供試体を採用する。
- ④ 設計対象層を検査対象層と定め、調査箇所数は、下表のとおりとする。
検査対象層は、深部 の 腐植土 層である。

検査対象層	検査対象層が頭部にある場合	検査対象層が深部にある場合
頭部	3箇所 ¹⁾	3箇所 ¹⁾
深部	1箇所 ^{1),2)}	1箇所 ¹⁾

¹⁾ 1現場のコラム数が50本を超える場合には、50本に1箇所を追加する。

²⁾ コラム長≤3.0m、対象層が単一層と判断される場合には、深部試料の採取は省略できる。

- (2) 可否の判定

- ① 可否の判定は、7日材齢によるモールドコアの一軸圧縮強さが設計基準強度を上回るものとする。
- ② 品質検査は、検査対象群、検査対象層ごとに判定するものとする。
- ③ 検査手法は、検査手法Aによるものとする。
合格の判定は、検査対象群、検査対象層ごとの一軸圧縮強さの最小値が下式を満足すれば合格とする。

$$\min(X_i) \geq F_c$$

X_i : 各検査対象群、検査対象層の個々の7日材齢による一軸圧縮強さ (kN/m²)
 F_c : 設計基準強度 (kN/m²)

10. 報告

工事完了後、次の事項について報告書にまとめて提出する。

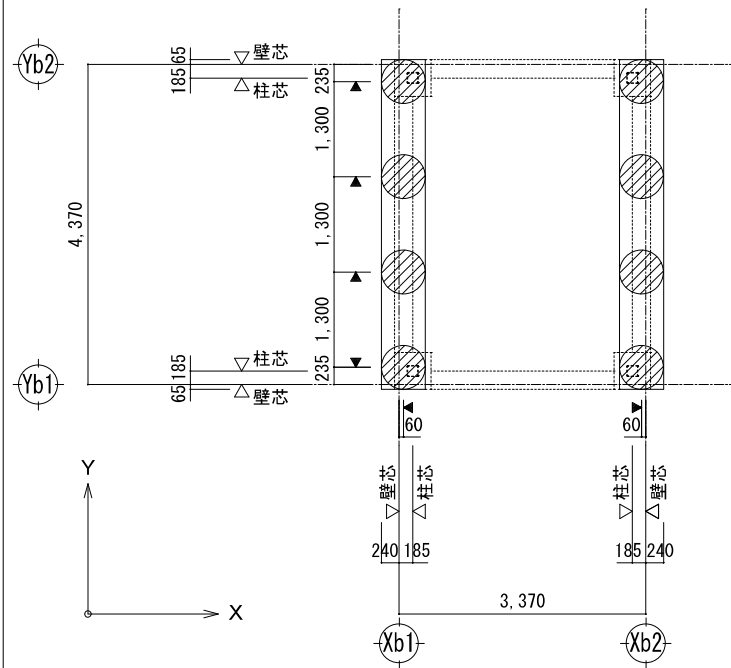
- | | |
|--------------|-------------------|
| ① コラム伏図及び番号 | ④ 施工管理項目に対する実施工結果 |
| ② 施工日 | ⑤ モールドコアの一軸圧縮試験結果 |
| ③ コラム径及びコラム長 | ⑥ 合格判定結果 |

11. その他

環境への配慮が懸念される場合には、六価クロム溶出低減型の固化材を用いるか、施工前または施工後に六価クロム溶出試験を実施する。

試験の方法は、「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領(案)」（平成13年4月20日付国官技第16号国官建第1号）による。

記 事		Architects Firm <i>Studio YOU</i> 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (1) 第12121号 一級建築士 第342763号 藤山智昭	工事名称	川越市みよしの支援センター改築等工事	作成年月日 2025.12.04	図面番号 S2-04
			図面名称	[新倉庫棟] 地盤改良特記仕様書	縮尺 1/100(A1) 1/100(A3)	



柱状改良伏図 S=1/100

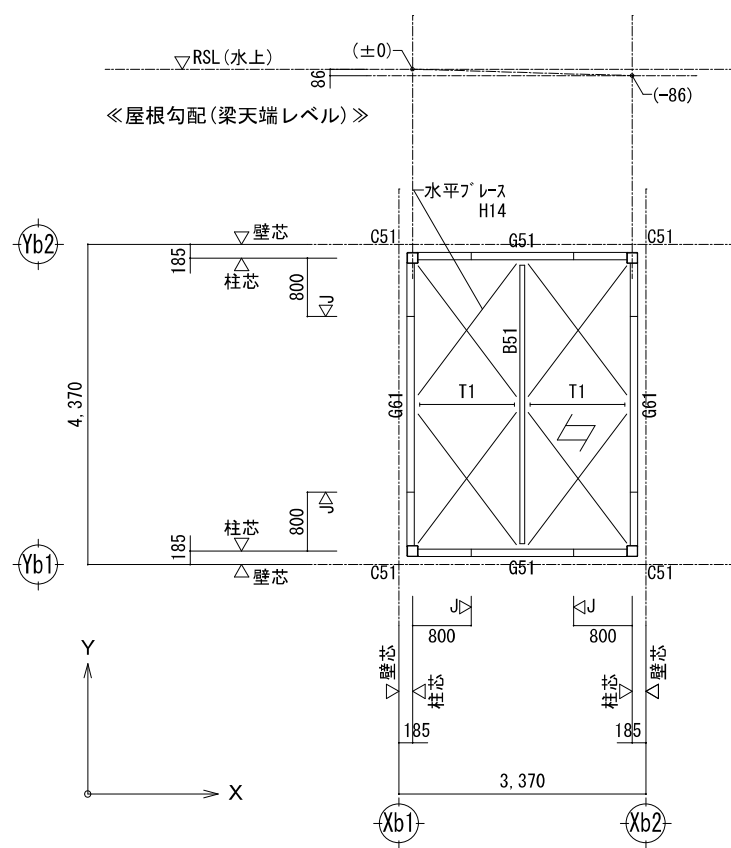
- 特記なき限り下記による
- 1FL=設計GL (SGL)+100 [SGL H=+0.02m]
 - ▼印は柱状改良芯を示す。
 - 柱状改良天端；図示による。
※柱状改良上部に捨てコンt=50を設ける。

<柱状改良仕様>

- 改良径；φ600mm
- 改良深度；設計GL-5.3m
- 改良天端；設計GL-0.75m
- 改良長；L=4.55m
- 改良本数；8本
- 総掘削長；42.40m
- 総改良長；36.40m
- 設計地耐力；60kN/m²
- 設計基準強度；F_c=700kN/m²
- 支持形式；先端支持

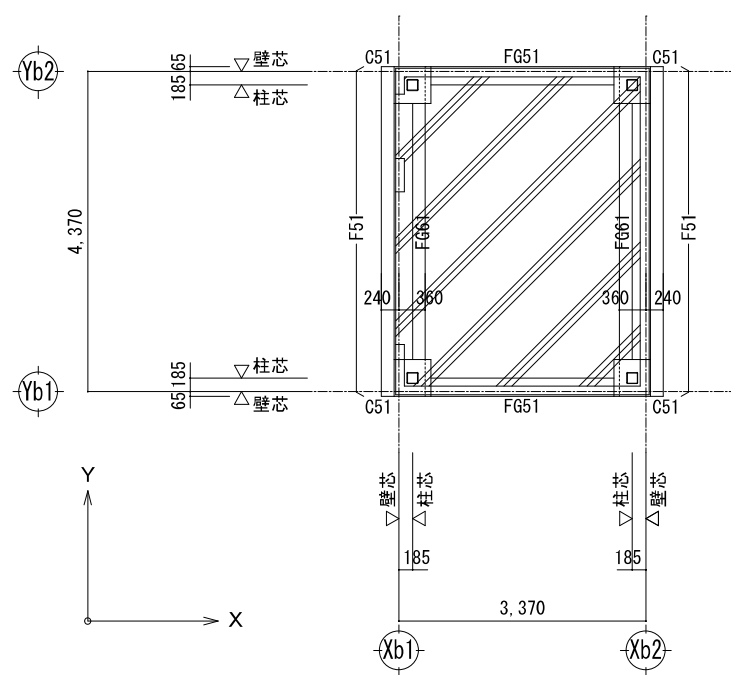
注記) ※規定深度で浅で高止まりする場合は、試験施工で得られた打ち止め管理値を参考に、打ち止めを判断する。
※固化材添加量は、事前室内配合試験結果にて決定する。

凡 例； 改良径 600φ、改良天端 SGL-0.75m



R階伏図 S=1/100

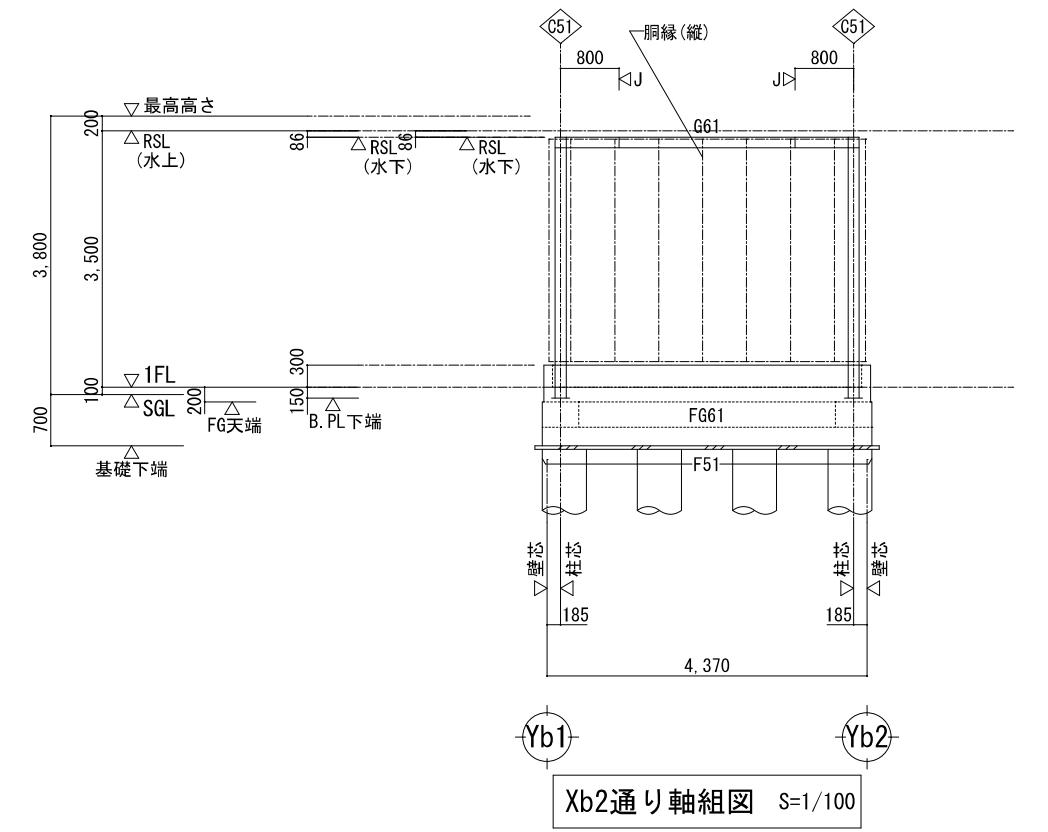
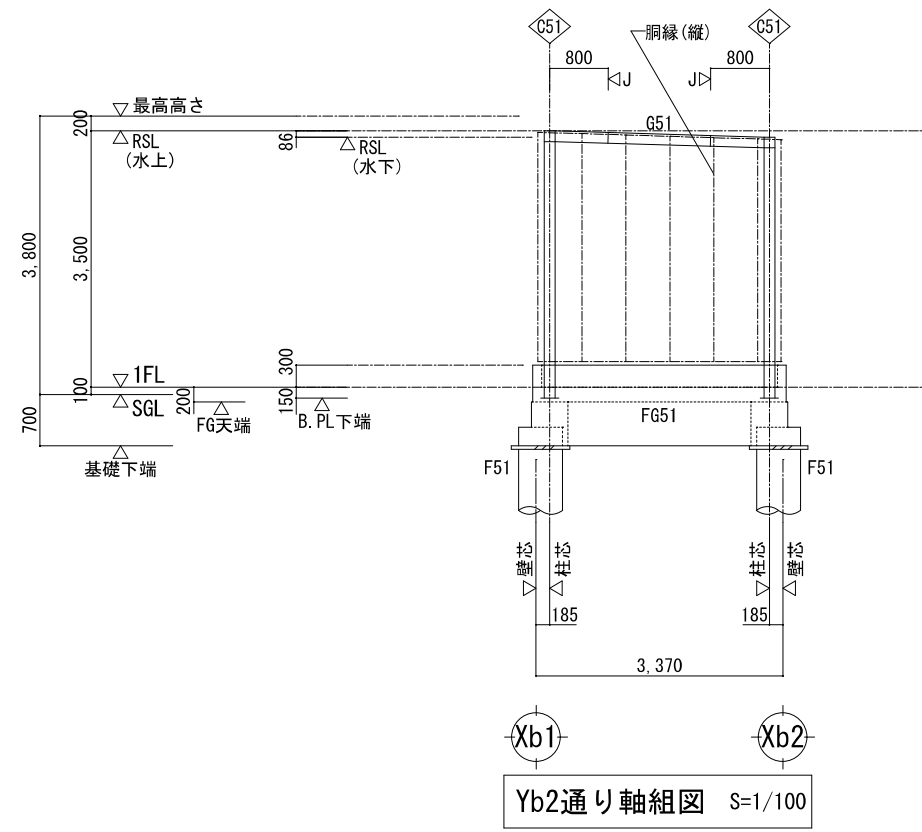
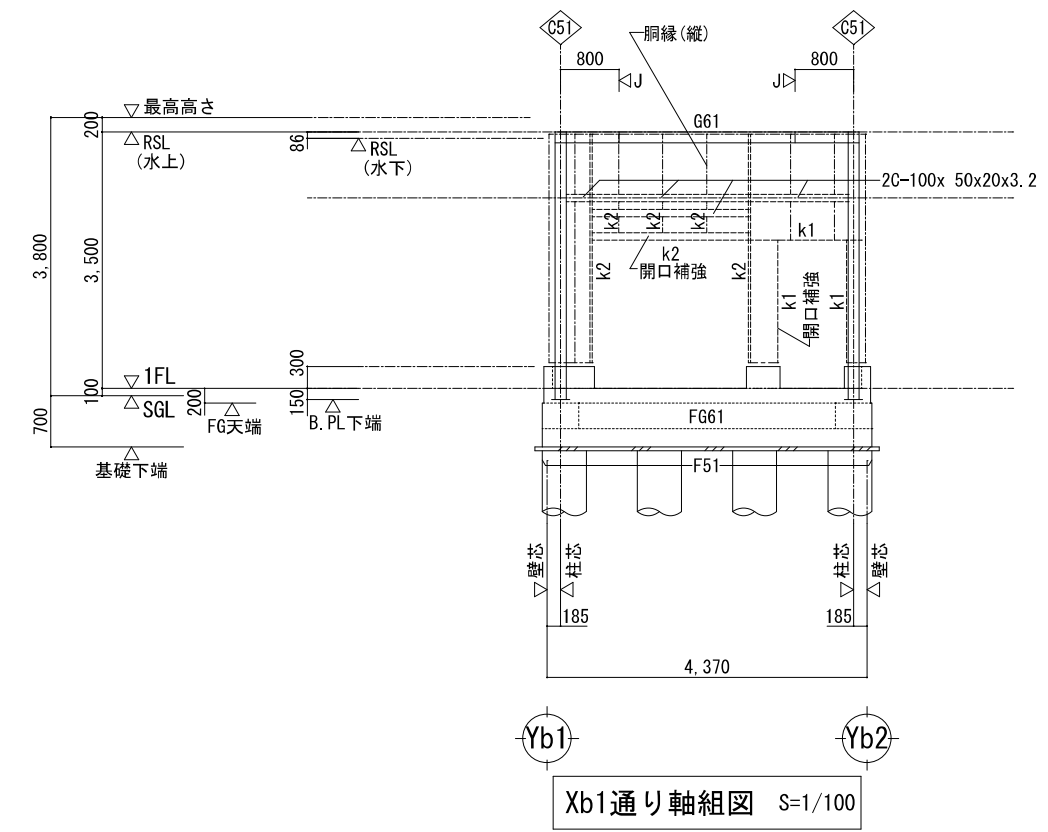
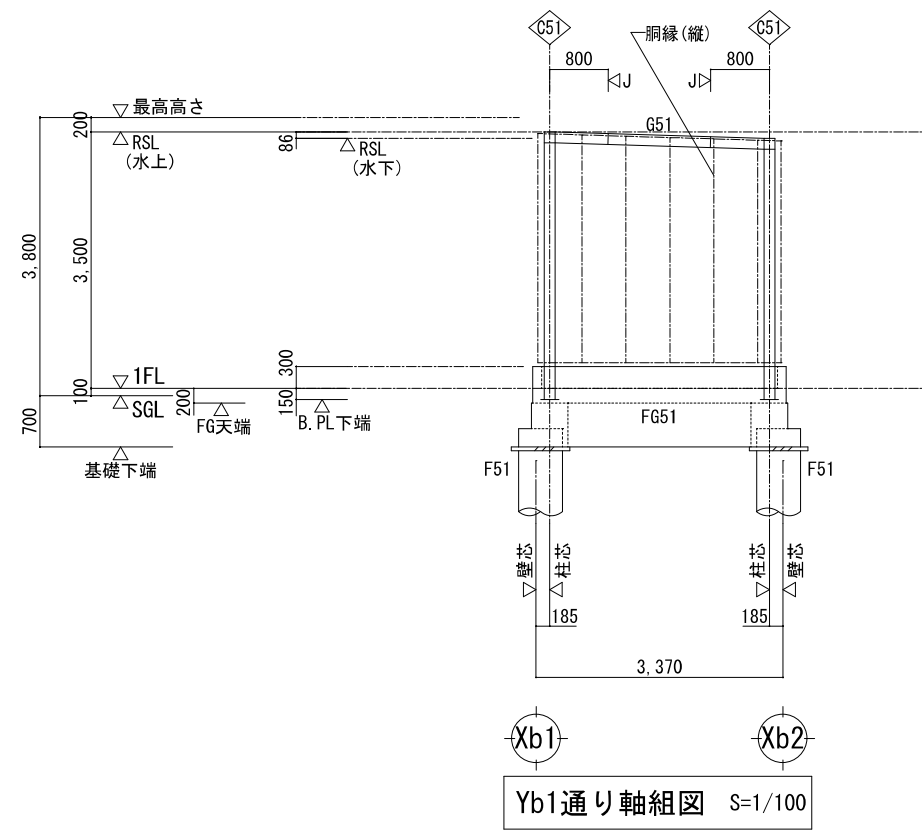
- 特記なき限り下記による
- 基準レベル；RSL (水上鉄骨天端)=1FL+3,500
 - 梁天端；屋根勾配による。
()内は、RSL (水上)からの梁天端寸法を示す。
 - 梁JOINT位置は柱芯から800とする。
◁Jは梁JOINT位置を示す。
 - T1材取付レベルは、取付く梁天端-50mmとする。
 - 屋根材；折板 t=0.5 h=88
印は折板敷方向を示す。
 - 折板タイトフレーム受の小梁レベルは取付く大梁天端+50mmとする。
(各大梁天端にタイトフレーム受 C-100x50x20x2.3[横使い]を設ける)
(妻側タイトフレーム受 C-100x50x20x3.2@900以下[横使い]を設ける)
 - 水平ブレース；H14 (折板屋根面)
(各梁ウェブ芯を結び接合すること)



基礎・1階伏図 S=1/100

- 特記なき限り下記による
- 1FL=設計GL (SGL)+100 [SGL H=+0.02m]
 - 各通芯=壁芯
布基礎フチング芯=基礎梁芯
 - 布基礎フチング下端；1FL-800[SGL-700]
 - 基礎梁 (FG)、礎柱天端；1FL-200[SGL-100]
()内は、1FLからの基礎梁天端寸法を示す。
 - 柱脚B. PL下端；1FL-150[SGL-50]
 - 印は土間コンクリート (厚150)を示す。
土間コンクリート天端 1FL±0[SGL+100], 縦・横筋共 D10@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙ)
※土間コン下は十分な転圧を行うよう注意する。
 - 印は増打ちを示す。
(基礎梁天端は土間コン天端までの増打ちを標準とする。)
 - RC腰壁；t=120, h=1FL+300[縦D13@200(シングル), 横D10@200(シングル)]

Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9048号
一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
(構造設計一級建築士 第 815号)



軸組図 共通事項

- 特記なき限り下記による
- 1FL=設計GL (SGL)+100 [SGL H=+0.02m]
 - 基礎梁・礎柱天端: 1FL-200 [SGL-100]
 - B.PL下端: 1FL-150 [SGL-50]
 - 鉄骨梁天端 水勾配 (図示) による
 - 外壁: 窯業系サイディング t=16 (横貼)
 - 胴縁(縦): C-100x50x20x2.3@606
G.PL-4.5 4T (中ホルト) 1x2-M12
JOINT部: 2C-100x50x20x2.3
G.PL-4.5 4T (中ホルト) 1x2-M12
 - 腰壁: t=120, h=1FL+300
(縦筋: D10@150シツクℓ, 横筋: D10@150シツクℓ)

Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9048号
一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
(構造設計一級建築士 第 815号)

鉄骨柱リスト

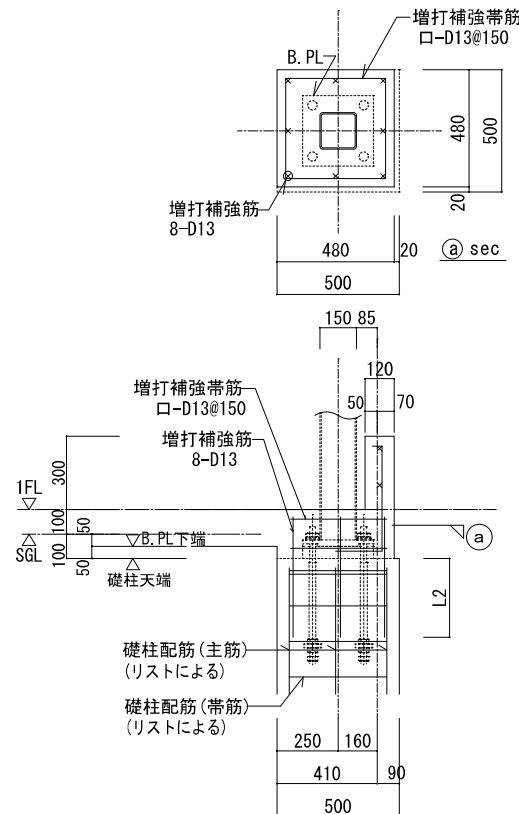
A1:S=1/15, A3:S=1/30

特記なき限り下記による

- 鉄骨材質：主材 STKR400、ボルト HTB F10T・中ボルト 4T
- <>内は各柱の有効細長比の最大値を示す。

符号	C 5 1
1 階	□-150×150× 6 < 73.5>
G. PL, BOLT	—
柱 脚	通しタイヤラム：PL-16 (SN490C)
ベースプレート	PL-25×290×290 (SN490B)
アンカーボルト	4-M24 (HAB) L=400
柱 型 (礎柱)	
立上り筋	8-D16 (SD295) ※ 頂部フック無
フープ筋	□-D13@150 (SD295)
備 考	TOP HOOP □-D13 (礎柱天端・二重巻)

柱脚廻り増打部配筋詳細図



大梁リスト

・鉄骨材質：SS400、H.T.B.；F10T
・各部材のピン接合の仕様については梁JOINTリスト備考欄「ピン接合」参照。

階	符号	R G 5 1	R G 6 1
R 階	全断面	H -148x100x 6x 9	全断面 H -148x100x 6x 9

梁JOINTリスト

・鉄骨種別はSS400、H.T.B.はF10Tとする。

部材 (中央断面)	TYPE	HTB	FLANGE			WEB			備 考
			nf	SPL-(1)	SPL-(2)	nw	g2	SPL-(3)	
H -148x100x 6x 9	A	M16	4	SPL-16x100x290	—	1×2	60	2SPL- 6x 80x290	ピン接合：G.PL- 6 HTB 2-M16

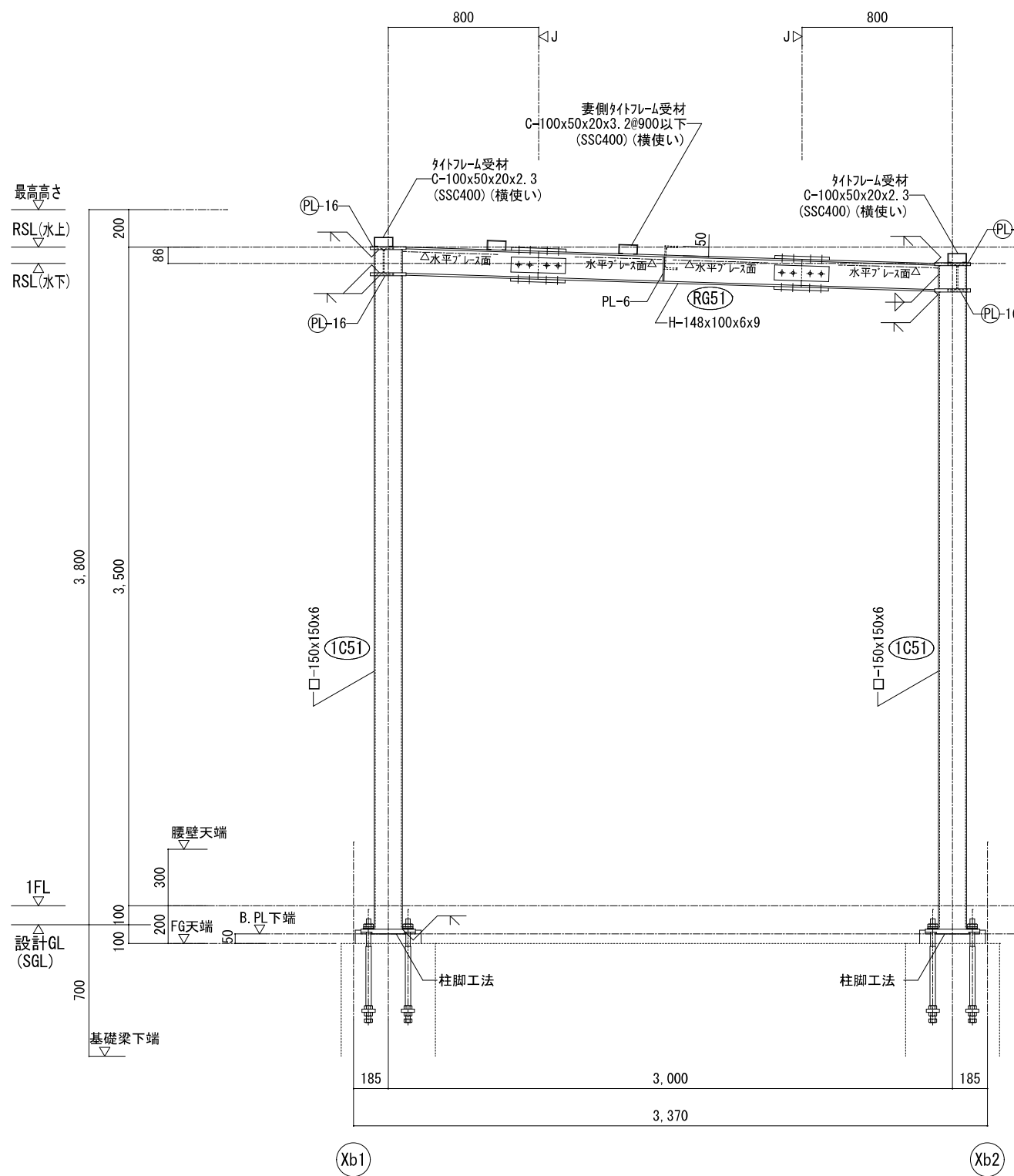
TYPE A		TYPE B	

鉄骨部材リスト

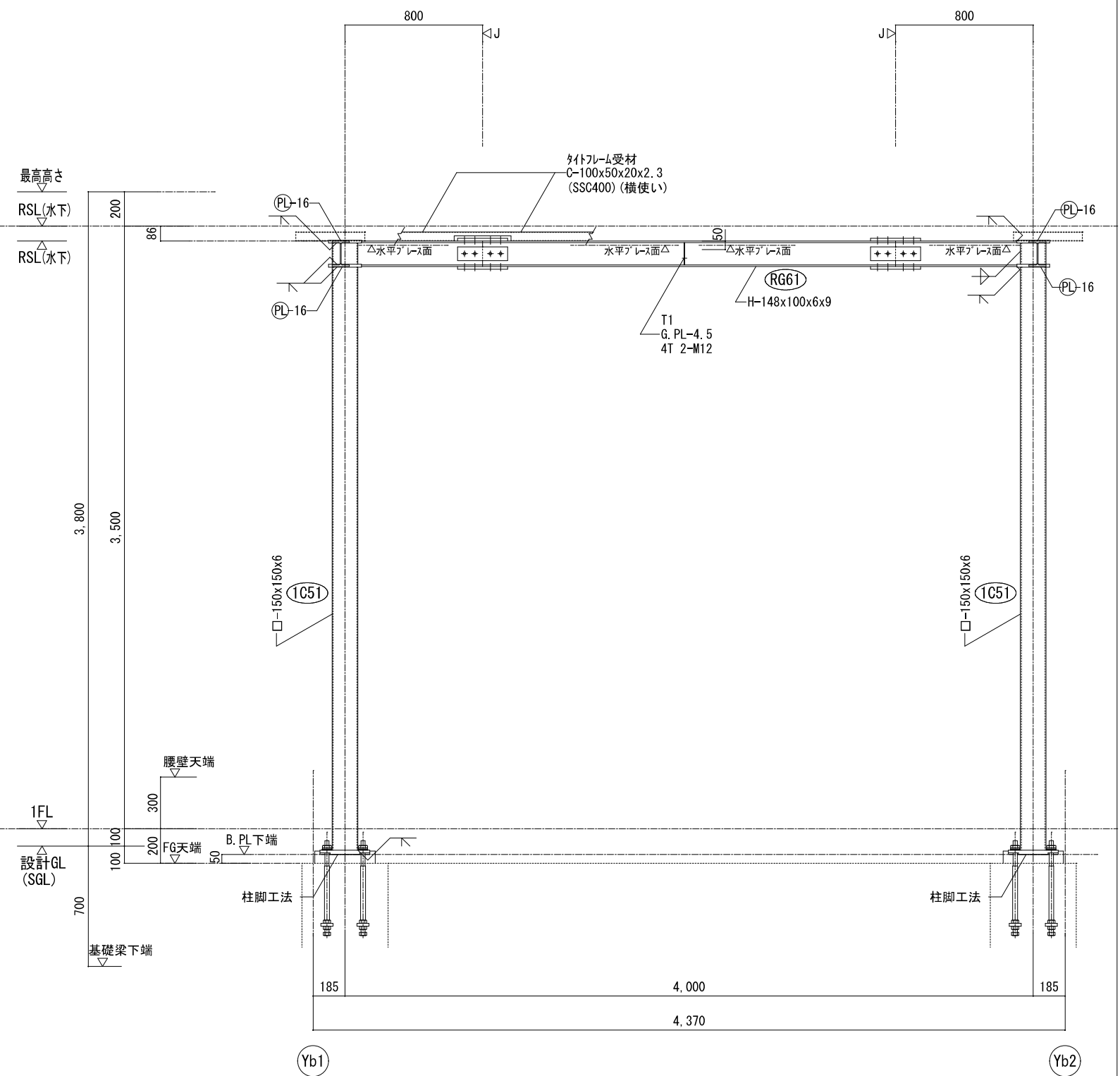
・鉄骨種別はSS400・SSC400、中ボルトは4T、H.T.B.はF10Tとする。

符号	部 材	WEB			備 考
		中ボルト	nw	G. R.	
B51	[-125x 65x 6x 8 (SS400)	M16 (HTB)	1×2	PL- 6	
T1	C -100x 50x20x3.2 (SSC400)	M12	1×2	PL-4.5	ツナギ材
H14	1-M14 (T. B付)	M16 (HTB)	1	PL-6	屋根水平ブレース ※JIS適合品とする
k1	C -100x 50x20x3.2 (SSC400)	M12	1×2	PL-4.5	開口補強材
k2	2C-100x 50x20x3.2 (SSC400)	M12	1×2	PL-4.5	開口補強材
胴縁(縦)	C -100x 50x20x2.3 @606	M12	1×2	PL-4.5 (SSC400)	

Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9048号
一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
(構造設計一級建築士 第 815号)



(Yb1) 通り鉄骨詳細図 縮尺=1/30



(Yb2) 通り鉄骨詳細図 縮尺=1/30

特記なき限り
 1. 鉄骨材質
 柱(角型鋼管) : STKR400、梁 : SS400、胴縁(縦) : SSC400
 各プレート等・水平ブレース : SS400、○印 : SN490C
 高力ボルト : F10T・S10T、中ボルト : 4T

Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)

記 事		Architects P12 Atelier YOU 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (1) 第12121号 一級建築士 第342763号 藤山智昭	工事名称	川越市みよしの支援センター改築等工事	作成年月日	2025.12.04	図 番 号 S2-09
			図面名称	[新倉庫棟] 鉄骨詳細図	縮 尺 1/30(A3)		

構造関係共通図（配筋標準図）

総則

- 適用範囲
 - 本構造関係共通図は鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立の一般的な標準図とする。
 - 本構造関係共通図以外については、設計図及び監督員の指示による。
- 用語の定義
 - 設計図とは、建築構造図のうち特記仕様書（構造関係）、構造関係共通図以外の図面をいう。
 - 異形鉄筋の径（本文、図、表において「d」で示す。）は、呼び名に用いた数値とする。
 - 長さ、厚さの単位は、特記なき限りmmとする。
- 優先順位
 - 設計図書の内容のうち配筋法に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
 - 特記仕様書（構造関係）
 - 図面
 - 2-1 設計図
 - 2-2 構造関係共通図（配筋標準図）
 - 国土交通省大田官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和7年版）」

- 記号
 - 図面で使用される記号等は、表A～表Dを標準とする。

表A 異形鉄筋の断面表示記号

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築		●	×	◇	●	○	◎	⊗	⊙

表B 各階伏図における記号

記号	説明	記号	説明
S [〃]	スラブの配筋種別	⊕	杭の位置
◇	スラブ厚さ	+	試験杭の位置
○	階段の配筋種別	▨	打増しの範囲
⊙	土間コンクリート	⊠	スラブ開口
▨	コンクリートブロック壁（CB壁）	⊕	ホーリング位置
▨	梁・スラブの上がり下がり範囲	(±)	FLからの上がり下がり
EW○○	耐力壁の種別	W○○	一般壁の種別
EKW○○	片持ちスラブ形階段を受け、かつ耐力壁の種別	KW○○	片持ちスラブ形階段を受け、かつ一般壁の種別
ERW○○	土圧を受け、かつ耐力壁の種別		

表C 梁貫通孔記号

区分	径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400
建築		⊕	×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

表D スリーブ材質の凡例

管名（建築用）	鋼管	溶融亜鉛めっき鋼板	硬質塩化ビニル管	つば付き鋼管（黒管）
記号	SGP（白管）	GA	VU	RS

※建築用以外のスリーブ材質は各工事による。

1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径は、表1.1を標準とする。

表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径

折曲げ角度	折曲げ図（余長）	折曲げ内法直径(D)		
		SD295、SD345	SD390	
		D16以下	D19～D38	D19～D38
180°		3d以上	4d以上	5d以上
135°				
90°				
135°及び90°（幅止め筋）				

- 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
- 90°未満の折曲げの内法直径は特記による。

2 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。
(1) 柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部

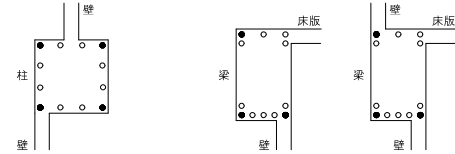


図2.1 末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋（●印）

- 挿突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
- 柱基礎のベース筋
- 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3 継手及び定着

- 鉄筋の重ね継手
 - 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
 - 柱及び梁主筋並びに耐力壁を除く鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	L ₁ (フックなし)		L _{1b} (フックあり)	
		小梁	スラブ	小梁	スラブ
SD295	18	45d	35d	35d	35d
	21	40d	30d	30d	30d
	24, 27	35d	25d	25d	25d
SD345	18	50d	35d	35d	35d
	21	45d	30d	30d	30d
	24, 27	40d	25d	25d	25d
SD390	18	50d	35d	35d	35d
	21	45d	30d	30d	30d
	24, 27	40d	25d	25d	25d

- L₁、L_{1b}：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
- フックありの場合のL_{1b}は、図3.1に示すようにフック部分Qを含まない。
- 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

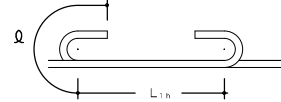


図3.1 フックありの場合の重ね継手の長さ

- 耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず40d以上（軽量コンクリートの場合は50d以上）と表3.1の重ね継手の長さのうちいずれか大きい値とする。

- 隣り合う継手の位置は、表3.2による。ただし、スラブ筋でD16以下の場合及び壁筋の場合は除く。

表3.2 隣り合う継手の位置

重ね継手	フックありの場合		$a \geq 0.5L_{1b}$
	フックなしの場合		$a \geq 0.5L_1$
溶接圧接継手	-		$a \geq 400\text{mm}$
機械式継手	-		$a \geq 400\text{mm}$ 、かつ、 $a \geq (b+40)\text{mm}$

- 鉄筋の定着
 - 鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	直線定着の長さ				フックあり定着の長さ			
		L ₁	L ₂	L ₃	L _{3b}	L _{1b}	L _{2b}	L _{3b}	L _{3bb}
SD295	18	45d	40d	10d	35d	30d	10d	-	-
	21	40d	35d	10d	30d	25d	10d	-	-
	24, 27	35d	30d	10d	25d	20d	10d	-	-
	30, 33, 36	35d	30d	25d以上	25d	20d	10d	-	-
SD345	18	50d	40d	10d	35d	30d	10d	-	-
	21	45d	35d	10d	30d	25d	10d	-	-
	24, 27	40d	35d	10d	30d	25d	10d	-	-
	30, 33, 36	35d	30d	25d以上	25d	20d	10d	-	-
SD390	24, 27	50d	40d	10d	35d	30d	10d	-	-
	21	45d	40d	10d	35d	30d	10d	-	-
	30, 33, 36	40d	35d	25d以上	30d	25d	10d	-	-

- L₁、L_{1b}：2、3、4、5から4、5までの直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
- L₂、L_{2b}：斜交破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
- L₃：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く。なお、() は片持ち小梁及び片持ちスラブの場合を示す。
- L_{3b}：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
- フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分Qを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
- 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

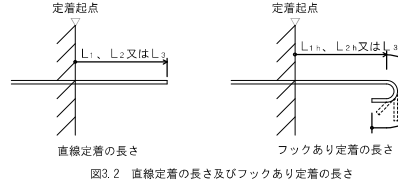


図3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

- 梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の(a)、(b)及び(c)をすべて満足するものとする。
 - 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
 - 余長は8d以上
 - 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さL_a及びL_bは表3.4に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

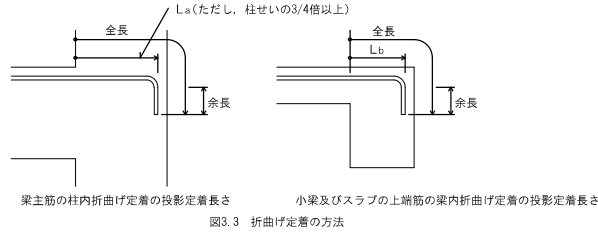


図3.3 折曲げ定着の方法

表3.4 鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	L _a	L _b
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

- L_a：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
- L_b：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
- 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

- 溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。なお、L₁は表3.1に、L₂及びL₃は表3.3による。

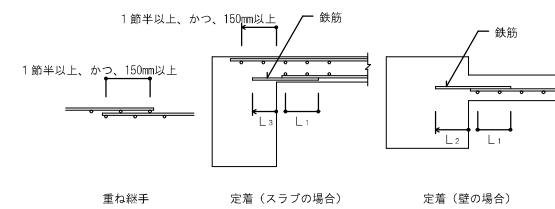


図3.4 溶接金網の継手及び定着

- スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による。

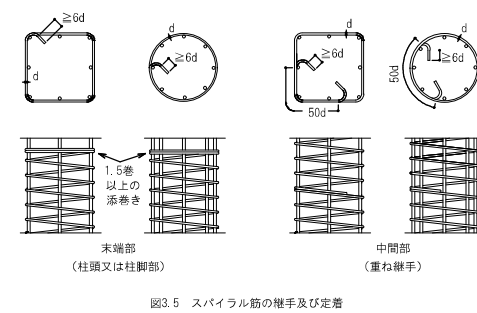


図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

4 鉄筋の最小かぶり厚さ及び間隔

- 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ

構造部分の種類	最小かぶり厚さ (mm)		
	仕上げあり	仕上げなし	
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	20	
	柱、梁、耐力壁	屋内	30
		屋外	40
		換気、耐圧スラブ	40
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁	40	
	基礎、擁壁、耐圧スラブ	60	
煙突等高熱を受ける部分		60	

- この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。また、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
- 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗料、塗装等）のものを除く。
- スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さは、捨コンクリートの厚さを含まない。
- 杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。

- 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
- 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
- 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。
 - 粗骨材の最大寸法の1.25倍
 - 25mm
 - 隣り合う鉄筋の径（呼び名の数値）の平均の1.5倍

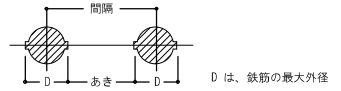


図4.1 鉄筋相互のあき及び間隔

- 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨のあきは、(4)による。
- 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

5.1 基礎梁

- 一般事項
 - 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。
 - 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(2)による。

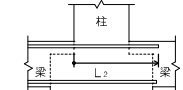
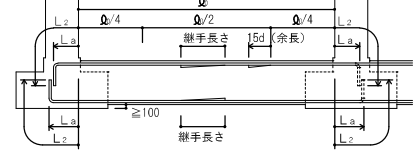


図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

- 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。



- 図示のない事項は、7.1による。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

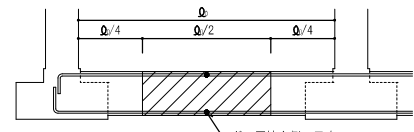
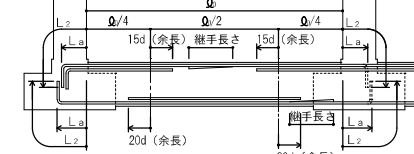


図5.2 主筋の継手、定着及び余長（その1）

- 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。ただし、耐圧スラブが付く場合は、(4)による。



- 図示のない事項は、7.1による。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

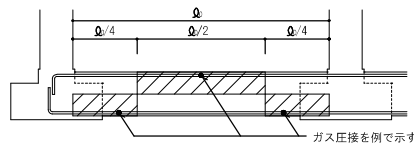


図5.3 主筋の継手、定着及び余長（その2）

(4) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。（耐圧スラブがつく場合を含む）

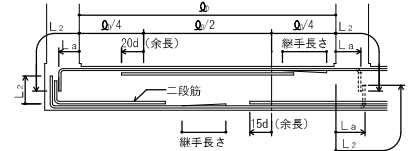


図5.4 主筋の継手、定着及び余長（その3）

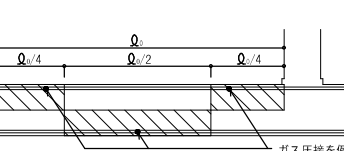


図5.5 主筋の継手、定着及び余長（その3）

5.2 基礎梁のあばら筋等

(1) 一般事項
 (ア) あばら筋の径および間隔は、設計図による。
 (イ) あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(2)による。
 また、副あばら筋組立の形及びフックの位置は7.2(3)による。
 ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5による
 ことができる。

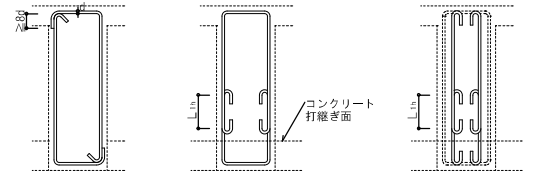


図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

(2) 腹筋及び幅止め筋は、7.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は設計図による。
 (3) あばら筋の割付けは、7.2(4)による。

6.1 柱

(1) 一般事項
 (ア) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、3ho/4 (hoは柱の内法高さ) 以下とする。
 (イ) 継手、定着及び余長は、図6.1による。
 ただし、柱頭定着長さL₂が確保できない場合は、設計図による。

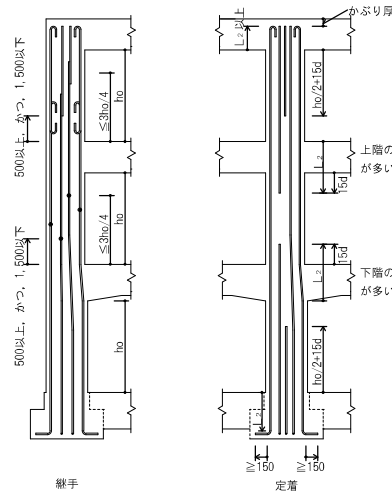


図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

(2) 柱打増し部

(ア) 打増し部分に、壁、梁及びスラブ等がとりつく場合は、壁、梁及びスラブ筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。
 (イ) 土に接する柱周囲の打増しは図6.2による。

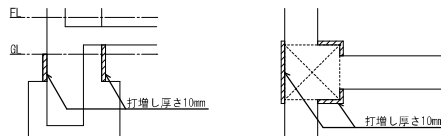


図6.2 柱打増し部

6.2 帯筋

(1) 帯筋の種類及び間隔は、設計図による。
 (2) 帯筋組立の形は図6.3により、適用は構造図による。構造図に記載がなければ次による。
 (ア) 形は、図6.3(1)とする。
 ただし、H形の135° 曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
 (イ) 溶接する場合の溶接長さLは、両面重ねアーク溶接の場合は5d以上、片面重ねアーク溶接の場合は10d以上とする。
 (ウ) S形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻きを行う。

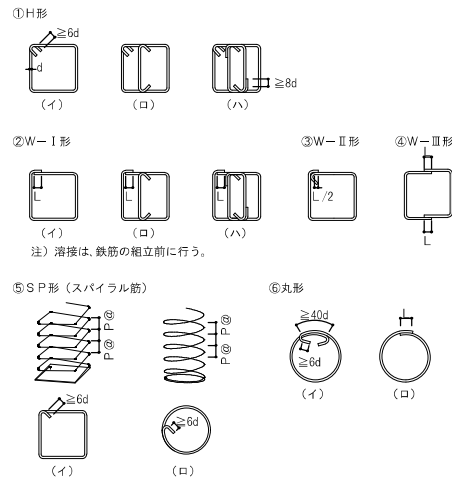


図6.3 帯筋組立の形

(3) フック及び継手の位置は交互とする。
 (4) 帯筋の割付けは図6.4とし、それ以外の場合は設計図による。

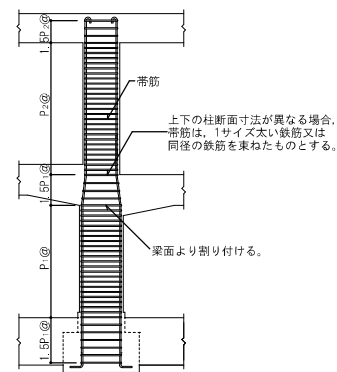


図6.4 帯筋の割付け

7.1 大梁

(1) 一般事項
 (ア) 梁の上がり下がりFLを基準とした寸法値とする。
 (イ) 地中梁下の砂利地床厚及び捨てコンクリート地床厚は設計図による。
 (ウ) 打増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合は、スラブ、壁、梁筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。
 (2) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項
 (ア) 継手中心位置は、次による。
 上端筋：中央 Q/2以内
 下端筋：柱面より梁せい(D)以上離し、Q/4を加えた範囲以内
 (イ) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は図7.3及び図7.4による。
 (ウ) 梁筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が、同数の筋は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部は、折り曲げて定着する。

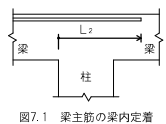


図7.1 梁主筋の梁内定着

(エ) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。
 なお、定着の方法は3(2)(イ)による。
 上端筋：曲げ降ろす
 下端筋（一般）：原則、曲げ上げる。
 下端筋（ハンチ付き）：原則、曲げ上げる。
 (オ) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は設計図による。
 (カ) 段違い梁は、図7.2による。

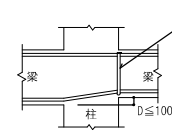


図7.2 段違い梁

(3) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。

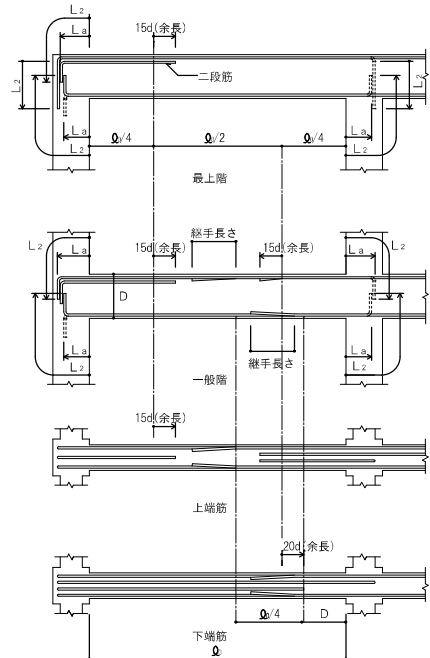


図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

(4) ハンチのある場合の定着及び余長は、図7.4による。

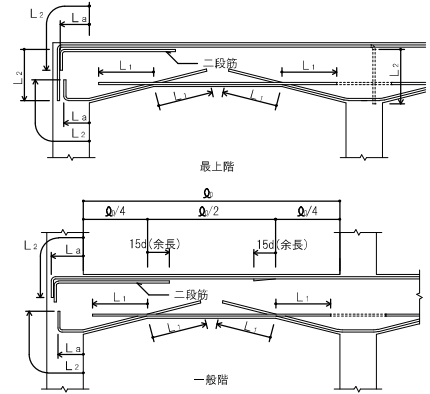


図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

7.2 あばら筋等

(1) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項
 (ア) あばら筋の種類、径及び間隔は、設計図による。
 (イ) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7.6による。
 ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ、定着長さは設計図による。
 (ウ) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000程度とする。

(2) あばら筋組立の形及びフックの位置
 (ア) 形は、図7.5.1 ①とする。
 ただし、L形梁の場合は、② または ③、T形梁の場合は ② ~ ④ とすることができる。

(イ) フックの位置
 (a) ①の場合は交互とする。
 (b) ②の場合 L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
 (c) ③の場合は床版の付く側を90° 折曲げとする。

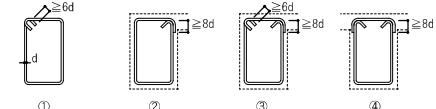


図7.5.1 あばら筋組立の形

(3) 副あばら筋組立の形及びフックの位置
 (ア) 形は、図7.5.2 ⑤ または ⑥ とする。
 ただし、L形梁またはT形梁の場合は ⑦ とすることができる。

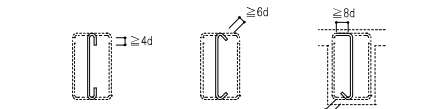


図7.5.2 副あばら筋組立の形

(4) あばら筋の割付け
 (ア) 間隔が一律でハンチのない場合は、図7.6による。

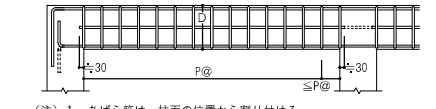


図7.6 あばら筋の割付け（その1）

(イ) 間隔が一律でハンチのある場合は、図7.7による。

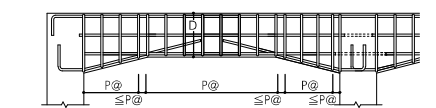


図7.7 あばら筋の割付け（その2）

(ウ) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図7.8による。

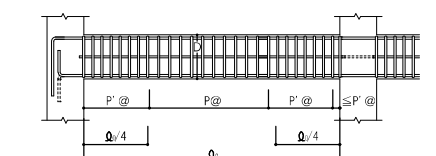


図7.8 あばら筋の割付け（その3）

(5) 腹筋及び幅止め筋

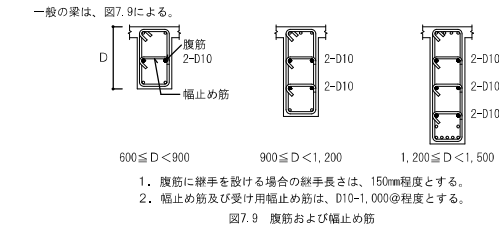


図7.9 腹筋および幅止め筋

7.3 小梁

(1) 小梁主筋の継手、定着及び余長
 連続小梁の場合は、図7.10による。

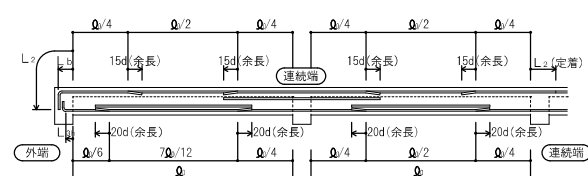


図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

9.3 スラブ等の補強

- (1) スラブ開口部の補強
スラブ開口部の補強方法は、設計図による。設計図になければ、(ア)~(イ)による。
(ア) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合、図9.8により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅内部に斜め方向に2-D13 (Q=2L) シングルの上下筋を上下筋の内側に配筋する。

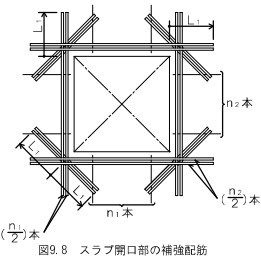
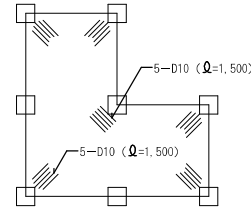


図9.8 スラブ開口部の補強配筋

- (イ) スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

- (2) 屋根スラブの補強
屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図9.9により、補強筋を上端筋の下側に配置する。



- (3) 土間スラブの打継ぎ補強
基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は図9.10による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

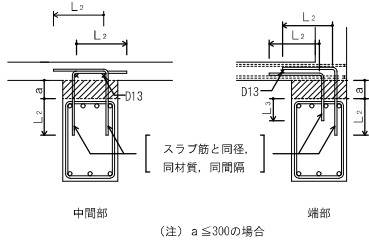


図9.10 打継ぎ補強配筋

- (4) 土間コンクリートの補強
土間コンクリートの補強筋は、設計図による。なお、基礎梁との接合部は、図9.11による。

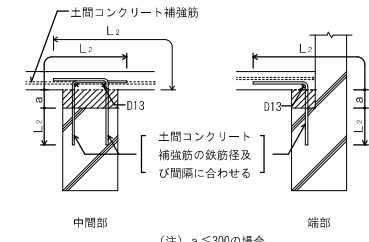
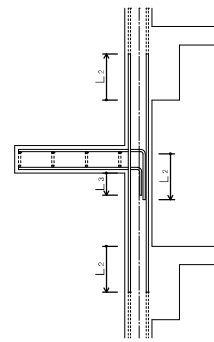


図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10.1 片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の配筋は、表10.1及び図10.11により、寸法及び配筋種別は、設計図による。

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		



- (注) 1. 壁配筋は、8.1(3)による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから壁に下ろす。
3. スラブ配筋の継手及び定着の長さは、表3.3【鉄筋の定着の長さ】のL₂とする。

図10.1 片持スラブ形階段配筋の定着

10.2 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段は、プレキャストコンクリート部材又は現場打ちコンクリート部材とする。プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への接続方法は設計図による。

二辺固定スラブ形階段の配筋は表10.2並びに図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は、設計図による。

表10.2 二辺固定スラブ形階段

配筋種別	上端筋、下端筋とも(全域)
KB1	D13-200#
KB2	D13-150#
KB3	D13-100#
KB4	D13, D16-150#
KB5	D16-150#
KB6	D16-125#
KB7	D16-100#

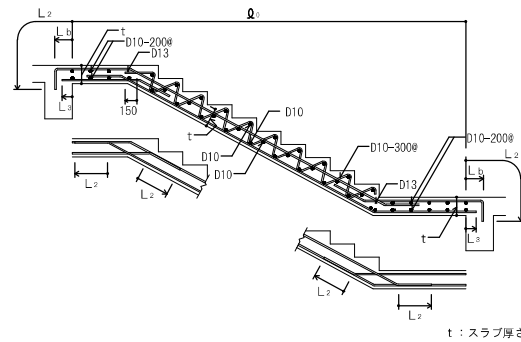
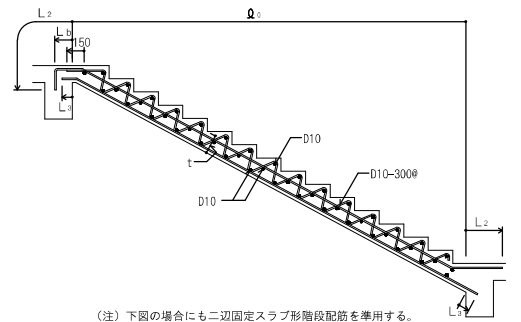


図10.2 二辺固定スラブ形階段配筋(その1)



- (注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

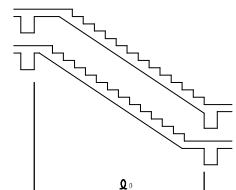


図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

11.1 梁貫通孔

- (1) 梁貫通孔は、次による。
(ア) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図11.1による。
(イ) 孔の径は、梁せいの1/3以下とする。
(ウ) 孔の上下方向の位置は、梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい)の範囲には設けてはならない。
(エ) 孔は、柱面から原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
(オ) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
(カ) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
(キ) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。
(ク) 溶接金網の余長は、1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
(ケ) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 1-13φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
(コ) 溶接金網の割付け始点は、縦筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
(サ) 他の開孔を設けない範囲は、図11.3による。

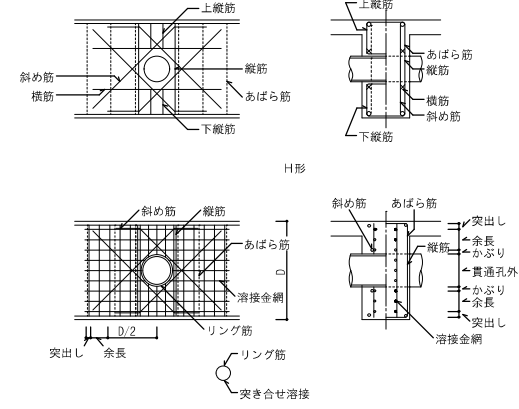


図11.1 梁貫通孔補強筋の名称等

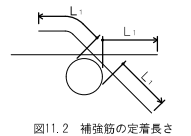


図11.2 補強筋の定着長さ

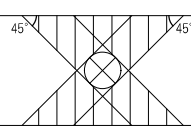


図11.3 他の開孔を設けない範囲

- (2) 梁貫通孔の補強形式は表11.1~表11.2により、配筋種別は設計図による。

表11.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	なし	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	なし	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16	なし	なし	なし	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	なし	なし	なし	

- (注) は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.2 M形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	なし	なし	なし	
MH2	2-2-D13	2-2-D13	なし	
MH3	2-2-D13	なし	なし	
MH4	4-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100#	
MH5	4-2-D16	なし	なし	
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100#	
MH7	4-2-D19	なし	なし	

- (注) は、一般部分のあばら筋を示す。

11.2 コンクリートブロック縦壁との取合い

- (1) 控壁は、次による。
(ア) 控壁の配筋は、設計図による。
(イ) 配筋は、図11.4による。

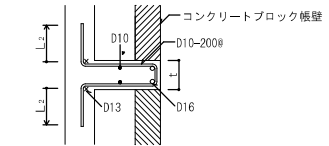


図11.4 控壁の配筋(水平、垂直とも)

- (2) 縦壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11.5による。

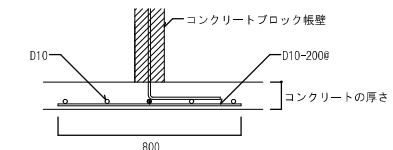


図11.5 壁付き土間コンクリートの補強配筋

11.3 バラベットの

バラベットの先端補強筋は図11.6により、コンクリート厚さ及び配筋は構造図による。

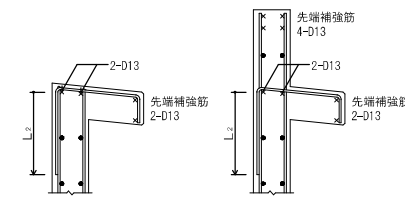


図11.6 バラベットの先端補強筋

12 擁壁

宅地造成等規制区域外での高さ2m以下の擁壁の鉄筋の定着長さは図12により、コンクリートの厚さ及び配筋は構造図による。

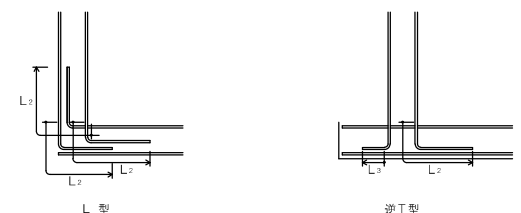
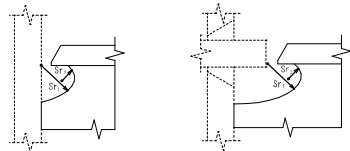
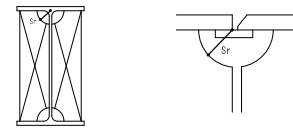


図12 擁壁の鉄筋の定着長さ

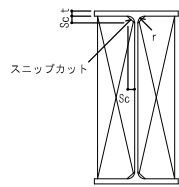
(4) スカラップ
改良型スカラップ
スカラップ半径 Sr_1 は35mmとする。 Sr_2 は10mmとする。
(ア) スカラップ半径 Sr_1 は35mmとする。 Sr_2 は10mmとする。
(イ) スカラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。



従来型スカラップ
スカラップ半径 Sr は35mmとする。



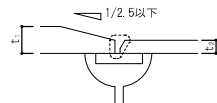
(5) スニップカット
(ア) スニップカット部は溶接により埋めるものとする。



(イ) スニップカットの寸法は、下表による。ただし、既製形鋼のスニップカットについては、 $Sc=r+2t$ により求めるものとする。

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

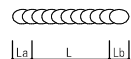
(6) 溶接部分の段差
完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段差が10mmを超える場合、又は低応力高サイクル疲労を受ける場合



1-5 重ねアーク溶接（フレア溶接）を行う場合の溶接長さ

鉄筋又は軽量形鋼に重ねアーク溶接（フレア溶接）を行う場合の溶接長さ（L）は、ビードの始点（La）及びクレーター（Lb）を除いた部分の長さとする。

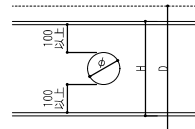
L：片面フレア溶接の場合 10d
両面フレア溶接の場合 5d
La及びLbは1d（軽量形鋼については1S）以上
d：異形鉄筋の呼び名に用いた数値
S：溶接のサイズ



1-6 梁貫通孔補強

(1) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部に貫通孔を設ける場合は、次による。
(ア) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せい H の1/2以下かつ鉄筋コンクリート梁せいの1/3以下とする。
(イ) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。

梁貫通孔の位置の限度（単位：mm）

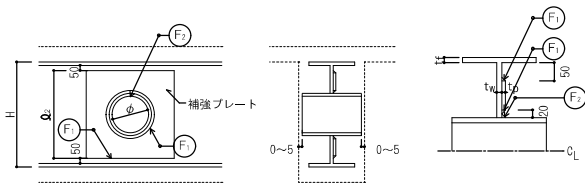


H：鉄骨せい
D：はりせい
 ϕ ：貫通孔内径寸法
($\phi \leq H/2$ かつ $\phi \leq D/3$)

(2) 貫通孔の補強方法は、構造図による。
補強プレート法及び補強トラス法の溶接等は、以下による。

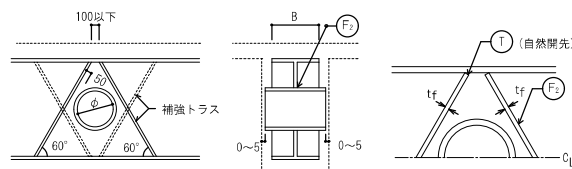
補強プレート法

(ア) 補強プレートが10mm以上となる場合は、必要な長さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。
(イ) 補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。

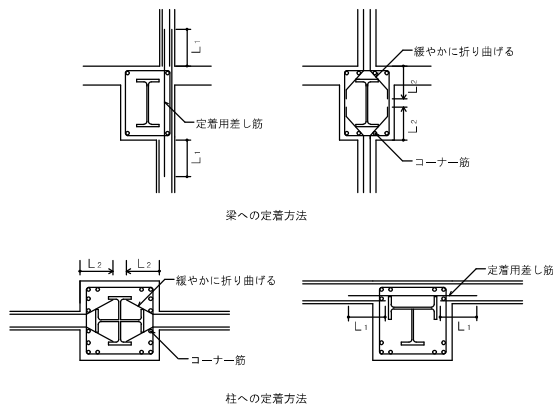


ϕ は3 ϕ または ϕ のうち小さい方とする。（ $e \geq H$ とする）
e：材端と補強プレートの間隔

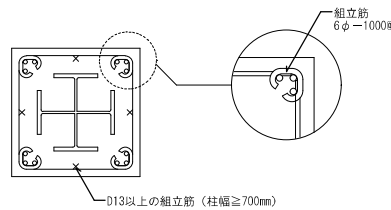
補強トラス法
スリーブの取付けは、全周隅肉溶接とする。



1-7 壁筋の周辺部材への定着

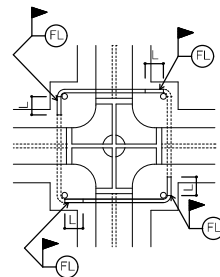


1-8 柱組立筋



1-9 仕口部内の帯筋の加工及び組立

片面溶接の溶接長さ（L）は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135°曲げフックとする。

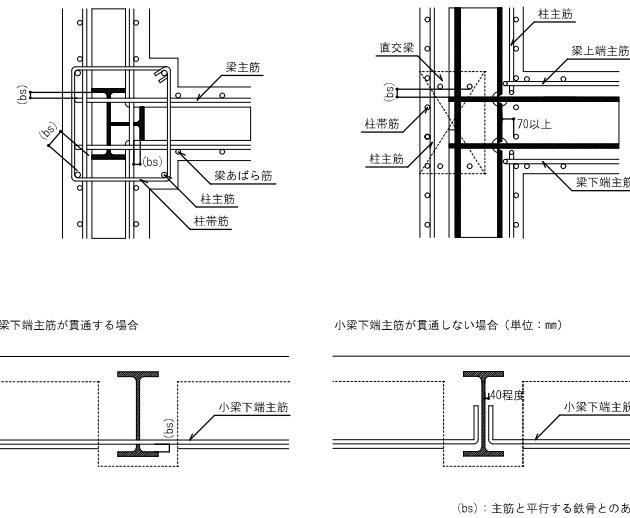


1-10 鉄筋貫通孔の径及び位置

(a) 鉄筋貫通孔の径
鉄筋の貫通孔径の最大値は、下表による。

鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46

(b) 鉄筋貫通孔の位置
鉄骨フランジには、鉄筋貫通孔を設けないものとする。



1-11 広幅平鋼の取り扱いについて

(a) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スライスプレートは、PL表記であってもFB又はPLとする。
(b) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スライスプレートの適用幅及び厚さは下表による。

		厚さ										
		6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40
幅	100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	300	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	350	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	400	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	450	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
500	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

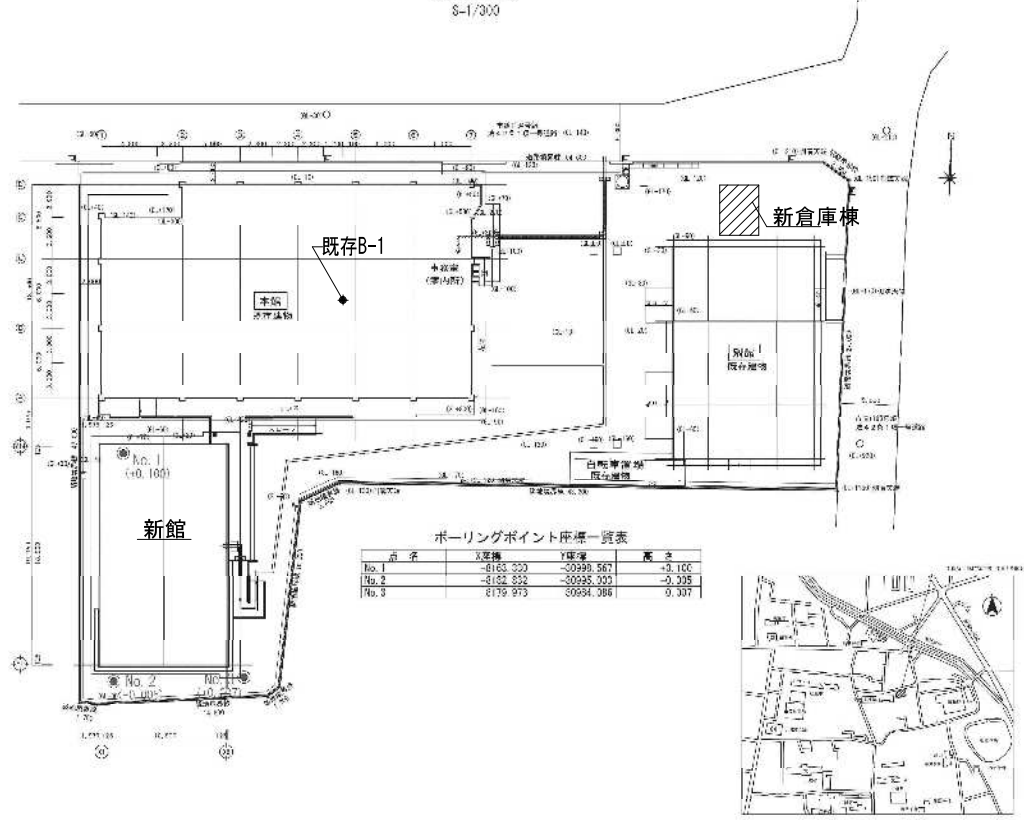
1-12 普通ボルト接合

もや、胴縁類の取付け用ボルトを普通ボルト接合とする場合は、二重ナットとする。

1-13 その他

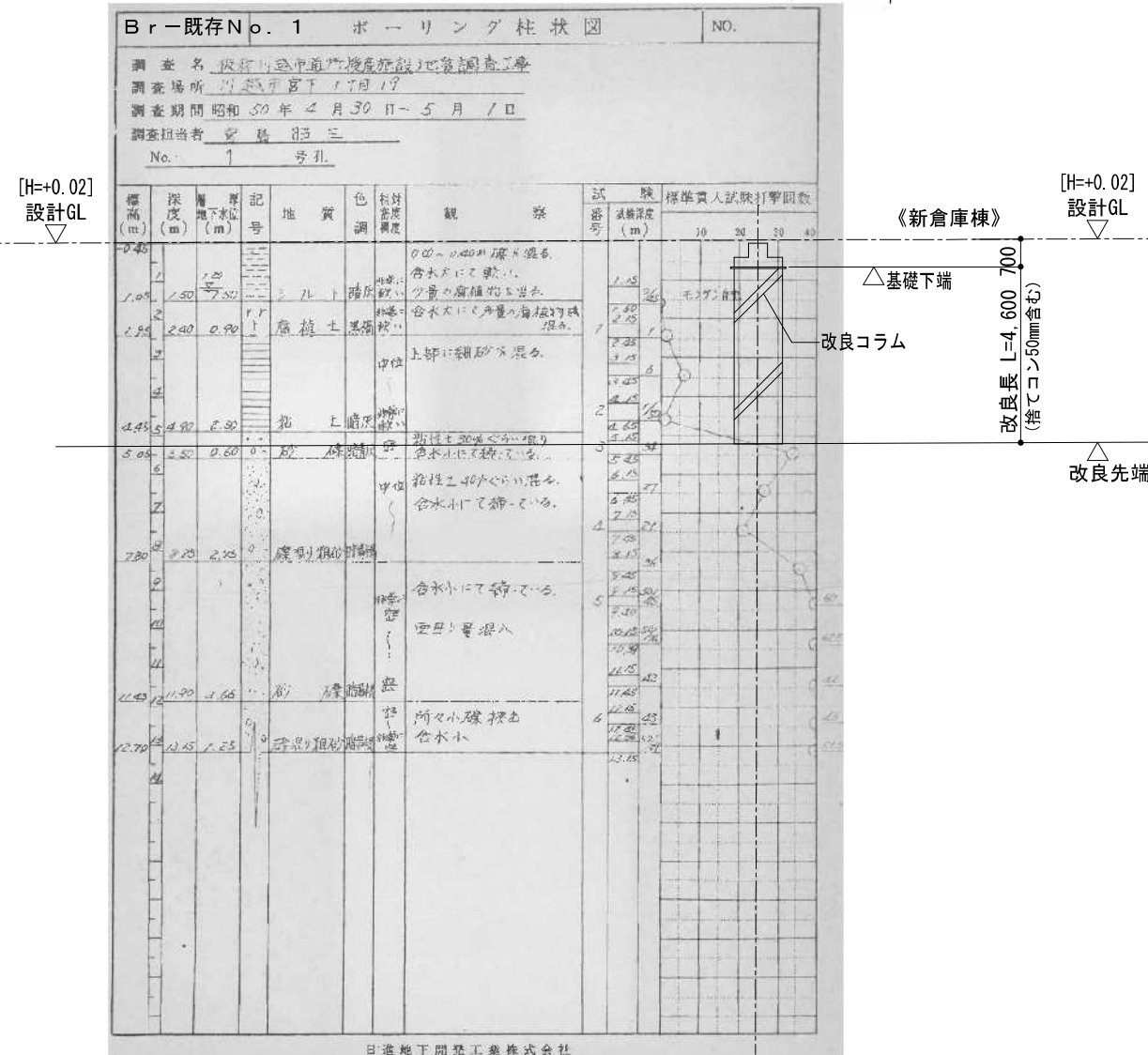
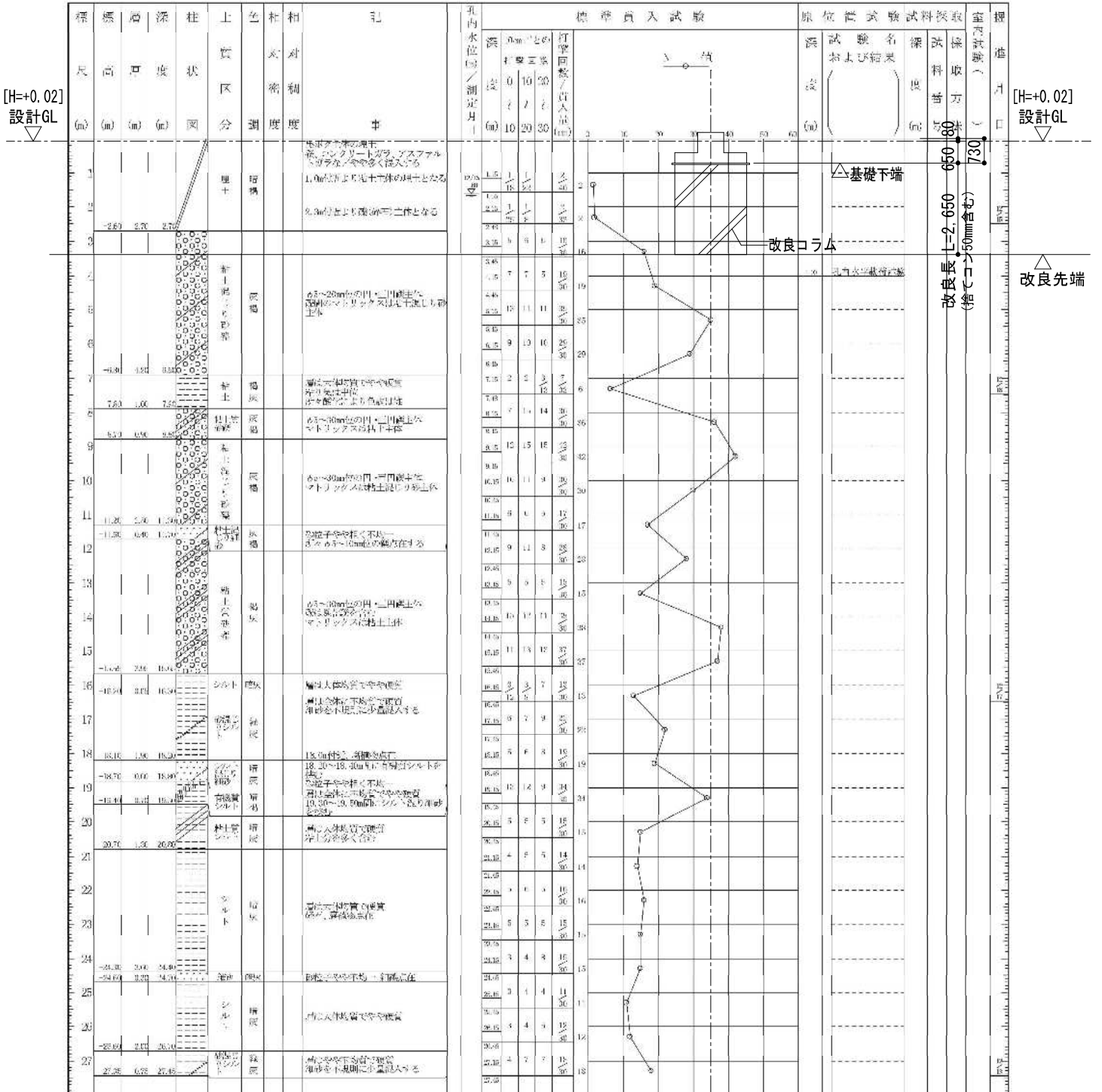
(a) フィラープレートの材質
フィラープレートを使用する場合、材質はSS400とする。

調査位置図
S-1/300



ボーリング柱状図

調査名		川越市みよしの支援センター地質調査業務委託		ボーリングNo			
事業・工事名		埼玉県川越市宮下町1丁目19番地13		シートNo			
ボーリング名	No.1	調査位置	埼玉県川越市宮下町1丁目19番地13	北緯	35°55'33.3"	東経	139°29'33.3"
発注機関	川越市役所 建設部建築住宅課	調査期間	令和7年12月15日 ~ 7年12月19日	ボーリング責任者	藤沢 茂	試験機	ハンマー落下用機
調査業者名	株式会社 大田建設 TEL: 049-232-1879	主任技師	内口 孝志	現場監督	原 正之	エンジン	TF90M
孔口標高	H=+0.10m	角	180°	地盤勾配	南	ポンプ	HG-4
総掘進長	27.45m	方向	北北西	使用機種	ハンマー落下用機		



Y・M・R 建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9048号
一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
(構造設計一級建築士 第 815号)

ボーリング柱状図

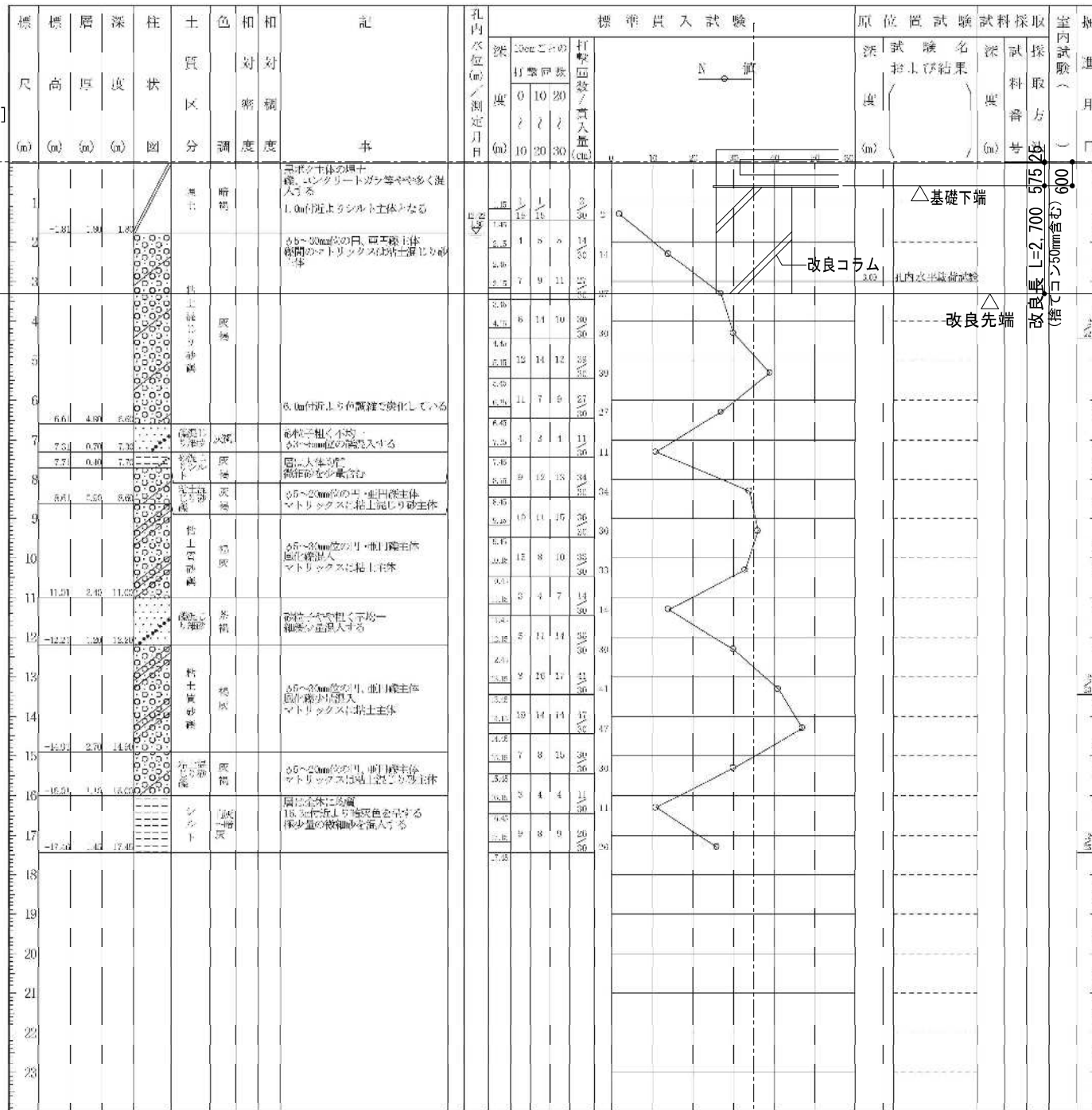
調査名 川越市みよしの支援センター地質調査業務委託

ボーリングNo									
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 2	調査位置	埼玉県川越市宮下町1丁目19番地13	北緯	35° 55' 32.8"
発注機関	川越市役所 建設部建築住宅課		調査期間	令和 7年 12月 19日 ~ 8年 1月 5日 東経 139° 29' 23.6"	
調査業者名	株式会社 未来測設計 電話 (049-234-1849)	主任技師	内田 孝志	現代理人	原 正之
現場代理人	原 正之	コア鑑定者	原 正之	ボーリング責任者	堀内 茂
孔口標高	H = +0.01m (H=+0.005) 17.45m	角	180° 90°	方	北 西 270° 東 南 180°
総掘進長		地盤勾配		使用試験機	DO-D
		使用機種		エンジン	TF90M
		ハンマー落下用具		ポンプ	半自動落下式
					BG-4



ボーリング柱状図

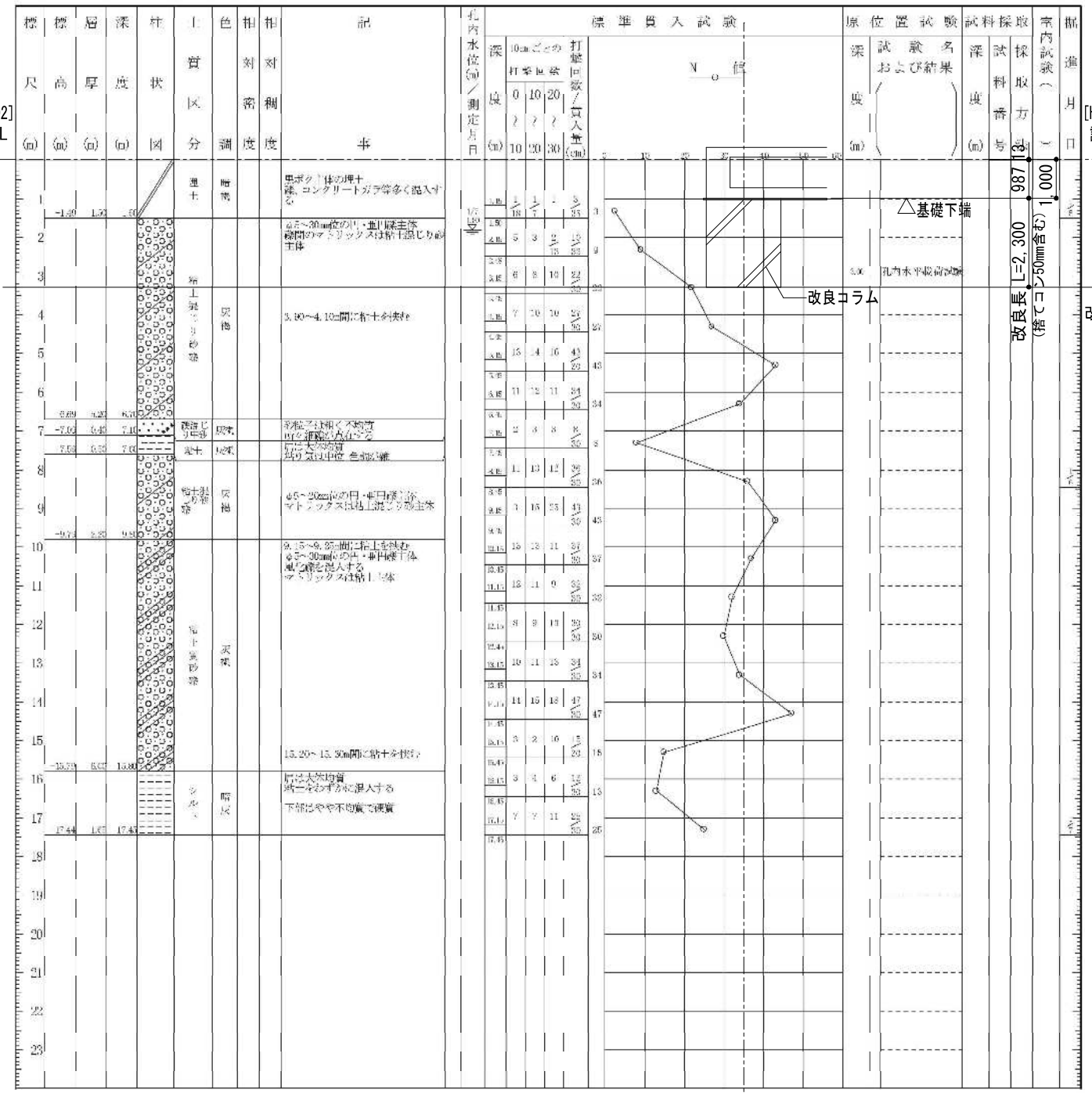
調査名 川越市みよしの支援センター地質調査業務委託

ボーリングNo									
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

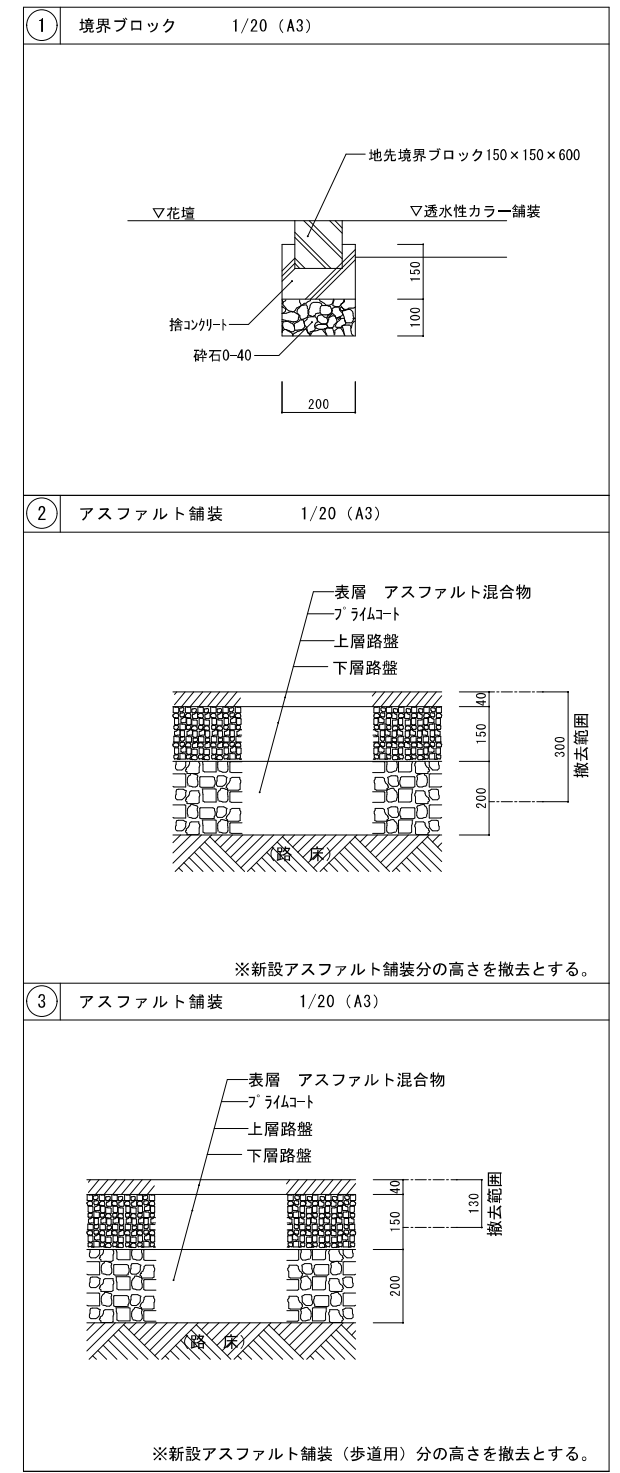
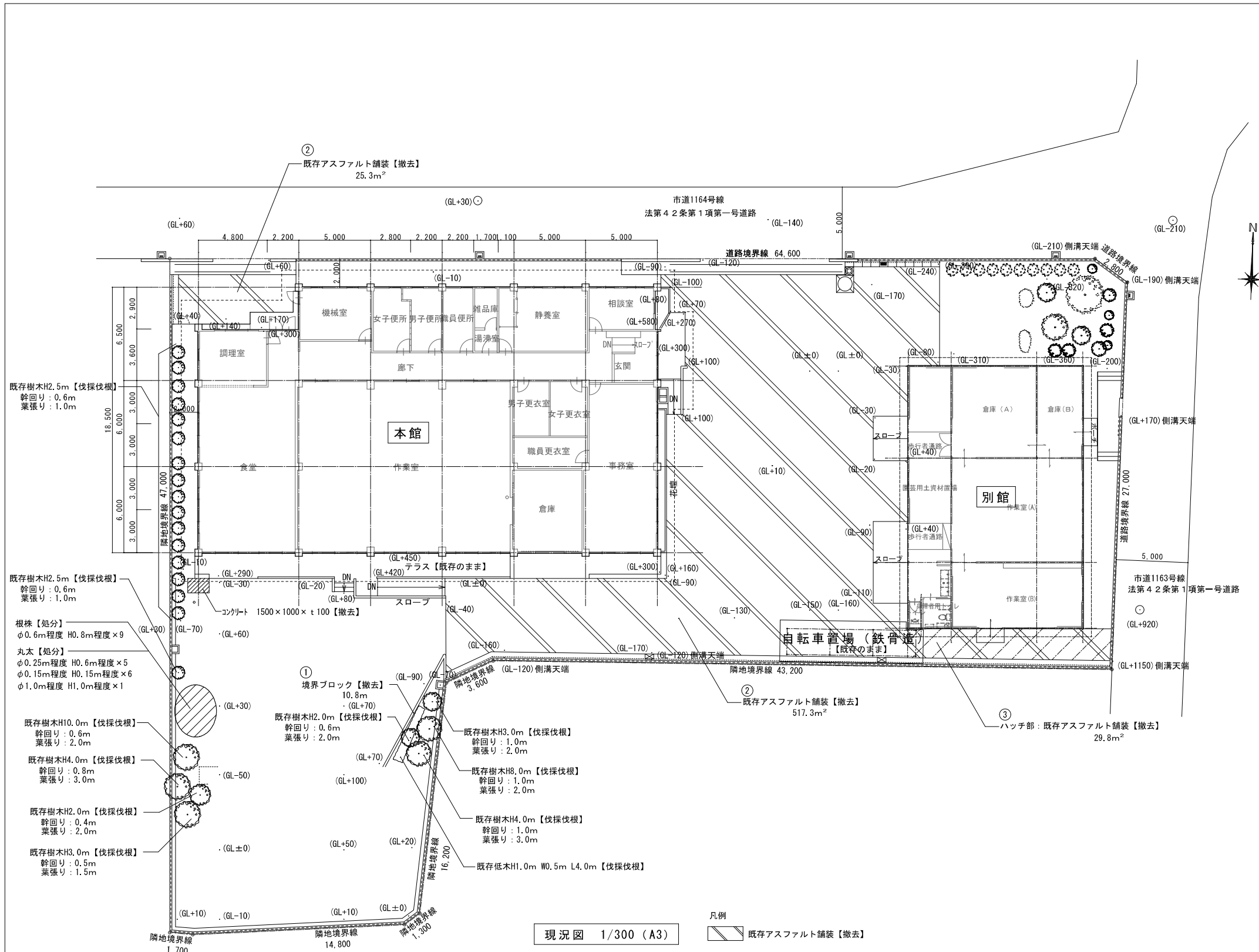
ボーリング名	No. 3	調査位置	埼玉県川越市宮下町1丁目19番地13	北緯	35° 55' 32.8"
発注機関	川越市役所 建設部建築住宅課		調査期間	令和 8年 1月 5日 ~ 8年 1月 8日 東経 139° 29' 23.9"	
調査業者名	株式会社 未来測設計 電話 (049-234-1849)	主任技師	内田 孝志	現代理人	原 正之
現場代理人	原 正之	コア鑑定者	原 正之	ボーリング責任者	堀内 茂
孔口標高	H = +0.01m (H=+0.007) 17.45m	角	180° 90°	方	北 西 270° 東 南 180°
総掘進長		地盤勾配		使用試験機	DO-D
		使用機種		エンジン	TF90M
		ハンマー落下用具		ポンプ	半自動落下式
					BG-4

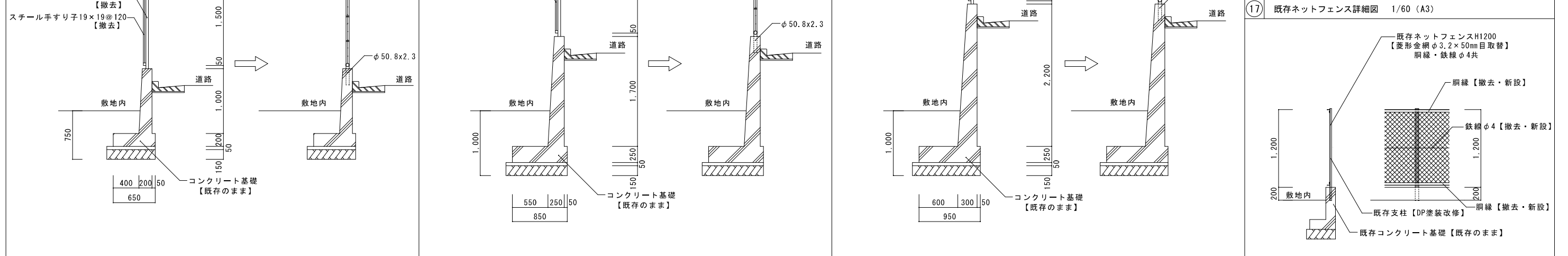
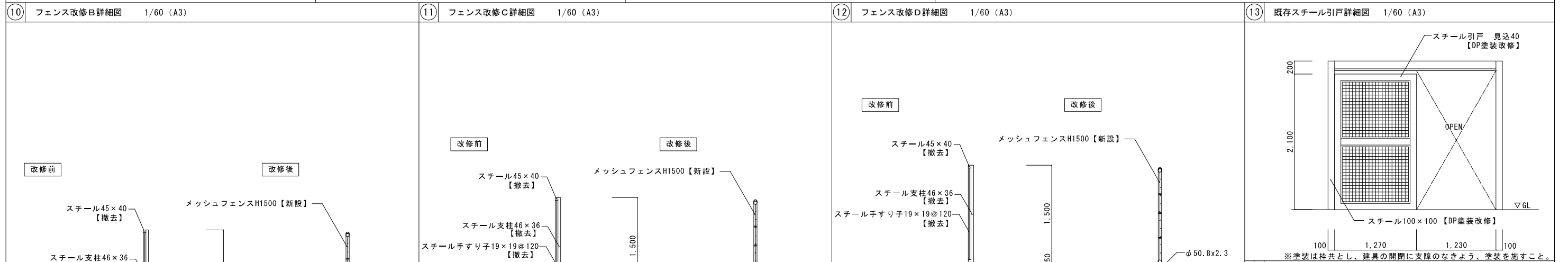
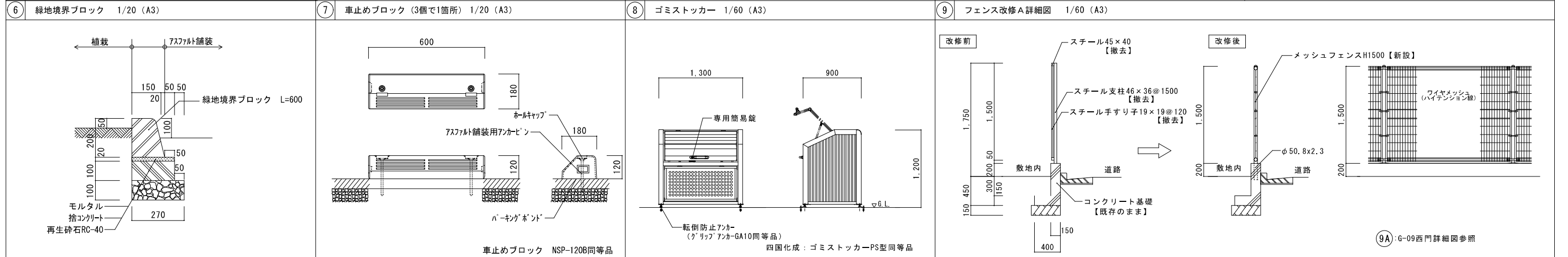
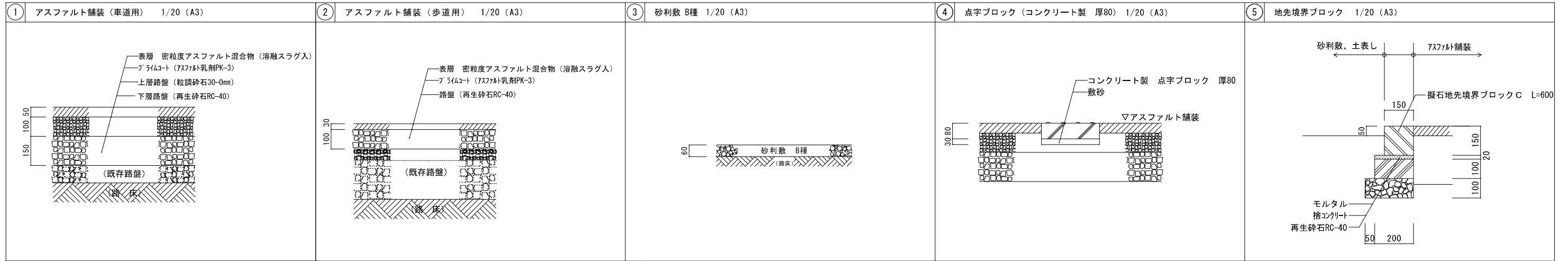


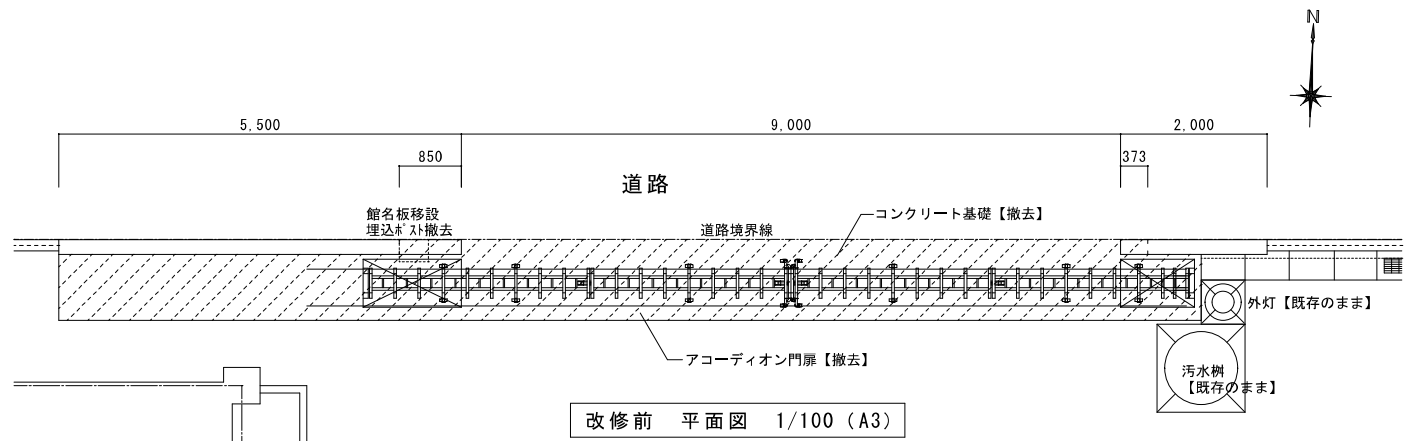
Y・M・R 建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(5)9048号
一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
(構造設計一級建築士 第 815号)

<p>工 事 名</p> <p>川越市みよしの支援センター改築等工事</p> <p>特記仕様書（構造関係）</p> <p>I 建物概要</p> <p>1. 主要用途</p> <p>2. 工事場所 川越市宮下町1丁目19番地13</p> <p>3. 棟名称及び構造・階数等</p> <p>4. 構造計算条件</p> <p>a 耐震設計条件</p> <table border="1"> <tr><td>地震荷重</td><td>建物一次固有周期</td><td>() 秒</td></tr> <tr><td></td><td>地盤種別</td><td>第 () 種地盤</td></tr> <tr><td></td><td>地域係数</td><td>Z=</td></tr> <tr><td rowspan="2">計算ルート</td><td>X方向</td><td>※許容応力度計算（ルート） ・その他</td></tr> <tr><td>Y方向</td><td>※許容応力度計算（ルート） ・その他</td></tr> <tr><td rowspan="2">設計層間変形角</td><td>X方向</td><td>一次設計 二次設計</td></tr> <tr><td>Y方向</td><td>一次設計 二次設計</td></tr> </table> <p>b 耐風設計条件</p> <table border="1"> <tr><td>基準風速 (V)</td><td>() m/秒</td></tr> <tr><td>地表面粗度区分</td><td>I・II・III・IV</td></tr> </table> <p>c 耐積雪設計条件</p> <table border="1"> <tr><td>建設地の標高</td><td>() m</td></tr> <tr><td>多雪区域の指定</td><td>有り・無し</td></tr> <tr><td>設計垂直積雪量</td><td>() cm</td></tr> </table> <p>5. 地盤調査資料</p> <table border="1"> <tr><td>調査内容</td><td>・サウンディング（※標準貫入試験） ・土質試験・孔内水平載荷試験・平板載荷試験</td></tr> <tr><td>調査位置</td><td>構造図（ / 図）による</td></tr> <tr><td>ボーリング柱状図</td><td></td></tr> <tr><td>液状化対策の検討</td><td>有り・無し</td></tr> </table> <p>II 建築工事仕様</p> <p>(1) 質問回答書、本特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて「埼玉県建築工事特別共通仕様書」及び国土交通大臣官房官庁官制部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和7年版）」（以下、「標準仕様書」という。）による。</p> <p>なお、新たな版が出版され、当該基準によりがたい場合は、監督員と協議し、適用する基準等を決定する。</p> <p>(2) 標準仕様書で「特記がなければ、」以下に具体的な材料・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令等（条例を含む）と異なる場合には、具体的な対応策について監督員と協議すること。</p> <p>(3) 特記仕様書の表記</p> <p>1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。</p> <p>2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。○印と※印の付いた場合は、共に適用する。○印と※印のみを適用する。</p> <p>3) 特記事項に記載の()内の表示番号は、埼玉県建築工事特別共通仕様書の当該項目、当該図表を示す。</p> <p>4) 標準仕様書に記載の()内の表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図表を示す。</p> <p>5) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また()内は製品名を示す。</p> <p>6) ⊕は「特定塗漆物品等」を表す。</p> <p>7) 注は標準仕様書記載事項で、注意すべきものを示す。</p>	地震荷重	建物一次固有周期	() 秒		地盤種別	第 () 種地盤		地域係数	Z=	計算ルート	X方向	※許容応力度計算（ルート） ・その他	Y方向	※許容応力度計算（ルート） ・その他	設計層間変形角	X方向	一次設計 二次設計	Y方向	一次設計 二次設計	基準風速 (V)	() m/秒	地表面粗度区分	I・II・III・IV	建設地の標高	() m	多雪区域の指定	有り・無し	設計垂直積雪量	() cm	調査内容	・サウンディング（※標準貫入試験） ・土質試験・孔内水平載荷試験・平板載荷試験	調査位置	構造図（ / 図）による	ボーリング柱状図		液状化対策の検討	有り・無し	<p>章 項 目</p> <p>④ ① 支持地盤等</p> <p>地業 工事</p> <p>② 既製コンクリート杭地業</p> <p>③ 鋼杭地業</p>	<p>特 記 事 項</p> <p>・杭基礎 支持地盤の位置及び種類（基礎ぐいの先端の位置含む） ・図示による()</p> <p>○直接基礎 支持地盤の位置及び種類（基礎底部の位置含む） ○図示による() 試験掘り（根切り底の状態の確認等） ・行う（位置等） ・図示による()</p> <p>長期設計支持力度 () kN/m²</p> <p>・地盤の載荷試験 () 箇所 載荷試験の方法 ・地盤工学会基準JGS 1521による 試験の位置、載荷荷重 ※図示による()</p> <p>・液化化対策 工法、施工範囲、仕様及び計測、試験等 ※図示</p> <p>種類 (4.3.3) ・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭） ・プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭） ・外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭） SC杭の鋼管材料 ・SKK400 ・SKK490</p> <p>杭の種類、性能及び曲げ強度等による区分、寸法、継手の箇所数等 (4.2.2) (4.3.3)</p> <table border="1"> <thead> <tr><th>種類</th><th>コンクリート強度 (N/mm²)</th><th>厚さ (mm)</th><th>杭径 (mm)</th><th>杭長 (m)</th><th>継手数</th><th>ねり数</th><th>長期設計支持力 (kN/本)</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>試験杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>本杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>杭先端部形状 (4.3.3) ・開放形 ・半開放形 ・閉そく形</p> <p>施工方法 (4.2.2) (4.3.1, 4) ・セメントミルク工法 試験杭の位置 ・図示による() 掘削深さ ・図示による() 杭の支持層への根入れ長さ ・図示による()</p> <p>杭の精度 水平方向の位置ずれ寸法 ・杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ・1/100以内 根固め液及び杭周固定液の管理試験 ※標準仕様書4.3.4(6) (3)による</p> <p>・特定埋込杭工法 (4.2.2) (4.3.1, 5) ・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式の内α、β、γが下記の値を採用できる工法 $\alpha = ()$、$\beta = ()$、$\gamma = ()$</p> <p>工法 ・プレローリング拡大根固め工法 ・中掘り拡大根固め工法</p> <p>杭周固定液 ・使用する ・使用しない 試験杭の位置 ・図示による() 杭の支持層への根入れ長さ ・図示による()</p> <p>杭の精度 水平方向の位置ずれ寸法 ・評定等の評価内容による ・杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ※評定等の評価内容による ・1/100以内</p> <p>杭の継手の工法 (4.3.3, 6) (7.2.5) ・溶接継手 溶接材料 ・標準仕様書7.2.5(1)、(2)による ・図示による()</p> <p>・機械式継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの） 工法 ※評定等を受けた工法 検査 ※評定等により定められた項目 施工 ※評定等をされた施工管理基準による</p> <p>杭頭の処理 (4.3.8) ・処理する 処理方法（切断にともなう補強方法含む） ・図示による() 杭頭の中詰め材料 ・基礎のコンクリートと同調合のもの</p> <p>鋼杭の材料 (4.4.2, 3, 5) 材料、寸法、継手等</p> <table border="1"> <thead> <tr><th>種類</th><th>板厚 (mm)</th><th>杭径 (mm)</th><th>杭長 (m)</th><th>継手数</th><th>ねり数</th><th>長期設計支持力 (kN/本)</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>試験杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>本杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>特定埋込杭工法 (4.2.2) (4.3.1, 5) ・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式の内α、β、γが下記の値を採用できる工法 $\alpha = ()$、$\beta = ()$、$\gamma = ()$</p> <p>工法 ・中掘り拡大根固め工法 ・試験杭の位置 ・図示による() 杭の支持層への根入れ長さ ・図示による()</p> <p>杭の精度 水平方向の位置ずれ寸法 ・評定等の評価内容による ・杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ※評定等の評価内容による ・1/100以内</p> <p>杭の継手の工法 (4.4.3, 5) (7.2.5) ・溶接継手 形状 ・JIS A 5525 による 溶接材料 ・標準仕様書7.2.5(1)、(2)による ・図示による()</p>	種類	コンクリート強度 (N/mm ²)	厚さ (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	ねり数	長期設計支持力 (kN/本)	備考	試験杭									本杭									種類	板厚 (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	ねり数	長期設計支持力 (kN/本)	備考	試験杭								本杭								<p>・機械式継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの） 工法 ※評定等を受けた工法 検査 ※評定等により定められた項目 施工 ※評定等をされた施工管理基準による</p> <p>杭頭の処理 (4.3.8) (4.4.6) ・処理する 処理方法（切断にともなう補強方法含む） ・図示による()</p> <p>杭頭の中詰め材料 (4.3.8) ・基礎のコンクリートと同調合のもの</p> <p>4 場所打ちコンクリート杭地業 (4.5.1, 4~6) 工法 ・アースドリル工法（安定液 ・使用する ・使用しない） ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張り ・行う ・行わない） ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管巻き材料 ・SKK400 ・SKK490 鋼管径・板厚・長さ ※図示による()</p> <p>併用する工法 ・底底杭工法（安定液 ・使用する ・使用しない）</p> <p>材料その他 (4.2.2) (4.5.4) 寸法等</p> <table border="1"> <thead> <tr><th>試験杭</th><th>軸径 (mm)</th><th>杭長 (m)</th><th>ねり数</th><th>長期設計支持力 (kN/本)</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>本杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>鉄筋の種類 (5.2.1)</p> <table border="1"> <thead> <tr><th>種類</th><th>種類</th><th>記号</th><th>鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径 (mm)</th><th>使用部位</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>・SD295</td><td>※D16以下</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>・SD345</td><td>※D19以上</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>形状等 (5.2.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr><th>種類</th><th>種類</th><th>記号</th><th>鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径 (mm)</th><th>使用部位</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>・溶接金網</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>・鉄筋格子</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>鉄筋の継手方法等 (5.3.4)</p> <table border="1"> <thead> <tr><th>部 位</th><th>継 手 方 法</th><th>呼 び 径 (mm)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>柱、梁の主筋</td><td>・ガス圧接 ・機械式継手</td><td>※D19以上</td></tr> <tr><td>耐力壁の鉄筋</td><td>・溶接継手 ・重ね継手</td><td></td></tr> <tr><td>基礎、耐圧スラブ、土圧壁</td><td>・重ね継手 ・ガス圧接</td><td></td></tr> <tr><td>その他の鉄筋</td><td>○重ね継手</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>継手位置 ・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）5.1, 6.1, 7.1, 7.3, 8.1） ・基礎梁主筋の継手位置 ・図5.2 ・図5.3 ・図5.4 ・図示による()</p> <p>柱及び梁の重ね継手の長さ ・図示による()</p> <p>耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ ※図示による（構造関係共通図（配筋標準図）3(1)(7)） ・図示による()</p> <p>柱及び梁の主筋が隣り合う継手を同一箇所には設ける部分の位置及び施工方法等 ・図示による()</p> <p>5 ① 鉄筋 (5.2.1)</p> <p>2 溶接金網 (5.2.2)</p> <p>3 鉄筋の継手 (5.3.4)</p>	試験杭	軸径 (mm)	杭長 (m)	ねり数	長期設計支持力 (kN/本)	備考	本杭						種類	種類	記号	鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位	・SD295	※D16以下				・SD345	※D19以上				種類	種類	記号	鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位	・溶接金網					・鉄筋格子					部 位	継 手 方 法	呼 び 径 (mm)	柱、梁の主筋	・ガス圧接 ・機械式継手	※D19以上	耐力壁の鉄筋	・溶接継手 ・重ね継手		基礎、耐圧スラブ、土圧壁	・重ね継手 ・ガス圧接		その他の鉄筋	○重ね継手		<p>④ 鉄筋の定着 (5.3.4) 鉄筋の定着長さ ○図示による (S3-01)</p> <p>機械式定着工法 適用箇所 ・図示による() 種類 ・摩擦圧接接合 ・螺合グラウト固定 ・嵌合グラウト固定 工法 ※第三者機関の評定等を取得している工法とする 必要定着長さ ※評定等の評価内容による 補強筋形状 ※評定等の評価内容による かぶり厚さ ※評定等の評価内容による 品質確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による</p> <p>鉄筋の余長の長さ 構造関係共通図（配筋標準図）による、これによらない箇所は図示による。</p> <p>⑤ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む） (5.3.5) 最小かぶり厚さ（目地底から算出を行う） ※図示による（S3-01配筋標準図（その1）表4.1） ・図示による()</p> <p>柱及び梁の主筋にD29以上の使用 ・あり 適用箇所() 主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する 耐久性上不利な部分（塩害等を受けるおそれのある部分等） ・あり 適用箇所() 最小かぶり厚さに加える厚さ ()mm</p> <p>⑥ 各部配筋 (5.3.7) ※図示による</p> <p>7 圧接完了後の圧接部の試験 (5.4.10) 圧接完了後の圧接部の試験 外観試験 ※行う（全ての圧接部） 抜取試験 ※超音波探傷試験（試験方法 標準仕様書5.4.10(i)(a)による） ・引張試験 試験方法 ※標準仕様書5.4.10(i)(b)による</p> <p>8 機械式継手 (5.5.3, 5) 適用箇所 ・図示による() H12建告第1463号に適合する性能 ・A級 種類 ・ねじ式鉄筋継手 充填方式 ・無機グラウト方式 ・有機グラウト方式 ・端部ねじ加工継手 ・モルタル充填式継手 工法 ※第三者機関の評定等を取得している工法 鉄筋相互のあき ※評定等の評価内容による 品質の確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による 施工完了後の継手部の試験 ・外観試験 試験対象 ※全数 試験項目 ・評定等の評価内容による 試験方法 ・評定等の評価内容による ・超音波測定試験 試験対象 ・抜取り ロット ・1組の作業班が1日に行った継手箇所数、最大200箇所程度とする 試験の箇所数 ・1ロットに対して()箇所 ・全数 試験項目 ※挿入長さ 試験方法 ※JIS Z 3064（鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準）による 不合格となった場合の措置</p> <p>9 溶接継手 (5.6.3, 5) 適用箇所 ・図示による() H12建告第1463号に適合する性能 ・A級 溶接継手の工法 ・図示による() 鉄筋相互のあき ・標準仕様書5.3.5(4)による ・評定等の評価内容による ・図示による() 施工完了後の溶接部の試験 ・外観試験 試験対象 ※全数 試験項目 ・評定等の評価内容による 試験方法 ・評定等の評価内容による ・超音波測定試験 試験対象 ・抜取り ロット ・1組の作業班が1日に行った溶接箇所数、最大200箇所程度とする 試験の箇所数 ・1ロットに対して()箇所 ・全数 試験項目 ※内部欠陥の検出 試験方法 ※JIS Z 3063（鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波測定方法及び判定基準）による 不合格となった場合の措置</p>
地震荷重	建物一次固有周期	() 秒																																																																																																																																																			
	地盤種別	第 () 種地盤																																																																																																																																																			
	地域係数	Z=																																																																																																																																																			
計算ルート	X方向	※許容応力度計算（ルート） ・その他																																																																																																																																																			
	Y方向	※許容応力度計算（ルート） ・その他																																																																																																																																																			
設計層間変形角	X方向	一次設計 二次設計																																																																																																																																																			
	Y方向	一次設計 二次設計																																																																																																																																																			
基準風速 (V)	() m/秒																																																																																																																																																				
地表面粗度区分	I・II・III・IV																																																																																																																																																				
建設地の標高	() m																																																																																																																																																				
多雪区域の指定	有り・無し																																																																																																																																																				
設計垂直積雪量	() cm																																																																																																																																																				
調査内容	・サウンディング（※標準貫入試験） ・土質試験・孔内水平載荷試験・平板載荷試験																																																																																																																																																				
調査位置	構造図（ / 図）による																																																																																																																																																				
ボーリング柱状図																																																																																																																																																					
液状化対策の検討	有り・無し																																																																																																																																																				
種類	コンクリート強度 (N/mm ²)	厚さ (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	ねり数	長期設計支持力 (kN/本)	備考																																																																																																																																													
試験杭																																																																																																																																																					
本杭																																																																																																																																																					
種類	板厚 (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	ねり数	長期設計支持力 (kN/本)	備考																																																																																																																																														
試験杭																																																																																																																																																					
本杭																																																																																																																																																					
試験杭	軸径 (mm)	杭長 (m)	ねり数	長期設計支持力 (kN/本)	備考																																																																																																																																																
本杭																																																																																																																																																					
種類	種類	記号	鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位																																																																																																																																																	
・SD295	※D16以下																																																																																																																																																				
・SD345	※D19以上																																																																																																																																																				
種類	種類	記号	鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位																																																																																																																																																	
・溶接金網																																																																																																																																																					
・鉄筋格子																																																																																																																																																					
部 位	継 手 方 法	呼 び 径 (mm)																																																																																																																																																			
柱、梁の主筋	・ガス圧接 ・機械式継手	※D19以上																																																																																																																																																			
耐力壁の鉄筋	・溶接継手 ・重ね継手																																																																																																																																																				
基礎、耐圧スラブ、土圧壁	・重ね継手 ・ガス圧接																																																																																																																																																				
その他の鉄筋	○重ね継手																																																																																																																																																				

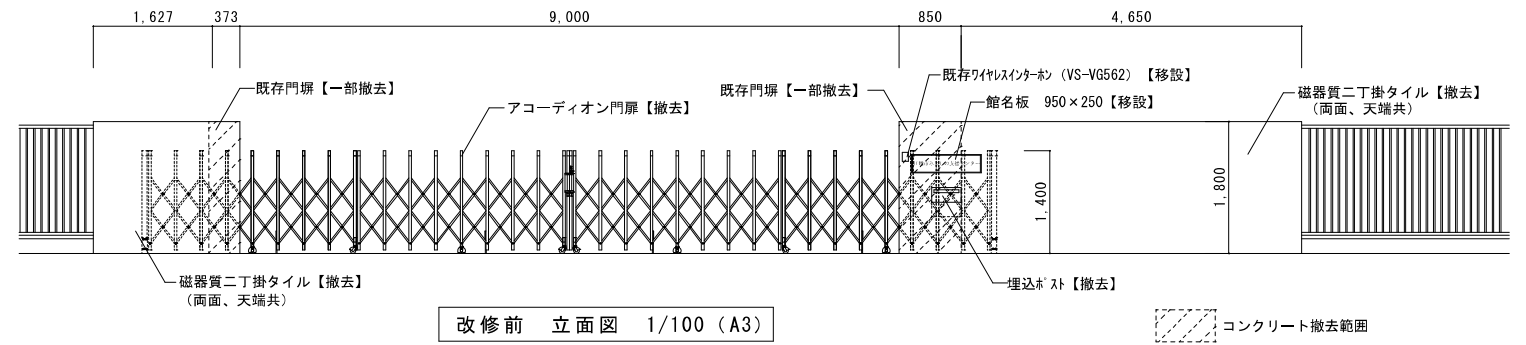
⑥ コンクリート工事	① コンクリートの種類等 (6.2.1)	種類 ※1類 (JIS A 5308 への適合を認証されたコンクリート) ・II類 (I類以外でJIS A 5308 に適合したコンクリート) 普通コンクリート (6.2.1~6.2.4) <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm²)</th> <th>気乾単位容積質量 (t/m³)</th> <th>スラブ</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>○21</td> <td>2.3程度</td> <td>・15又は18(○)8</td> <td>・正門、西門基礎</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> 構造体強度補正值(S) (6.3.2) ※標準仕様書 表6.3.2iによる 補正值 S=3 (3月11日~7月15日、9月5日~11月10日) 【参考】 S=6 (11月11日~3月10日、7月16日~9月4日)	設計基準強度 (N/mm ²)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	スラブ	適用箇所	○21	2.3程度	・15又は18(○)8	・正門、西門基礎	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	14 無筋コンクリート (6.14.1)	コンクリートの種類 ※普通コンクリート セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 ・高炉セメントB種(○) ・フライアッシュセメントB種(○) 設計基準強度 ※18 (N/mm ²) スラブ ※15cm又は18cm 適用箇所 ※標準仕様書6.14.1(4)による箇所 ・図示による ()					
	設計基準強度 (N/mm ²)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	スラブ	適用箇所																									
	○21	2.3程度	・15又は18(○)8	・正門、西門基礎																									
	・	・	・	・																									
	・	・	・	・																									
	・	・	・	・																									
	② セメント (6.3.1)	種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 適用箇所 (※下記以外全て) () 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で 352 J/g 以下、かつ28日目で 402 J/g 以下のものとする。 ・高炉セメントB種(○) 適用箇所 (・IFLより下部 (立上り部含む)) () ・フライアッシュセメントB種(○) 適用箇所 (・) ()	15 コンクリートの単位水量測定	実施要領 (1)単位水量の測定は、150m ² に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4)(c)による。 (3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1)測定した単位水量が、計画調合書の設計値(以下、「設計値」という。)±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工する。 2)測定した単位水量が、設計値±15を超過±20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m ³ 以内であることを確認する。更に、設計値±15kg以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3)設計値±20kg/m ³ を超過する場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m ³ 以内であることを確認する。更に、設計値±15kg以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 (4)3)の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。 (5)単位水量管理についての記録を計画(計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。 (6)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、17-β法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。																									
	③ 骨材 (6.3.1)	アルカリシリカ反応性による区分 ※A ・ B (コンクリート中のアルカリ総量が 3.0 kg/m ³ 以下)																											
	④ 混和材料 (6.3.1)	・混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書6.3.1(4)(a)による () ・混和材 混和材の種類 ※標準仕様書6.3.1(4)(b)による ()																											
	5 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地 (6.6.4)	打継ぎの位置 梁及びスラブ ※スパンの中央又は端から1/4の付近 ・図示による () ・柱及び壁 ※スラブ、壁梁又は基礎の上端 ・図示による () 目地の寸法 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3) ・標準仕様書 9.7.3(1)(7)による () ※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打増し部で処理する ・図示による () ひび割れ誘発目地の位置、形状 (6.8.1)(11.1.3) ・図示による ()																											
6 湿潤養生 (6.7.2)	湿潤養生の期間 ・セメントの種類が普通エコセメントの場合 () 日																												
⑦ 構造体コンクリートの仕上り (6.2.5)(6.8.2)	合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>○A種</td> <td>※図示による ()</td> </tr> <tr> <td>・B種</td> <td>※図示による ()</td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td>※図示による ()</td> </tr> </table> コンクリートの仕上りの平たんさ <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>○a種</td> <td>※図示による ()</td> </tr> <tr> <td>・b種</td> <td>※図示による ()</td> </tr> <tr> <td>・c種</td> <td>※図示による ()</td> </tr> </table>	種別	適用箇所	○A種	※図示による ()	・B種	※図示による ()	・C種	※図示による ()	種別	適用箇所	○a種	※図示による ()	・b種	※図示による ()	・c種	※図示による ()												
種別	適用箇所																												
○A種	※図示による ()																												
・B種	※図示による ()																												
・C種	※図示による ()																												
種別	適用箇所																												
○a種	※図示による ()																												
・b種	※図示による ()																												
・c種	※図示による ()																												
8 打増し厚さ (打放し仕上げ部) (6.8.1)	打増し厚さ ・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る) ・20mm ・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る) ・10mm ・20mm ・外装タイル後張り面の打増し処理 ・20mm 打増し範囲 ・図示による ()																												
⑨ 型枠 (6.8.2)	せき板の材料及び厚さ (6.8.2) ○合板 (※12mm) (○) (○) コンクリート打設時の充填性の確認のため、型枠の一部に透明型枠等を使用する場合は、強度、変形等について、事前に監督員と協議する。 ・断熱材を兼用した型枠の使用 適用箇所 ・図示による () ・MCR工法用シートの使用 適用箇所 ・図示による () 打増し厚さ ・20mm 打増し範囲 ・図示による () スリーブの材種・規格等 ・図示による () 設置期間及び取外し (6.8.4) ※標準仕様書6.8.4による () ・普通エコセメントの場合(※図示による ())																												
10 軽量コンクリート (6.10.1、2)	適用箇所 ・図示による () 種類 ・1種 ・2種 気乾単位容積質量 ・標準仕様書 表6.10.1による () スラブ ※21cm																												
11 寒中コンクリート (6.11.1、2)	適用期間 (月 日 ~ 月 日) 構造体強度補正值(S)を積算温度を基に定める場合 ・図示による ()、S=()																												
12 暑中コンクリート (6.12.2)	適用期間 (月 日 ~ 月 日) 構造体強度補正值(S) ※6N/mm ² ・図示による ()、S=()																												
13 マスコンクリート (6.13.1、2)	適用箇所 ・図示による () セメントの種類 ・普通ポルトランドセメント ・中熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 ・シリカセメント 混和材料の適用 ・あり (・標準仕様書6.13.2(2)(7)による) ・標準仕様書6.13.2(2)(4)による () スラブ ※15cm 構造体強度補正值(S) ※標準仕様書表6.13.1による ()																												





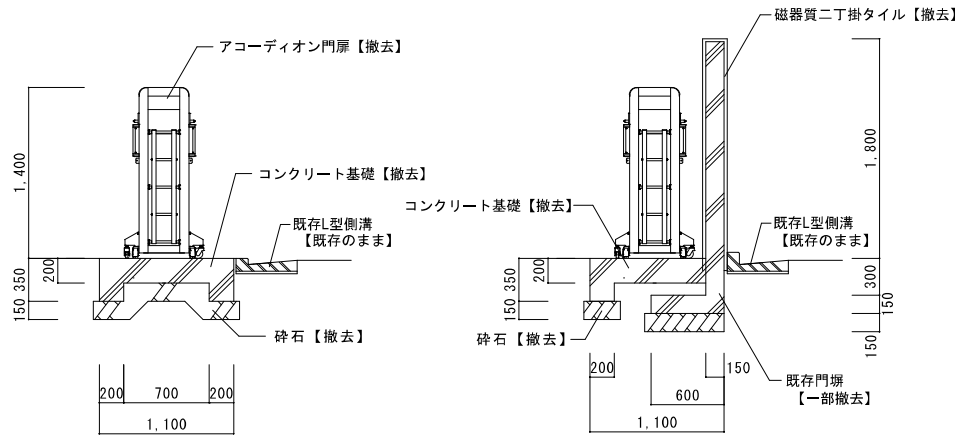


改修前 平面図 1/100 (A3)



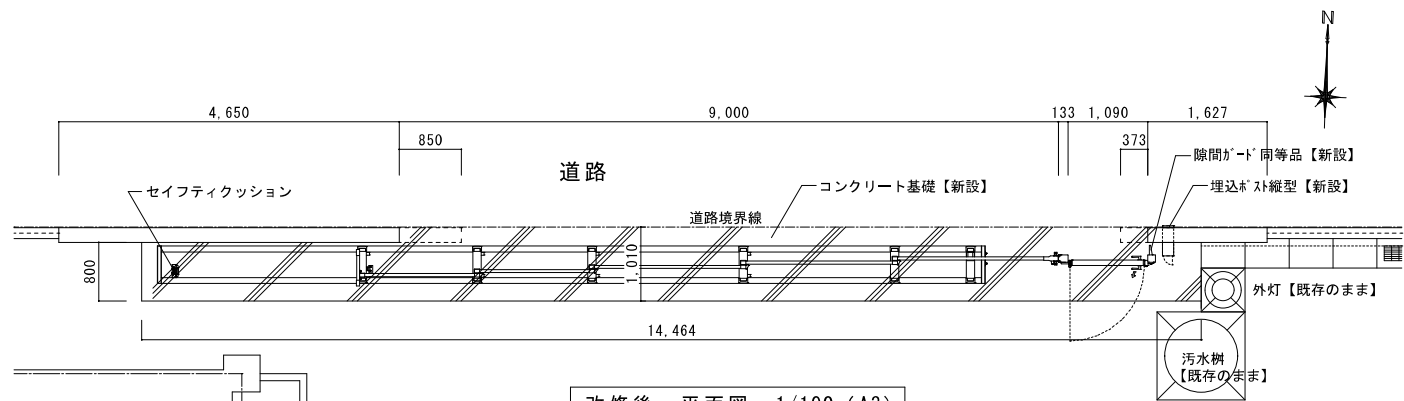
改修前 立面図 1/100 (A3)

コンクリート撤去範囲

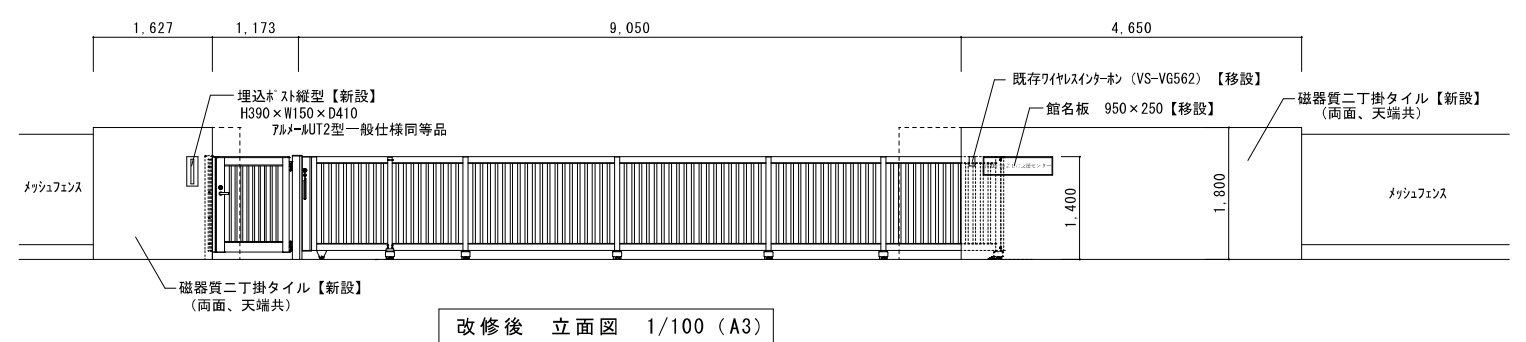


改修前 断面図 1/60 (A3)

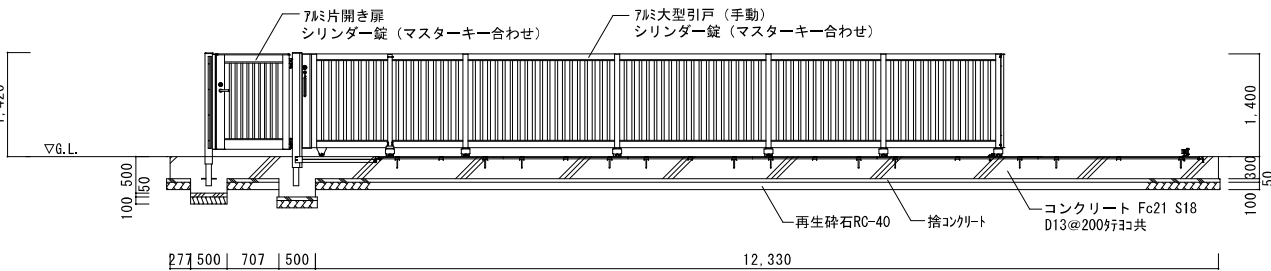
改修前 断面図 1/60 (A3)



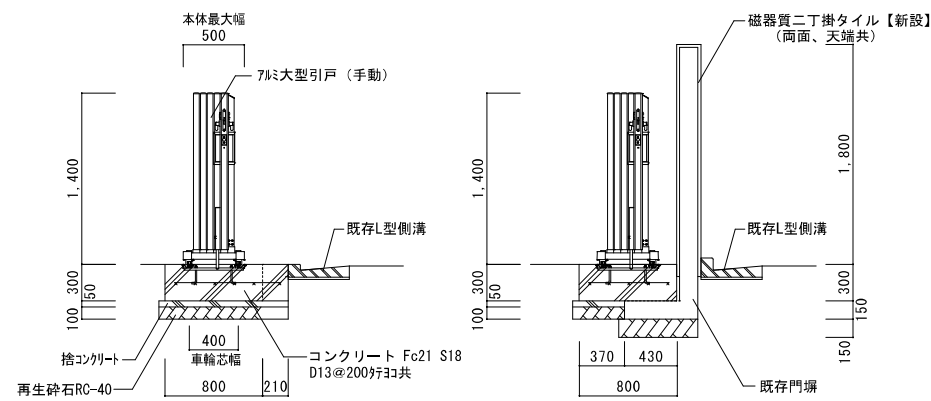
改修後 平面図 1/100 (A3)



改修後 立面図 1/100 (A3)

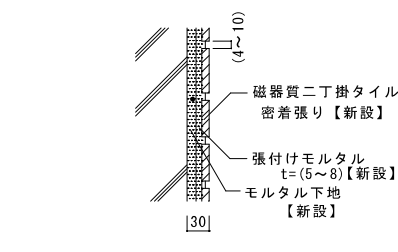


改修後 断面図 1/100 (A3)



改修後 断面図 1/60 (A3)

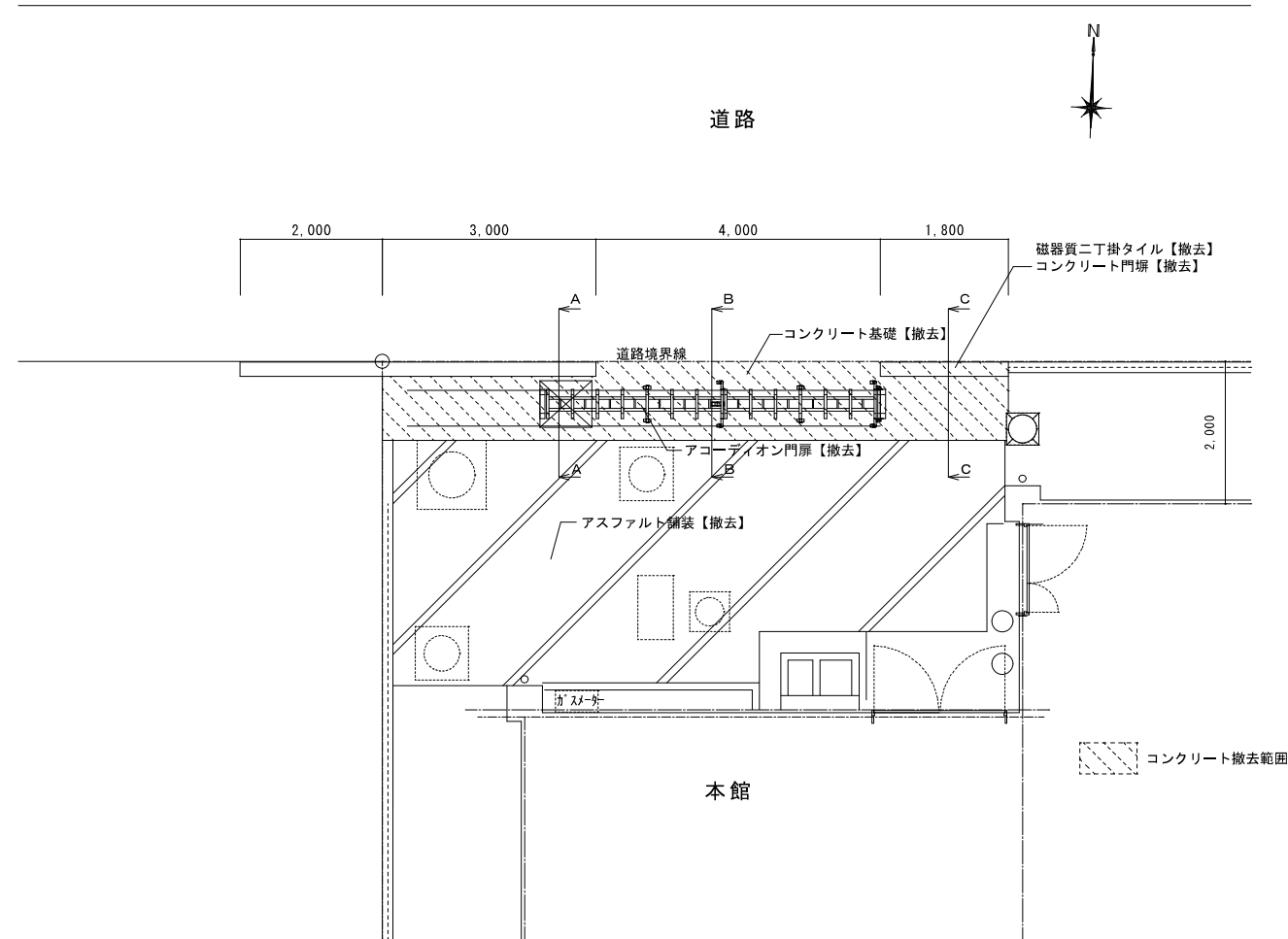
改修後 断面図 1/60 (A3)



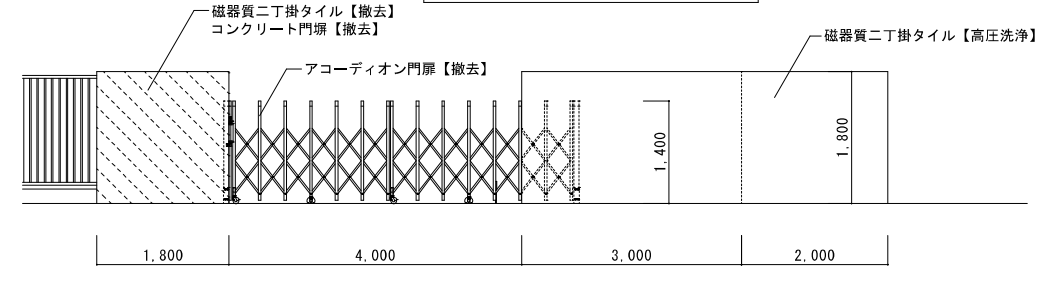
タイル張り詳細図 1/20 (A3)

四国化成：スタックラインNR1型 H1400同等品

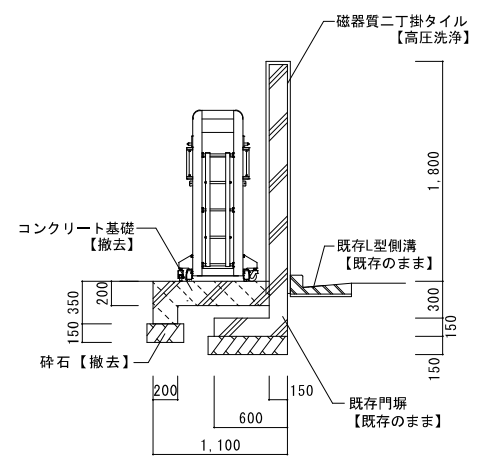
記 率		Architects Firm <i>Studio YOU</i> 一級建築士事務所 埼玉県知事登録(1)第12121号 一級建築士 第342763号 藤山智昭	工事名称	川越市みよしの支援センター改築等工事	作成年月日	図面番号 G-08
			図面名称	正門詳細図	縮尺 原 尺 1/20, 1/50 (A1) 1/60, 1/100 (A3)	



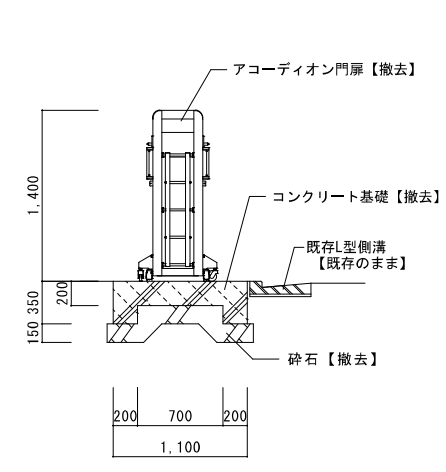
改修前 平面図 1/100 (A3)



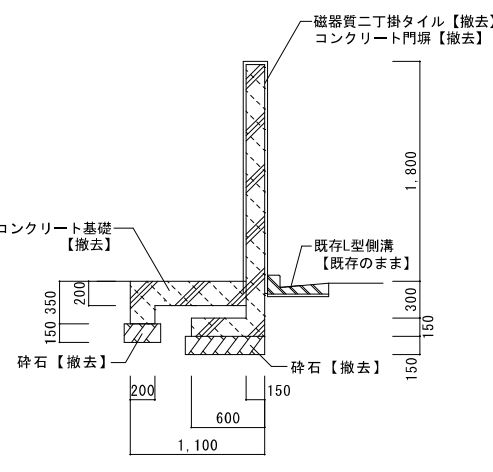
改修前 立面図 1/100 (A3)



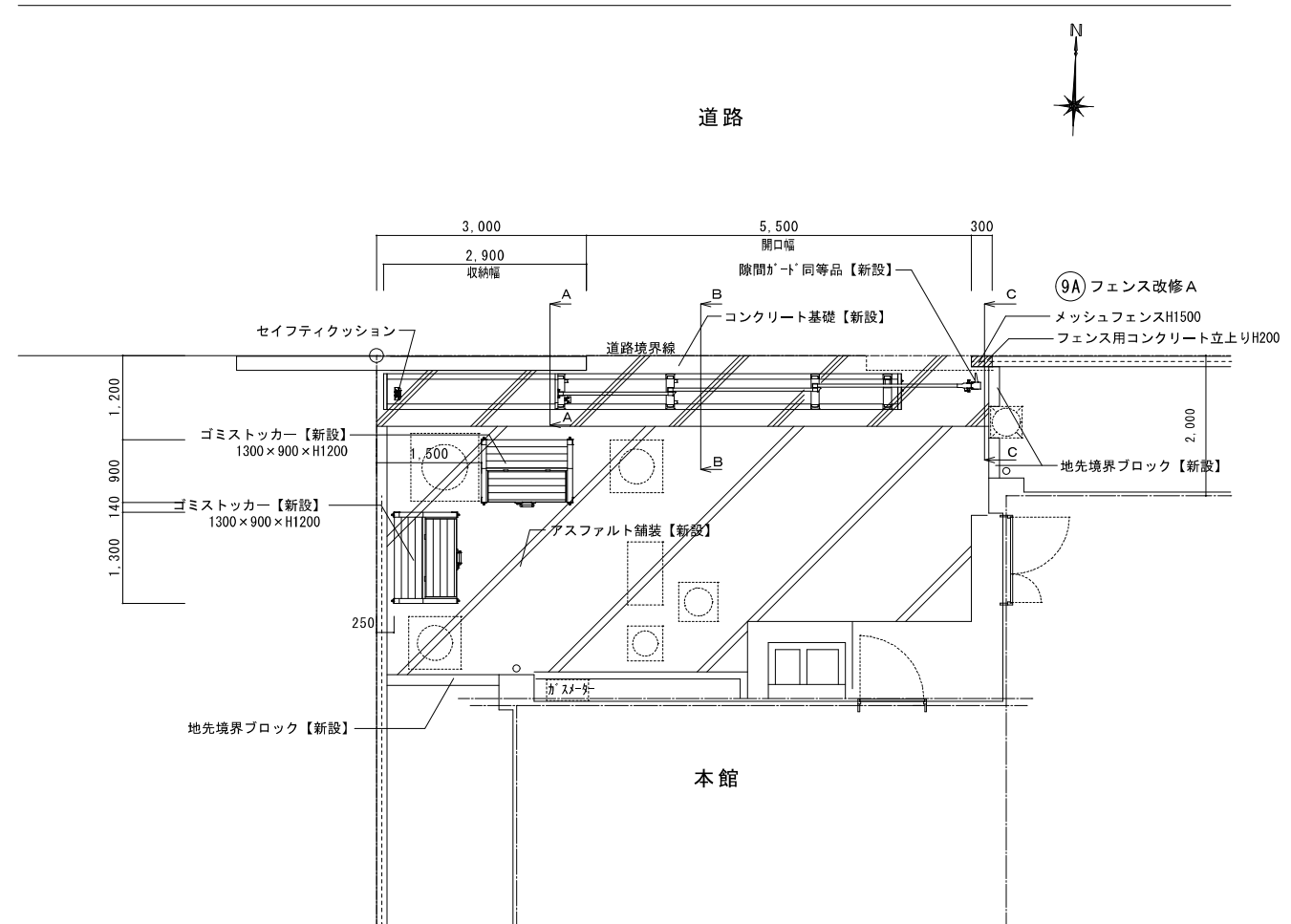
改修前 A-A 断面図 1/60 (A3)



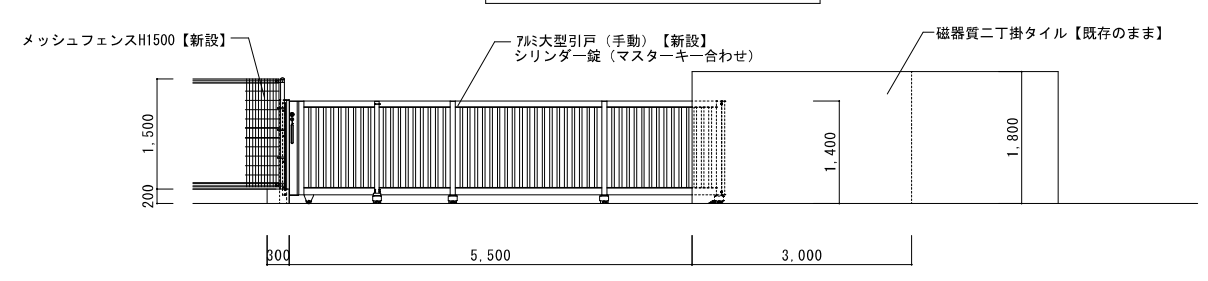
改修前 B-B 断面図 1/60 (A3)



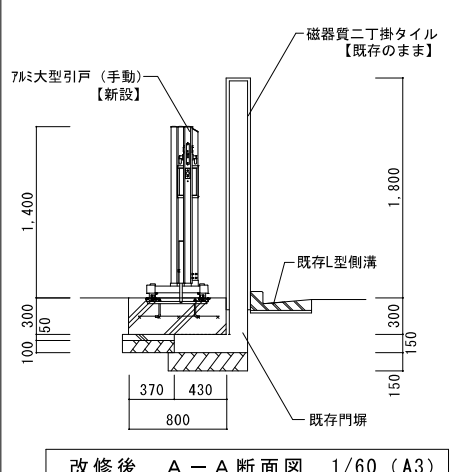
改修前 C-C 断面図 1/60 (A3)



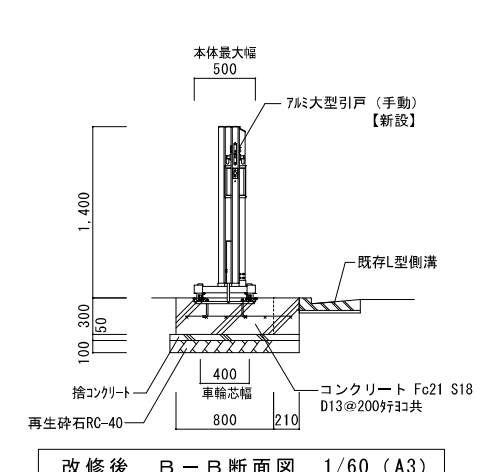
改修後 平面図 1/100 (A3)



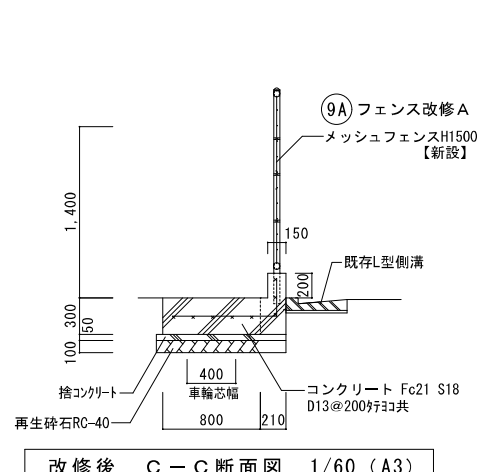
改修後 立面図 1/100 (A3)



改修後 A-A 断面図 1/60 (A3)



改修後 B-B 断面図 1/60 (A3)



改修後 C-C 断面図 1/60 (A3)

四国化成：スタックラインNR1型 H1400同等品

記	
率	

Architects Firm Atelier YOU 一級建築士事務所 埼玉県知事登録(1)第12121号 一級建築士 第342763号 藤山智昭	工事名称 川越市みよしの支援センター改築等工事	作成年月日 R 1/30, 1/30(A1) 1/60, 1/100(A2)	図面番号 G-09
	図面名称 西門詳細図		